HITACHI
Inspire the Next

JP1 Version 10

JP1/Integrated Management - Message Optimizer

解説・手引・文法・操作書

3021-3-017

■対象製品

適用 OS のバージョン，JP1/Integrated Management - Message Optimizer が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については，各製品のリリースノートで確認してください。

適用 OS：Windows Server 2008，Windows Server 2003

P-2W2C-9AA4 JP1/Integrated Management - Message Optimizer 10-00

適用 OS：Windows 7，Windows Server 2008，Windows Vista，Windows Server 2003，Windows XP Professional

P-242C-9BA4 JP1/Integrated Management - Message Optimizer Assistant 10-00

■輸出時の注意

本製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上，必要な手続きをお取りください。

なお，ご不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

■商標類

Active Directory は，米国 Microsoft Corporation の，米国およびその他の国における登録商標または商標です。

BSAFE は，EMC Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Internet Explorer は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Microsoft は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Excel は，米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

Microsoft Office Excel は，米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

RSA は，EMC Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/).

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/

This product includes software developed by Ralf S.Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (http://www.modssl.org/).

本製品は，EMC Corporation の RSA(R) BSAFE^{TM} ソフトウェアを搭載しています。

その他記載の会社名，製品名は，それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

HITACHI
Inspire the Next
株式会社 日立製作所

Java COMPATIBLE

■マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは，マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記		製品名
Excel		Microsoft(R) Excel
		Microsoft(R) Office Excel
IE	Microsoft Internet Explorer	Microsoft(R) Internet Explorer(R)
	Windows Internet Explorer	Windows(R) Internet Explorer(R)
Windows Server 2003 ※	Windows Server 2003	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
	Windows Server 2003（x64）	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
Windows Server 2008 ※	Windows Server 2008	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
	Windows Server 2008 R2(x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter x64
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise x64
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard x64
Windows 7 ※		Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate
Windows Vista ※		Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
Windows XP Professional ※		Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System

注※

Windows 7，Windows Server 2008，Windows Vista，Windows Server 2003，および Windows XP Professional

を総称して Windows と表記することがあります。

■発行

2012 年 10 月 3021-3-017

■著作権

Copyright (C) 2012, Hitachi, Ltd.
Copyright (C) 2012, Hitachi Solutions, Ltd.

はじめに

このマニュアルはJP1/Integrated Management - Message Optimizer（以降，JP1/IM - MOと略します）について説明したものです。

■対象読者

このマニュアルは，次の方を対象としています。

- JP1/Integrated Managementを使用したシステムを導入，構築および運用するシステム管理者
- 集中監視するメッセージを変換して，監視しやすいシステムを構築したい方

このマニュアルの記述は，次に示す知識があることを前提にしています。

- JP1/Integrated Management，JP1/Baseを使用したシステムの集中監視に関する知識

■マニュアルの構成

このマニュアルは，次に示す編から構成されています。

第1編　概要編

JP1/IM - MOの概要について説明しています。

第2編　機能編

JP1/IM - MOの機能について説明しています。

第3編　設計編

JP1/IM - MOを稼働させる前に取り決めておく項目について説明しています。

第4編　構築編

JP1/IM - MOのインストールとセットアップ方法について説明しています。また，クラスタシステムで運用する場合のインストールとセットアップ方法についても説明しています。

第5編　操作編

JP1/IM - MOの操作方法について説明しています。

第6編　運用編

JP1/IM - MOを運用する際のメンテナンス作業として，データベースの再編成方法，バックアップとリストア方法，および運用時の構成変更方法について説明しています。

第7編　リファレンス編

JP1/IM - MOの画面，ダイアログ，コマンド，および定義ファイルについて説明しています。また，JP1/IM - MOが出力するJP1イベント，およびメッセージについても説明しています。

第8編　トラブルシューティング編

JP1/IM - MOでトラブルが発生した場合の対処方法について説明しています。

■インストール先フォルダの表記

JP1/IM - MOのデフォルトのインストール先フォルダは，次のとおりです。

JP1/IM - MOのデフォルトのインストール先フォルダ

システムドライブ ¥Program Files※ ¥HITACHI¥JP1IMMO

JP1/IM - MO Assistantのデフォルトのインストール先フォルダ

システムドライブ ¥Program Files※ ¥HITACHI¥JP1IMMOA

注※

x64 環境の場合は，「`Program Files (x86)`」に置き換えてください。

■このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは，ローカル PC に対する Administrators 権限です。ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーであれば，ローカルユーザー，ドメインユーザーおよび，Active Directory 環境で動作に違いはありません。

目次

第 1 編　概要編

1 概要 1

1.1 JP1/IM - MO とは 2

1.2 JP1/IM - MO の特長 3

1.2.1 メッセージのフォーマットの統一 3

1.2.2 メッセージテキストの変換 3

1.2.3 メッセージの重大度の変換 4

1.3 JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の運用 6

1.4 JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の構成 7

第 2 編　機能編

2 機能 9

2.1 機能概要 10

2.2 イベントソースの定義 11

2.3 メッセージフォーマットの変換定義 13

2.3.1 元のメッセージフォーマットの定義（基本フォーマットの定義） 13

2.3.2 変換後のメッセージフォーマットの定義（変換フォーマットの定義） 14

2.3.3 変換前のメッセージにない要素を変換後のメッセージに追加する 15

2.4 メッセージテキストの定義 17

2.5 定義を適用するシステムの指定 20

2.5.1 GUI を利用して発行元と適用先を定義する 21

2.5.2 定義ファイルを利用して発行元と適用先を一括で定義する 22

2.6 重大度 24

2.7 学習機能 25

2.8 定義情報のインポート・エクスポート 26

2.9 定義情報の管理 27

2.9.1 リリース許可とリリース 27

2.9.2 リリース編集 29

2.9.3 定義の状態管理 30

2.10 JP1/IM - MO で変換したメッセージの表示抑止 32

2.10.1 メッセージ 1 件単位の抑止 32

2.10.2 発行元単位のメッセージの抑止 32

2.10.3 JP1/IM - MO で定義していないメッセージの抑止 32

2.10.4 JP1/IM - MO で変換に失敗したメッセージの抑止 32

2.11 運用環境に応じた機能 34

2.11.1 エージェントホストを発行元として定義する 34
2.11.2 イベントソースとしてプログラム名を指定する 35
2.11.3 メッセージ識別子を追加する 35

第 3 編　設計編

3 設計 37
3.1 JP1/IM - MO の導入の検討 38
3.2 JP1/IM - MO のシステムの検討 39
3.2.1 前提 OS とシステム内プログラム 39
3.2.2 JP1/IM - MO のシステム構成 40
3.2.3 クラスタシステムの構成 42
3.3 メッセージの変換内容の検討 44
3.3.1 メッセージを検討する流れ 44
3.3.2 変換対象のメッセージの運用方法を検討する 44
3.3.3 変換フォーマットを検討する 45
3.3.4 メッセージテキストを検討する 49
3.3.5 重大度の変換を検討する 49
3.3.6 適用先システムを検討する 49
3.3.7 メッセージの抑止を検討する 51
3.4 ネットワーク構成の検討 52
3.4.1 ホスト名と IP アドレス 52
3.4.2 サーバのネットワーク構成 52
3.4.3 ファイアウォールを経由したネットワークでの運用 52
3.5 JP1/IM - MO のインストールとセットアップの検討 53
3.5.1 データベースの容量の検討 53
3.5.2 JP1/IM - MO の動作環境の検討 54
3.6 JP1/IM - MO の運用の検討 56
3.6.1 バックアップの検討 56
3.6.2 データベースの確認 56
3.6.3 ディスク容量の確認 56
3.6.4 トラブル発生時に採取する障害情報の容量の検討 56

第 4 編　構築編

4 インストールとセットアップ 59
4.1 インストールとセットアップの流れ 60

4.2 前提プログラムのインストールとセットアップ 61
4.3 JP1/IM - MO のインストールとセットアップ 62
4.3.1 JP1/IM - MO の新規インストール 62
4.3.2 JP1/IM - MO の上書きインストール 62
4.3.3 JP1/IM - MO のリモートインストール 63
4.3.4 JP1/IM - MO のアンインストール 63
4.3.5 JP1/IM - MO のセットアップ 64
4.3.6 JP1/IM - View の設定 66
4.4 JP1/IM - MO の環境設定 68
4.4.1 環境設定ファイルの設定方法 68
4.4.2 イベントソースにプログラム名を指定する場合のセットアップ手順 73
4.4.3 追加メッセージ識別子を使用する場合のセットアップ手順 75
4.5 JP1/IM - MO Assistant のインストールとセットアップ 76
4.5.1 JP1/IM - MO Assistant のインストール 76
4.5.2 JP1/IM - MO Assistant の上書きインストール 76
4.5.3 JP1/IM - MO Assistant のリモートインストール 77
4.5.4 JP1/IM - MO Assistant のアンインストール 77
4.5.5 JP1/IM - MO Assistant のセットアップ 77

5 クラスタシステム運用時のインストールとセットアップ 79
5.1 クラスタシステムでの運用 80
5.2 クラスタシステムでのインストールとセットアップの流れ 81
5.3 クラスタシステムでの JP1/IM - MO のインストール 82
5.3.1 前提条件 82
5.3.2 インストール 83
5.4 クラスタシステムでの JP1/IM - MO のセットアップ 84
5.5 クラスタシステムでの JP1/IM - MO の上書きインストール 89
5.6 クラスタシステムでの JP1/IM - MO のアンインストール 90
5.7 フェールオーバー発生時の対処 91

第 5 編　操作編

6 起動と終了 93
6.1 JP1/IM - MO のサービス 94
6.2 JP1/IM - MO の起動と終了 95
6.2.1 JP1/IM - MO の起動（変換メッセージの定義をする場合） 95
6.2.2 JP1/IM - MO の起動（メッセージ変換を開始する場合） 95
6.2.3 JP1/IM - MO の終了 96
6.2.4 JP1/IM - Message Optimizer サービスの自動起動 96

6.3 JP1/IM - MO の起動と終了（クラスタシステムの場合） 98
6.3.1 起動する前の注意事項 98
6.3.2 JP1/IM - MO の起動 98
6.3.3 JP1/IM - MO の終了 98

7 ログインとログアウト 101
7.1 JP1/IM - MO Assistant へのログイン 102
7.2 JP1/IM - MO Assistant からのログアウト 104

8 操作例 105
8.1 例題の説明 106
8.1.1 例題の前提条件 106
8.1.2 例題のシステム構成 106
8.1.3 例題で変更するフォーマットとメッセージテキスト 106
8.1.4 例題の操作の流れ 107
8.2 イベントソースを確認する 109
8.3 基本フォーマットを定義する 111
8.3.1 操作 111
8.3.2 参考情報 114
8.4 変換フォーマットを定義する 115
8.5 変換メッセージを定義する 118

9 メッセージ変換の定義（応用操作） 123
9.1 応用操作一覧 124
9.2 学習機能を使わない場合の定義 125
9.2.1 学習機能の停止方法 125
9.2.2 イベントソースを定義する（学習機能を停止した場合） 126
9.2.3 基本メッセージを定義する（学習機能を停止した場合） 129
9.2.4 発行元を追加する（学習機能を停止した場合） 130
9.3 基本フォーマットを文字列以外で区切る 132
9.3.1 基本フォーマットのテンプレートを適用する（推奨） 132
9.3.2 基本フォーマットのテンプレート一覧 133
9.3.3 バイト単位で区切る 136
9.4 基本メッセージにない要素を変換メッセージに埋め込む 138
9.4.1 JP1 イベントのメッセージ以外の要素を変換メッセージに埋め込む 138
9.4.2 JP1/IM - MO で定義した要素を変換メッセージに埋め込む 140
9.5 イベントソースを定義していないメッセージに共通の文言を追加する 142
9.6 メッセージテキストの可変値に埋め字を設定する 144
9.7 適用先システムを定義する 147
9.8 メッセージの重大度を変更する 154

9.8.1 メッセージごとに重大度を変換する 154
9.8.2 適用先システムごとに重大度を変換する 155
9.9 メッセージを抑止する 157
9.9.1 個別メッセージ単位での JP1 イベント生成の抑止 157
9.9.2 ホスト単位での JP1 イベント生成の抑止 157
9.10 JP1/AJS3 を使って自動的にリリースする 159
9.11 運用環境に応じた機能を使用する場合の操作 162
9.11.1 イベントソースにプログラム名を指定する 162
9.11.2 追加メッセージ識別子を定義する 163
9.12 定義ファイルを利用して一括で定義する 166
9.12.1 基本メッセージ・変換メッセージを一括で定義する 166
9.12.2 発行元・適用先システムを一括で定義する 167
9.13 その他の操作 169
9.13.1 フィルタリング 169

10 定義情報の管理 171
10.1 定義情報の管理の概要 172
10.2 メッセージ変換の実行（リリース） 173
10.2.1 リリースするイベントソースを決定する（イベントソースのリリース許可） 173
10.2.2 リリースする変換フォーマットを決定する（変換フォーマットのリリース許可） 175
10.2.3 リリースする適用先システムを決定する（適用先システムのリリース許可） 176
10.2.4 リリースする変換メッセージ群を決定する（変換メッセージ群のリリース許可） 177
10.2.5 リリース許可した定義をリリースする 179
10.2.6 コマンドでリリースする 179
10.3 メッセージ変換の実行中止（リリース解除） 180
10.3.1 イベントソースと変換メッセージ群のリリースを解除する 180
10.3.2 変換フォーマットと適用先システムのリリースを解除する 182
10.4 メッセージ変換実行中の定義の編集（リリース編集） 185
10.4.1 イベントソース名とイベントソースの説明を編集する 185
10.4.2 変換フォーマットの定義を編集する 186
10.4.3 適用先システムの定義を編集する 186
10.4.4 変換メッセージ群の名称を変更する 187
10.4.5 変換メッセージの定義を編集する 188
10.4.6 リリース編集前の定義を参照する 188
10.5 基本フォーマットの編集 190
10.6 定義の削除 191
10.6.1 イベントソースと変換メッセージ群を削除する 191
10.6.2 基本メッセージを削除する 191
10.6.3 適用先システムを削除する 191
10.6.4 変換フォーマットを削除する 192

第 6 編　運用編

11 メンテナンス 193

11.1 メンテナンスの概要 194

11.2 データベースの管理 196

11.2.1 データベースのバックアップ 196

11.2.2 データベースのリストア 197

11.2.3 データベースの再編成 197

11.3 バックアップ 199

11.3.1 JP1/IM - MO のバックアップ（JP1/IM - MO をセットアップまたは JP1/IM - MO の設定を変更した場合） 199

11.3.2 JP1/IM - MO のバックアップ（JP1/IM - Manager の統合監視 DB をバックアップした場合） 199

11.3.3 JP1/IM - MO Assistant のバックアップ 200

11.4 リストア 201

11.4.1 JP1/IM - MO のリストア（JP1/IM - MO の設定をリストアする場合，または JP1/IM - MO を再インストールしたあと） 201

11.4.2 JP1/IM - MO のリストア（JP1/IM - Manager の統合監視 DB をリストアする場合） 201

11.4.3 JP1/IM - MO Assistant のリストア 201

11.5 運用中の構成変更 202

11.5.1 JP1/IM - MO を別ホストに移行する場合 202

11.5.2 運用開始後にデータベースの容量を大きくする 203

11.5.3 運用開始後の JP1/IM - Manager が監視しているシステムの構成変更に対応する 204

11.5.4 データベースの格納先を同一ホスト内で変更する場合 206

11.5.5 JP1/IM - MO システムの設定変更 207

第 7 編　リファレンス編

12 画面とダイアログ 209

12.1 画面遷移図 211

12.2 ［ログイン］画面 213

12.3 メイン画面 214

12.3.1 タイトルエリア 214

12.3.2 ツリーエリア 218

12.3.3 リストエリア 220

12.4 ［基本フォーマット定義］ダイアログ 225

12.5 ［基本フォーマット選択］ダイアログ 232

12.6 ［メッセージ識別子選択］ダイアログ 234

12.7 ［追加メッセージ識別子定義］ダイアログ 235

12.8 ［サンプルメッセージ追加］ダイアログ 237

12.9 ［イベントソース説明編集］ダイアログ 238
12.10 ［基本メッセージ追加］ダイアログ 239
12.11 ［詳細表示フィルタ設定］ダイアログ 241
12.12 ［変換フォーマット一覧］ダイアログ 244
12.13 ［変換フォーマット定義］ダイアログ 246
12.14 ［変換メッセージ定義］ダイアログ 250
12.15 ［ユーザー定義情報フィールド一覧］ダイアログ 252
12.16 ［ユーザー定義情報フィールド名変更］ダイアログ 253
12.17 ［埋め字定義］ダイアログ 254
12.18 ［適用先システム選択］ダイアログ 256
12.19 ［適用先システム一覧］ダイアログ 257
12.20 ［適用先システム定義］ダイアログ 259
12.21 ［変換フォーマット選択］ダイアログ 261
12.22 ［重大度一律変換定義］ダイアログ 262
12.23 ［発行元一覧］ダイアログ 264
12.24 ［発行元選択］ダイアログ 266
12.25 ［発行元定義］ダイアログ 269
12.26 ［イベントソース名変更］ダイアログ 271
12.27 ［変換フォーマット名変更］ダイアログ 272
12.28 ［変換メッセージ群名変更］ダイアログ 273
12.29 ［適用先システム名変更］ダイアログ 274

13 コマンド 275

コマンドの記述形式 276
コマンド一覧 278
jmoalog.bat 279
jmochktransfile 281
jmocfexport 283
jmocfimport 285
jmoedbbackup 288
jmoedbgetinf 290
jmoedbrorg 292
jmoedbrstr 294
jmoedbsetup 296
jmoedbstop 302
jmoexport 304
jmoimport 306
jmolog.bat 308
jmorelease 310
jmosetcnf 314

14 定義ファイル 315
14.1 定義ファイル一覧 316
14.1.1 定義ファイル共通の注意事項 316
14.2 変換定義ファイル 317
14.2.1 変換定義ファイルの形式 317
14.2.2 変換定義ファイルの各レコード 318
14.2.3 レコード記述時の注意事項 325
14.3 システム構成定義ファイル 328
14.3.1 システム構成定義ファイルの形式 328
14.3.2 システム構成定義ファイルの各レコード 329

15 JP1 イベント 335
15.1 JP1/IM - MO が変換した JP1 イベント 336
15.1.1 JP1/IM - MO が変換した JP1 イベント一覧 336
15.1.2 JP1/IM - MO が変換した JP1 イベントの詳細 336
15.2 JP1/IM - MO が発行する JP1 イベント 341
15.2.1 JP1/IM - MO が発行する JP1 イベント一覧 341
15.2.2 JP1/IM - MO が発行する JP1 イベントの詳細 341

16 メッセージ 347
16.1 メッセージの出力先一覧 348
16.1.1 JP1/IM - MO が出力するメッセージ（KNAH0000 ～ KNAH2999）の出力先 348
16.1.2 JP1/IM - MO Assistant が出力するメッセージ（KNAH4000 ～ KNAH4999）の出力先 353
16.2 メッセージの形式 354
16.2.1 メッセージの出力形式 354
16.2.2 メッセージの記載形式 354
16.2.3 システム管理者の方へ 354
16.3 Windows イベントログの一覧 356
16.4 メッセージ一覧 358
16.4.1 JP1/IM - MO が出力するメッセージ（KNAH0000 ～ KNAH2999） 358
16.4.2 JP1/IM - MO Assistant が出力するメッセージ（KNAH4000 ～ KNAH4999） 424

第 8 編　トラブルシューティング編

17 トラブルシューティング 465
17.1 対処の手順 466
17.2 ログ情報の種類 467

17.3 トラブル発生時に採取が必要な資料 470
17.4 トラブル発生時に採取が必要な資料の採取方法 472
17.5 トラブルへの対処 473

付録 477

付録 A ファイルおよびフォルダ一覧 478
付録 A.1 JP1/IM - MO のファイルおよびフォルダ一覧 478
付録 A.2 JP1/IM - MO Assistant のファイルおよびフォルダ一覧 478
付録 B プロセス一覧 480
付録 B.1 プロセス構成図 480
付録 B.2 プロセス一覧 481
付録 C ポート番号一覧 484
付録 C.1 ポート番号 484
付録 C.2 ファイアウォールの通過方向 484
付録 C.3 コネクションの接続状態 485
付録 D 操作権限一覧 486
付録 E 通信設定の変更方法 487
付録 F 制限値一覧 488
付録 F.1 システム構成の制限値 488
付録 F.2 基本フォーマット定義の区切り情報 488
付録 F.3 学習機能の制限値 488
付録 F.4 最大定義件数 489
付録 F.5 タイムアウト時間 489
付録 G 下位バージョンとの接続性 490
付録 G.1 JP1 シリーズのほかのプログラムとの接続性 490
付録 G.2 JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant の接続性 490
付録 H 性能と見積もり 492
付録 H.1 メッセージ変換処理性能 492
付録 H.2 メモリー所要量 492
付録 H.3 ディスク占有量 492
付録 H.4 データベースバックアップ時の容量の見積もり 492
付録 H.5 ログファイルの容量の見積もり 493
付録 H.6 障害情報の容量の見積もり 493
付録 I 操作ログ 495
付録 I.1 操作ログに出力される事象の種別 495
付録 I.2 操作ログの保存形式 495
付録 I.3 操作ログの出力形式 495
付録 J 定義の関連図 499
付録 K 各バージョンの変更内容 501
付録 K.1 10-00 での変更内容 501
付録 K.2 09-50 での変更内容 501

付録 K.3　09-10 での変更内容 502
付録 K.4　09-00 での変更内容 502
付録 L　このマニュアルの参考情報 503
付録 L.1　関連マニュアル 503
付録 L.2　このマニュアルでの表記 503
付録 L.3　このマニュアルで使用する英略語 504
付録 L.4　KB（キロバイト）などの単位表記について 505
付録 M　用語解説 506

索引 511

1 概要

この章では，JP1/IM - MO の概要について説明します。

1.1　JP1/IM - MO とは

1.2　JP1/IM - MO の特長

1.3　JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の運用

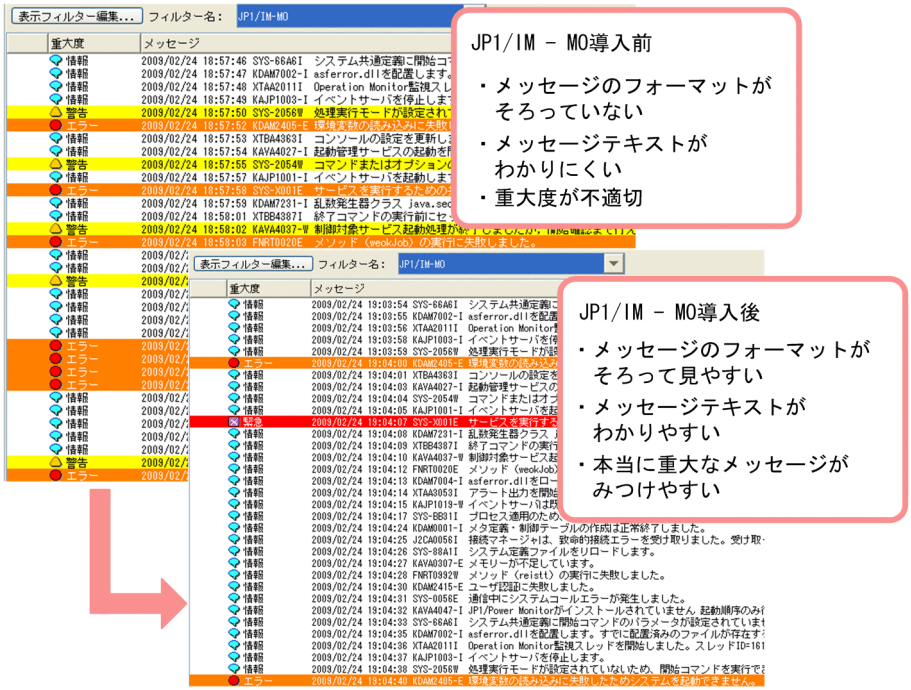
1.4　JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の構成

1.1　JP1/IM - MO とは

JP1/IM - MO は，JP1/IM - View のセントラルコンソール・ビューアー（以降ビューアーと呼びます）に表示されるメッセージをわかりやすく変換して，オペレーターの誤判断やミスを減らし，システムの運用負荷を軽減するための製品です。

JP1/IM - MO を導入する効果を次の図に示します。

図 1-1　JP1/IM - MO を導入する効果のイメージ



JP1/IM - MO Assistant は，JP1/IM - MO で変換するメッセージを定義するための製品です。GUI 上で視覚的に変換前と変換後のメッセージを定義できます。変換するメッセージを定義するときに，JP1/IM - Manager に格納されているメッセージを JP1/IM - MO が自動的に取得して，JP1/IM - MO Assistant で効率良く定義できます。

JP1/IM - MO でメッセージを変換すると，システムの監視をしているビューアーには，変換前のメッセージと変換後のメッセージが表示されます。変換後のメッセージだけを表示する場合には，JP1/IM - View のユーザーフィルターの設定をしてください。

1.2　JP1/IM - MO の特長

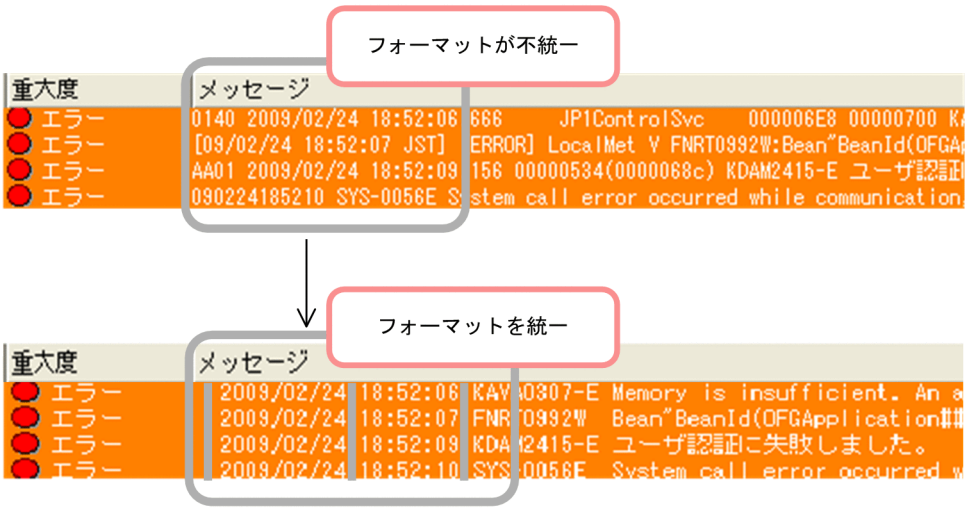
ここでは，JP1/IM - MO が提供しているメッセージ変換機能の特長について説明します。

1.2.1　メッセージのフォーマットの統一

ビューアーに表示されるメッセージのフォーマットを統一できます。ビューアーに表示されるメッセージのフォーマットは，メッセージを出力したアプリケーションによってさまざまです。メッセージのフォーマットを統一すると，必要な情報が見やすく整理され，メッセージを監視する負荷が軽減されます。

メッセージのフォーマットをそろえる例を次に示します。このようにメッセージのフォーマットをそろえると，運用監視の際にメッセージが見やすくなります。

図 1-2　ビューアーに表示されたメッセージのフォーマットを統一するイメージ

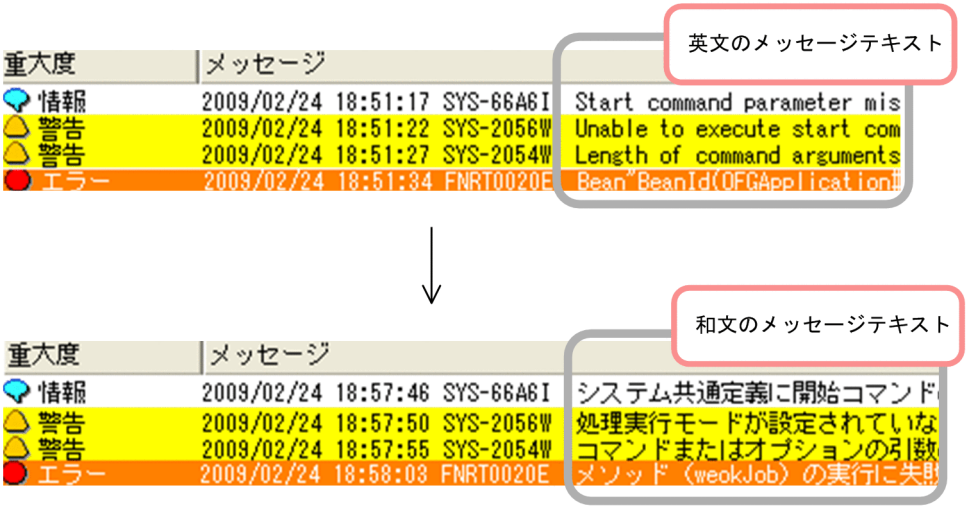


1.2.2　メッセージテキストの変換

環境に合わせてメッセージテキストを変換して，オペレーターが正確に対応できるようにします。

英文で表示されているメッセージテキストをすべて和文のメッセージテキストに変換する例を次に示します。

図 1-3　メッセージテキストを変換するイメージ

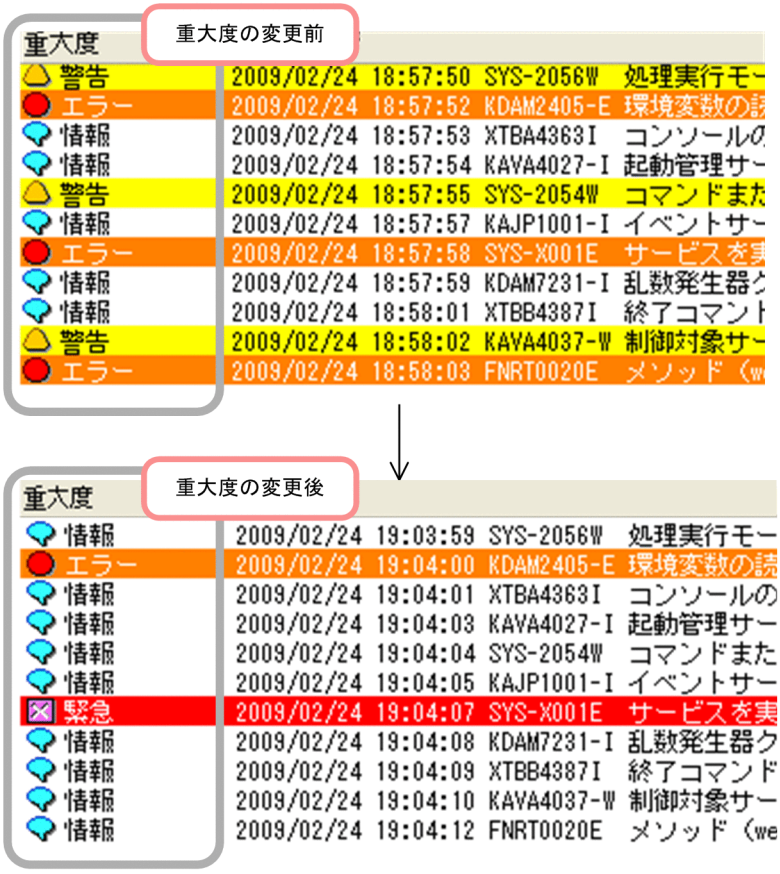


1.2.3　メッセージの重大度の変換

OS やアプリケーションが自動で設定している重大度を，運用環境に合わせて変更できます。同じメッセージであっても，サーバの目的によって重大度は異なります。運用に合った重大度を設定して，監視効率を上げられます。

監視に不要なメッセージの重大度を「情報」に設定し，エラーの中でも特に対処が必要なものを「緊急」に設定する例を次に示します。このように，重大度の設定をカスタマイズすると，監視に必要なメッセージを見分けやすくなります。

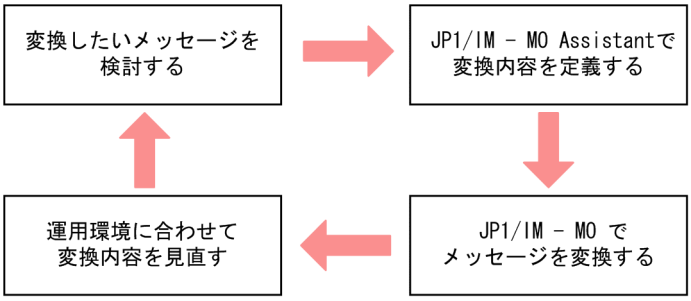
図 1-4　ビューアーに表示されたメッセージの重大度を変換するイメージ



1.3　JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の運用

JP1/IM - MO の運用サイクルを次の図に示します。

図 1-5　JP1/IM - MO の運用サイクル



まずは，ビューアーに表示されているメッセージのうち変換したいメッセージを検討します。検討した結果を JP1/IM - MO Assistant を使って定義します。定義した内容を JP1/IM - MO で変換します。変換した内容はビューアーに表示されます。

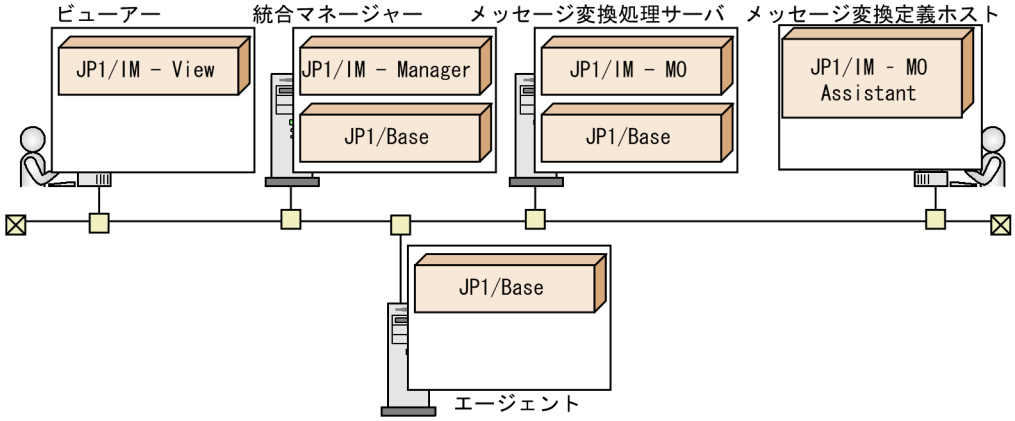
最初は，変換前のメッセージと変換後のメッセージを両方ビューアーに表示して，検討した内容が運用状況に合っているか見直します。運用が始まったら変換後のメッセージだけをビューアーに表示するようにします。それ以降は，JP1/IM - MO が接続している JP1/IM - Manager の運用環境が変わるごとに，変換内容を再検討します。

1.4　JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の構成

ここでは，JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の構成について説明します。

JP1/IM - MO のシステム構成例を次に示します。

図 1-6　JP1/IM - MO のシステム構成例



ビューアー

JP1/IM - View の入っているサーバです。JP1/IM - MO で変換したメッセージを表示します。

JP1/IM - View は次の四つのプログラムで構成されています。

- セントラルコンソール・ビューアー（統合コンソールの操作画面）
- セントラルスコープ・ビューアー（統合スコープの操作画面）
- セントラルインフォメーションマスター・ビューアー（システム情報管理の操作画面）
- ルールオペレーション・ビューアー（ルール定義と運用の操作画）

JP1/IM - MO では，セントラルコンソール・ビューアーのメッセージを変換します。

統合マネージャー

JP1/IM - Manager の統合コンソールが入っているサーバです。

JP1/IM - MO で変換したメッセージを収集し，システムごとに一括管理しています。

JP1/IM - Manager は同一システム内前提製品です。

JP1/IM - Manager は，次の二つのプログラムから構成されています。

- JP1/IM - CC（統合コンソール）
  システム全体を JP1 イベントによって集中監視し，システムで発生した事象の監視から，問題の検知，調査，対策までの一連のサイクルを管理します。
- JP1/IM - CS（統合スコープ）
  管理者の目的に合わせた目的指向型のシステム監視を実現します。

JP1/IM - MO では，統合コンソールが収集したメッセージを変換します。

メッセージ変換処理サーバ

JP1/IM - MO と JP1/Base が入っているサーバです。メッセージを変換する機能を提供します。JP1/Base は JP1/IM - MO の同一装置内前提製品です。JP1/IM - Manager が階層化されているシステムでは拠点マネージャーごとに導入します。

メッセージ変換定義ホスト

JP1/IM - MO Assistant の入っているホストです。メッセージの変換を GUI 上で定義する機能を提供

します。JP1/IM - MO Assistant は JP1/IM - MO の同一システム内前提製品です

エージェント

JP1/IM - MO が変換対象とするメッセージを出力しているサーバです。JP1/Base が入っています。

2 機能

この章では，JP1/IM - MO の機能について説明します。

2.1　機能概要

2.2　イベントソースの定義

2.3　メッセージフォーマットの変換定義

2.4　メッセージテキストの定義

2.5　定義を適用するシステムの指定

2.6　重大度

2.7　学習機能

2.8　定義情報のインポート・エクスポート

2.9　定義情報の管理

2.10　JP1/IM - MO で変換したメッセージの表示抑止

2.11　運用環境に応じた機能

2.1　機能概要

ここでは，JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の機能について説明します。

JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の機能の一覧を次に示します。

表 2-1　JP1/IM - MO の機能一覧

項番	機能		説明	参照先
1	定義	イベントソースの定義	**イベントソース**とは，JP1/IM - MO でメッセージを変換する製品の情報です。イベントソースを JP1/IM - MO に取り込みます。	2.2
2		メッセージフォーマットの変換定義	ビューアーに出力されるメッセージのフォーマットを定義する機能です。	2.3
3		メッセージテキストの変換定義	ビューアーに出力されるメッセージのテキスト部分を編集できる機能です。	2.4
4		適用先システムの定義	**適用先システム**とは，メッセージフォーマットの変換定義やメッセージテキストの変換定義を適用するシステムのことです。	2.5
5		メッセージの重大度の変換定義	ビューアーに出力されるメッセージの重大度を変更するための機能です。	2.6
6		学習機能	イベントソース，基本メッセージ，および発行元を自動的に JP1/IM - MO に定義する機能です。	2.7
7		定義情報のエクスポート・インポート	JP1/IM - MO で管理する定義情報をファイルで出力・読み込みする機能です。	2.8
8	変換	定義情報の管理	定義を基に，メッセージ変換を実行する機能です。	2.9
9		メッセージの表示抑止	JP1/IM - MO で変換した JP1 イベントを，マネージャーに発行しないようにする機能です。	2.10
10	運用環境に応じて使用する機能		JP1/IM - MO の運用環境に応じて使用する機能です。次の三つがあります。 • エージェントホストを発行元として定義する • イベントソースとしてプログラム名を指定する • メッセージ識別子を追加する	2.11

次の節から，それぞれの機能の詳細を説明します。

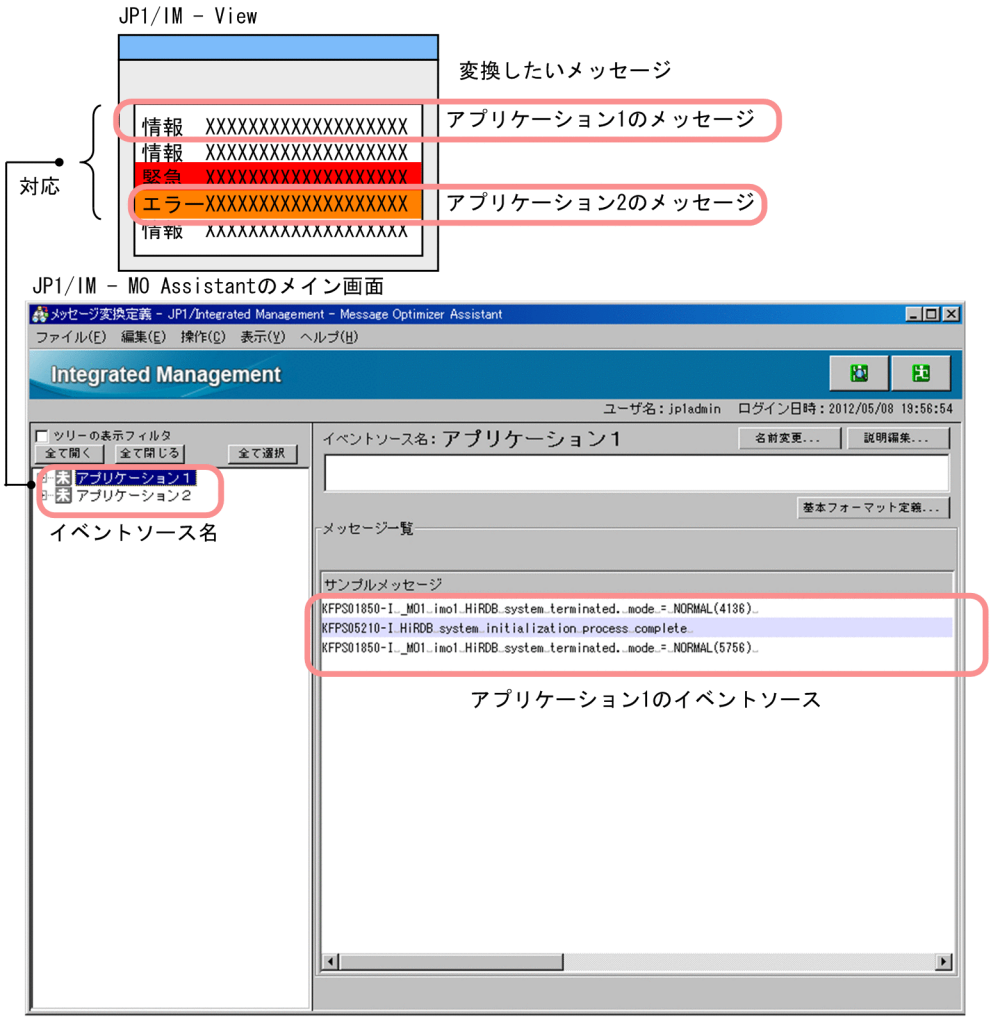
2.2　イベントソースの定義

イベントソースとは，JP1/IM - MO でメッセージを変換する製品の情報です。

メッセージ変換の定義をするためには，イベントソースを JP1/IM - MO に取り込む必要があります。これを**イベントソースの定義**といいます。

例えば，アプリケーション 1，およびアプリケーション 2 のメッセージの変換定義をしたいとき，アプリケーション 1，およびアプリケーション 2 のイベントソースを JP1/IM - MO に定義します。

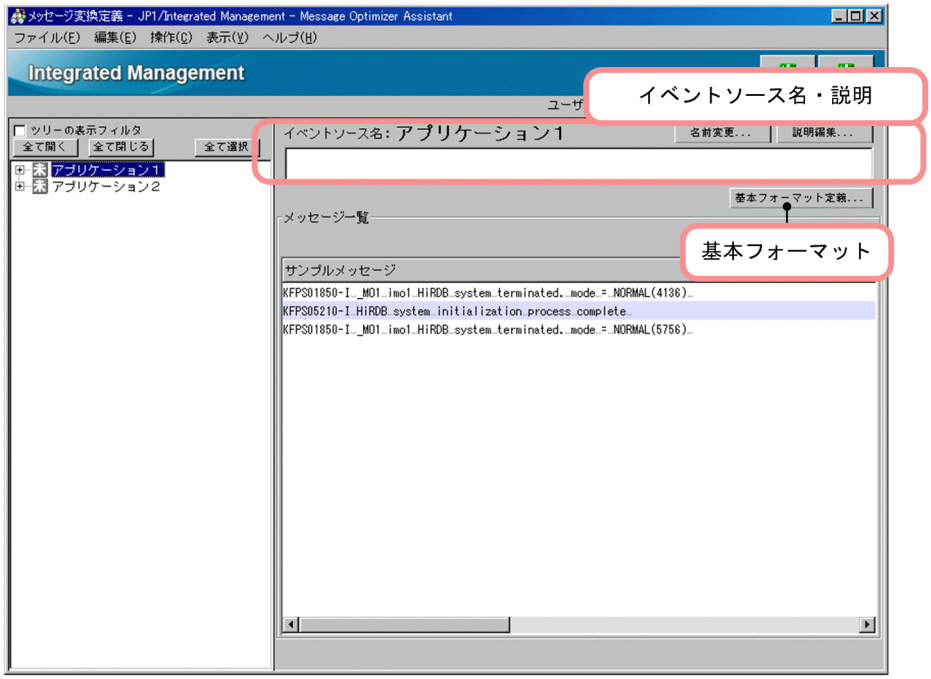
図 2-1　イベントソースの定義



イベントソースとして，次の情報を定義します。

図 2-2　イベントソースを構成する情報

JP1/IM - MO Assistantのメイン画面



イベントソース名・説明

イベントソースの名称と説明です。

説明は任意で定義します。

イベントソース名は，学習機能を使うと自動的に定義されます。学習機能の仕組みについては，「2.7 学習機能」を参照してください。

基本フォーマット

製品が出力するメッセージのフォーマットです。

メッセージのフォーマットを変換するには，元のメッセージのフォーマットを定義しておき，元のフォーマットからどう変換するかを定義します。

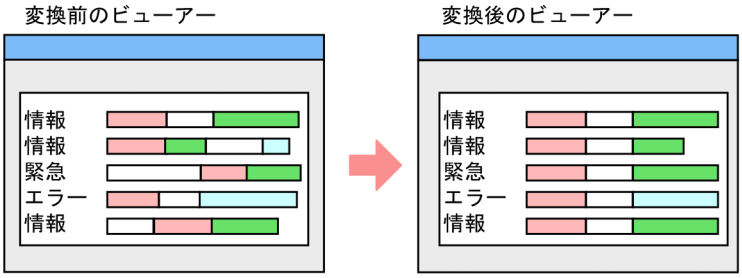
元のメッセージフォーマットを「**基本フォーマット**」といいます。

基本フォーマットの定義については，「2.3.1 元のメッセージフォーマットの定義（基本フォーマットの定義）」を参照してください。

2.3　メッセージフォーマットの変換定義

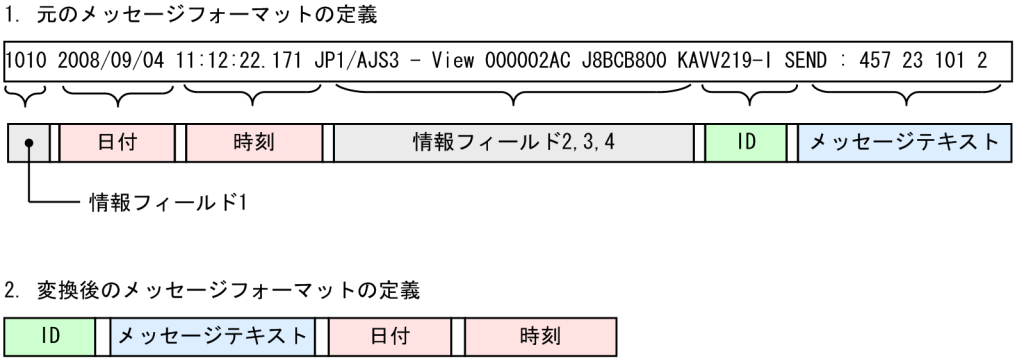
ビューアーに出力するメッセージのフォーマットを定義する機能です。次の図のように，ビューアーのメッセージ部分のフォーマットを整理する定義です。

図 2-3　メッセージフォーマットが変換されたイメージ



メッセージフォーマットの変換は，次の 2 段階で定義します。

図 2-4　メッセージフォーマット変換定義の流れ



この図のように，元のメッセージにフォーマットを定義しておき，元のフォーマットの要素を置き換えて変換後のフォーマットを定義します。

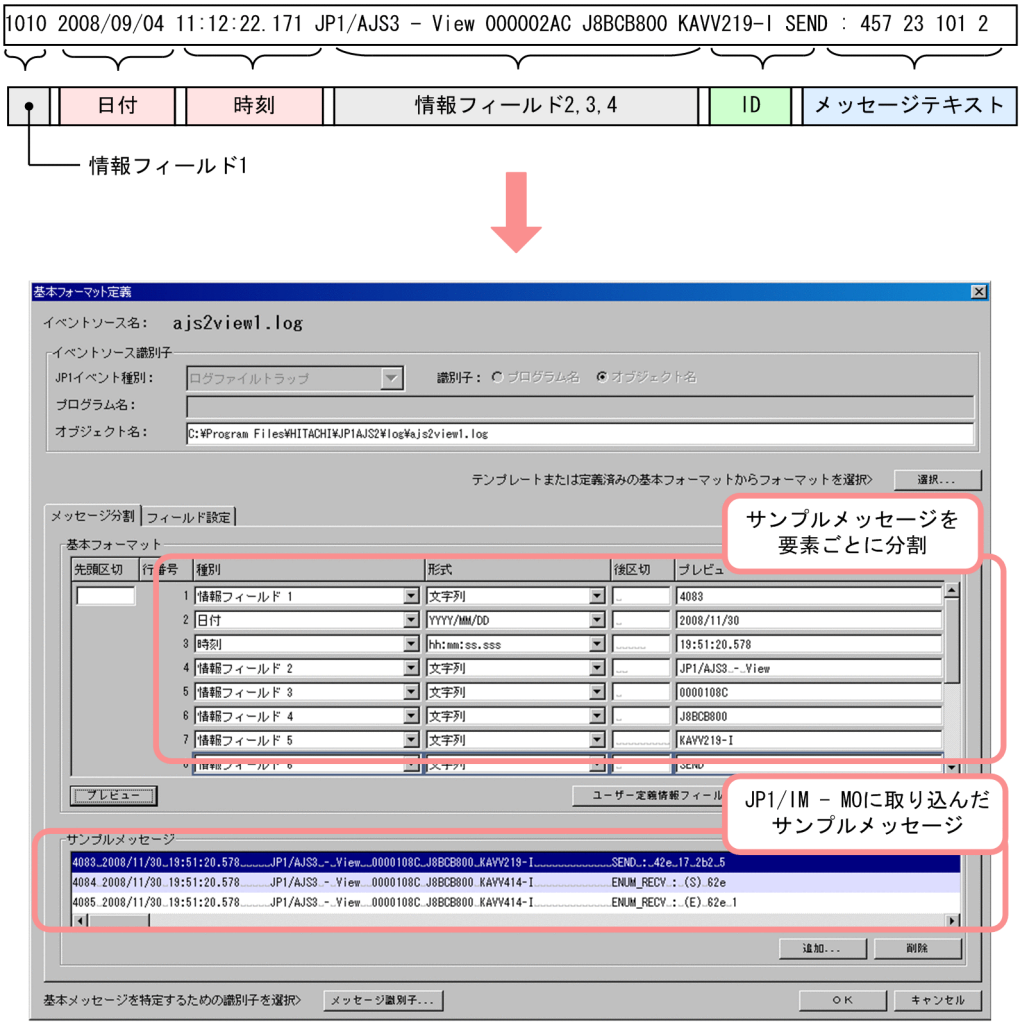
それぞれの定義について解説します。

2.3.1　元のメッセージフォーマットの定義（基本フォーマットの定義）

元のメッセージフォーマットの定義を，「**基本フォーマットの定義**」といいます。

基本フォーマット定義のイメージを次の図に示します。

図 2-5　基本フォーマットの定義イメージ



JP1/IM - MO に取り込んだサンプルメッセージを要素ごとに分割します。

どこで分割するかは，任意で決められます。また，分割方法を定義しているテンプレートを用意しています。テンプレートと完全に合致していなくても，テンプレートを編集することで任意に分割できます。

また，イベント種別ごと，またはすべてのイベント種別に共通の基本フォーマットを定義することで，JP1/IM - MO で定義していないイベントソースのメッセージを指定のフォーマットで変換できるようになります。イベントを発行するアプリケーションが多い場合や，未知のアプリケーションからイベントが発行された場合に，イベントソースごとに定義を作成する必要がなくなるため，運用負荷を軽減できます。

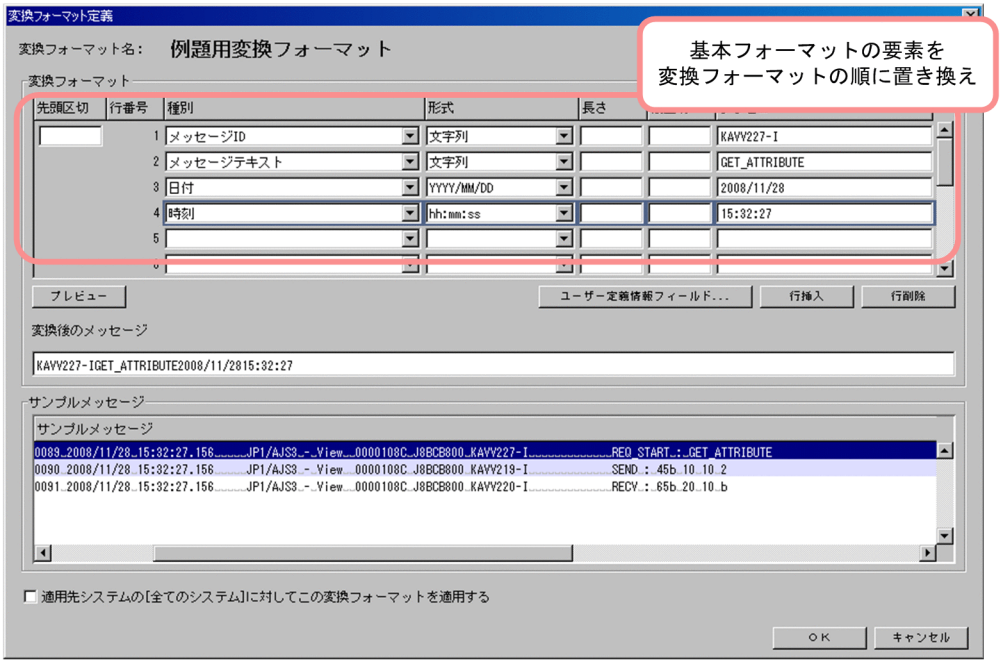
2.3.2　変換後のメッセージフォーマットの定義（変換フォーマットの定義）

変換後のメッセージフォーマットの定義を，「**変換フォーマットの定義**」といいます。

定義した基本フォーマットの種別の順序を置き換えて，変換後のフォーマットを決定します。

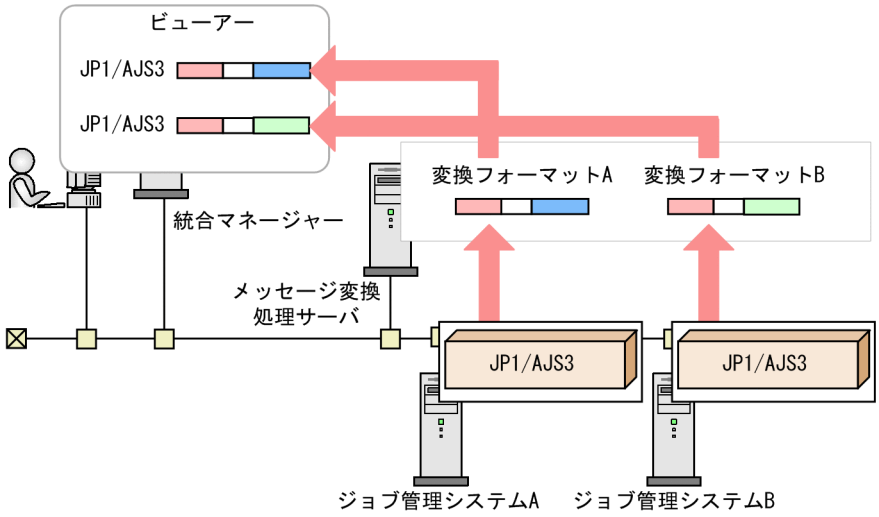
変換フォーマットの定義のイメージを次の図に示します。

図 2-6　変換フォーマットの定義イメージ



変換フォーマットの定義を複数用意して，システムごとに分けることもできます。イメージを次に示します。

図 2-7　変換フォーマットをシステムごとに分けるイメージ



システムごとに変換フォーマットを分けるには，JP1/IM - MO にシステムの構成を定義しておく必要もあります。この機能については，「2.5　定義を適用するシステムの指定」で説明します。

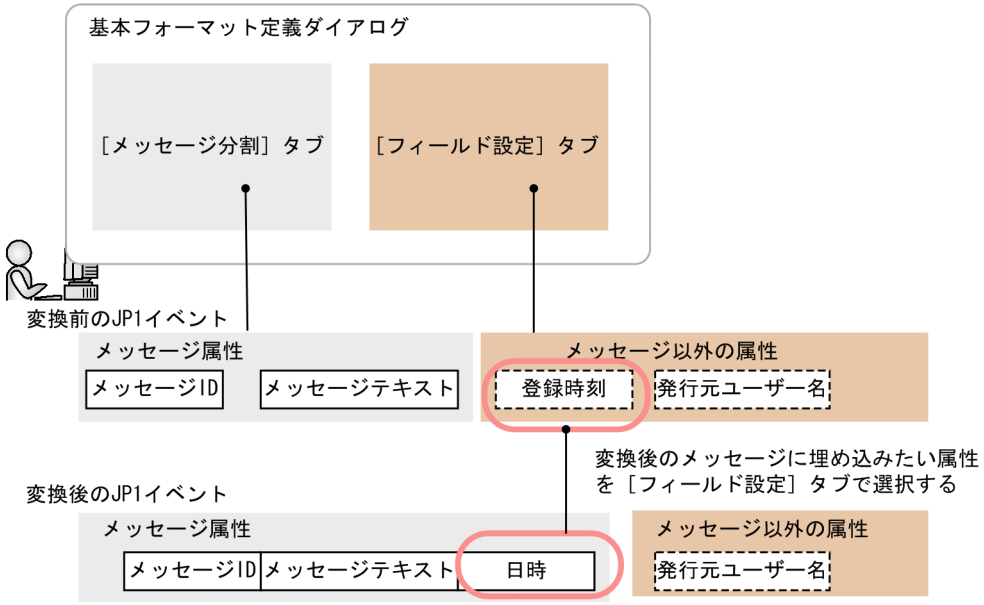
2.3.3　変換前のメッセージにない要素を変換後のメッセージに追加する

ビューアーの「メッセージ」には，JP1 イベントの属性の中でメッセージ属性に指定されているものだけが表示されます。JP1/IM - MO では，JP1 イベントの「メッセージ属性」ではない属性値を，メッセージとして埋め込み，ビューアーに表示できます。

元のメッセージ（基本メッセージ）に含まれていなかった JP1 イベントの属性値を「**フィールド**」と呼び

ます。

図 2-8　変換前のメッセージにない要素を変換後のメッセージに追加するイメージ



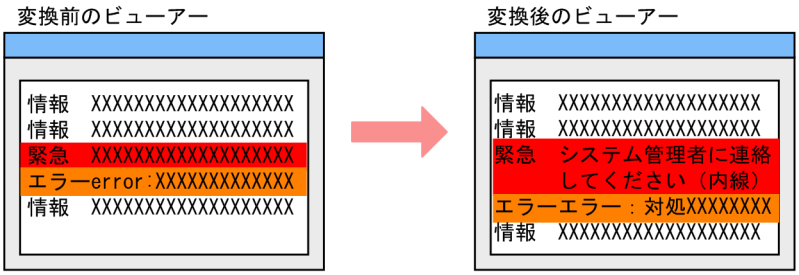
メッセージ部分に，監視に必要な情報を表示すると，メッセージを見るだけで問題の発生個所や，発生した時刻などがわかるようになります。また，ほかのメッセージには表示されていてそのメッセージに足りない要素を埋め込むことで，変換後のフォーマットを統一できます。この結果，ビューアーでの監視が容易になります。

2.4　メッセージテキストの定義

ビューアーに出力されるメッセージのテキスト部分を編集できる機能です。

対処がわかりにくいメッセージテキストなどを，わかりやすく編集できます。

図 2-9　メッセージテキストの編集イメージ

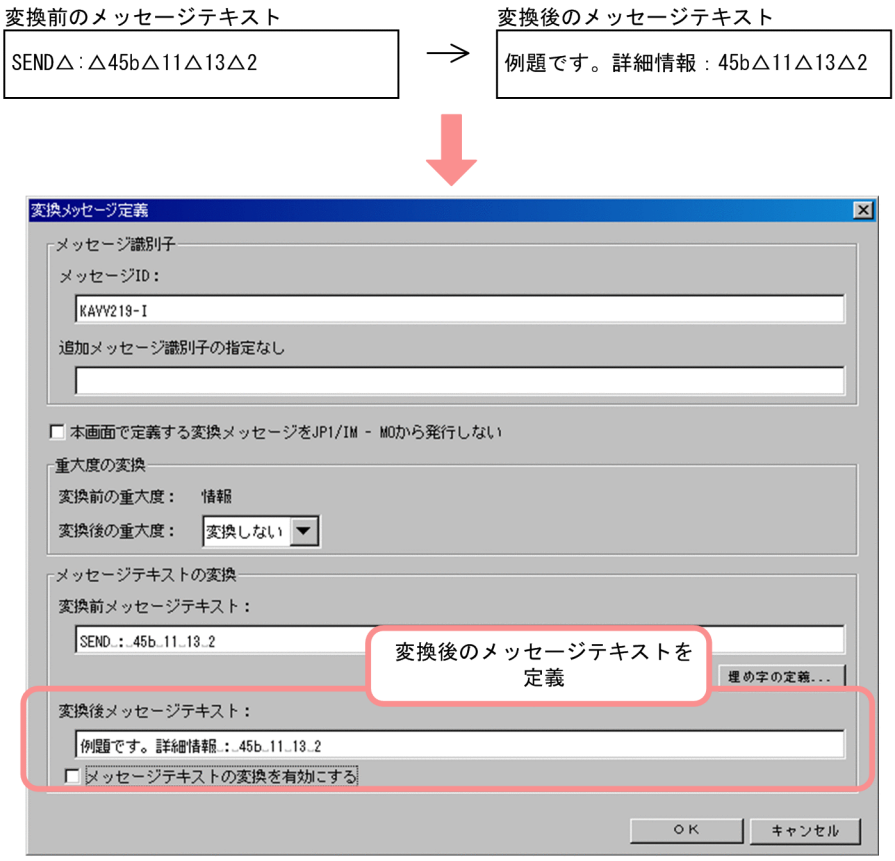


メッセージテキスト・重大度の編集を，JP1/IM - MO では「**変換メッセージ定義**」といいます。

変換メッセージ定義のイメージを次に示します。

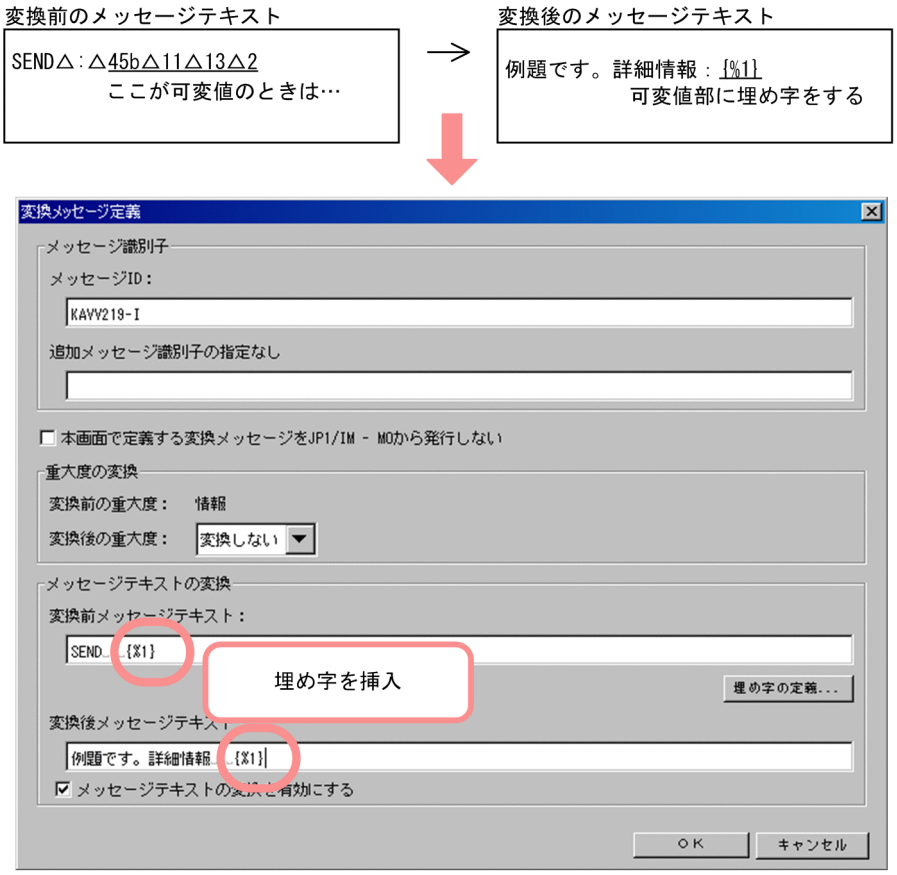
1. 編集するメッセージを JP1/IM - MO に取り込む。
   編集するメッセージのテキスト部分を JP1/IM - MO に取り込みます。
   取り込んだメッセージを「**基本メッセージ**」といいます。
2. メッセージテキストを編集する。

図 2-10　変換メッセージ定義のイメージ



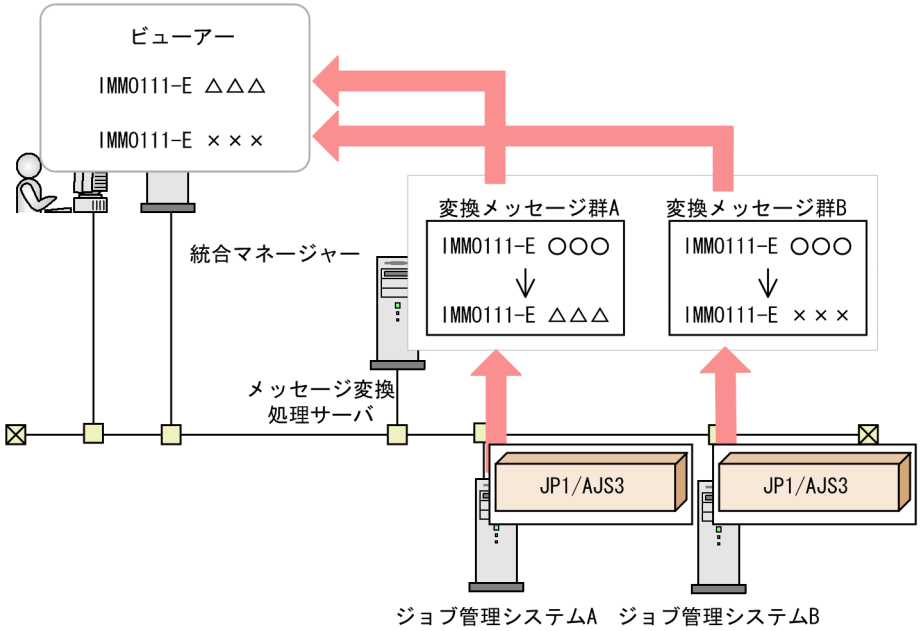
メッセージテキスト中に，状況に応じて変わる部分（可変値）が含まれているときは，可変値用の埋め字を使用して対応できます。

図 2-11　埋め字の使用



変換メッセージ定義は，複数用意してシステムごとに分けることができます。イメージを次に示します。

図 2-12　変換メッセージをシステムごとに分けるイメージ

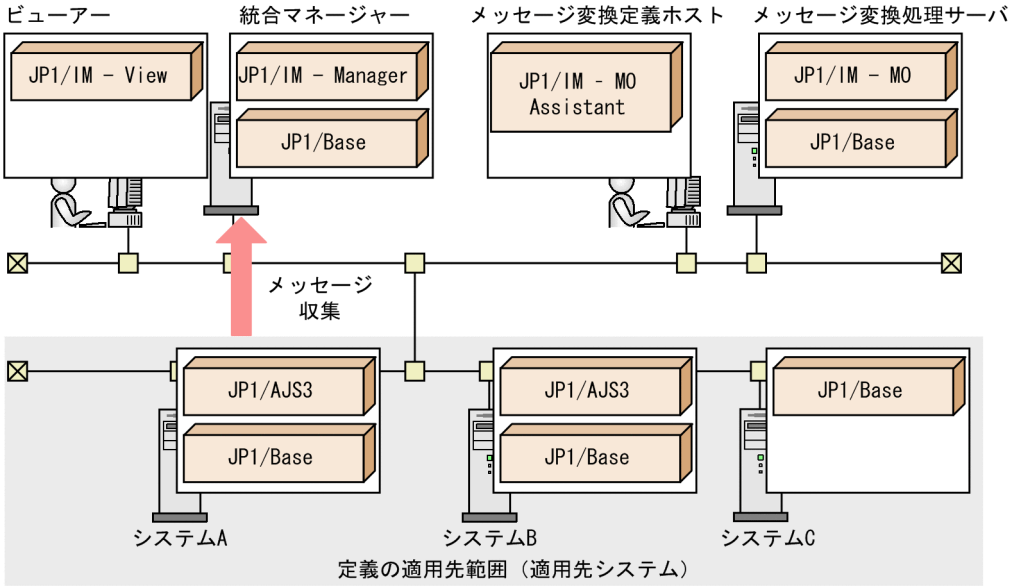


「**変換メッセージ群**」とは，変換メッセージ定義をまとめたものです。イベントソースごとに定義でき，適用先システムに対して切り替えて適用できます。

2.5　定義を適用するシステムの指定

JP1/IM - MO は，JP1/IM - Manager が監視するシステムのメッセージに対して定義します。よって，定義が適用される範囲は，JP1/IM - Manager が監視するシステムすべてです。

図 2-13　定義の適用範囲

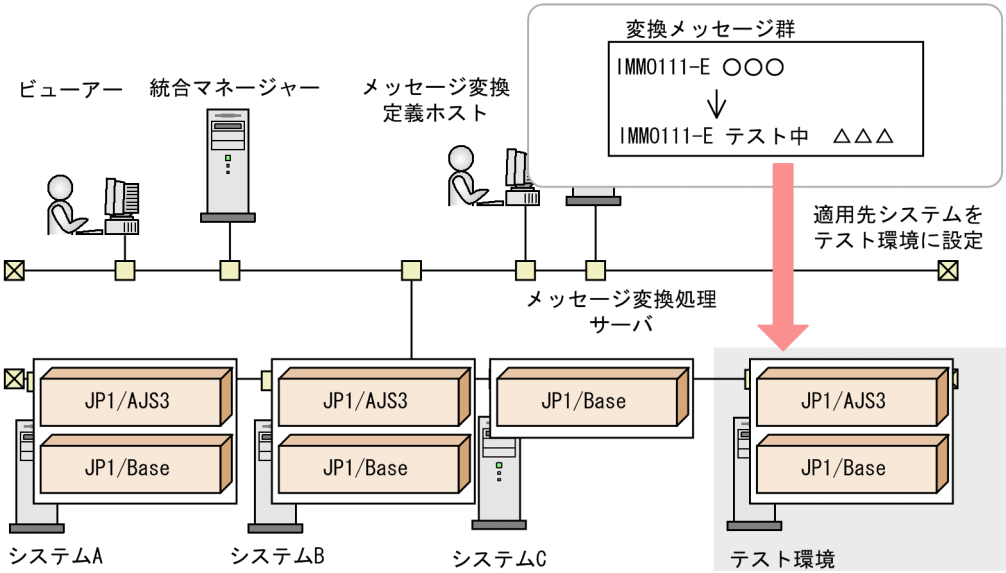


定義を適用する範囲を「**適用先システム**」といいます。

この適用先システムの仕組みを利用して，定義の適用範囲を限定できます。

例えば次の図のように，JP1/IM - Manager のシステム内にテスト環境を一時的に設け，テスト環境で出力されるメッセージ A のテキストにだけ「テスト中」と表示されるように設定できます。

図 2-14　メッセージ変換の適用先



適用先システムは，デフォルトでは JP1/IM - Manager が監視するシステムすべてです。定義の適用範囲

を限定したい場合だけ，適用先システムを定義します。

適用先システムを定義する方法は次の二つです。

● **GUI を利用して定義する。**
JP1/IM - MO Assistant を利用して発行元と適用先システムを定義できます。

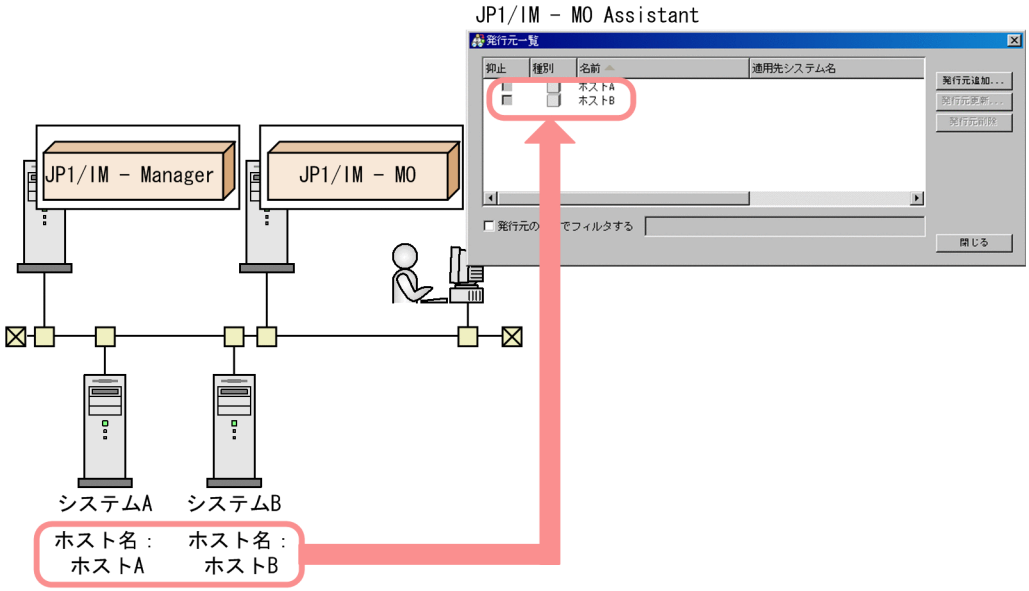
● **IM 構成管理情報や，システム構成定義ファイルを利用して一括定義する。**
JP1/IM - Manager で管理しているホスト名やシステムの階層構成情報をエクスポートした IM 構成管理情報や，JP1/IM - MO の発行元や適用先システムの定義情報をエクスポートしたシステム構成定義ファイルをインポートして定義できます。

2.5.1　GUI を利用して発行元と適用先を定義する

適用先システムを GUI を利用して定義する流れを次に示します。

1. JP1/IM - MO にメッセージの発行元を定義する。
JP1/IM - Manager が監視するシステムの，メッセージの発行元を JP1/IM - MO に定義しておきます。

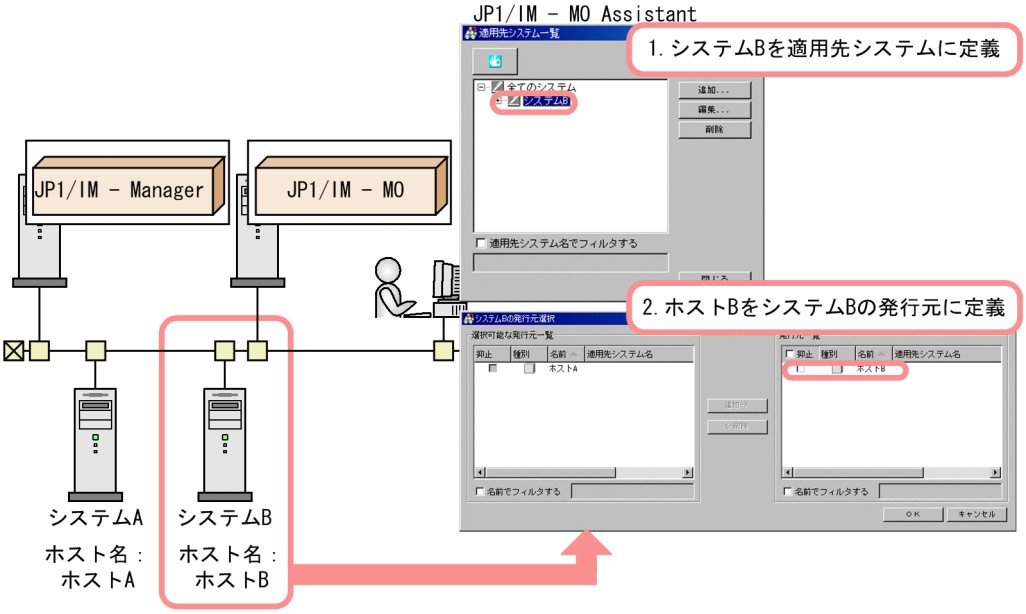
図 2-15　メッセージの発行元のホスト名を定義



メッセージの発行元は，学習機能を使うと自動的に JP1/IM - MO に定義されます。

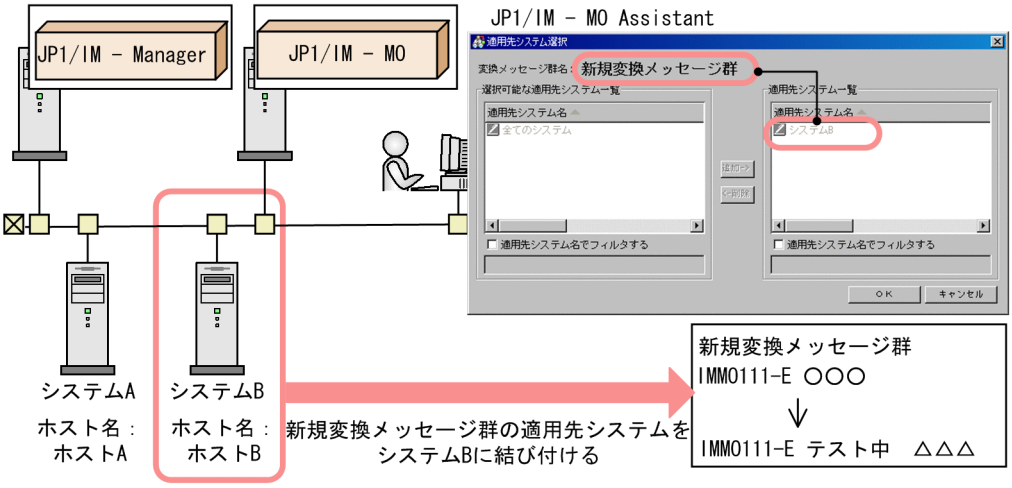
2. JP1/IM - MO に適用先システムの範囲を定義する。
適用先システムの範囲を，発行元単位で定義します。

図 2-16　適用先システムの定義



3. 変換フォーマットや変換メッセージ定義と適用先システムを結び付ける。

図 2-17　変換フォーマットや変換メッセージ定義と適用先システムを結び付ける

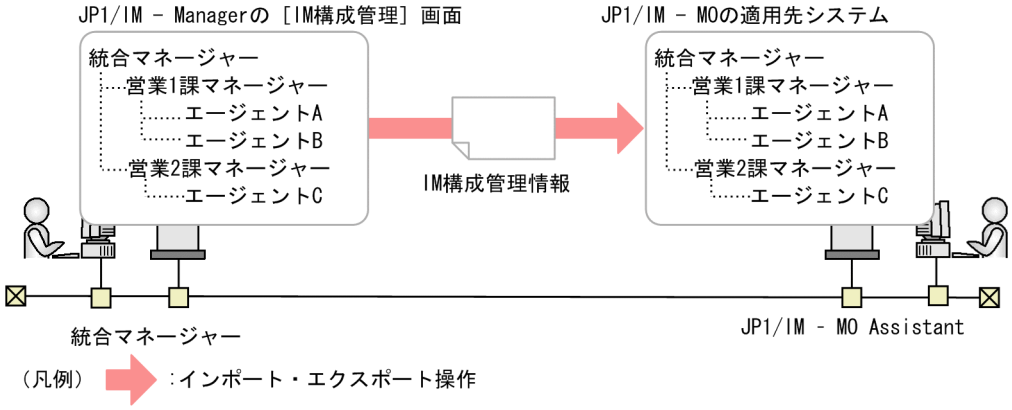


2.5.2　定義ファイルを利用して発行元と適用先を一括で定義する

JP1/IM - MO が変換対象としているホストが大量にある大規模システムでは，発行元や適用先システムを GUI で 1 件ずつ定義すると，同じような定義を何度も繰り返すことによって入力ミスが増加し，定義の効率が低下することがあります。

そこで，JP1/IM - Manager で管理しているシステムの構成をエクスポートしたファイル（IM 構成管理情報）や JP1/IM - MO の発行元や，適用先システムを定義したファイル（システム構成定義ファイル）をインポートすると，発行元を一括で定義できます。

図 2-18　IM 構成管理情報をインポートして定義するイメージ



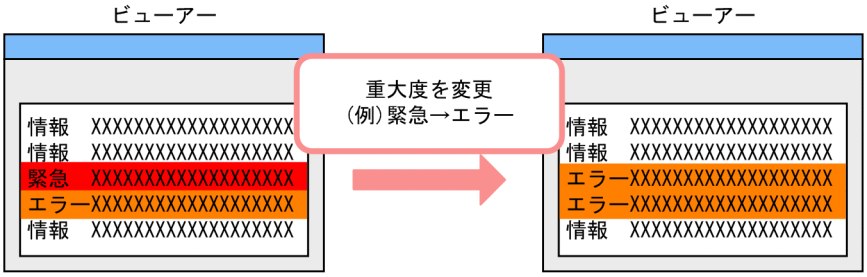
JP1/IM - Manager の IM 構成管理情報を JP1/IM - MO にインポートすると，JP1/IM - Manager のシステム構成情報が保持されたまま適用先システムが定義されます。これによって定義を何度も GUI で定義する必要がなくなるので定義そのものに掛かる時間を短縮できます。また，手入力による定義ミスを防ぐことができ，発行元と適用先システムを効率良く一括定義できます。

詳細な操作については，「9.12.2　発行元・適用先システムを一括で定義する」を参照してください。

2.6　重大度

ビューアーに出力される JP1 イベントは，それぞれに重大度が設けられており，緊急性の高いメッセージを特定しやすくなっています。しかし，運用している環境によって，緊急性は異なります。JP1/IM - MO では，環境に合わせて重大度を変更できます。

図 2-19　重大度を変更できるイメージ



重大度は，メッセージごと，または適用先システムごとに設定できます。

2.7　学習機能

イベントソース，基本メッセージ，および発行元を自動的に JP1/IM - MO に定義する機能です。

JP1/IM - Manager が JP1 イベントを収集すると，その JP1 イベントから自動的に学習されます。

イベントソースをリリースしている場合は，基本メッセージが学習されます。イベントソースをリリースしていない場合は，イベントソースまたはサンプルメッセージが学習されます。

イベントソース共通定義を定義している場合は，個別のイベントソースをリリースしていないときだけ，イベントソース共通定義に基本メッセージが学習されます。それ以外のときには，イベントソース共通定義に基本メッセージは学習されません。

2.8　定義情報のインポート・エクスポート

JP1/IM - MO で管理する定義情報をファイルに出力・読み込みできます。これを，定義情報のインポート・エクスポート機能といいます。

JP1/IM - MO の管理対象ホストが大量にある大規模システムでは，定義を 1 件ずつ GUI で操作すると，同じような定義を何度も繰り返すことによって入力ミスが増加し，定義の効率が低下することがあります。

このような場合に，JP1/IM - MO の定義情報が記述されたファイルをインポート・エクスポートすると，GUI を使用しないで一括定義できるようになり，定義を効率化できます。

インポート・エクスポートできるファイルおよび各ファイルで編集できる定義情報を次の表に示します。なお，ファイルに記述されていても編集できない定義があります。

表 2-2　定義ファイルをインポート・エクスポートして定義できる項目と使用するコマンド

対象となるファイル名	インポート・エクスポートできる項目	編集可否	使用するコマンド
変換定義ファイル	イベントソース	×	• jmoimport • jmoexport • jmochktransfile
	基本フォーマット	×	
	基本メッセージ	○	
	変換メッセージ群	○	
	変換フォーマット	×	
	変換メッセージ	○	
IM 構成管理情報・システム構成定義ファイル	発行元	○	• jmocfimport • jmocfexport
	適用先システム	○	
	適用先システム構成	○	
	変換フォーマット	×	
	重大度一律変換定義	○	
	適用先システムと変換メッセージ群の結び付け	×	

（凡例）
　○：編集できる　×：編集できない

定義情報のインポート・エクスポートは次のような場合に効果的です。

- **発行元や適用先の一括定義**
  JP1/IM - Manager の定義情報をエクスポートし，JP1/IM - MO にインポートすると，発行元や適用先システムの定義を一括定義できます。定義方法の詳細については，「2.5.2　定義ファイルを利用して発行元と適用先を一括で定義する」および「9.12　定義ファイルを利用して一括で定義する」を参照してください。
- **すでに運用実績のある JP1/IM - MO の定義を別のシステムに移行する**
  すでに運用実績のある JP1/IM - MO の定義を別のシステムで流用して使用して，定義を効率化できます。

また，編集した定義ファイルをチェックする機能も備えています。

2.9　定義情報の管理

定義が完了したら，定義を基にメッセージ変換を実行します。

メッセージ変換を実行するには，変換フォーマット定義，変換メッセージ群の定義，および適用先システムの定義を「**リリース**」する操作が必要です。

変換フォーマット，変換メッセージ，および適用先システムの定義は，定義が済んだ時点では「編集」状態にあります。この定義の状態を「リリース」状態にして，初めてメッセージの変換が実行されます。

ここでは，リリースに関する次の機能について説明します。

表 2-3　リリースに関する機能

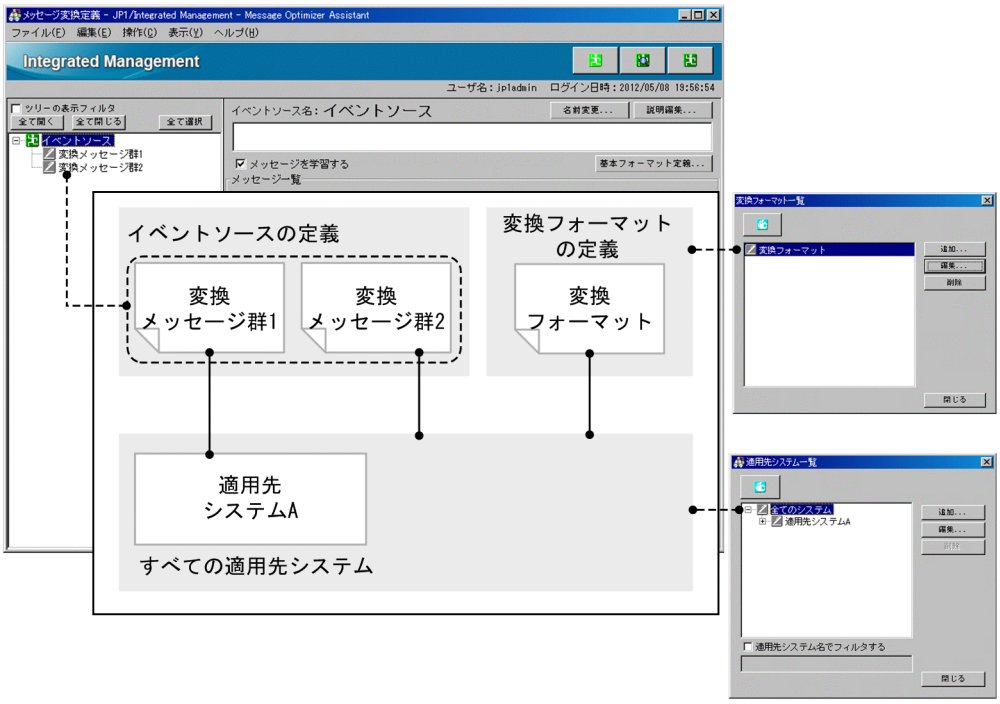
機能	概要
リリース許可とリリース	定義を基に，メッセージ変換を実行する機能
リリース編集	リリース中に，定義をメンテナンスする機能
定義の状態管理	編集中，リリース中，リリース編集中など，定義の状態をアイコンで示す機能

2.9.1　リリース許可とリリース

メッセージ変換は，「リリース許可」，「リリース」の 2 段階で実行します。

1. **リリース許可**
   リリースする前に，どの定義をリリースするか決めておきます。これを「**リリース許可**」といいます。
   次の図を例に説明します。

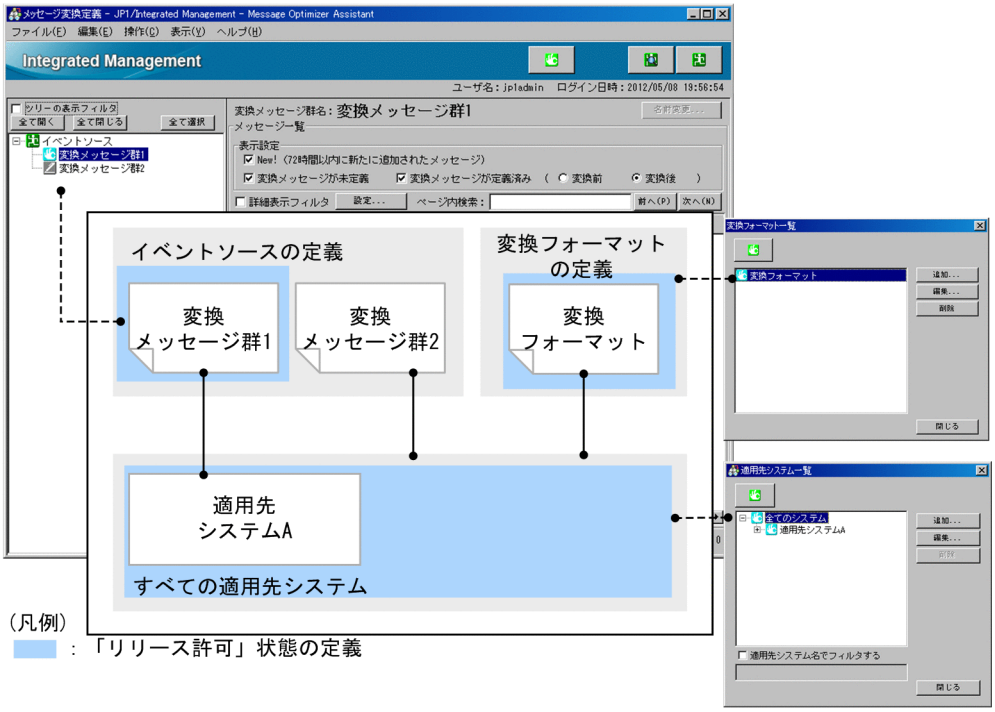
図 2-20　リリース許可の例



完了している定義の内容は次のとおりです。
イベントソースに，変換メッセージ群 1 と 2 が定義されています。
変換フォーマットが定義されています。

適用先システム A が定義されており，変換メッセージ群だけ適用先システム A に，ほかの定義は適用先システム A 以外の適用先システムに結び付いています。
ここで，変換メッセージ群 1 と変換フォーマットだけをリリースしたいとき，変換メッセージ群 1，変換フォーマット，およびすべての適用先システムの定義をリリース許可します。

図 2-21　リリース許可した例

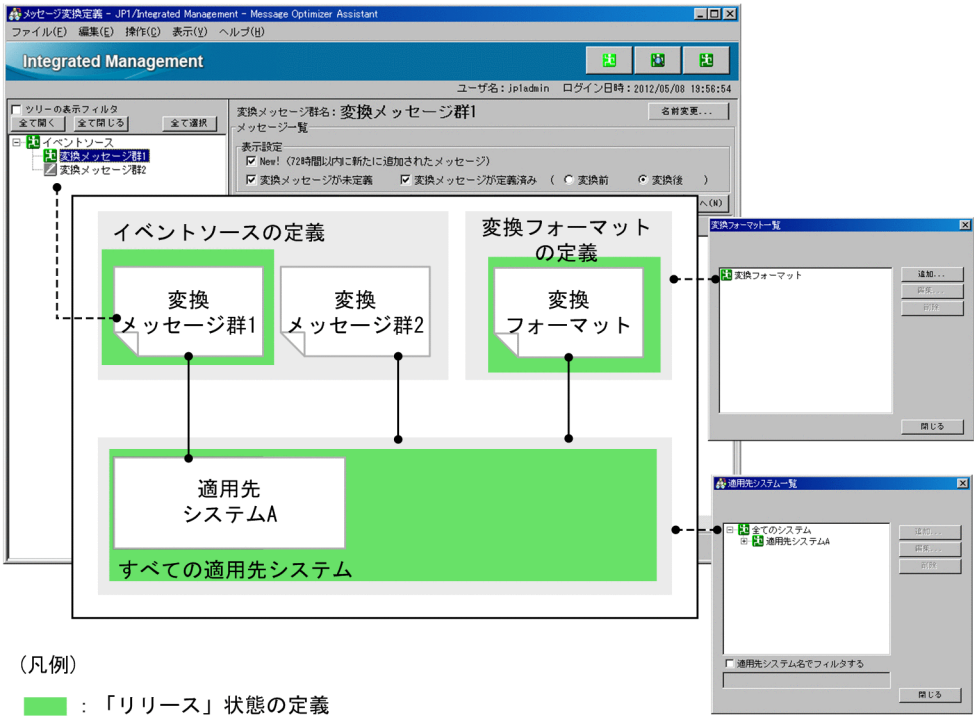


リリース許可した定義は，「リリース許可」状態に変わります。

2. **リリース**

手順 1 でリリース許可した定義を，一括でリリースします。

図 2-22　リリースした例



（凡例）

：「リリース」状態の定義

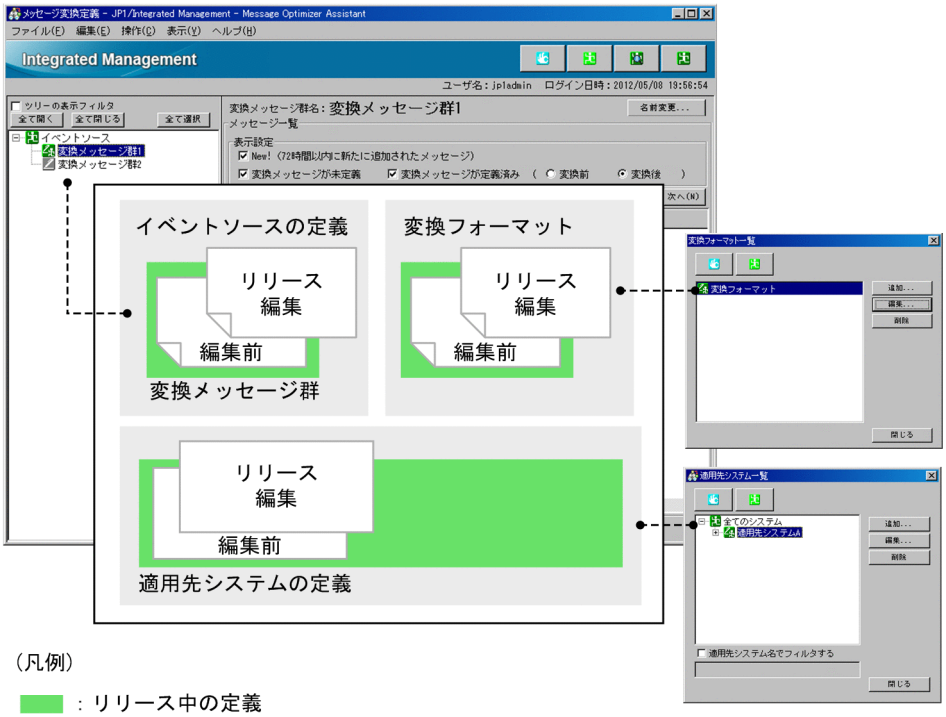
リリースした定義は，「リリース」状態に変わります。
これで，リリースした定義に基づいたメッセージ変換が開始されます。

2.9.2　リリース編集

リリース中の定義を編集することを，「**リリース編集**」といいます。

リリース編集中は，編集する前の定義内容に基づいてメッセージが変換されています。

図 2-23　リリース編集中



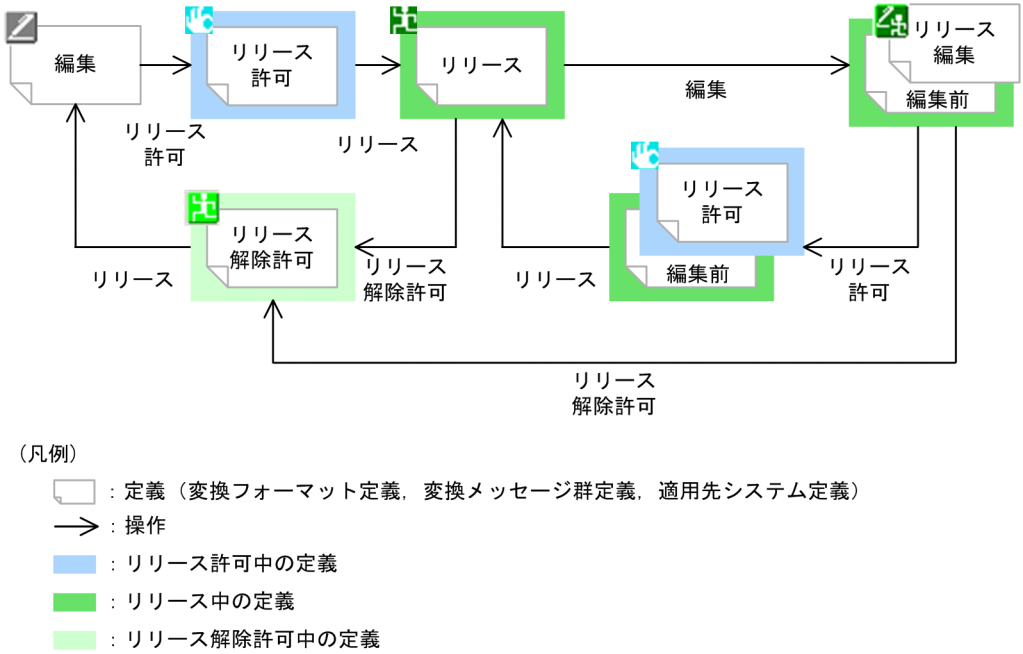
リリース編集が完了し，再びリリース許可・リリースをすると，リリース編集後の定義に基づいてメッセージが変換されます。

2.9.3　定義の状態管理

ここでは，定義の状態について説明します。

変換フォーマットの定義，変換メッセージ群の定義，および適用先システムの定義は，次の図のように状態が遷移します。

図 2-24　定義の状態遷移



定義の状態は，各定義に付いているアイコンで判断できます。

各状態について説明します。

編集

定義を編集しているときの状態です。

リリース許可

リリースする前に，リリースする定義を「リリース許可」状態にします。「リリース許可」状態にした定義は，リリースをすると「リリース」状態になります。

リリース

メッセージ変換が実行されている状態です。

リリース編集

リリース中に，定義を編集している状態です。

このとき，リリース編集前の定義はリリースされたままです。

リリース解除許可

リリースまたはリリース編集の定義を解除する前の状態です。

リリースを解除するには，解除する定義を「リリース解除許可」状態にします。「リリース解除許可」状態にした定義は，リリースをすると「編集」状態に戻ります。

2.10 JP1/IM - MO で変換したメッセージの表示抑止

JP1/IM - MO で変換されたメッセージは，統合マネージャーで収集され，ビューアーに表示されます。

監視に不要なメッセージをビューアーに表示しないために，JP1/IM - MO からマネージャーに JP1 イベントを発行しない機能を，メッセージ抑止機能といいます。

メッセージ抑止は，次の単位ごとにできます。

- メッセージ 1 件
- 発行元
- JP1/IM - MO で定義していないすべての JP1 イベント
- 変換がエラーになったすべての JP1 イベント

それぞれについて説明します。

2.10.1 メッセージ 1 件単位の抑止

メッセージ 1 件単位で JP1/IM - MO からの JP1 イベントの発行を抑止できます。

ある特定のメッセージだけをビューアーに表示したくない場合に使用します。抑止したいメッセージ 1 件ごとに抑止を定義する必要があります。メッセージ単位で JP1 イベントの発行を抑止する方法については，「9.9.1 個別メッセージ単位での JP1 イベント生成の抑止」を参照してください。

2.10.2 発行元単位のメッセージの抑止

発行元（ホスト）単位で JP1/IM - MO からの JP1 イベントの発行を抑止できます。

ある特定の発行元から発行されるメッセージだけを，ビューアーに表示したくない場合に使用します。例えば，あるマシンをリプレースするときなど，ある特定のマシンからビューアーでの監視に必要ないエラーメッセージが大量に出力されることが予想される場合に使用します。発行元単位で JP1 イベントの発行を抑止する方法については，「9.9.2 ホスト単位での JP1 イベント生成の抑止」を参照してください。

2.10.3 JP1/IM - MO で定義していないメッセージの抑止

JP1/IM - MO で定義していない JP1 イベントの発行を抑止できます。

JP1/IM - MO で定義したメッセージだけを，ビューアーに出力したい場合に使用します。ビューアーに表示されるメッセージのうち，ビューアーでの監視に必要なメッセージはすべて JP1/IM - MO で定義するという運用方法の場合にはこの方法で JP1 イベントの発行を抑止します。JP1/IM - MO で定義していない JP1 イベントを抑止するときには，環境設定ファイルの「NODEFINE_DETER」の値を変更します。環境設定ファイルの詳細については，「4.4.1 環境設定ファイルの設定方法」を参照してください。

2.10.4 JP1/IM - MO で変換に失敗したメッセージの抑止

JP1/IM - MO で変換に失敗した JP1 イベントの発行を抑止できます。

抑止の設定をしない場合は，変換に失敗した JP1 イベントは，変換されないで元の JP1 イベントのままのメッセージがビューアーに表示されます。変換エラーになった JP1 イベントを抑止するときには，環境設

定ファイルの「TRANSERR_MSG_DETER」の値を変更します。環境設定ファイルの詳細については,「4.4.1 環境設定ファイルの設定方法」を参照してください。

2.11　運用環境に応じた機能

JP1/IM - MO では，運用環境に応じて次の機能を使用できます。

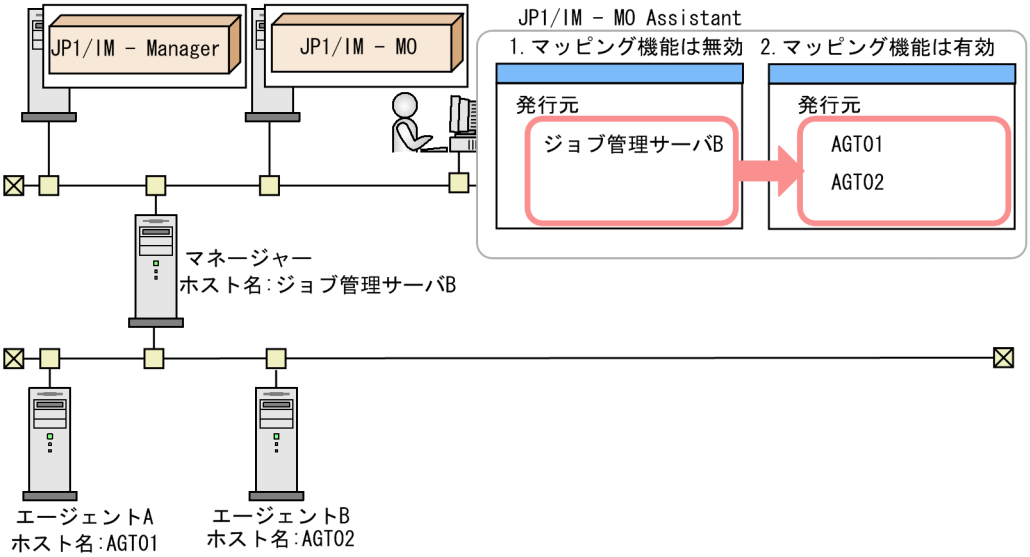
- エージェントホストを発行元として定義する
- イベントソースとしてプログラム名を指定する
- メッセージ識別子を追加する

それぞれのオプション機能について説明します。

2.11.1　エージェントホストを発行元として定義する

マネージャーホストが発行しているメッセージに対して，実行先のエージェントホストをマッピングして，発行元として定義します。これを**マッピング機能**と呼びます。発行元のエージェントごとにメッセージを分けたい場合に使用します。この機能を有効にすると，マネージャーホストと実行先のエージェントホストが自動的にマッピングされ，エージェントホストが発行元として定義されます。マッピング機能を使用するイメージを次の図に示します。

図 2-25　マッピング機能を使用するイメージ



マッピング機能を有効にしない場合は図 2-25 の 1. のように，マネージャーホストの名称が発行元として学習されます。マッピング機能を有効にすると，図 2-25 の 2. のようにエージェントホストを発行元として定義するため，エージェントごとに別の変換メッセージを定義できるようになります。

この機能が使用できる JP1 イベントを次の表に示します。

表 2-4　イベントの実行先が発行元として定義される JP1 イベント一覧

マッピングされるイベント	イベントの発行元となるエージェント	対応している JP1 イベントの属性
JP1/AJS3 または JP1/AJS2 のジョブの開始またはジョブの終了の JP1 イベント	実行先ホスト	E.C0
JP1/PFM の JP1 イベント	エージェントホスト名	E.JPC_AGENT
NNMi インシデント変換の JP1 イベント	オリジナルイベントのソースノード	E.NNMI_SRC_NODE_NAME

マッピングされるイベント	イベントの発行元となるエージェント	対応している JP1 イベントの属性
JP1/IM - Manager のリモート監視機能の JP1 イベント（ログファイルトラップ）	監視対象ホスト（監視対象ホスト名）	E.JP1_SOURCEHOST
JP1/IM - Manager のリモート監視機能の JP1 イベント（イベントログトラップ）	監視対象ホスト（コンピュータ名）	E.A1
JP1/IM - Manager の発生元ホストマッピング機能により発生元を設定した JP1 イベント	発生元ホスト名	E.JP1_SOURCEHOST

この機能を有効にするためには，環境設定ファイルの「EVTSRC_MAPPING」の値を変更します。環境設定ファイルの詳細については，「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照してください。

2.11.2　イベントソースとしてプログラム名を指定する

イベントソースとして JP1/Base のログファイルトラップ時の「プログラム名」を指定して，変換メッセージを一つのイベントソースとして定義できます。

次のような製品のイベントソースをまとめて定義したい場合に使用します。

- 一つの製品が複数のログファイルを出力する場合
  例えば，二つのログファイルにログをローテーションして出力するアプリケーションのイベントソースを一つに集約して定義できます。
- システム内でログファイルの出力先フォルダが異なる場合
  例えば，同一システム内に複数のホストに同じアプリケーションがインストールされている場合に，インストール先のドライブが異なっていても一つのイベントソースに集約して定義できます。

この機能を有効にするためには，データベースのセットアップと，環境設定ファイルの「LOGFILE_TRAP_STUDY_TYPE」の値を変更する必要があります。この機能を使用するためのセットアップ手順については，「4.4.2　イベントソースにプログラム名を指定する場合のセットアップ手順」を参照してください。実際の操作については，「9.11.1　イベントソースにプログラム名を指定する」を参照してください。

2.11.3　メッセージ識別子を追加する

一つのメッセージ識別子だけではメッセージを特定できない場合に，メッセージ識別子を追加できます。この機能を使用した場合，メッセージ識別子は二つになります。追加したメッセージ識別子を「追加メッセージ識別子」といいます。

次のような場合にメッセージ識別子を追加します。

- 同じ Windows イベント ID で異なる重大度のメッセージが出力され，これらの変換定義を分けたい

この機能を有効にするためには，データベースのセットアップが必要です。追加メッセージ識別子を定義する方法については，「9.11.2　追加メッセージ識別子を定義する」を参照してください。

3 設計

この章では，JP1/IM - MO を稼働させる前に取り決めておく項目について説明します。

3.1　JP1/IM - MO **の導入の検討**

3.2　JP1/IM - MO **のシステムの検討**

3.3　**メッセージの変換内容の検討**

3.4　**ネットワーク構成の検討**

3.5　JP1/IM - MO **のインストールとセットアップの検討**

3.6　JP1/IM - MO **の運用の検討**

3.1　JP1/IM - MO の導入の検討

JP1/IM - MO 導入時の設計には，JP1/IM - MO を運用するシステムの設計と，JP1/IM - MO を導入したシステムの運用に合わせたメッセージの変換内容の設計があります。JP1/IM - MO 導入時の設計項目の一覧を次の表に示します。

表 3-1　JP1/IM - MO 導入時の設計項目の一覧

設計項目		参照先
システムの検討	前提 OS とシステムを構成するプログラムを理解し，JP1/IM - MO を導入するシステムを検討します。	3.2
メッセージの検討	システム構成に応じて，メッセージをどのように変換するかを検討します。	3.3
ネットワーク構成の検討	JP1/IM - MO の制限事項を踏まえたネットワーク構成を検討します。	3.4
インストールとセットアップの検討	JP1/IM - MO のインストールまたはセットアップ時にメッセージの変換件数に応じて，データベースの容量や，定義件数の上限値などを検討します。	3.5
運用の検討	JP1/IM - MO を運用開始後に発生した問題に対処するための準備や，メンテナンスの計画について検討します。	3.6

3.2 JP1/IM - MO のシステムの検討

JP1/IM - MO は，接続する JP1/IM - Manager のシステムから出力されるメッセージをユーザーの運用に合わせて加工するプログラムです。そのため，JP1/IM - Manager の統合管理システム内に JP1/IM - MO のシステムを構築します。

JP1/IM - MO のシステムは，統合マネージャーである JP1/IM - Manager，システムを監視するビューアーの JP1/IM - View，メッセージを変換処理する JP1/IM - MO，メッセージをどのように変換するか定義する JP1/IM - MO Assistant，およびメッセージを出力するエージェントでシステムを構成します。JP1/IM - MO のシステムを構築するために必要な検討事項について説明します。

3.2.1 前提 OS とシステム内プログラム

JP1/IM - MO のシステム構成の前提 OS およびシステム内プログラムについて説明します。

(1) 前提 OS

JP1/IM - MO の前提 OS を次の表に示します。

表 3-2 JP1/IM - MO の前提 OS

OS 名	JP1/IM - MO	JP1/IM - MO Assistant
Windows XP Professional	―	○
Windows Server 2003	○	○
Windows Vista	―	○
Windows Server 2008	○	○
Windows 7	―	○

（凡例）
○：動作する
―：動作しない

(2) システム内プログラム

JP1/IM - MO のシステムを構成するプログラムを次の表に示します。

表 3-3 JP1/IM - MO のシステムを構成するプログラム

名称	プログラム名
メッセージ変換処理サーバ	JP1/IM - MO
	JP1/Base 09-00 以降
メッセージ変換定義ホスト	JP1/IM - MO Assistant
統合マネージャー	JP1/IM - Manager 09-00 以降
	JP1/Base 09-00 以降
ビューアー	JP1/IM - View 09-00 以降
エージェント	JP1/Base

3.2.2 JP1/IM - MO のシステム構成

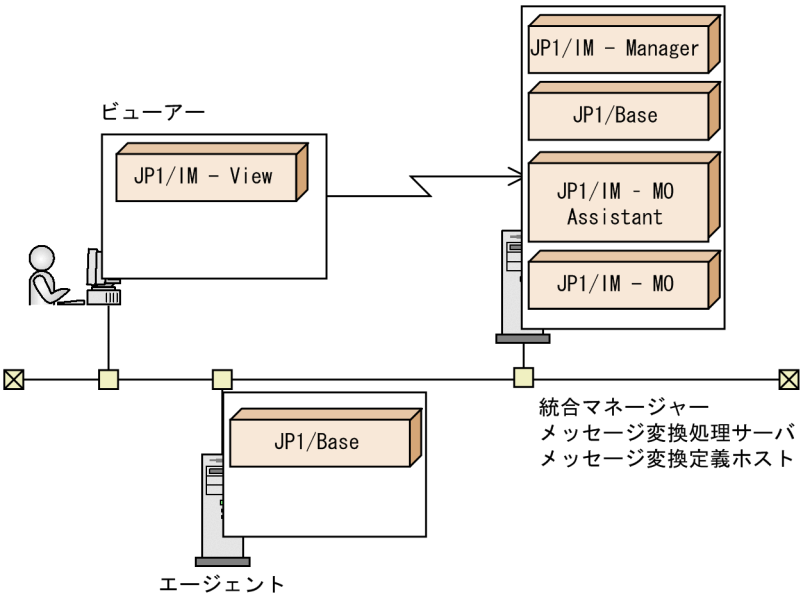
JP1/IM - MO を導入するシステム環境に応じて，システム構成を検討してください。

(1) 統合マネージャーと同一サーバに導入する場合

統合マネージャーと JP1/IM - MO を同一サーバ内に構築できます。この場合，JP1/IM - Manager と JP1/IM - MO の前提 OS が一致している必要があります。

統合マネージャーと同一サーバに導入する場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 3-1 統合マネージャーと同一サーバに導入する場合のシステム構成例



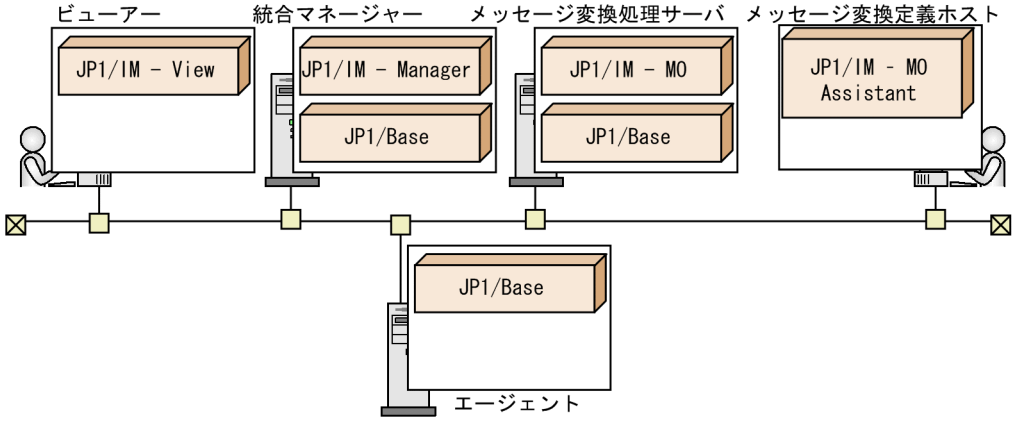
この場合，統合マネージャー，メッセージ変換処理サーバおよびメッセージ変換定義ホストを同一ホストで構成します。

(2) 統合マネージャーと別のサーバに導入する場合

統合マネージャーと JP1/IM - MO を別サーバに構築できます。JP1/IM - Manager と JP1/IM - MO の前提 OS が一致していない場合や，JP1/IM - Manager がインストールされているサーバの負荷を減らしたい場合などにこの構成で構築してください。

統合マネージャーと別のサーバに導入する場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 3-2　統合マネージャーと別のサーバに導入する場合のシステム構成例

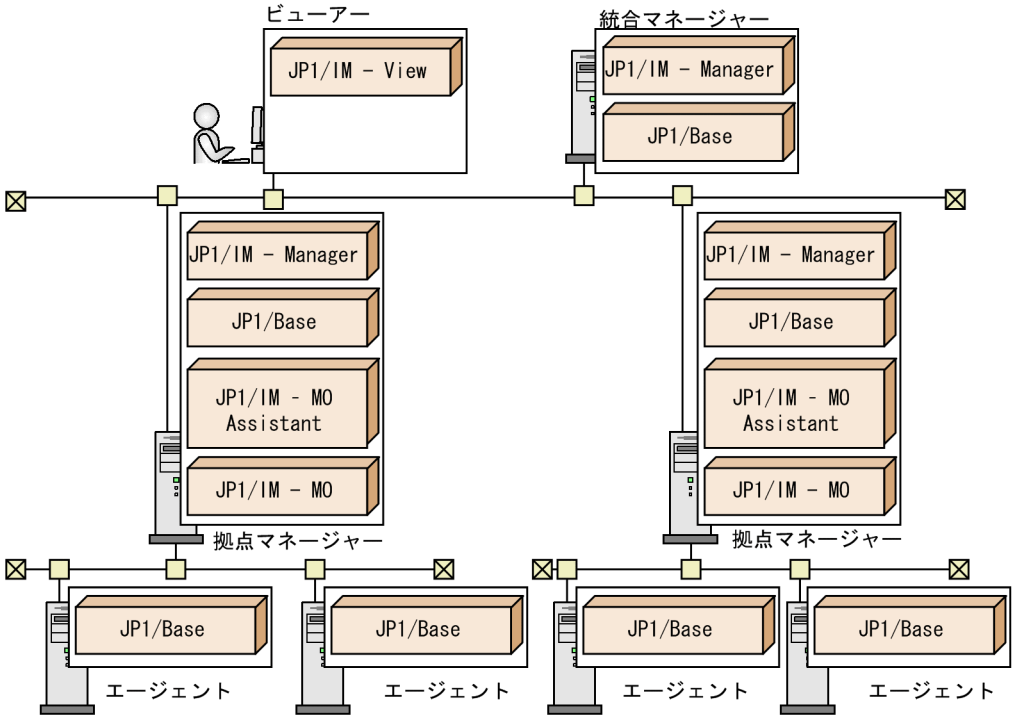


この場合，統合マネージャー，メッセージ変換処理サーバおよびメッセージ変換定義ホストを別ホストで構成します。そのため，JP1/IM - MO の環境設定で接続する JP1/IM - Manager のホスト名を登録する必要があります。JP1/IM - Manager のホスト名登録の詳細については，「4.3.5(3)　JP1/IM - Manager のホスト名の登録」を参照してください。

(3) 統合マネージャーが階層化された大規模システムに導入する場合

一つの JP1/IM - MO が処理できるメッセージの発行元の定義数は，JP1/IM - MO のデータベース容量によって異なります。JP1/IM - MO を導入しているホストのディスク所要量に余裕がなかったり，データベースを最大サイズに指定してしまったりして，データベース容量を増やせない場合には，拠点マネージャーごとに JP1/IM - MO を導入してください。統合マネージャーが階層化された大規模システムに JP1/IM - MO を導入する場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 3-3　統合マネージャーが階層化された大規模システムに導入する場合のシステム構成例



この構成の場合，拠点マネージャーごとに変換されたメッセージが統合マネージャーに収集され，統合マネージャーでメッセージを一括管理できます。

3.2.3 クラスタシステムの構成

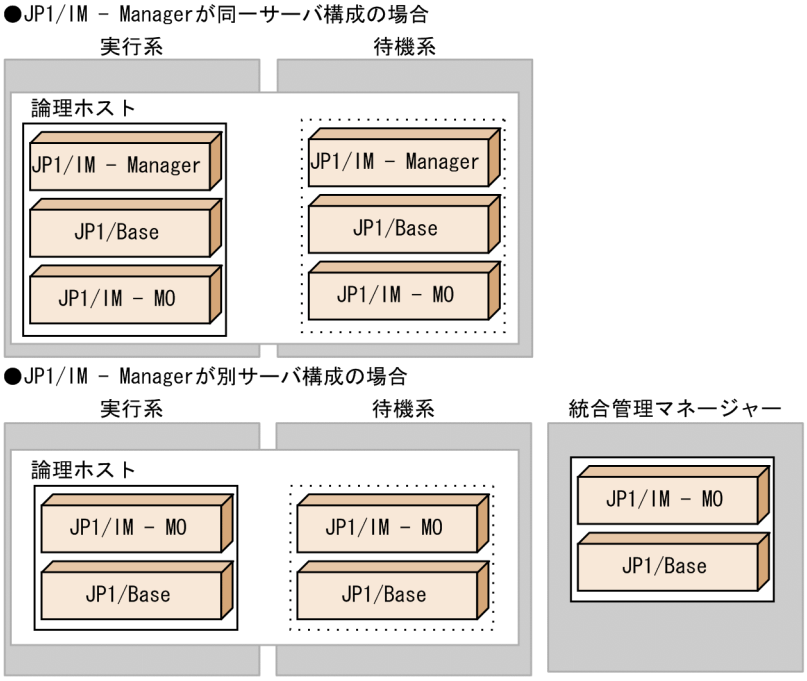
JP1/IM - MO は，クラスタシステムでの運用に対応しています。クラスタシステムとは，複数のサーバシステムを連携して一つのシステムとして運用するシステムです。同じ環境のサーバを二つ構築し，メッセージ変換処理を実行しているサーバ（実行系）で障害が発生した場合に待機していた別のサーバ（待機系）に処理を引き継ぐことでメッセージ変換処理を継続できます。

JP1/IM - MO がサポートするクラスタシステムについて説明します。

(1) サポートするクラスタシステム構成の例

JP1/IM - MO は，2 ノードのアクティブ・スタンバイ構成をサポートします。サポートするクラスタシステム構成の例を次の図に示します。

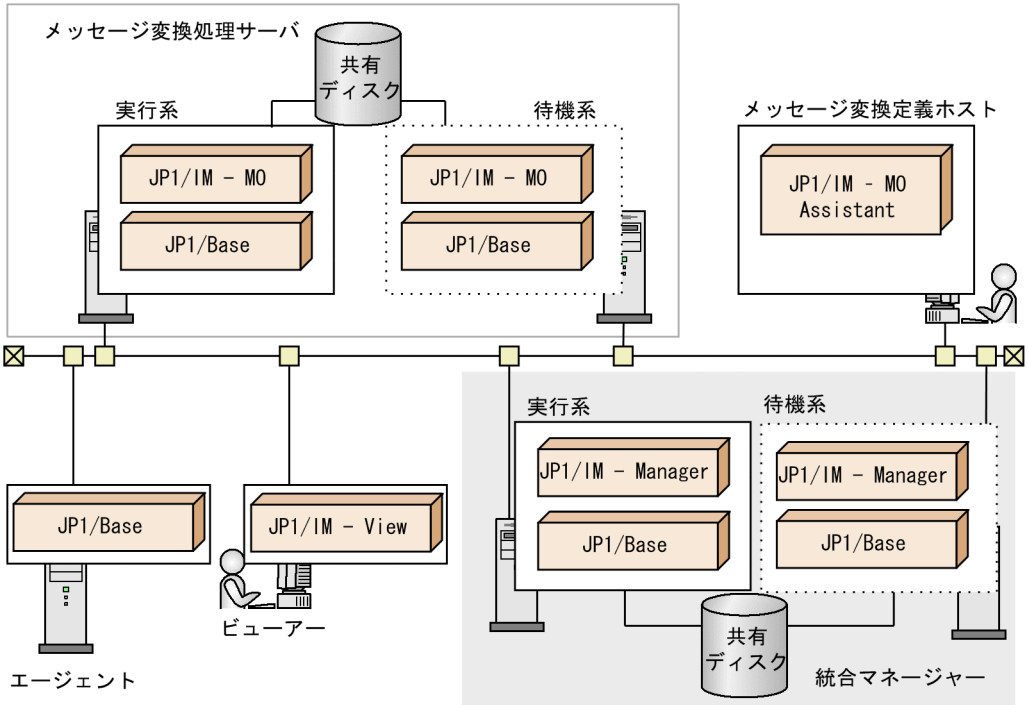
図 3-4 サポートするクラスタシステム構成



JP1/IM - MO を導入しようとしている既存のシステムで，JP1/IM - Manager がアクティブ・アクティブで構成されている場合は，JP1/IM - Manager のホストとは別のホストに JP1/IM - MO を導入してください。

JP1/IM - MO を，クラスタ運用する場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 3-5　クラスタシステムの構成例



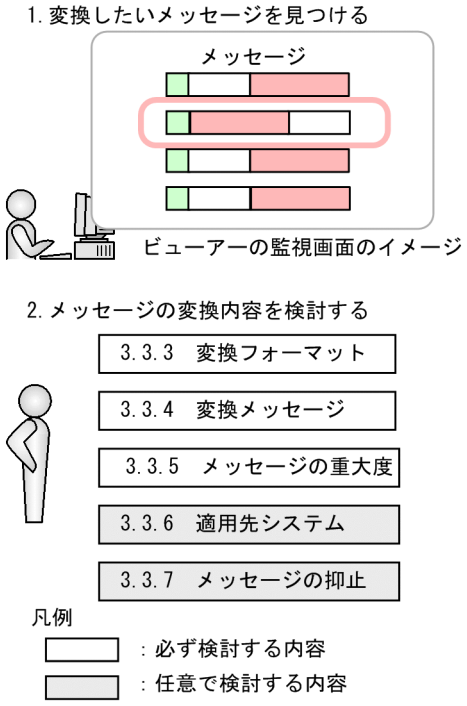
3.3　メッセージの変換内容の検討

この節では，JP1/IM - View に表示するメッセージの検討方法について説明します。

3.3.1　メッセージを検討する流れ

メッセージを検討する流れを次の図に示します。

図 3-6　メッセージを検討する流れ



メッセージの検討内容には最初から検討しておくことと，運用中に任意で検討することがあります。

3.3.2　変換対象のメッセージの運用方法を検討する

まずは，変換対象となるメッセージを決めるために，JP1/IM - View の監視画面で変更したいメッセージを探します。

変更したいメッセージを見つけたら，次に変換後のメッセージの内容を考えます。変換前のメッセージと，変換内容の考え方を次の表に示します。

表 3-4　メッセージ変換の考え方

変換前のメッセージ	メッセージの変換内容
メッセージの見映えがそろっていない	変換フォーマットを定義する
メッセージテキストを読んでも対処がわからない	• 変換メッセージを定義する • 基本メッセージに不足している要素がないか検討する
メッセージの中で重要なものがわからない	メッセージの重大度を変更する
ビューアーに表示したくないメッセージがある	メッセージを抑止する
イベントソースを定義していないメッセージの見映えもそろえたい	イベント共通定義を定義する

自分が変換したいメッセージがどれに該当するか検討してください。

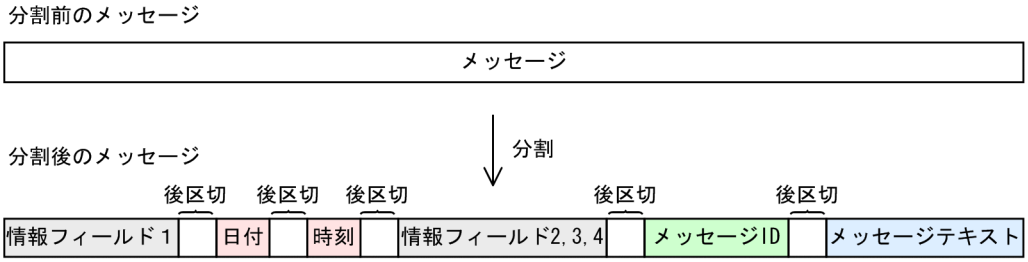
3.3.3 変換フォーマットを検討する

ここでは，メッセージの変換フォーマットを定義するときに検討する内容について説明します。

(1) 基本フォーマット

変換対象のメッセージの変換内容を決めたら，変換の準備としてメッセージの基本フォーマットを定義します。基本フォーマットは 1 個のイベントソースに対して 1 個定義すれば，同じイベントソースのすべてのメッセージに対して適用されます。

図 3-7 基本フォーマットを定義するイメージ



基本フォーマットの定義で分割できる種別を次の表に示します。

表 3-5 基本フォーマットの種別

項番	種別	例・説明
1	メッセージテキスト	「システムエラーが発生しました」のようなメッセージ本文の情報
2	メッセージ ID	「KNAH0001-I」のようなメッセージ ID の情報
3	日時	日付（年 / 月 / 日）と時刻（時 / 分 / 秒）を合わせた情報
4	日付	日付（年 / 月 / 日）だけの情報
5	年	年だけの情報
6	月	月だけの情報
7	日	日だけの情報
8	曜日	曜日だけの情報
9	時刻	時刻（時 / 分 / 秒）だけの情報
10	時	時だけの情報
11	分	分だけの情報
12	秒	秒だけの情報
13	情報フィールド 1 ～ 15	日付，メッセージ ID，メッセージテキスト以外の情報（15 個まで定義できる）。 例 • ホスト名 • プロセス ID • スレッド ID
14	ユーザー定義情報 フィールド 01 ～ 15 ※	ユーザーが設定した任意のフィールド。 例 • ホスト名 • プロセス ID • スレッド ID

注※
09-10 より前のバージョンの JP1/IM - MO Assistant を 09-10 以降のバージョンの JP1/IM - MO へ接続するとユーザー定義情報フィールドは空白で表示されます。

なお，日付の情報は，出力される形式が「YYYY/MM/DD」,「YY/MM/DD」など，さまざまです。この形式を統一するために種別と合わせて形式を定義します。元のメッセージの日付形式に合うものを次の中から選んで定義します。

表 3-6　日付情報の形式

項番	種別	形式	例・説明
1	日時	YYYY/MM/DD hh:mm:ss	2006/02/08 13:41:00
2		YYYY-MM-DD hh:mm:ss	2006-02-08 13:41:00
3		1970/01/01 からの経過秒数※1	－
4	日付	YYYY/MM/DD	2006/02/08
5		YYYY-MM-DD	2006-02-08
6		YY/MM/DD	06/02/08
7		DD/MMM/YYYY	08/Feb/2008
8	時刻	hh:mm:ss	13:41:00
9		hh:mm:ss.sss	13:41:00.000
10		hh:mm:ss.ssssss	13:41:00.000000
11	曜日	DDD （英字 3 文字）	Mon/Tue/Wed/Thu/Fri/Sat/Sun
12		漢字 1 文字	月 / 火 / 水 / 木 / 金 / 土 / 日
13	年	YYYY	2006
14		YY※2	西暦下 2 けた （例）06，6
15	月	MM※2	半角数字で表される月 （例）2，10
16		MMM（英字 3 文字）	Jan/Feb/Mar/Apr/May/Jun/Jul/Aug/Sep/Oct/Nov/Dec
17	日	DD※2	半角数字で表される日 （例）2，10
18	時	hh※2	半角数字で表される時 （例）5，11
19	分	mm※2	半角数字で表される分 （例）5，30
20	秒	ss※2	半角数字で表される秒 （例）5，30
21		ss.sss	（例）00.000
22		ss.ssssss	（例）00.000000

注※ 1
フィールドで指定できる日付形式はこれだけです。

注※ 2
日付情報が 1 けたと 2 けたのどちらの場合もこの項目で指定できます。

基本フォーマットを要素ごとに分割する方法は，メッセージによって異なります。

基本フォーマットを分割する方法は推奨する順に次の三つです。

- テンプレートを適用する（推奨）
  変換したい JP1 イベントの基本フォーマットがテンプレートと同じ場合や，テンプレートを編集して定義できる場合は，テンプレートを使って基本フォーマットを定義します。また，運用を繰り返すうちに一度定義した基本フォーマットをテンプレートとして使えるようになります。自分の変換したいメッセージがテンプレートとして提供されているかどうか確認してください。
  JP1/IM - MO で提供されているテンプレートの詳細については，「9.3.2　基本フォーマットのテンプレート一覧」を参照してください。
- 区切り文字で分割する（推奨）
  メッセージテキストを分割したい位置に，半角スペースやコンマなどの文字列がある場合は，文字列で区切ります。区切り文字として入力できる文字については，「付録 F.2　基本フォーマット定義の区切り情報」を参照してください。
- バイト単位で分割する
  区切り文字がないメッセージテキストを分割する場合は，バイト単位でメッセージテキストを分割します。

バイト単位で分割する場合の注意事項

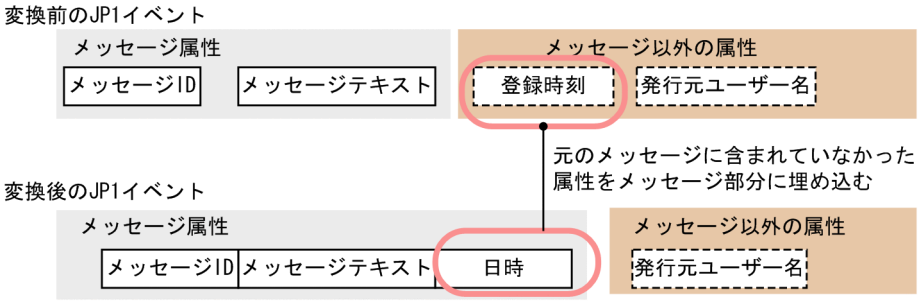
バイト単位で分割する場合は，次のことに注意してください。

- 日付情報が 1 けたと 2 けたの両方で出力される場合は，文字列で区切ってください。
  例えば，2009/1/11 や 2009/10/1 のように，月または日が 1 けたで出力されるメッセージの場合，バイト単位で分割すると，バイト数にずれが生じます。このため，文字列で分割するようにしてください。
- メッセージ中にマルチバイトコードの文字列がある場合，1 バイトコードは 1 バイト，2 バイトコードは 2 バイトでカウントしてください。
- メッセージ中の空白（半角スペースおよび全角スペース），または 0x00 ～ 0x1F，および 0x7F の制御コード（タブ文字，改行コードなど）もバイト数でカウントしてください。

(2) フィールド

基本フォーマットを定義したら，基本メッセージに埋め込みたい属性があるかを検討します。要素を追加するとメッセージのフォーマットが統一できる場合や，ビューアーでの監視に必要な情報をメッセージに埋め込みたい場合はこの項目を検討してください。基本メッセージに埋め込む属性とは，JP1 イベントのメッセージ属性に含まれていない属性の中で，ビューアーでの監視の際にメッセージに出したい情報を含む属性です。これをフィールドと呼びます。

図 3-8　フィールドを定義するイメージ



図の場合は，ビューアーのメッセージに「日時」情報を出すために，JP1 イベントの「登録時刻」属性をフィールドに定義しています。このようにメッセージに必要な情報を埋め込むとビューアーでの監視がしやすくなります。

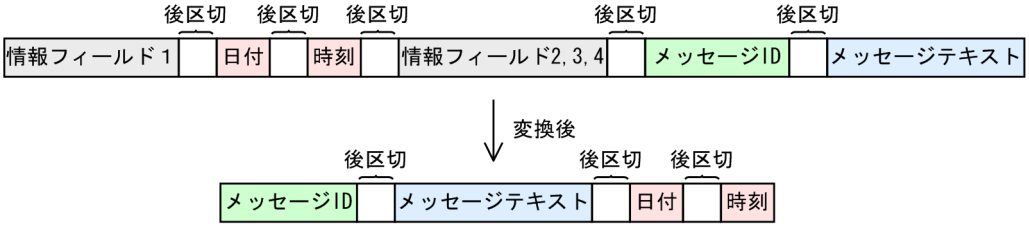
(3) 変換フォーマット

基本フォーマットを定義したら，次に変換フォーマットを定義します。

変換フォーマットは，基本フォーマットで定義した要素を並べ替えたり，可変値の長さを定義したりして見映えをそろえるために定義します。

変換フォーマットは，JP1/IM - View に出力する変換後のメッセージを統一するために定義するので，変換後にどう表示したいのかを考えて定義する必要があります。

図 3-9　変換フォーマットを定義するイメージ



変換フォーマットは 10 個登録でき，必要に応じて切り替えられます。

変換フォーマットの定義で選択できる種別は基本フォーマットと同様です。

変換フォーマットの定義で選択できる種別については，「表 3-5　基本フォーマットの種別」を参照してください。

なお，日付の情報は，基本フォーマット同様さまざまです。この形式も統一するため，種別と合わせて形式も定義します。変換後のメッセージの日付形式に合うものを次の中から選択して定義します。

表 3-7　変換フォーマットの日付情報の形式

項番	種別	形式	例・説明
1	日時	YYYY/MM/DD hh:mm:ss	2006/02/08 13:41:00
2		YYYY-MM-DD hh:mm:ss	2006-02-08 13:41:00
3	日付	YYYY/MM/DD	2006/02/08
4		YYYY-MM-DD	2006-02-08
5		YY/MM/DD	06/02/08
6		DD/MMM/YYYY	08/Feb/2008
7	時刻	hh:mm:ss	13:41:00
8		hh:mm:ss.sss	13:41:00.000
9		hh:mm:ss.ssssss	13:41:00.000000
10	曜日	DDD （英字 3 文字）	Mon/Tue/Wed/Thu/Fri/Sat/Sun
11		漢字 1 文字	月 / 火 / 水 / 木 / 金 / 土 / 日

項番	種別	形式	例・説明
12	年	YYYY	2006
13		YY	西暦下 2 けた （例）06
14		和暦（英字）	元号（半角英大文字 1 文字）+ 半角数字（前ゼロあり） （例） H18，H08
15		和暦（漢字）	元号（漢字）+ 半角数字（前ゼロなし），各元号の 1 年は「元」年で出力する （例） 平成 18，平成元
16	月	MM	半角数字で表される月 （例）02，10
17		MMM（英字 3 文字）	Jan/Feb/Mar/Apr/May/Jun/Jul/Aug/Sep/Oct/Nov/Dec
18	日	DD	半角数字で表される日 （例）02，10
19	時	hh	半角数字で表される時 （例）05，11
20	分	mm	半角数字で表される分 （例）05，30
21	秒	ss	半角数字で表される秒 （例）05，30
22		ss.sss	（例）00.000
23		ss.ssssss	（例）00.000000

3.3.4 メッセージテキストを検討する

ここでは，変換メッセージを定義するときに検討する内容について説明します。

メッセージテキストを変更するときには，変換後のメッセージの運用方法を検討する必要があります。メッセージテキストを変更するときには次のような場合が考えられます。

- 英文のメッセージを和文にしたい。
- メッセージの文言をユーザーの対処に変更したい。

変換する前のメッセージテキストに，変換後のメッセージテキストに残したい可変値があるときは，その部分を可変値として定義して対応できます。

3.3.5 重大度の変換を検討する

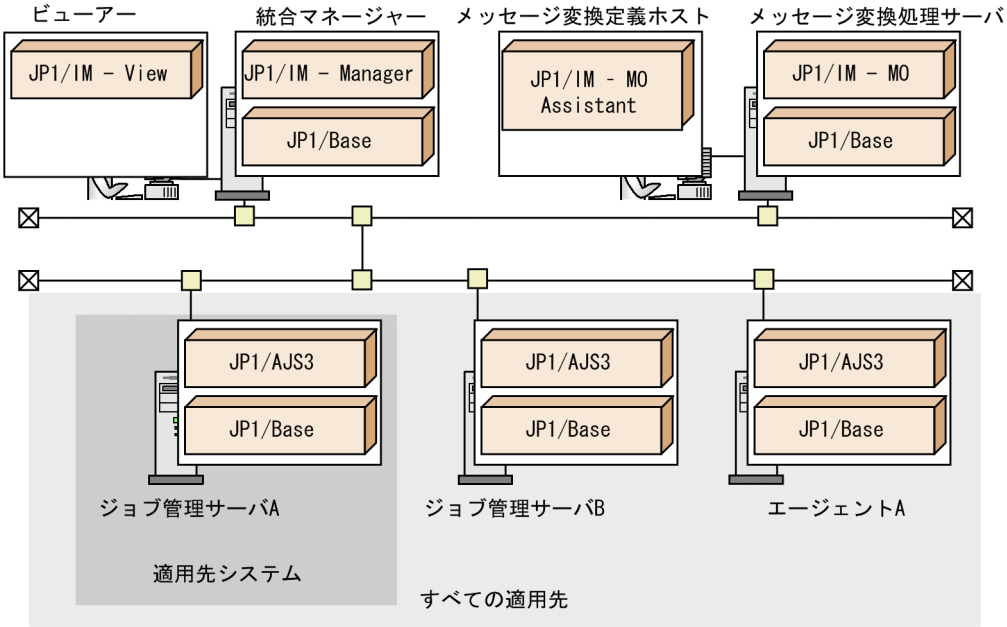
同じエラーとなっているものでもシステムによって重大度が異なるメッセージがあります。メッセージの重大度を変換することで，監視に必要なメッセージをビューアーで見分けられるようにカスタマイズすることができます。

メッセージの重大度を変換すると，JP1/IM - View に表示されるアイコンも変更されます。

3.3.6 適用先システムを検討する

同じメッセージでもシステムによって運用監視での重大度が異なるケースもあります。このような場合はそのメッセージの発行元をグループ化して適用先として定義する必要があります。

図 3-10 適用先を定義するイメージ



適用先システムとはメッセージフォーマットの変換定義やメッセージテキストの変換定義を適用するシステムのことです。

図の場合，学習機能によって 3 台のサーバが発行元として定義されます。イベントソースに JP1/AJS3 を指定して，すべての適用先を指定した場合，ジョブ管理サーバ A とジョブ管理サーバ B の両方のサーバから収集した JP1/AJS3 のメッセージに変換フォーマットが適用されます。エージェント A からは JP1/AJS3 のメッセージが出力されないので適用されません。ジョブ管理サーバ A とジョブ管理サーバ B で変換内容を分けたい場合，発行元を適用先システムとして定義する必要があります。適用先システムを追加した場合は，追加した適用先システムに対応する新たな変換メッセージ群を作成する必要があります。

注意事項

適用先システムを分けて定義していて，次の定義を運用中に変更した場合は，それまでの定義が適用されなくなります。定義をやり直してください。

- エージェントホストを発行元として定義する
- プログラム名を発行元として定義する
- 追加メッセージ識別子を定義する

適用先システムごとに定義できることを次に示します。

- メッセージテキストを変更する
- 変換フォーマットを変更する
- 重大度を変更する
- メッセージを抑止する

(1) 複数の定義を切り替える

JP1/IM - MO では，同じイベントソースに対して幾つもの変換内容を定義できます。運用状況に合わせて変換内容を切り替えることで，ビューアーでの監視が容易になります。

切り替えられる定義内容を次に示します。

- 変換フォーマット
- メッセージテキスト

例えば，定期的なメンテナンスが発生する環境で JP1/IM - MO を運用している場合，メッセージテキストをメンテナンス用の文言に切り替えるとビューアーでの監視を容易にします。さらに，JP1/AJS3 を使用して切り替えを自動化することもできます。

(2) 重大度

適用先システムごとのメッセージの重大度を，適用先システム一律で変換できます。

例えば，定期的なメンテナンスが発生する環境で JP1/IM - MO を運用している場合，メンテナンス中のホストを適用先システムとして定義して，メッセージの重大度を一括して下げることで，ビューアーでの監視対象から外せます。

(3) 発行元

JP1/IM - MO では，発行元として発行元のイベントサーバだけではなく，エージェントホストやプログラム名を指定できます。

(4) 適用先システムの定義方法

適用先システムは，IM 構成管理情報やシステム構成定義ファイルを利用して定義したり，学習した発行元を利用して GUI で定義したりできます。JP1/IM - MO を導入しているシステムの規模や構成に応じて定義方法を検討してください。

3.3.7 メッセージの抑止を検討する

JP1/IM - MO では，JP1/IM - MO で変換した JP1 イベントを発行しない（抑止する）ことで，ビューアーに必要なメッセージだけを表示して，監視しやすくできます。メッセージの抑止は次の単位で検討してください。

- 個別メッセージ単位
- 発行元単位
- JP1/IM - MO で変換していない定義
- JP1/IM - MO で変換に失敗した定義

3.4 ネットワーク構成の検討

JP1/IM - MO を運用するネットワーク構成について検討する項目について説明します。

3.4.1 ホスト名と IP アドレス

JP1/IM - MO が使用するホスト名が IP アドレスに変換できるよう，hosts などに設定してください。ホスト名は 32 バイト以内の文字で指定してください。

JP1/IM - MO の各機能に指定するホスト名は，hostname コマンド実行時に表示されるホスト名，または論理ホスト名を指定してください。

また，次の点に注意してください。

DNS を使用している場合

- ホスト名は，FQDN 形式でないホスト名を指定してください。
  例えば，「hostA.soft.hitachi.co.jp」の場合は，「hostA」を指定してください。
- ホスト名から IP アドレスへの変換，および，IP アドレスからホスト名への変換（逆引き）の両方ができるように設定してください。
  特に DNS サーバ（Active Directory 含む）で名前解決をする場合は，両方の変換ができるよう意識して設定する必要があります。

DHCP を使用している場合

DHCP によって，JP1/IM - MO や JP1/Base が使用する IP アドレスを管理する場合，IP アドレスの割り当て期限を無制限にして IP アドレスが変わらないようにしてください。
JP1/IM - MO および JP1/Base の動作中に，使用する IP アドレスが変更されると正常に動作できません。

3.4.2 サーバのネットワーク構成

JP1/IM - MO を運用するサーバのネットワーク構成について，次の点について確認してください。

- TCP/IP の通信方式
  JP1/IM - MO は，TCP/IP 通信に ANY バインド方式を採用しています。IP バインド方式には対応していません。JP1/IM - MO が使用するポート番号が，ほかのプログラムと重複しないようネットワークを構成してください。JP1/IM - MO が使用するポート番号については，「付録 C.1　ポート番号」を参照してください。
- TCP/IPv4，TCP/IPv6 対応
  JP1/IM - MO は，TCP/IPv4 だけに対応しています。TCP/IPv4 でネットワークを構成してください。

3.4.3 ファイアウォールを経由したネットワークでの運用

JP1/IM - MO は，ファイアウォールを経由するネットワーク構成での運用をサポートしています。

サポートしている種類は，パケットフィルタリング方式のファイアウォールと，スタティック変換方式の NAT です。

ファイアウォールを経由したネットワークで運用する場合，特定のポートの通信を許可する必要があります。許可するポートについては，「4.3.5(4)(b)　ファイアウォール環境の場合」を参照してください。

3.5 JP1/IM - MO のインストールとセットアップの検討

JP1/IM - MO を導入する環境に合わせて検討する項目について説明します。

3.5.1 データベースの容量の検討

JP1/IM - MO ではデータベース容量を選択できます。適切なデータベースの容量は，JP1/IM - MO を導入する環境のホスト数，変換対象のログファイルの種類，変換するメッセージ数，およびディスク所要量によって異なります。

データベースの容量を検討するときに考慮する項目を次に示します。

● **JP1/IM - MO が管理するホスト（発行元）数**
管理しているホスト数が多い場合，変換対象となる発行元の定義数が増加します。

● **JP1/IM - MO で変換対象とするログファイル（イベントソース）の種類**
一つの製品が複数のログファイルを出力する場合や，システム内でログファイルの出力先フォルダが異なるような場合には，イベントソースとしてプログラム名を指定してログファイルを一つのイベントソースにまとめてください。

● **JP1/IM - MO で変換するメッセージ（基本メッセージ）数**
変換対象のメッセージ数が多かったり，メッセージごとに詳細に定義を分けたりしている場合は，定義数が増加します。

● **ディスク所要量**
JP1/IM - MO を導入しているホストのディスク所要量を確認してください。

データベースサイズごとの定義の上限値とディスク所要量を次の表に示します。

表 3-8 定義の上限値とディスク所要量

項目		サイズ S	サイズ M	サイズ L	サイズ LL
ホスト数の目安（台）		1,000	1,000	5,000	10,000
ログファイルの種類の目安		25	200	350	500
定義項目	発行元	1,024	1,024	5,120	10,240
	イベントソース	50	500	750	1,000
	基本メッセージ	50,000	500,000	750,000	1,000,000
	変換メッセージ	500,000	5,000,000	7,500,000	10,000,000
	変換メッセージ群	500	5,000	7,500	10,000
	適用先システム	100	1,024	5,120	10,240
	変換フォーマット	10	1,025	5,121	10,241
ディスク所要量（ギガバイト）		8.3	68	162	353

注意事項

データベースを大きいサイズでセットアップしてしまうと，小さいサイズに戻せません。システムの拡張などで定義件数が大幅に増加する予定がない場合は，より小さいサイズでデータベースをセットアップしてください。

3.5.2 JP1/IM - MO の動作環境の検討

JP1/IM - MO の動作環境は，環境設定ファイルで変更できます。環境設定ファイルの変更方法については，「4.4.1 環境設定ファイルの設定方法」を参照してください。

JP1/IM - MO で検討する動作環境について次に示します。

(1) JP1/IM - Manager のホスト名

JP1/IM - Manager と JP1/IM - MO を別サーバで構築する場合，JP1 イベントの取得先になる JP1/IM - Manager のホスト名を JP1/IM - MO に設定する必要があります。

JP1/IM - Manager と JP1/IM - MO を同じサーバで構築する場合は，この設定は不要です。

(2) JP1/IM - Manager のデータベースのポート番号

JP1/IM - Manager とのデータベース接続で使用するポート番号を設定できます。JP1/IM - Manager でデータベース接続するために使用するポート番号を変更している場合，同じポート番号を指定してください。

(3) ログファイル

JP1/IM - MO では次に示すログが出力されます。

- JP1/IM - MO ログ
- 操作ログ※

それぞれのログファイルのサイズ，ログファイルの世代数，ログファイルの出力レベルが設定できます。ログファイルの容量については，「付録 H.5 ログファイルの容量の見積もり」を参照してください。

注※
操作ログは，デフォルトでは出力されません。操作ログを出力する場合は，環境設定パラメーター LOG_AUDIT_LEVEL を変更してください。

(4) 元号

JP1/IM - MO で使用する元号の開始年月日と元号の表記を設定できます。設定できる元号を次に示します。

- 明治
- 大正
- 昭和
- 平成

(5) JP1/IM - MO Assistant の接続タイムアウト時間

JP1/IM - MO では，接続されている JP1/IM - MO Assistant から一定時間要求がなかった場合，JP1/IM - MO Assistant からのログアウト要求を待たないでログアウトするためのタイムアウト時間を設定できま

す。

JP1/IM - MO 一つに対して接続できる JP1/IM - MO Assistant は一つです。そのため，あるユーザーがログアウトを忘れたり，物理的な LAN 切断が発生したりすると，JP1/IM - MO には接続情報が残ったままになり，ほかのユーザーは同じ JP1/IM - MO に接続できません。タイムアウト時間を設定すると JP1/IM - MO は，JP1/IM - MO に接続している JP1/IM - MO Assistant から設定した時間を経過しても応答がない場合，JP1/IM - MO Assistant との接続を切断し，ほかの JP1/IM - MO Assistant が接続できるようになります。

(6) 運用環境に応じた機能の検討

JP1/IM - MO の運用環境に応じて，次に示す機能の使用を検討してください。

- イベントソースとしてプログラム名を使用する
- メッセージ識別子を追加する
- 発行元としてエージェントホストを使用する
- JP1/IM - MO で変換した JP1 イベントだけを発行する
- JP1/IM - MO で変換に失敗した JP1 イベントを発行しない

3.6　JP1/IM - MO の運用の検討

JP1/IM - MO の障害を未然に防ぐため，また，万一に備えるために計画的にメンテナンスが必要です。JP1/IM - MO を使用するシステムでメンテナンス作業をする際に検討してほしい項目について説明します。

3.6.1　バックアップの検討

万一システムが壊れた場合，同じ環境のシステムを構築して運用再開するために，JP1/IM - MO，JP1/IM - MO Assistant の設定情報，およびデータベースのバックアップを検討してください。バックアップは，次のタイミングで取得してください。

- JP1/IM - MO をセットアップしたときなど，システムを変更したとき。
- JP1/IM - MO Assistant で変換定義の作成および変更の作業が完了したとき。
- 学習機能を利用しているとき。
- データベースを再編成する前。
- データベースを再セットアップする前。
- データの移行をする前。

JP1/IM - MO，および JP1/IM - MO Assistant でバックアップが必要な設定情報，バックアップとリストアの方法については，「11.　メンテナンス」を参照してください。

3.6.2　データベースの確認

ここでは，運用開始後にデータベースを確認する場合について説明します。

(1)　運用中にデータベース容量が不足した場合

JP1/IM - MO の運用中に，定義件数の増加などによってデータベースの容量が不足した場合は，データベース容量を再び見積もり，データベース容量を大きくしてください。データベース容量を見積もる方法については，「3.5.1　データベースの容量の検討」を参照してください。データベース容量を大きくする方法については，「11.5.2　運用開始後にデータベースの容量を大きくする」を参照してください。

(2)　定期的なデータベースの再編成

1 年に 1 回を目安に定期的にデータベースを再編成してください。

データベースの再編成の詳細については，「11.2.3　データベースの再編成」を参照してください。

3.6.3　ディスク容量の確認

JP1/IM - MO，および JP1/IM - MO Assistant の運用を安定して継続するためには，ディスク容量を十分に確保しておく必要があります。ディスク容量の詳細については，JP1/IM - MO，および JP1/IM - MO Assistant のリリースノートを参照してください。

3.6.4　トラブル発生時に採取する障害情報の容量の検討

JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant では，トラブル発生時に資料を採取するためのツールをバッチファイル（`jmolog.bat` および `jmoalog.bat`）として提供しています。資料採取ツールで採取する障害情報の総容量は，JP1/IM - MO の運用環境によって変化します。このため，トラブル発生時に採取する

障害情報の容量を検討しておく必要があります。

資料採取ツールで採取する障害情報の容量の見積もりについては,「付録 H.6　障害情報の容量の見積もり」を参照してください。

4 インストールとセットアップ

この章では，JP1/IM - MO のインストールおよびセットアップする手順について説明します。

4.1　インストールとセットアップの流れ

4.2　前提プログラムのインストールとセットアップ

4.3　JP1/IM - MO のインストールとセットアップ

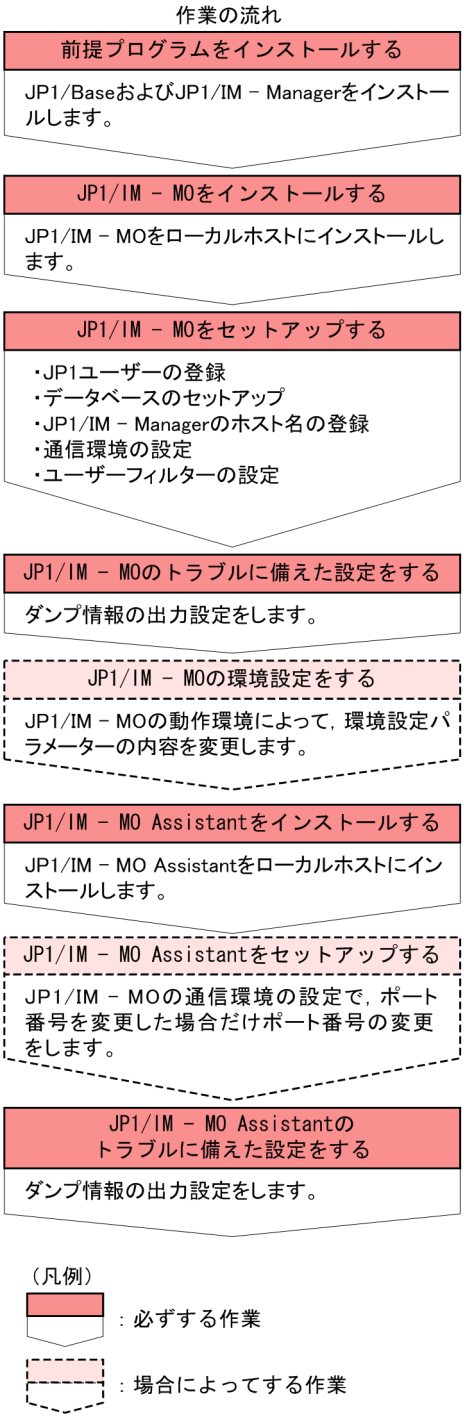
4.4　JP1/IM - MO の環境設定

4.5　JP1/IM - MO Assistant のインストールとセットアップ

4.1　インストールとセットアップの流れ

インストールの開始からセットアップの終了までの作業の流れを次に示します。

図 4-1　インストールからセットアップまでの作業の流れ



4.2　前提プログラムのインストールとセットアップ

JP1/IM - MO をインストールする前に，前提プログラムである JP1/Base をインストールおよびセットアップをしてください。JP1/Base は，JP1/IM - MO をインストールするホストに必要です。JP1/Base のインストールおよびセットアップ方法については，マニュアル「JP1/Base　運用ガイド」を参照してください。

また，同一システム内に JP1/IM - Manager が必要です。JP1/IM - Manager をインストールし，統合管理 DB をセットアップしてください。

JP1/IM - Manager のインストールおよびデータベースのセットアップ方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager　構築ガイド」を参照してください。

4.3 JP1/IM - MO のインストールとセットアップ

JP1/IM - MO をインストール，アンインストールおよびセットアップする手順について説明します。

4.3.1 JP1/IM - MO の新規インストール

JP1/IM - MO の新規インストールについて説明します。インストールする前に，次の点に注意してください。

注意事項

- JP1/Base がインストールされていること。
- ローカルホストにインストールすること。
- インストール途中のエラー発生などによって処理を中断した場合は，再度インストールすること。
- Windows Server 2008 の環境でインストールする場合，OS のユーザーアカウント制御機能（UAC）を有効にしていると，インストール中にユーザーアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示されたときは，［続行］ボタンをクリックしてインストールを続行してください。［キャンセル］ボタンをクリックすると，インストールは中止されます。

JP1/IM - MO を新規インストールする手順を次に示します。

1. **JP1/IM - MO をインストールするホストに Administrators 権限でログインする。**
2. **すべてのプログラムを終了する。**
   インストールする前に，すべてのプログラムを終了してください。
   JP1/Base のサービスを停止してください。
3. **提供媒体を CD-ROM ドライブに入れる。**
   自動的に起動するインストーラーの指示に従ってインストールします。
   次の項目を入力します。
   - ユーザー情報
   - インストール先フォルダ
4. **再起動を要求された場合は，Windows を再起動する。**

4.3.2 JP1/IM - MO の上書きインストール

JP1/IM - MO を上書きインストールする手順を次に示します。

注意事項

JP1/IM - MO のバージョンが 10-00 より前の製品から，JP1/IM - MO のバージョンが 10-00 以降の製品に上書きインストールする場合は，JP1/IM - MO の上書きインストールをする前に，前提製品である JP1/Base をバージョン 10-00 以降にバージョンアップしてください。

1. **JP1/IM - MO を上書きインストールするホストに Administrators 権限でログインする。**
2. **すべてのプログラムを終了する。**
   上書きインストールする前に，すべてのプログラムを終了してください。
   また，JP1/Base のサービスを停止してください。
3. **提供媒体を CD-ROM ドライブに入れる。**
   ［上書きインストールの確認］ダイアログが表示されます。
4. **［OK］ボタンをクリックする。**

JP1/IM - MO が上書きインストールされます。

5. **再起動を要求された場合は，Windows を再起動する。**

注意事項

- 上書きインストール中にエラーが発生した場合に備えて，作業前のデータベースの内容に戻せるように，上書きインストールする前に jmoedbbackup コマンドを使用してデータベースのバックアップを取得してください。
  jmoedbbackup コマンドについては，「13. コマンド jmoedbbackup」を参照してください。
- 上位のバージョンに上書きインストールした場合，そのバージョンより前のバージョンで取得したバックアップフォルダではデータベースをリストアできなくなります。障害が発生した場合に備えて，上書きインストール後に jmoedbbackup コマンドを使用してデータベースのバックアップを取得してください。
  jmoedbbackup コマンドについては，「13. コマンド jmoedbbackup」を参照してください。

4.3.3 JP1/IM - MO のリモートインストール

JP1/IM - MO は，JP1/NETM/DM を使った次のリモートインストールに対応しています。

- 新規インストール
- 上書きインストール

JP1/NETM/DM を使った実際のリモートインストール方法については，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1（Windows(R) 用）」を参照してください。

4.3.4 JP1/IM - MO のアンインストール

JP1/IM - MO のアンインストールについて説明します。アンインストールする前に，次の点に注意してください。

注意事項

- アンインストール途中のエラー発生などによって処理を中断した場合は，上書きインストールをしてから，再度アンインストールしてください。
- アンインストールしたあとに，JP1/IM - MO を再びインストールする場合は，必ず Windows を再起動してください。
- アンインストールしたあとに，ログフォルダおよびログファイルを残した状態で，再び JP1/IM - MO をインストールした場合，ログファイルの出力先が同じときは，残したログファイルの続きからログを出力します。
- Windows Server 2008 の環境でアンインストールする場合，OS のユーザーアカウント制御機能（UAC）を有効にしていると，アンインストール中にユーザーアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示されたときは，［続行］ボタンをクリックしてアンインストールを続行してください。［キャンセル］ボタンをクリックすると，アンインストールは中止されます。

JP1/IM - MO をアンインストールする手順を次に示します。

1. **JP1/IM - MO をアンインストールするホストに Administrators 権限でログインする。**

2. **すべてのプログラムを終了する。**
   アンインストールする前に，すべてのプログラムを終了してください。
   JP1/Base および JP1/IM - MO のサービスを停止してください。

3. **Windows の［コントロールパネル］－［プログラムの追加と削除］から JP1/IM - MO を選択し，［削除］ボタンをクリックする。**※
   ［ファイル削除の確認］ダイアログが表示されます。

   注※
   Windows Server 2008 の場合は，Windows の［コントロールパネル］－［プログラムと機能］から JP1/IM - MO を選択し，［アンインストール］をクリックします。

4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   JP1/IM - MO がアンインストールされます。

5. **再起動を要求された場合は，Windows を再起動する。**

6. **ユーザーファイルを削除する。**
   アンインストールでは，インストール後に作成された定義ファイル，ログファイルおよびユーザーが修正する可能性のあるファイルは削除されません。これらのファイルを削除する場合は，JP1/IM - MO をインストールしていたフォルダを削除してください。

4.3.5 JP1/IM - MO のセットアップ

JP1/IM - MO の運用開始前に必要なセットアップについて説明します。

注意事項

JP1/IM - MO のセットアップには，Administrators 権限が必要です。

(1) JP1 ユーザーの登録

認証サーバのホストで JP1/IM - MO を使う JP1 ユーザーを登録します。

登録する JP1 ユーザーには，JP1/IM - MO の操作権限として，JP1 資源グループに JP1_Console，権限レベルに JP1_Console_Admin を設定します。

JP1 ユーザーの登録方法の詳細については，マニュアル「JP1/Base　運用ガイド」を参照してください。また，権限レベルの詳細については，「付録 D　操作権限一覧」を参照してください。

(2) データベースのセットアップ

データベースを JP1/IM - MO で使えるようにします。データベースのセットアップが必要な場合を次に示します。

- JP1/IM - MO を新規インストールしたとき
- データベースの格納先を変更するとき
- セットアップに失敗したとき
- データベースと JP1/IM - MO が通信に使用するポート番号を変更するとき
- データベースの容量を変更するとき

データベースをセットアップする前に次の点を確認してください。

- JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動していること。
- 次に示すサービスが停止していること。
  - JP1/IM - Message Optimizer サービス
  - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス
- ほかのデータベースコマンドが実行されていないこと。

データベースをセットアップする手順を次に示します。

1. `jmoedbsetup` **コマンドを実行する。**

`jmoedbsetup` コマンドの詳細については，「13. コマンド jmoedbsetup」を参照してください。

(3) JP1/IM - Manager のホスト名の登録

JP1/IM - MO が JP1/IM - Manager と別ホストの場合，JP1 イベントの取得先になる JP1/IM - Manager のホスト名を JP1/IM - MO の環境設定ファイルに設定します。環境設定ファイルに設定する環境設定パラメーターを次の表に示します。

表 4-1 環境設定ファイルに設定する環境設定パラメーター

環境設定パラメーター名	説明
IM_HOST	JP1 イベントの取得先になる JP1/IM - Manager のホスト名を 255 バイト以内で指定します。

環境設定ファイルの詳細および設定方法については，「4.4.1 環境設定ファイルの設定方法」を参照してください。

(4) 通信環境の設定

JP1/IM - MO では，データベースおよび JP1/IM - MO Assistant との通信で使用するポート番号がすでに使用されている場合，ポート番号の設定が必要になります。また，ファイアウォール環境の場合，JP1/IM - MO が使用するポート番号の許可が必要になります。

(a) 登録されたポート番号がすでに使用されている場合

JP1/IM - MO が通信で使用するポート番号は，インストール時に services ファイルに登録されます。登録されるポート番号については，「付録 C.1 ポート番号」を参照してください。登録されたポート番号がほかのプログラムですでに使用されていた場合は，ポート番号の変更が必要です。ポート番号を変更する手順については，「付録 E 通信設定の変更方法」を参照してください。

(b) ファイアウォール環境の場合

ファイアウォールを含むネットワーク環境で，次のシステム構成の場合，ファイアウォールで許可するポート番号を設定する必要があります。

- JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant が別ホストの場合
- JP1/IM - MO と JP1/IM - Manager が別ホストの場合

ファイアウォールで許可するポートとファイアウォールの通過方向については，「付録 C.2 ファイアウォールの通過方向」を参照してください。

(5) 運用環境に応じた機能を使用する場合のセットアップ

次に示す機能を使用する場合は，特別なセットアップが必要です。

● イベントソースにプログラム名を指定する

● 追加メッセージ識別子を定義する

それぞれのセットアップ手順の詳細については，「4.4.2 イベントソースにプログラム名を指定する場合のセットアップ手順」または「4.4.3 追加メッセージ識別子を使用する場合のセットアップ手順」を参照してください。

4.3.6 JP1/IM - View の設定

JP1/IM - View でユーザーフィルターを設定します。ユーザーフィルターとは，JP1/IM - View でユーザーが監視できる JP1 イベントを制限する機能です。JP1/IM - MO がメッセージ変換処理をすると，システムの監視をしている JP1/IM - View には，変換前のメッセージと変換後のメッセージが表示されます。JP1/IM - MO 構築直後など構築内容を精査するには有効ですが，JP1/IM - MO を運用中は，混乱の元になります。そのため，JP1/IM - MO が変換処理したメッセージだけを表示するユーザーフィルターの設定をしてください。ユーザーフィルターを設定する手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager　構築ガイド」を参照してください。

ユーザーフィルターで設定する内容を次の表に示します。

表 4-2　ユーザーフィルター（通過条件群）で設定する内容

項目名	内容
フィルター名	任意の名称
対象ユーザー名	制限の対象となる JP1 ユーザー名
イベント ID	00006400 リストボックスで「と一致する」を選択

注意事項

JP1/IM - MO に障害が発生すると JP1/IM - View に JP1 イベントが何も表示されなくなります。これを防ぐために，JP1/IM - MO のサービスを監視するためのイベントを通過条件群に追加するか，サーバの多重化など変換処理が停止しないような運用を検討してください。

なお，JP1/IM - MO で定義していないイベントを抑止している場合，ユーザーフィルターを表 4-2 のように設定していると，イベントソースをリリースしていない JP1 イベントは，JP1/IM - View には表示されません。

この場合，イベントソースをリリースしていない JP1 イベントをオリジナルの JP1 イベントのまま JP1/IM - View に表示することもできます。表 4-2 の設定を削除してから，次のようにユーザーフィルターで設定してください。

表 4-3　オリジナルの JP1 イベントを JP1/IM - View に表示するためにユーザーフィルター（除外条件群）で設定する内容

項目名	内容
フィルター名	任意の名称
対象ユーザー名	制限の対象となる JP1 ユーザー名

項目名	内容
プロダクト名	次の項目を入力してリストボックスで「と一致する」を選択する。 • JP1 イベント種別がイベントログトラップまたは直接発行の場合 基本フォーマット定義のプロダクト名※ • JP1 イベント種別が SNMP トラップの場合 /HITACHI/JP1/IM/SNMP_TRAP • JP1 イベント種別がログファイルトラップ（プログラム名）の場合 ・Windows の場合 /HITACHI/JP1/NT_LOGTRAP/ 基本フォーマット定義のプログラム名 ・UNIX の場合 /HITACHI/JP1/UX_LOGTRAP/ 基本フォーマット定義のプログラム名 • JP1 イベント種別がログファイルトラップ（オブジェクト名）の場合次の項目を入力してリストボックスで「と一致しない」を選択する。 /HITACHI/JP1/IM/MO
オブジェクト名	次の項目を入力してリストボックスで「と一致する」を選択する。 • JP1 イベント種別がログファイルトラップ（オブジェクト名）の場合 基本フォーマット定義のオブジェクト名

注※

「/HITACHI/JP1/IM/MO」を設定する場合は，JP1/IM - MO が変換処理したメッセージを除外しないようイベント ID に「6400」,「と一致しない」という条件を追加してください。

4.4 JP1/IM - MO の環境設定

JP1/IM - MO の環境設定について説明します。

4.4.1 環境設定ファイルの設定方法

環境設定ファイルは，JP1/IM - MO を構成するプログラムの環境設定のデフォルト値を記述したファイルです。環境設定ファイル jp1immo.conf に定義します。

(1) 設定手順

環境設定ファイルの定義内容を変更する手順を次に示します。

1. **次に示すサービスを停止する。**
   - JP1/IM - Message Optimizer サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス

   サービスの停止方法については，「6.2.3 JP1/IM - MO の終了」を参照してください。

2. **環境設定ファイル jp1immo.conf をテキストエディターで開く。**
   環境設定ファイルは次のフォルダに格納されています。
   JP1/IM - MO**インストール先フォルダ**¥conf

3. **定義内容を変更する環境設定パラメーターの値を変更する。**

4. **パラメーター IM_HOST の値を変更したときは，イベント取得開始位置管理ファイルを削除する。**
   イベント取得開始位置管理ファイルは，JP1 イベントを JP1/IM - MO でどこまで変換したかを管理するファイルです。接続先の JP1/IM - Manager を変更する場合は，イベント取得開始位置管理ファイルの情報をいったん削除する必要があります。
   イベント取得開始位置管理ファイルの格納先を次に示します。
   JP1/IM - MO**インストール先フォルダ**¥sys¥jmoevgetpos.dat

   クラスタ運用の場合は，格納先が異なります。クラスタ運用する場合の格納先については，「5.4 クラスタシステムでの JP1/IM - MO のセットアップ」を参照してください。

5. jmosetcnf **コマンドを実行する。**
   jmosetcnf コマンドの詳細については，「13. コマンド jmosetcnf」を参照してください。

6. **手順 1. で停止したサービスを起動する。**

(2) 環境設定ファイルの定義項目

環境設定ファイルに定義できる環境設定パラメーターを次の表に示します。

表 4-4 環境設定ファイルに定義できる環境設定パラメーター

項番	環境設定パラメーター名	定義内容	型	設定の要否
1	ASSISTANT_TIMEOUT	JP1/IM - MO Assistant からの要求待ちタイムアウト時間	dword	—
2	LOG_JMO_SIZE	JP1/IM - MO ログファイルのサイズ	dword	—
3	LOG_JMO_GEN	JP1/IM - MO ログファイルの世代数	dword	—

項番	環境設定パラメーター名	定義内容	型	設定の要否
4	LOG_JMO_LEVEL	JP1/IM - MO ログファイルの出力レベル	dword	—
5	LOG_AUDIT_SIZE	操作ログファイルのサイズ	dword	—
6	LOG_AUDIT_GEN	操作ログファイルの世代数	dword	—
7	LOG_AUDIT_LEVEL	操作ログファイルの出力設定	dword	—
8	IM_HOST	JP1 イベント取得先の JP1/IM - Manager が稼働するホスト名	string	○
9	IMDB_PORT	JP1/IM - Manager のデータベースに接続するためのポート番号	dword	—
10	EVGETPOS_FILE_DIR	イベント取得開始位置管理ファイルの格納先フォルダ	string	○※
11	EVTSRC_MAPPING	イベント発行元情報のマッピング機能設定	string	—
12	EVTSVR	接続先イベントサーバ名	string	○※
13	NODEFINE_DETER	未定義イベントの生成を抑止	string	—
14	TRANSERR_MSG_DETER	イベント変換エラーとなったイベントの生成を抑止	string	—
15	ERA_DATA_M	元号データ（明治）	string	—
16	ERA_DATA_T	元号データ（大正）	string	—
17	ERA_DATA_S	元号データ（昭和）	string	—
18	ERA_DATA_H	元号データ（平成）	string	—
19	LOGFILE_TRAP_STUDY_TYPE	ログファイルトラップの学習時に優先するイベントソース識別子	string	—
20	SEARCH_SENSITIVE	英字の大文字小文字の区別	string	—

（凡例）

○：設定は必須です。

—：設定は任意です。

注※

クラスタ運用の場合に必須の設定です。クラスタ運用しない場合は任意です。

次に，環境設定パラメーターの定義内容について説明します。

ASSISTANT_TIMEOUT

JP1/IM - MO Assistant からの要求待ちタイムアウト時間を 30 ～ 1,440（分）の範囲で指定します。16 進数で指定してください。デフォルトでは，「60」分が設定されます。

LOG_JMO_SIZE

JP1/IM - MO ログファイルのサイズを 1 ～ 10 メガバイトの範囲で指定します。16 進数で指定してください。デフォルトでは,「1」メガバイトが設定されます。

LOG_JMO_GEN

JP1/IM - MO ログファイルの世代数を 1 ～ 9 の範囲で指定します。16 進数で指定してください。デフォルトでは,「2」世代が設定されます。

LOG_JMO_LEVEL

JP1/IM - MO ログファイルの出力レベルを指定します。16 進数で指定してください。
出力レベルは，次のどれかを指定してください。デフォルトでは,「2」が設定されます。

0

JP1/IM - MO ログファイルへメッセージを出力しない。

1

JP1/IM - MO ログファイルへエラーレベルのメッセージだけ出力する。

2

JP1/IM - MO ログファイルへ警告またはエラーレベルのメッセージを出力する。

3

JP1/IM - MO ログファイルへすべてのレベルのメッセージを出力する。

LOG_AUDIT_SIZE

操作ログファイルのサイズを 1 ～ 10 メガバイトの範囲で指定します。16 進数で指定してください。
デフォルトでは,「1」メガバイトが設定されます。

LOG_AUDIT_GEN

操作ログファイルの世代数を 1 ～ 9 の範囲で指定します。16 進数で指定してください。デフォルトでは,「2」世代が設定されます。

LOG_AUDIT_LEVEL

操作ログファイルの出力レベルを指定します。16 進数で指定してください。
出力レベルは，次のどちらかを指定してください。デフォルトでは,「0」が設定されます。

0

操作ログの出力を無効にする場合

1

操作ログの出力を有効にする場合

IM_HOST

JP1 イベント取得先となる JP1/IM - Manager が稼働するホスト名を指定します。32 バイト以内で指定してください。
デフォルトでは，自ホストが設定されます。
JP1/IM - Manager が稼働しているホストが複数のネットワークに接続している環境で，使用するネットワークを限定したい場合は，使用するネットワークに対応する IP アドレスを指定してください。
クラスタ運用する場合の指定方法については,「5.4　クラスタシステムでの JP1/IM - MO のセットアップ」を参照してください。

IMDB_PORT

JP1/IM - Manager のデータベース接続で使用するポート番号を 5001 から 65535 までの範囲で指定します。16 進数で指定してください。

JP1/IM - Manager で JP1/IM - Manager のデータベースに接続するために使用するポート番号として設定されている値と同じ値を指定してください。
デフォルトは，「20700」が設定されます。

EVGETPOS_FILE_DIR

イベント取得開始位置管理ファイルの格納先フォルダのパスを指定します。240 バイト以内で指定してください。
デフォルトでは，「JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥sys」が設定されます。
クラスタ運用する場合の指定方法については，「5.4　クラスタシステムでの JP1/IM - MO のセットアップ」を参照してください。

EVTSRC_MAPPING

エージェントホストを発行元としてマッピングするかどうかを指定します。次のどちらかを指定してください。デフォルトでは，「N」が設定されます。

Y
エージェントホストを発行元としてマッピングする場合

N
マネージャーホストを発行元としてマッピングする場合

EVTSVR

JP1 イベント発行および JP1 認証をするために接続するイベントサーバ名を指定します。デフォルトは空白です。
クラスタ運用しない場合は，デフォルトのまま使用してください。
クラスタ運用する場合の指定方法については，「5.4　クラスタシステムでの JP1/IM - MO のセットアップ」を参照してください。

NODEFINE_DETER

JP1/IM - MO で定義していないイベントを抑止する場合に使用します。デフォルトでは「N」が設定されます。

Y
フォーマット変換，重大度およびメッセージテキストの変換に必要な定義がリリースされていないイベントを発行しない場合

N
変換定義のリリース状態に関係なくイベントを発行する場合

TRANSERR_MSG_DETER

イベント変換に失敗したイベントを発行しない場合に使用します。デフォルトでは，「N」が設定されます。

Y
イベント変換に失敗した未変換のイベントを発行しない場合

N
イベント変換に失敗した未変換のイベントも発行する場合

ERA_DATA_M

明治の元号データを指定します。「元号の開始年月日，元号英字 1 文字表記，漢字表記」の形式で指定してください。0 または 12 ～ 255 バイトの範囲で指定してください。0 バイトを指定した場合は，デフォルト値が設定されます。デフォルトでは，「18681023，M，明治」が設定されます。
元号データの指定形式を次の表に示します。

表 4-5　元号データの指定形式

指定項目	指定内容
元号の開始年月日	元号の開始年月日を西暦，8 バイトで指定します。「YYYYMMDD」の形式で指定します。
元号英字 1 文字表記	元号を英字表記する場合の文字列を 1 バイトで指定します。
漢字表記	元号を漢字表記する場合の文字列を指定します。

ERA_DATA_T

大正の元号データを指定します。「元号の開始年月日，元号英字 1 文字表記，漢字表記」の形式で指定してください。指定形式については，表 4-5 を参照してください。0 または 12 ～ 255 バイトの範囲で指定してください。0 バイトを指定した場合は，デフォルト値が設定されます。デフォルトでは，「19120730,T, 大正」が設定されます。

ERA_DATA_S

昭和の元号データを指定します。「元号の開始年月日，元号英字 1 文字表記，漢字表記」の形式で指定してください。指定形式については，表 4-5 を参照してください。0 または 12 ～ 255 バイトの範囲で指定してください。0 バイトを指定した場合は，デフォルト値が設定されます。デフォルトでは，「19261225,S, 昭和」が設定されます。

ERA_DATA_H

平成の元号データを指定します。「元号の開始年月日，元号英字 1 文字表記，漢字表記」の形式で指定してください。指定形式については，表 4-5 を参照してください。0 または 12 ～ 255 バイトの範囲で指定してください。0 バイトを指定した場合は，デフォルト値が設定されます。デフォルトでは，「19890108,H, 平成」が設定されます。

LOGFILE_TRAP_STUDY_TYPE

ログファイルトラップの JP1 イベントを学習するときに，イベントソースとしてプログラム名とオブジェクト名のどちらを学習するかを指定します。なお，環境設定パラメーター「LOGFILE_TRAP_STUDY_TYPE」でイベントソース学習時の識別子を「プログラム名」に指定している場合でも，JP1/Base のログファイルトラップ起動時にログデータ出力元プログラム名を指定していないときは，オブジェクト名を識別子として学習します。
次のどちらかを指定してください。デフォルトでは，「OBJ」が設定され，オブジェクト名がイベントソースとして学習されます。

PRO

識別子としてプログラム名を学習する場合に指定します。このオプションを使用するためには，JP1/Base のログファイルトラップ起動時に -p オプションで「ログデータ出力元プログラム名」を指定する必要があります。「4.4.2　イベントソースにプログラム名を指定する場合のセットアップ手順」を参照してください。
-p オプションを指定していない JP1 イベントについては，オブジェクト名をイベントソースとして学習します。

OBJ

識別子としてオブジェクト名を学習する場合に指定します。JP1/Base のログファイルトラップ起動時の -p オプションの指定内容に関係なく，オブジェクト名をイベントソースとして学習します。

SEARCH_SENSITIVE

JP1/IM - MO Assistant でフィルタリングまたは検索するときに，英字の大文字と小文字を区別するかを指定します。デフォルトでは「Y」が設定されます。

Y
　大文字と小文字を区別する場合

N
　大文字と小文字を区別しない場合

(3) 環境設定ファイルの記述形式

環境設定ファイルに定義する環境設定パラメーターの記述形式を次に示します。

- 環境設定パラメーターの型が dword の場合
  "**環境設定パラメーター名**"=dword:nnnnnnnn
- 環境設定パラメーターの型が string の場合
  "**環境設定パラメーター名**"="**値**"

注意事項

- スペースやタブを入力しないでください。
- dword 型の環境設定パラメーターは，16 進数で入力してください。
- 「#」で始まる行は，コメントと見なされます。
- 文字コードは「Shift_JIS」です。

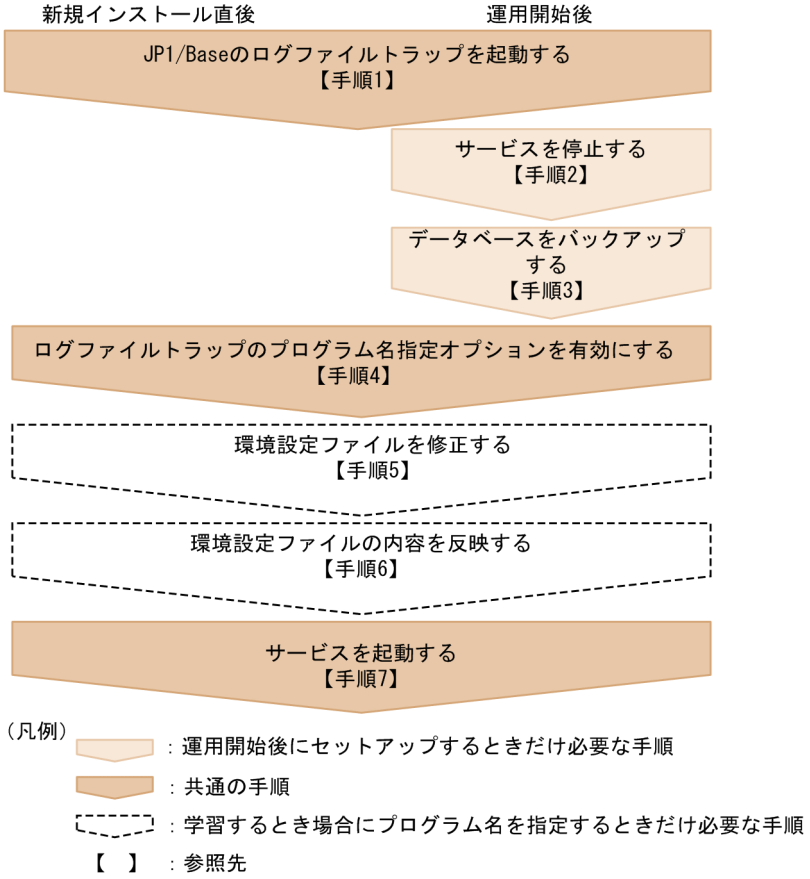
記述例を次に示します。

```
"IM_HOST"=""
"EVTSVR"=""
"IMDB_PORT"=dword:000050DC
"EVGETPOS_FILE_DIR"=""
"EVTSRC_MAPPING"="N"
"NODEFINE_DETER"="N"
"TRANSERR_MSG_DETER"="N"
"LOGFILE_TRAP_STUDY_TYPE"="OBJ"
"SEARCH_SENSITIVE"="Y"
"LOG_JMO_SIZE"=dword:00000001
"LOG_JMO_GEN"=dword:00000002
"LOG_JMO_LEVEL"=dword:00000002
"LOG_AUDIT_SIZE"=dword:00000001
"LOG_AUDIT_GEN"=dword:00000002
"LOG_AUDIT_LEVEL"=dword:00000000
"ERA_DATA_M"="18681023,M,明治"
"ERA_DATA_T"="19120730,T,大正"
"ERA_DATA_S"="19261225,S,昭和"
"ERA_DATA_H"="19890108,H,平成"
```

4.4.2 イベントソースにプログラム名を指定する場合のセットアップ手順

セットアップの流れを次の図に示します。必要に応じて手順を参照してください。

図 4-2　セットアップの流れ



1. **JP1/Base のログファイルトラップを起動する。**
   エージェントで次のコマンドを実行して JP1/Base のログファイルトラップを起動します。
   `jevlogstart` △ `-f` △**ログファイルトラップ動作定義ファイル名**△ `-p` △**ログデータ出力元プログラム名**△**ログファイル名**
   ログファイルトラップが起動されます。`jevlogstart` コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Base　運用ガイド」を参照してください。

2. **サービスを停止する。**
   JP1/IM - MO がインストールされているホストで次のサービスを停止します。この手順は，運用開始後にセットアップするときだけ必要です。
   - JP1/IM - Message Optimizer サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス

   サービスを停止する手順については，「6.2.3　JP1/IM - MO の終了」を参照してください。

3. **データベースをバックアップする。**
   JP1/IM - MO がインストールされているホストでデータベースのバックアップを取得するために，次のコマンドを実行します。この手順は，運用開始後にセットアップするときだけ必要です。
   `jmoedbbackup` △ `-b` △**バックアップ出力先フォルダパス**
   `jmoedbbackup` コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbbackup」を参照してください。

4. **ログファイルトラップのプログラム名指定オプションを有効にする。**
   JP1/IM - MO がインストールされているホストでログファイルトラップのプログラム名指定オプションを使用できるようにするために次のコマンドを実行します。

jmoedbsetup △ -pro
クラスタシステムの場合は，実行系でだけ実行してください。
設定を元に戻したい場合には，手順 3 でバックアップしたファイルをリストアして元の状態に回復できます。リストアする手順については，「11.2.2　データベースのリストア」を参照してください。

5. **環境設定ファイルを修正する。**
環境設定ファイルに次の環境設定パラメーターを追加します。この手順はイベントソースを「プログラム名」で学習したい場合だけ必要です。
"LOGFILE_TRAP_STUDY_TYPE"="PRO"
クラスタシステムの場合は，実行系と待機系の両方で追加してください。

6. **環境設定ファイルの内容を反映する。**
環境設定ファイルの内容を反映するために次のコマンドを実行します。この手順はイベントソースを「プログラム名」で学習したい場合だけ必要です。
jmosetcnf
クラスタシステムの場合は，実行系と待機系の両方で実行してください。
jmosetcnf コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmosetcnf」を参照してください。

7. **サービスを起動する。**
手順 2 で停止したサービスを起動します。
イベントソース識別子を「プログラム名」に変更するには，JP1/IM - MO Assistant を起動して画面上で操作する必要があります。画面上での操作については，「9.11.1　イベントソースにプログラム名を指定する」を参照してください。

4.4.3　追加メッセージ識別子を使用する場合のセットアップ手順

追加メッセージ識別子を定義するためのセットアップ手順を次に示します。

1. **データベースをバックアップする。**
JP1/IM - MO がインストールされているホストでデータベースのバックアップを取得するために，次のコマンドを実行します。この手順は，運用開始後にセットアップするときだけ必要です。
jmoedbbackup △ -b △**バックアップ出力先フォルダパス**
jmoedbbackup コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbbackup」を参照してください。
手順 2 の設定を元に戻したい場合に，バックアップしたファイルをリストアして元の状態に回復できます。

2. **追加メッセージ識別子を有効にする。**
JP1/IM - MO がインストールされているホストで次のコマンドを実行します。
jmoedbsetup △ -msg
クラスタシステムの場合は，実行系でだけ実施してください。
設定を元に戻したい場合に，手順 1 でバックアップしたファイルをリストアして元の状態に回復できます。リストアする手順については，「11.2.2　データベースのリストア」を参照してください。

4.5 JP1/IM - MO Assistant のインストールとセットアップ

JP1/IM - MO Assistant をインストールおよびセットアップする手順について説明します。

4.5.1 JP1/IM - MO Assistant のインストール

JP1/IM - MO Assistant のインストールについて説明します。インストールする前に，次の点に注意してください。

注意事項

- ローカルホストにインストールしてください。
- インストール途中のエラー発生などによって処理を中断した場合は，再度インストールしてください。
- Windows 7，Windows Server 2008，および Windows Vista の環境でインストールする場合，OS のユーザーアカウント制御機能（UAC）を有効にしていると，インストール中にユーザーアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示されたときは，［続行］ボタンをクリックしてインストールを続行してください。［キャンセル］ボタンをクリックすると，インストールは中止されます。

JP1/IM - MO Assistant をインストールする手順を次に示します。

1. **JP1/IM - MO Assistant をインストールするホストに Administrators 権限でログインする。**
2. **すべてのプログラムを終了する。**
   インストールする前に，すべてのプログラムを終了してください。
3. **提供媒体を CD-ROM ドライブに入れる。**
   自動的に起動するインストーラーの指示に従ってインストールします。
   次の項目を入力します。
   - ユーザー情報
   - インストール先フォルダ
   - プログラムフォルダ
4. **再起動を要求された場合は，Windows を再起動する。**

4.5.2 JP1/IM - MO Assistant の上書きインストール

JP1/IM - MO Assistant を上書きインストールする手順を次に示します。

1. **JP1/IM - MO Assistant を上書きインストールするホストに Administrators 権限でログインする。**
2. **すべてのプログラムを終了する。**
   上書きインストールする前に，すべてのプログラムを終了してください。
3. **提供媒体を CD-ROM ドライブに入れる。**
   ［上書きインストールの確認］ダイアログが表示されます。
4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   JP1/IM - MO Assistant が上書きインストールされます。

4.5.3 JP1/IM - MO Assistant のリモートインストール

JP1/IM - MO Assistant は，JP1/NETM/DM を使った次のリモートインストールに対応しています。

- 新規インストール
- 上書きインストール

JP1/NETM/DM を使った実際のリモートインストール方法については，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1（Windows(R) 用）」を参照してください。

4.5.4 JP1/IM - MO Assistant のアンインストール

JP1/IM - MO Assistant のアンインストールについて説明します。アンインストールする前に，次の点に注意してください。

注意事項

Windows 7，Windows Server 2008，および Windows Vista の環境でアンインストールする場合，OS のユーザーアカウント制御機能（UAC）を有効にしていると，アンインストール中にユーザーアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示されたときは，［続行］ボタンをクリックしてアンインストールを続行してください。［キャンセル］ボタンをクリックすると，アンインストールは中止されます。

JP1/IM - MO Assistant をアンインストールする手順を次に示します。

1. **JP1/IM - MO Assistant をアンインストールするホストに Administrators 権限でログインする。**
2. **すべてのプログラムを終了する。**
   アンインストールする前に，すべてのプログラムを終了してください。
3. **Windows の［コントロールパネル］－［プログラムの追加と削除］から JP1/IM - MO Assistant を選択し，［削除］ボタンをクリックする。**※
   ［ファイル削除の確認］ダイアログが表示されます。

   注※

   Windows 7，Windows Server 2008，および Windows Vista の場合は，Windows の［コントロールパネル］－［プログラムと機能］から JP1/IM - MO Assistant を選択し，［アンインストール］をクリックします。
4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   JP1/IM - MO Assistant がアンインストールされます。
5. **再起動を要求された場合は，Windows を再起動する。**
6. **ユーザーファイルを削除する。**
   アンインストールでは，インストール後に作成された定義ファイル，ログファイルおよびユーザーが修正する可能性のあるファイルは削除されません。これらのファイルを削除する場合は，JP1/IM - MO Assistant をインストールしていたフォルダを削除してください。

4.5.5 JP1/IM - MO Assistant のセットアップ

JP1/IM - MO で，JP1/IM - MO が JP1/IM - MO Assistant と通信するために使用するポート番号を変更している場合は，JP1/IM - MO Assistant のポート番号の変更が必要です。JP1/IM - MO Assistant のポート番号のデフォルトは「22370」です。ポート番号を変更する手順については，「付録 E　通信設定の変更方法」を参照してください。

5 クラスタシステム運用時のインストールとセットアップ

この章では，JP1/IM - MO のクラスタシステム運用，クラスタシステムでのインストールおよびセットアップについて説明します。

5.1 クラスタシステムでの運用

5.2 クラスタシステムでのインストールとセットアップの流れ

5.3 クラスタシステムでの JP1/IM - MO のインストール

5.4 クラスタシステムでの JP1/IM - MO のセットアップ

5.5 クラスタシステムでの JP1/IM - MO の上書きインストール

5.6 クラスタシステムでの JP1/IM - MO のアンインストール

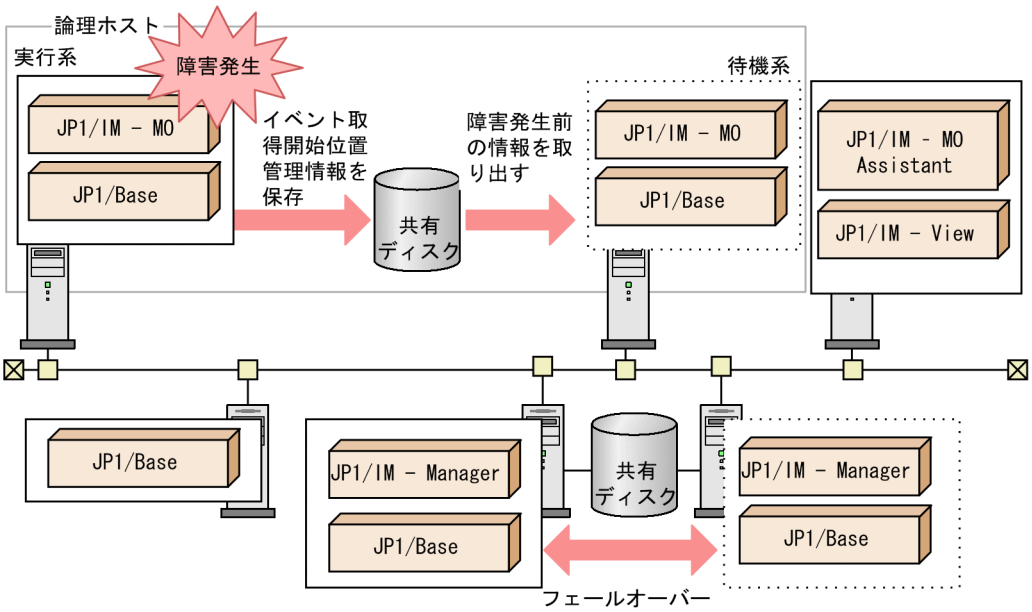
5.7 フェールオーバー発生時の対処

5.1　クラスタシステムでの運用

JP1/IM - MO は，クラスタシステムでの運用に対応しています。クラスタシステムとは，複数のサーバシステムを連携して一つのシステムとして運用するシステムです。一つのサーバで障害が発生しても，別のサーバで業務を継続できるようにすることを目的としています。JP1/IM - MO をクラスタシステムで運用することにより，サーバ障害などが発生しても実行系から待機系に処理を引き継ぎ，メッセージ変換処理を継続できます。

クラスタシステムで JP1/IM - MO を運用する場合の構成例を次の図に示します。

図 5-1　クラスタシステムでの JP1/IM - MO の構成例



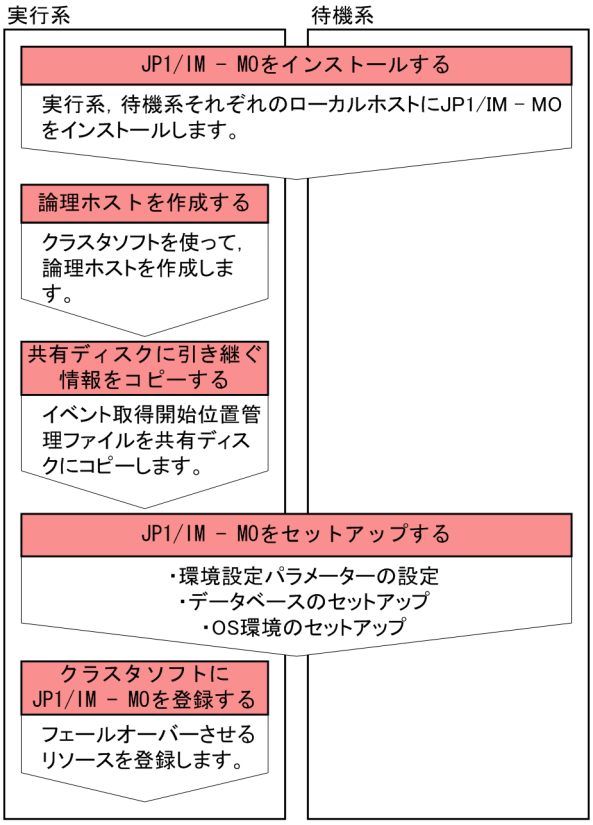
なお，このマニュアルでは，フェールオーバーの単位を意味する用語として「論理ホスト」を使います。クラスタソフトやアプリケーションによっては「グループ」や「パッケージ」などの用語が使われています。クラスタソフトのマニュアルなどを参照し，対応する用語を確認してください。

5.2　クラスタシステムでのインストールとセットアップの流れ

JP1/IM - MO をクラスタシステムで運用する場合，JP1/IM - MO は論理ホストで稼働します。JP1/IM - MO を論理ホストでインストールおよびセットアップする流れについて説明します。

JP1/IM - MO を新規にインストールして，クラスタシステムで運用する場合のインストールとセットアップの流れを次の図に示します。

図 5-2　インストールとセットアップの流れ



5.3 クラスタシステムでの JP1/IM - MO のインストール

5.3.1 前提条件

JP1/IM - MO は，論理ホスト環境で動作し，フェールオーバーに対応します。論理ホスト環境で実行する場合 JP1/IM - MO が，共有ディスクおよび論理 IP アドレスの割り当て・削除・動作監視がクラスタソフトによって正常に制御されている必要があります。

JP1/IM - MO を論理ホスト環境で実行する場合の前提条件を次の表に示します。

表 5-1 論理ホスト環境の前提条件

論理ホストの構成要素	前提条件
共有ディスク	• 実行系から待機系へ引き継ぎ可能な共有ディスクが使用できること。 • JP1/IM - MO を起動する前に，共有ディスクが割り当てられること。 • JP1/IM - MO を実行中に，共有ディスクの割り当てが解除されないこと。 • JP1/IM - MO を終了したあとに，共有ディスクの割り当てが解除されること。 • 実行系ノード以外からは共有ディスクをアクセスできないよう排他制御されていること。 • システムダウンなどでファイルが消えないよう，ジャーナル機能を持つファイルシステムでファイルを保護すること。 • フェールオーバーしてもファイルに書き込んだ内容が保証されて引き継がれること。 • フェールオーバー時に共有ディスクを使用中のプロセスがあっても，強制的にフェールオーバーできること。
論理 IP アドレス	• 実行系から待機系へ引き継ぎ可能な論理 IP アドレスを使用して通信できること。 • 論理ホスト名から論理 IP アドレスが一意に求まること。 • JP1/IM - MO を起動する前に論理 IP アドレスが割り当てられること。 • JP1/IM - MO を実行中に，論理 IP アドレスが削除されないこと。 • JP1/IM - MO を実行中に，論理ホスト名と論理 IP アドレスの対応が変更されないこと。 • JP1/IM - MO を終了したあとに，論理 IP アドレスが削除されること。
クラスタシステム	• 前提である JP1/Base が，クラスタシステムを使用できる環境になっていること。 • 実行系と待機系で次の点を一致させること。 ・JP1/IM - MO および JP1/Base のバージョン ・JP1/IM - MO のインストール先フォルダの絶対パス ・サーバマシンに設定しているシステムの日付と時間 • 実行系と待機系の物理ホストを JP1/IM - Manager で監視する環境になっていること。 設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」の JP1 イベントの転送設定について記載されている個所を参照してください。 Windows Server 2003 の場合 • ワトソン博士によるエラー通知が抑止されていること。 • Microsoft へのエラー報告が抑止されていること。

表 5-1 の条件が満たされていない場合は，JP1/IM - MO の動作に問題が発生することがあります。例えば，次のような問題が発生します。

● 実行系で書き込んだデータが，フェールオーバーしたときに壊れてしまう
JP1/IM - MO でエラー・データ消失・起動失敗などの問題が発生し，正常に動作できません。

● LAN ボード障害が発生しても回復処理がされない
クラスタソフトなどの制御によって LAN ボードが切り替えられるか，または他サーバへフェールオーバーするまで，通信エラーが発生し JP1/IM - MO は正常に動作できません。

参考

JP1/IM - MO の稼働状況を JP1/IM などで監視する場合は，物理ホストの JP1/Base イベントサービスを起動しておくようにしてください。
JP1/IM - MO が，物理ホストのイベント発行に失敗した場合は，物理ホストの Windows イベントログにメッセージ出力に失敗した旨の KNAH0997-E を発行して，JP1/IM - MO の稼働状態の通知を停止します。JP1/IM - MO ログファイルまたは Windows イベントログで JP1/IM - MO の稼働状態を監視できます。

5.3.2　インストール

JP1/IM - MO をインストールする前に，クラスタソフトと JP1/Base がインストールされクラスタシステムを使用できる環境になっていることを確認してください。

実行系，待機系それぞれのローカルディスク上に JP1/IM - MO をインストールしてください。またインストールの際には，実行系と待機系で，同じ名称のドライブおよびフォルダを指定してください。

インストール手順は，クラスタ運用しない場合と同じです。インストール手順については，「4.3.1　JP1/IM - MO の新規インストール」を参照してください。

5.4 クラスタシステムでの JP1/IM - MO のセットアップ

JP1/IM - MO をクラスタシステムで運用するためのセットアップについて説明します。

なお，実行系と待機系の両方をセットアップする場合は，実行系，待機系の順にセットアップしてください。

(1) 論理ホストの作成（実行系）

JP1/IM - MO をクラスタシステムで運用するには，クラスタソフトを使って論理ホストを作成します。

論理ホストには，次のリソースを登録します。

- 物理ディスクリソース（共有ディスクとして制御する）
- IP アドレスリソース（論理 IP アドレス）
- ネットワーク名リソース（仮想サーバ名）

(2) 共有ディスクに引き継ぐ情報のコピー（実行系）

「イベント取得開始位置管理ファイル」を共有ディスクにコピーします。

共有ディスクにコピーするファイルと格納先を次の表に示します。

表 5-2 共有ディスクにコピーするファイルと格納先

ファイル名	コピー元	コピー先
jmoevgetpos.dat	JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥sys	環境設定パラメーター EVGETPOS_FILE_DIR に設定したフォルダ

「イベント取得開始位置管理ファイル」は，フェールオーバーが発生すると，共有ディスクの接続は，実行系から待機系へ切り替わります。待機系は，共有ディスクに保存されている「イベント取得開始位置管理ファイル」の情報を基に実行系から処理を引き継ぎます。

(3) 環境設定パラメーターの設定（実行系・待機系）

環境設定ファイルで次に示す環境設定パラメーターを設定したあと，jmosetcnf コマンドを実行します。環境設定パラメーターの詳細および設定方法については，「4.4.1 環境設定ファイルの設定方法」を参照してください。

表 5-3 環境設定ファイルに設定する環境設定パラメーター

環境設定パラメーター名	説明
IM_HOST	JP1 イベントの取得先になる JP1/IM - Manager のホスト名を 32 バイト以内で指定します。 **注意事項** JP1/IM - MO のクラスタ運用中に IM_HOST の値を変更した場合は，イベント開始位置をリセットする必要があります。 jmosetcnf コマンドを実行する前に，サービスを停止させて，必ずイベント取得開始位置管理ファイルを削除してください。
EVTSVR	論理ホストのイベントサーバ名を 255 バイト以内で指定します。

環境設定パラメーター名	説明
EVGETPOS_FILE_DIR	共有ディスクにあるイベント取得開始位置管理ファイルの格納先フォルダのパスを指定します。 デフォルトでは「JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥sys」が設定されているので，共有ディスク上のパスに変更してください。 （例） **共有ディスク** ¥JP1IMMO¥sys

(4) データベースのセットアップ（実行系・待機系）

jmoedbsetup コマンドを使って，データベースをセットアップします。jmoedbsetup コマンドの詳細については，「13. コマンド jmoedbsetup」を参照してください。jmoedbsetup コマンドのオプション設定を次に示します。

表 5-4 jmoedbsetup コマンドのオプション設定

サーバ	オプション	設定内容
実行系	-c	online
	-r	データベースを格納する共有ディスク上のフォルダのフォルダパス。
待機系	-c	standby
	-r	データベースを格納する共有ディスク上のフォルダのフォルダパス。実行系と同じフォルダを指定します。

また，jmoedbsetup コマンドを実行する場合，次に示す前提条件があります。

- ほかのデータベースコマンドが実行中でないこと。
- JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスおよび JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止していること。
- JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが開始状態であること。
- 共有ディスクにアクセスできること。

(5) OS 環境のセットアップ（実行系・待機系）

エラー発生時に，ワトソン博士のメッセージボックスや Microsoft へのエラー報告のダイアログの表示を抑止する必要があります。これらが表示されると，JP1/IM - MO が正常にフェールオーバーできないおそれがあります。

●ワトソン博士の設定

1. **スタートメニューから［ファイル名を指定して実行］を選択する。**
2. **テキストボックスに「drwtsn32」と入力し，［OK］ボタンをクリックする。**
   「ワトソン博士」のダイアログが表示されます。
3. **［メッセージ ボックスによる通知］のチェックを外す。**
4. **［OK］ボタンをクリックする。**

● Microsoft へのエラー報告の抑止設定

1. **コントロールパネルの［システム］をダブルクリックする。**
   ［システムのプロパティ］ダイアログが表示されます。

2. **［詳細設定］ページの［エラー報告］をクリックする。**
   ［エラー報告］のダイアログが表示されます。
3. **［エラー報告を無効にする］を選択し，［重大なエラーが発生した場合は通知する］のチェックが外れていることを確認する。**
4. **［OK］ボタンをクリックする。**

(6) クラスタソフトへの登録（実行系）

フェールオーバーさせるリソースをクラスタソフトに登録して，クラスタソフトからの制御で起動終了するように設定します。

クラスタソフトに登録するリソースと設定内容を，OS のバージョンごとに次の表に示します。

なお，JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster リソースを最初に登録してください。

表 5-5　クラスタソフトに登録するリソースの設定内容（Windows Server 2003 の場合）

登録リソース名	設定項目		設定内容
JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster	名前		JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster
	リソースの種類		汎用サービス
	グループ		論理ホスト名
	実行可能な所有者		実行系および待機系のノード
	依存関係		• 論理ホストに登録した物理ディスク • IP アドレス • ネットワーク名
	汎用サービスパラメーター	サービス名	HiRDBClusterService_MO1
		起動パラメーター	－
	レジストリの複製		－
JP1/IM - Message Optimizer Assistant	名前		JP1/IM - Message Optimizer Assistant
	リソースの種類		汎用サービス
	グループ		論理ホスト名
	実行可能な所有者		実行系および待機系のノード
	依存関係		• HiRDBClusterService_MO1 • JP1_Base_ 論理ホスト名 • JP1_Base_Event 論理ホスト名
	汎用サービスパラメーター	サービス名	JP1_IM_Message_Optimizer_Assistant
		起動パラメーター	－
	レジストリの複製		－

登録リソース名	設定項目		設定内容
JP1/IM - Message Optimizer	名前		JP1/IM - Message Optimizer
	リソースの種類		汎用サービス
	グループ		論理ホスト名
	実行可能な所有者		実行系および待機系のノード
	依存関係		• HiRDBClusterService_MO1 • JP1_Base_Event_ 論理ホスト名 • HiRDBClusterService_JM<n>（JP1/IM - Manager データベースサービス）※
	汎用サービスパラメーター	サービス名	JP1_IM_Message_Optimizer
		起動パラメーター	―
	レジストリの複製		―
JP1/IM - Manager ※	名前		変更しません。
	リソースの種類		変更しません。
	グループ		変更しません。
	実行可能な所有者		変更しません。
	依存関係		• JP1_IM_Message_Optimizer
	汎用サービスパラメーター	サービス名	変更しません。
		起動パラメーター	変更しません。
	レジストリの複製		変更しません。

（凡例）

―：指定しません

注※

JP1/IM - Manager と JP1/IM - MO を同じホストにインストールした場合に依存関係の設定を追加します。サービス名については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」を参照してください。

JP1/IM - MO のサービスが停止すると変換後のメッセージが出力されないため，変換後のメッセージだけで監視する場合は，JP1/IM - Manager も停止するように依存関係を定義する必要があります。

JP1/IM - MO が停止しても JP1/IM - Manager で変換していないメッセージを継続して監視する場合は，JP1/IM - Manager から JP1/IM - MO への依存関係を削除してください。

表 5-6 クラスタソフトに登録するリソースの設定内容（Windows Server 2008 の場合）

登録リソース名	設定項目	設定内容
JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster	リソースの種類	汎用サービス
	「サービスの選択」で選択するサービス名	JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster
	依存関係	• 共有ディスク • クライアントアクセスポイント
JP1/IM - Message Optimizer Assistant	リソースの種類	汎用サービス
	「サービスの選択」で選択するサービス名	JP1/IM - Message Optimizer Assistant
	依存関係	• JP1_IM_Message_Optimizer_Database_Cluster • JP1/Base_ 論理ホスト名 • JP1/Base Event 論理ホスト名
JP1/IM - Message Optimizer	リソースの種類	汎用サービス
	「サービスの選択」で選択するサービス名	JP1/IM - Message Optimizer
	依存関係	• JP1_IM_Message_Optimizer_Database_Cluster サービス • JP1/Base Event 論理ホスト名 • JP1/IM - Manager DB Cluster Service_ 論理ホスト名※
JP1/IM - Manager ※	リソースの種類	変更しません。
	「サービスの選択」で選択するサービス名	変更しません。
	依存関係	• JP1_IM_Message_Optimizer

注※

JP1/IM - Manager と JP1/IM - MO を同じホストにインストールした場合に依存関係の設定を追加します。サービス名については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」を参照してください。

JP1/IM - MO のサービスが停止すると変換後のメッセージが出力されないため，変換後のメッセージだけで監視する場合は，JP1/IM - Manager も停止するように依存関係を定義する必要があります。

JP1/IM - MO が停止しても JP1/IM - Manager で変換していないメッセージを継続して監視する場合は，JP1/IM - Manager から JP1/IM - MO への依存関係を削除してください。

5.5　クラスタシステムでの JP1/IM - MO の上書きインストール

クラスタシステムで JP1/IM - MO を上書きインストールする手順を次に示します。

1. **実行系で，次のサービスを停止する。**
   - JP1/IM - Message Optimizer サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス
2. **実行系で，`jmoedbstop` コマンドを実行する。**
   データベースが停止します。
   `jmoedbstop` コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbstop」を参照してください。
3. **実行系で，JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービスを停止する。**
4. **共有ディスクを実行系から待機系に切り替える。**
5. **待機系で，JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービスを起動する。**
6. **待機系で，`jmoedbstop` コマンドを実行する。**
   データベースが停止します。
   `jmoedbstop` コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbstop」を参照してください。
7. **待機系で，JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービスを停止する。**
8. **待機系で JP1/IM - MO を上書きインストールする。**
   上書きインストールの手順は，クラスタ運用しない場合と同じです。上書きインストール手順については，「4.3.2　JP1/IM - MO の上書きインストール」を参照してください。
9. **共有ディスクを待機系から実行系に切り替える。**
10. **実行系で JP1/IM - MO を上書きインストールする。**
    上書きインストールの手順は，クラスタ運用しない場合と同じです。上書きインストール手順については，「4.3.2　JP1/IM - MO の上書きインストール」を参照してください。
11. **実行系で，次のサービスを起動する。**
    - JP1/IM - Message Optimizer サービス
    - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス

5.6　クラスタシステムでの JP1/IM - MO のアンインストール

クラスタシステムから JP1/IM - MO をアンインストールする手順を次に示します。

1. **実行系で，次のサービスを停止する。**
   - JP1/IM - Message Optimizer サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス
2. **実行系で，`jmoedbstop` コマンドを実行する。**
   データベースが停止します。
   `jmoedbstop` コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbstop」を参照してください。
3. **実行系で，JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービスを停止する。**
4. **共有ディスクを実行系から待機系に切り替える。**
5. **待機系で，JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービスを起動する。**
6. **待機系で，`jmoedbstop` コマンドを実行する。**
   データベースが停止します。
   `jmoedbstop` コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbstop」を参照してください。
7. **待機系で，JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービスを停止する。**
8. **待機系で JP1/IM - MO をアンインストールする。**
   アンインストールの手順は，クラスタ運用しない場合と同じです。アンインストール手順については，「4.3.4　JP1/IM - MO のアンインストール」を参照してください。
9. **共有ディスクを待機系から実行系に切り替える。**
10. **実行系で JP1/IM - MO をアンインストールする。**
    アンインストールの手順は，クラスタ運用しない場合と同じです。アンインストール手順については，「4.3.4　JP1/IM - MO のアンインストール」を参照してください。
11. **実行系で，次のサービスを削除する。**
    - JP1/IM - Message Optimizer サービス
    - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス
    - JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービス
12. **実行系で，共有ディスク上のイベント取得開始位置管理ファイルを削除する。**

5.7 フェールオーバー発生時の対処

実行系でフェールオーバーが発生すると，待機系が起動して実行系のイベント変換処理を引き継ぎます。

フェールオーバーが発生した場合，次の対処をしてください。

- ログの出力先が，実行系から待機系に切り替わっていることを確認する。
- JP1/IM - MO ログにエラーメッセージが出力されていないか確認する。エラーが出力されていた場合は，そのエラーメッセージの対処方法に従って処理する。
- JP1 イベント変換定義操作中にフェールオーバーが発生した場合は，操作内容が反映されているか確認する。反映されていない場合は，再度その操作をする。
- コマンドを実行中にフェールオーバーが発生した場合は，そのコマンドを再実行する。

6 起動と終了

メッセージ変換の定義，およびメッセージの変換をするためには，JP1/IM - MO のサービスの起動と停止が必要です。この章では，JP1/IM - MO のサービス，および起動・終了方法について説明します。

6.1　JP1/IM - MO **のサービス**

6.2　JP1/IM - MO **の起動と終了**

6.3　JP1/IM - MO **の起動と終了（クラスタシステムの場合）**

6.1 JP1/IM - MO のサービス

JP1/IM - MO のサービスを次に示します。

表 6-1 JP1/IM - MO のサービス

サービス名	説明
JP1/IM - Message Optimizer サービス	• JP1/IM - MO のサービスです。メッセージ変換時に起動します。 • JP1/IM - MO Assistant で学習機能を利用する場合に起動するサービスです。
JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス	JP1/IM - MO Assistant のサービスです。 JP1/IM - MO Assistant で定義するときに起動します。
JP1/IM - Message Optimizer Database サービス	JP1/IM - MO のデータベースのサービスです。メッセージ変換の定義，およびメッセージ変換，どちらの場合にも起動しておく必要があります。
JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービス	JP1/IM - Message Optimizer Database サービスの起動と停止を制御するサービスです。クラスタ運用する場合に実行系で起動します。

6.2　JP1/IM - MO の起動と終了

ここでは，JP1/IM - MO を起動または終了する操作について説明します。なお，クラスタシステムの場合の起動・終了方法については，「6.3　JP1/IM - MO の起動と終了（クラスタシステムの場合）」を参照してください。

6.2.1　JP1/IM - MO の起動（変換メッセージの定義をする場合）

変換メッセージの定義に必要なサービスを起動します。

手順を次に示します。

1. **Windows の［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］を選択する。**
   ［サービス］ダイアログが表示されます。
2. **次のサービスが起動していることを確認する。**
   - JP1/Base サービス
   - JP1/Base Event サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer Database サービス

   JP1/IM - MO を起動する前に，これらのサービスが起動している必要があります。
3. **JP1/IM - Message Optimizer サービスを起動する。**
   これで，JP1/IM - MO Assistant での定義で学習機能が使えるようになります。
   「8.　操作例」に沿ってひととおり操作する場合は，学習機能を使うため，JP1/IM - Message Optimizer サービスを起動しておいてください。
   学習機能を使用しない場合は，起動する必要はありません。
4. **JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスを起動する。**
   これで，JP1/IM - MO Assistant で定義できるようになります。

注意事項

JP1/IM - Message Optimizer サービスを自動起動するように設定変更する場合，JP1/Base の起動管理機能を使用してください。［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］で，スタートアップの種類を「自動」に設定しないでください。詳細は，「6.2.4　JP1/IM - Message Optimizer サービスの自動起動」を参照してください。

6.2.2　JP1/IM - MO の起動（メッセージ変換を開始する場合）

メッセージ変換の開始に必要なサービスを起動します。

手順を次に示します。

1. **Windows の［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］を選択する。**
   ［サービス］ダイアログが表示されます。
2. **次のサービスが起動していることを確認する。**
   - JP1/Base サービス
   - JP1/Base Event サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer Database サービス

JP1/IM - MO を起動する前に，これらのサービスが起動している必要があります。

3. JP1/IM - Message Optimizer **サービスを起動する。**
   これで，定義が完了したメッセージの変換が開始されます。

注意事項

サービスを自動起動するように設定変更する場合，JP1/Base の起動管理機能を使用してください。［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］で，スタートアップの種類を「自動」に設定しないでください。詳細は，「6.2.4　JP1/IM - Message Optimizer サービスの自動起動」を参照してください。

6.2.3　JP1/IM - MO の終了

JP1/IM - MO のサービスを停止します。

手順を次に示します。

1. Windows **の［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］を選択する。**
   ［サービス］ダイアログが表示されます。
2. **次のサービスを停止する。**
   - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer サービス

   どちらを先に停止してもかまいません。
3. **次のサービスを停止する。**
   - JP1/IM - Message Optimizer Database サービス

6.2.4　JP1/IM - Message Optimizer サービスの自動起動

JP1/IM - Message Optimizer サービスを自動起動する方法について説明します。

自動起動は，JP1/Base の起動管理機能で設定します。

手順を次に示します。

1. Windows **の［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］を選択する。**
2. **次のサービスを右クリックし，スタートアップの種類を「手動」にする。**
   - JP1/IM - Message Optimizer Database サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer サービス
3. JP1/IM - MO **と同じホストにある** JP1/Base **の起動順序定義ファイルを編集する。**
   次のサービスを JP1/Base のサービスのあとに起動させるように編集します。起動順序は次のとおりです。
   1. JP1/IM - Message Optimizer Database サービス
   2. JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス
   3. JP1/IM - Message Optimizer サービス

   記述例を次に示します。（中略）より後ろの部分を記述してください。

   起動順序定義ファイルの記述例

```
[ControlValue]ForcedTerminateExec=YES

（中略）

[Jp1IMMessageOptimizerDatabase]
Name=JP1/IM - Message Optimizer Database
ServiceName=HiRDBEmbeddedEdition_MO1

[Jp1IMMessageOptimizerAssistant]
Name=JP1/IM - Message Optimizer Assistant
ServiceName=JP1_IM_Message_Optimizer_Assistant
Wait=70※

[Jp1IMMessageOptimizer]
Name=JP1/IM - Message Optimizer
ServiceName=JP1_IM_Message_Optimizer
Wait=70※
```

注※

JP1/IM - Message Optimizer サービスを起動したあと，別のサービスを起動する場合は「Wait=70」を追記してください。何もサービスを起動しない場合は不要です。

起動順序定義ファイルの格納先，および編集方法の詳細については，マニュアル「JP1/Base　運用ガイド」を参照してください。

6.3 JP1/IM - MO の起動と終了（クラスタシステムの場合）

クラスタシステムでは，障害発生時に待機系サーバへフェールオーバーするために，アプリケーションをクラスタソフトに登録して起動・終了を制御しています。

JP1/IM - MO をクラスタ運用する場合も，クラスタソフトが JP1/IM - MO を制御するように登録して運用します。

ここでは，クラスタシステムで運用する場合に，JP1/IM - MO のサービスを起動・停止する方法について説明します。

6.3.1 起動する前の注意事項

クラスタシステムでは，サービスの起動・停止をクラスタソフトが管理しています。そのため，次のことに注意してください。

- コマンドを実行して JP1/IM - Message Optimizer サービスを起動しないでください。
  クラスタソフトで管理しているサービスの状態と実際の状態とが異なり，障害につながるおそれがあります。
- ［コントロールパネル］－［管理ツール］－［サービス］から，JP1/IM - Message Optimizer サービスを起動しないでください。
- JP1/IM - Message Optimizer サービスは自動起動する設定にしないでください。
  JP1/Base の起動管理機能で，JP1/IM - Message Optimizer サービスの自動起動をすでに設定している場合は，JP1/IM - Message Optimizer サービス起動に関する情報を削除してファイルを保存してください。
- JP1/IM - Message Optimizer Database サービスのスタートアップの種類が「手動」となっている場合は，「自動」に設定してください。

6.3.2 JP1/IM - MO の起動

JP1/IM - MO を起動するときは，クラスタアドミニストレータを使用して，JP1/IM - MO を登録したクラスタグループに含まれるすべてのリソースを起動します。

起動するリソースを次に示します。

- IP アドレスリソース
- ネットワーク名リソース
- 共用ディスクリソース
- JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービスのリソース
- JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスのリソース
- JP1/IM - Message Optimizer サービスのリソース

6.3.3 JP1/IM - MO の終了

JP1/IM - MO を終了する手順を次に示します。

1. **クラスタアドミニストレータで，次のサービスのリソースを停止する。**
   - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスのリソース
   - JP1/IM - Message Optimizer サービスのリソース

2. `jmoedbstop` **コマンドを実行してデータベースを停止する。**
   `jmoedbstop` コマンドの詳細は，「13.　コマンド　jmoedbstop」を参照してください。
3. **クラスタアドミニストレータで，**JP1/IM - MO **を登録したクラスタグループの，残りのリソースを停止する。**
   停止するリソースを次に示します。
   - JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービスのリソース
   - IP アドレスリソース
   - ネットワーク名リソース
   - 共用ディスクリソース

7 ログインとログアウト

この章では，JP1/IM - MO Assistant のログイン・ログアウトの方法について説明します。

7.1　JP1/IM - MO Assistant **へのログイン**

7.2　JP1/IM - MO Assistant **からのログアウト**

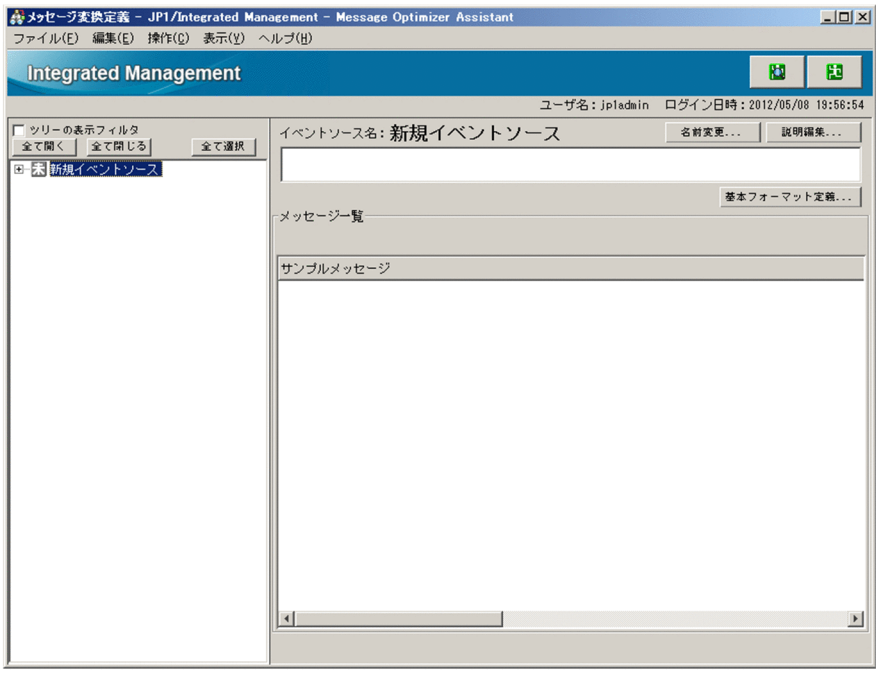
7.1　JP1/IM - MO Assistant へのログイン

JP1/IM - MO Assistant へログインする手順を次に示します。

1. Windows **のスタートメニューから，［プログラム］－［**JP1_Intergrated Management - Message Optimizer Assistant**］**※**－［メッセージ変換定義］を選択する。**
   ［ログイン］画面が表示されます。

   注※
   インストール時にプログラムフォルダの選択画面でデフォルトから変更した場合はその名称になります。

2. **ユーザー名，パスワード，および接続する** JP1/IM - MO **のホスト名またはホストの** IP **アドレスを入力する。**
3. **［**OK**］ボタンをクリックする。**
   メイン画面が表示されます。



ログインできなかった場合は，出力されたメッセージダイアログの内容を確認し，「17.5(2)　ログインできない」を参照してください。

7.2　JP1/IM - MO Assistant からのログアウト

JP1/IM - MO Assistant からログアウトする手順を次に示します。

1. **メイン画面のメニューから，［ファイル］－［終了］を選択する。**
   メイン画面が閉じます。

8 操作例

この章では，JP1/IM - MO の操作例を説明します。

8.1 例題の説明

8.2 イベントソースを確認する

8.3 基本フォーマットを定義する

8.4 変換フォーマットを定義する

8.5 変換メッセージを定義する

8.1 例題の説明

この章は，例題に沿ってメッセージの変換を定義することで，JP1/IM - MO の定義操作の流れをつかむことを目的としています。

例題では，JP1/AJS3 のログファイルに出力されたメッセージの変換フォーマットを定義し，マネージャーのビューアーに出力されるメッセージの見映えを統一します。また，JP1/AJS3 のログファイルに出力される KAVV219-I のメッセージテキストを変更します。

この節では，例題について説明します。

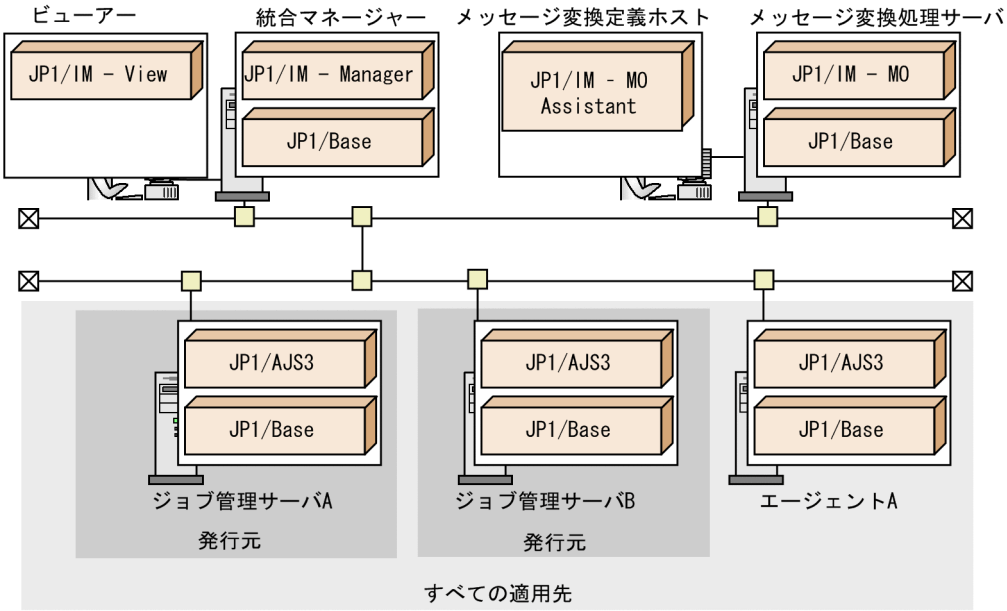
8.1.1 例題の前提条件

例題では，JP1/IM - Manager が 1 台の構成を前提とします。また，学習機能を使って，イベントソース，発行元，基本メッセージを取り込みます。このため，発行元で JP1/AJS3 が稼働していてログを出力していることが前提となります。

8.1.2 例題のシステム構成

例題のシステム構成のイメージを次の図に示します。

図 8-1 例題のシステム構成のイメージ



JP1/AJS3 のログファイルに出力されたメッセージを JP1/IM - MO で変換し，ビューアーで表示します。

変換フォーマットと変換メッセージの適用先システムは，図のすべての適用先とします。発行元は JP1/AJS3 があるジョブ管理サーバ A，およびジョブ管理サーバ B です。

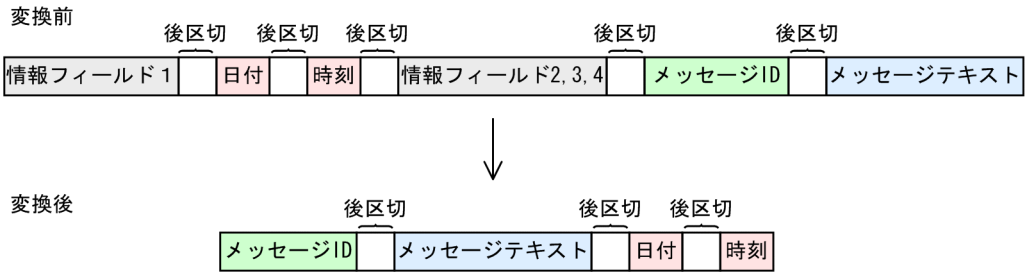
8.1.3 例題で変更するフォーマットとメッセージテキスト

例題では，次の定義をします。

● JP1/AJS3 のログファイルに出力されるメッセージのフォーマットを変更します

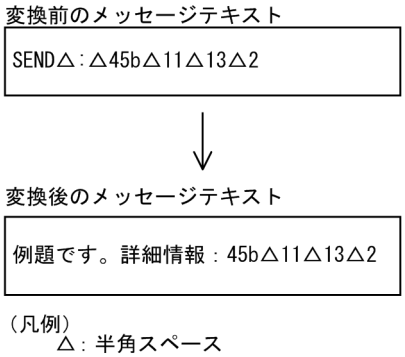
次の図のように変換します。

図 8-2　例題で使用するメッセージのフォーマットの変換前と変換後



● KAVV219-I のメッセージテキストを変更します
次の図のように変換します。

図 8-3　例題で使用するメッセージのメッセージテキストの変換前と変換後

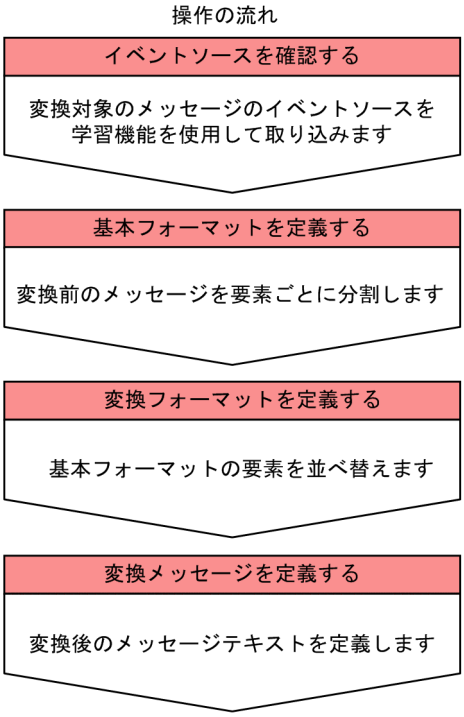


（凡例）
△：半角スペース

8.1.4　例題の操作の流れ

JP1/IM - MO を使って JP1/IM - View に出力されるメッセージを変換する流れを次の図で示します。

図 8-4　メッセージを変換する例題の操作の流れ



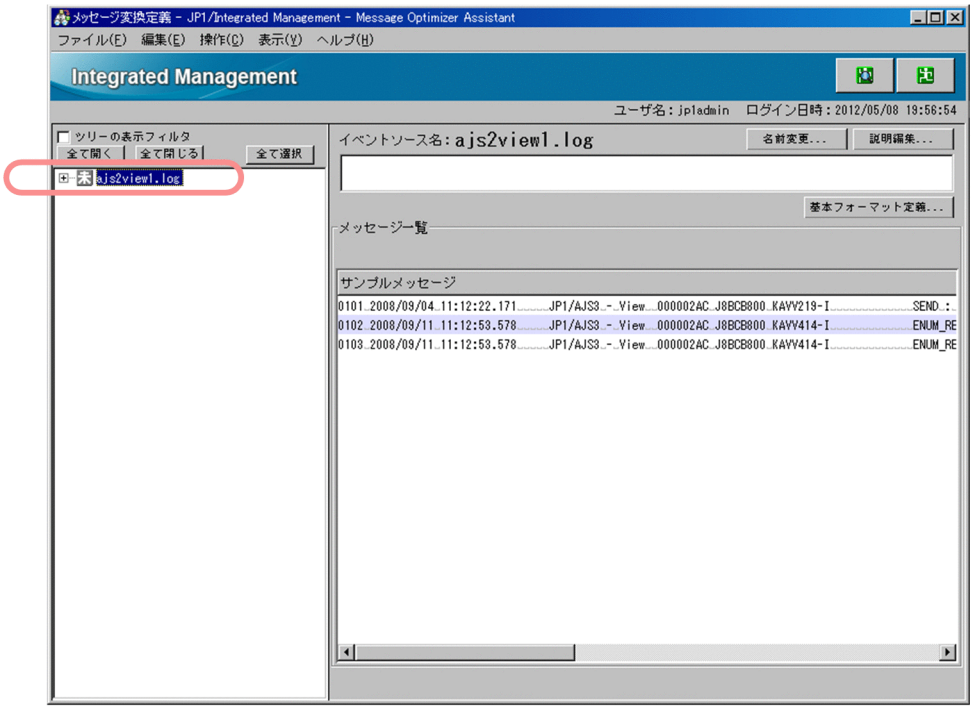
8.2　イベントソースを確認する

まず，JP1/AJS3 のイベントソースを取り込みます。

例題では，学習機能を使用して，自動的に取り込みます。

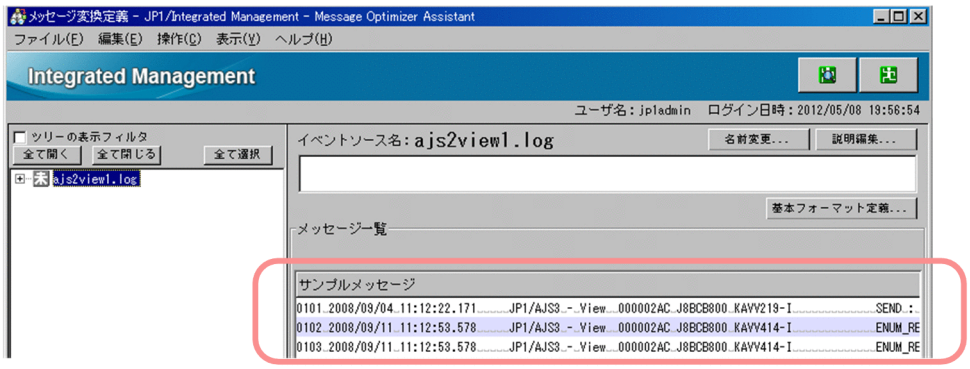
学習機能によって取り込まれたイベントソースの定義を確認する手順を次に示します。

1. JP1/IM - MO Assistant **にログインする。**
   メイン画面が表示されます。



   稼働中の JP1/AJS3 がログを出力していれば，JP1/AJS3 のログファイル名である「ajs2view1.log」がツリーエリアに表示されています。これがイベントソース名となります。

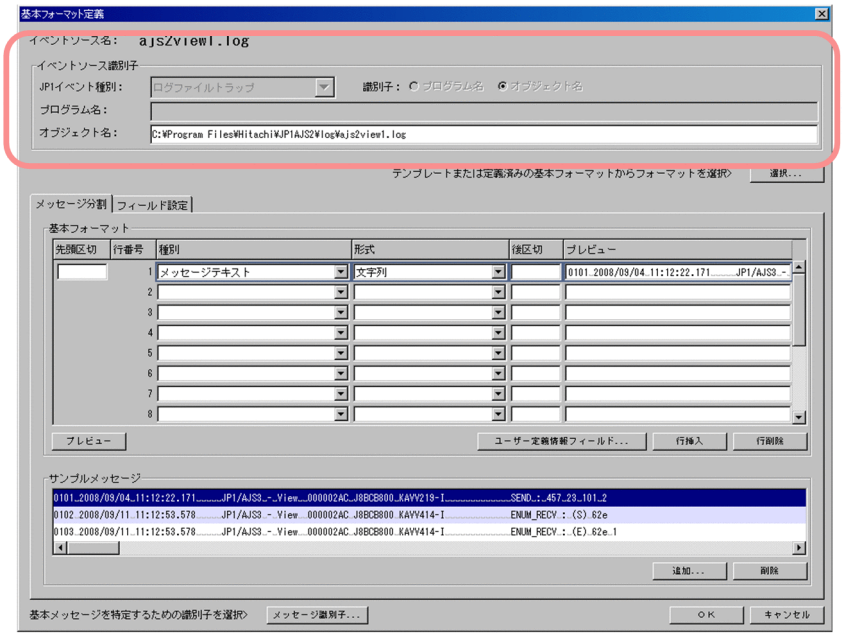
2. **「ajs2view1.log」を選択する。**
   学習したサンプルメッセージが表示されます。



   サンプルメッセージは基本フォーマットを定義するときに参考にするためのメッセージです。サンプルメッセージが出ていない場合の対処方法については，「9.2.2　イベントソースを定義する（学習機能を停止した場合）」を参照してください

3. **［基本フォーマット定義］ボタンをクリックする。**

［基本フォーマット定義］ダイアログが表示されます。



［基本フォーマット定義］ダイアログの上部にイベントソースの情報が表示されます。

JP1 イベントの詳細については，マニュアル「JP1/Base　運用ガイド」を参照してください。

イベントソースが学習されない場合の対処については，「9.2.2　イベントソースを定義する（学習機能を停止した場合）」を参照してください。

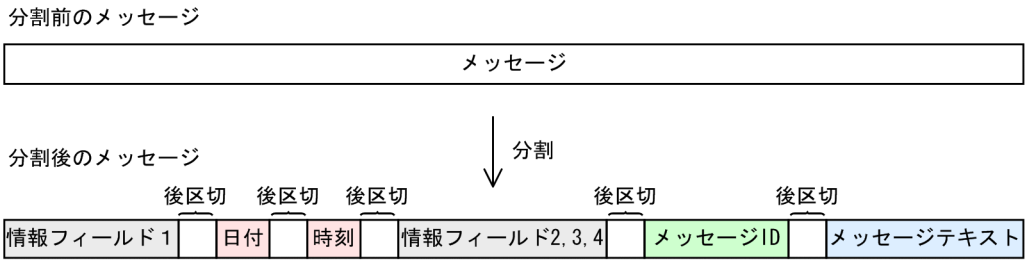
8.3　基本フォーマットを定義する

8.3.1　操作

次に JP1/AJS3 のメッセージの基本フォーマットを定義します。

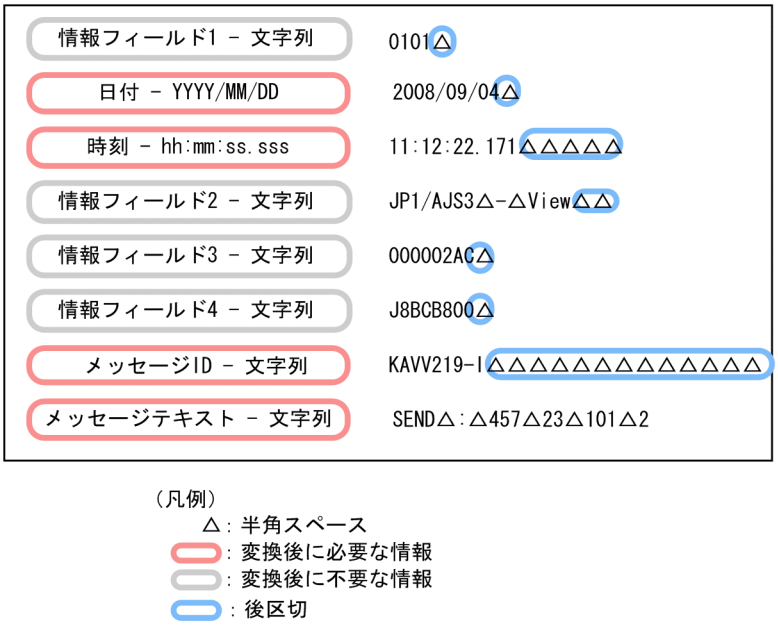
イベントソースを確認した［基本フォーマット定義］ダイアログで，メッセージの分割方法を定義します。メッセージの分割方法を基本フォーマットと呼びます。

図 8-5　例題の基本フォーマットを定義するイメージ



JP1/AJS3 のメッセージを次のようにスペースを区切り文字として分割します。

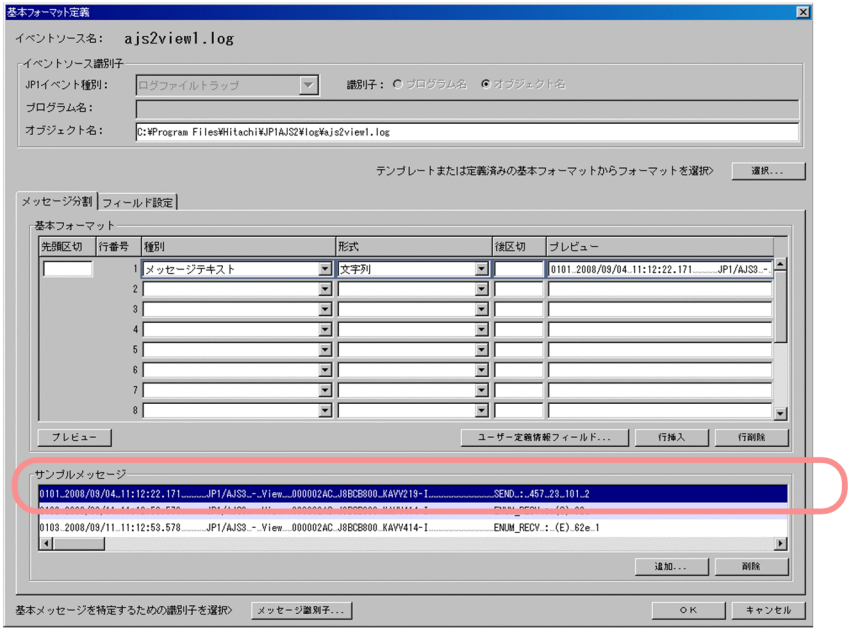
図 8-6　メッセージを区切るイメージ



分割の方法については，「3.3.3　変換フォーマットを検討する」を参照してください。

基本フォーマットを定義する手順を次に示します。

1. **［基本フォーマット定義］ダイアログでサンプルメッセージを一つ選択する。**
   ここでは，KAVV219-I のメッセージを選択します。



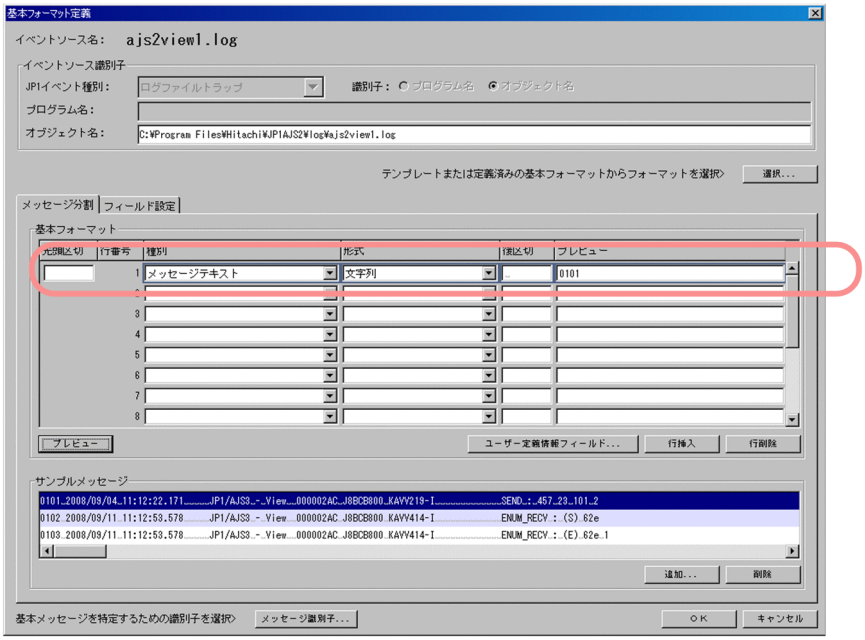
次に，このサンプルメッセージを冒頭の要素から一つ一つ区切っていきます。

2. **基本フォーマットの 1 行目の「種別」プルダウンメニューで「情報フィールド 1」を選択する。**
   冒頭のメッセージ要素「0101」の「種別」に「情報フィールド 1」を選択します。

3. **「形式」のプルダウンメニューから「文字列」を選択する。**
   「0101」の「形式」は「文字列」です。

4. **「後区切」を入力する。**
   一つ目の後区切は「△（半角スペース）」です。

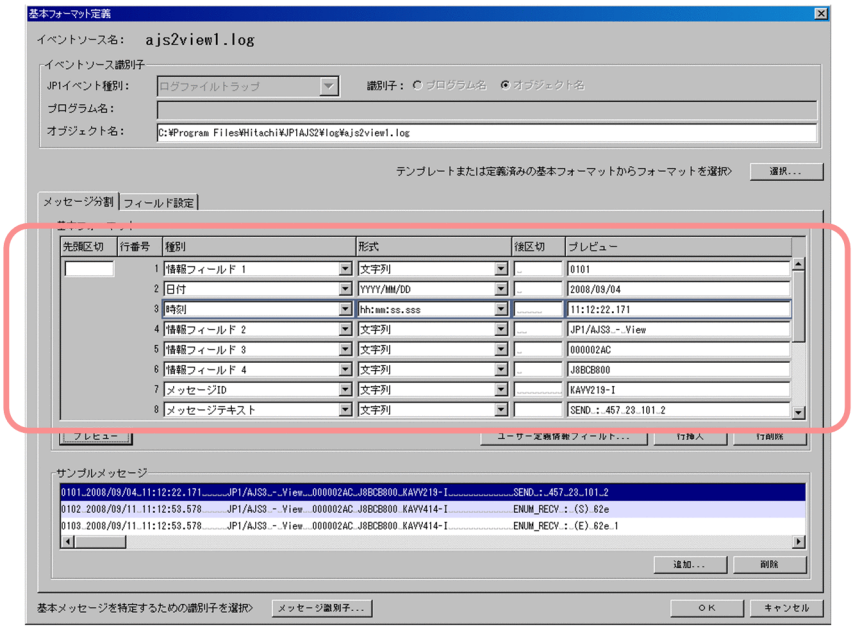
5. **［プレビュー］ボタンをクリックする。**
   サンプルメッセージが次のように区切られていることを確認してください。



6. **最初の後区切以降のメッセージも同様に入力する。**

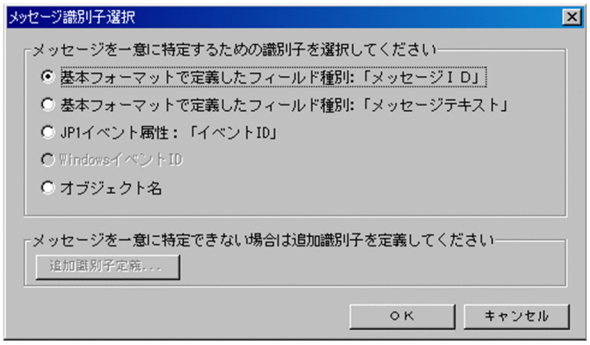
図 8-6 のとおりに区切ります。

7. **［プレビュー］ボタンをクリックする。**
サンプルメッセージが次のように区切られていることを確認してください。



分割に誤りがある場合は，エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージに従って分割をやり直してください。

8. **［メッセージ識別子］ボタンをクリックする。**
［メッセージ識別子選択］ダイアログが表示されます。



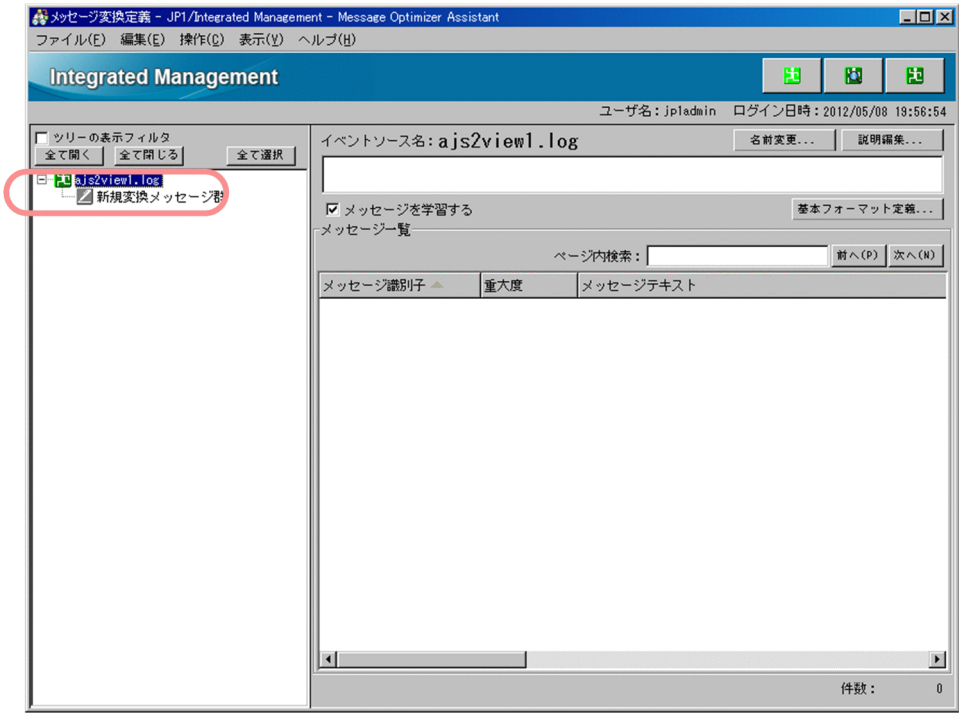
メッセージ識別子は，メッセージの変換定義でイベントソース中のメッセージを 1 件 1 件区別し，メッセージテキストを編集するために必要な識別子です。

9. **メッセージ識別子を選択する。**
JP1/AJS3 のメッセージは，メッセージ ID で区別できるので「基本フォーマットで定義したフィールド種別：「メッセージ ID」」を選択します。

10. **［メッセージ識別子選択］ダイアログの［OK］ボタンをクリックする。**
メッセージ識別子が定義されます。

11. **［基本フォーマット定義］ダイアログの［OK］ボタンをクリックする。**
基本フォーマットが定義され，定義されたサンプルメッセージがメイン画面から消えます。
基本フォーマットが定義されると，イベントソースのアイコンが「 （リリース状態）」になります。

「ajs2view1.log」の下に「新規変換メッセージ群」が作成されます。



変換メッセージ群については，「8.5　変換メッセージを定義する」で詳しく説明します。

8.3.2　参考情報

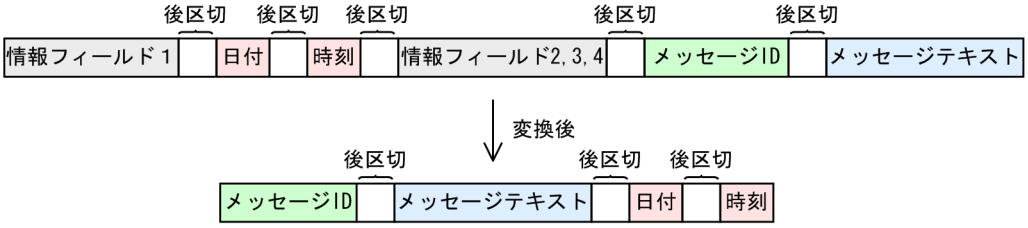
ほかの方法でメッセージを分割する方法については，「9.3　基本フォーマットを文字列以外で区切る」を参照してください。

入力できる文字列については，「付録 F　制限値一覧」を参照してください。

8.4　変換フォーマットを定義する

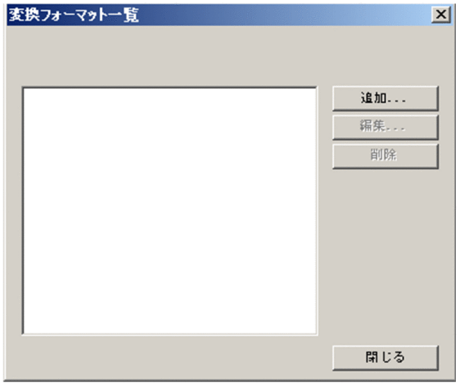
次に変換フォーマットを定義します。基本フォーマットの「メッセージ ID」,「メッセージテキスト」,「日付」および「時刻」を次のように並べて変換フォーマットにします。

図 8-7　例題の変換フォーマット定義のイメージ

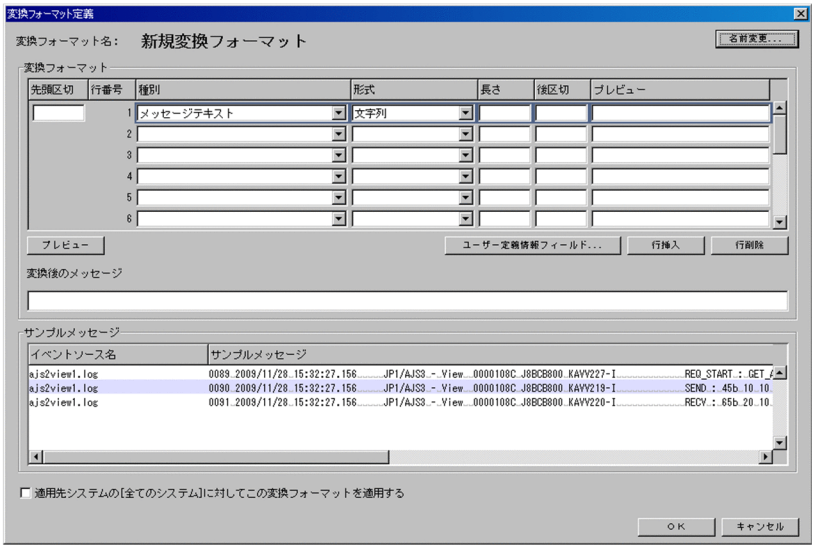


変換フォーマットを定義する手順を次に示します。

1. **メイン画面で，メニューバーから［編集］－［変換フォーマット］を選択する。**
   ［変換フォーマット一覧］ダイアログが表示されます。



2. **［追加］ボタンをクリックする。**
   ［変換フォーマット定義］ダイアログが表示されます。



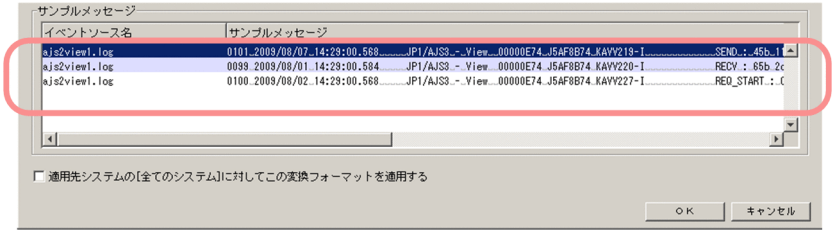
3. **［名前変更］ボタンをクリックする。**

名前を「例題用変換フォーマット」に変更します。
変換フォーマットの名前変更は必須ではありませんが，10 個まで作成できるのでわかりやすい名前を付けることを推奨します。

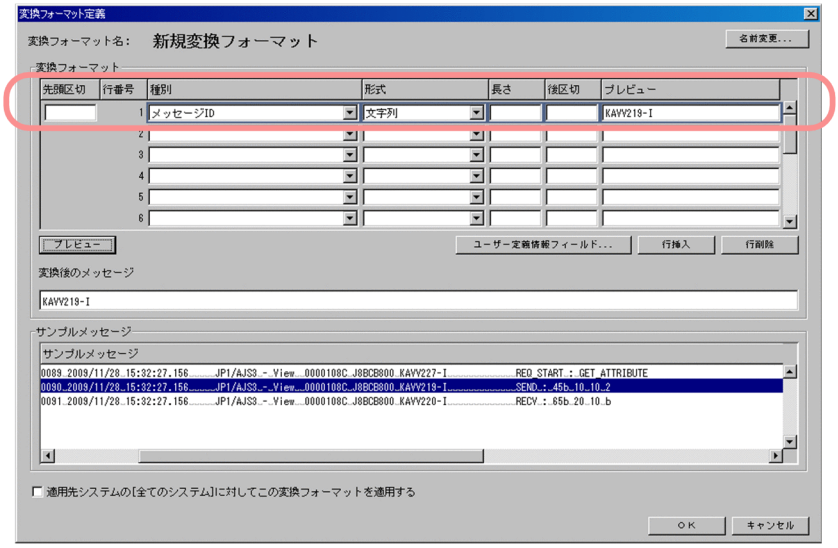
4. **変換フォーマットの 1 行目のプルダウンメニューで「種別」に「メッセージ ID」を選択し，「形式」に「文字列」を選択する。**
   変換フォーマットは，「メッセージ ID △メッセージテキスト△日付△時刻」の順番に並べるので，まずは「メッセージ ID」を定義します。

5. **「後区切」を入力する。**
   一つ目の後区切は「△（半角スペース）」です。

6. **サンプルメッセージとして KAVV219 - I を選択する。**



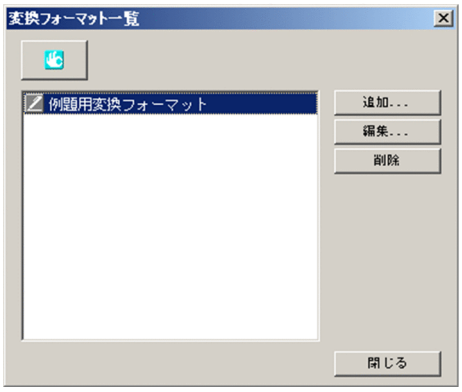
7. **［プレビュー］ボタンをクリックする。**
   サンプルメッセージが次のように区切られていることを確認してください。



8. **最初の後区切以降のメッセージも同様に入力し，［プレビュー］ボタンをクリックする。**
   変換後のメッセージを確認します。

9. **[適用先システムの［全てのシステム］に対してこの変換フォーマットを適用する］をチェックする。**
   この例題では，フォーマットの定義をすべてのシステムに適用するため，チェックします。

10. **[OK］ボタンをクリックする。**
   これで変換フォーマットの定義は終了です。
   エラーがない場合は［変換フォーマット一覧］ダイアログに戻ります。
   ［変換フォーマット一覧］ダイアログに［リリース許可］ボタンが現れます。



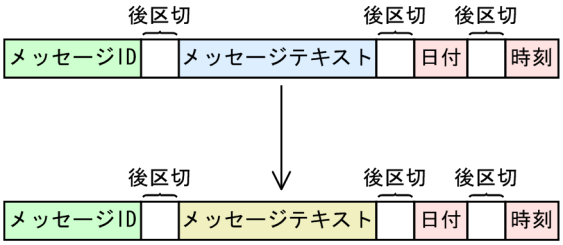
11. **[変換フォーマット一覧］ダイアログの［リリース許可］ボタンをクリックする。**
   アイコンが「（リリース許可状態)」に変わります。

12. **[閉じる］ボタンをクリックする。**
   メイン画面に戻ります。

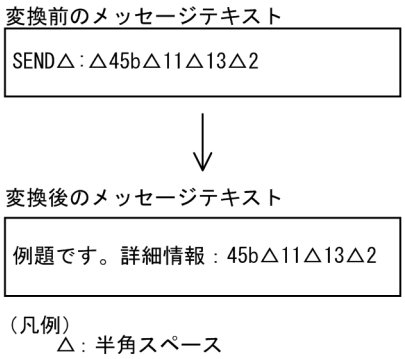
8.5　変換メッセージを定義する

次に変換メッセージを定義します。変換メッセージは，ある特定のメッセージのテキスト部分を変更するために定義します。

図 8-8　例題でメッセージテキストを変換するイメージ

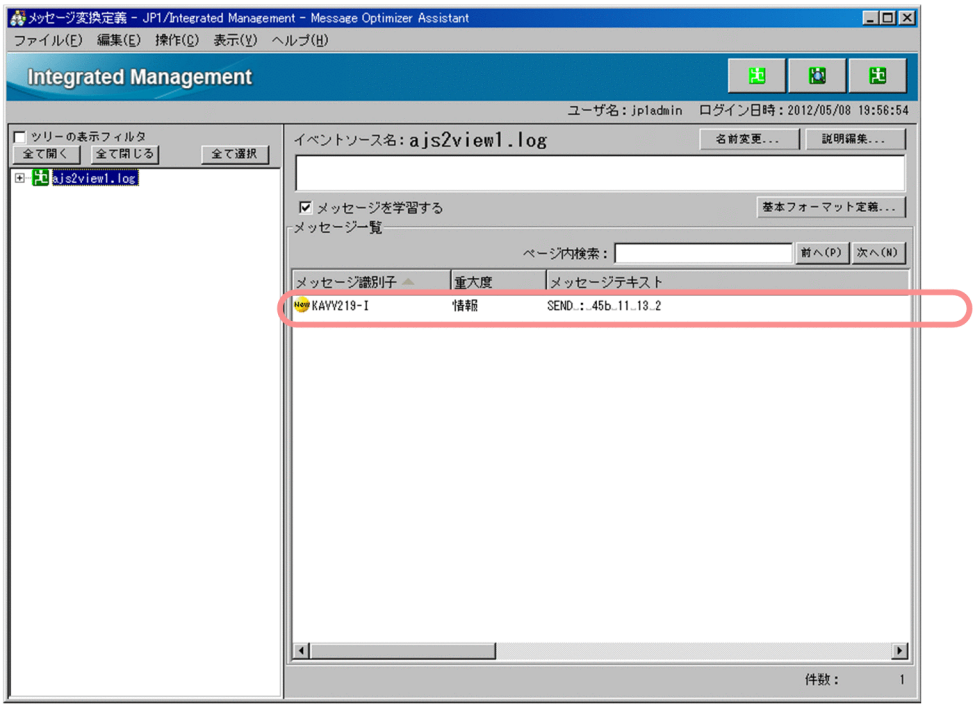


この例題では，KAVV219 - I のメッセージテキストを次のように変換します。



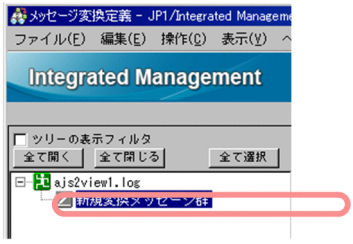
変換メッセージを定義する手順を次に示します。

1. **メッセージ一覧に，**JP1/AJS3 **のメッセージが表示されていることを確認する。**



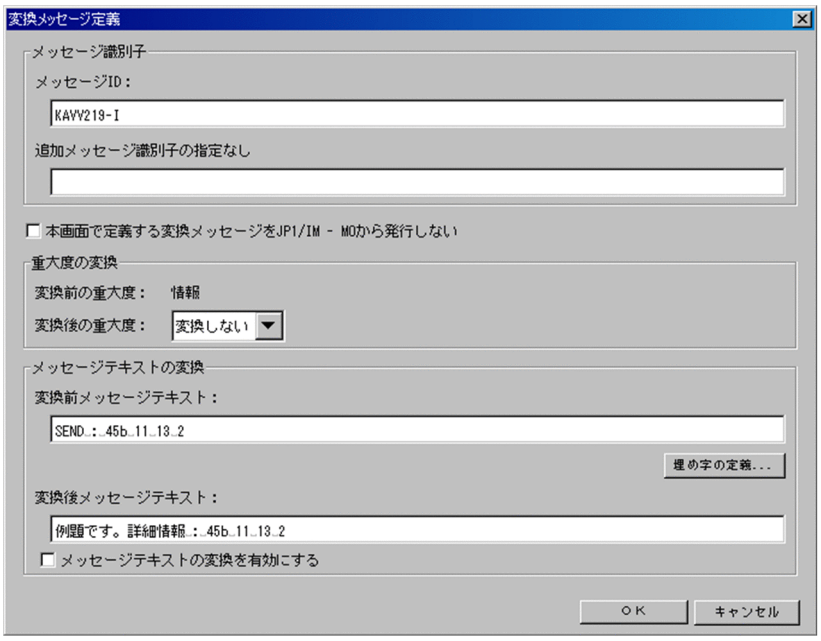
学習機能を使用しているため，学習対象のメッセージが発行されるとメッセージが自動で表示されます。
ここに表示されるメッセージを「基本メッセージ」といいます。
基本メッセージが表示されていない場合は，手動で基本メッセージを定義する必要があります。メッセージが表示されていない場合の対処については，「9.2.3　基本メッセージを定義する（学習機能を停止した場合）」を参照してください。

2. **ツリーエリアで新規変換メッセージ群を選択する。**



3. **メイン画面のリストエリアの「メッセージ一覧」で，表示された基本メッセージ** KAVV219-I **をダブルクリックする。**
［変換メッセージ定義］ダイアログが表示されます。

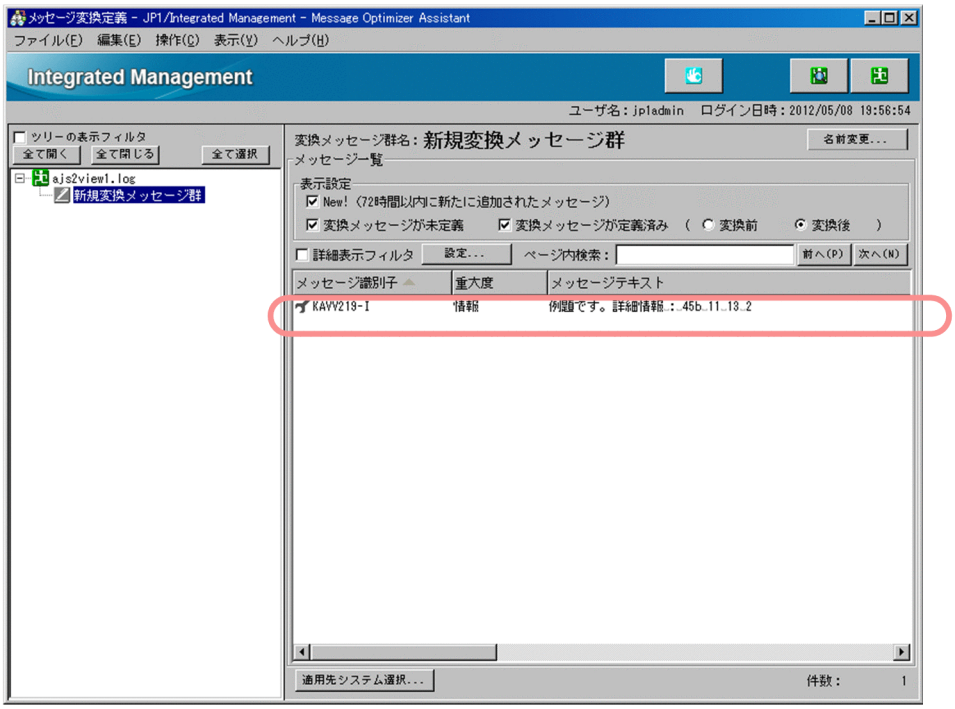
4. **「変換後メッセージテキスト：」に次のように入力する。**
   「例題です。詳細情報　：　45b 11 13 2」



5. **［メッセージテキストの変換を有効にする］をチェックする。**

6. **［OK］ボタンをクリックする。**
   メイン画面に戻ります。

7. **リストエリアの「ajs2view1.log」の下にある「新規変換メッセージ群」を選択する。**
   定義したメッセージは，アイコンが「　」に変わります。



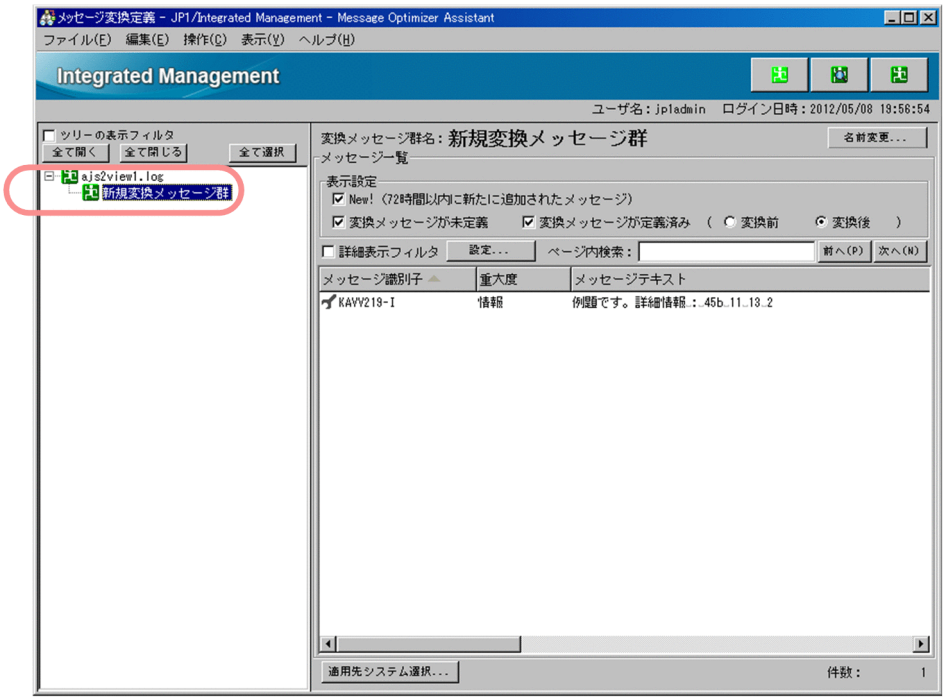
8. **［名前変更］ボタンをクリックして名前を変更する。**
   変換メッセージ群の名前変更は必須ではありませんが，一つのイベントソースに対して 10 件定義できるのでわかりやすい名前を付けることを推奨します。
   ここでは「例題変換メッセージ群」と入力します。
   これで変換メッセージの定義は終了です。

9. **変換メッセージ群「例題変換メッセージ群」を選択する**

10. **［リリース許可］ボタンをクリックする。**

11. **表示された確認ダイアログの［はい］ボタンをクリックする。**
    このダイアログは，適用先システムのリリースをするために表示されます。ここではすべてのシステムに適用するため，［はい］ボタンをクリックします。
    ツリーエリアの「例題変換メッセージ群」の横にあるアイコンが「 （リリース許可状態）」に変わります。

12. **［ ］ボタンをクリックする。**
    ツリーエリアの「例題変換メッセージ群」の横にあるアイコンが「 （リリース状態）」に変わります。



これでメッセージの変換の定義が終了しました。

定義の終了後に，JP1/AJS3 のイベントが発行されると，変換されたメッセージがビューアーに表示されます。

9 メッセージ変換の定義（応用操作）

8 章で，操作の基本的な流れを例題に沿って説明しました。この章では，運用に合わせたメッセージの重大度を変換する手順や，メンテナンス中にメッセージテキストを変更する手順などの定義の応用操作を説明します。

9.1　応用操作一覧

9.2　学習機能を使わない場合の定義

9.3　基本フォーマットを文字列以外で区切る

9.4　基本メッセージにない要素を変換メッセージに埋め込む

9.5　イベントソースを定義していないメッセージに共通の文言を追加する

9.6　メッセージテキストの可変値に埋め字を設定する

9.7　適用先システムを定義する

9.8　メッセージの重大度を変更する

9.9　メッセージを抑止する

9.10　JP1/AJS3 を使って自動的にリリースする

9.11　運用環境に応じた機能を使用する場合の操作

9.12　定義ファイルを利用して一括で定義する

9.13　その他の操作

9.1　応用操作一覧

この章では，「8.　操作例」では説明しなかった次の操作について説明します。必要に応じて参照してください。なお，この章で説明する手順は，8 章の例題と同じシステム構成を例に説明します。

この章で説明する操作の一覧を次の表に示します。

表 9-1　応用操作一覧

項番	定義内容	操作の内容	参照先
1	イベントソース・基本フォーマットの定義	学習機能を使わないでイベントソース・基本フォーマットを定義する。	9.2.1, 9.2.2
2		基本フォーマットを定義するときに文字列以外で区切る。	9.3
3		基本メッセージにない要素を変換メッセージに埋め込む。	9.4
4		イベントソースを定義していないメッセージに共通の文言を追加する。	9.5
5	変換メッセージの定義	学習機能を使わないで基本メッセージを定義する。	9.2.1, 9.2.3
6		メッセージテキスト中の可変値を定義する。	9.6
7	適用先システムの定義	定義を一部のシステムだけに適用する。	9.7
8		学習機能を使わないで発行元ホストを定義する。	9.2.4
9	メッセージの重大度の変更	メッセージの重大度を運用環境に合わせて定義する。	9.8
10	メッセージの抑止	JP1/IM - MO で変換したメッセージを，JP1/IM - View に表示しないよう定義する。	9.9
11	リリース	定義のリリースを自動化する。	9.10
12	運用環境に応じた機能の操作	イベントソースにプログラム名を使用する。	9.11.1
13		追加メッセージ識別子を定義する。	9.11.2
14	一括定義	定義ファイルを利用して，GUI を使用しないで一括定義する。 • 基本メッセージ・変換メッセージ • 発行元と適用先システム	9.12
15	その他の操作	フィルタリングを利用して一括で操作する。	9.13

9.2 学習機能を使わない場合の定義

学習機能を停止している場合，学習機能を使用して定義している次の定義をユーザーが手入力で定義する必要があります。

- イベントソース学習を停止している場合
  - イベントソース
  - サンプルメッセージ
- 基本メッセージ学習を停止している場合
  - 基本メッセージ
- 発行元学習を停止している場合
  - 発行元

ここでは，学習機能を停止する操作，および学習機能を使用しないで定義する操作について説明します。

9.2.1 学習機能の停止方法

ここでは，学習機能を停止する操作について説明します。

学習機能を使わないで定義したいときや，定義完了後に JP1/IM - MO の負荷を軽減したいときなどに，学習機能を停止してください。

(1) イベントソース学習を停止する

イベントソースの学習を停止する手順を次に示します。

1. **メイン画面のメニューバーから［操作］－［学習］－［イベントソース］－［停止］を選択する。**

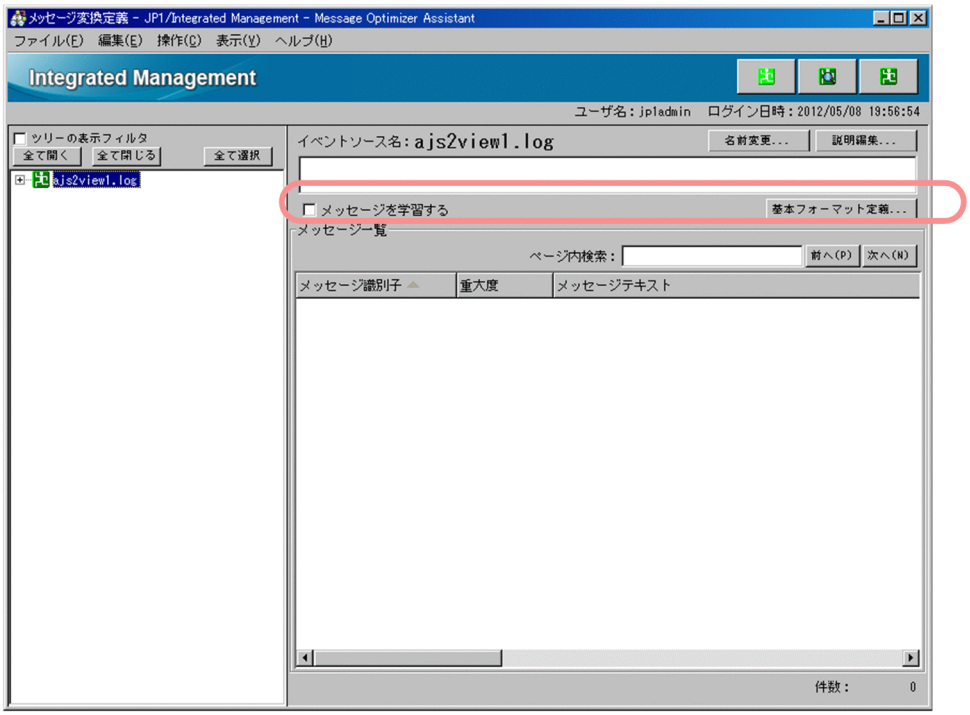
新しいイベントソースが追加されてもメイン画面に表示されなくなります。

再び学習を開始する場合は，メイン画面のメニューバーから［操作］－［学習］－［イベントソース］－［開始］を選択します。

(2) メッセージ学習を停止する

メッセージの学習を停止する手順を次に示します。

1. **メイン画面の関連ツリーエリアでメッセージ学習を停止するイベントソースを選択する。**
2. **メイン画面の［メッセージを学習する］のチェックを外す。**
   ［メッセージを学習する］は，リリース状態のイベントソースを選択した場合に表示されます。



学習対象のメッセージが出力されても，メッセージ一覧に表示されなくなります。

再び学習を開始する場合は，メイン画面の［メッセージを学習する］をチェックします。学習機能を停止した時点からのメッセージの学習が再開されます。

(3) 発行元学習を停止する

発行元の学習を停止する手順を次に示します。

1. **メイン画面のメニューバーから［操作］－［学習］－［発行元］－［停止］を選択する。**
   新しい発行元が追加されても［発行元一覧］ダイアログに表示されなくなります。

再び学習を開始する場合は，メイン画面のメニューバーから［操作］－［学習］－［発行元］－［開始］を選択します。

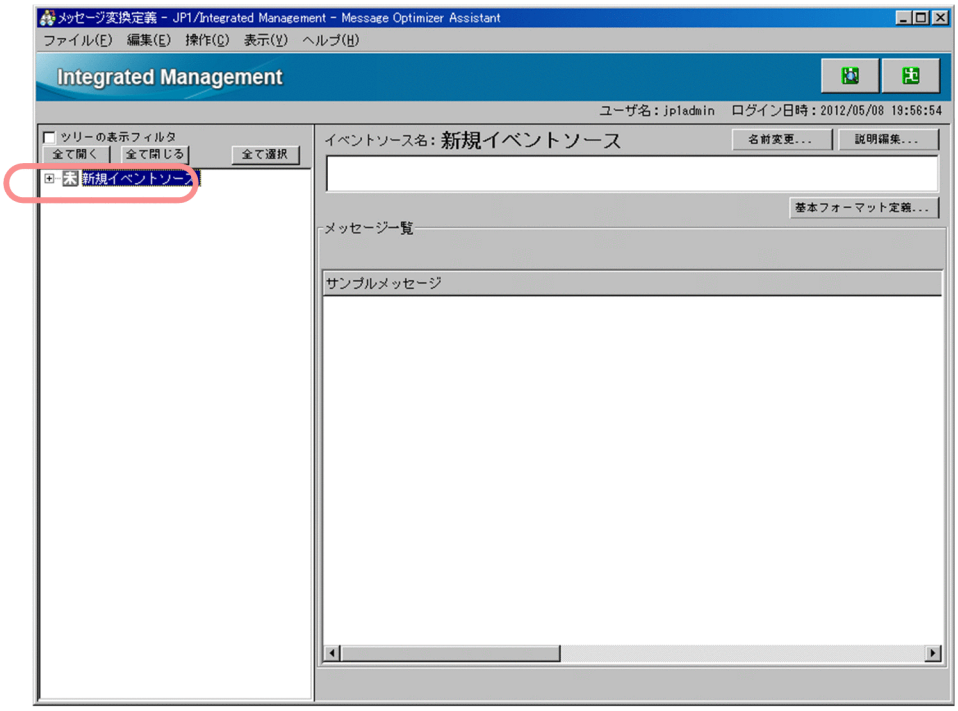
9.2.2　イベントソースを定義する（学習機能を停止した場合）

学習機能を停止すると，イベントソース名やサンプルメッセージは自動で定義されないため，手動で定義する必要があります。

サンプルメッセージは，定義した基本フォーマットで正しくメッセージを分割できているかどうかを確認するために使用します。

イベントソースを定義する手順を，8 章の例題を用いて説明します。

1. **メイン画面のメニューバーから［編集］－［新規作成］－［イベントソース］を選択する。**
   新しいイベントソースが追加されます。



2. **［名前変更］ボタンをクリックする。**
   名前を変更するためのダイアログが表示されます。

3. **イベントソース名を入力する。**
   任意の名前を入力します。製品名やログファイル名を付けておくと，ツリーエリアで見分けが付きやすくなります。
   例題では，ログファイル名の「ajs2view1.log」を入力します。

4. **［OK］ボタンをクリックする。**

5. **［基本フォーマット定義］ボタンをクリックする。**
   ［基本フォーマット定義］ダイアログが表示されます。

6. JP1 **イベント種別を入力する。**
   JP1 イベント種別の詳細については，マニュアル「JP1/Base　運用ガイド」を参照してください。
   例題では，JP1/AJS3 のログファイルを扱うため，「ログファイルトラップ」を選択します。

7. **プロダクト名，またはオブジェクト名を入力する。**
   プロダクト名は，JP1 イベント種別で「イベントログトラップ」または「直接発行」を選択した場合だけ入力します。
   オブジェクト名は，JP1 イベント種別で「ログファイルトラップ」を選択した場合だけ入力します。
   JP1 イベント種別で「SNMP トラップ」を選択した場合は，どちらも入力は不要です。
   例題では，オブジェクト名に「C:¥Program Files¥Hitachi¥JP1AJS2V¥log¥ajs2view1.log」と入力します。

8. **サンプルメッセージを入力する。**
   サンプルメッセージの［追加］ボタンをクリックして，［サンプルメッセージ追加］ダイアログで入力します。
   例題では，「0101 △ 2009/08/07 △ 14:29:00.568 △△△△△ JP1/AJS3 △ - △ View △△ 00000E74 △ J5AF8B74 △ KAVV219-I △△△△△△△△△△△△△ SEND △ : △ 45b △ 11 △ 13 △ 2」（△：半角スペース）を入力します。

ログファイルから必要なメッセージ部分をコピーして，使用することもできます。

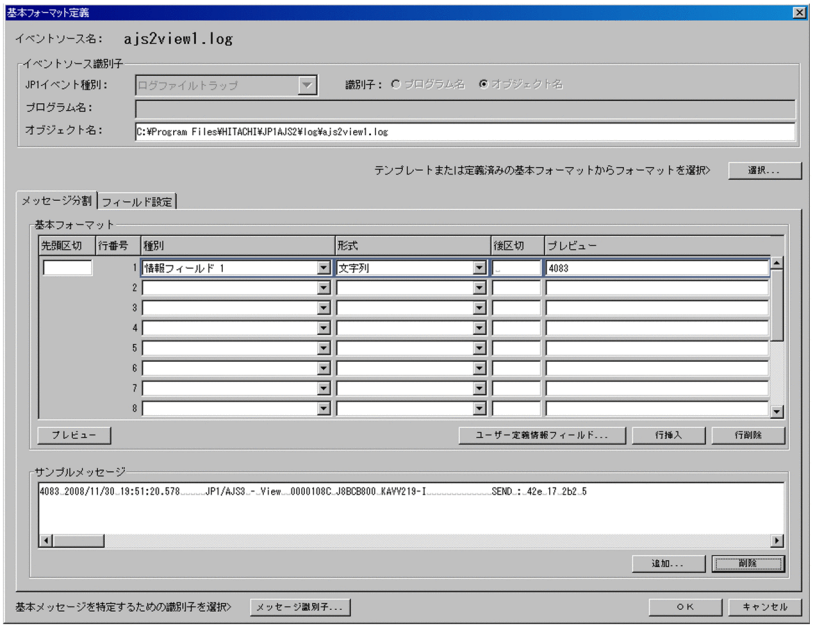
9. **基本フォーマットを入力する。**

サンプルメッセージを参考に，基本フォーマットを定義します。基本フォーマットの定義方法については，「8.3　基本フォーマットを定義する」を参照してください。

10. **基本メッセージを特定するための識別子を選択する。**

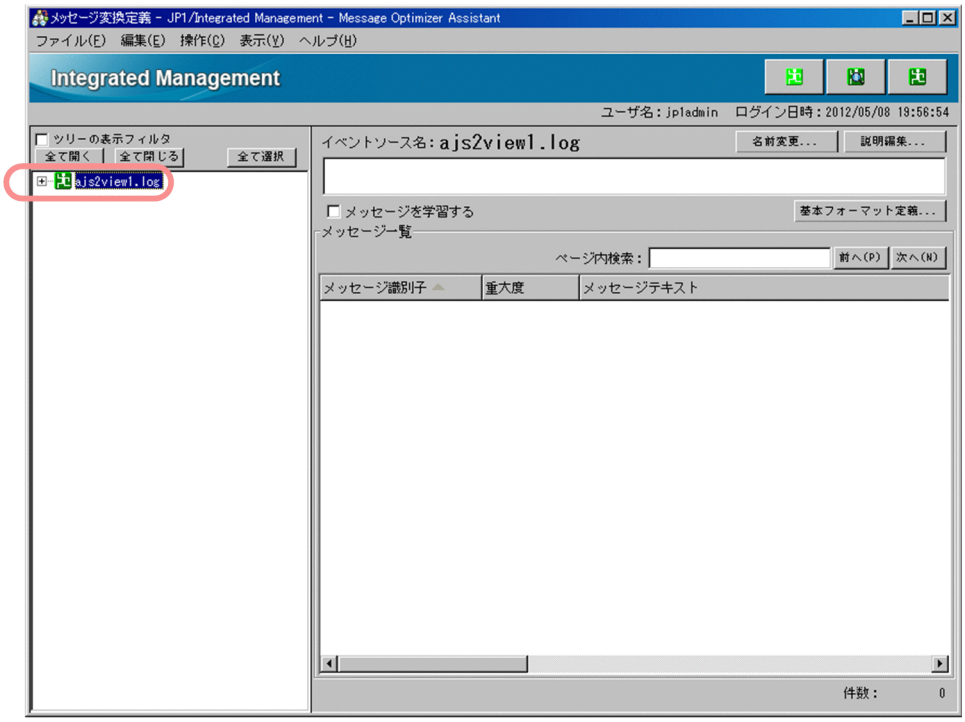
ここでは，メッセージ ID を指定してください。

基本メッセージを特定するための識別子については，「8.3　基本フォーマットを定義する」を参照してください。



11. **[OK] ボタンをクリックする。**

メイン画面に戻り，イベントソースが定義されます。



9.2.3　基本メッセージを定義する（学習機能を停止した場合）

基本メッセージの学習がされていない場合，基本メッセージを手動で入力する必要があります。

また，基本メッセージは定義ファイルを利用して一括定義することもできます。定義ファイルを利用して定義する方法については，「9.12　定義ファイルを利用して一括で定義する」を参照してください。

ここでは，基本メッセージを手動で定義する手順を，8 章の例題を用いて説明します。

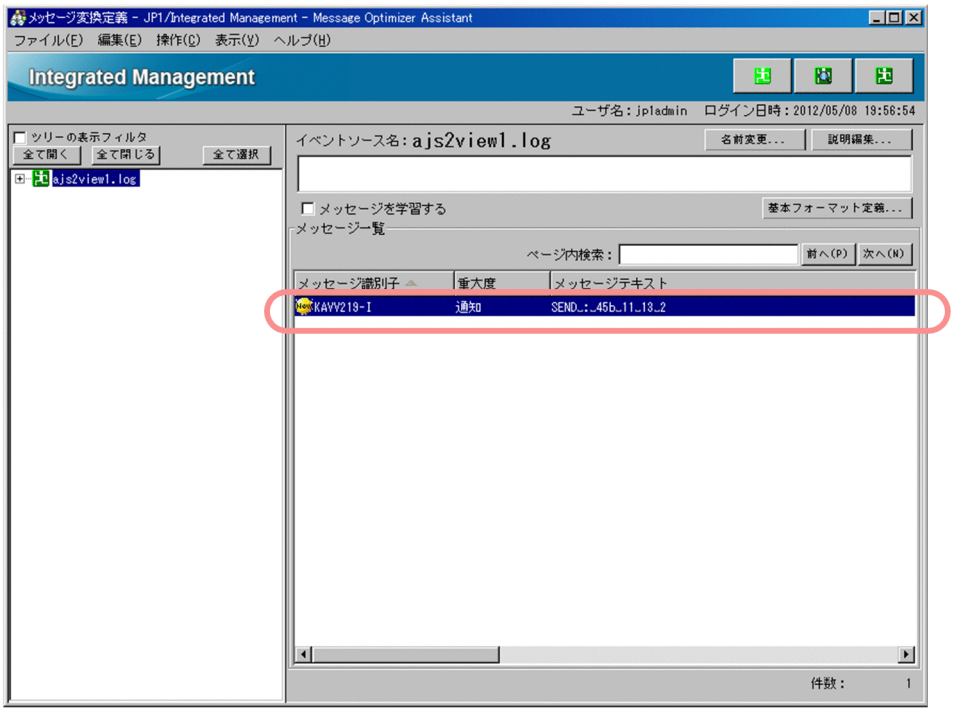
1. **メイン画面の関連ツリーエリアでイベントソースを選択する。**

2. **メニューから［編集］－［新規作成］－［基本メッセージ］を選択する。**
   ［基本メッセージ追加］ダイアログが表示されます。

3. **次の項目を入力する。**
   - JP1 イベントの基本属性値（イベント ID，メッセージ）
   - JP1 イベントの拡張属性値（重大度）

   メッセージは，「8.3　基本フォーマットを定義する」で定義したイベントソースの基本フォーマットの定義に合わせた形式で入力してください。ログファイルから必要なメッセージ部分をコピーして，使用することもできます。
   それぞれの属性値については，マニュアル「JP1/Base　運用ガイド」を参照してください。
   例題では，次のように入力します。
   - イベント ID：「0000」
   - メッセージ：「0101△2009/08/07△14:29:00.568△△△△△JP1/AJS3△-△View△△00000E74△J5AF8B74△KAVV219-I△△△△△△△△△△△△△SEND△:△45b△11△13△2」（△：半角スペース）
   - 重大度：「通知」

4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   基本メッセージが定義されます。



9.2.4　発行元を追加する（学習機能を停止した場合）

学習機能を使用する場合，発行元が自動的に定義されますが，学習機能を停止している場合は，手動で発行元を定義します。

また，発行元は定義ファイルを利用して一括定義することもできます。定義ファイルを利用して一括定義する方法については，「9.12　定義ファイルを利用して一括で定義する」を参照してください。

ここでは，発行元を手動で定義する手順を，8 章の例題を用いて説明します。

1. **メイン画面のメニューバーから［編集］－［発行元］を選択する。**
   ［発行元一覧］ダイアログが表示されます。
2. **［発行元追加］ボタンをクリックする。**
   ［発行元定義］ダイアログが表示されます。
3. **次の項目を定義する。**
   - 発行元の種別※ 1
   - 発行元名※ 2
   - 発行元のサーバ名または IP アドレス

   注※ 1

   JP1/Base がインストールされているホストを発行元とする場合は，［発行元イベントサーバ］を選択してください。それ以外の場合は，［SNMP トラップ発生ソースまたはエージェント］を選択します。

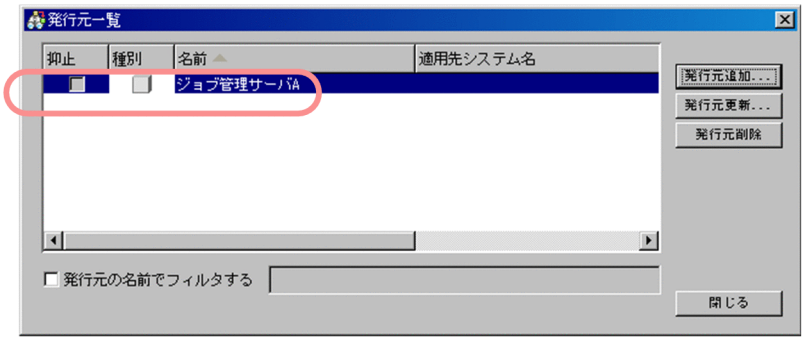
   注※ 2

   変換後のメッセージにホスト名を出力したい場合は，ビューアーに出力したいホスト名を付けてください。

   例題では，次のように設定します。

- 種別：「発行元イベントサーバ」
- 名前：「ジョブ管理サーバ A」
- 発行元イベントサーバ名：「host01」

4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   ［発行元一覧］ダイアログに戻ります。
   発行元一覧に定義した発行元が登録されているかを確認してください。



5. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   メイン画面に戻ります。

9.3　基本フォーマットを文字列以外で区切る

基本フォーマットを区切る方法は推奨する順に次の三つです。

- 基本フォーマットのテンプレートを利用して定義する（推奨）
- 文字列で区切る（推奨）
- バイト単位で区切る

変換したい JP1 イベントのフォーマットに応じて，上記の方法を使い分けてください。

ここではテンプレートを適用する方法とバイト単位で区切る方法を説明します。

文字列で区切る方法については「8.3　基本フォーマットを定義する」を参照してください。

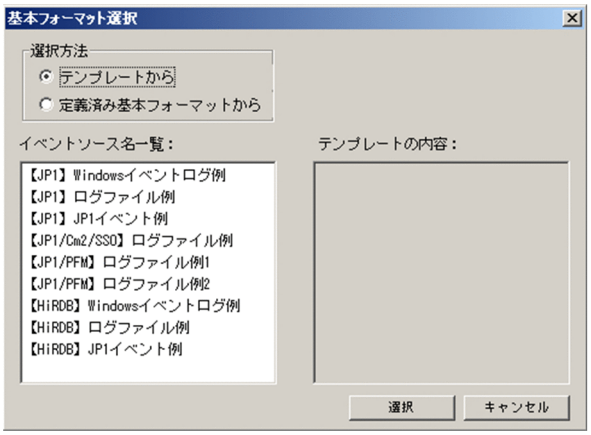
9.3.1　基本フォーマットのテンプレートを適用する（推奨）

JP1/IM - MO では幾つかの製品の基本フォーマットをテンプレートとして提供しています。変換したい JP1 イベントと同じフォーマットまたは似ているフォーマットのテンプレートがある場合は，テンプレートを使用して基本フォーマットを定義します。

提供されているテンプレートについては，「9.3.2　基本フォーマットのテンプレート一覧」を参照してください。

テンプレートを適用して基本フォーマットを定義する手順を次に示します。

1. **メイン画面の関連ツリーエリアでイベントソースを選択する。**
   イベントソースがリリース状態の場合は，リリース解除してください。
2. **［基本フォーマット定義］ボタンをクリックする。**
   ［基本フォーマット定義］ダイアログが表示されます。
3. **［選択］ボタンをクリックする。**
   ［基本フォーマット選択］ダイアログが表示されます。



4. **「イベントソース名一覧」からテンプレートを選択する。**
   例題では，「【JP1】ログファイル例」を選択します。
5. **［選択］ボタンをクリックする。**
   テンプレートが適用され，基本フォーマットが定義されます。
6. **イベントソースの項目を入力する。**
   テンプレートを適用しても，イベントソースの項目は定義されません。

イベントソース名，JP1 イベント種別，プロジェクト名，オブジェクト名，およびメッセージ識別子を入力してください。

7. **正しく分割されるか確認する。**
サンプルメッセージが表示されている場合，サンプルメッセージを選択して［プレビュー］ボタンをクリックすると，正しく分割されているかどうかを確認できます。

8. **テンプレートと異なる部分を修正する。**
サンプルメッセージが正しく分割されていない部分を修正します。
追加または削除する情報がある場合は，［行挿入］ボタンまたは［行削除］ボタンをクリックして設定します。
例題では，「情報フィールド 2」の「後区切」を「△△」（△：半角スペース）と入力してください。

9.3.2 基本フォーマットのテンプレート一覧

JP1/IM - MO が提供する基本フォーマットのテンプレートを次に示します。

表 9-2 JP1/IM - MO が提供する基本フォーマットのテンプレート一覧

項番	名前	ログの分類	想定する製品・ログ
1	【JP1】Windows イベントログ例	Windows イベントログ	JP1 製品が出力する Windows イベントログ
2	【JP1】ログファイル	ログファイル	JP1 製品が出力する hntr ログ
3	【JP1】JP1 イベント	JP1 イベント	JP1 製品が直接出力する JP1 イベント
4	【JP1/Cm2/SSO】ログファイル例	ログファイル	JP1/Cm2/SSO の各製品が出力するログファイル
5	【JP1/PFM】ログファイル例 1		JP1/PFM の各製品が出力するログファイル
6	【JP1/PFM】ログファイル例 2		JP1/PFM の各製品が出力するログファイル
7	【HiRDB】Windows イベントログ例	Windows イベントログ	HiRDB が出力する Windows イベントログ
8	【HiRDB】ログファイル	ログファイル	HiRDB のメッセージログ
9	【HiRDB】JP1 イベント	JP1 イベント	HiRDB が直接出力する JP1 イベント

各テンプレートのフォーマットについて説明します。

(1) 【JP1】Windows イベントログ例

次のように分割されます。

```
KMMM1000-E△メッセージテキスト
     1              2
```

（凡例）
1：メッセージ ID
2：メッセージテキスト
△：半角スペース

(2) 【JP1】ログファイル

次のように分割されます。

```
0001△2009/08/10△08:32:19.812△JBS_SPMD△00000FD4△00000EC0△KAVB3705-I△
 1          2            3            4        5         6          7

メッセージテキスト
          8
```

（凡例）

1：情報フィールド 1
2：日付（形式：YYYY/MM/DD）
3：時刻（形式：hh:mm:ss.sss）
4：情報フィールド 2
5：情報フィールド 3
6：情報フィールド 4
7：メッセージ ID
8：メッセージテキスト
△：半角スペース

(3)【JP1】JP1 イベント

次のように分割されます。

```
KMMM1000-E△メッセージテキスト
    1               2
```

（凡例）

1：メッセージ ID
2：メッセージテキスト
△：半角スペース

(4)【JP1/Cm2/SSO】ログファイル例

次のように分割されます。

```
2009/08/28 12:00:00△メッセージテキスト
          1                   2
```

（凡例）

1：日時（形式：YYYY/MM/DD △ hh:mm:ss）
2：メッセージテキスト
△：半角スペース

(5)【JP1/PFM】ログファイル例 1

次のように分割されます。

```
Aug△19△12:00:00△ホスト名△プロセス名:KAVE00001-I△メッセージテキスト
 1   2       3          4           5            6                7
```

（凡例）

1：月（形式：MMM（英字 3 文字））
2：日（形式：DD）

3：時刻（形式：hh:mm:ss）
4：情報フィールド 1
5：情報フィールド 2
6：メッセージ ID
7：メッセージテキスト
△：半角スペース

(6)【JP1/PFM】ログファイル例 2

次のように分割されます。

```
2009/08/20△22:20:10△jpcnsvr△00000153△00000004△xxx.cpp△0230△
          1              2         3         4         5       6

KAVE00001-I△メッセージテキスト
     7                 8
```

（凡例）
1：日時（形式：YYYY/MM/DD △ hh:mm:ss）
2：情報フィールド 1
3：情報フィールド 2
4：情報フィールド 3
5：情報フィールド 4
6：情報フィールド 5
7：メッセージ ID
8：メッセージテキスト
△：半角スペース

(7)【HiRDB】Windows イベントログ例

次のように分割されます。

```
KFPS04620-I△_LS1△lsd△メッセージテキスト
     1         2    3            4
```

（凡例）
1：メッセージ ID
2：情報フィールド 1
3：情報フィールド 2
4：メッセージテキスト
△：半角スペース

(8)【HiRDB】ログファイル

次のように分割されます。

```
0001△6044△50△_LS1△2009/08/01 12:00:00△127.0.0.1△lsd1△sds01△rld△
  1     2   3     4              5              6       7      8     9

KFPL00720-I△メッセージテキスト
     10             11
```

（凡例）

1：情報フィールド 1
2：情報フィールド 2
3：情報フィールド 3
4：情報フィールド 4
5：日時（形式：YYYY/MM/DD △ hh:mm:ss）
6：情報フィールド 5
7：情報フィールド 6
8：情報フィールド 7
9：情報フィールド 8
10：メッセージ ID
11：メッセージテキスト
△：半角スペース

(9)【HiRDB】JP1 イベント

次のように分割されます。

```
KFPS04620-I△_LS1△lsd△メッセージテキスト
     1          2    3            4
```

（凡例）
1：メッセージ ID
2：情報フィールド 1
3：情報フィールド 2
4：メッセージテキスト
△：半角スペース

9.3.3　バイト単位で区切る

区切り文字がないメッセージテキストを分割する場合は，バイト単位でメッセージテキストを分割します。

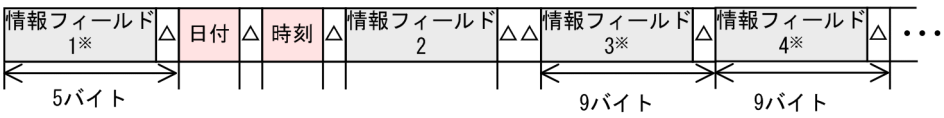
バイト単位で分割する場合，分割する要素間のカラム位置を「先頭区切」または「後区切」にバイト数で指定します。指定できるバイト数の制限値については，「付録 F.2　基本フォーマット定義の区切り情報」を参照してください。

なお，バイト単位で区切る方法と文字列で区切る方法は，分割する要素ごとに指定できます。

バイト単位で区切る場合は，「3.3.3(1)　基本フォーマット」のバイト単位で区切る場合の注意事項を参照してください。

例題では，JP1/AJS3 のログファイルに出力される KAVV219-I のメッセージテキストを変換します。例題で使用するメッセージテキストを，バイト単位で区切る場合のイメージを次の図に示します。

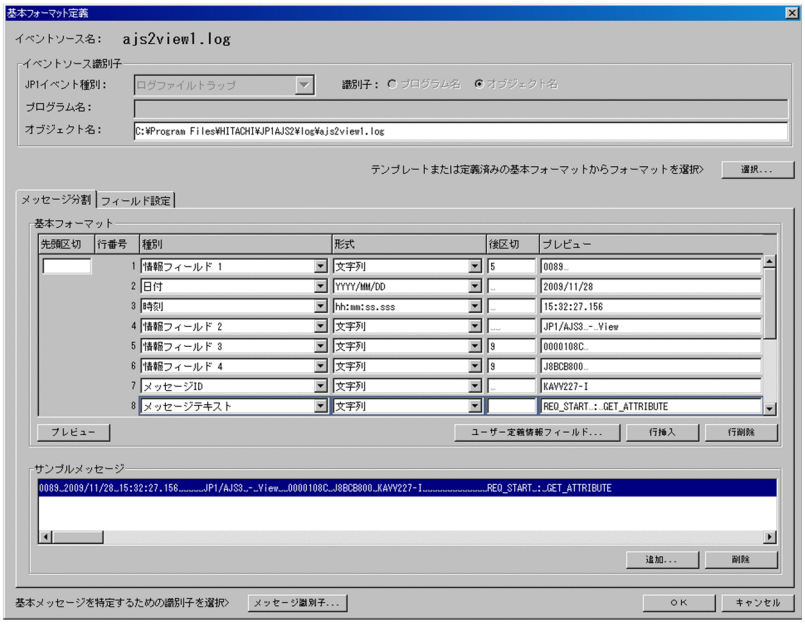
図 9-1　例題で使用するメッセージをバイト単位で区切る場合のイメージ



（凡例）
△：半角スペース

注※
ここでは，バイト数が固定された情報とする。

「8.3　基本フォーマットを定義する」の例題をバイト数で区切った例を次の図に示します。



9.4　基本メッセージにない要素を変換メッセージに埋め込む

JP1/IM - MO では，変換メッセージに出力したい要素をフィールドに定義して，基本メッセージ（JP1 イベントのメッセージテキスト部分）にはない要素を，変換メッセージ（JP1/IM - MO で変換したあとの JP1 イベントのメッセージテキスト部分）に埋め込めます。これらの情報を埋め込むことで，次に示すようなことができます。

● **メッセージ部分に監視に必要な情報を表示する**
メッセージ部分に，監視に必要な情報を表示すると，メッセージを見るだけで問題の発生個所や，発生した時刻などがわかるようになります。

● **変換フォーマットを統一する**
ほかのメッセージにはあってそのメッセージにはない要素を埋め込むことで，変換後のフォーマットを統一できます。

変換メッセージに埋め込める要素は次の 2 種類です。

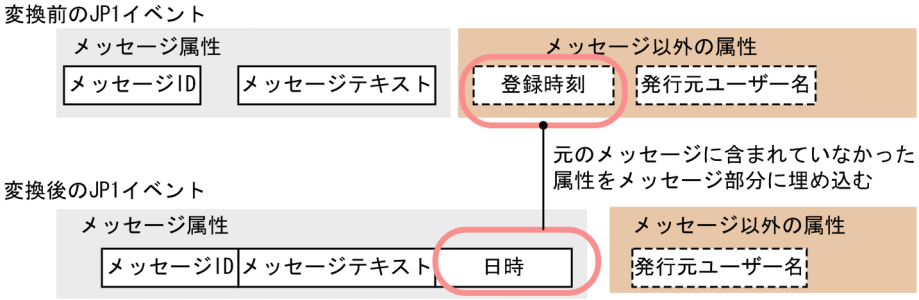
● JP1 イベントのメッセージ以外の属性

● JP1/IM - MO で独自に定義した項目

9.4.1　JP1 イベントのメッセージ以外の要素を変換メッセージに埋め込む

JP1 イベントのメッセージ以外の要素を変換メッセージに埋め込む例を次に示します。

図 9-2　基本メッセージにない JP1 イベントの属性を埋め込む例



この例のように変換後のメッセージに，メッセージが発行された「日時」の情報を表示したい場合は，元の JP1 イベントが持っている基本属性である「登録時刻」を，基本フォーマットの「フィールド」に埋め込み，変換後のフォーマットに「日時」を含んだフォーマットを指定します。この結果，ビューアーには「日時」の情報が埋め込まれたメッセージが表示されます。

基本メッセージにない JP1 イベントの属性を変換メッセージに埋め込む手順を次に示します。

1. **メイン画面の関連ツリーエリアで対象となるイベントソースを選択する。**
対象となるイベントソースがリリース状態の場合は，リリース解除してください。

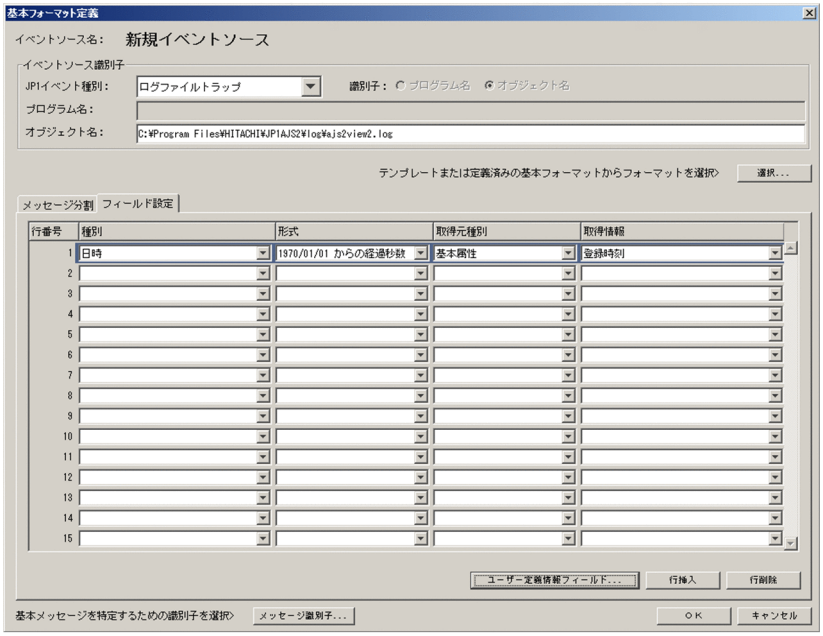
2. **［基本フォーマット定義］ボタンをクリックする。**
［基本フォーマット定義］ダイアログが表示されます。

3. **基本フォーマットを定義する。**

基本フォーマットの定義方法については，「8.3　基本フォーマットを定義する」を参照してください。

4. **［フィールド設定］タブをクリックする。**

ここで，変換後のメッセージに埋め込む属性と，取得元となる JP1 イベントの属性を定義します。
変換後のメッセージに，「日時」を埋め込むときの定義例を次の図に示します。



5. **［OK］ボタンをクリックする。**

［基本フォーマット定義］ダイアログが閉じます。

6. **メイン画面で，メニューバーから［編集］－［変換フォーマット］を選択する。**

［変換フォーマット一覧］ダイアログが表示されます。

7. **［追加］ボタンをクリックする。**

［変換フォーマット定義］ダイアログが表示されます。手順 4 で［フィールド設定］タブで追加した属性を含めて変換フォーマットを定義してください。変換フォーマットの定義方法については，「8.4　変換フォーマットを定義する」を参照してください。
変換後のメッセージに，「日時」を埋め込むときの定義例を次の図に示します。

8. **［OK］ボタンをクリックする。**
   ［変換フォーマット定義］ダイアログが閉じます。

9. **［変換フォーマット一覧］ダイアログの［リリース許可］ボタンをクリックする。**
   アイコンが「 （リリース許可状態）」に変わります。

10. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
    メイン画面に戻ります。

11. **メイン画面の［リリース］ボタンをクリックする。**
    アイコンが「 （リリース状態）」に変わります。これで定義は終了です。

9.4.2　JP1/IM - MO で定義した要素を変換メッセージに埋め込む

JP1/IM - MO で定義した発行元名や適用先システム名を，メッセージとして出力し，監視しやすくします。

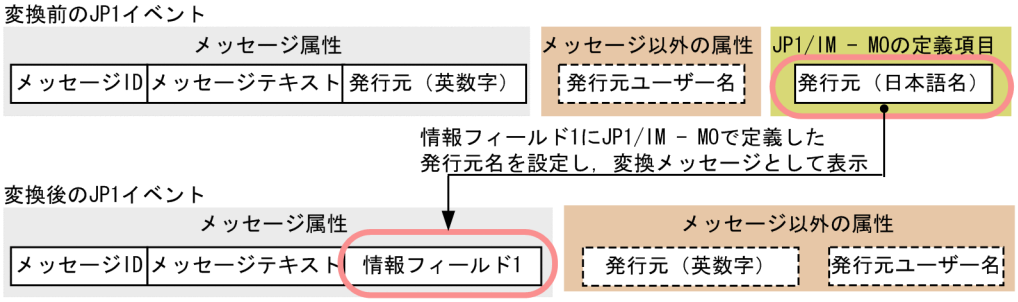
例えば，発行元イベントサーバ名や，JP1/IM - Manager の拠点マネージャーのホスト名は，英数字で出力されるためわかりにくいことがあります。このような場合に，出力したいサーバ名を「発行元名」，拠点マネージャーホスト名や監視グループ名を「適用先システム名」として日本語で定義して，JP1/IM - View のメッセージ中に直感的に理解しやすい名称を出力できます。

監視グループについては，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」を参照してください。

JP1/IM - View のメッセージ中に埋め込める JP1/IM - MO の要素については，「15.1.2　JP1/IM - MO が変換した JP1 イベントの詳細」の「JP1/IM - MO 固有情報」を参照してください。

JP1/IM - MO で定義した要素を変換メッセージに埋め込む例として，ホスト名（図中の発行元（英数字））を日本語に変更する場合を次の図に示します。なお，監視グループ名を日本語に変更したい場合は，「ホスト名（発行元（英数字））」を「監視グループ名」，「ホスト名（発行元（日本語名））」を「適用先システム名」に読み替えてください。

図 9-3　メッセージ中のホスト名を日本語に変換する



手順を次に示します。

1. **変換後のメッセージに出力したい発行元名を定義する。**
   学習機能を使用したり，IM 構成管理情報をインポートしたりして発行元を定義した場合は，発行元が英数字のまま出力されています。発行元名を日本語に変更したいときには JP1/IM - MO で発行元（日本語名）を定義する必要があります。発行元名を変更する操作については，「9.2.4　発行元を追加する（学習機能を停止した場合）」を参照してください。
2. **［基本フォーマット定義］ボタンをクリックする。**
   ［基本フォーマット定義］ダイアログが表示されます。
3. **基本フォーマットを定義する。**
   基本フォーマットの定義方法については，「8.3　基本フォーマットを定義する」を参照してください。
4. **［フィールド設定］タブをクリックする。**
   次のように指定します。
   - ［種別］および［形式］に「情報フィールド 1」
   - ［取得元種別］に「JP1/IM - MO 固有情報」
   - ［取得元情報］に「イベント発行元名」

以降は JP1 イベントのメッセージ以外の要素を変換メッセージに埋め込む場合と同様に，［フィールド設定］タブで追加した属性を含めて変換フォーマットを定義します。

以降の操作については，「9.4.1　JP1 イベントのメッセージ以外の要素を変換メッセージに埋め込む」を参照してください。

9.5 イベントソースを定義していないメッセージに共通の文言を追加する

JP1/IM の監視対象ホストに新しいアプリケーションを追加した場合などには，JP1/IM - MO で定義していないメッセージがビューアーに出力されます。それらのメッセージに固定の文言やシステム名などを出力したいときには，イベントソース種別ごと，またはすべてのイベントソースに共通の基本フォーマットを定義します。

ここでは，Windows イベントログの共通定義を作成し，JP1/IM - MO では定義していない Windows イベントログのメッセージに固定の文字列を追加する手順について説明します。なお，すでにイベントソースが定義されている Windows イベントログには，個別の変換定義がそのまま適用されます。

1. **メニューバーから［編集］-［新規作成］-［イベントソース］を選択する。**
   新しいイベントソースが作成されます。
2. **［名前変更］ボタンをクリックし，表示された画面で名称を変更する。**
   「Windows イベントログ共通定義」など共通定義であることがわかる名称に変更してください。
3. **［OK］ボタンクリックする。**
4. **メイン画面の［基本フォーマット定義］ボタンクリックする。**
5. **［基本フォーマット定義］ダイアログの［イベントソース識別子］で次の設定をする。**
   - ［JP1 イベント種別］に「イベントログトラップ（共通）」を選択する。
   - ［識別子］，［プログラム名］および［オブジェクト名］には何も入力できません。
6. **［基本フォーマット定義］ダイアログの［メッセージ分割］タブで次のように設定する。**
   - ［先頭区切］には入力しない。
   - ［種別］に「メッセージテキスト」を選択する。
   - ［形式］に「文字列」を入力する。
   - ［後区切］には入力しない。
7. **［基本フォーマット定義］ダイアログの［フィールド設定］タブで次のように設定する。**
   - ［種別］に「ユーザー定義情報フィールド 01」を選択する。
   - ［形式］に「文字列」を選択する。
   - ［取得元種別］に「固定値」を選択する。
   - ［取得情報］に「［Windows イベントログ］」を入力する。
8. **［OK］ボタンをクリックする。**
9. **メニューバーから［編集］-［変換フォーマット］を選択する。**
10. **［変換フォーマット一覧］ダイアログの［追加］ボタンをクリックする。**
11. **［変換フォーマット定義］ダイアログで次のように設定する。**
    - ［先頭区切］には入力しない。
    - 1 行目の［種別］に「ユーザー定義情報フィールド 01」を選択する。
    - 1 行目の［形式］に「文字列」を選択する。
    - 1 行目の［長さ］および［後区切］には入力しない。
    - 2 行目の［種別］に「メッセージテキスト」を選択する。
    - 2 行目の［形式］に「文字列」を選択する。
    - 2 行目の［長さ］および［後区切］には入力しない。
12. **［OK］ボタンをクリックする。**

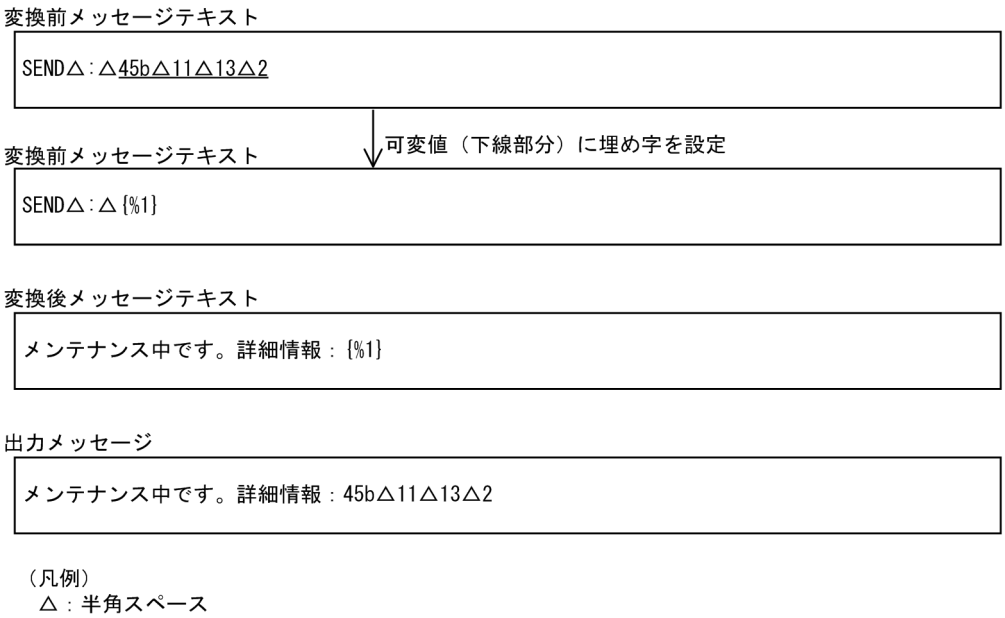
13. **メイン画面のメニューバーから，［編集］－［適用先システム］を選択する。**
14. **［適用先システム一覧］ダイアログで定義を適用する適用先システムを選択して，［編集］ボタンをクリックする。**
15. **［適用先システム定義］ダイアログで，［変換フォーマット選択］ボタンをクリックする。**
16. **［変換フォーマット選択］ダイアログで，手順 11 で追加した変換フォーマットを選択する。**
17. **［変換フォーマット選択］ダイアログの［選択］ボタンをクリックする。**
18. **［適用先システム定義］ダイアログで［OK］ボタンをクリックする。**
    これで定義は完了です。

作成した定義をリリースすると，それ以降発行された未定義の Windows イベントログの先頭に「［Windows イベントログ］」が追加されたメッセージがビューアーに表示されます。

9.6　メッセージテキストの可変値に埋め字を設定する

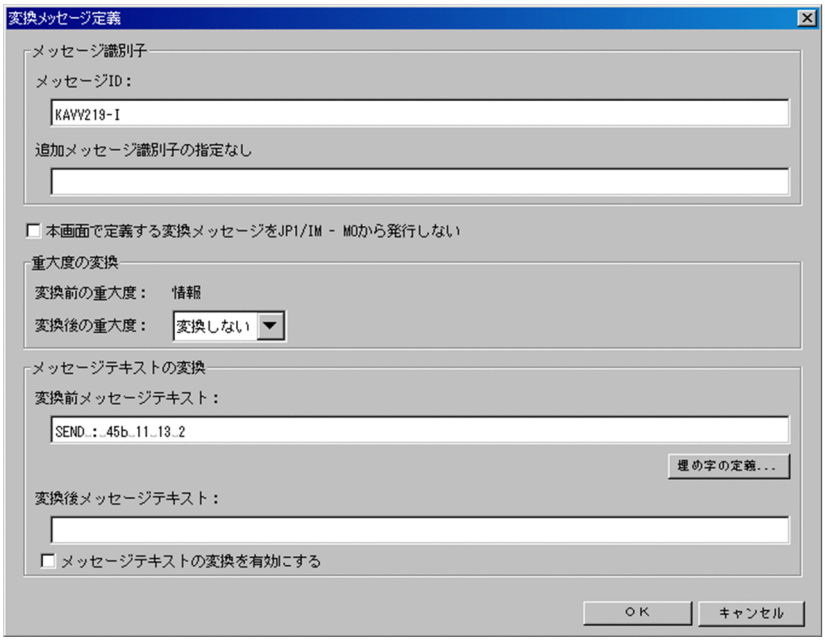
基本メッセージ中に可変値がある場合，その部分に埋め字を設定すると，可変値の部分が変換されたメッセージを出力できます。

図 9-4　メッセージテキストに可変値がある場合の定義のイメージ



埋め字を設定する手順を次に示します。

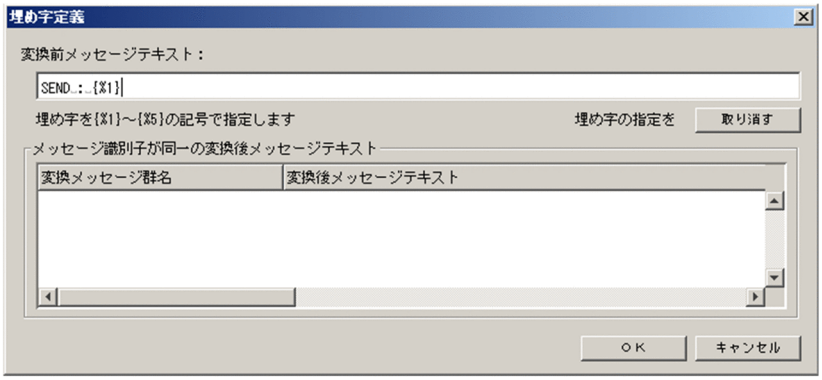
1. **メイン画面の関連ツリーエリアで，変換対象の変換メッセージ群を選択する。**
2. **メッセージ一覧から変換対象のメッセージをダブルクリックする。**
   ［変換メッセージ定義］ダイアログが表示されます。



3. **［埋め字の定義］ボタンをクリックする。**

［埋め字定義］ダイアログが表示されます。

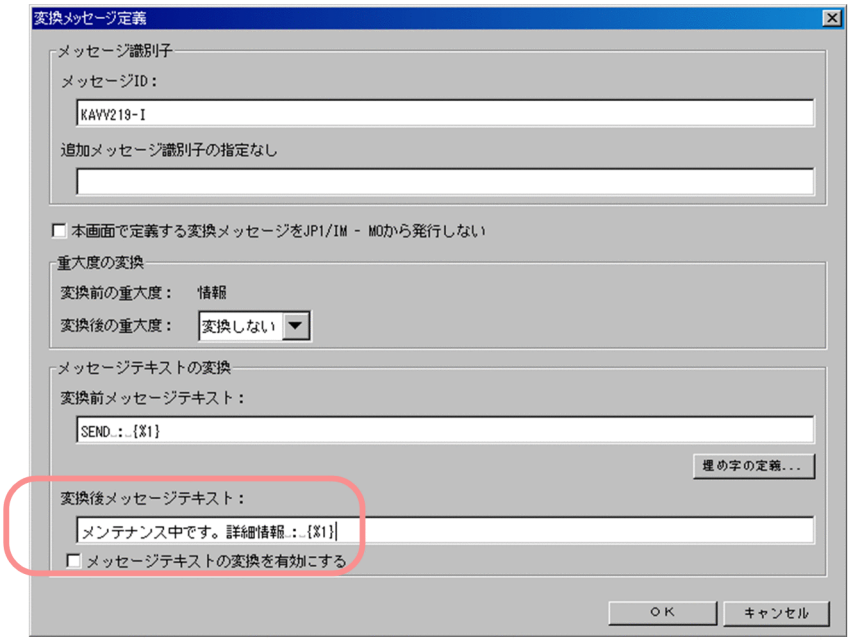
4. **変換前のメッセージテキスト中の可変値に対して埋め字を指定する。**



5. **［OK］ボタンをクリックする。**

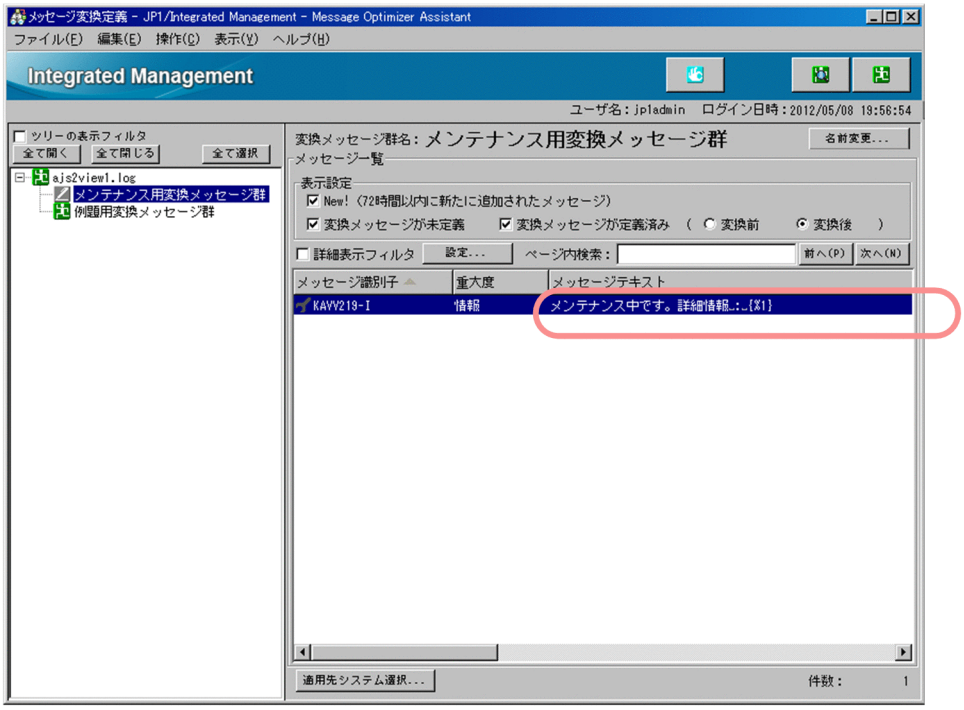
［埋め字定義］ダイアログが閉じ，［変換メッセージ定義］ダイアログに戻ります。

6. **メッセージのテキストを変換する場合は，変換後メッセージテキストを指定し，［メッセージテキストの変換を有効にする］をチェックする。**



7. **［OK］ボタンをクリックする。**

埋め字が定義されます。


メッセージ変換定義 - JP1/Integrated Management - Message Optimizer Assistant
ファイル(F) 編集(E) 操作(C) 表示(V) ヘルプ(H)
Integrated Management
ユーザ名：jpladmin ログイン日時：2012/05/08 19:56:54
ツリーの表示フィルタ
全て開く
全て閉じる
全て選択
ajs2view1.log
メンテナンス用変換メッセージ群
例題用変換メッセージ群
変換メッセージ群名：メンテナンス用変換メッセージ群
名前変更...
メッセージ一覧
表示設定
New!（72時間以内に新たに追加されたメッセージ）
変換メッセージが未定義
変換メッセージが定義済み
変換前
変換後
詳細表示フィルタ
設定...
ページ内検索：
前へ(P)
次へ(N)
メッセージ識別子
重大度
メッセージテキスト
KAVV219-I
情報
メンテナンス中です。詳細情報...:...[%1]
適用先システム選択...
件数：
1

9.7　適用先システムを定義する

8 章では，定義した変換フォーマットや変換メッセージ群を，JP1/IM - Manager が監視するシステム全体に適用しました。

ここでは，適用先システムを複数定義し，一部の適用先システムに変換フォーマットや変換メッセージ群を適用する方法を説明します。

適用先システムの定義方法は次の二つです。

- GUI で 1 件ずつ定義する方法
- 定義ファイルで一括して定義する方法
  定義ファイルで一括して定義する方法については，「9.12　定義ファイルを利用して一括で定義する」を参照してください。

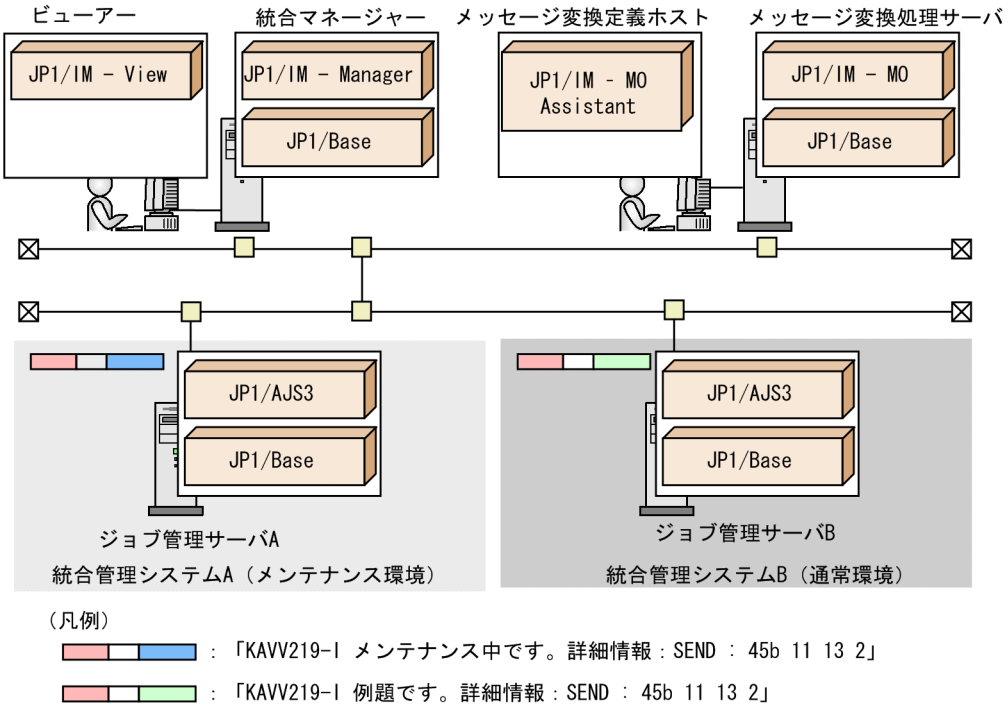
ここでは，GUI で適用先システムを複数定義し，一部の適用先システムに変換フォーマットや変換メッセージ群を適用する方法を説明します。

説明では，次の例を用います。

適用先システムの定義例

8 章で使用したシステムの例を次のように変更します。
ジョブ管理サーバ A をメンテナンスすると仮定し，通常環境とメンテナンス環境で，出力されるメッセージテキストを変えます。
そのイメージを次の図に示します。

図 9-5　変換メッセージを切り替えるイメージ



次の順番で操作します。

1. メンテナンス環境を適用先システムとして定義する。
2. メンテナンス環境に適用する変換メッセージ群を作成する。

3. 変換メッセージ群と適用先システムを結び付ける。
   手順 2 で作成した変換メッセージ群に，メンテナンス環境用の適用先システムを結び付けます。
4. リリースする。
   適用先システムと変換メッセージ群をリリースし，変換を開始します。

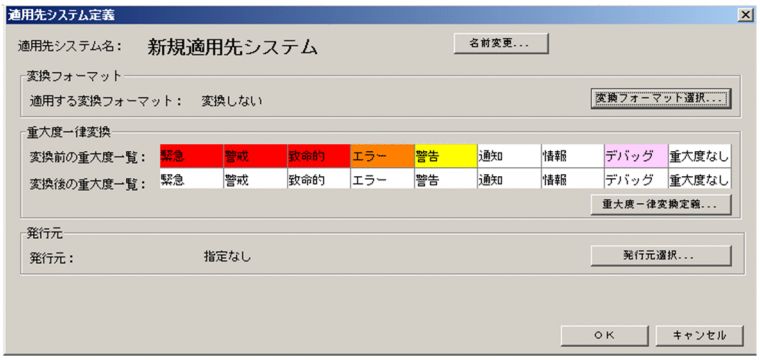
(1) メンテナンス環境を適用先システムとして定義する

手順を次に示します。

1. **メイン画面のメニューバーから，［編集］－［適用先システム］を選択する。**
   ［適用先システム一覧］ダイアログが表示されます。

「全てのシステム」は，JP1/IM - MO が接続している JP1/IM - Manager の監視システム全体のことです。
「全てのシステム」の 1 階層下に，メンテナンス環境用の適用先システムを定義します。

2. **「全てのシステム」を選択して［追加］ボタンをクリックする。**
   ［適用先システム定義］ダイアログが表示されます。



3. **［名前変更］ボタンをクリックして名前を変更する。**
   ［適用先システム名変更］ダイアログが表示されます。
   例題では，「例題用メンテナンス環境」と名前を変更します。
4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   ［適用先システム定義］ダイアログに戻ります。
5. **［変換フォーマット選択］ボタンをクリックし，変換フォーマットを選択する。**
   ［変換フォーマット選択］ダイアログが表示されます。
   作成する適用先システムに適用する変換フォーマットを選択します。
   例題では，「例題用変換フォーマット」を選択します。

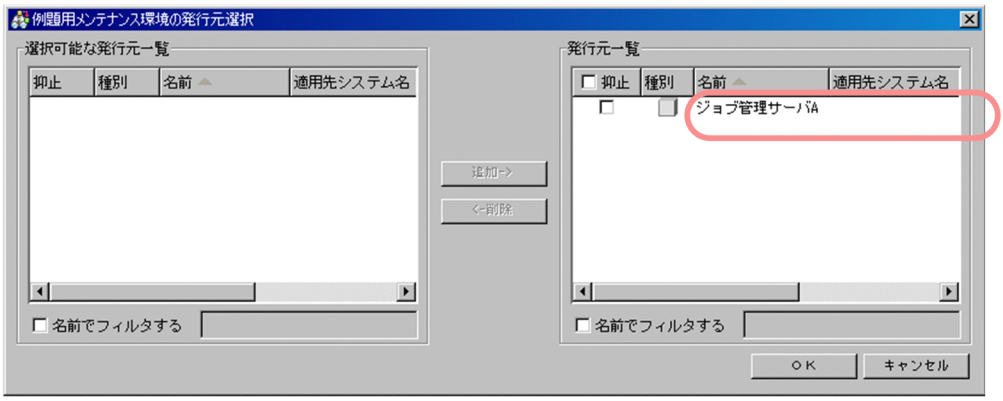
6. **［選択］ボタンをクリックする。**
   ［適用先システム定義］ダイアログに戻ります。

7. **［発行元選択］ボタンをクリックする。**
   ［xx の発行元選択］ダイアログが表示されます。
   「xx」の部分には，適用先システム名が表示されます。
   例題では，［例題用メンテナンス環境の発行元選択］ダイアログが表示されます。

   「選択可能な発行元一覧」には，メッセージの発行元ホスト名が表示されます。学習機能を使用している場合，発行元ホストが発行した JP1 イベントから，自動的に定義されます。
   発行元ホスト名が表示されていない場合は，発行元を手動で定義する必要があります。発行元を手動で定義する手順については，「9.2.4　発行元を追加する（学習機能を停止した場合）」を参照してください。

8. **「選択可能な発行元一覧」から発行元を選択する。**
   例題では，「ジョブ管理サーバ A」を選択します。

9. **［追加］ボタンをクリックする。**
   「ジョブ管理サーバ A」が「発行元一覧」に追加されます。



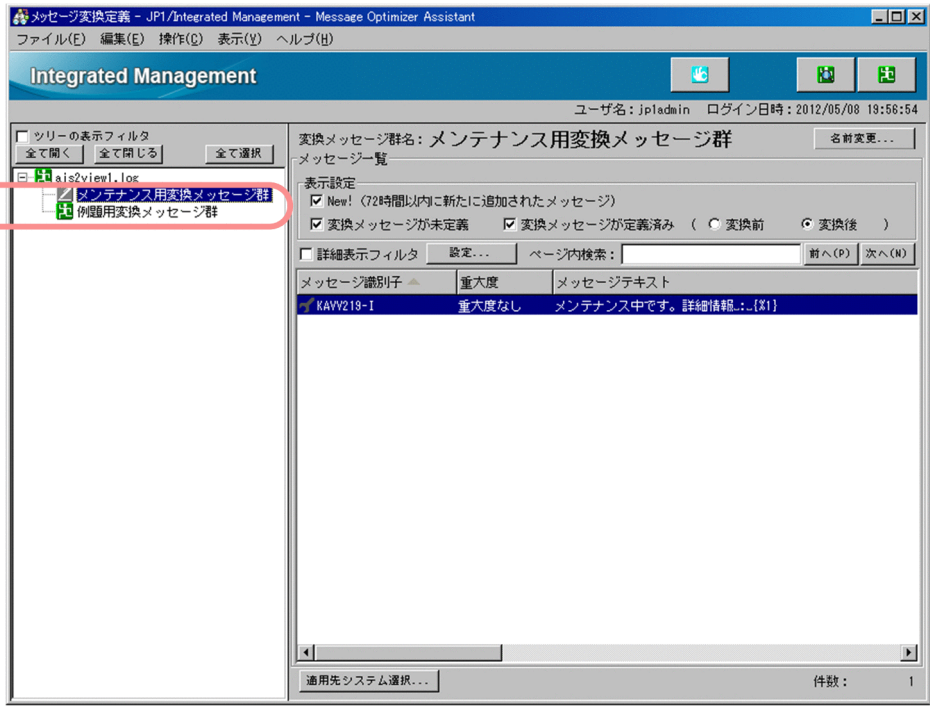
10. **［OK］ボタンをクリックする。**
    ［適用先システム定義］ダイアログに戻ります。

11. **［OK］ボタンをクリックする。**
    ［適用先システム一覧］ダイアログに戻ります。

12. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
    メイン画面に戻ります。
    これで，メンテナンス環境を適用先システムとして定義できました。

(2) メンテナンス環境に適用する変換メッセージ群を定義する

1. **メイン画面で，変換メッセージ群を選択する。**
   例題では，「例題用変換メッセージ群」を選択します。
2. **メイン画面で，メニューバーの［編集］－［新規作成］－［変換メッセージ群複製］を選択する。**
   「コピー例題用変換メッセージ群」が作成されます。
3. **作成された変換メッセージ群を選択する。**
4. **［名前変更］ボタンをクリックして名前を変更する。**
   例題では，「メンテナンス用変換メッセージ群」と名前を変更します。
5. **［OK］ボタンをクリックする。**
   メイン画面に戻ります。



6. **メンテナンス用の変換メッセージ群の設定を変更する。**
   メンテナンス中には監視する必要のないメッセージのメッセージテキストを変更するなど，メンテナンス用の変換メッセージ群の設定を変更します。
   例題では，KAVV219-I のメッセージをダブルクリックして［変換メッセージ定義］ダイアログを表示し，変換後のメッセージテキストに「メンテナンス中です。詳細情報：{%1}」と入力します。

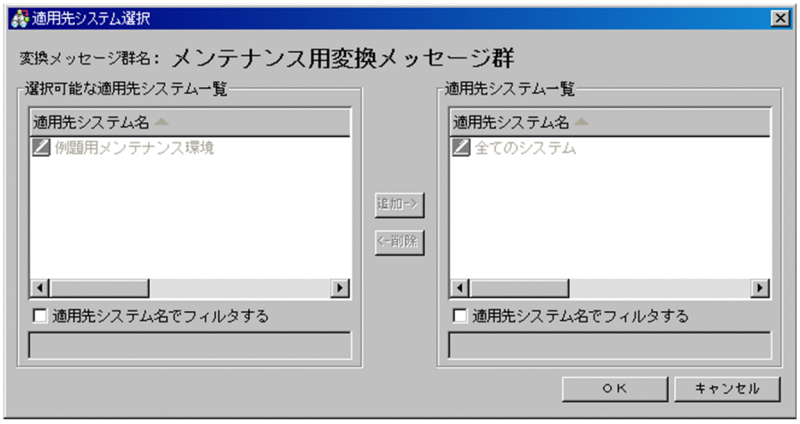
7. **［OK］ボタンをクリックする。**
   これで，メンテナンス用の変換メッセージ群を定義できました。

(3) 変換メッセージ群と適用先システムを結び付ける

次に，定義した変換メッセージ群「メンテナンス用変換メッセージ群」と適用先システム「例題用メンテナンス環境」を結び付けます。

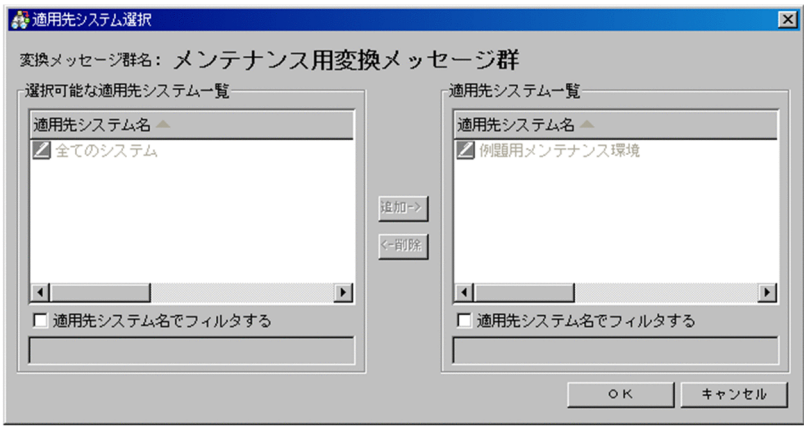
手順を次に示します。

1. **メイン画面で，定義した変換メッセージ群「メンテナンス用変換メッセージ群」を選択する。**
2. **リストエリアの下にある［適用先システム選択］ボタンをクリックする。**
   ［適用先システム選択］ダイアログが表示されます。



3. **「適用先システム一覧」から「全てのシステム」を選択する。**
4. **［削除］ボタンをクリックする。**
   「全てのシステム」が「選択可能な適用先システム一覧」に追加されます。
5. **「選択可能な適用先システム一覧」から適用先システムを選択する。**
   例題では，「例題用メンテナンス環境」を選択します。

6. **［追加］ボタンをクリックする。**
「例題用メンテナンス環境」が「適用先システム一覧」に追加されます。



7. **［OK］ボタンをクリックする。**
メイン画面に戻ります。
これで，変換メッセージ群の適用先システムとして，メンテナンス環境用システムが結び付きました。

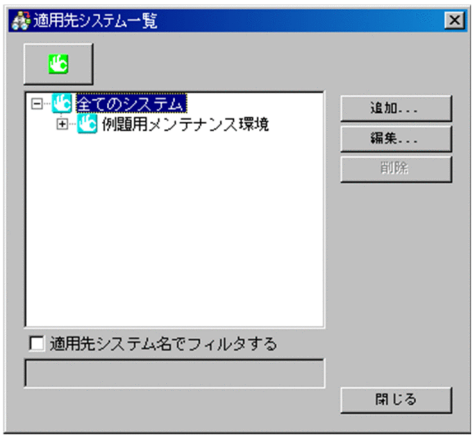
(4) リリースする

次に，適用先システム「例題用メンテナンス環境」と変換メッセージ群「メンテナンス用変換メッセージ群」をリリースします。

手順を次に示します。

1. **メイン画面のメニューバーから，［編集］－［適用先システム］を選択する。**
［適用先システム一覧］ダイアログが表示されます。

2. **「全てのシステム」を選択し，［ ］ボタンをクリックする。**
確認ダイアログの［はい］ボタンをクリックすると，「全てのシステム」および「例題用メンテナンス環境」の横にあるアイコンが「 （リリース許可状態）」に変わります。



3. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
メイン画面に戻ります。

次に，変換メッセージ群をリリース許可します。

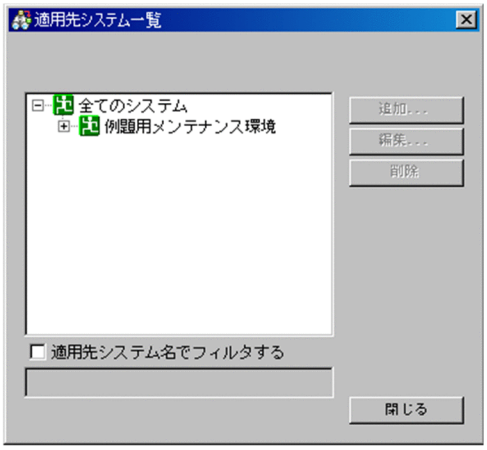
4. **メイン画面で，変換メッセージ群「メンテナンス用変換メッセージ群」を選択し，[ ] ボタンをクリックする。**

   確認ダイアログの［はい］ボタンをクリックすると，変換メッセージ群「メンテナンス用変換メッセージ群」の横にあるアイコンが「（リリース許可状態）」に変わります。

   最後に，適用先システムと変換メッセージ群をリリースします。

5. **[ ] ボタンをクリックする。**

   確認ダイアログの［はい］ボタンをクリックすると，変換メッセージ群「メンテナンス用変換メッセージ群」の横にあるアイコンが「（リリース状態）」に変わります。
   また，［適用先システム一覧］ダイアログを表示すると，「全てのシステム」および「例題用メンテナンス環境」の横にあるアイコンが「（リリース状態）」に変わっています。



   これで，メンテナンス環境だけに，変換メッセージ群「メンテナンス用変換メッセージ群」が適用されます。

9.8　メッセージの重大度を変更する

JP1/IM - View では，JP1 イベントが重大度ごとに色分けされており，色で緊急性を判断できます。しかし，運用するシステムによっては，エラーメッセージならすべて緊急性が高いとは限りません。また，通知メッセージでも緊急性が高いものもあります。

JP1/IM - MO では運用上注意が必要なメッセージを見分けるために，重大度を変更できます。重大度を変更する方法には次の二つがあります。

- メッセージごとに重大度を変換する
  メッセージ 1 件ごとに重大度を変更できます。
- 適用先システムごとに重大度を変換する
  適用先システムごとに，重大度を変更できます。
  例えば，次のように設定できます。

  適用先システム A
  　　通知メッセージの重大度：エラー

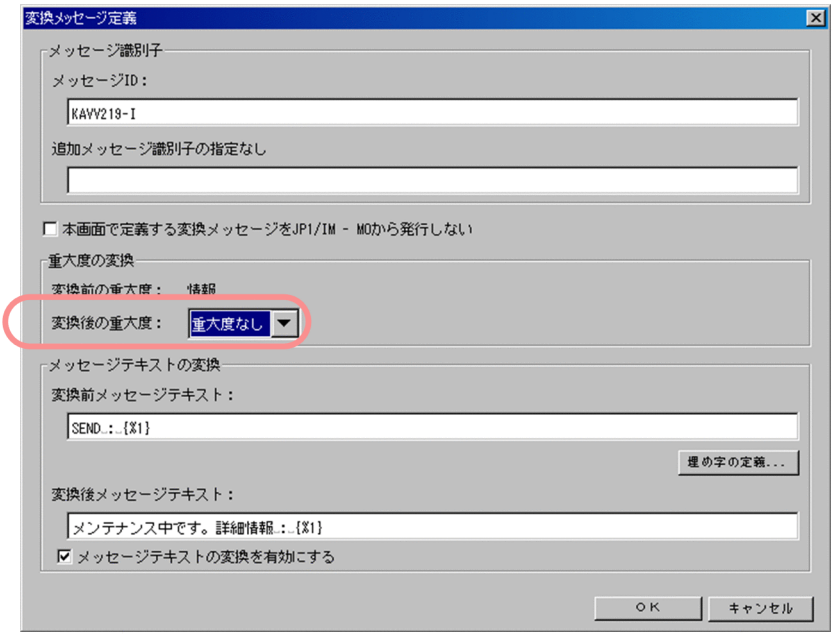
  適用先システム B
  　　通知メッセージの重大度：通知

ここでは，それぞれの手順について説明します。

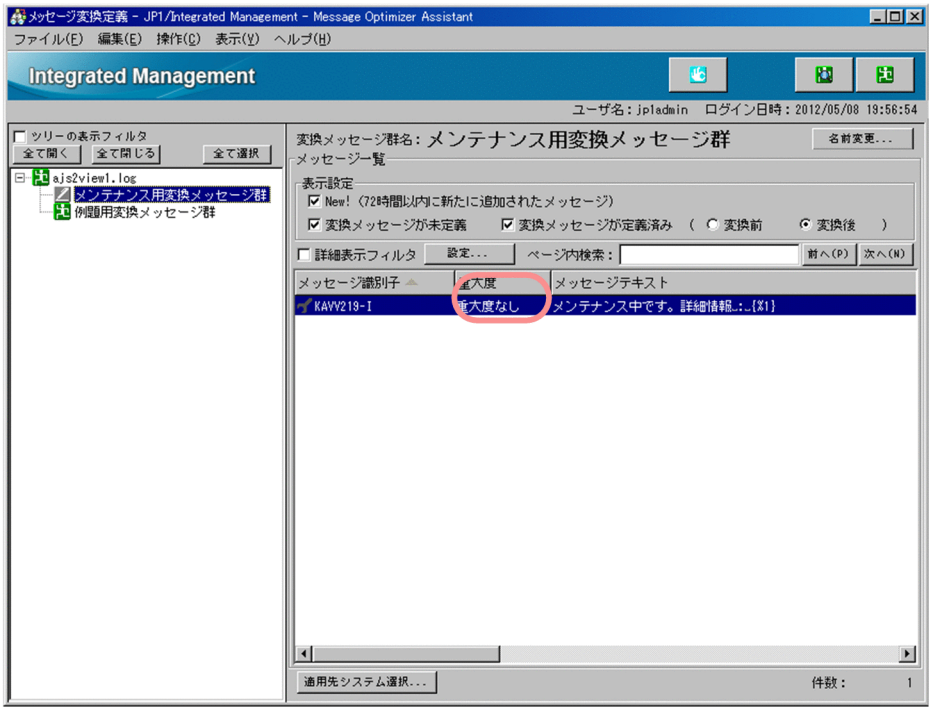
9.8.1　メッセージごとに重大度を変換する

重大度をメッセージごとに変換する手順を次に示します。

1. **メイン画面の関連ツリーエリアで変換対象のイベントソースを選択する。**
2. **重大度を変更したいメッセージをダブルクリックする。**
   ［変換メッセージ定義］ダイアログが表示されます。
3. **「変換後の重大度」で変換後の重大度を選択する。**
   ここでは，「重大度なし」を選択します。



4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   メイン画面に戻ります。
   「重大度」が，設定した重大度になっていることを確認してください。



9.8.2 適用先システムごとに重大度を変換する

メッセージを適用先システムごとに変換する手順を次に示します。

1. **メイン画面のメニューバーから［編集］－［適用先システム］を選択する。**
   ［適用先システム一覧］ダイアログが表示されます。

2. **適用先システムを選択して［編集］ボタンをクリックする。**
   ［適用先システム定義］ダイアログが表示されます。
3. **［重大度一律変換定義］ボタンをクリックする。**
   ［重大度一律変換定義］ダイアログが表示されます。
4. **重大度ごとに，変換後の重大度を選択する。**

5. ［OK］ボタンをクリックする。

［適用先システム定義］ダイアログに戻ります。

「変換後の重大度一覧」が，設定した重大度になっていることを確認してください。

9.9　メッセージを抑止する

ここでは，JP1/IM - MO でメッセージを抑止する次の方法について説明します。

- 個別メッセージ単位での JP1 イベント生成の抑止
- ホスト単位での JP1 イベント生成の抑止

上記以外に，JP1/IM - Manager でユーザーフィルターを設定して，JP1/IM - View に表示する JP1 イベントを制限することもできます。ユーザーフィルターについては，「4.3.6　JP1/IM - View の設定」を参照してください。

9.9.1　個別メッセージ単位での JP1 イベント生成の抑止

JP1/IM - MO では，個別メッセージ単位で JP1 メッセージ監視中に出力させたくない JP1 イベントの生成を抑止することができます。

個別メッセージ単位での JP1 イベント生成の抑止は，各メッセージに対して設定します。

メッセージを抑止する手順を次に示します。

1. **メイン画面の関連ツリーエリアで変換対象の変換メッセージ群を選択する。**
2. **メッセージ一覧から対象のメッセージをダブルクリックする。**
   ［変換メッセージ定義］ダイアログが表示されます。
3. **［本画面で定義する変換メッセージを JP1/IM - MO から発行しない］をチェックする。**
4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   選択したメッセージは，JP1/IM - MO から発行されなくなります。

9.9.2　ホスト単位での JP1 イベント生成の抑止

メッセージ監視運用中の定期的なサーバメンテナンスのときなどに，メンテナンス対象のサーバを指定して，監視対象ではない JP1 イベントを抑止します。

ホスト単位での JP1 イベント生成の抑止は，適用先システムを構成する発行元に対して設定します。

メッセージを抑止する手順を次に示します。

1. **メイン画面のメニューバーから［編集］－［適用先システム］を選択する。**
   ［適用先システム一覧］ダイアログが表示されます。
2. **適用先システムを選択して［編集］ボタンをクリックする。**
   ［適用先システム定義］ダイアログが表示されます。
3. **［発行元選択］ボタンをクリックする。**
   ［発行元選択］ダイアログが表示されます。
4. **「発行元一覧」で，JP1 イベント生成を抑止するホストの［抑止］をチェックする。**
   選択した発行元で，新たに JP1/IM - MO から JP1 イベントが発行されなくなります。

参考

ホスト単位での JP1 イベントの生成抑止は，［発行元定義］ダイアログでも設定できます。

1. メイン画面のメニューバーから［編集］－［発行元一覧］を選択する。
   ［発行元一覧］ダイアログが表示されます。
2. JP1 イベントの生成を抑止するホスト名を選択し，［発行元更新］ボタンをクリックする。
   ［発行元定義］ダイアログが表示されます。
3. ［この発行元からのメッセージを JP1/IM - MO から発行しない］にチェックを入れ，［OK］ボタンをクリックする。
   抑止の設定が完了します。

9.10　JP1/AJS3 を使って自動的にリリースする

JP1/AJS3 は，業務（ジョブ）を自動的に実行する製品です。例えば，毎日決まった時間にバッチを実行したいとき，実行するバッチファイル，実行するホスト，実行時間などをジョブとして定義しておくと，自動的にジョブが実行されます。

JP1/AJS3 を使うと，JP1/IM - MO の定義を自動的にリリースできます。JP1/AJS3 に，リリースコマンド jmorelease を実行するジョブを定義します。

リリースコマンド jmorelease は，次の操作ができます。

- リリース許可※
- リリース（リリース解除）
- リリース解除許可※

注※

同じイベントソースの下に二つの変換メッセージ群があり，どちらも適用先システムが同じ場合，両方をリリースできません。例えば，どちらかがすでにリリースされているとき，もう一方をリリース許可すると，リリースされていた方はリリース解除許可されます。

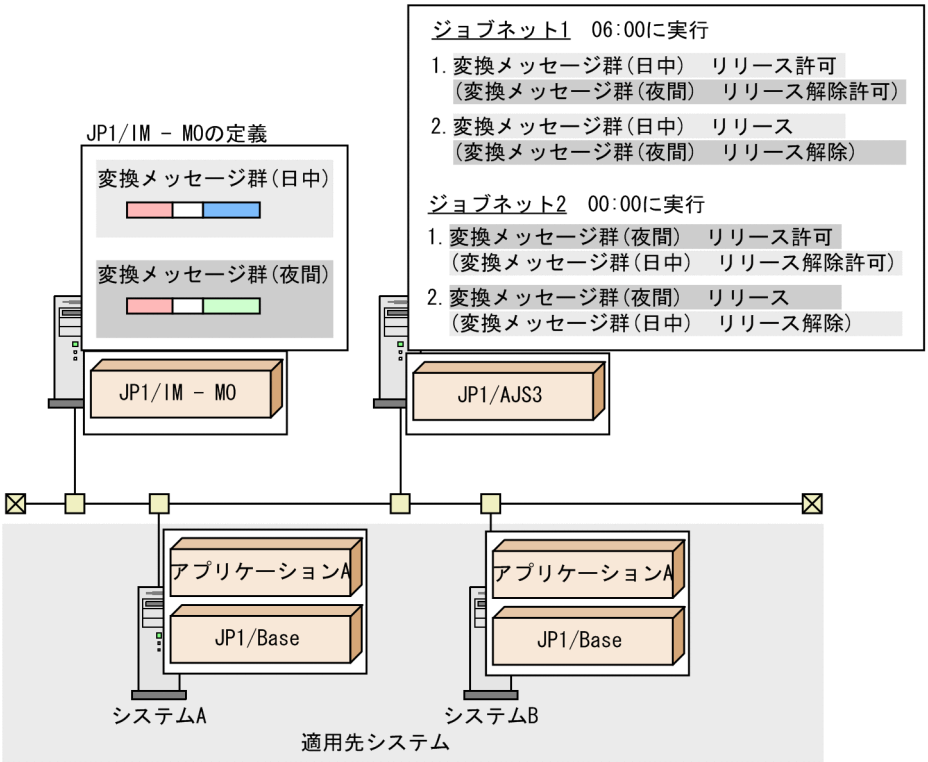
jmorelease コマンドのオプションについては，「13.　コマンド　jmorelease」を参照してください。

JP1/AJS3 を使ってリリースを自動化する例を紹介します。

●　日中と夜間でメッセージテキストを切り替える

日中用の変換メッセージ群，および夜間用の変換メッセージ群を定義し，それぞれをリリースする時間を JP1/AJS3 で定義しておけば，日中と夜間でメッセージテキストを切り替えられます。

図 9-6 日中と夜間でメッセージテキストを切り替えるための定義



注 次のホストは，この図では省略しています。
・JP1/IM - Manager
・JP1/IM - View
・JP1/IM - MO Assistant

定義の内容を次に示します。

JP1/IM - MO の定義

変換メッセージ群の定義

変換メッセージ群（日中用）と変換メッセージ群（夜間用）を定義します。

適用先システムの定義

システム全体とします。つまり，変換メッセージ群二つとも，適用先システムは同じとなります。

JP1/AJS3 の定義

ジョブネット 1

06:00 に次のコマンドを実行するジョブネットを定義します。

1. `jmorelease -p -u -e アプリケーションA -g 変換メッセージ群(日中)`
   アプリケーション A の下に定義された変換メッセージ群（日中）をリリース許可するコマンドです。
   変換メッセージ群（夜間）がリリースされている場合は，同時に変換メッセージ群（夜間）がリリース解除許可されます。
2. `jmorelease -r -e アプリケーションA -g 変換メッセージ群(日中)`
   変換メッセージ群（日中）をリリースするコマンドです。
   変換メッセージ群（夜間）がリリース解除許可の場合は，同時に変換メッセージ群（夜間）がリリース解除されます。

ジョブネット 2

00:00 に次のコマンドを実行するジョブネットを定義します。

1. `jmorelease -p -u -e` アプリケーション A `-g` 変換メッセージ群（夜間）
   アプリケーション A の下に定義された変換メッセージ群（夜間）をリリース許可するコマンドです。
   変換メッセージ群（日中）がリリースされている場合は，同時に変換メッセージ群（日中）がリリース解除許可されます。
2. `jmorelease -r -e` アプリケーション A `-g` 変換メッセージ群（夜間）
   変換メッセージ群（夜間）をリリースするコマンドです。
   変換メッセージ群（日中）がリリース解除許可の場合は，同時に変換メッセージ群（日中）がリリース解除されます。

9.11　運用環境に応じた機能を使用する場合の操作

ここでは，運用環境に応じた機能を使用するときの操作について説明します。オプション機能とは，次の機能を示しています。

- イベントソースにプログラム名を指定する
- 追加メッセージ識別子を定義する

9.11.1　イベントソースにプログラム名を指定する

イベントソースにプログラム名を指定するためには，事前にセットアップが必要です。設定する手順については，「4.4.2　イベントソースにプログラム名を指定する場合のセットアップ手順」を参照してください。環境設定ファイルの LOGFILE_TRAP_STUDY_TYPE に「PRO」を指定している場合は，イベントソースを学習するときにプログラム名が指定されます。ここでは，変換定義ファイルを編集して，オブジェクト名指定のイベントソースをプログラム名指定に変更する手順を説明します。

1. **jmoexport コマンドで定義ファイルをエクスポートする。**
   イベントソース識別子を変更すると，変更したイベントソースの基本メッセージ，変換メッセージおよびサンプルメッセージがすべて削除されます。メッセージを引き継ぎたい場合は，必ずメッセージを jmoexport コマンドでエクスポートしてください。jmoexport コマンドの詳細については，「13.　コマンド」を参照してください。

2. **手順 1 でエクスポートしたファイルを編集する。**
   複数のイベントソースを一つのイベントソースとして定義したい場合は，変換定義ファイルを編集します。イベントソースを集約する必要がない場合は次の手順に進んでください。
   例として，「App1」と「App1_001」を集約するときの変換定義ファイルの編集方法を次の図に示します。
   「App1」と「App1_001」の二つのイベントソースに属している定義を手順 1 でエクスポートすると次の図に示す二つのファイルが出力されます。

図 9-7　集約前の変換定義ファイル

```
#Category,Identifier,JP1eventID,Severity,MessageText,ReplaceFlag,RestraintFlag
<eventsource>,App1,,,,,
<basic>,"AAAA",00000001:00000000,Information,"テキスト",,
<basic>,"BBBB",00000002:00000000,Information,"テキスト",,
新規変換メッセージ群,"AAAA",,,"変換後テキスト",Y,N
新規変換メッセージ群,"BBBB",,,"変換後テキスト",Y,N
```

```
#Category,Identifier,JP1eventID,Severity,MessageText,ReplaceFlag,RestraintFlag
<eventsource>,App1_001,,,,,
<basic>,"CCCC",00000003:00000000,Information,"テキスト",,
<basic>,"DDDD",00000004:00000000,Information,"テキスト",,
新規変換メッセージ群,"CCCC",,,"変換後テキスト",Y,N
新規変換メッセージ群,"DDDD",,,"変換後テキスト",Y,N
```

「App1_001」の定義ファイルを開き，イベントソースのメッセージテキストと，変換メッセージ群の定義を，「App1」の定義ファイルにコピーします。コピー後の変換定義ファイルを次に示します。

図 9-8　集約後の変換定義ファイル

```
#Category,Identifier,JP1eventID,Severity,MessageText,ReplaceFlag,RestraintFlag
<eventsource>,App1,,,,,
<basic>,"AAAA",00000001:00000000,Information,"テキスト",,
<basic>,"BBBB",00000002:00000000,Information,"テキスト",,
<basic>,"CCCC",00000003:00000000,Information,"テキスト",,
<basic>,"DDDD",00000004:00000000,Information,"テキスト",,

新規変換メッセージ群,"AAAA",,,"変換後テキスト",Y,N
新規変換メッセージ群,"BBBB",,,"変換後テキスト",Y,N
新規変換メッセージ群,"CCCC",,,"変換後テキスト",Y,N
新規変換メッセージ群,"DDDD",,,"変換後テキスト",Y,N
```

不要になった「App1_001」の定義ファイルは削除してください。
変換定義ファイルの詳細については，「14.　定義ファイル」を参照してください。

3. **プログラム名を指定したいイベントソースを選択し，［基本フォーマット定義］ボタンをクリックする。**
   ［基本フォーマット定義］ダイアログが表示されます
4. **「イベントソース識別子」の［プログラム名］を選択する。**
   プログラム名を入力する項目が活性化されます。
5. **プログラム名を入力する。**
   ログファイルトラップを起動したときのプログラム名に指定した名前を入力してください。
6. **手順 1 でエクスポートしたファイルまたは手順 2 で編集したファイルを jmoimport コマンドを使用してインポートする。**
   jmoimport コマンドの詳細については，「13.　コマンド」を参照してください。

9.11.2　追加メッセージ識別子を定義する

一つのメッセージ識別子だけではメッセージを特定できない場合に，メッセージ識別子を追加してメッセージを特定できます。ここでは，Windows イベント ID が同じで，重大度が異なるメッセージを識別する場合の手順を例に説明します。なお，追加メッセージ識別子を定義する場合には，事前にセットアップが必要です。追加メッセージ識別子を定義する場合のセットアップ手順については，「4.4.3　追加メッセージ識別子を使用する場合のセットアップ手順」を参照してください。

(1) 例題の条件

システム A が次に示す二つのメッセージを出力していると仮定します。

メッセージ 1
- Windows イベント ID：123
- 重大度：Error
- メッセージテキスト：定義の登録に失敗しました。処理を中断します。

メッセージ 2
- Windows イベント ID：123
- 重大度：Warning
- メッセージテキスト：定義の登録に失敗しました。処理を続行します。

これらのメッセージのメッセージ識別子として，Windows イベント ID を指定すると，どちらのメッセージの Windows イベント ID も「123」で同じなので，重大度が異なっていても同じメッセージとして定義されます。これらの変換メッセージを分けて定義したい場合には，メッセージ識別子を追加する必要があります。ここでは，追加のメッセージ識別子として「重大度」を追加してメッセージを区別できるように

します。

(2) 手順

1. **jmoexport コマンドで定義ファイルをエクスポートする。**
   メッセージ識別子を変更すると，変更したイベントソースの基本メッセージ，変換メッセージおよびサンプルメッセージがすべて削除されます。メッセージを引き継ぎたい場合は，必ずメッセージを jmoexport コマンドでエクスポートしてください。jmoexport コマンドの詳細については，「13. コマンド」を参照してください。

2. **JP1/IM - MO Assistant で追加メッセージ識別子を指定するイベントソースを選択する。**

3. **［基本フォーマット定義］ボタンをクリックする。**
   ［基本フォーマット定義］ダイアログが表示されます。

4. **［追加識別子定義］ボタンをクリックする。**
   ［追加メッセージ識別子定義］ダイアログが表示されます

5. **［追加メッセージ識別子定義］ダイアログから追加メッセージ識別子を指定する。**
   追加したいメッセージ識別子を選択します。
   ここでは，「JP1 イベント種別」に「拡張属性（共通情報）」，「JP1 イベント属性名」に，「重大度」を指定します。ほかにメッセージ識別子として選択できる項目については，「12.7 ［追加メッセージ識別子定義］ダイアログ」を参照してください。

6. **［OK］ボタンをクリックする。**
   ［追加メッセージ識別子定義］ダイアログが閉じます。［メッセージ識別子選択］ダイアログおよび［基本フォーマット定義］ダイアログも同様に閉じてください。

7. **手順 1 でエクスポートした変換定義ファイルを編集する。**
   変換定義ファイルのイベントソースが「システム A」の行を探し，システム A に属しているすべてのメッセージに手順 5 で指定したメッセージ識別子を追記します。ここでは，メッセージ 1 の重大度である「Error」を追加する例を示します。

```
<eventsource>,システムA,,,,,
<basic>,"113",1111FFFF:00000000,"Error","課金ログファイルのデータの読み込みに失敗しま
した。",,
<basic>,"221",1111EEEE:00000000,"Error","月次帳票の出力に失敗しました。",,
<basic>,"551",1111DDDD:00000000,"Error","データベースサーバーの起動に失敗しました。
",,
平日営業時間内,"113",,,"課金ログファイルが別のアプリケーションで開かれていないか確認
してください。",Y,N
平日営業時間内,"221",,,"出力先のファイルパスが正しいか確認してください。(c:¥kakin¥
format¥mon201004.pdf)",Y,N
平日営業時間内,"551",,,"データベースサーバーの起動に失敗しました。",Y,N
```

↓

```
<eventsource>,システムA,,,,,
<basic>,"113",1111FFFF:00000000,"Error","課金ログファイルのデータの読み込みに失敗しま
した。)",,,"Error"
<basic>,"221",1111EEEE:00000000,"Error","月次帳票の出力に失敗しました。)",,,"Error"
<basic>,"551",1111DDDD:00000000,"Error","データベースサーバーの起動に失敗しました。
",,,"Error"
平日営業時間内,"113",,,"課金ログファイルが別のアプリケーションで開かれていないか確認
してください。",Y,N,"Error"
平日営業時間内,"221",,,"出力先のファイルパスが正しいか確認してください。(c:¥kakin¥
format¥mon201004.pdf)",Y,N,"Error"
平日営業時間内,"551",,,"データベースサーバーの起動に失敗しました。)",Y,N,"Error"
```

8. **jmoimport コマンドで手順 7 で編集したファイルをインポートする。**

インポート直後から重大度が追加されたメッセージが学習されます。jmoimport コマンドの詳細については，「13.　コマンド」を参照してください。

9. JP1/IM - MO Assistant **で，追加メッセージ識別子の指定が必要な基本メッセージを学習する。**

10. **手順** 9 **で学習したメッセージをダブルクリックする。**

［変換メッセージ定義］ダイアログが表示されます。メッセージ 1 およびメッセージ 2 に対して，必要に応じた変換メッセージを定義してください。

注意事項

- メッセージ識別子を追加すると，［基本フォーマット定義］ダイアログを閉じるタイミングで，メッセージ識別子を追加したイベントソースに属するすべてのメッセージが削除されます。
- メッセージ識別子を追加するときには，追加メッセージ識別子に指定する JP1 イベント属性をよく検討してください。メッセージとして特定される数が多い組み合わせを選択すると，定義数の上限値に達してしまうおそれがあります。
- JP1/IM - MO 09-10 で追加メッセージ識別子を追加してエクスポートした定義を，09-00 以前のバージョンにインポートする場合，追加されたメッセージ識別子の定義は無視されるため，メッセージ識別子が同じで追加メッセージが異なる定義をしても，メッセージを重複して定義していると見なされます。追加メッセージ識別子を定義したい場合は，インポート先の JP1/IM - MO を 09-10 以降のバージョンにバージョンアップしてください。

9.12　定義ファイルを利用して一括で定義する

JP1/IM - MO では，定義ファイルを利用して一括して定義できる項目があります。定義項目の一覧を下記の表に示します。

表 9-3　JP1/IM - MO の定義項目の一覧と定義ファイルでの定義の可否

定義項目		一括定義
イベントソース	イベントソース名	×
メッセージフォーマット	基本フォーマット	×
	変換フォーマット	×
メッセージテキスト	基本メッセージ	○
	変換メッセージ	○
適用先システム	発行元名	○
	適用先システム名	○
	適用先システムの階層	○
定義の結び付け	変換メッセージ群	○
	変換メッセージ群と適用先システムの結び付け	×
	適用先システムと変換フォーマットの結び付け	○
メッセージの重大度	メッセージの重大度の変更	○
	適用先システムごとの重大度	○

（凡例）
　○：一括定義できる
　×：一括定義できない

基本メッセージと変換メッセージは変換定義ファイルを編集して定義します。また，発行元と適用先システムおよび適用先システムの階層は，IM 構成管理情報をインポートする，またはシステム構成定義ファイルを編集して定義します。

9.12.1　基本メッセージ・変換メッセージを一括で定義する

基本メッセージ，変換メッセージ，関連する変換メッセージ群，およびメッセージの重大度を一括で定義する方法を次に示します。

1. **JP1/IM - MO Assistant でイベントソースを定義しておく。**
   一括定義できる定義情報以外は，JP1/IM - MO Assistant で定義します。
2. **定義ファイルを作成する。**
   作成する定義ファイルについては「14.2　変換定義ファイル」の変換定義ファイルについて記載されている個所を参照してください。
3. `jmochktransfile` **コマンドを実行する。**
   定義ファイルの書式がチェックされます。
   エラーが発生した場合は，エラーメッセージに従って対処してください。
4. `jmoimport` **コマンドを実行する。**
   定義情報がインポートされ，メッセージが一括で定義されます。

9.12.2 発行元・適用先システムを一括で定義する

発行元，適用先システム，関連する適用先システムの階層，適用先システムと変換フォーマットの結び付け，適用先システムごとの重大度は，JP1/IM - Manager のシステム構成情報である IM 構成管理情報，または JP1/IM - MO のシステム構成情報であるシステム構成定義ファイルをインポートして定義できます。それぞれの定義ファイルの利用方法を次に示します。

● **IM 構成管理情報**

JP1/IM - Manager で管理しているホスト名や監視グループ名を JP1/IM - MO の発行元や適用先システムとして流用したい場合は，IM 構成管理情報を利用して定義します。運用を開始して新規に定義を作成する場合は，IM 構成管理情報をインポートして定義する方法をお勧めします。

● **システム構成定義ファイル**

テキスト上で直接定義を編集したい場合は，システム構成定義ファイルを編集して定義します。すでに運用実績のあるホストから定義を移行する場合や，JP1/IM - MO のホスト情報（例えば発行元名）を一括で更新する場合には，システム構成定義ファイルを利用します。

（1） IM 構成管理情報を利用して定義する

IM 構成管理情報とは，JP1/IM - Manager の `jcfexport` コマンドで出力される次のファイルを示しています。

- `host_input_data.csv`（ホスト情報を定義しているファイル）
- `system_tree_information.txt`（ホストの階層構造を定義しているファイル）

IM 構成管理情報の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」の IM 構成管理によるシステム構成の管理について記載されている個所を参照してください。

注意事項

JP1/IM - MO でインポートできる IM 構成管理情報は，JP1/IM - Manager のバージョンが 09-00 以降のものです。

IM 構成管理情報を利用して発行元および適用先システムを一括で定義する方法を次に示します。なお，運用中に JP1/IM - Manager に構成変更が生じて，IM 構成管理情報をインポートして定義を更新した場合については，「11.5.3　運用開始後の JP1/IM - Manager が監視しているシステムの構成変更に対応する」を参照してください。

IM 構成管理情報を利用して定義する手順を次に示します。

1. **JP1/IM - Manager のホストで `jcfexport` コマンドを実行し，IM 構成管理情報をエクスポートする。**
   JP1/IM - Manager のホストで `jcfexport` コマンドを実行し，IM 構成管理情報をエクスポートします。エクスポート操作については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」を参照してください。
   IM 構成管理情報をエクスポートする JP1/IM - Manager と JP1/IM - MO が別ホストの場合は，文字コードが変更されないようにコピーしてください。FTP を使用してファイルを転送する場合は，バイナリモードで実行してください。
2. **JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスを起動する。**
3. **手順 1 でエクスポートした IM 構成管理情報を `-i` オプションに指定し，`jmocfimport` コマンドを実行する。**
   JP1/IM - MO に発行元と適用先システムが定義されます。
   IM 構成管理情報をインポートしたときは，発行元名や適用先システム名は，JP1/IM - Manager で管

理しているホスト名と監視グループ名に対応しています。
インポートするときは，定義の状態が，「編集」状態，「リリース」状態，「リリース編集状態」のどれかである必要があります。状態を変更するための操作については，「10. 定義情報の管理」を参照してください。

4. **JP1/IM - MO にログインする。**
JP1/IM - Message Optimizer Assistant で定義が正しいことを確認してください。
以降の操作については，「9.7 適用先システムを定義する」を参照してください。

(2) システム構成定義ファイルを利用して定義する

システム構成定義ファイルを利用して発行元および適用先システムを一括で定義する方法を次に示します。

1. **発行元および適用先システムを定義する。**
2. **JP1/IM - MO のホストで `jmocfexport` コマンドを実行し，システム構成定義ファイルをエクスポートする。**
3. **システム構成定義ファイルを編集する。**
システム構成定義ファイルについては，「14.3 システム構成定義ファイル」を参照してください。
4. **JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスを起動する。**
5. **手順 2 でエクスポートした定義ファイルを `-i` オプションに指定し，`jmocfimport` コマンドを実行する。**
JP1/IM - MO に発行元と適用先システムが定義されます。インポートするときは，定義の状態が，「編集」状態，「リリース」状態，「リリース編集状態」のどれかである必要があります。状態を変更するための操作については，「10. 定義情報の管理」を参照してください。
6. **JP1/IM - MO にログインする。**
JP1/IM - Message Optimizer Assistant で定義が正しいことを確認してください。
以降の操作については，「9.7 適用先システムを定義する」を参照してください。

9.13　その他の操作

ここでは，定義を効率化するための操作について説明します。

9.13.1　フィルタリング

大量のホストを運用している環境で，JP1/IM - MO を運用している場合，メイン画面には大量のイベントソースや変換メッセージが表示されるため，定義またはリリースの対象となるメッセージを見つけるのに時間が掛かってしまうことがあります。

このような場合に，適切なフィルタリングをすると，定義したい項目の検索性が向上し，作業を効率化できます。

（1）定義が終わったイベントソースをすべてリリースする

ツリーエリアでイベントソースをフィルタリングする条件として次の項目が指定できます。

- 定義の状態
- 定義名に含まれる文字

ツリーエリアでのフィルタリングを利用して，定義が終わった変換メッセージ群をすべてリリースする操作を次に示します。

1. **メイン画面の［ツリー表示フィルタ］にチェックを入れる。**
   フィルターの条件を設定するエリアが表示されます。表示項目の詳細については，「12.3.2　ツリーエリア」を参照してください。
2. **「変換メッセージ群」の「 （編集状態）」をクリックする。**
   編集状態の変換メッセージ群と，編集状態の変換メッセージ群が属しているイベントソースだけがツリーエリアに表示されます。
3. **［全て選択］ボタンをクリックする。**
   表示されているイベントソースと変換メッセージ群がすべて選択されます。
4. **［リリース許可］ボタンをクリックする。**
   編集状態の変換メッセージ群が「 （リリース許可状態）」になります。
5. **［リリース］ボタンをクリックする。**
   定義が完了した変換メッセージ群をすべてリリースできました。

（2）特定のメッセージを重大度で探して定義する

ツリーエリアで変換メッセージ群を選択しているときに，リストエリアに表示されているメッセージをフィルタリングできます。

変換前のメッセージが「エラー」以上のメッセージに変換メッセージを定義するときの操作を次に示します。

1. **メイン画面の［詳細表示フィルタ］にチェックを入れ，リストエリアの［設定］ボタンをクリックする。**
   ［詳細表示フィルタ設定］画面が表示されます。［詳細表示フィルタ設定］画面については，「12.11　［詳細表示フィルタ設定］ダイアログ」を参照してください。
2. **フィルタリングの条件をラジオボタンで選択し，［OK］ボタンをクリックする。**
   次のように設定します。

- 「基本メッセージのフィルタ設定」で，［重大度］にチェックを入れ，「エラー」，「致命的」，「警戒」および「緊急」にチェックを入れる。

3. **［OK］ボタンをクリックします。**
   重大度が「エラー」以上のメッセージだけが，リストエリアに表示されます。

10 定義情報の管理

ここでは，変換後のメッセージをビューアーに表示するためにメッセージを変換するための手順を説明します。

10.1 定義情報の管理の概要

10.2 メッセージ変換の実行（リリース）

10.3 メッセージ変換の実行中止（リリース解除）

10.4 メッセージ変換実行中の定義の編集（リリース編集）

10.5 基本フォーマットの編集

10.6 定義の削除

10.1　定義情報の管理の概要

定義情報に従ったメッセージ変換を開始することを「**リリース**」と呼びます。定義をリリースすると，対象の JP1 イベントが発行されたらメッセージが変換され，変換後のメッセージがビューアーに表示されます。リリースの仕組みについては，「2.9　定義情報の管理」を参照してください。

ここでは，定義をリリースする操作について説明します。また，リリースしたあとの操作についても説明します。

表 10-1　10 章で説明する操作一覧

項番	目的	操作	参照先
1	変換を開始したい	変換を開始するには，定義をリリースします。	10.2
2	いったん変換を停止したい	変換を停止するには，リリースを解除します。	10.3
3	変換を停止しないで定義を編集したい	変換を停止しないで，定義を編集する場合は，リリース編集します。	10.4
4	基本フォーマットを編集したい	イベントソース，および変換メッセージ群のリリースを解除してから，基本フォーマットを編集します。	10.5
5	不要になった定義を削除したい	削除する定義のリリースを解除してから，削除します。	10.6

10.2　メッセージ変換の実行（リリース）

変換後のメッセージをビューアーに表示するためには，次の四つの定義をリリースする必要があります。

- イベントソース
- 変換フォーマット
- 適用先システム
- 変換メッセージ群

リリースするためには，リリースする定義をあらかじめ選んでおく必要があります。これを「**リリース許可**」といいます。

メッセージ変換の定義完了からリリースまでの流れを次に示します。

表 10-2　定義完了からリリースまでの流れ

順序	作業	説明	参照先
1	リリースするイベントソースを決定する※	リリースするイベントソースを選択します。 （イベントソースのリリース許可）	10.2.1
2	リリースする変換フォーマットを決定する	リリースする変換フォーマットを選択します。 （変換フォーマットのリリース許可）	10.2.2
3	リリースする適用先システムを決定する	リリースする適用先を選択します。 （適用先システムのリリース許可）	10.2.3
4	リリースする変換メッセージ群を決定する	リリースする変換メッセージ群を選択します。 （変換メッセージ群のリリース許可）	10.2.4
5	リリース許可した定義をリリースする	リリース許可した変換フォーマット，適用先システム，および変換メッセージ群をリリースします。	10.2.5

注※

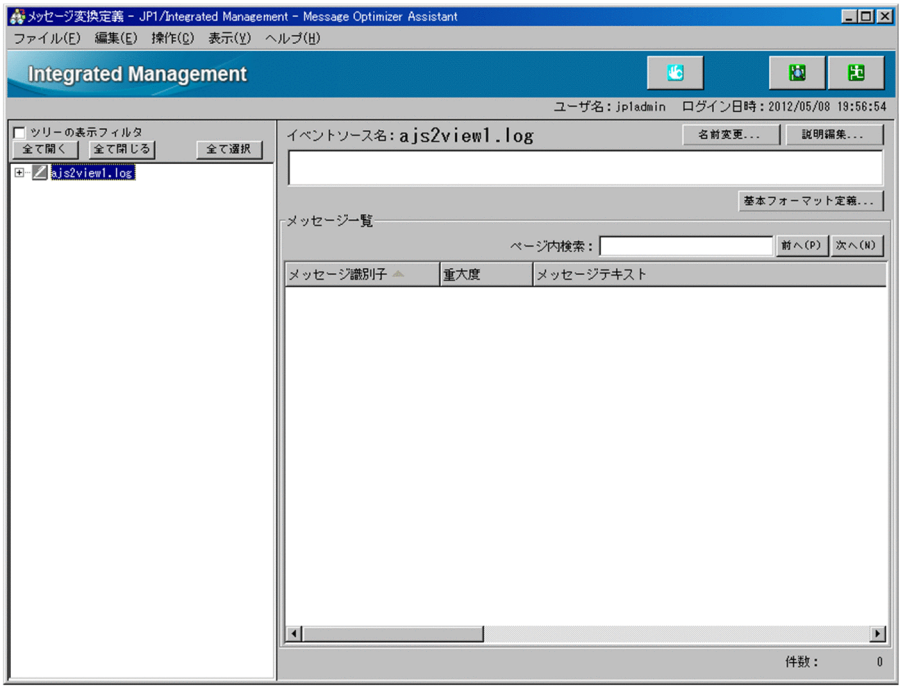
一度リリースを解除している場合以外は，すでにリリース状態です。イベントソースのアイコンが「（編集状態）」になっている場合は，リリースしてください。

10.2.1　リリースするイベントソースを決定する（イベントソースのリリース許可）

リリースしたいイベントソースのリリース許可をします。

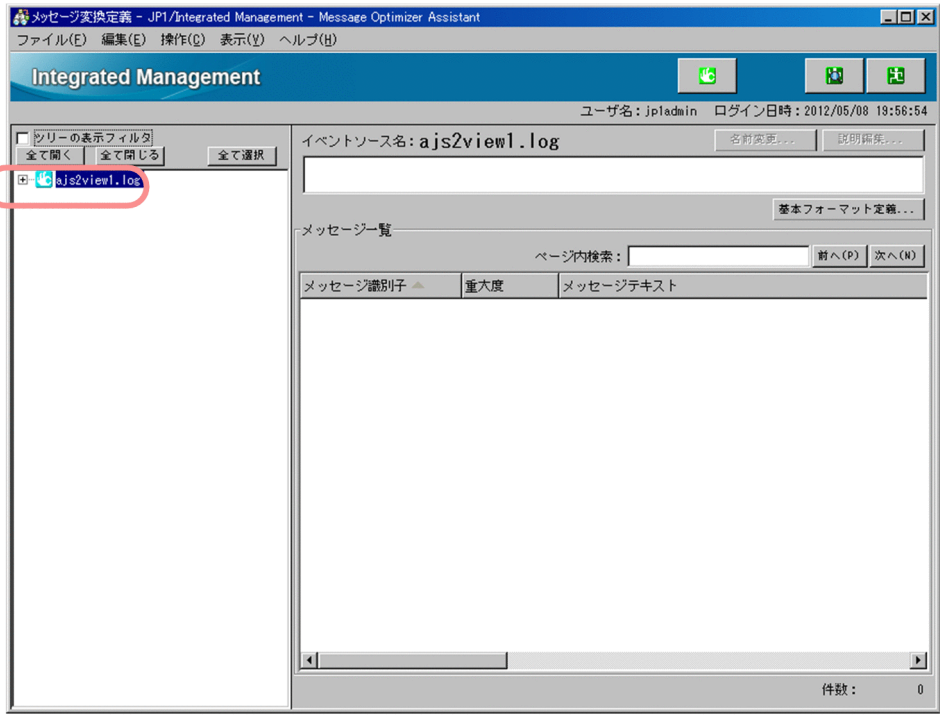
手順を次に示します。

1. **メイン画面のツリーエリアで，リリースしたいイベントソースを選択する。**
   ［Ctrl］キーまたは［Shift］キーで複数のイベントソースを選択することもできます。



2. [　　] **ボタンをクリックする。**

確認メッセージで［はい］ボタンをクリックすると，イベントソースのアイコンが「　（リリース許可状態）」に変わります。



これで，イベントソースのリリース許可が完了しました。

注意事項

次に示す変換メッセージ群が同時に選択された場合は，どの変換メッセージ群もリリース許可されません。

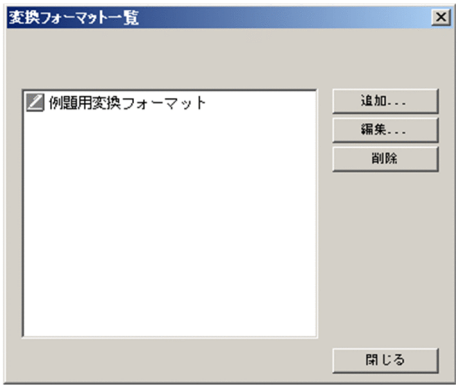
- 複数選択している変換メッセージ群中に同じ適用先システムを共有している変換メッセージ群がある場合
- 複数選択している変換メッセージ群中に，同じ適用先システムですでにリリースされている変換メッセージ群が存在する場合

10.2.2　リリースする変換フォーマットを決定する（変換フォーマットのリリース許可）

リリースしたい変換フォーマットのリリース許可をします。

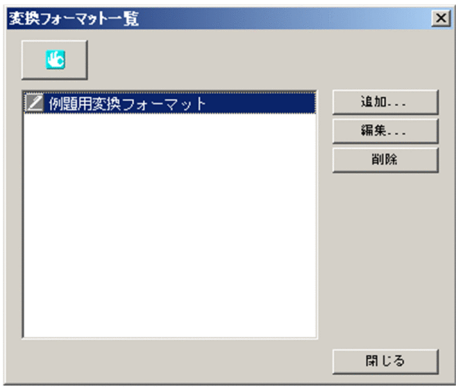
手順を次に示します。

1. **メニューバーで，［編集］－［変換フォーマット］を選択する。**
   ［変換フォーマット一覧］ダイアログが表示されます。



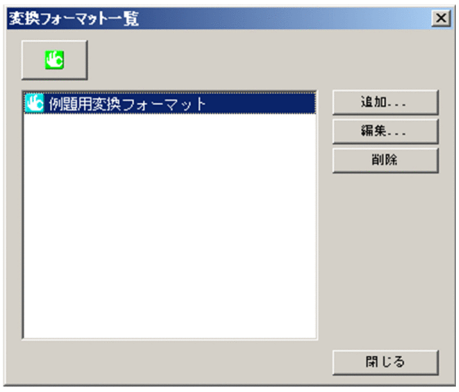
2. **リリースしたい変換フォーマットを選択する。**

   選択すると，［変換フォーマット一覧］ダイアログに［　］ボタンが表示されます。



3. **［　］ボタンをクリックする。**

   選択した変換フォーマットのアイコンが，「（リリース許可状態）」に変わります。



4. **［変換フォーマット一覧］ダイアログを閉じる。**
   メイン画面に戻ります。

これで，変換フォーマットのリリース許可が完了しました。

10.2.3　リリースする適用先システムを決定する（適用先システムのリリース許可）

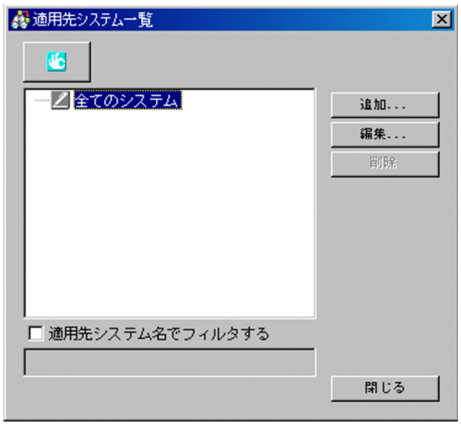
リリースしたい適用先システムのリリース許可をします。

手順を次に示します。

1. **メイン画面のメニューバーで，［編集］－［適用先システム］を選択する。**
   ［適用先システム一覧］ダイアログが表示されます。

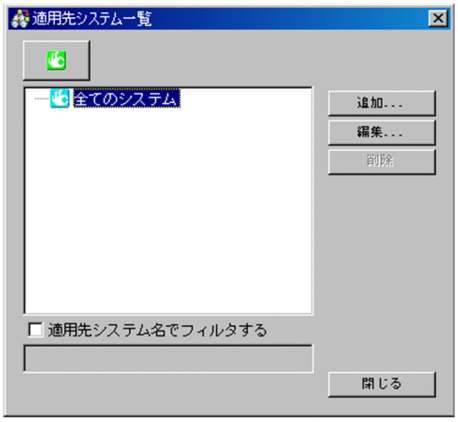
2. **リリースしたい適用先システム一覧を選択する。**

   選択すると，［適用先システム一覧］ダイアログに［ ］ボタンが表示されます。



3. **[　　] ボタンをクリックする。**

選択した適用先システム一覧のアイコンが，「　（リリース許可状態）」に変わります。



4. **［適用先システム一覧］ダイアログを閉じる。**

メイン画面に戻ります。

これで，適用先システムのリリース許可が完了しました。

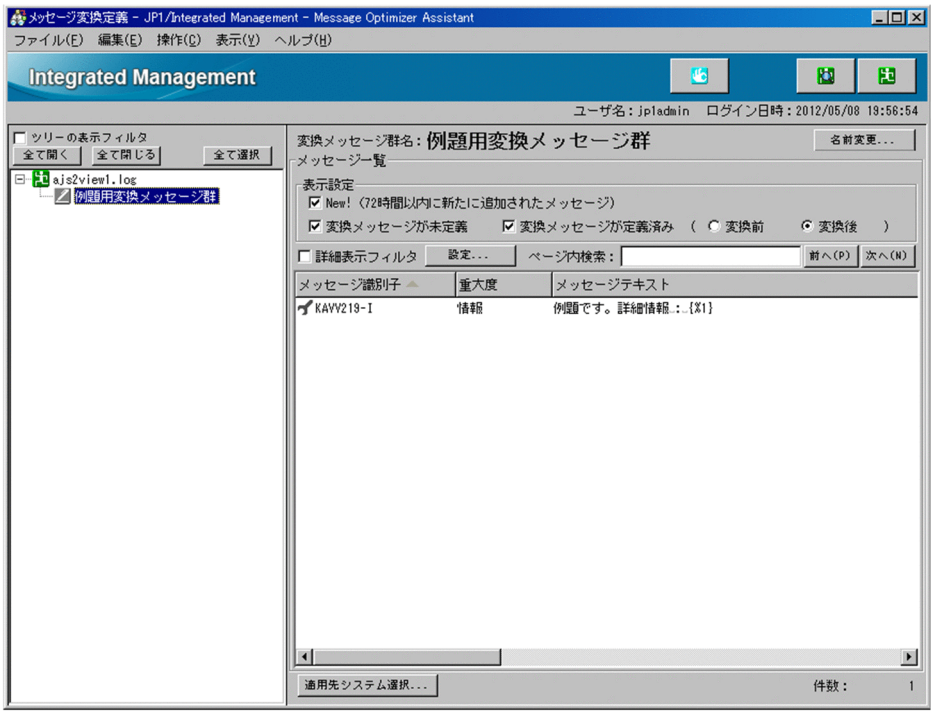
10.2.4　リリースする変換メッセージ群を決定する（変換メッセージ群のリリース許可）

リリースしたい変換メッセージ群のリリース許可をします。

手順を次に示します。

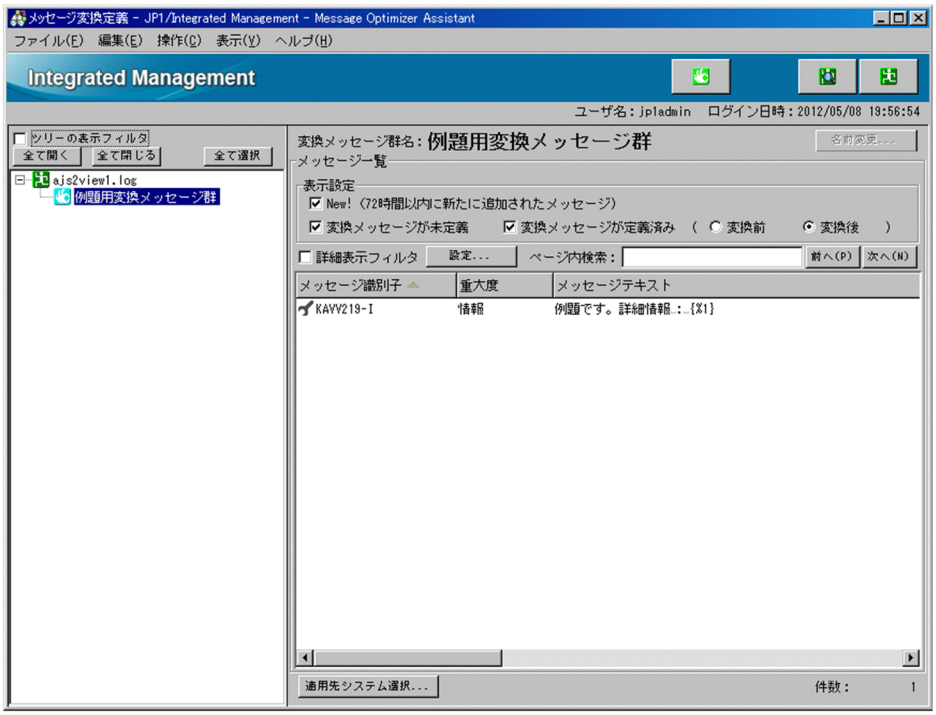
1. **メイン画面のツリーエリアで，リリースしたい変換メッセージ群を選択する。**

［Ctrl］キーまたは［Shift］キーで複数の変換メッセージ群を選択することもできます。



2. ［　］**ボタンをクリックする。**

確認メッセージで［はい］ボタンをクリックすると，変換メッセージ群のアイコンが「　（リリース許可状態）」に変わります。



これで，変換メッセージ群のリリース許可が完了しました。

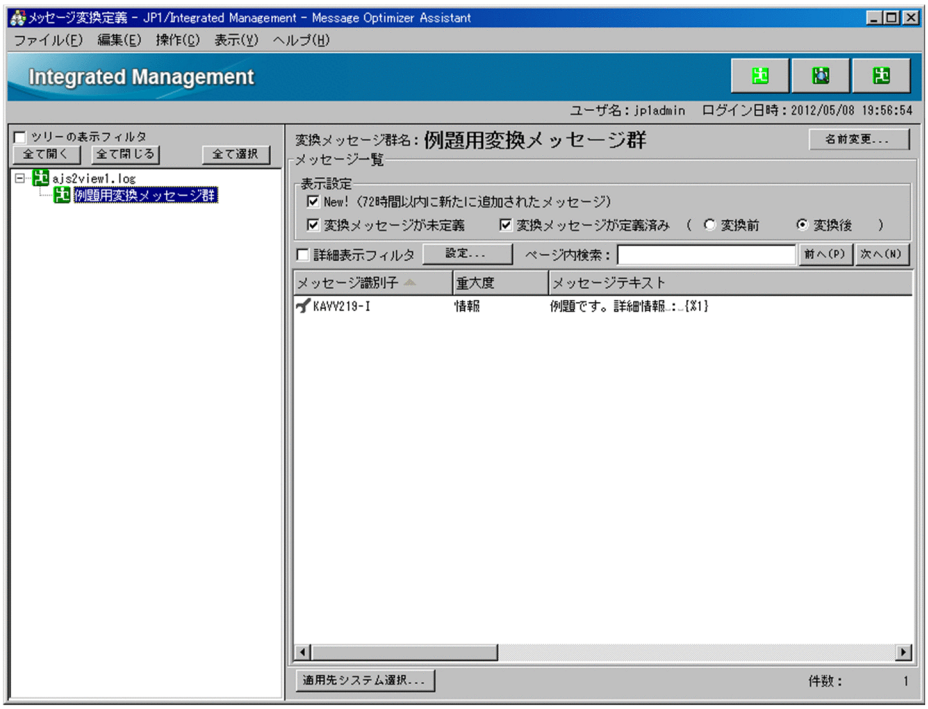
10.2.5　リリース許可した定義をリリースする

ここまででリリースを許可した変換フォーマット，適用先システム，および変換メッセージ群を一括でリリースします。

手順を次に示します。

1. **メイン画面で［　］ボタンをクリックする。**

   完了メッセージで［了解］ボタンをクリックすると，メイン画面で，変換メッセージ群のアイコンが「（リリース状態）」に変わります。



［変換フォーマット一覧］ダイアログと［適用先システム一覧］ダイアログでも，リリース許可状態のアイコンが「（リリース状態）」に変わります。

これで，メッセージの変換が開始されます。

なお，イベントソースおよび変換メッセージ群は，［Ctrl］キーまたは［Shift］キーで複数選択し，一括してリリースできます。

10.2.6　コマンドでリリースする

リリース許可およびリリースは，コマンドでも実行できます。

JP1/IM - MO Assistant でリリース許可したあと，JP1/IM - MO のホストで，`jmorelease` コマンドを実行します。

`jmorelease` コマンドの詳細は，「13.　コマンド　jmorelease」を参照してください。

10.3　メッセージ変換の実行中止（リリース解除）

定義の編集や削除をするために，リリースを解除できます。

リリースしている定義には，イベントソース，変換フォーマット，適用先システム，変換メッセージ群があります。それぞれの定義は，互いに結び付いています。例えば，変換フォーマットのリリースを解除する場合は，その変換フォーマットと結び付いた適用先システムのリリースを先に解除しておく必要があります。

ここでは，次の定義のリリースを解除する方法について説明します。

- イベントソースと変換メッセージ群
- 変換フォーマットと適用先システム

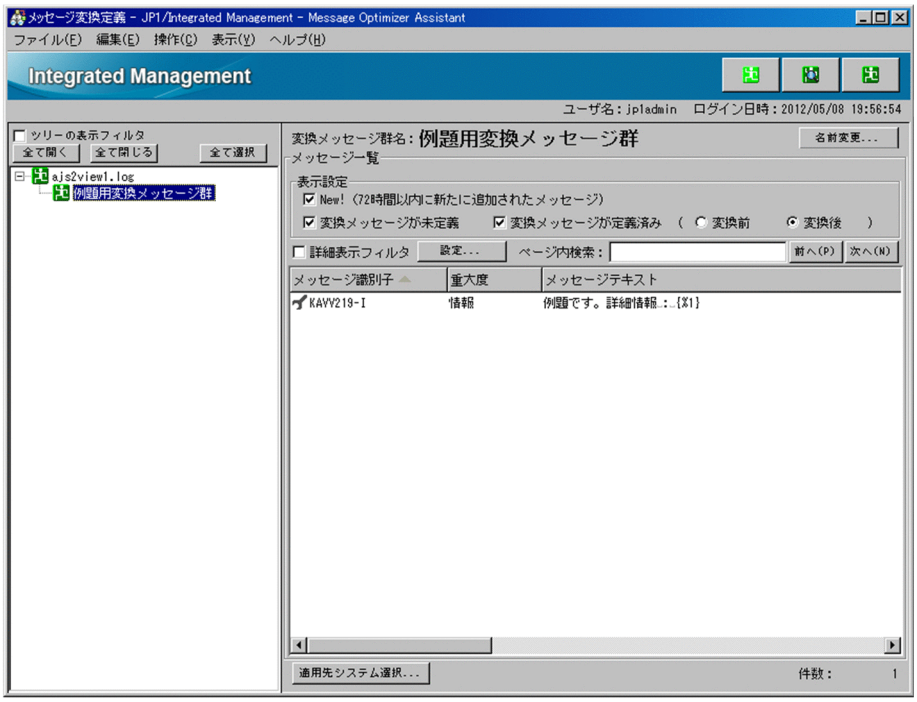
10.3.1　イベントソースと変換メッセージ群のリリースを解除する

次の場合に，イベントソースまたは変換メッセージ群のリリースを解除します。

- **基本フォーマットの定義を編集する**
  イベントソースおよびイベントソースに結び付いている変換メッセージ群のリリースを解除します。イベントソースに結び付いている変換メッセージ群を先に解除する必要があります。
- **現在リリースされている変換メッセージ群とは別の変換メッセージ群をリリースする**
  現在リリースされている変換メッセージ群のリリースの解除が必要です。
- **イベントソースのリリースを解除する**
  イベントソースに結び付いている変換メッセージ群のリリースを解除してから，イベントソースのリリースを解除します。

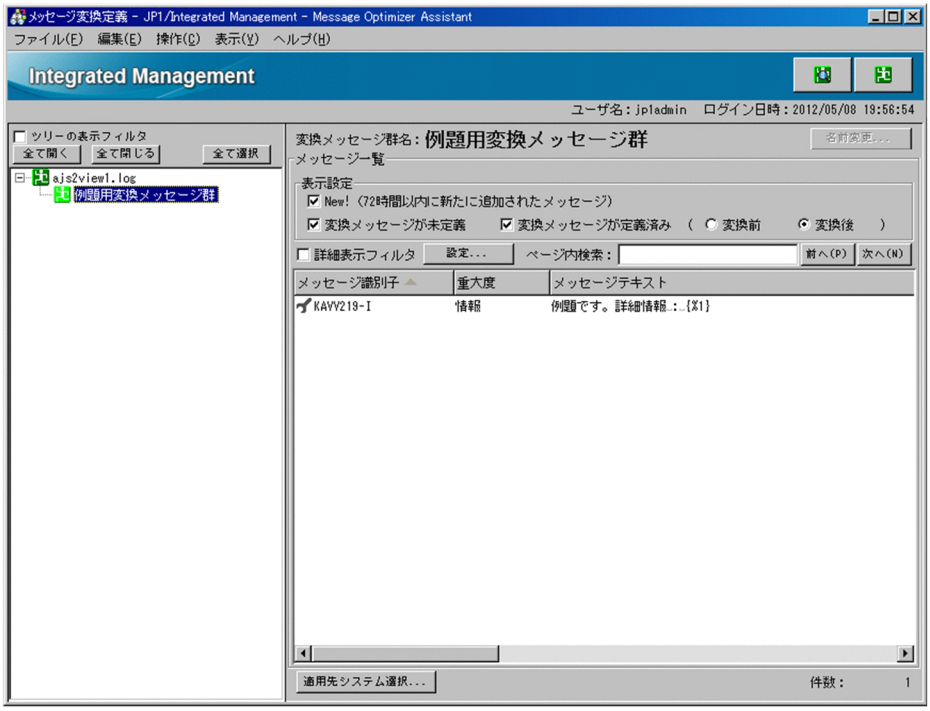
手順を次に示します。

1. **メイン画面のツリーエリアで，リリース解除するイベントソースに結び付いている変換メッセージ群を選択する。**
   ［Ctrl］キーまたは［Shift］キーで複数の変換メッセージ群を選択することもできます。



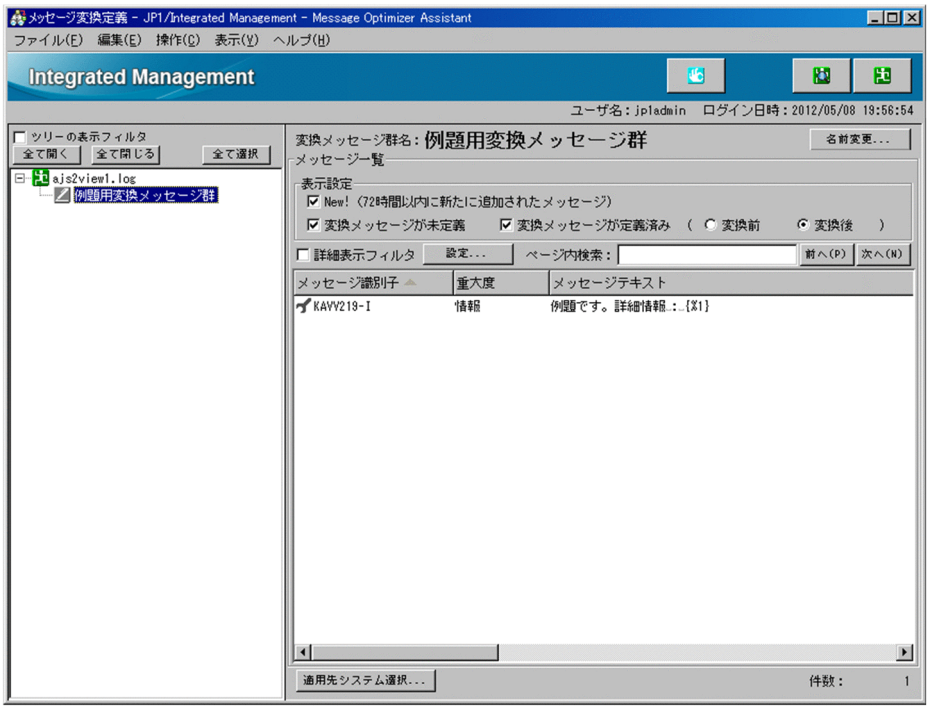
2. ［　］ボタンをクリックする。

確認ダイアログで［はい］ボタンをクリックすると，ツリーエリアで，変換メッセージ群のアイコンが「　（リリース解除許可状態）」になります。



3. メイン画面で［　］ボタンをクリックする。

リリース解除許可状態だった変換メッセージ群のアイコンが，「（編集状態）」に変わります。



続いてイベントソースのリリース解除をする場合は，次の手順に進みます。

4. **変換メッセージ群と同様に，ツリーエリアで対象のイベントソースを選択し，［　］ボタン，続いて［　］ボタンをクリックする。**

   イベントソースのアイコンが「（編集状態）」に変わります。

10.3.2　変換フォーマットと適用先システムのリリースを解除する

変換フォーマットのリリースを解除するには，変換フォーマットが結び付いている適用先システムから先にリリースを解除します。

手順を次に示します。

1. **メイン画面のメニューバーで，［編集］－［適用先システム］を選択する。**

   ［適用先システム一覧］ダイアログが表示されます。

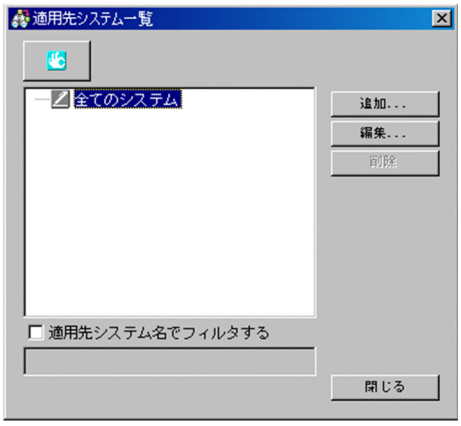
2. **リリース解除する適用先システムを選択し，［　］ボタンをクリックする。**

   確認ダイアログで［はい］ボタンをクリックすると，選択した適用先システムのアイコンが「（リリース解除許可状態）」になります。

リリース解除もリリースと同じで，解除したい定義を先にピックアップする仕組みになっています。これを，「**リリース解除許可**」といいます。

3. **［適用先システム一覧］を閉じる。**
メイン画面に戻ります。

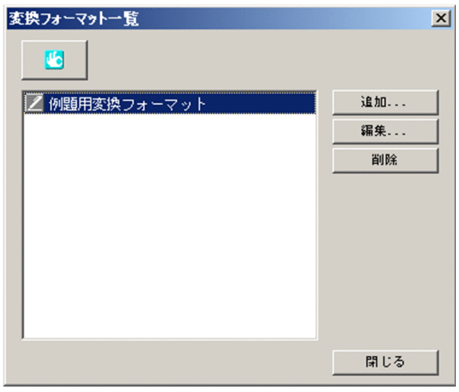
4. **メイン画面で［ ］ボタンをクリックする。**
リリース解除許可状態だった適用先システムが，「 （編集状態）」に変わります。再度，［適用先システム一覧］ダイアログを表示して確認してください。



続いて変換フォーマットのリリース解除をする場合は，次の手順に進みます。

5. **メイン画面のメニューバーで，［編集］－［変換フォーマット］を選択する。**
［変換フォーマット一覧］ダイアログが表示されます。

6. **適用先システムと同様に，リリース解除する変換フォーマットを選択し，［ ］ボタンをクリックし，メイン画面に戻って［ ］ボタンをクリックする。**
変換フォーマットのアイコンが「 （編集状態）」に変わります。再度，［変換フォーマット一覧］ダイアログを表示して確認してください。


変換フォーマット一覧
例題用変換フォーマット
追加...
編集...
削除
閉じる

10.4　メッセージ変換実行中の定義の編集（リリース編集）

ここでは，次の定義をリリース中に編集する方法について説明します。

- イベントソース名とイベントソースの説明
- 変換フォーマット
- 適用先システム
- 変換メッセージ群

基本フォーマットはリリース中に編集できません。基本フォーマットを編集する場合は，「10.5　基本フォーマットの編集」を参照してください。

10.4.1　イベントソース名とイベントソースの説明を編集する

リリース中に，イベントソース名および説明を編集できます。

手順を次に示します。

1. **メイン画面のツリーエリアで，名称および説明を編集するイベントソースを選択する。**
2. **メイン画面のリストエリアで，イベントソース名を編集する場合は［名前変更］ボタンを，説明を編集する場合は［説明編集］ボタンをクリックする。**
   ［イベントソース名変更］ダイアログまたは［イベントソース説明編集］ダイアログが表示されます。

図 10-1　［イベントソース名変更］ダイアログ

図 10-2　［イベントソース説明編集］ダイアログ

3. **編集し，［OK］ボタンをクリックする。**
   イベントソースの説明の場合は，これで完了です。このとき，アイコンは「（リリース状態）」のままです。

   イベントソース名の場合は，今すぐにリリースしてもよいかどうか確認するメッセージが表示されます。すぐにリリースすると，JP1/IM - MO のログに出力されるイベントソース名が，この直後から変更されます。
4. **すぐにリリースしてもよい場合は［はい］ボタンを，あとからリリースする場合は［後でリリースする］ボタンをクリックする。**
   ［はい］ボタンをクリックした場合は，メイン画面に，変更したイベントソース名が反映されます。
   ［後でリリースする］ボタンをクリックした場合は，ツリーエリアのイベントソースのアイコンが「（リリース編集状態）」に変わります。

このあと，リリース許可およびリリースをすることで，編集した内容でリリースされます。

10.4.2　変換フォーマットの定義を編集する

リリース中に，変換フォーマットの定義を追加または編集できます。

リリース中に変換フォーマットを編集する手順を次に示します。

1. **メニューバーで，［編集］－［変換フォーマット］を選択する。**
   ［変換フォーマット一覧］ダイアログが表示されます。
2. **編集する変換フォーマットを選択し，［編集］ボタンをクリックする。**
   ［変換フォーマット定義］ダイアログが表示されます。
3. **変換フォーマットを編集し，［OK］ボタンをクリックする。**
   変換フォーマット名だけを編集した場合は，今すぐリリースするかどうかの確認メッセージが表示されます。今すぐリリースする場合は，［はい］ボタンをクリックすると，編集とリリースは完了です。

   あとでリリースする場合は，［後でリリースする］ボタンをクリックすると，［変換フォーマット一覧］ダイアログで，編集した変換フォーマットのアイコンが「（リリース編集状態）」に変わります。

   また，変換フォーマット名以外を編集した場合は，［変換フォーマット一覧］ダイアログに戻ります。［適用先システム一覧］ダイアログで，編集した適用先システムのアイコンが「（リリース編集状態）」に変わります。

このあと，リリース許可およびリリースをすることで，編集した内容でリリースされます。

10.4.3　適用先システムの定義を編集する

リリース中に，適用先システムの定義を編集できます。

手順を次に示します。

1. **メイン画面のメニューバーで，［編集］－［適用先システム］を選択する。**
   ［適用先システム一覧］ダイアログが表示されます。
2. **編集する適用先システムを選択し，［編集］ボタンをクリックする。**
   ［適用先システム定義］ダイアログが表示されます。
3. **適用先システムを編集し，［OK］ボタンをクリックする。**
   適用先システム名だけを編集した場合は，今すぐリリースするかどうかの確認メッセージが表示されます。今すぐリリースする場合は，［はい］ボタンをクリックすると，編集とリリースは完了です。

あとでリリースする場合は，［後でリリースする］ボタンをクリックすると，［適用先システム一覧］ダイアログで，編集した適用先システムのアイコンが「（リリース編集状態）」に変わります。

また，適用先システム名以外を編集した場合は，［適用先システム一覧］ダイアログに戻ります。
［適用先システム一覧］ダイアログで，編集した適用先システムのアイコンが「（リリース編集状態）」に変わります。

このあと，リリース許可およびリリースをすることで，編集した内容でリリースされます。

10.4.4　変換メッセージ群の名称を変更する

リリース中に，変換メッセージ群の名称を変更できます。

手順を次に示します。

1. **メイン画面のツリーエリアで，名称を変更する変換メッセージ群を選択する。**
2. **メイン画面のリストエリアで，［名前変更］ボタンをクリックする。**
   ［変換メッセージ群名変更］ダイアログが表示されます。

3. **編集し，［OK］ボタンをクリックする。**
   今すぐにリリースしてもよいかどうか確認するメッセージが表示されます。すぐにリリースすると，JP1/IM - MO のログに出力される変換メッセージ群名が，この直後から変更されます。
4. **すぐにリリースしてもよい場合は［はい］ボタンを，あとからリリースする場合は［後でリリースする］ボタンをクリックする。**
   ［はい］ボタンをクリックした場合は，メイン画面に，変更した変換メッセージ群名が反映されます。

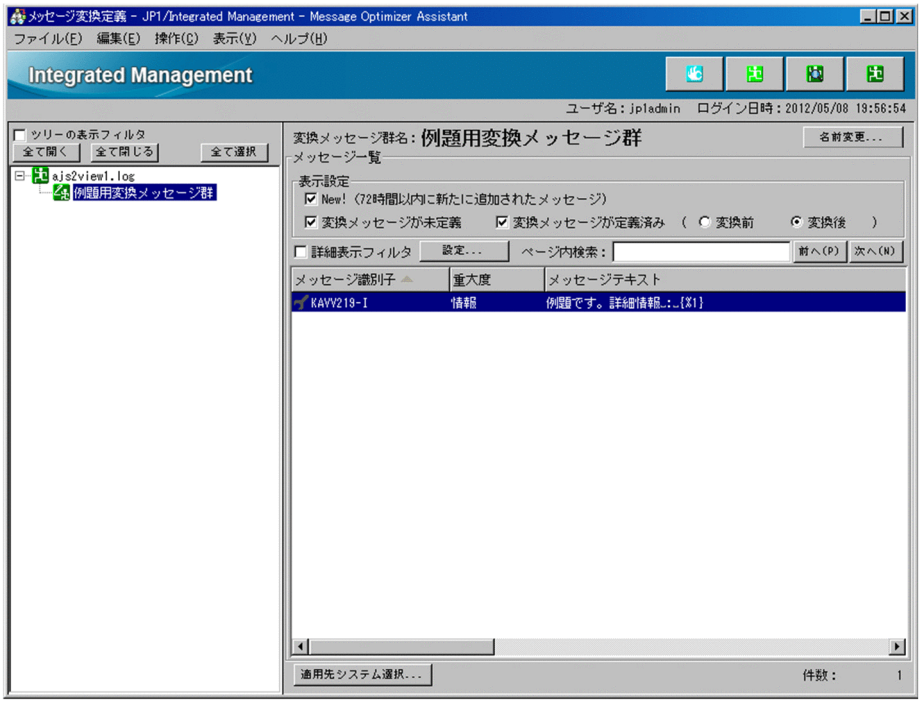
   ［後でリリースする］ボタンをクリックした場合は，ツリーエリアのイベントソースのアイコンが「（リリース編集状態）」に変わります。
   このあと，リリース許可およびリリースをすることで，編集した内容でリリースされます。

10.4.5　変換メッセージの定義を編集する

リリース中に，変換メッセージの定義を編集できます。

手順を次に示します。

1. **メイン画面のツリーエリアで変換メッセージ群を選択し，メッセージ一覧に表示されているメッセージのうち，編集するメッセージをダブルクリックする。**
   ［変換メッセージ定義］ダイアログが表示されます。
2. **変換メッセージの定義を編集し，［OK］ボタンをクリックする。**
   メイン画面のツリーエリアで，編集した変換メッセージ群のアイコンが「 （リリース編集状態）」に変わります。



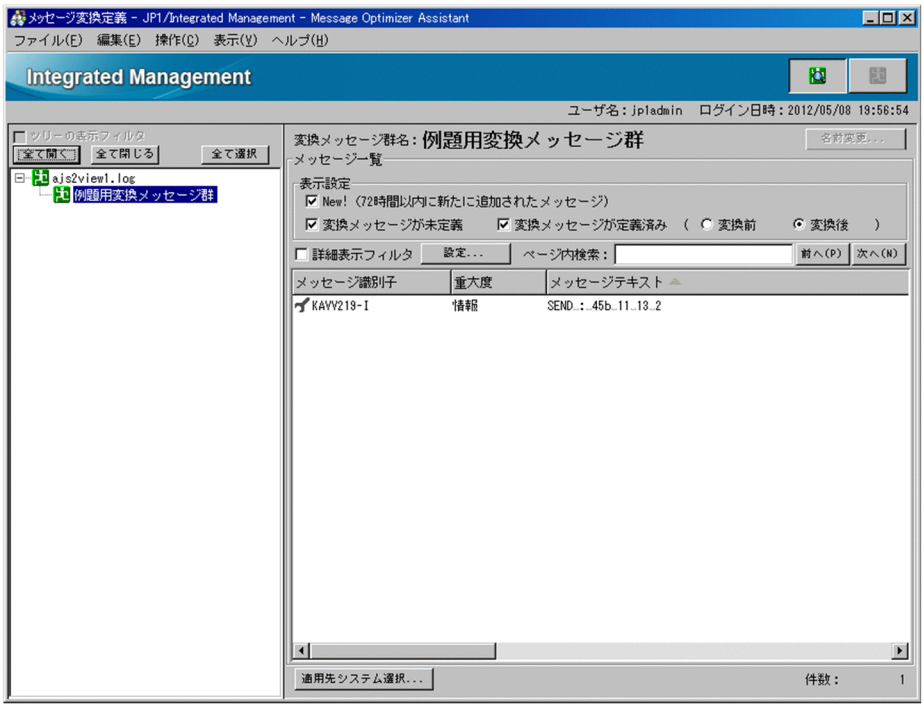
このあと，リリース許可およびリリースをすることで，編集した内容でリリースされます。

10.4.6　リリース編集前の定義を参照する

リリース編集をすると，JP1/IM - MO Assistant の画面には，リリース編集後の定義内容しか表示されません。リリース編集前の定義（つまり，現在リリースされている定義）の内容を参照したい場合は，JP1/IM - MO Assistant の画面を**リリース照会モード**に切り替える必要があります。

手順を次に示します。

1. **メイン画面で，［ ］ボタンをクリックする。**
   メイン画面がリリース照会モードに切り替わります。



適用先システム，または変換フォーマットの定義を参照する場合は，［適用先システム一覧］ダイアログ，または［変換フォーマット一覧］ダイアログを表示してください。

通常のメイン画面に戻すには，［ ］ボタンをもう一度クリックしてください。

10.5　基本フォーマットの編集

基本フォーマットの定義を編集する手順について説明します。

基本フォーマットの定義を編集するには，対象のイベントソースおよび変換メッセージ群が編集状態である（リリースされていない）必要があります。手順に入る前に，リリースを解除しておいてください。リリースを解除する方法については，「10.3.1　イベントソースと変換メッセージ群のリリースを解除する」を参照してください。

手順を次に示します。

1. **メイン画面のツリーエリアで，基本フォーマットを編集するイベントソースを選択する。**
2. **［基本フォーマット定義］ボタンをクリックする。**
   ［基本フォーマット定義］ダイアログが表示されます。
3. **基本フォーマットを編集し，［OK］ボタンをクリックする。**
   確認メッセージが表示されます。［はい］ボタンをクリックすると，メイン画面に戻ります。
   メイン画面では，イベントソースのアイコンが「（リリース状態）」に変わります。

注意事項

基本フォーマットを編集すると，編集したイベントソースの基本メッセージ，変換メッセージ，およびサンプルメッセージがすべて削除されます。必要に応じて，再度定義してください。

10.6　定義の削除

ここでは，使用しなくなった定義を削除する方法について説明します。

10.6.1　イベントソースと変換メッセージ群を削除する

イベントソースと変換メッセージ群の定義を削除するには，対象のイベントソースと変換メッセージ群が編集状態である（リリースされていない）必要があります。

手順に入る前に，リリースを解除しておいてください。リリースを解除する方法については，「10.3.1　イベントソースと変換メッセージ群のリリースを解除する」を参照してください。

イベントソース・変換メッセージ群の定義は，次の手順で削除します。

1. **メイン画面のツリーエリアで，削除するイベントソースまたは変換メッセージ群を選択する。**
2. **メニューバーで，［編集］－［削除］－［イベントソース］または［変換メッセージ群］を選択する。**
   確認メッセージで［はい］ボタンをクリックすると，削除が完了します。
   なお，イベントソースおよび変換メッセージ群は［Ctrl］キーまたは［Shift］キーで複数選択し，一括して定義を削除できます。

10.6.2　基本メッセージを削除する

変換メッセージ群には，個々のメッセージテキストの変換定義が格納されています。ここでは，個々のメッセージテキストの変換定義を削除する方法について説明します。手順に入る前に，イベントソースのリリースを解除しておいてください。リリースを解除する方法については，「10.3.1　イベントソースと変換メッセージ群のリリースを解除する」を参照してください。

基本メッセージの定義は，次の手順で削除します。

1. **メイン画面のツリーエリアで，削除するメッセージテキストがあるイベントソースを選択する。**
   リストエリアに，変換メッセージ群に格納されたメッセージテキストが表示されます。
2. **リストエリアで，削除したいメッセージを選択する。**
3. **メニューバーで，［編集］－［削除］－［メッセージ］－［1 件削除］を選択する。**
   確認メッセージで［はい］ボタンをクリックすると，削除が完了します。
   全件削除したい場合は，［全件削除］を選択します。

10.6.3　適用先システムを削除する

適用先システムの定義を削除するには，対象の適用先システムが編集状態である（リリースされていない）必要があります。

手順に入る前に，リリースを解除しておいてください。リリースを解除する方法については，「10.3.2　変換フォーマットと適用先システムのリリースを解除する」を参照してください。

手順を次に示します。

1. **メイン画面のメニューバーで，［編集］－［適用先システム］を選択する。**
   ［適用先システム一覧］ダイアログが表示されます。
2. **削除する適用先システムを選択し，［削除］ボタンをクリックする。**
   確認メッセージで［はい］ボタンをクリックすると，削除されます。

10.6.4　変換フォーマットを削除する

変換フォーマットの定義を削除するには，次の状態にする必要があります。

- 削除する変換フォーマットを結び付けている適用先システムはない。
  適用先システムを複数定義して，変換フォーマットを個別の適用先システムに結び付けている場合，変換フォーマットと適用先システムの結び付きを解除する必要があります。
- 削除する変換フォーマットが編集状態である（リリースされていない）。

削除する変換フォーマットがリリースされている場合，リリースを解除する必要があります。リリースを解除する方法については，「10.3.2　変換フォーマットと適用先システムのリリースを解除する」を参照してください。

変換フォーマットを削除する手順を次に示します。

1. **メイン画面のメニューバーで，［編集］－［変換フォーマット］を選択する。**
   ［変換フォーマット一覧］ダイアログが表示されます。
2. **削除する変換フォーマットを選択し，［削除］ボタンをクリックする。**
   確認メッセージで［はい］ボタンをクリックすると，削除されます。

11 メンテナンス

この章では，JP1/IM - MO を運用する際に行うメンテナンス作業として，データベースの管理，JP1/IM - MO のバックアップとリストア方法，および運用中の構成変更時に必要な作業について説明します。

11.1　メンテナンスの概要

11.2　データベースの管理

11.3　バックアップ

11.4　リストア

11.5　運用中の構成変更

11.1　メンテナンスの概要

JP1/IM - MO を安定して運用するために，定義ファイルのバックアップやデータベースの再編成など定期的なメンテナンス作業を計画してください。

JP1/IM - MO のメンテナンス項目を次の表に示します。

表 11-1　JP1/IM - MO のメンテナンス項目

項番	目的	説明	参照先
1	データベースの管理	データベースのメンテナンス方法を説明します。	11.2
2	バックアップ	JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant のバックアップ方法について説明します。	11.3
3	リストア	JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant のリストア方法について説明します。	11.4
4	運用中の構成変更	運用中にシステム構成を変更するために必要なことを説明します。	11.5

バックアップする場合には，システム構成とバックアップする時期によって対象となるファイルと作業対象のホストが異なります。バックアップの概要を次に示します。

表 11-2　JP1/IM - MO のバックアップの概要

バックアップする時期	バックアップ対象	クラスタ構成時の作業対象	手順
JP1/IM - MO をセットアップしたとき	jp1immo.conf	実行系および待機系	11.3.1
JP1/IM - MO の設定を変更したとき			
JP1/IM - Manager の統合監視 DB をバックアップしたとき	jmoevgetpos.dat	実行系（共有ディスク）	11.3.2
JP1/IM - MO Assistant で変換定義の作成および変更が完了したとき	データベース	実行系（共有ディスク）	11.2.1
1 日に 1 回など定期的に取得			
データベースの再編成をする前			
データベースを再セットアップする前			
データベースを移行する前			
データベースをリストアする前			
JP1/IM - MO を上書きインストールまたはアンインストールする前	jp1immo.conf	実行系および待機系	11.3.1
	データベース	実行系（共有ディスク）	11.2.1
JP1/IM - MO Assistant をセットアップしたとき	jp1immoa.properties	実行系および待機系	11.3.3
JP1/IM - MO Assistant の設定を変更したとき			
JP1/IM - MO Assistant を上書きインストールまたはアンインストールする前			

バックアップをリストアする場合の概要を次に示します。

表 11-3　JP1/IM - MO のリストアの概要

リストアする時期	リストア対象	クラスタ構成時の作業対象	手順
JP1/IM - MO の設定をリストアするとき	jp1immo.conf	実行系および待機系	11.4.1
JP1/IM - Manager の統合監視 DB をリストアするとき	jmoevgetpos.dat	実行系（共有ディスク）	11.4.2
データベースを再セットアップしたあと	データベース	実行系（共有ディスク）	11.2.2
データベースを移行するとき			
データベースをリストアするとき			
JP1/IM - MO を再インストールしたあと	jp1immo.conf	実行系および待機系	11.4.1
	データベース	実行系（共有ディスク）	11.2.2
JP1/IM - MO Assistant の設定をリストアするとき	jp1immoa.properties	実行系および待機系	11.4.3
JP1/IM - MO Assistant を再インストールしたあと			

11.2　データベースの管理

データベースの管理について説明します。

11.2.1　データベースのバックアップ

データベースのバックアップについて説明します。データベースには，JP1/IM - MO Assistant で定義した変換定義情報および学習機能で採取した変換候補メッセージが格納されています。定期的なバックアップを検討してください。

バックアップを取得する時期，バックアップ取得方法，および注意事項について次に示します。

(1) バックアップを取得する時期

バックアップを取得する時期を次に示します。

- JP1/IM - MO Assistant で変換定義の作成および変更が完了したとき
- 1 日に 1 回など定期的に取得
- データベースの再編成をする前
- データベースを再セットアップする前
- データベースを移行する前
- データベースをリストアする前

(2) バックアップ取得方法

バックアップを取得する手順を次に示します。

1. **JP1/IM - MO Assistant からログアウトする。**
   JP1/IM - MO Assistant がバックアップ対象の JP1/IM - MO に接続している場合, 必ずログアウトしてください。JP1/IM - MO Assistant からのログアウト方法については,「7.2　JP1/IM - MO Assistant からのログアウト」を参照してください。
2. **JP1/IM - MO のホストで次のサービスを停止する。**
   - JP1/IM - Message Optimizer サービス
     ただし，学習機能を停止している場合は，サービスを起動したままでもバックアップできます。学習機能を停止する方法については,「9.2.1　学習機能の停止方法」を参照してください。
   - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス

   サービスの停止方法については,「6.2.3　JP1/IM - MO の終了」を参照してください。クラスタシステムの場合については,「6.3.3　JP1/IM - MO の終了」を参照してください。
3. `jmoedbbackup` **コマンドを次のように実行する。**
   `jmoedbbackup -b` **バックアップ出力先フォルダパス**

   クラスタシステムの場合は，実行系でだけコマンドを実行してください。
   `jmoedbbackup` コマンドの詳細については,「13.　コマンド　jmoedbbackup」を参照してください。
4. **手順 2. で停止したサービスを起動する。**

(3) 注意事項

`jmoedbbackup` コマンドで取得したバックアップフォルダは，ユーザーが削除するまでバックアップをするたびに増え続けます。ディスク容量不足の原因になるため，定期的にバックアップフォルダを削除してください。バックアップフォルダは 2 世代以上残す運用を推奨します。

11.2.2 データベースのリストア

データベースのリストアについて説明します。

データベースのリストア作業に入る前に，次の作業を完了してください。

- リストア先のデータベースのバックアップを取得する。
  データベースをリストアすると，リストア先で定義されていた定義情報はすべて削除されます。そのため，万一に備えリストア先のデータベースのバックアップを取得してください。データベースのバックアップ方法については，「11.2.1　データベースのバックアップ」を参照してください。

データベースをリストアする手順を次に示します。

1. **JP1/IM - MO Assistant からログアウトする。**
   JP1/IM - MO Assistant がリストア対象の JP1/IM - MO に接続している場合, 必ずログアウトしてください。JP1/IM - MO Assistant からのログアウト方法については，「7.2　JP1/IM - MO Assistant からのログアウト」を参照してください。
2. **JP1/IM - MO のホストで次に示すサービスを停止する。**
   - JP1/IM - Message Optimizer サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス

   サービスの停止方法については，「6.2.3　JP1/IM - MO の終了」を参照してください。クラスタシステムの場合については，「6.3.3　JP1/IM - MO の終了」を参照してください。
3. **JP1/IM - Message Optimizer Database サービスの起動を確認する。**
   JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動していない場合, JP1/IM - Message Optimizer Database サービスを起動してください。
4. `jmoedbrstr` **コマンドを次のように実行する。**
   `jmoedbrstr -u -b` **取得したバックアップの格納先フォルダパス**

   クラスタシステムの場合は，実行系でだけコマンドを実行してください。データベースがリストアされます。
   `jmoedbrstr` コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbrstr」を参照してください。
5. **手順 2. で停止したサービスを起動する。**

補足事項

障害が発生してデータベースのリストアをする場合，リストア作業をする前に，JP1/IM - Message Optimizer Database サービスを起動できることを確認してください。
JP1/IM - Message Optimizer Database サービスを起動できない場合は，「17.5(5)　データベースが起動できない」を参照してください。

11.2.3 データベースの再編成

データベースの性能劣化を防ぐため，データベースの格納領域を整理できます。これを，データベースの再編成といいます。

データベースの再編成を実施しないと，時間の経過に伴って格納効率が悪化し，次のような性能が劣化するおそれがあります。

- JP1 イベントの変換性能
- JP1/IM - MO Assistant 操作中の JP1/IM - MO からの応答速度
- `jmorelease` コマンド，`jmoimport` コマンド，および `jmoexport` コマンドの実行性能

また，データベースを再編成しないで定義の追加，削除，リリースまたはリリース解除を繰り返すと，格納効率が悪化し，データベース容量不足が起きます。

ここでは，データベースの再編成について説明します。

(1) 再編成の実施時期

定義変更回数が少ない場合は，1 年に 1 回を目安に定期的に実行してください。

次のような場合にデータベースの再編成を実施してください。

- Windows イベントログに，メッセージ KFPH00211-I，KFPH00212-I，または KFPH22037-W が出力された場合
- 定義の上限値の 30% 程度の定義を変更（更新，定義削除後の定義追加など）した場合

(2) 再編成の実行方法

データベースの再編成は，`jmoedbrorg` コマンドで実行します。

バックアップを再編成する手順を次に示します。

1. **JP1/IM - MO Assistant からログアウトする。**
   JP1/IM - MO Assistant からのログアウト方法については，「7.2　JP1/IM - MO Assistant からのログアウト」を参照してください。
2. **JP1/IM - MO のホストで次のサービスを停止する。**
   - JP1/IM - Message Optimizer サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス

   サービスの停止方法については，「6.2.3　JP1/IM - MO の終了」を参照してください。
   クラスタシステムの場合については，「6.3.3　JP1/IM - MO の終了」を参照してください。
3. **再編成中にエラーが発生した場合に備えて，jmoedbbackup コマンドを使用してデータベースのバックアップを取得する。**
   `jmoedbbackup` コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbbackup」を参照してください。
   クラスタシステムの場合は，実行系でだけコマンドを実行してください。
4. **jmoedbrorg コマンドを使用してデータベースを再編成する。**
   `jmoedbrorg` コマンドの実行方法については，「13.　コマンド　jmoedbrorg」を参照してください。
   クラスタシステムの場合は，実行系でだけコマンドを実行してください。
5. **手順 2 で停止したサービスを起動する。**

11.3　バックアップ

JP1/IM - MO のバックアップについて説明します。

11.3.1　JP1/IM - MO のバックアップ（JP1/IM - MO をセットアップまたは JP1/IM - MO の設定を変更した場合）

JP1/IM - MO をセットアップまたは JP1/IM - MO の設定を変更した場合に，JP1/IM - MO の環設定ファイルをバックアップする方法について説明します。

(1) バックアップする時期

バックアップする時期を次に示します。

- JP1/IM - MO をセットアップした場合
- JP1/IM - MO の設定を変更した場合

(2) バックアップするファイルと格納先

バックアップするファイルと格納先を次に示します。

- JP1/IM - MO の環境設定ファイル
  ファイル名：`jp1immo.conf`
  格納先：JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** `¥conf`
- JP1/Base のユーザーが設定した定義ファイル
  JP1/Base のバックアップの詳細については，マニュアル「JP1/Base　運用ガイド」を参照してください。

(3) バックアップ取得方法

バックアップは，ファイルをコピーするなど任意の方法で取得してください。

11.3.2　JP1/IM - MO のバックアップ（JP1/IM - Manager の統合監視 DB をバックアップした場合）

JP1/IM - Manager の統合監視 DB をバックアップする場合に，イベント取得開始位置管理ファイルをバックアップする手順について説明します。

(1) バックアップする時期

バックアップする時期を次に示します。

- JP1/IM - Manager のデータベース（統合監視 DB）をバックアップしたとき

(2) バックアップするファイルと格納先

バックアップするファイルと格納先を次に示します。

- イベント取得開始位置管理ファイル
  ファイル名：`jmoevgetpos.dat`
  格納先：

  クラスタ構成の場合

環境設定パラメーター EVGETPOS_FILE_DIR に指定する共有ディスク上のパス

クラスタ構成でない場合

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥sys

(3) バックアップ取得方法

JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止してからファイルをコピーするなどの方法でバックアップを取得してください。

(4) バックアップ時の注意事項

バックアップする前に JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止してください。JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止しないでバックアップした場合，バックアップ取得時およびリストア直後に発生した JP1 イベントが変換されないおそれがあります。

11.3.3 JP1/IM - MO Assistant のバックアップ

JP1/IM - MO Assistant のバックアップについて説明します。

バックアップする時期，バックアップするファイルと格納先，およびバックアップ取得方法について次に示します。

(1) バックアップする時期

バックアップする時期を次に示します。

- JP1/IM - MO Assistant をセットアップしたとき
- JP1/IM - MO Assistant の設定を変更したとき
- JP1/IM - MO Assistant を上書きインストールまたはアンインストールする前

(2) バックアップするファイルと格納先

バックアップするファイルと格納先を次に示します。

- JP1/IM - MO Assistant の環境設定ファイル
  ファイル名：jp1immoa.properties
  格納先：JP1/IM - MO Assistant **インストール先フォルダ** ¥conf

(3) バックアップ取得方法

バックアップは，ファイルをコピーするなど任意の方法で取得してください。

11.4　リストア

JP1/IM - MO でバックアップしたファイルをリストアする手順について説明します。

11.4.1　JP1/IM - MO のリストア（JP1/IM - MO の設定をリストアする場合，または JP1/IM - MO を再インストールしたあと）

JP1/IM - MO の設定情報をリストアする手順を次に示します。

1. **JP1/Base をリストアする。**
   JP1/Base をリストアする方法については，マニュアル「JP1/Base　運用ガイド」を参照してください。
2. **バックアップを取得した環境設定ファイル（`jp1immo.conf`）を上書きする。**
   格納先：JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** `¥conf`
3. `jmosetcnf` **コマンドを実行する。**
   JP1/IM - MO の設定情報がリストアされます。
   `jmosetcnf` コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmosetcnf」を参照してください。

11.4.2　JP1/IM - MO のリストア（JP1/IM - Manager の統合監視 DB をリストアする場合）

イベント取得開始位置管理ファイルをリストアする手順を次に示します。

1. **バックアップを取得したイベント取得開始位置管理ファイル（jmoevgetpos.dat）を上書きする。**
   イベント開始位置管理ファイルの格納先は次のとおりです。

   クラスタ構成の場合
   環境設定パラメーター EVGETPOS_FILE_DIR に指定する共有ディスク上のパス

   クラスタ構成でない場合
   JP1/IM - MO インストール先フォルダ ¥sys

11.4.3　JP1/IM - MO Assistant のリストア

JP1/IM - MO Assistant の設定情報をリストアする手順を次に示します。

1. **バックアップを取得した `jp1immoa.properties` ファイルを上書きする。**
   格納先：JP1/IM - MO Assistant **インストール先フォルダ** `¥conf`

11.5 運用中の構成変更

JP1/IM - MO の運用中には，ホストを入れ替えたり，変換定義情報（データベース）を移行して変換定義の処理時間を軽減したりする場合があります。ここでは，システムの構成変更として，次の場合について説明します。

- **JP1/IM - MO を別ホストに移行する場合**
  JP1/IM - MO を入れ替える場合の，移行元の定義ファイルおよびデータベースを新しいホストに移行する方法について説明します。
- **データベースの容量を増やす場合**
  運用中に定義件数の上限に達してしまったり，JP1/IM - Manager の監視対象ホストの大幅な増加が見込まれたりする場合に，運用中のデータベースの容量を確認し，容量を増やす操作について説明します。
- **運用開始後の JP1/IM - Manager が監視しているシステムの構成変更に対応する場合**
  JP1/IM - MO の運用を開始したあとに，JP1/IM - Manager が監視しているシステムに変更があった場合に，JP1/IM - MO の発行元の定義や適用先システム定義を変更する操作について説明します。
- **データベースの格納先を同一ホスト内で変更する場合**
  データベースの格納先を同一ホスト内で変更する場合の操作について説明します。
- **JP1/IM - MO システムの設定を変更する場合**
  JP1/IM - MO がデータベースと通信するポート番号を変更した場合の操作，イベントソース名を変更する場合の操作について説明します。

11.5.1 JP1/IM - MO を別ホストに移行する場合

(1) 注意事項

JP1/IM - MO を別ホストに移行する場合，次の点に注意してください。

● 移行元と移行先のホストで次の点を一致させること。
- JP1/IM - MO のバージョン

● 移行元と移行先でホスト名および IP アドレスが異なる場合，次の各設定値を見直すこと。
- 環境設定パラメーター（IM_HOST，EVTSVR）
- 適用先システム定義
- 発行元定義

● クラスタ環境の場合，定義情報のバックアップおよびリストアの作業は実行系だけで実行すること。

● 移行先ホストのディスク容量に十分な空きがあること。

● 移行元ホストおよび移行先ホストで，環境設定ファイルおよびデータベースのバックアップを取得すること。

(2) 移行方法

JP1/IM - MO を別ホストに移行するには，まず移行元ホストでバックアップを取得し，移行先ホストでリストアしてください。バックアップについては，「11.2.1　データベースのバックアップ」および「11.3　バックアップ」を，リストアについては，「11.2.2　データベースのリストア」および「11.4　リストア」を参照してください。

注意事項

- JP1/IM - MO の環境設定ファイルのバックアップを取得したあとに，JP1/IM - Manager のホスト

名または論理ホスト名を変更した場合は，jp1immo.conf 環境設定ファイルを変更してからリストアしてください。

- 接続先の JP1/IM - Manager を変更しない場合，または JP1/IM - MO と同時に移行する場合は，イベント取得開始位置管理ファイルも移行してください。イベント取得開始位置管理ファイルの格納先を次に示します。
  JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥sys¥jmoevgetpos.dat

11.5.2 運用開始後にデータベースの容量を大きくする

運用中に定義件数の上限に達してしまったり，JP1/IM - Manager の監視対象ホストの大幅な増加が見込まれたりする場合には，データベースの容量を増やす必要があります。

注意事項

- データベースの容量は小さくできません。ディスクの所要量に余裕がない場合は，まず小さい容量での運用をお勧めします。
- データベースの容量が LL サイズ（最大）の場合は，容量を増やせません。次のどちらかの方法で対処してください。
  ・JP1/IM - Manager が階層化されている場合は，拠点マネージャーごとに JP1/IM - MO を導入することを検討してください。
  ・イベントソースの定義が上限に達した場合は，一つのログファイルが複数存在するなど，まとめて定義できるログファイルがないかどうか検討してください。

データベースの容量を増やす手順を次に示します。

1. **データベース容量を見積もる。**
   JP1/IM - MO の運用に必要な定義の件数を見積もります。詳細な見積もり方法については，「3.5.1 データベースの容量の検討」を参照してください。

2. jmoedbgetinf **コマンドを実行して，運用中のデータベースの容量が変更後のデータベース容量より小さいことを確認する。**
   クラスタシステムの場合は，実行系でだけコマンドを実行してください。jmoedbgetinf コマンドの詳細については，「13. コマンド jmoedbgetinf」を参照してください。

3. JP1/IM - MO **のホストで次に示すサービスを停止する。**
   - JP1/IM - Message Optimizer サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス

   サービスの停止方法については，「6.2.3 JP1/IM - MO の終了」を参照してください。クラスタシステムの場合については，「6.3.3 JP1/IM - MO の終了」を参照してください。

4. jmoedbbackup **コマンドを次のように実行してデータベースのバックアップを取得する。**

   jmoedbbackup -b **バックアップフォルダ出力先**

   クラスタシステムの場合は，実行系でだけコマンドを実行してください。
   バックアップフォルダは「**バックアップフォルダ出力先** ¥BACK_YYYYMMDDhhmmss」という名称で作成されます。
   データベースのをバックアップする操作の詳細については，「11.2.1 データベースのバックアップ」を参照してください。

5. jmoedbsetup **コマンドを次のように実行する。**

   jmoedbsetup -u -s **指定したいデータベースのサイズ**

クラスタシステムの場合は，実行系および待機系でコマンドを実行してください。コマンドを実行すると，再セットアップを確認するメッセージが出力されます。「Y」または「y」を指定して再セットアップしてください。
jmoedbsetup コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbsetup」を参照してください。

6. **jmoedbrstr コマンドを次のように実行して，手順 4 でバックアップを取得したデータベースをリストアする。**

   jmoedbrstr -b バックアップフォルダ出力先¥BACK_YYYYMMDDhhmmss

   クラスタシステムの場合は，実行系でだけコマンドを実行してください。
   jmoedbrstr コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbrstr」を参照してください。

7. **手順 3 で停止したサービスを起動する。**

11.5.3　運用開始後の JP1/IM - Manager が監視しているシステムの構成変更に対応する

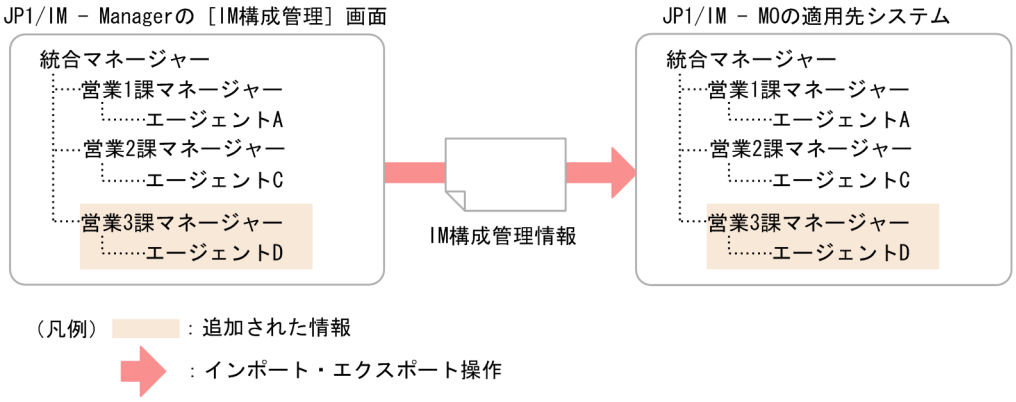
JP1/IM - Manager が監視しているシステムに合わせて JP1/IM - MO の適用先システムと発行元を定義している場合に，JP1/IM - Manager が監視しているシステムの構成の変更に合わせて効率良く定義を変更するための操作を説明します。

なお，IM 構成管理情報をインポート・エクスポートする手順については，「9.12.2(1)　IM 構成管理情報を利用して定義する」を参照してください。

(1) 監視対象のホストを追加した場合

JP1/IM - Manager の監視ホストを追加した場合について説明します。

図 11-1　JP1/IM - Manager の監視ホストを追加したときの定義のイメージ



図の場合は，JP1/IM - Manager の監視対象ホストとして，「営業 3 課マネージャー」とその配下の「エージェント D」を追加しています。システム構成変更後に IM 構成管理情報をエクスポートして，JP1/IM - MO にインポートすると，JP1/IM - MO の適用先システムに「営業 3 課マネージャー」と「エージェント D」が追加されます。

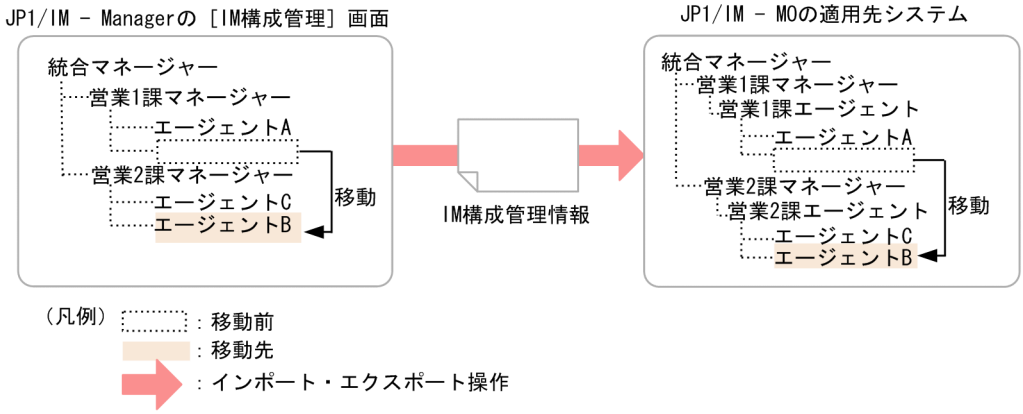
なお，システム構成定義ファイルを編集した場合も同様の定義ができます。

(2) 監視対象ホスト（発行元）を移動した場合

拠点マネージャー配下の監視対象ホストを同一システム内の拠点マネージャーの配下に移動した場合の手

順を説明します。

図 11-2　拠点マネージャー配下の監視対象ホストを同一システム内の拠点マネージャーの配下に移動したときの定義のイメージ



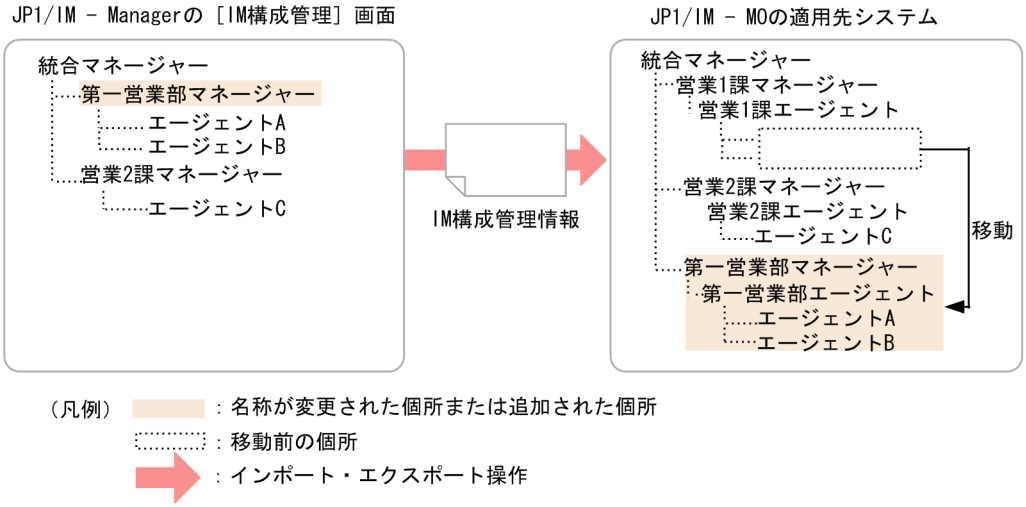
図の場合は，「営業 1 課マネージャー」配下の「エージェント B」が「営業 2 課マネージャー」の配下に移動しています。システム構成変更後に IM 構成管理情報をエクスポートして，JP1/IM - MO にインポートすると，「営業 1 課マネージャー」配下の「エージェント B」が「営業 2 課マネージャー」の配下に移動します。

なお，システム構成定義ファイルを編集した場合も同様の定義ができます。

(3) 拠点マネージャー名または監視対象ホスト名を変更した場合

JP1/IM - Manager が管理している IM 構成管理情報上で拠点マネージャー（営業 1 課マネージャーなど）や，監視対象ホスト（エージェント B など）の名称を変更した場合の手順を説明します。

図 11-3　拠点マネージャー名を変更したときのイメージ

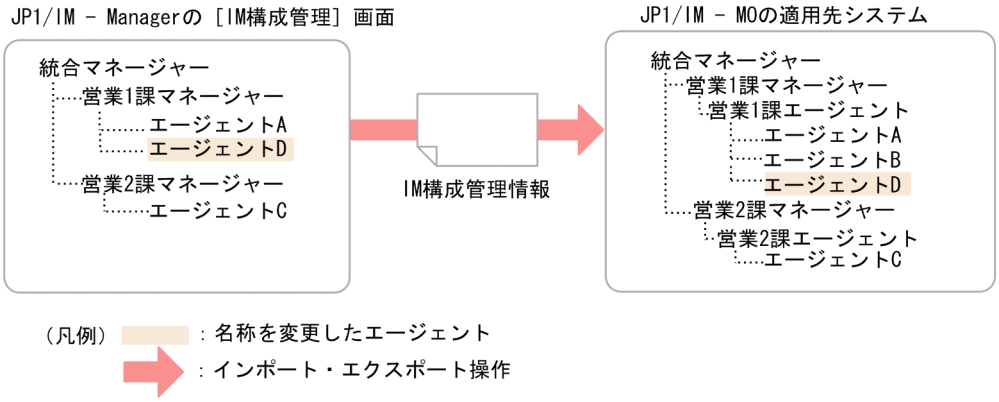


図の場合は，「営業 1 課マネージャー」を「第一営業部マネージャー」に名称を変更しています。システム構成変更後に IM 構成管理情報をエクスポートして，JP1/IM - MO にインポートすると，適用先システム名が変更されたとは見なされず，営業 1 課エージェントが削除されて，新しく第一営業部マネージャーの定義が追加されたものとして定義されます。そのため，「営業 1 課マネージャー」配下の「エージェント A」および「エージェント B」が新しく作成された「第一営業部マネージャー」の配下に移動します。

ただし，古い定義である「営業 1 課マネージャー」および「営業 1 課エージェント」が残っています。古い定義が不要な場合は，システム構成定義ファイルをエクスポートして古い定義を削除して再度インポートしてください。

次に監視対象ホスト名を変更したときの定義について説明します。

図 11-4　監視対象ホスト名を変更したときのイメージ



図の場合は，「エージェント B」の名称を「エージェント D」に変更しています。システム構成変更後に IM 構成管理情報をエクスポートして，JP1/IM - MO にインポートすると，「営業 1 課マネージャー」配下に「エージェント D」が追加されます。

また，古い定義名である「エージェント B」も残っています。古い定義が不要な場合は，システム構成定義ファイルをエクスポートして古い定義を削除して再度インポートしてください。

「エージェント B」の名称を「エージェント D」に変更したい場合は，システム構成定義ファイルをエクスポートして定義を変更し，更新モードでインポートしてください。追加モードでインポートした場合は，IM 構成管理情報をインポートした場合と同様に定義されます。

(4) JP1/IM - Manager のシステムに大規模な変更が生じた場合

古い定義をいったん削除して，IM 構成管理情報をインポートして，定義を再作成してください。

(5) 注意事項

運用開始後の JP1/IM - Manager が監視しているシステムの構成変更に対応するときの注意事項を次に示します。

- インポートした IM 構成管理情報に，運用中の定義と同じ名称の定義が含まれていた場合，末尾に番号が付加されて新しく定義が追加されます。例えば，「営業 1 課マネージャー」という定義がすでにあった場合は，「営業 1 課マネージャー _0002」となります。
- インポートしたシステム構成定義ファイルに，運用中の定義と同じ名称の定義が含まれていた場合，追加モードでインポートコマンドを実行すると，定義情報はインポートされないため，定義は変更されません。更新モードでインポートすると定義は上書きされます。

11.5.4　データベースの格納先を同一ホスト内で変更する場合

運用上の都合に応じて，データベースの格納先を変更することができます。例えば，データベースの容量が増え，格納先のディスクが容量不足になるおそれが出てきた場合に，容量に十分な空きがある別のドライブに格納先を変更することができます。データベースの格納先を同一ホスト内で変更する手順を次に示

します。

1. **JP1/IM - MO Assistant からログアウトする。**
   JP1/IM - MO Assistant がバックアップ対象の JP1/IM - MO に接続している場合，必ずログアウトしてください。JP1/IM - MO Assistant からのログアウト方法については，「7.2　JP1/IM - MO Assistant からのログアウト」を参照してください。
2. **JP1/IM - MO のホストで次に示すサービスを停止する。**
   - JP1/IM - Message Optimizer サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス

   サービスの停止方法については，「6.2.3　JP1/IM - MO の終了」を参照してください。クラスタシステムの場合については，「6.3.3　JP1/IM - MO の終了」を参照してください。
3. **データベースのバックアップを取得する。**
   データベースのバックアップ取得の詳細については，「11.2.1　データベースのバックアップ」を参照してください。
4. `jmoedbsetup` **コマンドを次のように実行する。**
   `jmoedbsetup -u y -d` **データベースを移行する格納先フォルダパス**

   クラスタシステムの場合は，実行系および待機系でコマンドを実行してください。新しい領域にデータベースが再セットアップされます。`jmoedbsetup` コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbsetup」を参照してください。
5. **元のデータベース格納先フォルダを削除する。**

   デフォルトのデータベース格納先：
   JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** `¥db¥area`
6. `jmoedbrstr` **コマンドを次のように実行する。**
   `jmoedbrstr -u -b` **取得したバックアップの格納先フォルダパス**

   クラスタシステムの場合は，実行系でだけコマンドを実行してください。手順 3. で取得したデータベースのバックアップが手順 4. で作成した新しいデータベースの領域にリストアされます。
   `jmoedbrstr` コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbrstr」を参照してください。
7. **手順 2. で停止したサービスを起動する。**

11.5.5　JP1/IM - MO システムの設定変更

JP1/IM - MO が動作しているマシンで，ポート番号，およびイベントソース名を変更する場合に必要な作業について説明します。

(1) ポート番号の変更時に必要な作業

JP1/IM - MO がデータベースと通信するポート番号を変更した場合，データベースの再セットアップが必要です。ポート番号を変更する前のデータベースをバックアップしたあと，データベースをセットアップし，データベースをリストアしてください。

(2) イベントソース名を変更する場合

メッセージ収集対象アプリケーションのインストール場所の変更などで，イベントソース名を変更すると，そのイベントソースの下の基本メッセージ，および変換メッセージはすべて削除されます。

メッセージを引き継ぎたい場合は，`jmoexport` コマンドでメッセージをエクスポートしたあと，イベン

トソース名を変更し，jmoimport コマンドでメッセージをインポートしてください。使用するコマンドの詳細については，「13.　コマンド」を参照してください。

12 画面とダイアログ

この章では，JP1/IM - MO Assistant の画面とダイアログの表示項目について説明します。

12.1　画面遷移図

12.2　［ログイン］画面

12.3　メイン画面

12.4　［基本フォーマット定義］ダイアログ

12.5　［基本フォーマット選択］ダイアログ

12.6　［メッセージ識別子選択］ダイアログ

12.7　［追加メッセージ識別子定義］ダイアログ

12.8　［サンプルメッセージ追加］ダイアログ

12.9　［イベントソース説明編集］ダイアログ

12.10　［基本メッセージ追加］ダイアログ

12.11　［詳細表示フィルタ設定］ダイアログ

12.12　［変換フォーマット一覧］ダイアログ

12.13　［変換フォーマット定義］ダイアログ

12.14　［変換メッセージ定義］ダイアログ

12.15　［ユーザー定義情報フィールド一覧］ダイアログ

12.16　［ユーザー定義情報フィールド名変更］ダイアログ

12.17　［埋め字定義］ダイアログ

12.18　［適用先システム選択］ダイアログ

12.19　［適用先システム一覧］ダイアログ

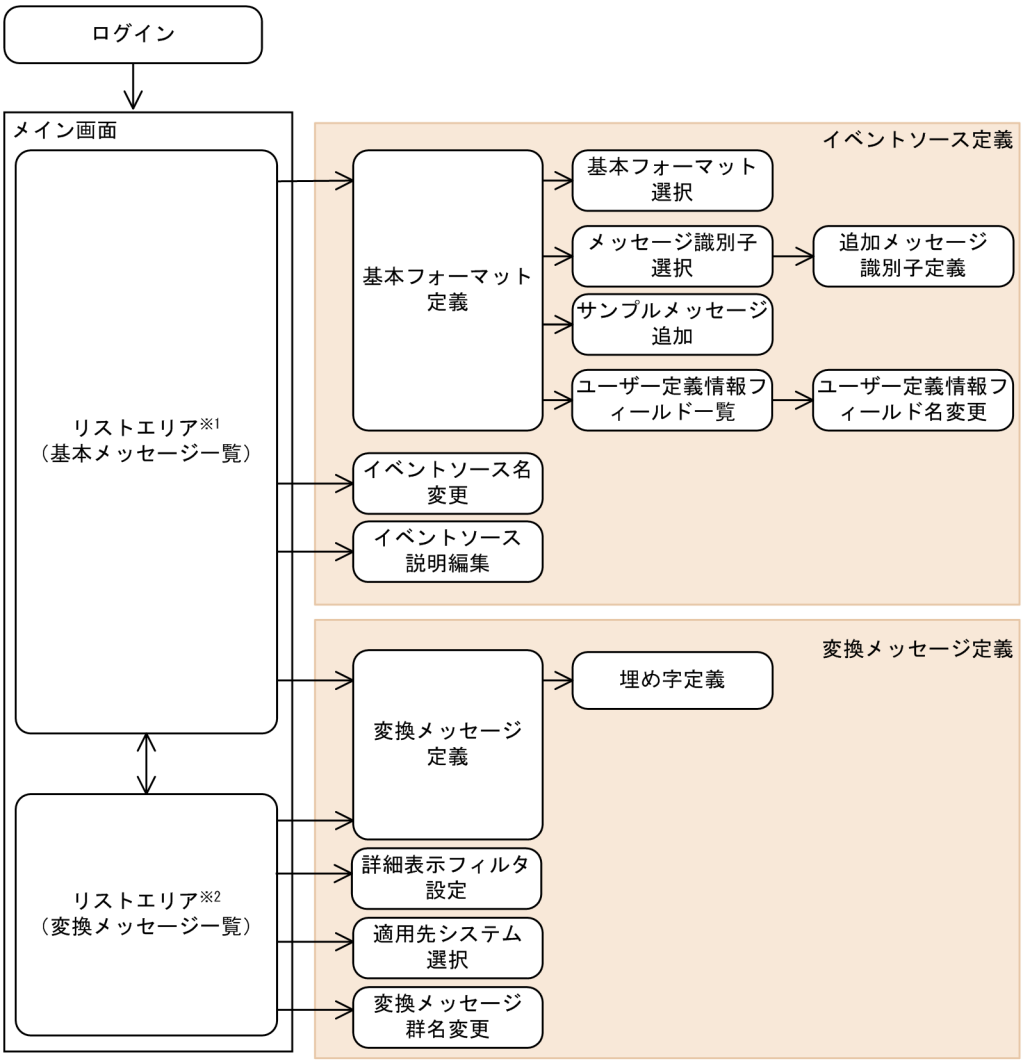
12.20　［適用先システム定義］ダイアログ

12.21 ［変換フォーマット選択］ダイアログ
12.22 ［重大度一律変換定義］ダイアログ
12.23 ［発行元一覧］ダイアログ
12.24 ［発行元選択］ダイアログ
12.25 ［発行元定義］ダイアログ
12.26 ［イベントソース名変更］ダイアログ
12.27 ［変換フォーマット名変更］ダイアログ
12.28 ［変換メッセージ群名変更］ダイアログ
12.29 ［適用先システム名変更］ダイアログ

12.1　画面遷移図

JP1/IM - MO Assistant の画面遷移図を次に示します。

図 12-1　JP1/IM - MO Assistant **の画面遷移**（1/2）

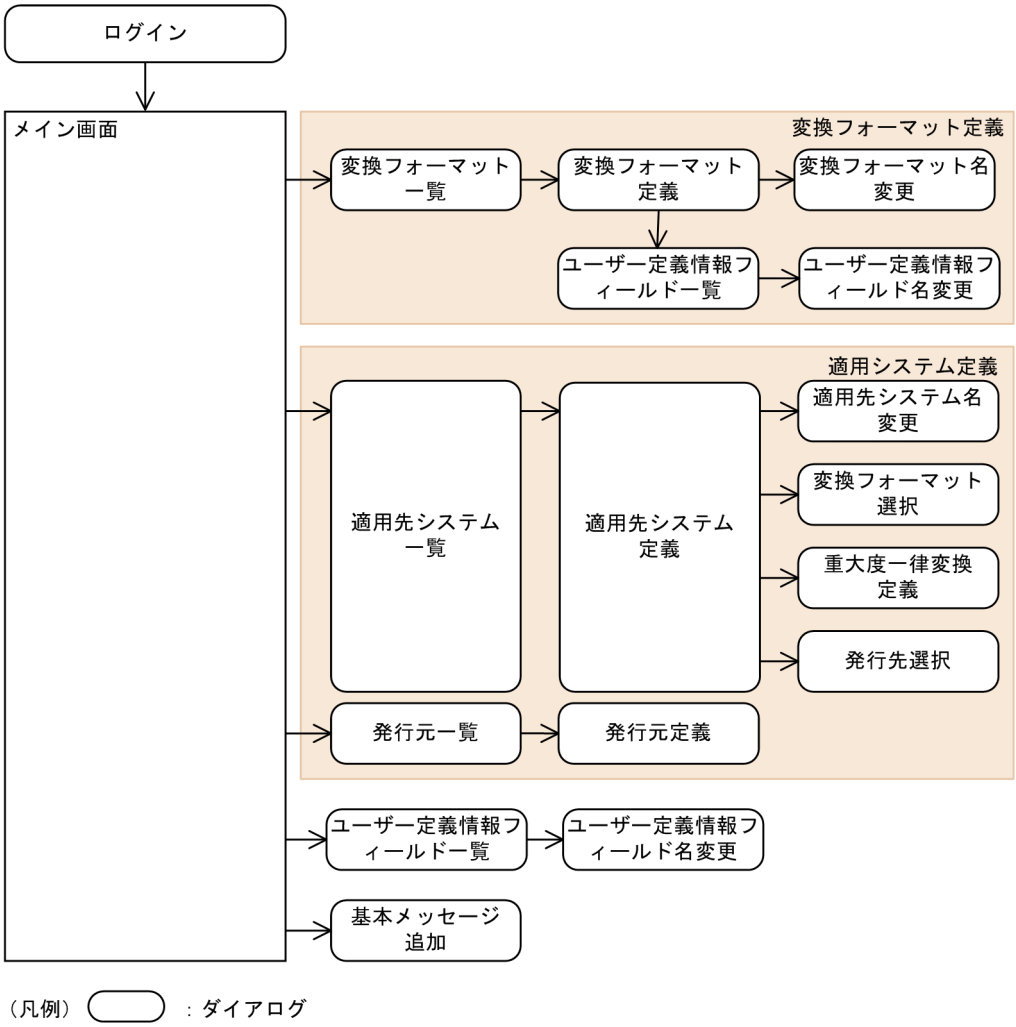


（凡例）　：ダイアログ

注※1　ツリーエリアでイベントソースを選択している場合

注※2　ツリーエリアで変換メッセージ群を選択している場合

図 12-2　JP1/IM - MO Assistant **の画面遷移**（2/2）



12.2　［ログイン］画面

JP1/IM - MO Assistant の起動時に最初に出てくる画面が［ログイン］画面です。この画面を使って，JP1/IM - MO にログインします。

図 12-3　［ログイン］画面

表示項目を次に示します。

［ユーザー名］

ログインする JP1 ユーザー名を 31 バイト以内の文字列で指定します。
ユーザー名に入力された大文字と小文字の区別はしません。
ユーザー名は，あらかじめ認証サーバの JP1/Base で登録しておく必要があります。また，登録する際には，JP1/IM - MO の画面を操作するための操作権限を与える必要があります。ログインユーザーの登録については，マニュアル「JP1/Base　運用ガイド」を，操作権限については，「付録 D　操作権限一覧」を参照してください。

［パスワード］

ログインする JP1 ユーザーのパスワードを 32 バイト以内の文字列で指定します。

［接続ホスト名］

接続する JP1/IM - MO のホスト名または IP アドレス（ドット表記　例：100.100.1.1）を指定します。

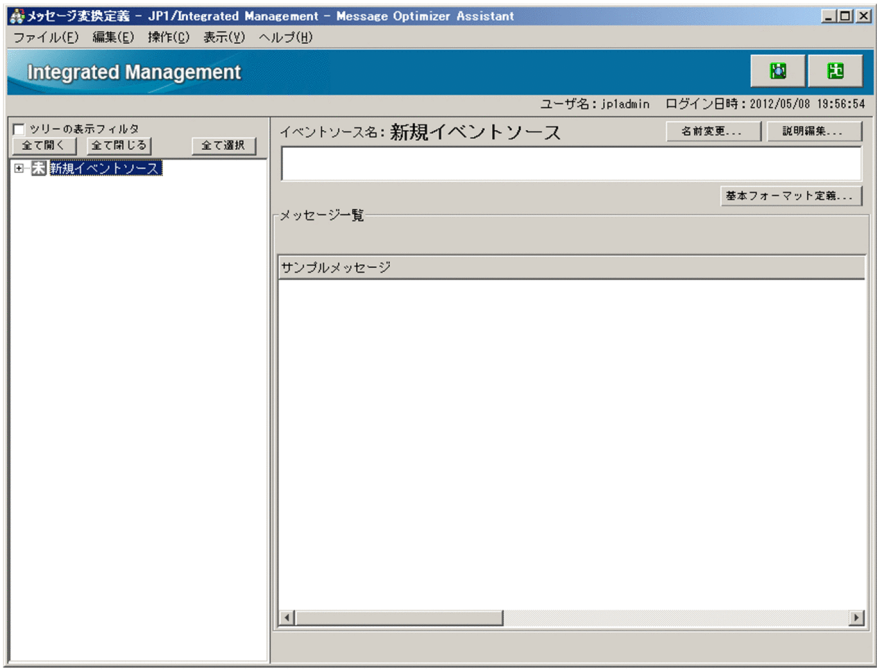
これらの項目を入力し，［OK］ボタンをクリックすると，メイン画面が表示されます。

12.3　メイン画面

JP1/IM - MO にログインすると，メイン画面が表示されます。

メイン画面を次の図に示します。

図 12-4　メイン画面



メイン画面には，次の三つのエリアがあります。

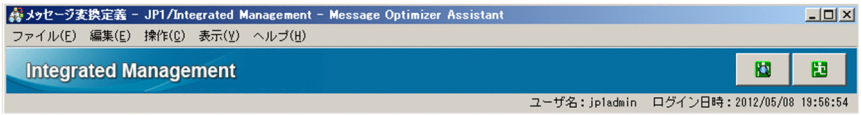
- タイトルエリア
- ツリーエリア
- リストエリア

各エリアについて説明します。

12.3.1　タイトルエリア

タイトルエリアを次の図に示します。

図 12-5　タイトルエリア



表示項目を次に示します。

(1)　メニュー

メイン画面のメニュー項目を次の表に示します。なお，メニューからできる操作は右クリックにも対応しています。

表 12-1　メイン画面のメニュー項目

メニュー	コマンド			利用条件	機能	表示されるダイアログ
ファイル	終了（ログアウト）※1			―	接続中の JP1/IM - MO Assistant からログアウトし，表示中の画面を終了します。	―
編集	新規作成	イベントソース		―	ツリーエリアに新規にイベントソースを追加し，選択状態にします。	―
		変換メッセージ群		ツリーエリアでイベントソースを選択	ツリーエリアに新規に変換メッセージ群を追加し，選択状態にします。	―
		変換メッセージ群複製※2		ツリーエリアで変換メッセージ群を選択	ツリーエリアで選択した変換メッセージ群を，同じイベントソース配下に別の変換メッセージ群として追加します。	―
		基本メッセージ		ツリーエリアでイベントソースを選択	ツリーエリアで選択したイベントソースに，基本メッセージを 1 件追加します。	［基本メッセージ追加］
	編集	イベントソース	名前	ツリーエリアでイベントソースを選択する。	ツリーエリアで選択したイベントソースの名前を定義します。	［イベントソース名変更］
			説明	ツリーエリアでイベントソースを選択	ツリーエリアで選択したイベントソースの説明を定義します。	［イベントソース説明編集］
			基本フォーマット	ツリーエリアでイベントソースを選択	ツリーエリアで選択したイベントソースに対する基本フォーマットを定義します。	［基本フォーマット定義］
		ユーザー定義情報フィールド		―	ユーザー定義情報フィールドの一覧を表示します。	［ユーザー定義情報フィールド一覧］
		変換メッセージ群	名前	ツリーエリアで変換メッセージ群を選択	ツリーエリアで選択した変換メッセージ群の名前を定義します。	［変換メッセージ群名変更］
			適用先システム選択	ツリーエリアで変換メッセージ群を選択	ツリーエリアで選択した変換メッセージ群に対する適用先システムを定義します。	［適用先システム選択］
		変換メッセージ		ツリーエリアで変換メッセージ群を選択し，リストエリアに表示されているメッセージを 1 件選択	リストエリアで選択したメッセージに対する変換メッセージを定義します。	［変換メッセージ定義］
	削除	選択した定義全てを削除		ツリーエリアで複数のイベントソース，変換メッセージ群を選択	ツリーエリアで選択した複数のイベントソース，変換メッセージ群を一括削除します。	―
		イベントソース		ツリーエリアでイベントソースを選択	ツリーエリアで選択したイベントソースを削除します。イベントソースを削除した場合，属する変換メッセージ群も削除されます。	―

メニュー	コマンド			利用条件	機能	表示されるダイアログ
		変換メッセージ群		ツリーエリアで変換メッセージ群を選択	ツリーエリアで選択した変換メッセージ群を削除します。	－
		基本メッセージ	1件削除	ツリーエリアでイベントソースを選択し，リストエリアに表示されている基本メッセージを1件選択	リストエリアで選択した基本メッセージを1件削除します。基本メッセージを削除した場合，基本メッセージに対して定義した変換メッセージも同時に削除します。	－
			全件削除	ツリーエリアでイベントソースを選択	ツリーエリアで選択しているイベントソースに属する基本メッセージをすべて削除します。基本メッセージに対して定義した変換メッセージも同時に削除します。	－
		変換メッセージ	取消し	ツリーエリアで変換メッセージ群を選択し，リストエリアに表示されている変換メッセージを1件選択	リストエリアで選択した変換メッセージの定義を1件取り消します。	－
	変換フォーマット※1			－	変換フォーマットを追加・参照・変更・削除します。	［変換フォーマット一覧］
	適用先システム※1			－	適用先システムを追加・参照・変更・削除します。	［適用先システム一覧］
	発行元※1			－	発行元を追加・参照・変更・削除します。	［発行元一覧］
操作	リリース許可			ツリーエリアで，「編集」または「リリース編集」状態のイベントソースまたは，変換メッセージ群を選択	ツリーエリアで選択したイベントソースまたは変換メッセージ群をリリース許可状態にします。 複数のイベントソースまたは変換メッセージ群を選択している場合，「編集」状態または「リリース編集」状態のものだけを「リリース許可」状態にします。	－
	リリース許可取消			ツリーエリアで，「リリース許可」状態のイベントソースまたは，変換メッセージ群を選択	ツリーエリアで選択したイベントソースまたは変換メッセージ群のリリース許可を取り消します。 複数のイベントソースまたは変換メッセージ群を選択している場合，「リリース許可」状態のものだけを「リリース許可取消」状態にします。	－
	リリース解除許可			ツリーエリアで「リリース」状態または「リリース編集」状態のイベントソース，または変換メッセージ群を選択	ツリーエリアで選択したイベントソースまたは変換メッセージ群をリリース解除許可状態にします。ただし，リリース解除許可の取り消しはできません。 複数のイベントソースまたは変換メッセージ群を選択している場合，「リリース」状態または「リリース編集」状態のものだけを「リリース解除許可」状態にします。	－

メニュー	コマンド			利用条件	機能	表示されるダイアログ
	リリース実行			―	「リリース許可」状態または「リリース解除許可」状態のイベントソース，変換メッセージ群，変換フォーマット，または適用先システムの，リリース／解除処理を実行します。 複数のイベントソース，変換メッセージ群，変換フォーマット，または適用先システムを選択している場合，1 件だけ選択しているときと同様です。	―
	学習	イベントソース	開始	イベントソース学習機能が停止中	イベントソース学習機能を開始します。	―
			停止	イベントソース学習機能が実行中	イベントソース学習機能を停止します。	―
		発行元	開始	発行元学習機能が停止中	発行元学習を開始します。デフォルトは学習状態になっています。	―
			停止	発行元学習機能が実行中	発行元学習を停止します。	―
表示	リリース照会			―	通常モードとリリース照会モードを切り替えます。	―
	最新の情報に更新			―	メイン画面のツリーエリア，リストエリアに表示されている定義情報をデータベースから再取得し，最新の定義情報を再度表示します。	―
ヘルプ	バージョン情報※1			―	JP1/IM - MO Assistant のバージョン情報を表示します。	［バージョン情報］

注※ 1

リリース照会モードでも選択できます。

注※ 2

定義済みの変換メッセージ群を使って，適用先システムや変換メッセージが異なる別の変換メッセージ群を作成したい場合に使用します。

(2) リリース管理ボタン

表示されるリリース管理ボタンを次に示します。

表 12-2　リリース管理ボタン

ボタン	名称	機能
	［リリース許可］ボタン	リリースを許可します。
	［リリース許可取消］ボタン	リリース許可を取り消します。
	［リリース解除許可］ボタン	リリースを解除許可します。

ボタン	名称	機能
	［リリース照会］ボタン	イベント変換処理で使用中の定義情報を参照します。
	［リリース実行］ボタン	リリース・リリース解除を実行します。

次にボタンの詳細を説明します。

［リリース許可］ボタン

このボタンは，ツリーエリアで選択しているイベントソースまたは変換メッセージ群のうち一つでも「編集」状態または「リリース編集」状態のものを選択すると表示されます。

クリックすると，選択している「編集」状態または「リリース編集」状態のイベントソースまたは変換メッセージ群をすべて「リリース許可」状態にします。「ツリーエリアの各状態を表すアイコンの詳細については「12.3.2　ツリーエリア」を参照してください。

ただし，変換メッセージ群をリリース許可した場合は，リリース許可した変換メッセージ群が選択している適用先システム定義もリリース許可されます。適用先システムをリリース許可した場合は，リリース許可した適用先システムの下位の適用先システム，およびすべての「リリース編集」状態の適用先システムおよび下位の適用先システムもリリース許可されます。また，リリース許可した適用先システムが選択している変換フォーマット定義がある場合，その変換フォーマット定義もリリース許可されます。

［リリース許可取消］ボタン

このボタンは，ツリーエリアで選択しているイベントソースまたは変換メッセージ群のうち一つでも「リリース許可」状態のものを選択すると表示されます。

クリックすると，選択した「リリース許可」状態のイベントソースまたは変換メッセージ群をすべて「編集」状態または「リリース編集」状態（「リリース許可」状態になる直前の状態）にします。

［リリース解除許可］ボタン

このボタンは，ツリーエリアで選択しているイベントソースまたは変換メッセージ群のうち一つでも「リリース」状態または「リリース編集」状態のものを選択すると表示されます。

クリックすると，選択した「リリース」状態または「リリース編集」状態のイベントソースまたは変換メッセージ群をすべて「リリース解除許可」状態にします。

［リリース照会］ボタン

クリックすると，リリース照会モードに移行します。リリース照会モードに移行すると，このボタンの表示はクリックされた状態になります。

リリース照会モードでは，リリースされている定義だけを表示し，ほかの定義は表示されなくなります。

クリックされた状態でこのボタンをクリックすると，通常モードに戻ります。

［リリース実行］ボタン

クリックすると，リリース・リリース解除を実行します。

12.3.2　ツリーエリア

イベントソースおよび変換メッセージ群をツリー表示します。

ツリーエリアを次の図に示します。

図 12-6　ツリーエリア

ツリーエリアの表示項目を次に示します。

［ツリーの表示フィルタ］

チェックすると，フィルタリングの条件を指定するためのアイコンと，名称を入力するテキストボックスが表示されます。アイコンをクリックすると活性化され，アイコンと同じ状態の定義だけがリストエリアに表示されます。チェックを外すと，すべての定義がリストエリアに表示されます。

複数のアイコンをクリックした場合は，複数の状態の定義が表示されます。イベントソースと変換メッセージ群の両方の状態を選択した場合は，両方の条件を満たす定義が表示されます。未定義の状態のイベントソースを表示したい場合は，変換メッセージ群の状態のチェックをすべて外してください。

ツリーエリアに表示されるアイコンについては，次の表を参照してください。

表 12-3　ツリーエリアのアイコンの意味

アイコン	名称	意味
	未リリースアイコン	リリース状態の変換メッセージ群が一つもない状態です。このアイコンは，ツリーエリアでフィルタリングの条件としてだけ表示されます。
	未定義アイコン	イベントソースが未定義の状態（基本フォーマットが定義されていない状態）です。
	編集アイコン	イベントソースまたは変換メッセージ群が編集中の状態です。
	リリース許可アイコン	イベントソースまたは変換メッセージ群がリリース許可状態です。
	リリースアイコン	イベントソースまたは変換メッセージ群がリリースの状態です。
	リリース編集アイコン	イベントソースまたは変換メッセージ群がリリース編集中の状態です。

アイコン	名称	意味
	リリース解除許可アイコン	イベントソースまたは変換メッセージ群がリリース解除許可の状態です。

「イベントソース」
イベントソースの状態でフィルタリングしたい場合にアイコンを選択します。選択するとアイコンが活性化されます。

「変換メッセージ群」
変換メッセージ群の状態でフィルタリングしたい場合にアイコンを選択します。選択するとアイコンが活性化されます。

［名前フィルタ］
表示したいイベントソース，または変換メッセージ群に含まれる文字列を入力します。［Enter］キーをクリックする，またはフォーカスが移動すると，入力した文字列を含むイベントソースまたは変換メッセージ群がフィルタリングされて表示されます。全角文字と半角文字は区別されます。大文字と小文字はデフォルトでは区別されます。大文字と小文字を区別しないように設定する場合は，環境設定パラメーター「SEARCH_SENSITIVE」を変更してください。環境設定パラメーターについては，「4.4.1(2)　環境設定ファイルの定義項目」を参照してください。制御文字は入力できません。

［全て開く］
表示中のツリーをすべて展開します。

［全て閉じる］
表示中のツリーをすべて閉じます。

［全て選択］
表示中のツリーをすべて選択します。閉じているノードもすべて展開して選択します。

イベントソース
ツリーエリアの最上位のノードです。変換メッセージ群が配下のノードとして関連づけられています。複数の項目を選択する場合は，クリックしながら［Ctrl］キーまたは［Shift］キーを押してください。
イベントソース共通定義を定義した場合は，個別の定義より上部に太字・イタリック体で表示されます。

変換メッセージ群
イベントソースの配下のノードとして関連づけられています。複数の項目を選択する場合は，クリックしながら［Ctrl］キーまたは［Shift］キーを押してください。

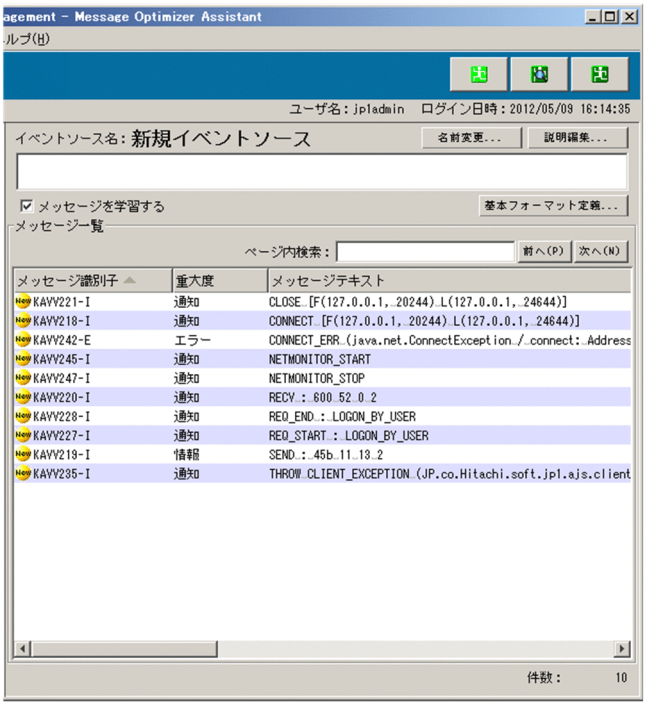
12.3.3　リストエリア

リストエリアは，ツリーエリアでイベントソースを選択しているか，または変換メッセージ群を選択しているかによって表示が異なります。それぞれの表示形式を次に説明します。

(1)　イベントソースを選択している場合

ツリーエリアでイベントソースを選択している場合のリストエリアを次の図に示します。

図 12-7　リストエリア（イベントソースを選択している場合）



ツリーエリアでイベントソースを選択している場合の表示項目を次に示します。

「イベントソース名」

ツリーエリアで選択されているイベントソースの名称が表示されます。
その下のテキストボックスには，［イベントソース説明編集］ダイアログで入力したイベントソースの説明が表示されます。

［名前変更］ボタン

クリックすると，［イベントソース名変更］ダイアログを表示します。
このボタンは，ツリーエリアで選択したイベントソースのリリース状態が「未定義」状態，「編集」状態，「リリース」状態，または「リリース編集」の場合だけ活性化されます。

［説明編集］ボタン

クリックすると，［イベントソース説明編集］ダイアログを表示します。

［メッセージを学習する］

チェックすると，JP1/IM - MO は基本メッセージの学習を開始します。
この項目は，ツリーエリアで「リリース状態」，「リリース編集」状態のイベントソースを選択した場合だけ表示されます。

［基本フォーマット定義］ボタン

クリックすると，［基本フォーマット定義］ダイアログを表示します。

「メッセージ一覧」

ツリーエリアで未定義状態のイベントソースを選択した場合，選択したイベントソースのサンプルメッセージ一覧が表示されます。
ツリーエリアで基本フォーマットが定義済みのイベントソースを選択すると，選択したイベントソースの基本メッセージ一覧が表示されます。
ツリーエリアで選択したイベントソースが「編集」状態，「リリース」状態，または「リリース編集」状態の場合に基本メッセージをダブルクリックすると，［変換メッセージ定義］ダイアログが表示され

ます。イベントソースを選択している状態で，基本メッセージをダブルクリックして変換メッセージを定義すると，イベントソースの配下に新規変換メッセージ群を追加したあとに，変換メッセージ定義が作成されます。

［ページ内検索］

検索したいメッセージに含まれる文字列を 1,023 バイト以内で入力します。［前へ］ボタンまたは［次へ］ボタンをクリックすると，入力した文字列を含む基本メッセージがリストエリアに表示されます。全角と半角は区別します。大文字と小文字はデフォルトでは区別されます。大文字と小文字を区別しないように設定する場合は，環境設定パラメーター「SEARCH_SENSITIVE」を変更してください。環境設定パラメーターについては，「4.4.1(2)　環境設定ファイルの定義項目」を参照してください。制御文字は入力できません。

［前へ］ボタン

選択しているメッセージより上部のメッセージを検索するときにクリックします。

［次へ］ボタン

選択しているメッセージより下部のメッセージを検索するときにクリックします。

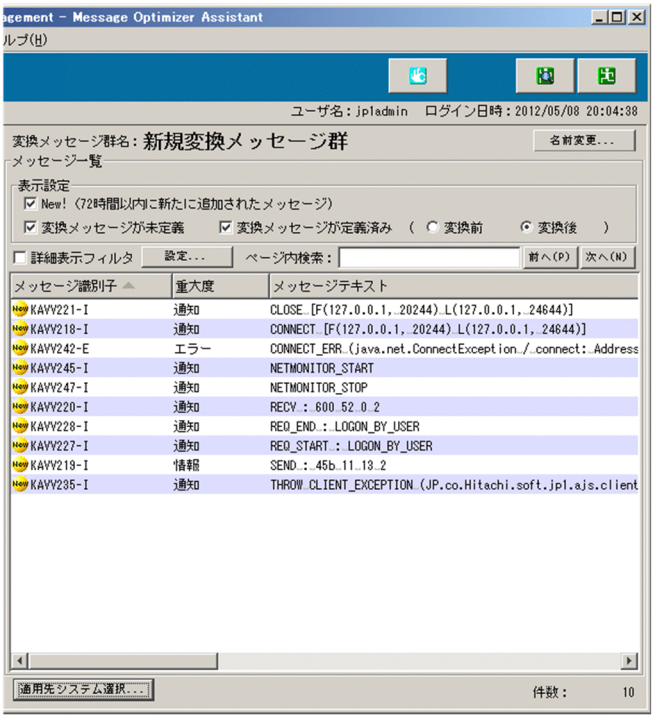
「件数」

ツリーエリアでイベントソースを選択したときに表示されるメッセージの総数を表示します。フィルタリングしている場合は，フィルタリング条件に該当するメッセージの総数が表示されます。

(2) 変換メッセージ群を選択している場合

ツリーエリアで変換メッセージ群を選択している場合のリストエリアを次の図に示します。

図 12-8　リストエリア（変換メッセージを選択している場合）



ツリーエリアで変換メッセージ群を選択している場合の表示項目を次に示します。

「変換メッセージ群名」

ツリーエリアで選択されている変換メッセージ群の名称が表示されます。

［名前変更］ボタン

クリックすると，［変換メッセージ群名変更］ダイアログを表示します。
このボタンは，ツリーエリアで選択した変換メッセージ群のリリース状態が「編集」状態，「リリース」状態，または「リリース編集」の場合だけ活性化されます。

「表示設定」
メッセージ一覧に表示させるメッセージの表示条件を設定します。

［New!（72 時間以内に新たに追加されたメッセージ）］
過去 72 時間以内に，メッセージ学習，または基本メッセージの追加によって新しく登録された基本メッセージで，変換メッセージが未定義のメッセージをメッセージ一覧に表示します。

［変換メッセージが未定義］
過去 72 時間より前に，メッセージ学習，または基本メッセージの追加によって新しく登録された基本メッセージで，変換メッセージが未定義のメッセージをメッセージ一覧に表示します。

［変換メッセージが定義済み］
変換メッセージが定義済みのメッセージをメッセージ一覧に表示します。
変換前の重大度およびメッセージテキストをメッセージ一覧に表示する場合は，［変換前］を選択します。また，変換後の重大度およびメッセージテキストをメッセージ一覧に表示する場合は，［変換後］を選択します。

「メッセージ一覧」
選択した変換メッセージ群に属する変換メッセージ一覧が表示されます。ツリーエリアで選択した変換メッセージ群が「編集」状態，「リリース」状態，または「リリース編集」状態の場合に変換メッセージをダブルクリックすると，［変換メッセージ定義］ダイアログが表示されます。

［詳細表示フィルタ］
チェックすると，詳細表示フィルタに設定された条件でメッセージが表示されます。チェックしない場合は，定義されているすべてのメッセージが表示されます。

［設定］ボタン
クリックすると［詳細表示フィルタ設定］ダイアログが表示されます。「表示設定」では指定できない変換メッセージのフィルタリング条件を指定する場合にクリックします。［詳細表示フィルタ設定］ダイアログの詳細については，「12.11 ［詳細表示フィルタ設定］ダイアログ」を参照してください。

［ページ内検索］
検索したいメッセージに含まれる文字列を 1,023 バイト以内で入力します。［前へ］ボタンまたは［次へ］ボタンをクリックすると，入力した文字列を含む基本メッセージがリストエリアに表示されます。全角と半角は区別します。大文字と小文字はデフォルトでは区別されます。大文字と小文字を区別しないように設定する場合は，環境設定パラメーター「SEARCH_SENSITIVE」を変更してください。環境設定パラメーターについては，「4.4.1(2) 環境設定ファイルの定義項目」を参照してください。制御文字は入力できません。

［前へ］ボタン
選択しているメッセージより上部のメッセージを検索するときにクリックします。

［次へ］ボタン
選択しているメッセージより下部のメッセージを検索するときにクリックします。

［適用先システム選択］ボタン
選択した変換メッセージ群の適用先システムを選択する場合にクリックします。クリックすると，［適用先システム選択］ダイアログが表示されます。

「件数」
ツリーエリアでイベントソースを選択したときに表示されるメッセージの総数が表示されます。フィ

ルタリングしている場合は，フィルタリング条件に該当するメッセージ総数が表示されます。

12.4　［基本フォーマット定義］ダイアログ

［基本フォーマット定義］ダイアログでは，選択したイベントソースのイベントソース識別子および基本フォーマットを定義します。

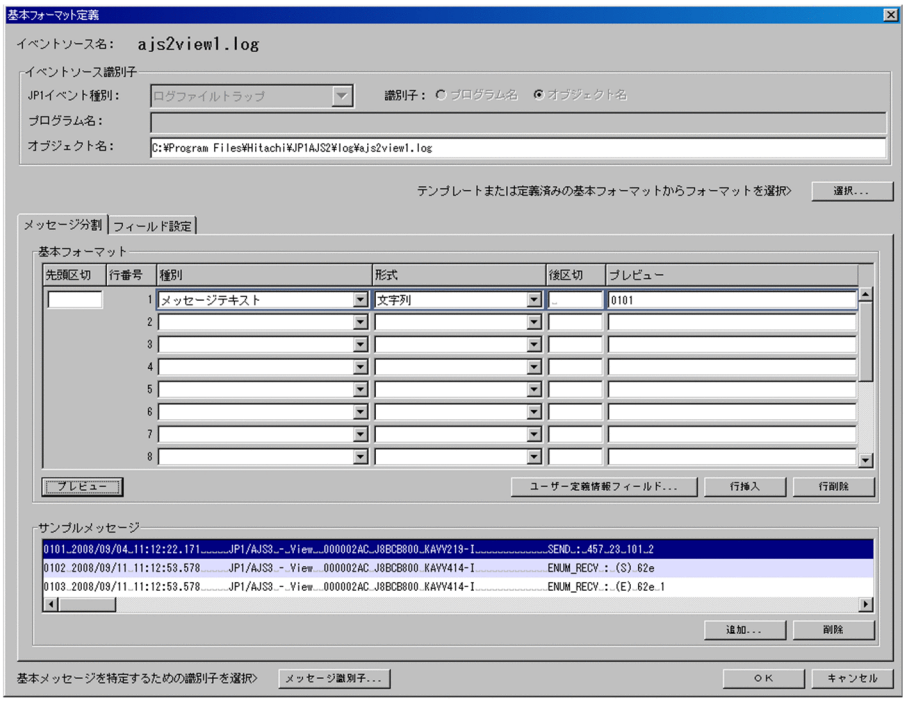
［基本フォーマット定義］ダイアログには［メッセージ分割］タブと［フィールド設定］タブがあります。

(1)［メッセージ分割］タブ

メッセージを要素ごとに分割します。

［基本フォーマット定義］ダイアログの［メッセージ分割］タブを次に示します。

図 12-9　［基本フォーマット定義］ダイアログ（［メッセージ分割］タブ選択時）の例



表示項目を次に示します。

「イベントソース名」

定義しているイベントソース名が表示されます。

「JP1 イベント種別」

定義しているイベントソースの JP1 イベント種別を選択します。

［ログファイルトラップ］

ログファイルに出力されたログを JP1 イベントに変換したイベントの場合に選択します。

［イベントログトラップ］

Windows イベントログに出力されたイベントを JP1 イベントに変換したイベントの場合に選択します。

［SNMP トラップ］

SNMP トラップを JP1 イベントに変換したイベントの場合に選択します。SNMP トラップのイベントソースの定義は一つだけ作成できます。

［直接発行イベント］

JP1 シリーズの各プログラムが発行したイベントまたはユーザーが JP1 発行コマンドもしくは関数を使って発行したイベントの場合に選択します。

［ログファイルトラップ（共通）］

ログファイルに出力されたログを変換した JP1 イベントに共通の変換定義を作成する場合に選択します。JP1/IM - MO で変換する場合に，［ログファイルトラップ］ですでに定義されたイベントソースが含まれるときには，［ログファイルトラップ］で個別に定義された変換定義が優先されます。イベント種別が［ログファイルトラップ（共通）］のイベントソースは一つだけ作成できます。

［イベントログトラップ（共通）］

Windows イベントログに出力されたイベントを変換した JP1 イベントに共通の変換定義を作成する場合に選択します。JP1/IM - MO で変換する場合に，［イベントログトラップ］ですでに定義されたイベントソースが含まれるときには，［イベントログトラップ］で個別に定義された変換定義が優先されます。イベント種別が［イベントログトラップ（共通）］のイベントソースは一つだけ作成できます。

［直接発行イベント（共通）］

JP1 の各プログラムが発行したイベント，またはユーザーが JP1 イベント発行コマンド（関数）を使って発行したイベントに共通の変換定義を作成する場合に選択します。JP1/IM - MO で変換する場合に，［直接発行イベント］ですでに定義されたイベントソースが含まれるときには，［直接発行イベント］で個別に定義された変換定義が優先されます。イベント種別が［直接発行イベント（共通）］のイベントソースは一つだけ作成できます。

［全種別（共通）］

すべての JP1 イベント共通の変換定義を作成する場合に選択します。JP1/IM - MO で変換する場合には，この定義は個別の定義※1 およびイベント種別の共通定義※2 が定義されていないときにだけ適用されます。イベント種別が［全種別（共通）］のイベントソースは一つだけ作成できます。

注※1：［ログファイルトラップ］，［イベントログトラップ］，［SNMP トラップ］または［直接発行イベント］での定義

注※2：［ログファイルトラップ（共通）］，［イベントログトラップ（共通）］または［直接発行イベント（共通）］での定義

［識別子］

ログファイルトラップでイベントソースを特定するための識別子を選択します。この項目は，JP1 イベント種別が［ログファイルトラップ］で，`jmoedbsetup` コマンドで `-pro` オプションを指定して，プログラム名指定を有効にしている場合だけ活性化されます。プログラム名指定を有効にする手順については「4.4.2　イベントソースにプログラム名を指定する場合のセットアップ手順」を参照してください。

- ［プログラム名］
  イベントソースを特定するための識別子として，JP1/Base のログファイルトラップを起動するときに `-p` オプションで指定する「ログデータ出力元プログラム名」を使用します。
- ［オブジェクト名］
  イベントソースを特定するための識別子として，JP1/Base のログファイルトラップを起動するときに指定する「ログファイル名」を使用します。

「プロダクト名」

イベントソースを特定するため JP1 イベントのプロダクト名を 255 バイト以内の文字列で指定します。大文字と小文字は区別されます。

この項目は，JP1 イベント種別が［イベントログトラップ］または［直接発行イベント］の場合だけ

活性化されます。

「プログラム名」

JP1/Base のログファイルトラップを起動するときに -p オプションで指定する「ログデータ出力元プログラム名」を 255 バイト以内の文字列で指定します。大文字と小文字は区別されます。

この項目は，JP1 イベント種別が［ログファイルトラップ］で識別子が「プログラム名」の場合だけ活性化されます。

「オブジェクト名」

イベントソースを特定するため JP1 イベントのオブジェクト名を 255 バイト以内の文字列で指定します。大文字と小文字は区別されません。

この項目は，JP1 イベント種別が［ログファイルトラップ］で識別子が「オブジェクト名」の場合だけ活性化されます。

「基本フォーマット」

定義しているイベントソースのメッセージの基本フォーマットを定義します。

［選択］ボタン

テンプレート定義または別のイベントソースから定義済みの基本フォーマットをコピーする場合にクリックします。

クリックすると，［基本フォーマット選択］ダイアログが表示されます。

「先頭区切」

デフォルトは空白です。メッセージテキストの前に，区切り情報が必要な場合に 32 バイト以内の文字列で指定します。

「行番号」

要素の行番号が表示されます。

「種別」

区切り情報によってメッセージを分割する要素の種別を選択します。

項目	意味
空白	未選択の状態です。
メッセージテキスト	メッセージ本文です。
メッセージ ID	メッセージ ID です。
日時	日付（年／月／日）と時刻（時／分／秒）を合わせた情報です。
日付	日付（年／月／日）だけの情報です。
年	年だけの情報です。
月	月だけの情報です。
日	日だけの情報です。
曜日	曜日だけの情報です。
時刻	時刻（時／分／秒）だけの情報です。
時	時だけの情報です。
分	分だけの情報です。
秒	秒だけの情報です。
情報フィールド 1 ～ 15	日付情報，メッセージ ID，メッセージテキスト以外の情報です。
ユーザー定義情報フィールド 01 ～ 15	ユーザーが任意に名前を付けられる情報フィールドです。日付情報，メッセージ ID，メッセージテキスト以外の情報です。

「形式」

区切り情報によってメッセージを分割する要素の形式を選択します。「種別」で選択した要素によって選択できる形式が異なります。選択できる形式を次に示します。

種別	選択できる形式
―	空白（未選択の状態）
メッセージテキスト	文字列
メッセージ ID	文字列
日時	YYYY/MM/DD hh:mm:ss
	YYYY-MM-DD hh:mm:ss
	1970/01/01 からの経過秒数
日付	YYYY/MM/DD
	YYYY-MM-DD
	YY/MM/DD
	DD/MMM/YYYY
時刻	hh:mm:ss
	hh:mm:ss.sss
	hh:mm:ss.ssssss
曜日	DDD（英字 3 文字）
	漢字 1 文字
年	YYYY
	YY
月	MM
	MMM（英字 3 文字）
日	DD
時	hh
分	mm
秒	ss
	ss.sss
	ss.ssssss
情報フィールド 1 ～ 15	文字列
ユーザー定義情報フィールド 01 ～ 15	文字列

「後区切」

メッセージを分割する際に，要素と要素の間，またはメッセージの終端の区切り情報を 32 バイト以内の文字列で指定します。

「プレビュー」

「サンプルメッセージ」から選択したメッセージを要素単位に分割した内容が表示されます。

［プレビュー］ボタン

「サンプルメッセージ」でサンプルメッセージを選択した状態でクリックすると，選択したサンプルメッセージを設定している「基本フォーマット」に従って分割した文字列を「プレビュー」に表示します。

［ユーザー定義情報フィールド］ボタン

ユーザー定義情報フィールド名を確認または変更する場合にクリックします。クリックすると，

［ユーザー定義情報フィールド一覧］ダイアログが表示されます。

［行挿入］ボタン
選択した位置に要素を挿入します。

［行削除］ボタン
選択した位置の要素を削除します。

「サンプルメッセージ」
イベントソースに定義されている（学習機能によって学習した，または［サンプルメッセージ追加］ダイアログによって追加した）サンプルメッセージの一覧が表示されます。

［追加］ボタン
サンプルメッセージを追加します。
クリックすると［サンプルメッセージ追加］ダイアログが表示されます。

［削除］ボタン
選択したサンプルメッセージを削除します。

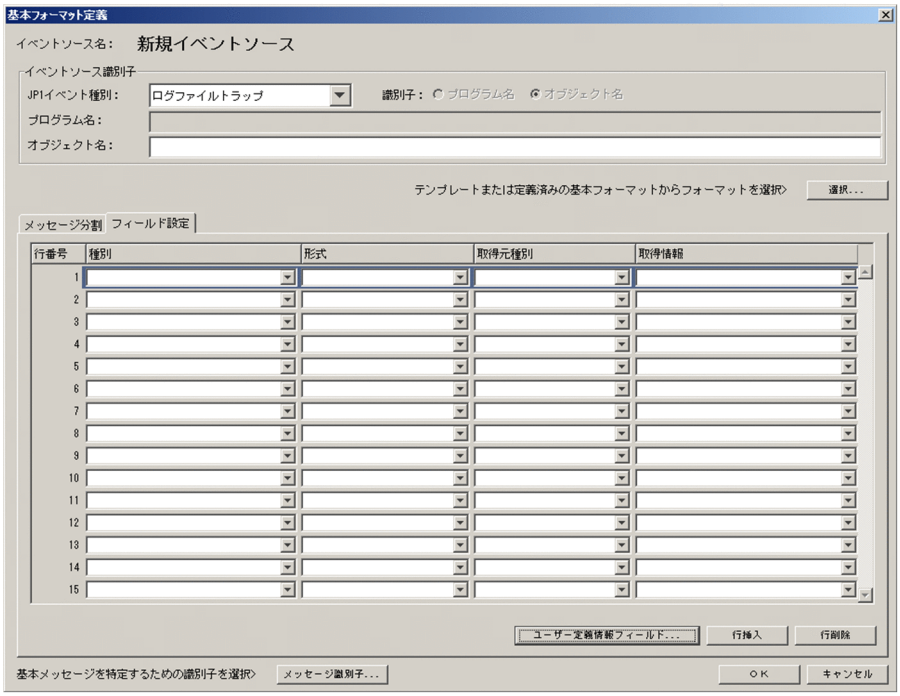
［メッセージ識別子］ボタン
メッセージ識別子を選択する場合にクリックします。
クリックすると，［メッセージ識別子選択］ダイアログが表示されます。

(2) ［フィールド設定］タブ

JP1 イベントの属性値または固定値を埋め込む定義をします。フィールドは最大 15 件定義できます。

［基本フォーマット定義］ダイアログの［フィールド設定］タブを次に示します。

図 12-10　［基本フォーマット定義］ダイアログ（［フィールド設定］タブ選択時）の例



表示項目を次に示します。

「行番号」
要素の行番号が表示されます。

「種別」

JP1 イベント属性値，または固定値から設定するフィールドの種別を選択します。

選択できる項目を次に示します。

- メッセージ ID
- 日時
- 情報フィールド 1 ～ 15
- ユーザー定義情報フィールド 01 ～ 15

「形式」

JP1 イベントの属性値から，設定するフィールドの形式を選択します。

選択できるフィールドの形式を次の表に示します。

種別	選択できる形式
－	空白（未選択の状態）
日時	1970/01/01 からの経過秒数
情報フィールド 1 ～ 15	文字列
ユーザー定義情報フィールド 01 ～ 15	文字列

「取得元種別」

変換後メッセージに埋め込む情報の取得元を選択します。

選択できる取得元種別を次に示します。

取得元種別	説明
基本属性	JP1/IM - MO で変換する前の JP1 イベントの基本属性の値を変換後メッセージに埋め込む場合に選択します。
拡張属性（共通情報）	JP1/IM - MO で変換する前の JP1 イベントの拡張属性（共通情報）の値を変換後メッセージに埋め込む場合に選択します。
拡張属性（直接入力）	JP1/IM - MO で変換する前の JP1 イベントの拡張属性（固有情報）の値を変換後メッセージに埋め込む場合に選択します。
JP1/IM - MO 固有情報	JP1/IM - MO で変換したあとの JP1 イベントの JP1 イベント属性に設定する値を，変換後のメッセージに埋め込む場合に選択します。
固定値	イベントソースごとの固定値を変換後のメッセージに埋め込む場合に選択します。

「取得情報」

JP1/IM - MO で変換した JP1 イベントのメッセージ属性に埋め込む情報を，選択または入力します。

取得情報を次の表に示します。

取得元種別	取得情報
基本属性	イベント DB 内の通し番号
	イベント ID
	登録要因
	発行元プロセス ID
	登録時刻
	到着時刻
	発行元ユーザー ID

取得元種別	取得情報
	発行元グループ ID
	発行元ユーザー名
	発行元グループ名
	発行元イベントサーバ名
	送信先イベントサーバ名
	発行元 IP アドレス
	送信先 IP アドレス
	発行元別通し番号
	コードセット
	詳細情報
拡張属性（共通情報）	重大度
	ユーザー名
	プロダクト名
	オブジェクトタイプ
	オブジェクト名
	登録名タイプ
	登録名
	オブジェクト ID
	事象種別
	開始時刻
	終了時刻
	終了コード
拡張属性（直接入力）	JP1 イベントの拡張属性名を 32 バイト以内の文字列で入力します。
JP1/IM - MO 固有情報	イベント発行元情報
	適用先システム名
	イベント発行元名
固定値	任意の文字列を入力します。

［ユーザー定義情報フィールド］ボタン

ユーザー定義情報フィールド名を確認または変更する場合にクリックします。クリックすると，［ユーザー定義情報フィールド一覧］ダイアログが表示されます。

［行挿入］ボタン

選択した位置に要素を挿入します。

［行削除］ボタン

選択した位置の要素を削除します。

注意事項

09-10 以降のバージョンの JP1/IM - MO Assistant から 09-10 より前の JP1/IM - MO に接続している場合，［フィールド設定］タブおよび［ユーザー定義情報フィールド］ボタンは非活性になります。

12.5　［基本フォーマット選択］ダイアログ

［基本フォーマット選択］ダイアログは，JP1/IM - MO が提供する基本フォーマットのテンプレート定義，またはほかのイベントソースの定義済み基本フォーマット定義を参考にして，基本フォーマットを定義するときに使用します。

［基本フォーマット選択］ダイアログを次の図に示します。

図 12-11　［基本フォーマット選択］ダイアログ（テンプレートから選択する場合）

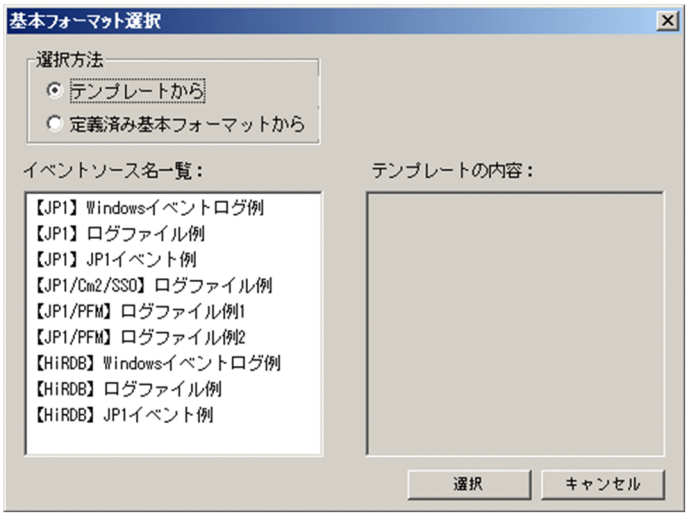
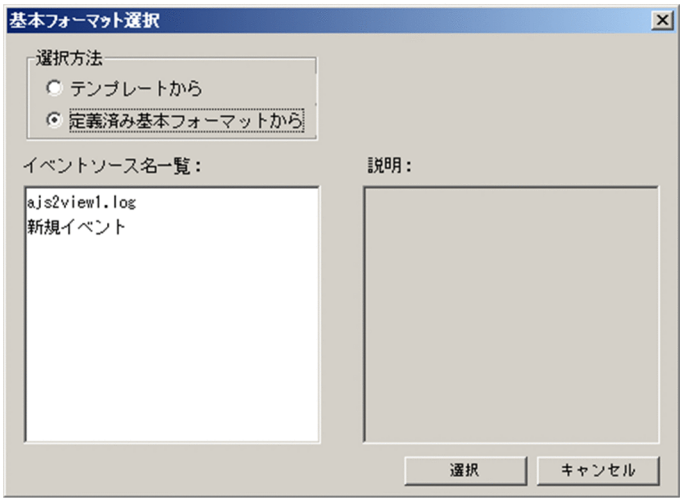


図 12-12　［基本フォーマット選択］ダイアログ（定義済み基本フォーマットから選択する場合）



表示項目を次に示します。

「選択方法」

参考にする基本フォーマットを選択します。

［テンプレートから］

JP1/IM - MO が提供するテンプレート定義から基本フォーマットを選択する場合に選択します。

［定義済み基本フォーマットから］

別のイベントソースで定義済みの基本フォーマット定義から選択する場合に選択します。

「イベントソース名一覧」

［テンプレートから］を選択した場合は，テンプレート定義のイベントソース名の一覧が表示されます。

［定義済み基本フォーマットから］を選択した場合は，基本フォーマットが定義されているイベントソース名の一覧が表示されます。

「テンプレートの内容」

［テンプレートから］を選択した場合に，「イベントソース名一覧」でイベントソースを選択すると，そのテンプレート定義の内容が表示されます。

「説明」

［定義済み基本フォーマットから］を選択した場合に，「イベントソース名一覧」でイベントソースを選択すると，そのイベントソースの説明が表示されます。

［選択］ボタン

「イベントソース名一覧」からイベントソース名を 1 件選択した状態でクリックすると，選択したイベントソースまたは定義されている基本フォーマットを［基本フォーマット選択］ダイアログの呼び出し元の基本フォーマットにコピーします。

注意事項

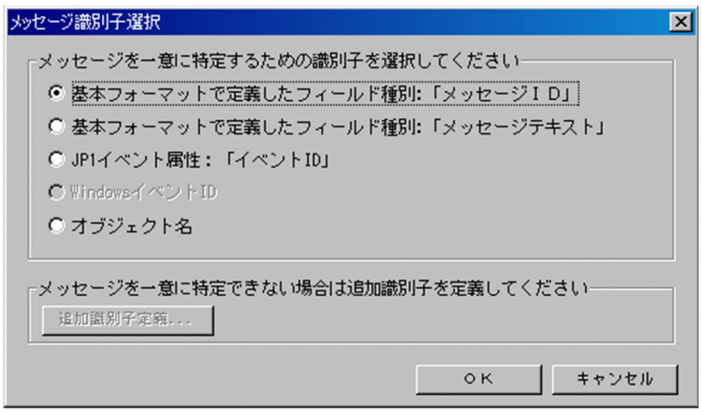
- ［選択］ボタンをクリックするだけでは，メッセージ識別子はコピーされません。［基本フォーマット定義］ダイアログに戻ったあとに，メッセージ識別子を選択する必要があります。
- 09-10 より前の JP1/IM - MO Assistant から 09-10 以降の JP1/IM - MO に接続している場合，選択している基本フォーマットのメッセージ分割定義だけコピーします。

12.6　［メッセージ識別子選択］ダイアログ

［メッセージ識別子選択］ダイアログでは，定義しているイベントソースの識別子を選択します。

［メッセージ識別子選択］ダイアログを次の図に示します。

図 12-13　［メッセージ識別子選択］ダイアログ



表示項目を次に示します。

「メッセージを一意に特定するための識別子を選択してください」
　イベントソースに設定するメッセージ識別子を選択します。

　［基本フォーマットで定義したフィールド種別：「メッセージ ID」］
　　メッセージ ID でメッセージを特定できる場合に選択します。

　［基本フォーマットで定義したフィールド種別：「メッセージテキスト」］
　　メッセージ本文でメッセージを特定できる場合に選択します。
　　メッセージ本文に埋め字がある場合はメッセージを特定できません。メッセージテキスト中に埋め字がないことを確認してから選択してください。

　［JP1 イベント属性：「イベント ID」］
　　JP1 イベント ID でメッセージを特定できる場合に選択します。

　［Windows イベント ID］
　　Windows イベント ID でメッセージを特定できる場合に選択します。
　　［Windows イベント ID］は，イベントログトラップの JP1 イベントの場合だけ選択できます。

　［オブジェクト名］
　　オブジェクト名でメッセージを特定できる場合に選択します。

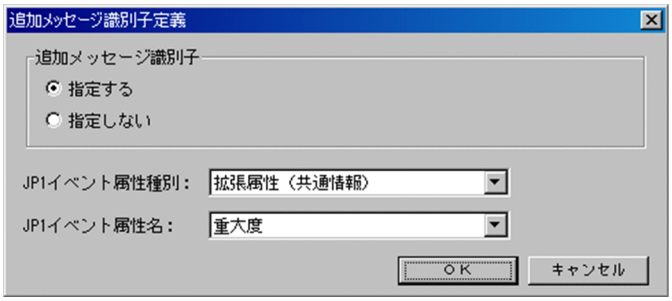
［追加識別子定義］ボタン
　［追加メッセージ識別子定義］ダイアログを表示して，追加メッセージ識別子を定義します。

12.7　［追加メッセージ識別子定義］ダイアログ

メッセージ識別子に追加する追加メッセージ識別子を定義します。

［追加メッセージ識別子定義］ダイアログを次の図に示します。

図 12-14　［追加メッセージ識別子定義］ダイアログ



「追加メッセージ識別子」

「指定する」または「指定しない」を選択します。デフォルトは「指定しない」です。

「JP1 イベント属性種別」

メッセージ識別子に指定する JP1 イベントの種別を次のどれかから選択します。

- 基本属性
- 拡張属性（共通情報）
- 拡張属性（直接入力）

「JP1 イベント属性名」

JP1 イベントの属性名を次のどれかから選択，または入力します。

JP1 イベント属性種別	JP1 イベント属性名
基本属性	イベント ID
	登録要因
	発行元プロセス ID
	発行元ユーザー ID
	発行元グループ ID
	発行元ユーザー名
	発行元グループ名
	発行元イベントサーバ名
	送信先イベントサーバ名
	コードセット
拡張属性（共通情報）	重大度
	ユーザー名
	プロダクト名
	オブジェクトタイプ
	オブジェクト名
	登録名タイプ
	登録名

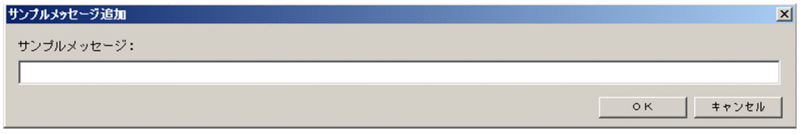
JP1 イベント属性種別	JP1 イベント属性名
	オブジェクト ID
	事象種別
	終了コード
拡張属性（直接入力）	JP1 イベントの拡張属性名を 32 バイト以内の文字列で入力します。

12.8　［サンプルメッセージ追加］ダイアログ

［サンプルメッセージ追加］ダイアログは，設定するイベントソースにサンプルメッセージを追加する場合に使用します。

［サンプルメッセージ追加］ダイアログを次の図に示します。

図 12-15　［サンプルメッセージ追加］ダイアログ



表示項目を次に示します。

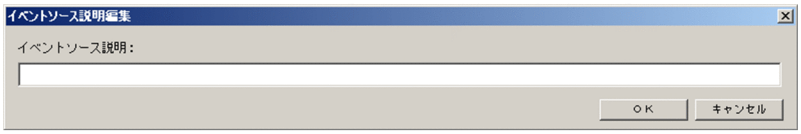
「サンプルメッセージ」
　追加するサンプルメッセージを 1,023 バイト以内の文字列で指定します。

12.9　［イベントソース説明編集］ダイアログ

［イベントソース説明編集］ダイアログは，イベントソースの説明を編集する場合に使用します。

［イベントソース説明編集］ダイアログを次の図に示します。

図 12-16　［イベントソース説明編集］ダイアログ



表示項目を次に示します。

「イベントソース説明」
　　イベントソースの説明を 1,023 バイト以内の文字列で指定します。

12.10　［基本メッセージ追加］ダイアログ

［基本メッセージ追加］ダイアログは，メッセージ学習で学習することが困難なメッセージを定義する場合に使用します。

［基本メッセージ追加］ダイアログは，JP1 イベント種別によって表示項目が異なります。［基本メッセージ追加］ダイアログを JP1 イベントの種別ごとに次の図に示します。

図 12-17　［基本メッセージ追加］ダイアログ（JP1 イベント種別が［ログファイルトラップ］または［直接発行イベント］の場合）

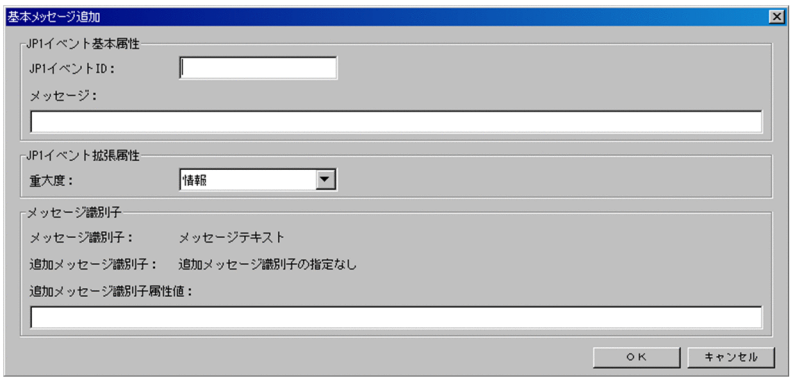


図 12-18　［基本メッセージ追加］ダイアログ（JP1 イベント種別が［イベントログトラップ］の場合）

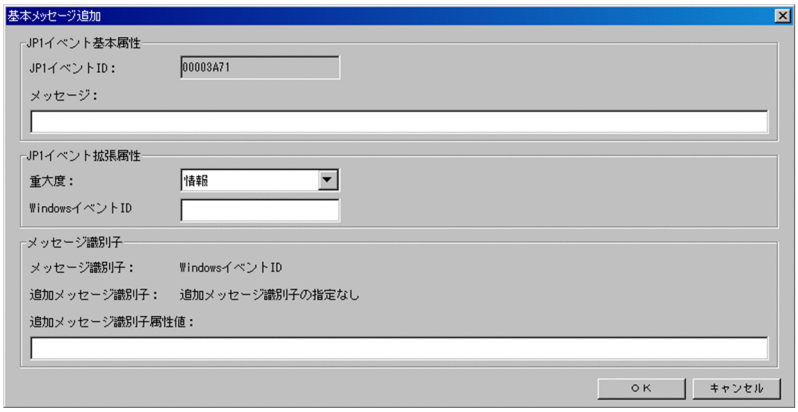
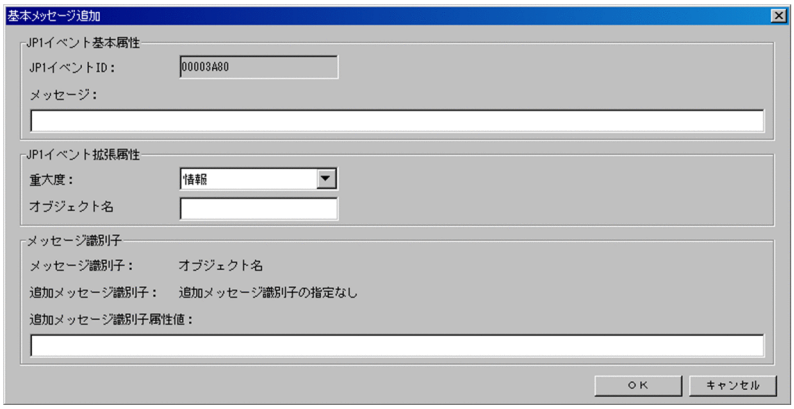


図 12-19　［基本メッセージ追加］ダイアログ（JP1 イベント種別が［SNMP トラップ］の場合）



表示項目を次に示します。

「JP1 イベント基本属性」

「JP1 イベント ID」
JP1 イベント ID を 8 バイト以内の文字列で指定します。

「メッセージ」
JP1 イベントのメッセージを 1,023 バイト以内の文字列で指定します。

「メッセージ識別子」
基本フォーマットの定義で指定したメッセージ識別子が表示されます。

「JP1 イベント拡張属性」

「重大度」
重大度を選択します。
- 緊急
- 警戒
- 致命的
- エラー
- 警告
- 通知
- 情報
- デバッグ
- 任意の重大度
- 重大度なし

「任意の重大度の場合」
「重大度」で「任意の重大度」を選択した場合に，重大度の名称を 255 バイト以内の文字列で指定します。

「Windows イベント ID」
JP1 イベント種別がイベントログトラップの場合に，Windows イベント ID を 255 バイト以内の文字列で指定します。
表示されます。

「オブジェクト名」
JP1 イベント種別が SNMP トラップの場合に，JP1 イベントのオブジェクト名を 255 バイト以内の文字列で指定します。

「メッセージ識別子」

「メッセージ識別子」
定義されているメッセージ識別子が表示されます。

「追加メッセージ識別子」
追加メッセージ識別子を定義している場合は，追加メッセージ識別子が表示されます。定義されていない場合は「追加メッセージ識別子の指定なし」が表示されます。

「追加メッセージ識別子属性値」
「追加メッセージ識別子」に定義されている属性値を 255 バイト以内の文字列で指定します。

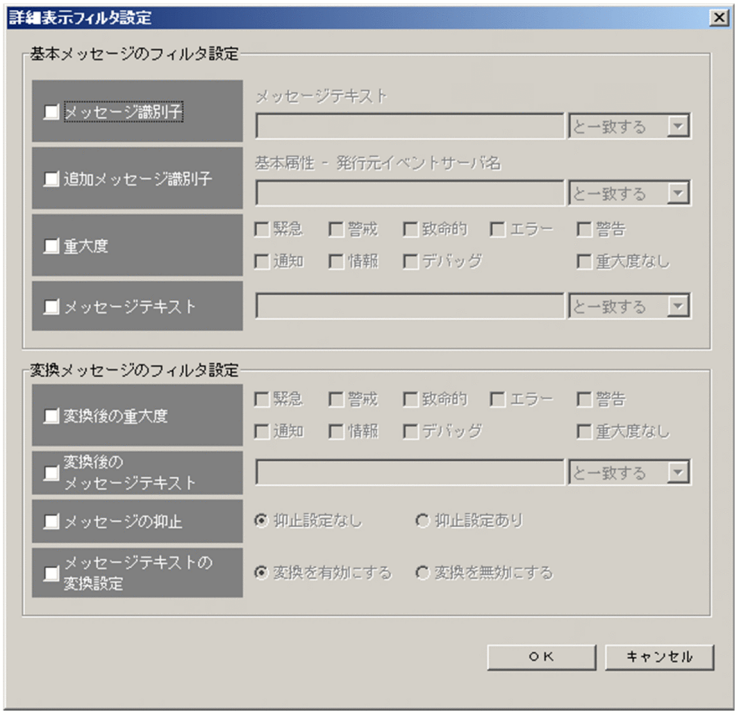
12.11　［詳細表示フィルタ設定］ダイアログ

［詳細表示フィルタ設定］ダイアログでは，変換メッセージ群を表示するときのフィルタリングの条件を変換メッセージ群ごとに設定できます。設定内容は，JP1/IM - MO Assistant からログアウトするか，変換メッセージ群を削除するまで保持されます。

条件を設定して，［OK］ボタンで画面を閉じると，入力されたフィルタリングの条件が設定されます。

［詳細表示フィルタ設定］ダイアログを次の図に示します。

図 12-20　［詳細表示フィルタ設定］ダイアログ



表示項目を次に示します。

「基本メッセージのフィルタ設定」

基本メッセージのフィルタリング条件を指定します。

［メッセージ識別子］

メッセージ識別子でフィルタリングする場合にチェックします。基本フォーマットに指定した識別子に含まれる文字列を 1,023 バイト以内で入力し，検索条件を次の条件から選択します。

- 「と一致する」
- 「から始まる」
- 「で終わる」
- 「を含む」
- 「を含まない」

［追加メッセージ識別子］

追加メッセージ識別子でフィルタリングする場合にチェックします。基本フォーマットに指定した追加メッセージ識別子に含まれる文字列を 1,023 バイト以内で入力し，検索条件を次の条件から選択します。

- 「と一致する」

- 「から始まる」
- 「で終わる」
- 「を含む」
- 「を含まない」

追加メッセージ識別子が有効に設定されていない場合，または重大度が設定されている場合，この項目は非活性になります。

［重大度］

重大度でフィルタリングする場合に，重大度を選択してチェックします。次の重大度から選択します。

- 「緊急」
- 「警戒」
- 「致命的」
- 「エラー」
- 「警告」
- 「通知」
- 「情報」
- 「デバッグ」
- 「重大度なし」

［メッセージテキスト］

メッセージテキストでフィルタリングする場合にチェックします。メッセージテキストに含まれる文字列を 1,023 バイト以内で入力し，検索条件を次の条件から選択します。

- 「と一致する」
- 「から始まる」
- 「で終わる」
- 「を含む」
- 「を含まない」

大文字と小文字はデフォルトでは区別されます。大文字と小文字を区別しないように設定する場合は，環境設定パラメーター「SEARCH_SENSITIVE」を変更してください。環境設定パラメーターについては，「4.4.1(2)　環境設定ファイルの定義項目」を参照してください。制御文字は入力できません。

「変換メッセージのフィルタ設定」

変換メッセージのフィルタリング条件を指定します。

［変換後の重大度］

変換後の重大度でフィルタリングする場合にチェックします。次の重大度から選択します。

- 「緊急」
- 「警戒」
- 「致命的」
- 「エラー」
- 「警告」
- 「通知」
- 「情報」
- 「デバッグ」
- 「重大度なし」

［変換後のメッセージテキスト］

変換後のメッセージテキストでフィルタリングする場合にチェックします。変換後のメッセージテキストに含まれる文字列を 1,023 バイト以内で入力し，検索条件を次の条件から選択します。

- 「と一致する」

- 「から始まる」
- 「で終わる」
- 「を含む」
- 「を含まない」

変換後メッセージテキストに埋め字を使用している場合は，埋め字部分を {%n}（n は 1 から 5 の数字）で記述してください。埋め字が変換された状態での検索はできません。
大文字と小文字はデフォルトでは区別されます。大文字と小文字を区別しないように設定する場合は，環境設定パラメーター「SEARCH_SENSITIVE」を変更してください。環境設定パラメーターについては，「4.4.1(2)　環境設定ファイルの定義項目」を参照してください。制御文字は入力できません。

［メッセージの抑止］
変換メッセージの抑止設定の有無でフィルタリングする場合にチェックします。［抑止設定なし］または［抑止設定あり］のどちらかを選択してください。

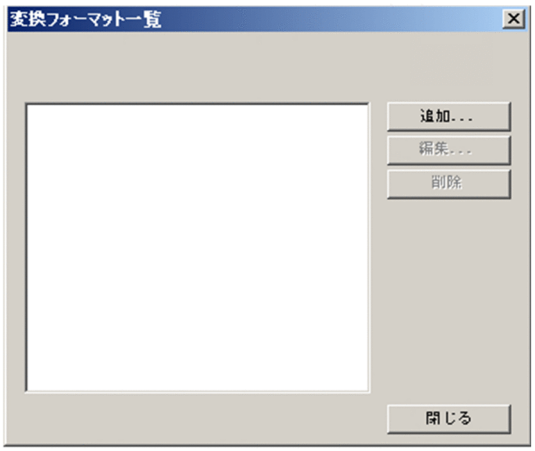
［メッセージテキストの変換設定］
変換メッセージのメッセージテキストを変換する設定の有無でフィルタリングする場合にチェックします。［変換を有効にする］または［変換を無効にする］のどちらかを選択してください。

12.12　［変換フォーマット一覧］ダイアログ

［変換フォーマット一覧］ダイアログでは，変換フォーマットを追加したり，定義済みの変換フォーマットを編集したり，削除したりします。

［変換フォーマット一覧］ダイアログを次の図に示します。

図 12-21　［変換フォーマット一覧］ダイアログ



表示項目を次に示します。

［ ］

選択した変換フォーマットを「リリース許可状態」にします。
このボタンは，［変換フォーマット一覧］から「編集」状態または，「リリース編集」状態の変換フォーマットを選択した場合に表示されます。

［ ］

選択した変換フォーマットを「編集」状態または「リリース編集」状態（「リリース許可」状態になる直前の状態）にします。
このボタンは，［変換フォーマット一覧］から「リリース許可」状態の変換フォーマットを選択した場合だけ表示されます。

［ ］

選択した変換フォーマットを「リリース解除許可」状態にします。
このボタンは，［変換フォーマット一覧］から「リリース」状態または「リリース編集」状態の変換フォーマットを選択した場合だけ表示されます。

「変換フォーマット一覧」

JP1/IM - MO に定義されている変換フォーマットの一覧が表示されます。

［追加］ボタン

新たに変換フォーマットを作成します。
クリックすると，［変換フォーマット定義］ダイアログが表示されます。

［編集］ボタン

既存の変換フォーマットの内容を変更します。
［変換フォーマット一覧］から変換フォーマットを 1 件選択した状態でクリックすると，［変換フォーマット定義］ダイアログが表示されます。

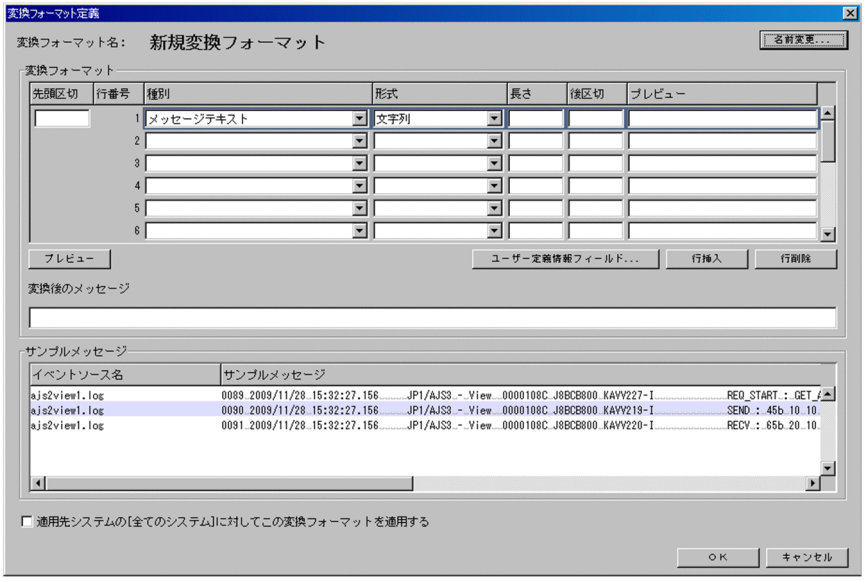
［削除］ボタン
［変換フォーマット一覧］で選択した変換フォーマットを削除します。

12.13　［変換フォーマット定義］ダイアログ

［変換フォーマット定義］ダイアログでは，新しく変換フォーマットを追加したり，定義済みの変換フォーマットを編集したりします。

［変換フォーマット定義］ダイアログを次の図に示します。

図 12-22　［変換フォーマット定義］ダイアログ



表示項目を次に示します。

「変換フォーマット名」
　定義している変換フォーマット名が表示されます。

［名前変更］ボタン
　変換フォーマット名を変更する場合にクリックします。
　クリックすると，［変換フォーマット名変更］ダイアログが表示されます。

「変換フォーマット」
　変換フォーマットを定義します。

　「先頭区切」
　　メッセージテキストの前に，区切り情報が必要な場合に 32 バイト以内の文字列で指定します。
　　デフォルトは空白です。

　「行番号」
　　要素の行番号が表示されます。

　「種別」
　　変換したメッセージに出力する要素種別を選択します。
　　一つの変換フォーマットの定義内で，同じ要素種別を複数選択できます。

項目	意味
空白	未選択の状態です。
メッセージテキスト	メッセージ本文です。
メッセージ ID	メッセージ ID です。

項目	意味
日時	日付（年／月／日）と時刻（時／分／秒）を合わせた情報です。
日付	日付（年／月／日）だけの情報です。
年	年だけの情報です。
月	月だけの情報です。
日	日だけの情報です。
曜日	曜日だけの情報です。
時刻	時刻（時／分／秒）だけの情報です。
時	時だけの情報です。
分	分だけの情報です。
秒	秒だけの情報です。
情報フィールド 1 ～ 15	日付情報，メッセージ ID，メッセージテキスト以外の情報です。
ユーザー定義情報フィールド 01 ～ 15	日付情報，メッセージ ID，メッセージテキスト以外の情報です。 任意のフィールド名を設定できます。

「形式」

区切り情報によってメッセージを分割する要素の形式を選択します。

「種別」で選択した要素によって選択できる形式が変わります。「種別」と選択できる形式を次に示します。

種別	選択できる形式
―	空白（未選択の状態）
メッセージテキスト	文字列
メッセージ ID	文字列
日時	YYYY/MM/DD hh:mm:ss
	YYYY-MM-DD hh:mm:ss
日付	YYYY/MM/DD
	YYYY-MM-DD
	YY/MM/DD
	DD/MMM/YYYY
時刻	hh:mm:ss
	hh:mm:ss.sss
	hh:mm:ss.ssssss
曜日	DDD（英字 3 文字）
	漢字 1 文字
年	YYYY
	YY
	和暦（英字）
	和暦（漢字）
月	MM
	MMM（英字 3 文字）
日	DD
時	hh

種別	選択できる形式
分	mm
秒	ss
	ss.sss
	ss.ssssss
情報フィールド 1 ～ 15	文字列
ユーザー定義情報フィールド 01 ～ 15	文字列

「長さ」

変換したメッセージの各要素の出力カラム位置をそろえる場合に，各要素の文字列長を 1 ～ 1,023 までの数値で指定します。

「後区切」

メッセージを分割する際に，要素と要素の間，またはメッセージの終端の区切り情報を 32 バイト以内の文字列で指定します。

「プレビュー」

「サンプルメッセージ」から選択したメッセージを要素単位に分割した内容が表示されます。基本フォーマット定義で定義した日付情報の種別／形式を変換後変換フォーマット定義で変更している場合は，日付変換後の内容で表示されます。

［プレビュー］ボタン

「サンプルメッセージ」でサンプルメッセージを選択してクリックすると，選択したサンプルメッセージを変換フォーマットに設定されている内容に従って分割した文字列を「プレビュー」に表示します。また，分割したメッセージを合成したものを「変換後のメッセージ」に表示します。

［基本フォーマット定義］ダイアログの［フィールド設定］タブに設定した値については，サンプルメッセージ中には値がないため，次の値が表示されます。

- フィールドの種別が，情報フィールドまたはユーザー定義情報フィールドの場合は設定した属性名がそのまま表示されます。
  ただし，次の表に示すものについては，属性名とは異なるものが表示されます。

フィールドに割り当てた情報		表示される値
取得元種別	取得情報	
基本属性	登録時刻	プレビュー実行時の JP1/IM - MO Assistant がインストールされているマシンの時刻
	到着時刻	
拡張属性（共通情報）	開始時刻	
	終了時刻	

- フィールドの種別が日時の場合は，プレビュー実行時の JP1/IM - MO Assistant がインストールされているマシンの時刻を，変換フォーマット定義で指定した形式（YYYY/MM/DD hh:mm:ss など）に変換した文字列が表示されます。

［ユーザー定義情報フィールド］ボタン

ユーザー定義情報フィールド名を確認または変更する場合にクリックします。クリックすると，［ユーザー定義情報フィールド一覧］ダイアログが表示されます。

［行挿入］ボタン
要素を挿入します。

［行削除］ボタン
選択した位置の要素を削除します。

「変換後のメッセージ」
分割したメッセージを合成したものが表示されます。

「サンプルメッセージ」
定義されているすべてのイベントソースのサンプルメッセージが表示されます。最初にイベントソース 50 件分に相当するサンプルメッセージ（最大 150 件）が表示されます。それ以上は，表示する際に，イベントソース 50 件分ずつ，対応するサンプルメッセージが取得され，追加されます。

［適用先システムの［全てのシステム］に対してこの変換フォーマットを適用する］
このダイアログで定義している変換フォーマットを適用先システム「全てのシステム」で選択する場合にチェックします。
すでに別の変換フォーマットが「全てのシステム」で選択されていた場合は，チェックされていない状態になります。

注意事項

09-10 以降のバージョンの JP1/IM - MO Assistant から 09-10 以前の JP1/IM - MO に接続している場合，［ユーザー定義情報フィールド］ボタンは非活性になります。

12.14　［変換メッセージ定義］ダイアログ

［変換メッセージ定義］ダイアログでは，変換メッセージを定義します。

［変換メッセージ定義］ダイアログを次の図に示します。

図 12-23　［変換メッセージ定義］ダイアログ

表示項目を次に示します。

「メッセージ識別子」

次の二つの情報が表示されます。

- メッセージ識別子
  メッセージ識別子，およびメッセージ識別子の値が表示されます。
- 追加メッセージ識別子
  ［追加メッセージ識別子定義］ダイアログで定義した追加メッセージ識別子の JP1 イベント属性名と値が表示されます。追加メッセージ識別子が指定されていない場合は「追加メッセージ識別子の指定なし」と表示されます。

［本画面で定義する変換メッセージを JP1/IM - MO から発行しない］

この画面で定義した変換メッセージを，JP1/IM - MO から発行しない場合にチェックします。

「重大度の変換」

「変換前の重大度」

変換前の JP1 イベントの重大度が表示されます。

「変換後の重大度」

変換後の重大度を選択します。

- 変換しない
- 緊急
- 警戒
- 致命的
- エラー

- 警告
- 通知
- 情報
- デバッグ
- 重大度なし

「メッセージテキストの変換」

［基本フォーマット定義］ダイアログで定義した［メッセージテキスト］の変換を定義します。

「変換前メッセージテキスト」

変換メッセージに対応する基本メッセージのメッセージテキストが表示されます。

［埋め字の定義］ボタン

変換前のメッセージテキストに埋め字を定義する場合にクリックします。
クリックすると，［埋め字定義］ダイアログが表示されます。

「変換後メッセージテキスト」

変換後のメッセージテキストを 1,023 バイト以内の文字列で指定します。

［メッセージテキストの変換を有効にする］

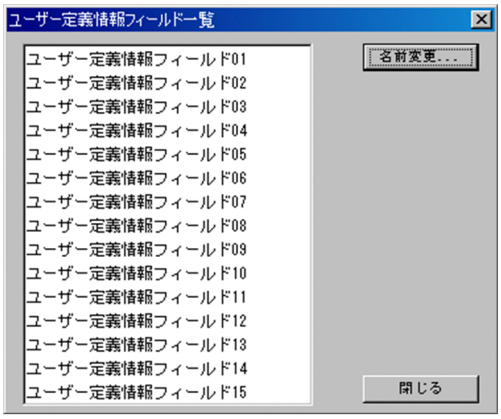
変換前のメッセージテキストを変換後のメッセージテキストに変換する場合にチェックします。
チェックしない場合，メッセージテキストの変換は実行されません。

12.15　［ユーザー定義情報フィールド一覧］ダイアログ

ユーザー定義情報フィールドの一覧を表示します。

［ユーザー定義情報フィールド一覧］ダイアログを次の図に示します。

図 12-24　［ユーザー定義情報フィールド一覧］ダイアログ



［名前変更］ボタン

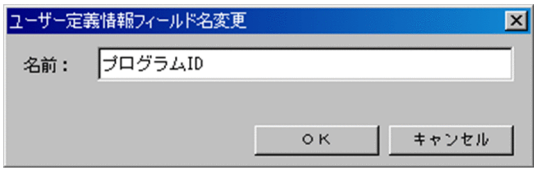
選択しているユーザー情報定義フィールドの名前を変更するためのボタンです。クリックすると，［ユーザー定義情報フィールド名変更］ダイアログが表示されます。

12.16　［ユーザー定義情報フィールド名変更］ダイアログ

ユーザー定義情報フィールド名を変更します。

［ユーザー定義情報フィールド名変更］ダイアログを次に示します。

図 12-25　［ユーザー定義情報フィールド名変更］ダイアログ



「名前」

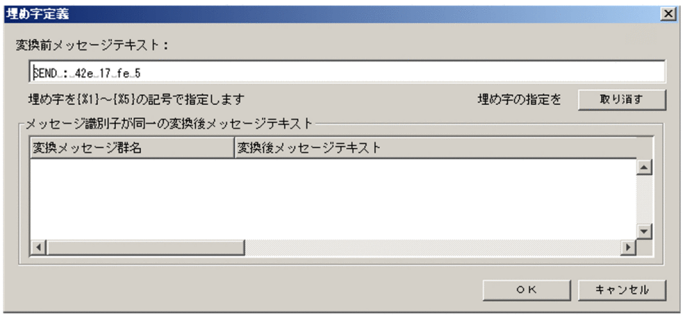
ユーザー定義情報フィールドの名称を 32 バイト以内で入力します。

12.17　［埋め字定義］ダイアログ

［埋め字定義］ダイアログでは，変換前のメッセージテキストに埋め字を定義します。

［埋め字定義］ダイアログを次の図に示します。

図 12-26　［埋め字定義］ダイアログ



表示項目を次に示します。

「変換前メッセージテキスト」

基本メッセージのメッセージテキストが表示されます。このメッセージテキストに対して埋め字を指定します。埋め字の指定形式を次に示します。

■指定形式

```
{%n}
（nは埋め字番号（1～5の半角数字））
```

■指定例

下線の引かれている個所を埋め字として定義する例を次に示します。

＜変換前メッセージテキスト＞

データベースアクセスにてエラーが発生しました (0016)

＜指定例＞

データベースアクセスにてエラーが発生しました ({%1})

［取り消す］ボタン

［変換前メッセージテキスト］を，基本メッセージのメッセージテキストに戻します。

「メッセージ識別子が同一の変換後メッセージテキスト」

基本メッセージが同一の変換メッセージの「変換後メッセージテキスト」がすべて表示されます。ここに表示された変換メッセージの「変換後メッセージテキスト」に指定されている埋め字は，「変換前メッセージテキスト」に指定する必要があります。

注意事項

- 埋め字は一つの変換メッセージ定義に 5 個まで定義できます。
- 変換前のメッセージテキストに，同じ番号の埋め字は複数定義できません。
- 変換前メッセージテキストに定義した埋め字は，変換後メッセージテキストに指定する必要はありません。
- 変換前メッセージテキストの埋め字と埋め字の間には 1 バイト以上の文字が必要です。
- メッセージ識別子が「メッセージテキスト」の場合，埋め字は指定できません。
- 変換前メッセージテキストに埋め字を定義する場合，メッセージ中の可変部分はすべて埋め字として定義してください。メッセージ中の可変部分に埋め字として定義していないものがあった場合，

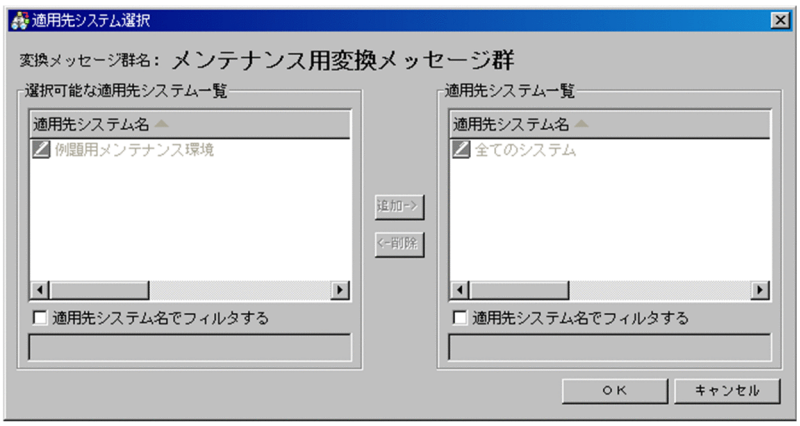
埋め字を抽出できません。

12.18　［適用先システム選択］ダイアログ

［適用先システム選択］ダイアログでは，変換メッセージ群に適用する適用先システムを定義します。

［適用先システム選択］ダイアログを次の図に示します。

図 12-27　［適用先システム選択］ダイアログ



「変換メッセージ群名」

変換メッセージ群の名称が表示されます。

「選択可能な適用先システム一覧」

選択できる適用先システムの一覧が表示されます。

［適用先システム名でフィルタする］

フィルタリングするときの文字列を 255 バイト以内で入力します。文字列を入力してチェックすると，入力した条件名を含んでいる適用先システムだけが表示されます。［Enter］キーを押す，またはフォーカスが移動した場合にフィルタリングが適用されます。

全角文字と半角文字は区別されます。またデフォルトでは，大文字と小文字は区別されます。大文字と小文字を区別しないためには環境設定パラメーター「SEARCH_SENSITIVE」を変更する必要があります。環境設定パラメーターについては，「4.4.1(2)　環境設定ファイルの定義項目」を参照してください。制御文字（タブや改行）は入力できません。

［追加］ボタン

［選択可能な適用先システム一覧］から適用先システムを 1 件選択した状態でクリックすると，選択した適用先システムが［適用先システム一覧］に移動します。「全てのシステム」とそれ以外のシステムを同時に追加できません。

［削除］ボタン

［適用先システム一覧］から適用先システムを 1 件選択した状態でクリックすると，選択した適用先システムが［選択可能な適用先システム一覧］に移動します。

「適用先システム一覧」

現在適用されている適用先システムの一覧が表示されます。名前順にソートできます。

［適用先システム名でフィルタする］

「選択可能な適用先システム一覧」の［適用先システム名でフィルタする］と同様です。

12.19　［適用先システム一覧］ダイアログ

［適用先システム一覧］ダイアログでは，新しく適用先システムを追加したり，定義済みの適用先システムを編集したり，削除したりします。

［適用先システム一覧］ダイアログを次の図に示します。

図 12-28　［適用先システム一覧］ダイアログ

表示項目を次に示します。

［ ］

選択した適用先システムを「リリース許可」状態にします。
このボタンは，［適用先システム一覧］から「編集」状態，「リリース編集」状態の適用先システムを選択した場合だけ表示されます。
ただし，適用先システムをリリース許可した場合は，リリース許可した適用先システムの下位の適用先システム，およびすべての［リリース編集］状態の適用先システムおよび下位の適用先システムもリリース許可されます。また，リリース許可した適用先システムが選択している変換フォーマット定義がある場合，その変換フォーマット定義もリリース許可されます。

［ ］

選択した適用先システムを「編集」状態または「リリース編集」状態（「リリース許可」状態になる直前の状態）にします。
このボタンは，［適用先システム一覧］から「リリース許可」状態の適用先システムを選択した場合だけ表示されます。
ただし，適用先システムのリリース許可を取り消した場合，すべての「リリース許可」状態の適用先システムも同時にリリース許可を取り消します。

［ ］

選択した適用先システムを「リリース解除許可」状態にします。
このボタンは，［適用先システム一覧］から「リリース」状態，「リリース編集」状態の適用先システムを選択した場合だけ表示されます。
ただし，適用先システムをリリース解除許可した場合は，リリース解除許可した適用先システムの下位の適用先システムもリリース解除許可されます。

「適用先システム一覧」

定義されている適用先システムが表示されます。

［追加］ボタン

新しく適用先システムを作成します。

「適用先システム一覧」から適用先システムを選択した状態でクリックすると，選択した適用先システムの下位に適用先システムが作成されます。

［編集］ボタン

既存の適用先システムの定義内容を変更します。

「適用先システム一覧」から適用先システムを選択した状態でクリックすると，選択した適用先システムの定義内容を変更できます。

［削除］ボタン

既存の適用先システムの定義内容を削除します。

「適用先システム一覧」から適用先システムを選択した状態でクリックすると選択した適用先システムが削除できます。

ただし，適用先システムを削除した場合は，削除した適用先システムの下位の適用先システムも削除されます。

［適用先システム名でフィルタする］

フィルタリングするときの適用先システム名を 255 バイト以内で入力します。文字列を入力してチェックすると，入力した条件名を含んでいる適用先システムだけが表示されます。［Enter］キーを押す，またはフォーカスが移動した場合にフィルタリングが適用されます。

全角文字と半角文字は区別されます。またデフォルトでは，大文字と小文字は区別されます。大文字と小文字を区別しないためには環境設定パラメーター「SEARCH_SENSITIVE」を変更する必要があります。環境設定パラメーターについては，「4.4.1(2)　環境設定ファイルの定義項目」を参照してください。制御文字は入力できません。

12.20　［適用先システム定義］ダイアログ

［適用先システム定義］ダイアログでは，適用先システムから発行されるメッセージに適用される変換フォーマットや重大度，発行元を定義します。

［適用先システム定義］ダイアログを次の図に示します。

図 12-29　［適用先システム定義］ダイアログ

表示項目を次に示します。

「適用先システム名」
　適用先システム名が表示されます。

［名前変更］ボタン
　適用先システム名を変更します。
　クリックすると，［適用先システム名変更］ダイアログが表示されます。

「変換フォーマット」
　適用先システムから発行されるメッセージに適用される変換フォーマットが表示されます。

　「適用する変換フォーマット」
　　適用先システムから発行されるメッセージに適用される変換フォーマットが表示されます。

　［変換フォーマット選択］ボタン
　　適用先システムから発行されるメッセージに適用される変換フォーマットを選択します。
　　クリックすると，［変換フォーマット選択］ダイアログが表示されます。

「重大度一律変換」
　適用先システムから発行されるメッセージに適用される変換前の重大度と変換後の重大度が表示されます。

　［重大度一律変換定義］ボタン
　　適用先システムごとの重大度の変換を定義します。
　　クリックすると，［重大度一律変換定義］ダイアログが表示されます。

「発行元」
　適用先システムに含まれる発行元が表示されます。

　「発行元」
　　適用先システムに含まれる発行元が表示されます。

　［発行元選択］ボタン
　　適用先システムに含む発行元を選択します。
　　クリックすると，［発行元選択］ダイアログが表示されます。

このボタンは,「全てのシステム」の定義中は非活性になります。

12.21　［変換フォーマット選択］ダイアログ

［変換フォーマット選択］ダイアログでは，適用先システムから発行されるメッセージに適用される変換フォーマットを選択します。

［変換フォーマット選択］ダイアログを次の図に示します。

図 12-30　［変換フォーマット選択］ダイアログ

表示項目を次に示します。

「変換フォーマット名」
　定義済みの変換フォーマットの一覧が表示されます。

［選択］ボタン
　「変換フォーマット名」で選択した変換フォーマットを，適用先システムの変換フォーマットに設定します。

［リセット］ボタン
　選択済みの変換フォーマットを，選択していない状態にします。

12.22　［重大度一律変換定義］ダイアログ

［重大度一律変換定義］ダイアログでは，適用先システムに対して重大度属性の変換を定義します。

［重大度一律変換定義］ダイアログを次の図に示します。

図 12-31　［重大度一律変換定義］ダイアログ

表示項目を次に示します。

「緊急」

変換前の JP1 イベントの重大度が［緊急］の場合に，変換後の重大度を［緊急］，［警戒］，［致命的］，［エラー］，［警告］，［通知］，［情報］，［デバッグ］，［重大度なし］から選択します。

「警戒」

変換前の JP1 イベントの重大度が［警戒］の場合に，変換後の重大度を［緊急］，［警戒］，［致命的］，［エラー］，［警告］，［通知］，［情報］，［デバッグ］，［重大度なし］から選択します。

「致命的」

変換前の JP1 イベントの重大度が［致命的］の場合に，変換後の重大度を［緊急］，［警戒］，［致命的］，［エラー］，［警告］，［通知］，［情報］，［デバッグ］，［重大度なし］から選択します。

「エラー」

変換前の JP1 イベントの重大度が［エラー］の場合に，変換後の重大度を［緊急］，［警戒］，［致命的］，［エラー］，［警告］，［通知］，［情報］，［デバッグ］，［重大度なし］から選択します。

「警告」

変換前の JP1 イベントの重大度が［警告］の場合に，変換後の重大度を［緊急］，［警戒］，［致命的］，［エラー］，［警告］，［通知］，［情報］，［デバッグ］，［重大度なし］から選択します。

「通知」

変換前の JP1 イベントの重大度が［通知］の場合に，変換後の重大度を［緊急］，［警戒］，［致命的］，［エラー］，［警告］，［通知］，［情報］，［デバッグ］，［重大度なし］から選択します。

「情報」

変換前の JP1 イベントの重大度が［情報］の場合に，変換後の重大度を［緊急］，［警戒］，［致命的］，［エラー］，［警告］，［通知］，［情報］，［デバッグ］，［重大度なし］から選択します。

「デバッグ」

変換前の JP1 イベントの重大度が［デバッグ］の場合に，変換後の重大度を［緊急］，［警戒］，［致命的］，［エラー］，［警告］，［通知］，［情報］，［デバッグ］，［重大度なし］から選択します。

「重大度なし」

変換前の JP1 イベントの重大度が［重大度なし］の場合に，変換後の重大度を［緊急］，［警戒］，［致命的］，［エラー］，［警告］，［通知］，［情報］，［デバッグ］，［重大度なし］から選択します。

［標準値に戻す］ボタン

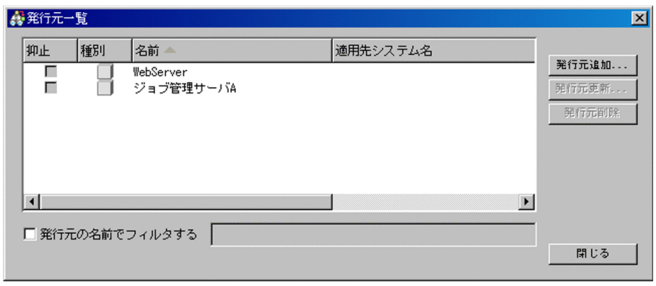
変換後の重大度をすべて標準値に戻します。標準値は，変換前の重大度と同じ値です。

12.23　［発行元一覧］ダイアログ

［発行元一覧］ダイアログでは，学習機能によって学習された発行元や個別に定義された発行元の一覧を参照できます。また，発行元を新しく追加したり，定義済みの発行元を編集したり，削除したりできます。

［発行元一覧］ダイアログを次の図に示します。

図 12-32　［発行元一覧］ダイアログ



表示項目を次に示します。

「抑止」

JP1 イベント発行元単位で，JP1/IM - MO からの JP1 イベントの発行を抑止する場合にチェックします。チェックしない場合は，JP1 イベントの発行を抑止しません。

「種別」

定義情報の種別が表示されます。

アイコン	意味
	発行元イベントサーバを示します。
	SNMP トラップ発生ソースまたはエージェントを示します。

「名前」

発行元の名称が表示されます。

学習機能によって発行元が学習されている場合は，JP1 イベントの種別に応じて次に示す発行元が表示されます。

表 12-4　JP1 イベント種別ごとに表示される発行元一覧

JP1 イベント種別	マッピング機能	オリジナルイベント種別	表示される発行元
イベントログトラップ	－	－	発行元イベントサーバ名
ログファイルトラップ	－	－	
直接発行イベント	無効	－	
	有効	NNMi インシデントを変換したイベント，JP1/PFM のイベント，JP1/AJS2 または JP1/AJS3 のジョブの開始イベントまたは終了イベント以外	
	有効	NNMi インシデントを変換したイベント	ソースノード
	有効	JP1/PFM のイベント	エージェントホスト名
	有効	JP1/AJS2 または JP1/AJS3 のジョブの開始イベントまたは終了イベント	実行先ホスト名
SNMP トラップ	－	－	SNMP トラップ発生ソース

（凡例）
　－：条件なし

「適用先システム名」
　適用先システムで選択されている発行元の場合，選択元の適用先システム名が表示されます。
　複数の適用先システムで選択されていた場合は，最も深い階層の適用先システム名が表示されます。

［発行元の名前でフィルタする］
　フィルタリングするときの発行元名を 255 バイト以内で入力します。発行元名を入力してチェックすると，入力した条件名を含んでいる発行元だけが表示されます。［Enter］キーを押す，またはフォーカスが移動した場合にフィルタリングが適用されます。
　全角文字と半角文字は区別されます。またデフォルトでは，大文字と小文字は区別されます。大文字と小文字を区別しないためには環境設定パラメーター「SEARCH_SENSITIVE」を変更する必要があります。環境設定パラメーターについては，「4.4.1(2)　環境設定ファイルの定義項目」を参照してください。制御文字は入力できません。

［発行元追加］ボタン
　新しく発行元を作成します。
　クリックすると，［発行元定義］ダイアログが表示されます。

［発行元更新］ボタン
　定義済みの発行元の内容を変更します。
　発行元を選択してクリックすると，［発行元定義］ダイアログが表示されます。

［発行元削除］ボタン
　定義済みの発行元を削除します。
　発行元を選択してクリックすると，発行元が削除されます。

12.24　［発行元選択］ダイアログ

［発行元選択］ダイアログでは，適用先システムに含める発行元を追加したり，削除したりします。

［発行元選択］ダイアログを次の図に示します。

図 12-33　［発行元選択］ダイアログ

表示項目を次に示します。

「選択可能な発行元一覧」

適用先システムに含められる発行元の一覧が表示されます。名前順にソートできます。

上位の適用先システムで選択されている発行元が，定義している適用先システムに含められる発行元です。

上位の適用先システムで選択されている発行元でも，同じ上位の適用先システムの下位に含まれるほかの適用先システムで選択されている発行元は選択できません。選択できない発行元は，背景色が灰色で表示されます。

「抑止」

JP1 イベント発行元単位で，JP1/IM - MO から JP1 イベントを発行しない場合にチェックされて表示されます。チェックされていない場合は，JP1 イベントの発行は抑止されません。

「種別」

定義情報の種別が表示されます。この項目は一度定義すると変更できません。

アイコン	意味
	発行元イベントサーバを示します。
	SNMP トラップ発生ソースまたはエージェントを示します。

「名前」

発行元の名称が表示されます。

学習機能によって発行元が学習されている場合は，JP1 イベントの種別に応じて次に示す発行元が表示されます。

表 12-5　JP1 イベント種別ごとに表示される発行元一覧

JP1 イベント種別	マッピング機能	オリジナルイベント種別	表示される発行元
イベントログトラップ	－	－	発行元イベントサーバ名
ログファイルトラップ	－	－	
直接発行イベント	無効	－	
	有効	NNMi インシデントを変換したイベント，JP1/PFM のイベント，JP1/AJS2 または JP1/AJS3 のジョブの開始イベントまたは終了イベント以外	
	有効	NNMi インシデントを変換したイベント	ソースノード
	有効	JP1/PFM のイベント	エージェントホスト名
	有効	JP1/AJS2 または JP1/AJS3 のジョブの開始イベントまたは終了イベント	実行先ホスト名
SNMP トラップ	－	－	SNMP トラップ発生ソース

（凡例）

－：条件なし

「適用先システム名」

「名前」に表示されている発行元が所属している適用先システムの名称が表示されます。

［名前でフィルタする］

フィルタリングするときの発行元の名称を 255 バイト以内で入力します。発行元名を入力してチェックすると，入力した条件名を含んでいる発行元だけが表示されます。［Enter］キーを押す，またはフォーカスが移動するとフィルタリングが適用されます。全角と半角は区別されます。デフォルトでは，大文字と小文字は区別されます。大文字と小文字を区別しないためには環境設定パラメーター「SEARCH_SENSITIVE」を変更する必要があります。環境設定パラメーターについては，「4.4.1(2)　環境設定ファイルの定義項目」を参照してください。制御文字は入力できません。

［追加］ボタン

「選択可能な発行元一覧」から発行元を選択してクリックすると，選択した発行元が「発行元一覧」に移動します。

［削除］ボタン

「発行元一覧」から発行元を選択してクリックすると，選択した発行元が「選択可能な発行元一覧」に移動します。

「発行元一覧」

適用先システムに含まれている発行元の一覧が表示されます。

適用先システムに含まれている発行元でも，さらに下位の適用先システムで選択されている発行元は選択を解除できません。選択を解除できない発行元は，背景色が灰色で表示されます。

［抑止］

JP1 イベント発行元単位で，JP1/IM - MO から JP1 イベントを発行しない場合にチェックします。また，［抑止］をチェックすると，すべての発行元の［抑止］がチェックされます。［抑止］のチェックを外すとすべての［抑止］のチェックが解除されます。
［削除］ボタンをクリックして「発行元一覧」から「選択可能な発行元一覧」に発行元を移動すると，［抑止］は非活性となりますが，チェック状態を変更していた場合，その変更は反映されます。

「種別」
「選択可能な発行元一覧」の「種別」を参照してください。

「名前」
「選択可能な発行元一覧」の「名前」を参照してください。

「適用先システム名」
「選択可能な発行元一覧」の「適用先システム名」を参照してください。

［名前でフィルタする］
「選択可能な発行元一覧」の［名前でフィルタする］を参照してください。

12.25　［発行元定義］ダイアログ

［発行元定義］ダイアログでは，新しく発行元を定義したり，定義済みの発行元の情報を変更したりします。

［発行元定義］ダイアログを次の図に示します。

図 12-34　［発行元定義］ダイアログ（発行元イベントサーバ選択時）

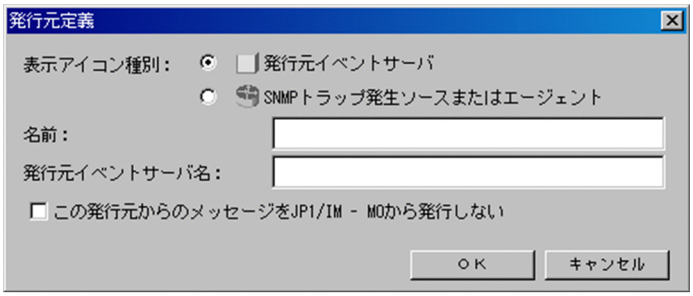
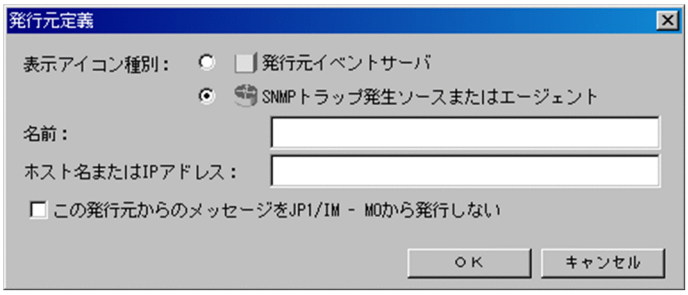


図 12-35　［発行元定義］ダイアログ（SNMP トラップ発生ソースまたはエージェント選択時）



表示項目を次に示します。

「表示アイコン種別」

定義している発行元の種別を指定します。

- ［発行元イベントサーバ］
  発行元が，JP1/Base のインストールされているホストの場合に選択します。
- ［SNMP トラップ発生ソースまたはエージェント］ラジオボタン
  発行元が，SNMP トラップを発行するホストまたはエージェントの場合に選択します。

「名前」

発行元の名称を 255 バイト以内の文字列で指定します。0x00 ～ 0x1F および 0x7F の制御コードは入力できません。

「発行元イベントサーバ名」

「表示アイコン種別」が「発行元イベントサーバ」の場合に，JP1 イベントの基本属性「発行元イベントサーバ名」を 255 バイト以内の文字列で指定します。0x00 ～ 0x1F および 0x7F の制御コードは入力できません。

この項目は，一度定義すると変更できません。

「ホスト名または IP アドレス」

「表示アイコン種別」が「SNMP トラップ発生ソースまたはエージェント」の場合に，JP1 イベントの拡張属性「SNMP トラップ発生ソース」，「ソースノード」，「エージェントホスト名」または「実行

ホスト名」を指定します。
この項目は，一度定義すると変更できません。

［この発行元からのメッセージを JP1/IM - MO から発行しない］
JP1/IM - MO からの JP1 イベントの発行を抑止する場合にチェックします。チェックしない場合は，JP1 イベントの発行を抑止しません。

12.26　［イベントソース名変更］ダイアログ

［イベントソース名変更］ダイアログでは，イベントソースの名称を変更します。

［イベントソース名変更］ダイアログを次の図に示します。

図 12-36　［イベントソース名変更］ダイアログ

表示項目を次に示します。

「名前」
　　イベントソースの名称を 32 バイト以内の文字列で指定します。

12.27　［変換フォーマット名変更］ダイアログ

［変換フォーマット名変更］ダイアログでは，変換フォーマットの名称を変更します。

［変換フォーマット名変更］ダイアログを次の図に示します。

図 12-37　［変換フォーマット名変更］ダイアログ

表示項目を次に示します。

「名前」
　　変換フォーマットの名称を 32 バイト以内の文字列で指定します。

12.28　［変換メッセージ群名変更］ダイアログ

［変換メッセージ群名変更］ダイアログでは，変換メッセージ群の名称を変更します。

［変換メッセージ群名変更］ダイアログを次の図に示します。

図 12-38　［変換メッセージ群名変更］ダイアログ

表示項目を次に示します。

「名前」
　　変換メッセージ群の名称を 32 バイト以内の文字列で指定します。

12.29　［適用先システム名変更］ダイアログ

［適用先システム名変更］ダイアログでは，適用先システムの名称を変更します。

［適用先システム名変更］ダイアログを次の図に示します。

図 12-39　［適用先システム名変更］ダイアログ

表示項目を次に示します。

「名前」

適用先システムの名称を 255 バイト以内の文字列で指定します。0x00 ～ 0x1F および 0x7F の制御コードは入力できません。

13 コマンド

この章では，JP1/IM - MO が提供しているコマンドについて説明します。

コマンドの記述形式
コマンド一覧
jmoalog.bat
jmochktransfile
jmocfexport
jmocfimport
jmoedbbackup
jmoedbgetinf
jmoedbrorg
jmoedbrstr
jmoedbsetup
jmoedbstop
jmoexport
jmoimport
jmolog.bat
jmorelease
jmosetcnf

コマンドの記述形式

ここでは，コマンドの記述形式について説明します。

コマンドの指定方法

コマンドの指定形式を次に示します。

jmoXXX
　　[△$_1$-オプションA[△$_1$値a]]　・・・(1)
　　[△$_1$-オプションB[△$_1$値a]]　・・・(1)　・・・(2)
　　[△$_1$任意名]

（凡例）
△$_1$：1個以上の空白文字を示します。
(1)を総称してオプションと呼びます。また，(2)を総称して引数と呼びます。

次に，引数の指定方法を説明します。

- 最初にオプションを指定し，次に任意名を指定します。
- 値のない複数のオプションを連続して指定できません。

（例）
　「-a -b」を「-ab」と指定したり，「-cd -cf」を「-cdcf」と指定したりすることはできません。
- 期待しないオプションが指定された場合は，エラーになります。
- 任意名には正規表現，総称名は使用できません。
- 期待する数以上の任意名を指定したときには，エラーになります。
- 引数，オプションに指定する文字は，大文字・小文字が区別されます。大文字・小文字の使い分けに注意してください。

コマンドの形式で使用する記号とその意味

コマンドの形式の説明に使用する記号を次の表に示します。

表 13-1　コマンドの形式の説明に使用する記号

記号	意味
| （ストローク）	複数の項目に対して項目間の区切りを示し，「または」の意味を示します。 **（例）** 「A|B|C」は，「A，B，またはC」を示します。
{} （波括弧）	この記号で囲まれている複数の項目の中から，一組の項目を必ず選択します。項目と項目の区切りは「|」で示します。 **（例）** 「{A|B|C}」は，「A，B，またはCのどれかを必ず指定する」ことを示します。
[] （角括弧）	この記号で囲まれている項目は，任意に指定できます（省略できます）。 **（例）** 「[A]」は，「必要に応じてAを指定する」ことを示します（必要でない場合は，Aを省略できます）。 「[B|C]」は，「必要に応じてB，またはCを指定する」ことを示します（必要でない場合は，BおよびCを省略できます）。

記号	意味
_（下線）	括弧で囲まれているすべての項目を省略したときに，システムが採用する値を示します。 **（例）** 「[A|B]」は，「A および B を指定しなかった場合，システムは A を採用する」ことを示します。

Windows Server 2008 でコマンドを使用する場合の注意事項

Windows Server 2008 でコマンドを使用する場合は，次のことに注意してください。

- コマンドの引数には，JIS 2004 で追加された第 3 水準漢字，第 4 水準漢字を使用しないでください。これらの文字を使用した場合，正常に動作しないおそれがあります。
- 管理者権限が必要なコマンドを実行する際には，コマンドプロンプトを管理者として起動する必要があります。コマンドプロンプトを起動する際は，Windows のスタートメニューの［コマンドプロンプト］を右クリックし，ショートカットメニューから［管理者として実行］を選択してください。なお，UAC 機能が無効の場合は，Administrators 権限を持つユーザーでログインしていればコマンドプロンプトを管理者として起動する必要はありません。

コマンド一覧

JP1/IM - MO で使用できるコマンドの一覧を次に示します。

表 13-2　JP1/IM - MO のコマンド一覧

用途	機能	コマンド名	実行権限	MO	MOA
環境設定	JP1/IM - MO の環境設定情報を登録する。	jmosetcnf	Administrators	○	－
インポート・エクスポート	メッセージ変換定義情報をインポートする。	jmoimport	Administrators	○	－
	メッセージ変換定義情報をエクスポートする。	jmoexport	Administrators	○	－
	変換定義ファイルの書式をチェックする。	jmochktransfile	Administrators	○	－
	システム構成定義ファイルをインポートする。	jmocfimport	Administrators	○	－
	システム構成定義ファイルをエクスポートする。	jmocfexport	Administrators	○	－
リリース操作	定義情報をリリースする。	jmorelease	Administrators	○	－
データベースメンテナンス	データベースをセットアップする。	jmoedbsetup	Administrators	○	－
	データベースを再編成する。	jmoedbrorg	Administrators	○	－
	データベースをバックアップする。	jmoedbbackup	Administrators	○	－
	データベースをリストアする。	jmoedbrstr	Administrators	○	－
	データベースを停止する。	jmoedbstop	Administrators	○	－
	データベースのセットアップ内容を出力する。	jmoedbgetinf	Administrators	○	－
障害情報の採取	JP1/IM - MO の障害情報を採取する。	jmolog.bat	Administrators	○	－
	JP1/IM - MO Assistant の障害情報を採取する。	jmoalog.bat	Administrators	－	○

（凡例）

MO：JP1/IM - MO

MOA：JP1/IM - MO Assistant

○：提供している

－：提供していない

jmoalog.bat

機能

JP1/IM - MO Assistant の障害情報を採取します。

形式

`jmoalog.bat [-h] [-s] [-o` **出力先フォルダ名**`]`

実行権限

Administrators 権限

前提条件

なし。

格納先フォルダ

JP1/IM - MO Assistant **インストール先フォルダ** `¥tools`

引数

`-h`

`hosts` ファイルを採取しない場合に指定します。

`-s`

`services` ファイルを採取しない場合に指定します。

`-o` 出力先フォルダ名

採取した障害情報の出力先フォルダ名を指定します。指定したフォルダがない場合は，指定した名前でフォルダが作成され，障害情報が出力されます。

省略した場合，カレントフォルダに障害情報が出力されます。

戻り値

0	正常終了
4	障害情報の採取に一部失敗した
17	オプションの値に誤りがある
64	フォルダの作成に失敗した
65	フォルダの削除に失敗した

注意事項

- 採取した資料はこのツールでは圧縮しません。別途，圧縮ツールなどで圧縮してください。
- すでに，このバッチファイルの実行結果を出力したファイルが作成済み（出力先フォルダ下に `JMOADEFAULT` フォルダが既存）の環境で，同じ出力先を指定してこのバッチファイルを実行すると，**出力先フォルダ** `¥JMOADEFAULT` フォルダ以下のファイルまたはフォルダを削除して続行するかを確認するメッセージが出力されます。続行する場合は「`y`」を，中止する場合は「`n`」を応答してください。
- JP1/IM - MO が JP1/IM - MO Assistant と同じホストにインストールされている場合は，JP1/IM - MO の障害情報採取ツール `jmolog.bat` を実行することで，JP1/IM - MO Assistant の障害情報も採取でき

ます。その場合，このバッチファイルを実行する必要はありません。

- このコマンドの実行中に，特定の障害情報の採取に失敗しても，ほかの障害情報を採取するために処理は続行されます。
- このコマンドは，JP1/IM - MO Assistant が実行中でも実行できます。
- `-o` オプションには，実行ユーザーが書き込み権限のあるフォルダを指定してください。

使用例

JP1/IM - MO Assistant の障害情報を `C:¥temp¥jmoalog` フォルダに採取します。

```
jmoalog -o C:¥temp¥jmoalog
```

jmochktransfile

機能

変換定義ファイルに記述されている定義の書式，内容が正しいかどうかをチェックします。

100 レコードごとに処理経過が標準出力へ出力されます。

形式

```
jmochktransfile
     [-l {MS932|sjis|eucJP|UTF-8}]
     変換定義ファイル名
```

実行権限

Administrators 権限

前提条件

jmochktransfile コマンドが実行中でないこと

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥bin

引数

-l {MS932|sjis|eucJP|UTF-8}

変換定義ファイルの文字コードを指定します。大文字・小文字は区別しません。

- MS932
  変換定義ファイルの文字コードを「MS932」に設定します。
- sjis
  変換定義ファイルの文字コードを「sjis」に設定します。
- eucJP
  変換定義ファイルの文字コードを「eucJP」に設定します。
- UTF-8
  変換定義ファイルの文字コードを「UTF-8」に設定します。

変換定義ファイル名

チェックの対象とする変換定義ファイルの名称をフルパスで指定します。ローカルディスク配下のパスを 259 バイト以内で指定してください。変換定義ファイルのパス中に半角スペースが含まれる場合は，パスを「"（ダブルクォーテーションマーク）」で囲んでください。

戻り値

0	正常終了
4	変換定義ファイル内の基本メッセージの重大度に，既定のもの以外が指定されている
7	変換定義ファイルが空，またはコメント行と改行だけで記述されているため，インポートするデータがない
8	変換定義ファイルに誤りがある
16	Administrators 権限を持たないユーザーによって実行された

17	引数の指定に誤りがある
18	コマンドを多重実行した
32	変換定義ファイル書式に誤りがある
33	入力ファイルエラー • 指定したパスの長さが 260 バイト以上である • 指定したパスがローカルディスク配下のパスではない • ファイルのオープンに失敗した
255	その他のエラーが発生した

注意事項

- このコマンドでは，埋め字はチェックしません。変換定義ファイルに埋め字の誤りがある場合は，jmoimport コマンドの実行時に警告メッセージが出力されます。
- jmochktransfile コマンドは多重起動できません。

使用例

変換定義ファイル（c:¥work¥deffile.txt）の定義内容をチェックします。

```
jmochktransfile c:¥work¥deffile.txt
```

jmocfexport

機能

発行元および適用先システムの定義をシステム構成定義ファイルとしてエクスポートします。

形式

```
jmocfexport
     [-f]
     -o システム構成定義ファイル名
```

実行権限

Administrators 権限

前提条件

- JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが開始されていること
- このコマンドを実行するホスト上の JP1/IM - MO に JP1/IM - MO Assistant が接続していないこと
- ほかのインポート・エクスポートコマンドが実行中でないこと

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥bin

引数

-f

-o オプションで指定したシステム構成定義ファイル名と同一パス・同一のファイルがすでにある場合に，強制的に上書きするときに指定します。

このオプションを省略した場合，同一パス・同一のファイルがすでにあるとき，上書きするかどうかの確認メッセージが出力されます。「Y」または「y」を指定した場合，エクスポートファイルが上書きされます。「N」または「n」を指定した場合は，エクスポートされないでコマンドが正常終了します。それ以外の場合は再度確認メッセージが出力されます。

-o システム構成定義ファイル名

エクスポートするファイル名をフルパスで指定します。ローカルディスク配下のパスを 259 バイト以内で指定してください。エクスポートファイルのパス中に半角スペースが含まれる場合は，パスを「"（ダブルクォーテーションマーク）」で囲んでください。

このオプションは必ず指定してください。

戻り値

0	正常終了
16	Administrators 権限を持たないユーザーによって実行された
17	引数の指定に誤りがある
18	• コマンドを多重実行した • ほかのインポート・エクスポートコマンドが実行中である
19	JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが起動されていない状態でこのコマンドが実行された
20	JP1/IM - MO Assistant が接続中である

33	出力ファイルエラー • 指定したパスの長さが 260 バイト以上である • 指定したパスがローカルディスク配下のパスではない • ファイルのオープンに失敗した
64	• 内部処理でエラーが発生した • コマンド実行中に，JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスとの通信が切断された • JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスの応答待ちがタイムアウトした
255	その他のエラーが発生した

注意事項

- エクスポートするときの文字コードは MS932 です。
- ほかのインポート・エクスポートコマンドとは同時に実行できません。
- 多重起動できません。
- JP1/IM - MO Assistant が接続中の場合は実行できません。
- システム構成定義ファイルを CSV 形式で出力し Excel で編集する場合の注意事項については，「14.1.1 定義ファイル共通の注意事項」を参照してください。

使用例 1

適用先システムおよび発行元の情報をシステム構成定義ファイル（C:¥work¥exportdata.csv）にエクスポートします。

```
jmocfexport -o C:¥work¥exportdata.csv
```

使用例 2

すでに存在しているシステム構成定義ファイル（C:¥work¥exportdata.csv）にすべての適用先システムおよび発行元の情報を上書きします。

```
jmocfexport -f -o C:¥work¥exportdata.csv
```

jmocfimport

機能

JP1/IM - Manager の IM 構成管理情報や，JP1/IM - MO のシステム構成定義ファイルをインポートします。

形式

```
jmocfimport
      [-f]
      [-u]
      -i IM構成管理情報の格納先フォルダ名またはシステム構成定義ファイル名
```

実行権限

Administrators 権限

前提条件

- JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが開始状態であること
- このコマンドを実行するホスト上の JP1/IM - MO に JP1/IM - MO Assistant が接続していないこと
- ほかのインポート・エクスポートコマンドが実行中でないこと

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥bin

引数

-f

システム構成定義ファイルの書式をチェックしたあとに，インポートを確認するメッセージへの応答を省略してインポートする場合に指定します。

このオプションを省略した場合，同一パス・同一のファイルがすでにあるとき，上書きするかどうかの確認メッセージが出力されます。「Y」または「y」を指定すると，システム構成定義ファイルがインポートされます。「N」または「n」を指定すると，インポートされないでコマンドが正常終了します。それ以外のときは再度確認メッセージが出力されます。

-i IM 構成管理情報の格納先フォルダ名またはシステム構成定義ファイル名

JP1/IM - Manager の jcfexport コマンドで IM 構成管理情報をエクスポートしたときに指定したフォルダ名，またはシステム構成定義ファイル名を 259 バイト以内のフルパスで指定します。

指定されたパスがフォルダの場合は IM 構成管理情報が指定されたものとしてコマンドが実行されます。

指定されたパスがファイルの場合はシステム構成定義ファイルが指定されたものとしてコマンドが実行されます。

-u

システム構成定義ファイル（jmocfexport コマンドの出力結果）を更新モードでインポートする場合に指定します。更新モードでは，インポート対象と同じ定義がすでに存在した場合，システム構成定義ファイルの内容で更新します。

このオプションを省略してシステム構成定義ファイルをインポートした場合には追加モードでコマンドは実行されます。追加モードでは，インポートしようとしている定義と同じ定義がすでにデータベースに存

在したとき，その定義はインポートされません。

IM 構成管理情報をインポートする場合は，このオプションが指定されていても無視し，常に追加モードでインポートされます。IM 構成管理情報をインポートする場合，インポートしようとしている定義と同じ定義がすでにデータベースに存在したときは，定義の名称に番号が付加された定義が追加されます。

戻り値

0	正常終了
4	データがすでにシステム構成定義ファイルに登録されているため，インポートしなかった定義が存在する
5	• IM 構成管理情報をインポートしたときに，同じ名称の定義が存在したため，名称に番号を追加してインポートした • システム構成定義ファイルに記述された変換フォーマット名が，定義されている名称と一致しなかったため，フォーマットを変換しないで定義をインポートした
7	システム構成定義ファイルにインポートするデータ内容が記述されていない
8	• システム構成定義ファイルに記述したデータに誤りがあるため，インポートしなかったデータがある • システム構成定義ファイルに記述された変換フォーマットが定義されていない（変換フォーマット名に誤りがある） • システム構成定義ファイルに記述された発行元が定義されていない（発行元名に誤りがある） • インポート対象と同じ名前の適用先システムがすでに存在している • 更新モードでコマンドを実行した場合に，適用先システムがリリース許可またはリリース解除許可状態のため更新できない
16	Administrators 権限を持たないユーザーによって実行された
17	引数の指定に誤りがある
18	• コマンドを多重実行した • ほかのインポート・エクスポートコマンドが実行中である
19	JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが起動されていない状態でこのコマンドが実行された
20	JP1/IM - MO Assistant が接続中である
32	• システム構成定義ファイルの書式が不正 • IM 構成管理情報のファイル書式が不正
33	入力ファイルエラー • 指定したパスの長さが 260 バイト以上である • 指定したパスがローカルディスク配下のパスではない • ファイルのオープンに失敗した • -i オプションで指定したフォルダに IM 構成管理情報が存在していない
34	コマンドの実行中に発行元または適用先システムの定義が最大件数に達した
64	• 内部処理でエラーが発生した • コマンド実行中に，JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスとの通信が切断された • JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスの応答待ちがタイムアウトした
255	その他のエラーが発生した

注意事項

- ファイルの文字コードは MS932 で記述されているものとしてインポートします。
- ほかのインポート・エクスポートコマンドとは同時に実行できません。
- 多重起動できません。
- JP1/IM - MO Assistant が接続中の場合は実行できません。
- IM 構成管理情報を jcfexport コマンドで出力した直後にインポートする場合は，jcfexport コマンドが終了していることを確認してから jmocfimport コマンドを実行してください。
  jmocfimport コマンドの -i オプションと JP1/IM - Manager の jcfexport コマンドの -o オプションに同じフォルダを指定して jmocfimport コマンドと jcfexport コマンドを同時に実行すると，JP1/IM - MO のシステム構成定義が一部しか作成されないことがあります。

- システム構成定義ファイルを CSV 形式で出力し Excel で編集する場合の注意事項については，「14.1.1 定義ファイル共通の注意事項」を参照してください。

使用例 1

IM 構成管理情報（C:¥work¥exportdata）をインポートします。

```
jmocfimport -i C:¥work¥exportdata
```

使用例 2

運用開始後に jmocfexport コマンドで出力したシステム構成定義ファイル（C:¥work¥immoexportdata.csv）を使用して発行元と適用先システムを定義します。

```
jmocfimport -i C:¥work¥immoexportdata.csv
```

使用例 3

運用開始後に jmocfexport コマンドで出力したシステム構成定義ファイル（C:¥work¥immoexportdata.csv）を使用して発行元と適用先システムの定義を更新します。

```
jmocfimport -u -i C:¥work¥immoexportdata.csv
```

使用例 4

IM 構成管理情報（C:¥work¥exportdata）を，インポートの継続を確認するメッセージへの応答を省略してインポートします。

```
jmocfimport -f -i C:¥work¥exportdata
```

jmoedbbackup

機能

データベースに格納されている定義情報をバックアップします。

形式

`jmoedbbackup -b` **出力先フォルダ名**

実行権限

Administrators 権限

前提条件

- ほかのデータベースメンテナンスコマンドが実行されていないこと
- JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが停止状態であること
- JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動中であること
- `jmoedbsetup` コマンドによってデータベースのセットアップが完了していること

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** `¥bin`

引数

-b 出力先フォルダ名

データベースに格納されている定義情報のバックアップ先となるフォルダ名を，220 バイト以内のローカルディスクのパスの文字列（フルパス）で指定します。

パスの途中に半角スペース，半角括弧が含まれる場合はパスを「"（ダブルクォーテーションマーク）」で囲んでください。

指定したフォルダの直下にフォルダが作成されます。バックアップフォルダ名には現在時刻が付けられます。フォルダ名の規則を次に示します。

出力先フォルダ名 `¥BACK_`YYYYMMDDhhmmss

- YYYY：年（西暦）
- MM：月
- DD：日
- hh：時
- mm：分
- ss：秒

戻り値

0	正常終了
16	Administrators 権限を持たないユーザーによって実行された
17	引数の指定に誤りがある
18	• コマンドを多重実行した • ほかのデータベースコマンド実行中にこのコマンドが実行された
21	JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが起動している状態でこのコマンドが実行された

22	JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動していない状態でこのコマンドが実行された
23	データベースがセットアップされていない状態でこのコマンドが実行された
32	• -b オプションの値に 221 バイト以上の文字列が指定された • -b オプションの値に使用できない文字が使用された • -b オプションの値に指定されたフォルダが存在しない • -b オプションの値にローカルディスク配下以外のパスが指定された • -b オプションの値に指定されたパスに対するアクセス権がない • -b オプションの値がフルパスではない
33	出力されるバックアップフォルダと同じ名称のファイルまたはフォルダがすでに存在していた
64	データベースでエラーが発生した
255	その他のエラーが発生した

注意事項

- バックアップ処理中に問題が発生し，処理を停止した場合に，それまでの処理で出力したリストアに利用できないバックアップフォルダが残ることがあります。
- このコマンドの実行中に［Ctrl］+［C］キーや［Ctrl］+［Break］キーは押さないでください。
- コマンド実行中に［Ctrl］+［C］キーや［Ctrl］+［Break］キーで処理を中止した場合，タスクマネージャーなどで pdrorg のプロセスが実行されていないことを確認してからこのコマンドを再実行してください。［Ctrl］+［C］キーや［Ctrl］+［Break］キーを押したあと，すぐにほかのコマンドを実行したり，JP1/IM - Message Optimizer サービスや JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスを起動したりすると，コマンドの実行やサービスの起動に失敗することがあります。
- -b オプションの値に指定するフォルダ名称に使用できる文字は次の文字だけです。
  - アルファベット（A ～ Z，a ～ z）
  - 「_」「#」「@」「¥」「.」「,」「(」「)」
  - 数字（0 ～ 9）
  - 半角スペース
  - 「:」（ただし，ドライブを指定する場合だけ使用可能（例）C:¥）

使用例

データベースに格納されている定義情報を C:¥tmp¥backup フォルダにバックアップします。

```
jmoedbbackup -b C:¥tmp¥backup
```

jmoedbgetinf

機能

データベースのセットアップ内容を標準出力に出力します。

形式

```
jmoedbgetinf
```

実行権限

Administrators 権限

前提条件

- ほかのデータベースメンテナンスコマンドが実行されていないこと
- JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動中であること
- jmoedbsetup コマンドによってデータベースのセットアップが完了していること

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥bin

引数

なし。

戻り値

0	正常終了
16	Administrators 権限を持たないユーザーによって実行された
17	引数を指定した
18	• コマンドを多重実行した • ほかのデータベースコマンドが実行中である
22	JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動していない状態でこのコマンドを実行した
23	データベースがセットアップされていない状態でこのコマンドを実行した
64	データベースでエラーが発生した
255	その他のエラーが発生した

出力フォーマット

出力結果はパラメーターごとに，次の形式で出力されます。

“ **パラメーター名** ” = ” **パラメーター値** ”

出力するパラメーター

項番	パラメーター名	内容	
1	DATAPATH	データベース格納領域フォルダ名（ローカルディスク）	jmoedbsetup コマンドの -d オプションの指定値

項番	パラメーター名	内容	
2	RDATAPATH	データベース格納領域フォルダ名（共有ディスク）	jmoedbsetup コマンドの -r オプションの指定値 クラスタシステムでないときは，空文字列を出力する
3	DBPORTNO	データベースのポート番号	jmoedbsetup コマンドの -p オプションの指定値※1
4	DATASIZE	データベースのサイズ	S/M/L/LL （jmoedbsetup コマンドの -s オプションの指定値）
5	PROOPTION	ログファイルトラップのプログラム名指定が有効かどうか	Y/N （jmoedbsetup コマンドの -pro オプションの指定値）
6	MSGOPTION	追加メッセージ識別子が有効かどうか	Y/N （jmoedbsetup コマンドの -msg オプションの指定値）
7	EVTSRC_NUM	イベントソース数	定義済みのイベントソース数 / 最大件数※1
8	SAMPLEMSG_NUM	サンプルメッセージ数	定義済みのサンプルメッセージ数 / 最大件数※1
9	BASICMSG_NUM	基本メッセージ数	定義済みの基本メッセージ数 / 最大件数※1
10	SRCDEVICE_NUM	発行元数	定義済みの発行元数 / 最大件数※1
11	TRANSFORMAT_NUM	変換フォーマット数	定義済みの変換フォーマット数 / 最大件数※1
12	TRANSMSG_GRP_NUM	変換メッセージ群数	定義済みの変換メッセージ群数 / 最大件数※1
13	TRANSMSG_NUM	変換メッセージ数	定義済みの変換メッセージ数 / 最大件数※1
14	APPLYSYSTEM_NUM※2	適用先システム数	定義済みの適用先システム数 / 最大件数※1
15	SELECTED_APPSYS_NUM	変換メッセージ群が選択している適用先システム数の合計	定義済みの変換メッセージ群が選択している適用先システム数の合計※1

注※1
数値はすべて 10 進数で表示されます。

注※2
「全てのシステム」は含みません。

使用例

データベースのセットアップ内容を出力します。

```
jmoedbgetinf
```

jmoedbrorg

機能

データベースを再編成します。

形式

`jmoedbrorg [-b` **一時バックアップファイル名称**`]`

実行権限

Administrators 権限

前提条件

- ほかのデータベースメンテナンスコマンドが実行されていないこと
- JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス，および JP1/IM - Message Optimizer サービスが停止していること
- JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動中であること
- `jmoedbsetup` コマンドによってデータベースのセットアップが完了していること

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** `¥bin`

引数

-b 一時バックアップファイル名称

一時的に定義情報をバックアップするためのファイル名を 259 バイト以内のローカルディスクのパスの文字列（フルパス）で指定します。パスの途中に半角スペース，半角括弧が含まれる場合は「"（ダブルクォーテーションマーク）」で囲んでください。

このオプションは通常指定する必要はありません。領域不足でデフォルトのバックアップパスにバックアップできない場合に指定します。

省略した場合は，JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** `¥db¥sys¥unload` が仮定されます。

このコマンドで作成したファイルは，再編成処理が終了したあと削除されます。

戻り値

0	正常終了
16	Administrators 権限を持たないユーザーによって実行された
17	引数の指定に誤りがある
18	• コマンドを多重実行した • ほかのデータベースコマンド実行中にこのコマンドが実行された
21	JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス, および JP1/IM - Message Optimizer サービスが起動している状態でこのコマンドが実行された
22	JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動していない状態でこのコマンドが実行された
23	データベースがセットアップされていない状態でこのコマンドが実行された

32	• -b オプションの値に 260 バイト以上の文字列が指定された • -b オプションの値がフルパスではない • -b オプションの値に指定されたフォルダが存在しない • -b オプションの値にローカルディスク配下以外のパスが指定された • -b オプションの値に指定されたパスにすでにファイルが存在する • -b オプションの値に使用できない文字が含まれるパスが指定された • -b オプションの値に指定されたパスに対するアクセス権がない
64	データベースでエラーが発生した
255	その他のエラーが発生した

注意事項

- このコマンドを実行する場合は，実行前に必ず jmoedbbackup コマンドを実行してバックアップを取得してください。
- このコマンドの実行中に［Ctrl］+［C］キーや［Ctrl］+［Break］キーは押さないでください。
- コマンド実行中に［Ctrl］+［C］キーや［Ctrl］+［Break］キーで処理を中止した場合，タスクマネージャーなどで pdrorg のプロセスが実行されていないことを確認してからこのコマンドを再実行してください。［Ctrl］+［C］キーや［Ctrl］+［Break］キーを押したあと，すぐにコマンドを再実行したり，JP1/IM - Message Optimizer サービスや JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスを起動したりすると，コマンドの実行やサービスの起動に失敗することがあります。
- -b オプションの値に指定するファイル名称に使用できる文字は次の文字だけです。
  - アルファベット（A ～ Z，a ～ z）
  - 「_」「#」「@」「¥」「.」「,」「(」「)」
  - 数字（0 ～ 9）
  - 半角スペース
  - 「:」（ただし，ドライブを指定する場合だけ使用可能（例）C:¥）

使用例

データベースを再編成します。

```
jmoedbrorg
```

jmoedbrstr

機能

jmoedbbackup コマンドで作成したバックアップフォルダから JP1/IM - MO の定義情報をリストアします。このコマンドは，-b オプションで指定したバックアップフォルダの取得時の定義情報がリストアされます。

形式

jmoedbrstr [-u] -b **バックアップフォルダ名**

実行権限

Administrators 権限

前提条件

- ほかのデータベースメンテナンスコマンドが実行されていないこと
- JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス，および JP1/IM - Message Optimizer サービスが停止状態であること
- JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動中であること
- jmoedbbackup コマンドで，データベースに格納されている情報をバックアップ済みであること

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥bin

引数

-u

確認メッセージを出力しないで定義情報をリストアします。

このオプションを省略した場合，確認メッセージ（KNAH2735-Q）が出力されます。「Y」または「y」を指定した場合，定義情報がリストアされます。「N」または「n」を指定した場合は，リストアされないで正常終了します。

-b バックアップフォルダ名

jmoedbbackup コマンドで取得したバックアップフォルダ名を，240 バイト以内のローカルディスクのパスの文字列（フルパス）で指定します。パスの途中に半角スペース，半角括弧が含まれる場合はパスを「"（ダブルクォーテーションマーク）」で囲んでください。

戻り値

0	正常終了
16	Administrators 権限を持たないユーザーによって実行された
17	引数の指定に誤りがある
18	• コマンドを多重実行した • ほかのデータベースコマンド実行中にこのコマンドが実行された
21	JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス, および JP1/IM - Message Optimizer サービスが起動している状態でこのコマンドが実行された
22	JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動していない状態でこのコマンドが実行された

23	データベースがセットアップされていない状態でこのコマンドが実行された
32	• -b オプションの値に 241 バイト以上の文字列が指定された • -b オプションの値に使用できない文字が使用された • -b オプションの値に指定されたフォルダが存在しない • -b オプションの値にローカルディスク配下以外のパスが指定された • -b オプションの値に指定されたパスに対するアクセス権がない • -b オプションの値がフルパスではない
33	リストアに必要なファイルがそろっていない
34	-b オプションの値に指定されたバックアップフォルダが，異なるバージョンの JP1/IM - MO で生成された
64	データベースでエラーが発生した
255	その他のエラーが発生した

注意事項

- このコマンドを実行すると，実行直前のリストア先の定義情報は失われます。
- このコマンドの実行中に［Ctrl］+［C］キーや［Ctrl］+［Break］キーは押さないでください。
- コマンド実行中に［Ctrl］+［C］キーや［Ctrl］+［Break］キーで処理を中止した場合，タスクマネージャーなどで pdrorg のプロセスが実行されていないことを確認してからこのコマンドを再実行してください。［Ctrl］+［C］キーや［Ctrl］+［Break］キーを押したあと，すぐにコマンドを再実行したり，JP1/IM - Message Optimizer サービスや JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスを起動したりすると，コマンドの実行やサービスの起動に失敗することがあります。
- -b オプションの値に指定するフォルダ名称に使用できる文字は次の文字だけです。
  - アルファベット（A ～ Z，a ～ z）
  - 「_」「#」「@」「¥」「.」「,」「(」「)」
  - 数字（0 ～ 9）
  - 半角スペース
  - 「:」（ただし，ドライブを指定する場合だけ使用可能（例）C:¥）
- バックアップを取得したデータベースより小さいサイズのデータベースに，元のバックアップファイルをリストアしないでください。
- 異なるバージョンの JP1/IM - MO で生成されたバックアップフォルダを -b オプションの値に指定しないでください。指定した場合はエラーになり，バックアップできません。

使用例

バックアップフォルダ（C:¥tmp¥backup¥BACK_20091231235959）に格納されているバックアップファイルから定義情報をリストアします。

```
jmoedbrstr -u -b C:¥tmp¥backup¥BACK_20091231235959
```

jmoedbsetup

機能

データベースを JP1/IM - MO で使用できる状態にセットアップします。

形式

```
jmoedbsetup
     [-u [Y|y]]
     [-c {online|standby}
      -r データベース格納領域フォルダ名（共有ディスク）]
     [-p ポート番号]
     [-s {S|M|L|LL}]
     [-d データベース領域格納フォルダ名（ローカルディスク）]
     [-pro]
     [-msg]
```

実行権限

Administrators 権限

前提条件

- ほかのデータベースメンテナンスコマンドが実行されていないこと
- JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス，および JP1/IM - Message Optimizer サービスが停止状態であること
- JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動中であること
- クラスタ環境のセットアップの場合，共有ディスクにアクセスできること

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥bin

引数

-u [Y|y]

データベースの設定内容および JP1/IM - MO の定義情報をすべて削除して，JP1/IM - MO のデータベースを再セットアップします。すでにデータベースがセットアップされている環境で，再セットアップする場合に指定してください。

- -u オプションだけを指定した場合
  確認メッセージ（KNAH2730-Q）が出力されます。「Y」または「y」を指定した場合，再セットアップされます。「N」または「n」を指定した場合は，再セットアップされないで正常終了します。
- -u オプションと一緒に「Y」または「y」を指定した場合
  確認メッセージを出力しないで再セットアップされます。

-c {online|standby}

クラスタ環境で JP1/IM - MO のデータベースをセットアップする場合に，実行系または待機系のどちらのホストでセットアップするかを指定します。

- online
  実行系ホストでセットアップします。
- standby
  待機系ホストでセットアップします。

このオプションを指定する場合は，必ず -r オプションを指定してください。

このオプションを省略した場合は，非クラスタ環境のセットアップをします。

-r データベース格納領域フォルダ名（共有ディスク）

クラスタ環境で，JP1/IM - MO 用のデータベース領域を作成する共有ディスク上のフォルダ名を 125 バイト以内の文字列（フルパス）で指定します。パスの途中に半角スペース，半角括弧が含まれる場合は「"（ダブルクォーテーションマーク）」で囲んでください。

-c オプションを指定した場合は，必ずこのオプションを指定してください。-c オプションを指定し，このオプションの指定がない場合はエラーとなります。

このオプションに指定したフォルダがない場合は，指定したフォルダが作成されます。

-p ポート番号

データベースと JP1/IM - MO の通信に使用するポート番号を指定します。

すでにセットアップされた環境で，-u オプションを指定しないでこのオプションを指定した場合，ポート番号だけが変更されます。すでに別のサービスで使用しているポート番号は指定できません。

新規セットアップ時にこのオプションを省略してコマンドを実行すると，22371 が指定されます。再セットアップするときに，このオプションを省略してコマンドを実行すると，セットアップ済みのポート番号と同じ値が設定されます。

-s {S|M|L|LL}

セットアップするときに作成するデータベースの容量を「S（小規模）」，「M（中規模）」，「L（大規模）」，「LL（最大規模）」から選択します。新規セットアップ時にはデフォルトで「S」が設定されます。再セットアップするときにこのオプションを省略した場合は，データベースのサイズは変更されません。セットアップ済みのデータベースサイズより小さいサイズのデータベースへは，再セットアップしないでください。

再セットアップ時にセットアップ済みのデータベースより小さなデータベースを指定すると，確認メッセージが表示されます。ユーザーの応答が「N」または「n」であった場合は，再セットアップをしないで正常終了します。ユーザーの応答が「Y」または「y」であった場合は，再セットアップします。

-d データベース領域格納フォルダ名（ローカルディスク）

JP1/IM - MO 用のデータベース領域を作成するローカルディスク上のフォルダ名を 125 バイト以内の文字列（フルパス）で指定します。パスの途中に半角スペース，半角括弧が含まれる場合は「"（ダブルクォーテーションマーク）」で囲んでください。ネットワークドライブ上のパスは指定できません。

新規セットアップ時にこのオプションを省略してコマンドを実行した場合，JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥db¥area が指定されます。再セットアップするときにこのオプションを省略してコマンドを実行すると，セットアップ済みのデータベース領域格納フォルダ名（ローカルディスク）が指定されます。

このオプションに指定したフォルダがない場合は，指定したフォルダが作成されます。

-c オプションを指定していない場合は，このオプションで指定したフォルダ以下に JP1/IM - MO 用の作業表領域および定義情報格納領域が作成されます。

-c オプションを指定した場合は，このオプションで指定したフォルダ以下に JP1/IM - MO 用の作業表領域だけが作成されます。

JP1/IM - MO インストール先フォルダのパスの長さが 118 バイト以上の場合，JP1/IM - MO **インストール**

フォルダ以下にデータベース領域格納フォルダは作成されません。このオプションで JP1/IM - MO インストール先フォルダ以外のパスをフルパスで指定してください。

-pro

ログファイルトラップのイベントソースの識別子に，オブジェクト名に加えてプログラム名も使用する場合に指定します。このオプションの指定は任意です。省略した場合オブジェクト名だけがイベントソースの識別子になります。このオプションを使用するためには，JP1/Base のログファイルトラップ起動時に -p オプションで「ログデータ出力元プログラム名」を指定する必要があります。指定方法については，「4.4.2　イベントソースにプログラム名を指定する場合のセットアップ手順」を参照してください。

すでにセットアップされた環境で，イベントソースの識別子にプログラム名も使用する設定だけを追加したい場合は，-u オプションを指定しないでコマンドを実行してください。プログラム名の指定が有効になっている環境でこのオプションを指定するとエラーになります。

クラスタ環境で JP1/IM - MO のデータベースをセットアップする場合は，実行系でセットアップするときだけこのオプションを指定してください。

このオプションを指定してコマンドを実行すると，ユーザーの応答を確認するメッセージが表示されます。「Y」または「y」を指定するとプログラム名の指定が有効になります。「N」または「n」を指定すると，プログラム名を指定しないでコマンドを終了します。

-msg

追加メッセージ識別子を指定する場合にこのオプションを指定します。追加メッセージ識別子を指定する必要がない場合は省略してください。

すでにデータベースがセットアップされている環境で，追加メッセージ識別子だけを追加したい場合は，-u オプションを指定しないでコマンドを実行してください。

このオプションを指定してコマンドを実行すると，ユーザーの応答を確認するメッセージが表示されます。「Y」または「y」を指定すると追加メッセージ識別子が有効になります。「N」または「n」を指定すると，追加メッセージ識別子を指定しないでコマンドを終了します。

戻り値

0	正常終了
4	• セットアップされている環境で -u オプション，-p オプション，-pro オプション，-msg オプションのどれも指定しないでコマンドが実行された • ログファイルトラップのイベントソースのプログラム名指定がすでに有効になっている環境で，-pro オプションだけを指定してコマンドが実行された • 追加メッセージ識別子指定がすでに有効になっている環境で，-msg オプションだけを指定してコマンドが実行された
16	Administrators 権限を持たないユーザーによって実行された
17	引数の指定に誤りがある
18	• コマンドを多重実行した • ほかのデータベースメンテナンスコマンド実行中にこのコマンドが実行された
21	JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスおよび，JP1/IM - Message Optimizer サービスが起動済みの状態でこのコマンドが実行された
22	JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動していない状態でこのコマンドが実行された

32	• -d オプション，-r オプションの値に，126 バイト以上の文字列が指定された • -d オプション，-r オプションの値に，存在しないドライブ以下のパスが指定された • -d オプションの値に，ローカルディスク配下以外のパスが指定された • JP1/IM - MO が 118 バイト以上のパスにインストールされていて，-d オプションの指定がない • JP1/IM - MO が -d オプションの使用禁止文字を含むパスにインストールされていて，-d オプションの指定がない • -d オプション，-r オプションの値に使用禁止文字が指定された • -d オプション，-r オプションの値に指定したパスにアクセス権がない • -d オプション，-r オプションの値がフルパスではない • -r オプションの値に，共有ディスクとして使用できないドライブ配下のパスが指定された
33	-p オプションの値に，services ファイルに登録されているポート番号が指定された
34	再セットアップ時のデータベース格納領域フォルダ名またはポート番号に誤りがある
64	• データベースでエラーが発生した • テンプレート作成時にエラーが発生した
128	-d オプション，-r オプションで指定したドライブの空き容量が不足した
255	その他のエラーが発生した

注意事項

- jmoedbsetup コマンドで -pro オプションを指定し，プログラム名指定を有効にすると，09-00-03 以前のバージョンの JP1/IM - MO Assistant から，JP1/IM - MO にログインできなくなります。プログラム名指定を有効にした場合は，JP1/IM - MO Assistant を 09-00-04 以降にバージョンアップしてください。
- すでに JP1/IM - MO がセットアップされている環境で，-u オプション，-p オプション，-pro オプションまたは -msg オプションのどれも指定しないでこのコマンドを実行すると，エラーになります。
- すでに追加メッセージ識別子が設定されている環境で，-msg オプションだけを指定してコマンドを実行すると，エラーになります。
- ログファイルトラップのイベントソースの識別子にプログラム名も使用する環境で取得したバックアップを，09-00-03 以前のバージョンの JP1/IM - MO を運用している環境にはリストアしないでください。
- ログファイルトラップのイベントソースの識別子にプログラム名も使用する環境でバックアップを取得すると，その設定はリストア時に引き継がれます。プログラム名を指定するために，リストア後に再度コマンドを実行する必要はありません。
- セットアップされていない環境で，-u オプションを指定してこのコマンドを実行した場合，新規セットアップをします。
- -c オプションの値に「online」，「standby」以外の値を指定したとき，-c オプションの値を省略した場合はエラーになります。
- -d オプションおよび -r オプションの値として指定するパスは NTFS でフォーマットされたドライブ以下にある必要があります。FAT および FAT32 でフォーマットされたドライブ以下のパスを指定した場合は，エラーになります。
- -d オプションおよび -r オプションの値として指定するパスには，リムーバブルディスクや RAM ディスクは使用できません。
- -d オプションおよび - r オプションの値に指定するフォルダ名称に使用できる文字は次の文字だけです。
  - アルファベット（A ～ Z，a ～ z）
  - 「_」「#」「@」「¥」「.」「,」「(」「)」
  - 数字（0 ～ 9）
  - 半角スペース
  - 「:」（ただし，ドライブを指定する場合だけ使用可能（例）C:¥）
- すでにデータベースがセットアップされた環境で，JP1/IM - MO の定義情報を削除しないで設定を変更

する場合は，-p オプション，-pro オプションおよび -msg オプションを同時に指定してコマンドを実行できません。オプションごとに 1 回ずつコマンドを実行してください。

- このコマンドの実行中に［Ctrl］+［C］キーや［Ctrl］+［Break］キーは押さないでください。
- コマンド実行中に［Ctrl］+［C］キーや［Ctrl］+［Break］キーで処理を中止した場合，タスクマネージャーなどで pdistup，pdfmkfs，pddef，および pdload のプロセスが実行されていないことを確認してから，-u オプションを指定してこのコマンドを再実行してください。
- セットアップ済みのデータベースサイズより小さいサイズのデータベースへは，再セットアップしないでください。

使用例 1

インストール直後にセットアップします。

```
jmoedbsetup
```

使用例 2

セットアップ済みの環境で，確認メッセージを表示しないで再セットアップします。

```
jmoedbsetup -u Y
```

使用例 3

セットアップ済みの環境でポート番号を 22201 に変更します。

```
jmoedbsetup -p 22201
```

使用例 4

C:¥IMMOData フォルダ以下に JP1/IM - MO 用データ格納領域を作成します。

```
jmoedbsetup -d C:¥IMMOData
```

使用例 5

クラスタ実行系で共有フォルダ Z:¥IMMOData 以下に JP1/IM - MO 用データ格納領域を作成します。

```
jmoedbsetup -c online -r Z:¥IMMOData -d C:¥IMMOData
```

使用例 6

クラスタ待機系で共有フォルダ Z:¥IMMOData 以下に JP1/IM - MO 用データ格納領域を作成します。

```
jmoedbsetup -c standby -r Z:¥IMMOData -d C:¥IMMOData
```

使用例 7

セットアップ済みの環境でログファイルトラップのイベントソースのプログラム名指定を有効にする。

```
jmoedbsetup -pro
```

使用例 8

セットアップ済みのデータベースに対して追加メッセージ識別子指定を有効にする。

```
jmoedbsetup -msg
```

使用例 9

C:¥IMMODataにLサイズ（大規模システム向け）のデータベースを作成する場合

```
jmoedbsetup -s L -d C:¥IMMOData
```

jmoedbstop

機能

データベースを停止します。このコマンドは，クラスタ環境で次に示す目的に使用します。

- 上書きインストールのために一時的にデータベースを正常停止させる場合
- JP1/IM - MO を停止する際に，データベースを正常停止させる場合

形式

```
jmoedbstop
```

実行権限

Administrators 権限

前提条件

- ほかのデータベースメンテナンスコマンドが実行されていないこと
- JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス，および JP1/IM - Message Optimizer サービスが停止状態であること
- JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動中であること
- `jmoedbsetup` コマンドによってデータベースのセットアップが完了していること
- `jmorelease` コマンドが実行中でないこと

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** `¥bin`

引数

なし。

戻り値

0	正常終了
4	データベースが起動していない状態でこのコマンドが実行された
16	Administrators 権限を持たないユーザーによって実行された
17	引数の指定に誤りがある
18	• コマンドを多重実行した • ほかのデータベースメンテナンスコマンド実行中にこのコマンドが実行された
21	JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスおよび , JP1/IM - Message Optimizer サービスが起動済みの状態でこのコマンドが実行された
22	JP1/IM - Message Optimizer Database サービスが起動していない状態でこのコマンドが実行された
23	データベースがセットアップされていない状態でこのコマンドが実行された
64	データベースでエラーが発生した
255	その他のエラーが発生した

注意事項

- このコマンドの実行中に［Ctrl］+［C］キーや［Ctrl］+［Break］キーは押さないでください。
- コマンド実行中に［Ctrl］+［C］キーや［Ctrl］+［Break］キーで処理を中止した場合，データベースの停止に失敗することがあります。このコマンドを再実行する場合は，タスクマネージャーなどで

pdstop のプロセスが実行されていないことを確認してください。

使用例

データベースを停止します。

```
jmoedbstop
```

jmoexport

機能

変換定義情報をエクスポートします。エクスポート対象の定義をファイルに出力するとき，100 レコードごとに処理経過が標準出力へ表示されます。

形式

```
jmoexport
     [-e イベントソース名 [-g 変換メッセージ群名]]
     [-o エクスポートファイル名]
     [-F]
```

実行権限

Administrators 権限

前提条件

- JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが開始状態であること
- このコマンドを実行するホスト上の JP1/IM - MO に JP1/IM - MO Assistant が接続していないこと
- jmoexport コマンド，または jmoimport コマンドが実行中でないこと

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥bin

引数

-e イベントソース名

エクスポートする定義のイベントソース名を指定します。

このオプションを省略した場合，すべてのイベントソースの基本メッセージと変換メッセージがエクスポートされます。

-g 変換メッセージ群名

エクスポートする変換メッセージ定義が属する変換メッセージ群名を指定します。このオプションは，-e オプションと同時に指定してください。

変換メッセージ群名は，-e オプションで指定するイベントソースに属している必要があります。

-e オプションを指定し，このオプションを省略した場合，-e オプションで指定したイベントソースの基本メッセージと変換メッセージがすべてエクスポートされます。

-e オプションとこのオプションを指定した場合，-e オプションで指定したイベントソースの基本メッセージ，およびこのオプションで指定した変換メッセージ群の変換メッセージがエクスポートされます。

-o エクスポートファイル名

エクスポートするファイル名をフルパスで指定します。ローカルディスク配下のパスを 259 バイト以内で指定してください。エクスポートファイルのパス中に半角スペースが含まれる場合は，パスを「"（ダブルクォーテーションマーク）」で囲んでください。

このオプションを省略した場合，標準出力に出力されます。

-F

-o オプションで指定したエクスポートファイル名と同一パス・同一のファイルがすでにある場合に，強制的に上書きするときに指定します。

このオプションを省略した場合，同一パス・同一のファイルがすでにあるとき，上書きするかどうかの確認メッセージ（KNAH2604-Q）が出力されます。「Y」または「y」を指定した場合，エクスポートファイルが上書きされます。「N」または「n」を指定した場合は，エクスポートされないでコマンドが正常終了します。

戻り値

0	正常終了
16	Administrators 権限を持たないユーザーによって実行された
17	引数の指定に誤りがある
18	コマンドを多重実行した
19	JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが起動されていない状態でこのコマンドが実行された
20	JP1/IM - MO Assistant が接続中である
32	• 指定したイベントソースが存在していない • 指定した変換メッセージ群が存在していない
33	出力ファイルエラー • 指定したパスの長さが 260 バイト以上である • 指定したパスがローカルディスク配下のパスではない • ファイルのオープンに失敗した
35	エクスポートファイルのレコード数が 3,000,000 レコードを超えた
36	ファイル入出力エラーが発生した
64	内部処理でエラーが発生した
255	その他のエラーが発生した

注意事項

- エクスポートするときの文字コードは MS932 です。

使用例

定義をエクスポートファイル（c:¥tmp¥filename）にエクスポートします。

```
jmoexport -o c:¥tmp¥filename
```

jmoimport

機能

指定した変換定義ファイルに記述されている定義をデータベースへインポートします。

100 レコードごとに処理経過が標準出力に出力されます。

形式

```
jmoimport
     [{-i|-u}]
     [-l {MS932|sjis|eucJP|UTF-8}]
     変換定義ファイル名
```

実行権限

Administrators 権限

前提条件

- JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが開始状態であること
- このコマンドを実行するホスト上の JP1/IM - MO に JP1/IM - MO Assistant が接続していないこと
- jmoexport コマンド，または jmoimport コマンドが実行中でないこと

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥bin

引数

-i

変換定義ファイル中に，データベースにすでにあるデータが含まれる場合，その定義を登録しないときに指定します。

-u

変換定義ファイル中に，すでにデータベースに存在しているデータが含まれていて，かつその定義と変換定義データベース内のデータが異なる場合，その定義でデータベース内のデータを上書きするときに指定します。

変換定義ファイルの定義とデータベース内のデータが同じ場合は，その定義を登録しません。メッセージ定義行の基本メッセージは，このオプションを指定しても更新できません。-i オプションとこのオプションの指定を省略した場合，-i オプションを指定した場合と同様に動作します。

-l {MS932|sjis|eucJP|UTF-8}

変換定義ファイルの文字コードを指定します。大文字・小文字は区別しません。

- MS932
  文字コードが「MS932」の場合に指定します。
- sjis
  文字コードが「sjis」の場合に指定します。
- eucJP
  文字コードが「eucJP」の場合に指定します。
- UTF-8

文字コードが「UTF-8」の場合に指定します。

このオプションを省略した場合，MS932 が仮定されます。

変換定義ファイル名

インポートする変換定義ファイル名をフルパスで指定します。ローカルディスク配下のパスを 259 バイト以内で指定してください。変換定義ファイルのパス中に半角スペースが含まれる場合は，パスを「"（ダブルクォーテーションマーク）」で囲んでください。

戻り値

0	正常終了
4	データがすでに変換定義ファイルに登録されているため，インポートしなかったデータが存在する
5	イベントソース指定行で指定したイベントソースが存在しないか「未定義」状態のため，インポートしなかったデータが存在する
6	変換メッセージ定義行で指定した変換メッセージと同じイベント識別子を持つ基本メッセージが存在しないため，インポートしなかったデータが存在する
7	変換定義ファイルが空，またはコメント行と改行だけで記述されているため，インポートするデータがない
8	変換定義ファイルに記述したデータに誤りがあるため，インポートしなかったデータが存在する
16	Administrators 権限を持たないユーザーによって実行された
17	引数の指定に誤りがある
18	コマンドを多重実行した
19	JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが起動されていない状態でこのコマンドが実行された
20	JP1/IM - MO Assistant が接続中である
33	入力ファイルエラー • 指定したパスの長さが 260 バイト以上である • 指定したパスがローカルディスク配下のパスではない • ファイルのオープンに失敗した
34	データベースに格納されている定義が最大件数に達した
64	内部処理でエラーが発生した
255	その他のエラーが発生した

注意事項

- jmoexport コマンド，および jmoimport コマンドは，どちらか一つだけ実行できます。ほかのコマンドが実行中に実行した場合，エラーになります。

使用例

変換定義ファイル（c:¥tmp¥filename）に記述されている定義をデータベースへインポートします（重複定義は登録しない）。

```
jmoimport -i c:¥tmp¥filename
```

jmolog.bat

機能

JP1/IM - MO の障害情報を収集します。JP1/IM - MO と同じホストに JP1/IM - MO Assistant がインストールされている場合は，JP1/IM - MO Assistant の障害情報も採取します。

形式

jmolog.bat[-h] [-s] [-o **出力先フォルダ名**]

実行権限

Administrators 権限

前提条件

なし。

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥tools

引数

-h

hosts ファイルを採取しない場合に指定します。

-s

services ファイルを採取しない場合に指定します。

-o 出力先フォルダ名

採取した障害情報の出力先フォルダ名を指定します。指定したフォルダがない場合は，指定した名前で新規フォルダが作成され，障害情報が出力されます。

省略した場合，カレントフォルダに障害情報が出力されます。

戻り値

0	正常終了
4	障害情報の採取に一部失敗した
17	オプションの値に誤りがある
64	フォルダの作成に失敗した
65	フォルダの削除に失敗した

注意事項

- 採取した資料はこのツールでは圧縮しません。別途，圧縮ツールなどで圧縮してください。
- すでに，このバッチファイルの実行結果を出力したファイルが作成済み（出力先フォルダ下に JMODEFAULT フォルダが既存）の環境で，同じ出力先を指定してこのバッチファイルを実行すると，**出力先フォルダ** ¥JMODEFAULT フォルダ以下のファイルおよびフォルダを削除して続行するかを確認するメッセージが出力されます。続行する場合は「Y」または「y」を，中止する場合は「N」または「n」を指定してください。

- このコマンドの実行中に，特定の障害情報の採取に失敗しても，ほかの障害情報を採取するために処理は続行されます。
- JP1/IM - MO，JP1/IM - MO Assistant が実行中でもこのツールで障害情報を採取できます。
- `-o` オプションには，実行ユーザーが書き込み権限のあるフォルダを指定してください。

使用例

JP1/IM - MO の障害情報を `c:¥temp¥jmolog` フォルダに採取します。

```
jmolog -o c:¥temp¥jmolog
```

jmorelease

機能

リリース許可状態の定義をリリースし，リリース解除許可状態の定義をリリース解除します。また，編集中またはリリース編集中の定義をリリース許可状態にします。

形式

```
jmorelease
     [{-r|-p [-u]}
      {-e イベントソース名 |
       -e イベントソース名 -g 変換メッセージ群名 |
       -f 変換フォーマット名 |
       -s 適用先システム名 |
       -d 発行元名}]
```

形式 1（すべてのリリース許可状態の定義をリリースし，すべてのリリース解除許可状態の定義をリリース解除する場合）

```
jmorelease
```

形式 2（定義を 1 件リリースする場合）

```
jmorelease -r
     {-e イベントソース名 |
      -e イベントソース名 -g 変換メッセージ群名 |
      -f 変換フォーマット名 |
      -s 適用先システム名 |
      -d 発行元名}
```

形式 3（定義を 1 件リリース許可する場合）

```
jmorelease -p [-u]
     {-e イベントソース名 |
      -e イベントソース名 -g 変換メッセージ群名 |
      -f 変換フォーマット名 |
      -s 適用先システム名 |
      -d 発行元名}
```

実行権限

Administrators 権限

前提条件

- JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが開始状態であること
- jmorelease コマンドが実行中でないこと
- JP1/IM - MO Assistant でリリース処理を実行中でないこと

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥bin

引数

-r

定義をリリースする場合に指定します。このオプションは -e，-g，-f，-s，または -d オプションと同時に指定します。-e，-g，-f，-s，-d オプションで指定した定義は，定義の状態がリリース許可状態であれば，リリース状態となります。リリース許可状態ではない定義（未定義状態，編集状態，リリース解除許可状態，リリース編集状態，リリース状態の定義）を -e，-g，-f，-s，-d オプションで指定した場

合，エラーになります。

-p

定義を 1 件リリース許可する場合に指定します。このオプションは -e，-g，-f，または -s オプションと同時に指定します。-e，-g，-f，-s オプションで指定した定義は，定義の状態が編集状態またはリリース編集状態であれば，リリース許可状態となります。

編集状態またはリリース編集状態ではない定義を -e，-g，-f，-s オプションで指定した場合，エラーになります。-e，-g，-f，-s オプションで指定する定義と一緒にリリース許可を行う定義の状態が編集状態またはリリース編集状態以外の場合は，コマンドはその定義の状態を変更しないで次の処理を行います（エラーにはなりません）。

-u

-e，-g，-f，-s オプションで指定する定義をリリース許可する際に，同じ識別情報を持つ定義※がすでにリリース許可状態の場合，リリース許可状態の定義およびそれに関連する定義を編集状態に変更してからオプションで指定する定義をリリース許可します。また，同じ識別情報を持つ定義がリリース状態，またはリリース編集状態にある場合，リリース状態，またはリリース編集状態の定義およびそれに関連する定義をリリース解除許可状態に遷移させてからオプションで指定する定義をリリース許可します。

このオプションは -p オプションと同時に指定します。

-p オプションを指定してこのオプションを指定しない場合，-e，-g，-f，-s，-d オプションで指定する定義をリリース許可する際に，同じ識別情報を持つ定義がすでにリリース許可状態，リリース状態，リリース編集状態のとき，エラーになります。

注※
同じ識別情報を持つ定義とは，変換メッセージ群定義が，次の条件をどちらも満たす定義のことです。
- 同じイベントソース定義以下に存在する。
- 選択している適用先システム定義が完全一致している。

-e イベントソース名

イベントソース名を指定します。

- -r オプションと同時に指定した場合
  指定したイベントソースを 1 件だけリリースします。
- -p オプションと同時に指定した場合
  指定したイベントソースを 1 件だけリリース許可します。

指定したイベントソースが存在しない場合，エラーになります。

-e イベントソース名 -g 変換メッセージ群名

イベントソース名，および変換メッセージ群名を指定します。

- -r オプションと同時に指定した場合
  -r オプションと同時に指定した場合の処理を次に示します。
  1. -g オプションで指定した変換メッセージ群と同じ識別情報を持つ変換メッセージ群がリリース解除許可状態にあるかを検索します。
  2. 1. の検索でヒットした変換メッセージ群，変換メッセージ群に属する変換メッセージ定義，および変換メッセージ群に関連づけられている変換適用関係をリリース解除します。
  3. -g オプションで指定した変換メッセージ群，変換メッセージ群に属する変換メッセージ定義，一緒に指定した -e オプションで指定したイベントソース，変換メッセージ群に関連づけている変換適用

関係および適用先システムをリリースします。このとき，適用先システムをリリースした場合は，リリース許可状態のすべての適用先システムをリリースします。

- -p オプションと同時に指定した場合
  -g オプションで指定した変換メッセージ群，変換メッセージ群に属する変換メッセージ定義，イベントソース，変換メッセージ群に関連づけている変換適用関係および適用先システムをリリース許可します。指定した変換メッセージ群名がデータベースに存在しない場合，エラーになります。

-f 変換フォーマット名

変換フォーマット名を指定します。

- -r オプションと同時に指定した場合
  指定した変換フォーマットを 1 件だけリリースします。
- -p オプションと同時に指定した場合
  指定した変換フォーマットを 1 件だけリリース許可します。

指定した変換フォーマットがデータベースに存在しない場合，エラーになります。

-s 適用先システム名

適用先システム名を指定します。

- -r オプションと同時に指定した場合
  指定した適用先システムおよびリリース許可状態の適用先システム，適用先システムが使用する重大度マッピング定義，適用先システムが使用する変換フォーマット，すべての発行元をリリースします
- -p オプションと同時に指定した場合
  指定した適用先システム，適用先システムが使用する重大度マッピング定義，適用先システムが使用する変換フォーマットをリリース許可します（発行元はリリース許可を行わなくてもリリースを実行するとリリース状態に遷移するため，リリース許可は行いません）。

指定した適用先システムがデータベースに存在しない場合，エラーになります。

-d 発行元

発行元を指定します。

-r オプションと同時に指定した場合，指定した発行元を 1 件だけリリースします。

このオプションは -p オプションと同時には指定できません -p オプションと同時に指定した場合，エラーになります（発行元はリリース許可を行わなくてもリリースを実行するとリリース状態に遷移するため，リリース許可は行いません）。

指定した発行元がデータベースに存在しない場合，エラーになります。

戻り値

0	正常終了
16	Administrators 権限を持たないユーザーによって実行された
17	引数の指定に誤りがある
18	コマンドを多重実行した
19	JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが起動されていない状態でこのコマンドが実行された
32	• -e，-g，-f，-s，-d オプションの値がデータベースに存在しない • リリースまたはリリース許可を行う定義を指定したとき，指定した定義がデータベースに存在しない

34	• リリース許可状態ではない定義（未定義状態，編集状態，リリース解除許可状態，リリース編集状態，リリース状態の定義）を -e，-g，-f，-s，-d オプションで指定した • 編集状態またはリリース編集状態でない定義を -e，-g，-f，-s オプションで指定した
64	内部処理でエラーが発生した
255	その他のエラーが発生した

注意事項

- コマンド実行中に何らかのエラーが発生した場合，定義の状態はコマンド実行前の状態から変化しません。
- このコマンド実行中は JP1/IM - MO Assistant で操作しないでください。
- オプションを指定しない場合でリリース・リリース解除の対象となる定義が 1 件もなかったとき，このコマンドは正常終了します。

使用例 1

リリース許可状態の定義をすべてリリースします。また，リリース解除許可状態の定義をすべてリリース解除します。

```
jmorelease
```

使用例 2

リリース許可状態のイベントソース（ajs2view.log）をリリースします。

```
jmorelease -r -e ajs2view.log
```

使用例 3

編集状態のイベントソース（ajs2view.log）に含まれる変換メッセージ群（本番環境）およびそれに関連する定義をリリース許可します。

```
jmorelease -p -e ajs2view.log -g 本番環境
```

jmosetcnf

機能

環境設定ファイルの内容を登録します。JP1/IM - MO の環境設定情報を変更する場合に使用します。

形式

```
jmosetcnf
```

実行権限

Administrators 権限

前提条件

jmosetcnf コマンドが実行中でないこと

格納先フォルダ

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥bin

引数

なし。

戻り値

0	正常終了
16	Administrators 権限を持たないユーザーによって実行された
17	コマンドを多重実行した
32	環境設定ファイルがない
64	環境設定ファイルのファイル形式が不正
255	その他のエラーが発生した

注意事項

クラスタ構成時にこのコマンドを使用する場合は，実行系と待機系それぞれで同じ内容の環境設定ファイルを用意してください。

使用例

環境設定ファイルの情報を登録します。

```
jmosetcnf
```

14 定義ファイル

JP1/IM - MO で定義できる情報を出力したファイルを定義ファイルといいます。この章では，定義ファイルの書式について説明します。

14.1 定義ファイル一覧

14.2 変換定義ファイル

14.3 システム構成定義ファイル

14.1　定義ファイル一覧

JP1/IM - MO の定義ファイルの一覧を次に示します。

表 14-1　定義ファイル一覧

定義ファイル名	説明
変換定義ファイル	JP1/IM - MO の基本メッセージと変換メッセージを定義するファイルです。
システム構成定義ファイル	JP1/IM - MO の発行元と適用先を定義するファイルです。

14.1.1　定義ファイル共通の注意事項

- 定義ファイルはローカルフォルダに保存してください。
- 定義ファイル（CSV ファイル）を Excel で開く場合，半角数字だけのカラムで，前 0 が削除されるときがあります。Excel を使って定義ファイルを編集する場合は，Excel の外部データの取り込み機能で，次に示すオプションを指定してから定義ファイルを開いてください。
  Excel の外部データの取り込み機能の詳細については，Excel のヘルプを参照してください。
  - ［区切り文字］
    ［カンマ］だけをチェック
  - ［文字列の引用符］
    ［{なし}］を選択
  - ［列のデータ形式］
    ［文字列］を選択

  上記のオプションは，Microsoft Office Excel 2003 を使用した場合の指定です。その他のバージョンのオプション指定方法については，Excel のヘルプを参照してください。

14.2　変換定義ファイル

JP1/IM - MO の基本メッセージと変換メッセージを定義するファイルです。

14.2.1　変換定義ファイルの形式

変換定義ファイルの形式を次に示します。

```
#Category,Identifier,JP1eventID,Severity,MessageText,ReplaceFlag,RestraintFlag,Addition
alIdentifier,,,
<eventsorce>,イベントソース名,,,[,[,[, …]]]
<basic>,"メッセージ識別子",JP1イベントID,"変換前重大度","埋め字定義済みメッセージテキス
ト"[,[,[,"追加メッセージ識別子"[,…]]]]
<basic>,"メッセージ識別子",JP1イベントID,"変換前重大度","埋め字定義済みメッセージテキス
ト"[,[,[,"追加メッセージ識別子"[,…]]]]
<basic>,"メッセージ識別子",JP1イベントID,"変換前重大度","埋め字定義済みメッセージテキス
ト"[,[,[,"追加メッセージ識別子"[,…]]]]
     ・
     ・
     ・
変換メッセージ群名,"メッセージ識別子",,"変換後重大度","変換後メッセージテキスト"[,メッ
セージテキスト変換フラグ[,JP1イベント出力抑止フラグ[,"追加メッセージ識別子"[, …]]]]
変換メッセージ群名,"メッセージ識別子",,"変換後重大度","変換後メッセージテキスト"[,メッ
セージテキスト変換フラグ[,JP1イベント出力抑止フラグ[,"追加メッセージ識別子"[, …]]]]
変換メッセージ群名,"メッセージ識別子",,"変換後重大度","変換後メッセージテキスト"[,メッ
セージテキスト変換フラグ[,JP1イベント出力抑止フラグ[,"追加メッセージ識別子"[, …]]]]
     ・
     ・
     ・
<eventsorce>,イベントソース名,,,[,[,[, …]]]
<basic>,"メッセージ識別子",JP1イベントID,"変換前重大度","埋め字定義済みメッセージテキス
ト"[,[,[,"追加メッセージ識別子"[,…]]]]
     ・
     ・
     ・
変換メッセージ群名,"メッセージ識別子",,"変換後重大度","変換後メッセージテキスト"[,メッ
セージテキスト変換フラグ[,JP1イベント出力抑止フラグ[,"追加メッセージ識別子"[, …]]]]
     ・
     ・
     ・
```

変換定義ファイルの記載形式を次に示します。

- 各行の第 1 カラムの 1 バイト目が「#」だった場合，その行はコメントとします。
- コメント行および空行は無視されます。
- タブ・改行以外の制御コード，およびバイナリデータは入力できません。
- 各レコードは 5 以上のカラムで構成されます。
- インポートコマンド実行時には，変換定義ファイルの先頭から 1 行ずつ順に処理されます。
- メッセージ定義行の前にイベントソース名指定行が必要です。
- ファイルの 1 レコードの最大長は 5,000 バイトです。
- 1 ファイル中に記述できる最大レコード数は 3,000,000 レコードです。エクスポート対象の定義が最大レコード数を超える場合，最大レコード数まで定義をエクスポートします。それ以降の定義は出力されません。
- <eventsource>，<basic> には大文字・小文字の区別はありません。
- 変換ファイルをインポートするときに，追加メッセージ識別子の指定が有効になっていない場合，第 8 カラムに追加メッセージ識別子を記載していても，何も記載していないものとして処理されます。

14.2.2 変換定義ファイルの各レコード

ここでは，変換定義ファイルの各レコードについて説明します。

(1) ヘッダー行

ヘッダー行は各カラムのタイトルを示します。

(a) 記述形式

jmoexport コマンドで変換定義ファイルを出力すると，ファイルの先頭に出力されます。また，jmoimport コマンドでインポートする場合，ヘッダー行は省略できます。

ヘッダー行を記述する場合，行頭には必ず # を記述してください。

(b) カラムの記述ルール

ヘッダー行のカラムの記述ルールを次の表に示します。

表 14-2 ヘッダー行のカラムの記述ルール

カラム	カラムの内容	使用できない文字・文字列	備考
第 1 カラム	第 1 カラムのタイトル "Category" ※	―	省略できます。
第 2 カラム	第 2 カラムのタイトル "Identifier" ※	―	省略できます。
第 3 カラム	第 3 カラムのタイトル "JP1eventID" ※	―	省略できます。
第 4 カラム	第 4 カラムのタイトル "Severity" ※	―	省略できます。
第 5 カラム	第 5 カラムのタイトル "MessageText" ※	―	省略できます。
第 6 カラム	第 6 カラムのタイトル "ReplaceFlag" ※	―	省略できます。
第 7 カラム	第 7 カラムのタイトル "RestraintFlag" ※	―	省略できます。
第 8 カラム	第 8 カラムのタイトル "AdditionalIdentifier" ※	―	省略できます。

（凡例）

―：なし

注

ヘッダー行の各カラムは省略できます。

注※

jmoexport コマンドで変換定義ファイルを出力した場合の内容です。

(2) イベントソース名指定行

イベントソース名指定行は，イベントソース名を記述する行です。

ヘッダー行を除いた最初の行はイベントソース名指定行とする必要があります。

(a) 記述形式

イベントソース名指定行の記述形式を次の表に示します。

表 14-3 イベントソース名指定行の記述形式

カラム	指定内容
第 1 カラム	<eventsource>
第 2 カラム	イベントソース名を記述します。 イベントソース名は，JP1/IM - MO ですでに定義されたイベントソース定義情報のイベントソース名を指定します。イベントソース定義情報がない場合は，この行，およびこの行から次のイベントソース名指定行の間にある行の定義はインポートできません。
第 3 カラム以降	使用しません。

(b) カラムの記述ルール

イベントソース名指定行のカラムの記述ルールを次の表に示します。

表 14-4 イベントソース名指定行のカラムの記述ルール

カラム	カラムの内容	使用できない文字・文字列	備考
第 1 カラム	<eventsource>	<eventsource> 以外の文字列	省略できません。
第 2 カラム	イベントソース名	• 0x00 ～ 0x1F，および 0x7F の制御コード • 先頭の「-」 • ¥ • , • ; • : • * • ? • " • < • > • | • (•) • =	32 バイト以内で記述します。 省略できません。
第 3 カラム	空欄	すべての文字	使用しません。
第 4 カラム	空欄	すべての文字	使用しません。
第 5 カラム	空欄	すべての文字	使用しません。
第 6 カラム以降	空欄	すべての文字	省略できます。 使用しません。

(3) メッセージ定義行

メッセージ定義行は，基本メッセージと変換メッセージの形式を定義します。

メッセージ定義行は，イベントソース名指定行とイベントソース名指定行の間，またはイベントソース名指定行とファイルの終端の間に指定します。メッセージ定義行は直前で指定されたイベントソース名指定行のイベントソース定義に属します。メッセージ定義行は，基本メッセージ，変換メッセージの順に定義します。

(4) 基本メッセージ

(a) 記述形式

メッセージ定義行（基本メッセージ）の記述形式を次の表に示します。

表 14-5 メッセージ定義行（基本メッセージ）の記述形式

カラム	指定内容
第 1 カラム	<basic> 固定
第 2 カラム	メッセージ識別子を記述します。
第 3 カラム	JP1 イベント ID を記述します。
第 4 カラム	基本メッセージの重大度を記述します。
第 5 カラム	埋め字定義済みメッセージテキストを記述します。
第 6 カラム	使用しません。
第 7 カラム	使用しません。
第 8 カラム	追加メッセージ識別子を記述します。記述を省略できます。
第 9 カラム以降	使用しません。

jmoimport コマンドでインポートするとき，書式エラーが発生した場合は，該当するレコードをインポートしないで，次の行の処理に移ります。

(b) カラムの記述ルール

メッセージ定義行（基本メッセージ）のカラムの記述ルールを次の表に示します。

表 14-6 メッセージ定義行（基本メッセージ）のカラムの記述ルール

カラム	カラムの内容	使用できない文字・文字列	備考
第 1 カラム	<basic>	<basic> 以外の文字列	省略できません。
第 2 カラム	メッセージ識別子	改行コード，水平タブ以外の制御コード	このカラムはデータを "" で囲む必要があります。また，メッセージ識別子中の「"」は「""」とエスケープする必要があります。 メッセージ識別子として JP1 イベント ID を指定する場合，上位 4 バイト（基本コード），下位 4 バイト（拡張コード）を 8 けたの前 0 あり 16 進数で表現する形式で指定してください。※ (例) 00000111:00000000 1023 バイト以内で記述します。 省略できません。

カラム	カラムの内容	使用できない文字・文字列	備考
第 3 カラム	JP1 イベント ID	次に示す形式以外の文字列 • 1 けた以上 8 けた以下の前 0 なし 16 進数 • 8 けたの前 0 あり 16 進数 • nnn : mmm ただし，nnn，mmm はそれぞれ 8 けた以下の前 0 なし 16 進数 • xxxxxxxx : yyyyyyyy ただし，xxxxxxxx，yyyyyyyy はそれぞれ 8 けたの前 0 あり 16 進数	17 バイト以内で記述します。 省略できません。
第 4 カラム	重大度	なし	変換前の重大度を記述します。 このカラムはデータを "" で囲んでください。 重大度なしの場合は "" で囲まないで <None> を指定します。 255 バイト以内で記述します。 省略できません。
第 5 カラム	埋め字定義済みメッセージテキスト	改行コード，水平タブ以外の制御コード	このカラムはデータを "" で囲む必要があります。また，埋め字定義済みメッセージテキスト中の「"」は「""」とエスケープする必要があります。 メッセージテキストとは，JP1 イベントのメッセージ属性を基本フォーマットで分割した場合の「メッセージテキスト」の要素に該当する部分の文字列です。埋め字の定義は，メッセージ中に {% **数字** } を挿入して定義します。数字は 1 ～ 5 の整数だけ使用できます。 1023 バイト以内で記述します。 省略できません。
第 6 カラム	空欄	すべての文字	使用しません。
第 7 カラム	空欄	すべての文字	使用しません。

カラム	カラムの内容	使用できない文字・文字列	備考
第 8 カラム	追加メッセージ識別子	制御コード（0x00 ～ 0x1F，および 0x7F）	このカラムはデータを "" で囲む必要があります。また，追加メッセージ識別子中の「"」は「""」とエスケープする必要があります。 追加メッセージ識別子とは，第 2 カラムで指定したメッセージ識別子に追加して指定するメッセージ識別子です。 255 バイト以内で指定してください。メッセージ識別子を追加しない場合，このカラムの記述は省略できます。 メッセージ識別子として JP1 イベント ID を指定する場合，上位 4 バイト（基本コード），下位 4 バイト（拡張コード）を 8 けたの前 0 あり 16 進数で表現する形式で指定してください。※ （例） 00000111:00000000 追加メッセージ識別子として「重大度」を指定する場合，JP1/IM - MO Assistant の画面で表示される日本語ではなく，次のように英語で指定します。大文字と小文字は区別されます。 • Emergency • Emergence • Alert • Critical • Error • Warning • Notice • Information • Debug ただし，上記以外の重大度の場合は，重大度の値をそのまま指定してください。
第 9 カラム以降	空欄	すべての文字	使用しません。

注※

誤った形式で指定すると，メッセージテキストの変換はしないでフォーマットの変換だけ行った JP1 イベントを登録します。誤って定義をしたファイルをインポートした場合，誤って定義した基本メッセージを JP1/IM - MO Assistant で削除したあとに，変換定義ファイルを正しく修正してインポートをやり直す必要があります。

(c) 注意事項

● メッセージ定義行（基本メッセージ）の第 5 カラム（埋め字定義済みメッセージテキスト）の埋め字定義文字列（{% **数字** }）は，次に示す文字列に置換してデータベースに格納されます。

- 基本フォーマット定義の「メッセージテキスト」要素の後区切が区切り文字分割方式で区切られているイベントソースに基本メッセージ定義を追加する場合，「埋め字 n」（n は埋め字定義文字列の数字）に置換します。
- 基本フォーマット定義の「メッセージテキスト」要素の後区切がカラム位置分割方式で区切られているイベントソースに基本メッセージ定義を追加する場合，カラム位置分割方式の値とメッセージテキストの長さが等しくなるように埋め字部分を「xx…」という文字列で置換します。埋め字が複数指定されている場合は，すべての埋め字部分の長さが均等になるように置換します。

● 基本フォーマット定義で「メッセージテキスト」要素の後区切がカラム位置分割方式で区切られているイベントソースに基本メッセージ定義を追加する場合は次に示す点に注意してください。

- メッセージテキストに埋め字がない場合は，カラム位置分割方式で指定した値と同じ長さのメッセージテキストを変換定義ファイルに記述してください。

- メッセージテキストに埋め字がある場合は，埋め字部分を除いた文字列の長さがカラム位置分割方式で指定した値以下になるようにメッセージテキストを変換定義ファイルに記述してください。埋め字部分については，第 5 カラム（埋め字定義済みメッセージテキスト）の埋め字定義文字列の置換のルールに従って「XX…」という文字列に置換してデータベースに格納されます。

(5) 変換メッセージ

(a) 記述形式

メッセージ定義行（変換メッセージ）の記述形式を次の表に示します。

表 14-7 メッセージ定義行（変換メッセージ）の記述形式

カラム	指定内容
第 1 カラム	変換メッセージ群名を記述します。 変換メッセージ群名が定義済みの場合は，その変換メッセージ群の下に変換メッセージ定義を追加します。変換メッセージ群名が定義されていない場合は，直前に指定されたイベントソース名指定行のイベントソース定義に，このカラムで指定した変換メッセージ群名の変換メッセージ群を追加して，その下に変換メッセージ定義を追加します。
第 2 カラム	メッセージ識別子を記述します。
第 3 カラム	使用しません。
第 4 カラム	変換後の重大度を記述します。
第 5 カラム	変換後の「メッセージテキスト」要素の文字列を記述します。
第 6 カラム	メッセージテキストを変換するかどうかを記述します。 Y，または y 　メッセージを変換します。 N，または n 　メッセージを変換しません。
第 7 カラム	JP1 イベントの出力を抑止するかどうかを記述します。 Y，または y 　JP1 イベントの出力を抑止します。 N，または n 　JP1 イベントの出力を抑止しません。
第 8 カラム	追加メッセージ識別子を記述します。記述を省略できます。
第 9 カラム以降	使用しません。

jmoimport コマンドでインポートする場合，書式エラーが発生したときは，該当するレコードをインポートしないで，次の行の処理に移ります。

(b) カラムの記述ルール

メッセージ定義行（変換メッセージ）のカラムの記述ルールを次の表に示します。

表 14-8　メッセージ定義行（変換メッセージ）のカラムの記述ルール

カラム	カラムの内容	使用できない文字・文字列	備考
第 1 カラム	変換メッセージ群名	• 0x00 ～ 0x1F，および 0x7F の制御コード • 先頭の「-」 • ¥ • , • ; • : • * • ? • " • < • > • | • (•) • =	32 バイト以内で記述します。 省略できません。
第 2 カラム	メッセージ識別子	改行コード，水平タブ以外の制御コード	このカラムはデータを "" で囲む必要があります。また，メッセージ識別子中の「"」は「""」とエスケープする必要があります。 メッセージ識別子として JP1 イベント ID を指定する場合，上位 4 バイト（基本コード），下位 4 バイト（拡張コード）を 8 けたの前 0 あり 16 進数で表現する形式で指定してください。※ (例) 00000111:00000000 1,023 バイト以内で記述します。 省略できません。
第 3 カラム	空欄	すべての文字	使用しません。
第 4 カラム	重大度	次に示す文字列以外 • Emergency • Emergence • Alert • Critical • Error • Warning • Notice • Information • Debug • <None>	変換後の重大度を記述します。 このカラムはデータを "" で囲む必要があります。重大度を変換しない場合は，カラムを空欄または空文字列（""）にします。重大度中の「"」は「""」とエスケープする必要があります。 255 バイト以内で記述します。
第 5 カラム	変換後メッセージテキスト	改行コード，水平タブ以外の制御コード	このカラムはデータを "" で囲む必要があります。また，変換メッセージテキスト中の「"」は「""」とエスケープする必要があります。 メッセージテキストとは，JP1 イベントのメッセージ属性を基本フォーマットで分割した場合の「メッセージテキスト」要素に該当する部分の文字列です。 埋め字の定義は，メッセージ中に {% **数字** } を挿入して定義します。数字は 1 ～ 5 の整数だけ使用できます。 1023 バイト以内で記述します。 省略できます。

カラム	カラムの内容	使用できない文字・文字列	備考
第 6 カラム	メッセージテキスト変換フラグ	「Y」「y」「N」「n」以外の値	省略できます。
第 7 カラム	JP1 イベント出力抑止フラグ	「Y」「y」「N」「n」以外の値	省略できます。
第 8 カラム	追加メッセージ識別子	制御コード（0x00 ～ 0x1F および 0x7F）	このカラムはデータを "" で囲む必要があります。また，追加メッセージ識別子中の「"」は「""」とエスケープする必要があります。 追加メッセージ識別子とは，第 2 カラムで指定したメッセージ識別子に追加して指定するメッセージ識別子です。 255 バイト以内で指定してください。メッセージ識別子を追加しない場合，このカラムの記述は省略できます。 メッセージ識別子として JP1 イベント ID を指定する場合，上位 4 バイト（基本コード），下位 4 バイト（拡張コード）を 8 けたの前 0 あり 16 進数で表現する形式で指定してください。※ （例） 00000111:00000000 追加メッセージ識別子として「重大度」を指定する場合，JP1/IM - MO Assistant の画面で表示される日本語ではなく，次のように英語で指定します。大文字と小文字は区別されます。 • Emergency • Emergence • Alert • Critical • Error • Warning • Notice • Information • Debug ただし，上記以外の重大度の場合は，重大度の値をそのまま指定してください。
第 9 カラム以降	空欄	すべての文字	使用しません。

注※

誤った形式で指定すると，メッセージテキストの変換はしないでフォーマットの変換だけ行った JP1 イベントを登録します。誤って定義をしたファイルをインポートした場合，誤って定義した基本メッセージを JP1/IM - MO Assistant で削除したあとに，変換定義ファイルを正しく修正してインポートをやり直す必要があります。

14.2.3　レコード記述時の注意事項

レコード記述時の注意事項を次に示します。

(1) イベントソース名指定行に重複がある場合

jmoimport コマンド実行時に変換定義ファイルのイベントソース名指定行でイベントソース名に重複があった場合，重複があったイベントソース名指定行はすべて有効です。ファイルの記載の上から順に処理されます。

(2) メッセージ定義行で重複がある場合

jmoimport コマンド実行時に，変換定義ファイルのメッセージ定義行でメッセージ識別子に重複があった場合の動作を次の表に示します。

表 14-9 メッセージ定義行で重複がある場合の動作

変換定義ファイル中の定義の重複※	jmoimport コマンドのオプション	既存の定義と変換定義ファイル間での定義の重複	
		無	有
無	• -i • 指定なし	変換定義ファイルに記述した定義をインポートします。	変換定義ファイルに記述した定義をインポートしません。
	-u	変換定義ファイルに記述した定義をインポートします。	基本メッセージの場合 変換定義ファイルに記述した定義をインポートしません。 変換メッセージの場合 変換定義ファイルに記述した定義をインポートします。 既存の定義は上書きされます。
有	• -i • 指定なし	重複する定義のうち，変換定義ファイルに最初に記述した定義をインポートします。	変換定義ファイルに記述した定義をインポートしません。
	-u	基本メッセージの場合 重複する定義のうち，変換定義ファイルに最初に記述した定義をインポートします。 変換メッセージの場合 重複する定義のうち，変換定義ファイルに最後に記述した定義をインポートします。	基本メッセージの場合 変換定義ファイルに記述した定義をインポートしません。 変換メッセージの場合 重複する定義のうち，変換定義ファイルに最後に記述した定義をインポートします。 既存の定義は上書きされます。

注※
追加メッセージ識別子指定が有効な場合は，メッセージ識別子と追加メッセージ識別子が同じ場合だけ重複していると見なします。それ以外の場合は，メッセージ識別子が重複している場合を重複していると見なします。

(3) カラム省略時にインポートした場合

カラム省略時にインポートした場合の動作について説明します。

カラムの省略とは次の場合です。

- カラム自体がない場合
- カラムは存在するが，何も記述されていない場合

カラム省略時にインポートした場合の動作を次の表に示します。

表 14-10 カラム省略時にインポートした場合の動作

定義行の種別	カラム	動作
イベントソース	第 6 カラム以降	無視します。
基本メッセージ	第 6 カラム，第 7 カラム	無視します。
	第 8 カラム	追加メッセージ識別子の設定が有効で，追加メッセージ識別子の定義がある場合は，空文字列が指定されたものとして動作します。それ以外の場合は無視します。
	第 9 カラム以降	無視します。

定義行の種別	カラム	動作
変換メッセージ	第 6 カラム	第 5 カラムの値によって次に示す動作をします。 • 第 5 カラムが空文字列または省略されている場合，「N」（メッセージテキストを変換しない）が指定されたものとして動作します。 • 第 5 カラムに空文字列以外の文字列が記述されている場合，「Y」（メッセージテキストを変換する）が指定されたものとして動作します。
	第 7 カラム	値「N」（JP1 イベント出力を抑止しない）が指定されたものとして動作します。
	第 8 カラム	追加メッセージ識別子の設定が有効で，追加メッセージ識別子の定義がある場合は，空文字列が指定されたものとして動作します。それ以外の場合は無視します。
	第 9 カラム以降	無視します。

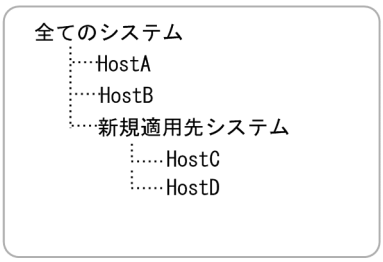
14.3　システム構成定義ファイル

JP1/IM - MO の発行元と適用先を定義するファイルです。

14.3.1　システム構成定義ファイルの形式

システム構成定義ファイルの形式の例を次に示します。

JP1/IM - MOの適用先システム



システム構成定義ファイルでの定義

```
#JP1/IM- MO configuration definition information↓
"全てのシステム",
"",,Emergency,Alert,Critical,Error,Warning,Notice,Information,Debug,<None>↓
<srcdevice>,"HostA",HOST,"HostA",N↓
<srcdevice>,"HostB",HOST,"HostB",N↓
"新規適用先システム",
"全てのシステム",,Emergency,Alert,Critical,Error,Warning,Notice,Information,Debug,<None>↓
<srcdevice>,"HostC",HOST,"HostC",N↓
<srcdevice>,"HostD",HOST,"HostD",N↓
```

（凡例）　↓：改行

このファイルのシステム構成定義ファイルの記載手順を次に示します。

1. **システム構成定義ファイルの先頭に「全てのシステム」を定義する。**
2. **「全てのシステム」に属する発行元を定義する。**
3. **「全てのシステム」直下の適用先システム（「新規適用先システム」）を定義する。**
4. **「新規適用先システム」に属する発行元を定義する。**

システム構成定義ファイルの記載形式を次に示します。

- システム構成定義ファイル内の定義に使用できる文字コードは MS932 だけです。エクスポート時は，MS932 で出力し，インポート時は，MS932 で記述されているものとしてインポートします。
- システム構成定義ファイルには，1 レコードに最大 2,047 バイトまで記述できます。
- システム構成定義ファイルに記述できる発行元および適用先システムの上限件数はそれぞれ 10,240 件までです。
- 各行の第 1 カラムの 1 バイト目が「#」だった場合，その行はコメントとします。
- コメント行および空行は無視されます。
- 適用先システムを定義するときは，「全てのシステム」から始めてコンマで区切って定義してください。定義する場合は 12 カラム以上定義する必要があります。
- 適用先システムの順序は上位のシステムから下位のシステムの順に定義します。下位から上位に定義してインポートするとエラーになります。

- 発行元は，属する適用先システムの直後に記載します。
- 発行元を定義するときは第 1 カラムを <srcdevice> で始めて間をコンマで区切ってください。定義する場合は 5 カラム以上定義する必要があります。なお，<srcdevice> は，大文字と小文字が区別されません。
- システム構成定義ファイルをエクスポートするときは，システム構成定義ファイルの各行末尾の改行コードとして「¥r¥n」を出力します。インポートするときは，システム構成定義ファイルの各行の末尾が「¥r¥n」「¥n」のどちらであっても改行と見なしてインポートします。
- インポートコマンド実行時には，システム構成定義ファイルの先頭から 1 行ずつ順に処理されます。

注意事項

次の場合にはシステム構成定義ファイルをインポートできません。

- システム構成定義ファイルの 1 行に，2,048 バイト以上の記述がある。
- 発行元および適用先システムをそれぞれ 10,241 件以上定義している。

14.3.2 システム構成定義ファイルの各レコード

ここでは，システム構成定義の各レコードについて説明します。

(1) ヘッダー行

ヘッダー行はシステム構成定義ファイルの情報を表します。

(a) 記述形式

jmocfexport コマンドでシステム構成定義ファイルを出力すると，ファイルの先頭に出力されます。また，jmocfimport コマンドでインポートする場合，ヘッダー行は省略できます。

(b) カラムの記述ルール

ヘッダー行を記述する場合，行頭には必ず # を記述してください。

(2) 適用先システム定義行

適用先システム定義行は，適用先システム名を記述する行です。

(a) 記述形式

適用先システム定義行の記述形式を次の表に示します。

表 14-11 適用先システム定義行の記述形式

カラム	指定内容
第 1 カラム	いちばん上の階層の適用先システム名を記述します。「全てのシステム」を指定する場合は，値の指定を省略できます。
第 2 カラム	親適用先システム名（第 1 カラムの適用先の一つ上位の階層にある適用先システム名）を記述します。第 1 カラムで「全てのシステム」を指定する場合は，このカラムを空欄または空文字列にします。
第 3 カラム	適用する変換フォーマット名を指定します。変換フォーマットを変換しない場合は，値の指定を省略できます。
第 4 カラム	変換前の重大度が「緊急」のメッセージの変換後の重大度を指定します。
第 5 カラム	変換前の重大度が「警戒」のメッセージの変換後の重大度を指定します。
第 6 カラム	変換前の重大度が「致命的」のメッセージの変換後の重大度を指定します。
第 7 カラム	変換前の重大度が「エラー」のメッセージの変換後の重大度を指定します。

カラム	指定内容
第 8 カラム	変換前の重大度が「警告」のメッセージの変換後の重大度を指定します。
第 9 カラム	変換前の重大度が「通知」のメッセージの変換後の重大度を指定します。
第 10 カラム	変換前の重大度が「情報」のメッセージの変換後の重大度を指定します。
第 11 カラム	変換前の重大度が「デバッグ」のメッセージの変換後の重大度を指定します。
第 12 カラム	変換前の重大度が「なし」のメッセージの変換後の重大度を指定します。
第 13 カラム以降	使用しません。

注

カラムは省略できません。カラム中の指定値は省略できるものもあります。

注意事項

jmocfimport コマンドでインポートする場合，システム構成定義ファイルの先頭の適用先システム定義行に「全てのシステム」の定義が記述されていない場合など，階層の上位から順に定義されていない場合はエラーになります

(b) カラムの記述ルール

適用先システム定義行のカラムの記述ルールを次の表に示します。

表 14-12 適用先システム定義行のカラムの記述ルール

カラム	カラムの内容	使用できない文字・文字列	備考
第 1 カラム	適用先システム名	0x00 ～ 0x1F，および 0x7F の制御コード	255 バイト以内で記述します。 値を入力しなかった場合は，デフォルトで「全てのシステム」が指定されます。 このカラムはデータを "" で囲う必要があります。 適用先システム名に含まれる「"」は「""」にエスケープして指定する必要があります。 「全てのシステム」を指定する場合は，値を省略するか，「全てのシステム」と指定してください。 システム構成定義ファイルの先頭の適用先システム定義行には必ず「全てのシステム」を定義してください。
第 2 カラム	親適用先システム名	0x00 ～ 0x1F，および 0x7F の制御コード	255 バイト以内で記述します。 値を入力しなかった場合は，デフォルトで「全てのシステム」が指定されます。 第 1 カラムで「全てのシステム」を指定する場合は，このカラムを空欄または空文字列（""）にします。 このカラムはデータを "" で囲う必要があります。 親適用先システム名に含まれる「"」は「""」にエスケープして指定する必要があります。

カラム	カラムの内容	使用できない文字・文字列	備考
第 3 カラム	適用する変換フォーマット名	• 0x00 ～ 0x1F，および 0x7F の制御コード • 先頭の「-」 • ¥ • , • ; • : • * • ? • " • < • > • | • (•) • = ただし <None> は例外。	255 バイト以内で記述します。 変換フォーマットを変換しない場合は <None> を入力するか，値の指定を省略します。 適用する変換フォーマットとして「変換しない」を選択している場合はエクスポートしたときに，<None> が出力されます。
第 4 カラム	変換前の重大度が「緊急」のメッセージの変換後の重大度	次に示す文字列以外 • Emergency • Emergence • Alert • Critical • Error • Warning • Notice • Information • Debug • <None>	変換後の重大度を記述します。 重大度を変換しない場合は，変換前の重大度を指定するか，カラムを空欄または空文字列（""）にします。
第 5 カラム	変換前の重大度が「警戒」のメッセージの変換後の重大度		
第 6 カラム	変換前の重大度が「致命的」のメッセージの変換後の重大度		
第 7 カラム	変換前の重大度が「エラー」のメッセージの変換後の重大度		
第 8 カラム	変換前の重大度が「警告」のメッセージの変換後の重大度		
第 9 カラム	変換前の重大度が「通知」のメッセージの変換後の重大度		
第 10 カラム	変換前の重大度が「情報」のメッセージの変換後の重大度		
第 11 カラム	変換前の重大度が「デバッグ」のメッセージの変換後の重大度		
第 12 カラム	変換前の重大度が「なし」のメッセージの変換後の重大度を指定します。		
第 13 カラム以降	使用しません。	なし。	記述はすべて無視されます。

(3) 発行元定義行

発行元定義行は，発行元名を記述する行です。

(a) 記述形式

発行元定義行の記述形式を次の表に示します。

表 14-13 発行元定義行の記述形式

カラム	指定内容
第 1 カラム	固定値で <srcdevice> です。大文字と小文字は区別されません。 値の指定を省略できません。
第 2 カラム	発行元名を記述します。値の指定を省略できません。
第 3 カラム	表示アイコンの種別を記述します。値の指定を省略できます。
第 4 カラム	発行元イベントサーバ名を記述します。値の指定を省略できません。
第 5 カラム	JP1 イベント抑止フラグ（変換後の JP1 イベントを JP1/IM - View に表示するかどうか）を指定します。値の指定を省略できます。
第 6 カラム以降	使用しません。

注

カラムは省略できません。カラム中の指定値は省略できるものもあります。

(b) カラムの記述ルール

発行元定義行のカラムの記述ルールを次の表に示します。

表 14-14 発行元定義行のカラムの記述ルール

カラム	カラムの内容	使用できない文字・文字列	備考
第 1 カラム	<srcdevice>	<srcdevice> 以外の文字列	<srcdevice> 以外の文字列が入力されている場合は適用先システム定義行として定義されます。 大文字と小文字は区別されません。
第 2 カラム	発行元名	0x00 ～ 0x1F，および 0x7F の制御コード	255 バイト以内で記述します。 このカラムはデータを "" で囲う必要があります。 発行元名に含まれる「"」は「""」にエスケープして指定する必要があります。
第 3 カラム	表示アイコンの種別	次に示す文字列以外 • SNMP • HOST	大文字で入力してください。値を省略した場合は，HOST が指定されたものとして処理されます。 • SNMP 発行元が SNMP トラップ発生ソースまたはエージェントのときに指定します。 • HOST 発行元が発行元イベントサーバのときに指定します。
第 4 カラム	発行元イベントサーバ名	0x00 ～ 0x1F，および 0x7F の制御コード	255 バイト以内で記述します。 このカラムはデータを "" で囲む必要があります。発行元イベントサーバ名中の「"」は「""」とエスケープする必要があります。

カラム	カラムの内容	使用できない文字・文字列	備考
第 5 カラム	JP1 イベント抑止フラグ	次に示す文字列以外 • Y • N	大文字と小文字は区別されません。値を省略した場合は，N が指定されたものとして処理されます。 • Y JP1/IM - MO からの発行を抑止する。 • N JP1/IM - MO からの発行を抑止しない。
第 6 カラム以降	使用しない	なし。	記述はすべて無視されます。

15 JP1 イベント

この章では，JP1/IM - MO が変換した JP1 イベント，および JP1/IM - MO が発行する JP1 イベントの種類とその属性について説明します。
JP1 イベントの種類や属性の意味については，マニュアル「JP1/Base　運用ガイド」を参照してください。

15.1　JP1/IM - MO が変換した JP1 イベント

15.2　JP1/IM - MO が発行する JP1 イベント

15.1　JP1/IM - MO が変換した JP1 イベント

JP1/IM - MO が変換した JP1 イベントについて説明します。

15.1.1　JP1/IM - MO が変換した JP1 イベント一覧

JP1/IM - MO が変換した JP1 イベントを次の表に示します。

表 15-1　JP1/IM - MO が変換した JP1 イベント

イベント ID	発行契機	メッセージ
00006400	メッセージ変換処理完了後	不定（変換対象のイベントに依存します）。

15.1.2　JP1/IM - MO が変換した JP1 イベントの詳細

JP1/IM - MO が変換した JP1 イベントの詳細を次に示します。

(1) イベント ID：00006400 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント DB 内通し番号	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	イベント ID	－	00006400
	登録要因	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	発行元プロセス ID	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	登録時刻	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	到着時刻	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	発行元ユーザー ID	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	発行元グループ ID	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	発行元ユーザー名	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	発行元グループ名	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	発行元イベントサーバ名	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	送信先イベントサーバ名	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	発行元 IP アドレス	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	送信先 IP アドレス	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	発行元別通し番号	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	コードセット	－	イベント登録先の JP1/Base が設定する。
	メッセージ	－	• オリジナルイベントが変換定義の適用対象イベントの場合，JP1/IM - MO で変更したメッセージを設定する。 • オリジナルイベントが変換対象外イベントの場合，または，変換定義の適用対象イベントでない場合は，オリジナルイベントのメッセージを設定する。
	詳細情報	－	設定しない。

属性種別		項目		属性名	内容
拡張属性	共通情報	重大度		SEVERITY	• オリジナルイベントが変換定義の適用対象イベントの場合，JP1/IM - MO で変換した重大度を設定する。 • オリジナルイベントが変換対象外イベントの場合，または，変換定義の適用対象イベントでない場合は，オリジナルイベントの重大度を設定する。
		ユーザー名※1		USER_NAME	オリジナルイベントの USER_NAME の値を設定する。
		プロダクト名		PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/MO
		オブジェクトタイプ※1		OBJECT_TYPE	オリジナルイベントの OBJECT_TYPE の値を設定する。
		オブジェクト名※1		OBJECT_NAME	オリジナルイベントの OBJECT_NAME の値を設定する。
		登録名タイプ※1		ROOT_OBJECT_TYPE	オリジナルイベントの ROOT_OBJECT_TYPE の値を設定する。
		登録名※1		ROOT_OBJECT_NAME	オリジナルイベントの ROOT_OBJECT_NAME の値を設定する。
		オブジェクト ID※1		OBJECT_ID	オリジナルイベントの OBJECT_ID の値を設定する。
		事象種別※1		OCCURRENCE	オリジナルイベントの OCCURRENCE の値を設定する。
		開始時刻※1		START_TIME	オリジナルイベントの START_TIME の値を設定する。
		終了時刻※1		END_TIME	オリジナルイベントの END_TIME の値を設定する。
		終了コード※1		RESULT_CODE	オリジナルイベントの RESULT_CODE の値を設定する。
	固有情報	オリジナルイベントの基本属性	イベント DB 内通し番号※1	B_SEQNO	オリジナルイベントのイベント DB 内通し番号を設定する。
			イベント ID※1	B_ID	オリジナルイベントのイベント ID を設定する。「基本コード：拡張コード」の形式。 基本コード，拡張コード共に 8 けた以内の 16 進数。前にゼロは付けない。
			登録要因※1	B_REASON	オリジナルイベントの登録要因を設定する。
			発行元プロセス ID※1	B_PID	オリジナルイベントの発行元プロセス ID を設定する。
			登録時刻※1	B_DATE	オリジナルイベントの登録時刻の日付部分を「yyyy/mm/dd」の形式で設定する。
				B_TIME	オリジナルイベントの登録時刻の時刻部分を「hh:mm:ss」の形式で設定する。
			到着時刻※1	B_ARVDATE	オリジナルイベントの到着時刻の日付部分を「yyyy/mm/dd」の形式で設定する。
				B_ARVTIME	オリジナルイベントの到着時刻の時刻部分を「hh:mm:ss」の形式で設定する。
			発行元ユーザー ID※1	B_USRID	オリジナルイベントの発行元ユーザー ID を設定する。
			発行元グループ ID※1	B_GRPID	オリジナルイベントの発行元グループ ID を設定する。
			発行元ユーザー名※1	B_USR	オリジナルイベントの発行元ユーザー名を設定する。

属性種別		項目		属性名	内容
			発行元グループ名※1	B_GRP	オリジナルイベントの発行元グループ名を設定する。
			発行元イベントサーバ名※1	B_HOST	オリジナルイベントの発行元イベントサーバ名を設定する。
			送信先イベントサーバ名※1	B_DESTSERVER	オリジナルイベントの送信先イベントサーバ名を設定する。
			発行元 IP アドレス※1	B_IPADDR	オリジナルイベントの発行元 IP アドレスを設定する。 IPv4 の場合： aaa.bbb.ccc.ddd 形式。 （aaa.bbb.ccc.ddd は前にゼロを付けない 10 進数で，1 ～ 3 けた）。 IPv6 の場合： aaaa:bbbb:cccc:dddd:eeee:ffff:gggg:hhhh 形式。 （aaaa:bbbb:cccc:dddd:eeee:ffff:gggg:hhhh は前にゼロを付けない 16 進数で，1 ～ 4 けた）。
			送信先 IP アドレス※1	B_DESTIPADDR	オリジナルイベントの送信先 IP アドレスを設定する。
			発行元別通し番号※1	B_SRCNO	オリジナルイベントの発行元別通し番号を設定する。
			コードセット※1	B_CODESET	オリジナルイベントのコードセットを設定する。
			メッセージ※1	B_MSG	オリジナルイベントのメッセージを設定する。
			詳細情報※1	B_DETAIL	オリジナルイベントの詳細情報を設定する。 詳細情報が文字列の場合： 詳細情報の文字列をそのまま設定する。 詳細情報がバイナリの場合： 空白を設定する。
		オリジナルイベントの拡張属性：共通情報	重大度※1	E_SEVERITY	オリジナルイベントの SEVERITY の値を設定する。
			プロダクト名※1	E_PRODUCT_NAME	オリジナルイベントの PRODUCT_NAME の値を設定する。
		オリジナルイベントの拡張属性：固有情報	オリジナルイベントが持つ拡張属性：固有情報※1	E_* （オリジナルイベントの属性名の先頭に E_ が付加される）※2	オリジナルイベントの拡張属性固有情報を設定する。

属性種別		項目		属性名	内容
		JP1/IM - MO 固有情報	イベント発行元情報※1	EVTSRC_INFO	• オリジナルイベントが SNMP トラップイベントの場合 オリジナルイベントの SNMP トラップ発生ソース（SNMP_SOURCE）の値を設定する。 • オリジナルイベントが NNMi インシデント変換イベントで，マッピング機能を有効にしている場合 オリジナルイベントのソースノード（NNMI_SRC_NODE_NAME）の値を設定する。 • オリジナルイベントが JP1/PFM のイベントで，マッピング機能を有効にしている場合 オリジナルイベントのエージェントホスト名（JPC_AGENT）の値を設定する。 • オリジナルイベントが JP1/AJS3 または JP1/AJS2 のジョブの開始または終了イベントで，マッピング機能を有効にしている場合 オリジナルイベントの実行先ホスト名（C0）の値を設定する。 • オリジナルイベントが JP1/IM - Manager のリモート監視機能の JP1 イベント（ログファイルトラップ）で，マッピング機能を有効にしている場合 オリジナルイベントの監視対象ホスト（監視対象ホスト名）（JP1_SOURCEHOST）の値を設定する。 • オリジナルイベントが JP1/IM - Manager のリモート監視機能の JP1 イベント（イベントログトラップ）で，マッピング機能を有効にしている場合 オリジナルイベントの実行先ホスト名（コンピュータ名）（A1）の値を設定する。 • オリジナルイベントが JP1/IM - Manager の発生元ホストマッピング機能により発行元を設定した JP1 イベントで，マッピング機能を有効にしている場合 オリジナルイベントの監視対象ホスト名（JP1_SOURCEHOST）の値を設定する。 • 上記以外の場合 オリジナルイベントの発行元イベントサーバ名を設定する。
			イベント発行元名	EVTSRC_NAME	イベント発行元情報に対応する発行元名を設定する。
			JP1/IM - MO バージョン※1	MO_VERSION	変換を実行した JP1/IM - MO のバージョンを設定する。
			適用先システム名※1	SYSTEM_NAME	変換に使用した変換定義の適用先システム名を設定する。
			拡張属性格納結果※1	ADDEXTATTR_RESULT	拡張属性の格納結果を設定する。 次の値の和を 2 バイトの 16 進数で設定する。 • 0：すべての拡張属性の値を格納できた。 • 1：拡張属性の個数の上限（100 個）に達し，格納できなかった属性がある。 • 2：拡張属性の合計サイズの上限（10 キロバイト）に達し，格納できなかった属性がある。 • 4：拡張属性名の最大長を超えるため "E_" を付けないで格納した属性がある。

（凡例）

－：なし

注※1

JP1/IM - View で変換後のイベントを参照する場合，デフォルトでは表示されません。これらのイベ

ントの属性を表示するには，JP1/IM - Manager のイベント拡張属性定義ファイルに，表示したい属性を設定する必要があります。
拡張属性定義ファイルの設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」のユーザー独自のイベント属性を表示する手順について記載している個所を参照してください。

注※ 2
例えば，オリジナルイベントの拡張属性の属性名が PLATFORM で内容が NT の場合，変換後のイベントの属性名が E_PLATFORM になり，内容はそのまま NT となります。
ただし，オリジナルイベントの拡張属性名が 31 バイト以上の場合，変換後のイベント属性名中の「E_」は省略されます。

15.2 JP1/IM - MO が発行する JP1 イベント

JP1/IM - MO が発行する JP1 イベントについて説明します。なお，メッセージの内容の中で太字になっている部分は，メッセージが表示される状況によって表示内容が変わることを示しています。

15.2.1 JP1/IM - MO が発行する JP1 イベント一覧

JP1/IM - MO が発行する JP1 イベントを次の表に示します。

表 15-2 JP1/IM - MO が発行する JP1 イベント一覧

イベント ID	発行契機	メッセージ
00006421	JP1/IM - MO のサービスが起動完了したとき	KNAH0008-I **サービス名** サービスを起動しました。
00006422	JP1/IM - MO のサービスの起動処理中にエラーが発生しサービスを停止するとき	KNAH0009-E **サービス名** サービスの起動に失敗しました。
00006423	JP1/IM - MO のサービスを停止するとき	KNAH0002-I **サービス名** サービスを停止します。
00006424	JP1/IM - MO のサービスを異常停止するとき	KNAH0912-E プロセス（**子プロセス名**）が処理続行不可能なエラーで終了しました。**サービス名** サービスを停止します。（**保守情報**）
00006430	JP1/IM - MO 定義情報のリリース・リリース解除を実行したとき	KNAH2240-I リリースまたはリリース解除実行処理が完了しました。
00006450	サービス起動時の接続処理，および切断検知後の再接続処理で JP1/IM - Manager のデータベースに接続できなかったとき	KNAH0547-E JP1/IM - Manager（ホスト名：**ホスト名**）のデータベースに接続できなかったため，待ち合わせを行います。（**保守情報** 1, **保守情報** 2）
00006451	JP1/IM - Manager との接続待ち合わせ中に接続に成功したとき	KNAH0548-I JP1/IM - Manager（ホスト名：**ホスト名**）のデータベースとの接続に成功しました。待ち合わせを終了します。

15.2.2 JP1/IM - MO が発行する JP1 イベントの詳細

JP1 イベントの詳細をイベント ID 別に示します。

(1) イベント ID：00006421 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	－	00006421
	メッセージ	MESSAGE	KNAH0008-I **サービス名** サービスを起動しました。 （**サービス名**は，"JP1/IM - Message Optimizer" または "JP1/IM - Message Optimizer Define"）
拡張属性	重大度	SEVERITY	Information
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/MO
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	サービスを制御するプロセス名 （"jmotspmd" または "jmodspmd"）

属性種別	項目	属性名	内容
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	SERVICE
	登録名	ROOT_OBJECT_NAME	サービスを制御するプロセス名 ("jmotspmd" または "jmodspmd")
	事象種別	OCCURRENCE	START

（凡例）

－：なし

(2) イベント ID：00006422 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	－	00006422
	メッセージ	MESSAGE	KNAH0009-E **サービス名** サービスの起動に失敗しました。 (**サービス名**は，JP1/IM - Message Optimizer" または "JP1/IM - Message Optimizer Define")
拡張属性	重大度	SEVERITY	Error
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/MO
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	サービスを制御するプロセス名 ("jmotspmd" または "jmodspmd")
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	SERVICE
	登録名	ROOT_OBJECT_NAME	サービスを制御するプロセス名 ("jmotspmd" または "jmodspmd")
	事象種別	OCCURRENCE	NOTSTART

（凡例）

－：なし

(3) イベント ID：00006423 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	－	00006423
	メッセージ	MESSAGE	KNAH0002-I **サービス名** サービスを停止します。 (**サービス名**は，"JP1/IM - Message Optimizer" または "JP1/IM - Message Optimizer Define")
拡張属性	重大度	SEVERITY	Information
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/MO
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	サービスを制御するプロセス名 ("jmotspmd" または "jmodspmd")

属性種別	項目	属性名	内容
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	SERVICE
	登録名	ROOT_OBJECT_NAME	サービスを制御するプロセス名 ("jmotspmd" または "jmodspmd")
	事象種別	OCCURRENCE	STOP

(凡例)

－：なし

(4) イベント ID：00006424 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	－	00006424
	メッセージ	MESSAGE	KNAH0912-E プロセス (**子プロセス名**) が処理続行不可能なエラーで終了しました。**サービス名** サービスを停止します。(**保守情報**) (**サービス名**は, "JP1/IM - Message Optimizer" または "JP1/IM - Message Optimizer Define")
拡張属性	重大度	SEVERITY	Error
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/MO
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	サービスを制御するプロセス名 ("jmotspmd" または "jmodspmd")
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	SERVICE
	登録名	ROOT_OBJECT_NAME	サービスを制御するプロセス名 ("jmotspmd" または "jmodspmd")
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

(凡例)

－：なし

(5) イベント ID：00006430 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	－	00006430
	メッセージ	MESSAGE	KNAH2240-I 定義情報のリリース・リリース解除処理が完了しました。
拡張属性	重大度	SEVERITY	Information
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/MO
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	COMMAND
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	jmorelease

属性種別	項目	属性名	内容
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	COMMAND
	登録名	ROOT_OBJECT_NAME	jmorelease
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

（凡例）
－：なし

(6) イベント ID：00006450 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	－	00006450
	メッセージ	MESSAGE	KNAH0547-E JP1/IM - Manager(ホスト名 : **ホスト名**) のデータベースに接続できなかったため，待ち合わせを行います。(**保守情報** 1, **保守情報** 2)
拡張属性	重大度	SEVERITY	Error
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/MO
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	jmotagent (メッセージ変換処理プロセス名)
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	SERVICE
	登録名	ROOT_OBJECT_NAME	jmotagent (メッセージ変換処理プロセス名)
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE
	API 返却コード	API_RETURN	JP1IMDB-API からの返却コード

（凡例）
－：なし

(7) イベント ID：00006451 の詳細

属性種別	項目	属性名	内容
基本属性	イベント ID	－	00006451
	メッセージ	MESSAGE	KNAH0548-I JP1/IM - Manager(ホスト名 : **ホスト名**) のデータベースとの接続に成功しました。待ち合わせを終了します。
拡張属性	重大度	SEVERITY	Information
	プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IM/MO
	オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SERVICE
	オブジェクト名	OBJECT_NAME	jmotagent (メッセージ変換処理プロセス名)

属性種別	項目	属性名	内容
	登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	SERVICE
	登録名	ROOT_OBJECT_NAME	jmotagent （メッセージ変換処理プロセス名）
	事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

（凡例）

－：なし

16 メッセージ

この章では，JP1/IM - MO が出力するメッセージ ID の付いたメッセージについて説明します。

16.1 メッセージの出力先一覧

16.2 メッセージの形式

16.3 Windows イベントログの一覧

16.4 メッセージ一覧

16.1　メッセージの出力先一覧

ここでは，JP1/IM - MO が出力する各メッセージの出力先を一覧で示します。

16.1.1　JP1/IM - MO が出力するメッセージ（KNAH0000 ～ KNAH2999）の出力先

JP1/IM - MO が出力するメッセージの出力先を次の表に示します。表中では，出力先を凡例のように表記しています。

（凡例）

操作ログ：操作ログファイル
製品ログ：JP1/IM - MO ログファイル
統合ログ：統合トレースログ
イベントログ：Windows イベントログ
stdout：標準出力
stderr：標準エラー出力
JP1：JP1 イベント
○：出力する
－：出力しない

表 16-1　JP1/IM - MO が出力するメッセージの出力先一覧

メッセージ ID	出力先						
	操作ログ	製品ログ	統合ログ	イベントログ	stdout	stderr	JP1
KNAH0001	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0002	○	○	○	○	－	－	○
KNAH0008 ～ KNAH0009	○	○	○	○	－	－	○
KNAH0010 ～ KNAH0012	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0016	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0100 ～ KNAH0101	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0115 ～ KNAH0117	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0119 ～ KNAH0121	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0200	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0203 ～ KNAH0204	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0205	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0206 ～ KNAH0207	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0402	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0404	－	○	○	○	－	－	－

メッセージ ID	出力先						
	操作ログ	製品ログ	統合ログ	イベントログ	stdout	stderr	JP1
KNAH0405 ～ KNAH0409	○	○	－	－	－	－	－
KNAH0501 ～ KNAH0502	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0505 ～ KNAH0506	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0509 ～ KNAH0510	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0511 ～ KNAH0513	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0515 ～ KNAH0517	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0519 ～ KNAH0520	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0522 ～ KNAH0525	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0526	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0527	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0529 ～ KNAH0530	－	○	－	○	－	－	－
KNAH0531	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0532	－	○	－	○	－	－	－
KNAH0536 ～ KNAH0538	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0541 ～ KNAH0544	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0545	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0546	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0547 ～ KNAH0548	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0550 ～ KNAH0551	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0556 ～ KNAH0562	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0602	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0603	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0612	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0614	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0616 ～ KNAH0617	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0618	－	○	－	○	－	－	－
KNAH0619 ～ KNAH0624	－	○	－	－	－	－	－

メッセージ ID	出力先						
	操作ログ	製品ログ	統合ログ	イベントログ	stdout	stderr	JP1
KNAH0626 ～ KNAH0627	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0628 ～ KNAH0630	－	○	－	－	－	－	－
KNAH0640 ～ KNAH0641	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0800 ～ KNAH0803	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0810	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0900 ～ KNAH0904	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0906	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0911	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0912	－	○	○	○	－	－	○
KNAH0913	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0915 ～ KNAH0917	－	○	○	○	－	－	－
KNAH0996 ～ KNAH0998	－	－	－	○	－	－	－
KNAH2000 ～ KNAH2001	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2002	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2003 ～ KNAH2004	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2005	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2009	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2010	○	○	－	－	○	－	－
KNAH2011	○	○	－	－	－	○	－
KNAH2012	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2013	○	○	－	－	○	－	－
KNAH2014	○	○	－	－	－	○	－
KNAH2015 ～ KNAH2016	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2017	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2018	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2019	○	○	－	－	○	－	－
KNAH2020	○	○	－	－	－	○	－
KNAH2021	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2022	○	○	－	－	○	－	－
KNAH2023	○	○	－	－	－	○	－
KNAH2024	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2025	○	○	－	－	○	－	－

メッセージ ID	出力先						
	操作ログ	製品ログ	統合ログ	イベントログ	stdout	stderr	JP1
KNAH2026	○	○	－	－	－	○	－
KNAH2027	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2028	○	○	－	－	○	－	－
KNAH2029	○	○	－	－	－	○	－
KNAH2030	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2031	○	○	－	－	○	－	－
KNAH2032	○	○	－	－	－	○	－
KNAH2033	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2034	○	○	－	－	○	－	－
KNAH2035	○	○	－	－	－	○	－
KNAH2100 ～ KNAH2101	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2102	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2103	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2104 ～ KNAH2107	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2108	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2120	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2200 ～ KNAH2209	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2210 ～ KNAH2219	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2220 ～ KNAH2224	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2232 ～ KNAH2234	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2240	－	○	－	－	－	－	○
KNAH2310 ～ KNAH2312	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2500 ～ KNAH2502	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2510 ～ KNAH2522	－	－	－	－	－	○	－
KNAH2600	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2601 ～ KNAH2602	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2603	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2604	－	－	－	－	○	－	－
KNAH2605	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2606	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2607 ～ KNAH2608	－	○	－	－	○	－	－

メッセージ ID	出力先						
	操作ログ	製品ログ	統合ログ	イベントログ	stdout	stderr	JP1
KNAH2609	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2610 ～ KNAH2611	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2620	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2621 ～ KNAH2622	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2623 ～ KNAH2624	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2625 ～ KNAH2627	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2630 ～ KNAH2632	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2634 ～ KNAH2636	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2637	－	－	－	－	○	－	－
KNAH2638 ～ KNAH2645	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2646 ～ KNAH2647	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2648	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2649	－	－	－	－	○	－	－
KNAH2701 ～ KNAH2702	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2710	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2712 ～ KNAH2714	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2715	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2718 ～ KNAH2719	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2720 ～ KNAH2721	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2722 ～ KNAH2723	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2724 ～ KNAH2726	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2727	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2728 ～ KNAH2729	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2730 ～ KNAH2732	－	－	－	－	○	－	－
KNAH2733	－	○	－	－	○	－	－
KNAH2734	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2735 ～ KNAH2737	－	－	－	－	○	－	－

メッセージ ID	出力先						
	操作ログ	製品ログ	統合ログ	イベントログ	stdout	stderr	JP1
KNAH2738	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2739	－	－	－	－	○	－	－
KNAH2740 ～ KNAH2744	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2745	－	－	－	－	○	－	－
KNAH2746 ～ KNAH2747	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2790	－	○	－	－	－	○	－
KNAH2900 ～ KNAH2903	－	○	－	－	－	○	－

16.1.2　JP1/IM - MO Assistant が出力するメッセージ（KNAH4000 ～ KNAH4999）の出力先

JP1/IM - MO Assistant が出力するメッセージは，メッセージダイアログに出力されます。

16.2　メッセージの形式

16.2.1　メッセージの出力形式

メッセージは，メッセージ ID と，それに続くメッセージテキストで構成されています。出力されるメッセージの形式を次に示します。

KNAH*nnnn*-*Z*メッセージテキスト

メッセージ ID は，次の内容を示しています。

K
　システム識別子を示します。

NAH
　JP1/IM - MO のメッセージであることを示します。

nnnn
　メッセージの通し番号です。

Z
　メッセージの種類を表します。
　E：エラーメッセージを示します。処理は中断されます。
　W：警告メッセージを示します。メッセージ出力後，処理は続行されます。
　I：通知メッセージを示します。ユーザーに情報を知らせます。
　Q：問い合わせメッセージを示します。ユーザーに実行の選択を促します。

16.2.2　メッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を示します。メッセージテキストで斜体になっている部分は，メッセージが表示される状況によって表示内容が変わることを示しています。また，メッセージをメッセージ ID 順に記載しています。記載形式の例を次に示します。

メッセージ ID

英語メッセージテキスト

日本語メッセージテキスト
　メッセージの説明文

（S）
　システムの処置を示します。

（O）
　メッセージが表示されたときに，オペレーターがとる処置を示します。

16.2.3　システム管理者の方へ

運用中にトラブルが発生した場合には，「17.　トラブルシューティング」を参照してログ情報を採取し，初期調査をしてください。

トラブル要因の初期調査をする場合は，Windows イベントログ情報や，JP1/IM - MO が出力する各種ログ情報を参照してください。これらのログ情報でトラブル発生時間帯の内容を参照して，トラブルを回避

したり，トラブルに対処したりしてください。

また，トラブルが発生するまでの操作方法などを記録してください。同時に，できるだけ再現性の有無を確認するようにしてください。

16.3　Windows イベントログの一覧

JP1/IM - MO が出力する Windows イベントログの一覧を次に示します。

表 16-2　Windows イベントログ一覧

メッセージ ID	Windows イベントログ	
	種類	イベント ID
KNAH0001-I	情報	1
KNAH0002-I	情報	2
KNAH0008-I	情報	8
KNAH0009-E	エラー	9
KNAH0016-I	情報	16
KNAH0200-E	エラー	200
KNAH0203-E	エラー	203
KNAH0204-E	エラー	204
KNAH0206-E	エラー	206
KNAH0207-E	エラー	207
KNAH0402-E	エラー	402
KNAH0404-E	エラー	404
KNAH0501-E	エラー	501
KNAH0502-E	エラー	502
KNAH0505-E	エラー	505
KNAH0506-E	エラー	506
KNAH0511-E	エラー	511
KNAH0512-E	エラー	512
KNAH0513-E	エラー	513
KNAH0526-E	エラー	526
KNAH0529-I	情報	529
KNAH0530-I	情報	530
KNAH0531-E	エラー	531
KNAH0532-I	情報	532
KNAH0541-E	エラー	541
KNAH0542-E	エラー	542
KNAH0543-I	情報	543
KNAH0544-E	エラー	544
KNAH0546-E	エラー	546
KNAH0547-E	エラー	547
KNAH0548-I	情報	548
KNAH0550-E	エラー	550
KNAH0551-E	エラー	551
KNAH0602-E	エラー	602

メッセージ ID	Windows イベントログ	
	種類	イベント ID
KNAH0612-E	エラー	612
KNAH0614-E	エラー	614
KNAH0616-E	エラー	616
KNAH0617-E	エラー	617
KNAH0618-I	情報	618
KNAH0640-E	エラー	640
KNAH0641-E	エラー	641
KNAH0800-E	エラー	800
KNAH0801-E	エラー	801
KNAH0802-E	エラー	802
KNAH0803-E	エラー	803
KNAH0810-E	エラー	810
KNAH0900-E	エラー	900
KNAH0901-E	エラー	901
KNAH0902-E	エラー	902
KNAH0903-E	エラー	903
KNAH0904-E	エラー	904
KNAH0906-E	エラー	906
KNAH0911-E	エラー	911
KNAH0912-E	エラー	912
KNAH0913-E	エラー	913
KNAH0915-E	エラー	915
KNAH0916-E	エラー	916
KNAH0917-E	エラー	917
KNAH0996-E	エラー	996
KNAH0997-E	エラー	997
KNAH0998-E	エラー	998

16.4 メッセージ一覧

JP1/IM - MO が出力するメッセージの一覧を次に示します。

16.4.1 JP1/IM - MO が出力するメッセージ（KNAH0000 ～ KNAH2999）

KNAH0001-I

***サービス名*サービスを起動します。**

サービスを起動します。*サービス名*は JP1/IM - Message Optimizer または JP1/IM - Message Optimizer Assistant です。

(S)

処理を続行します。

KNAH0002-I

***サービス名*サービスを停止します。**

サービスを停止します。*サービス名*は JP1/IM - Message Optimizer または JP1/IM - Message Optimizer Assistant です。

(S)

サービスを停止します。

KNAH0008-I

***サービス名*サービスを起動しました。**

サービスを構成するすべてのプロセスの起動が完了しました。*サービス名*は JP1/IM - Message Optimizer または JP1/IM - Message Optimizer Assistant です。

(S)

処理を続行します。

KNAH0009-E

***サービス名*サービスの起動に失敗しました。**

サービスの起動に失敗しました。*サービス名*は JP1/IM - Message Optimizer または JP1/IM - Message Optimizer Assistant です。

(S)

処理を終了します。

(O)

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージを確認し，対処してください。

KNAH0010-I

親プロセスからの停止要求を受信しました。プロセスを停止します。

親プロセスからの停止要求を受信しました。

(S)

子プロセスおよび自プロセスを停止します。

KNAH0011-I

プロセス *プロセス名* を起動します。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

プロセスを起動します。

（S）

処理を続行します。

KNAH0012-I

プロセス *プロセス名* を停止します。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

プロセスを停止します。

（S）

プロセスを終了します。

KNAH0016-I

プロセス（*子プロセス名*）の再起動に成功しました。

プロセスの再起動に成功しました。

（S）

処理を続行します。

KNAH0100-W

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）の取得に失敗しました。デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して動作します。

環境設定パラメーターの読み込みに失敗しました。

（S）

デフォルト値を使用して処理を続行します。

（O）

該当する数値型のパラメーターが設定されていないおそれがあります。
「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照して，環境設定パラメーターを正しく設定してください。

KNAH0101-W

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）に誤った指定（*パラメーターに指定した値*）があります。デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して動作します。

環境設定パラメーターに誤った指定があります。

（S）

デフォルト値を使用して処理を続行します。

（O）

該当する数値型のパラメーターに有効範囲外の値が設定されているおそれがあります。「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照して，環境設定パラメーターを有効範囲内で正しく設定してください。

KNAH0115-W

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）に指定された文字列が長すぎます。デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して動作します。

文字列型の環境設定パラメーターに指定した文字列が長過ぎます。

（S）

デフォルト値を使用して処理を続行します。

（O）

該当するパラメーターに指定した文字列が長過ぎます。「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照して，環境設定パラメーターを有効な長さで正しく設定してください。

KNAH0116-W

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）に誤った指定（*パラメーターに指定した値*）があります。デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して動作します。

環境設定パラメーターに誤った指定があります。

（S）

デフォルト値を使用して処理を続行します。

（O）

該当するパラメーターにパラメーターとして無効な値が設定されています。「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照して，環境設定パラメーターを正しく設定してください。

KNAH0117-W

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）の取得に失敗しました。デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して動作します。

環境設定パラメーターの読み込みに失敗しました。

（S）

デフォルト値を使用して処理を続行します。

（O）

該当するパラメーターが設定されていないおそれがあります。「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照して，環境設定パラメーターを正しく設定してください。

KNAH0119-W

取得したサービス（*サービス名*）の通信待ち受け用ポート番号が OS が予約している番号（5000 以内）であるため，デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して動作します。

取得したサービス（*サービス名*）の TCP/IP 通信のポート番号は，OS が予約している番号（5000 以内）です。このため，デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して処理を続行します。

（S）

デフォルト値を使用して処理を続行します。

（O）

services ファイルで，サービス名に設定されているポート番号を確認してください。

KNAH0120-W

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）の型が dword 型ではありません。デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して動作します。

環境設定パラメーターの型が dword 型ではありません。

（S）

デフォルト値を使用して処理を続行します。

（O）

該当するパラメーターの設定が誤っています。「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照して，環境設定パラメーターを正しく設定してください。

KNAH0121-W

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）の型が string 型ではありません。デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して動作します。

環境設定パラメーターの型が string 型ではありません。

（S）

デフォルト値を使用して処理を続行します。

（O）

該当するパラメーターの設定が誤っています。「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照して，環境設定パラメーターを正しく設定してください。

KNAH0200-E

起動方法が不正なため，プロセス（*プロセス名*）を終了します。正しい手順で JP1/IM - Message Optimizer サービスを起動してください。

コマンドプロンプトから実行ファイルを起動するなど，正しくない方法でプロセスの起動を試みています。

（S）

プロセスを終了します。

（O）

「6.2　JP1/IM - MO の起動と終了」を参照して，正しい方法で JP1/IM - Message Optimizer サービスまたは JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスを起動してください。

KNAH0203-E

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）の取得に失敗しました。プロセス（*プロセス名*）を終了します。

設定が必須の環境設定パラメーターの読み込みに失敗しました。

（S）

プロセスを終了します。

（O）

設定が必須のパラメーター（*パラメーター名*）が設定されていないおそれがあります。「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照して，環境設定パラメーターを正しく設定したあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを起動してください。

KNAH0204-E

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）に指定された文字列が長すぎます。プロセス（*プロセス名*）を終了します。

設定が必須の string 型の環境設定パラメーターに指定した文字列が長過ぎます。

（S）

プロセスを終了します。

（O）

設定が必須の環境設定パラメーターに長過ぎる文字列が設定されています。「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照して，環境設定パラメーターを有効な長さで正しく設定してください。

KNAH0205-E

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）の設定に失敗しました。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

環境設定パラメーターの設定に失敗しました。

（S）

環境設定パラメーターの設定処理を終了します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0206-E

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）に指定された元号データに誤りがあります。

環境設定パラメーターに設定している元号データに誤りがあります。

（S）

プロセスを終了します。

（O）

該当するパラメーターについて，次の点を確認してください。

- 元号データの書式が正しいか。
- 元号データの開始年月日が和暦変換の対応範囲内か。
  元号データの開始年月日が 1873/01/01 以降である必要があります。
- 元号データ中の開始年月日が正しいか。
- 元号データの順序性に誤りがないか
  古い順に，次のようになっている必要があります。
  1. ERA_DATA_M
  2. ERA_DATA_T
  3. ERA_DATA_S
  4. ERA_DATA_H
  5. ERA_DATA_*n*（*n*：1 ～ 10）

該当するパラメーターを正しく設定したあと，開始しようとしたサービスを再度開始してください。

KNAH0207-E

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）の型が string 型ではありません。プロセス（*プロセス名*）を終了します。

環境設定パラメーターの型が string 型ではありません。

（S）

プロセスを終了します。

（O）

該当するパラメーターの設定が誤っています。「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照して，環境設定パラメーターを正しく設定してください。

KNAH0402-E

JP1/IM - Message Optimizer Assistant からの通信待ち受け用ポート番号の取得に失敗しました。デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して動作します。

services ファイルからのポート番号の読み込みに失敗しました。

（S）

デフォルト値を使用して処理を続行します。

（O）

services ファイルに JP1/IM - MO 用のポート番号が記述されていることを確認してください。

KNAH0404-E

JP1/IM - Message Optimizer Assistant **からの通信待ち受け用ポートのオープンに失敗しました。ポート番号（*ポート番号*）が既に使用されていない事を確認してください。**

JP1/IM - MO Assistant からの通信待ち受け用ポートのオープンに失敗しました。

（S）

プロセスを終了します。

（O）

services ファイルで指定したポートが，ほかのプロセスで使用されていないか確認してください。ほかのプロセスで使用していないポートを services ファイルで指定して，JP1/IM - Message Optimizer サービスを起動してください。

KNAH0405-I

JP1/IM - Message Optimizer Assistant **からのログインに成功しました。（*IP アドレス*，*JP1 ユーザー名*）**

表示した IP アドレスの機器で起動した JP1/IM - MO Assistant からのログインに成功しました。

（S）

JP1/IM - MO Assistant との通信を開始します。

KNAH0406-I

JP1/IM - Message Optimizer Assistant **がログアウトしました。（*IP アドレス*，*JP1 ユーザー名*）**

表示した IP アドレスの機器で起動した JP1/IM - MO Assistant がログアウトしました。

（S）

JP1/IM - MO Assistant との通信を終了します。

KNAH0407-E

JP1/IM - Message Optimizer Assistant **からのログインに失敗しました。（*IP アドレス*，*JP1 ユーザー名*）**

表示した IP アドレスの機器で起動した JP1/IM - MO Assistant からのログインに失敗しました。

（S）

JP1/IM - MO Assistant との通信を終了します。

KNAH0408-W

JP1/IM - Message Optimizer Assistant **からの要求待ちがタイムアウトしたためログアウトしました。（*IP アドレス*，*JP1 ユーザー名*）**

接続済みの JP1/IM - MO Assistant から一定時間通信がなかったため，ログアウトして接続を切断しました。

（S）

JP1/IM - MO Assistant との通信を終了します。

（O）

JP1/IM - MO Assistant で引き続き変換定義をする場合は，JP1/IM - MO Assistant をいったん終了したあと再実行し，［ログイン］画面から再度ログインしてください。

KNAH0409-E

JP1/IM - Message Optimizer（*バージョン値*）は，JP1/IM - Message Optimizer Assistant（*バージョン値*）からの要求を処理できません。

サポートしていないバージョンの JP1/IM - MO Assistant から要求を受信したため，通信を切断しました。

（S）

JP1/IM - MO Assistant との通信を終了します。

（O）

JP1/IM - MO Assistant のバージョンを確認し，サポートしているバージョンの JP1/IM - MO Assistant で再接続してください。

KNAH0501-E

JP1/Base のイベントサービスへの接続でエラーが発生しました。プロセス（jmotagent）を終了します。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

JP1/Base イベントサービスへの接続でエラーが発生しました。

（S）

メッセージ変換プロセス（jmotagent）を停止します。そのあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止します。

（O）

JP1/Base イベントサービスが開始状態であるか確認したあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを再起動してください。

再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0502-E

JP1/Base のイベントサービスへの接続でエラーが発生しました。プロセス（jmotagent）を終了します。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

JP1/Base イベントサービスへの接続でエラーが発生しました。

（S）

メッセージ変換プロセス（jmotagent）を停止します。そのあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止します。

（O）

保守情報に出力されている数値が「25」の場合

接続の際に権限エラーが発生しています。JP1/Base のイベントサーバ設定ファイル（conf ファイル）の users パラメーターで指定されているイベント取得可能ユーザーに，JP1/IM - Message Optimizer サービスのログオンアカウント（デフォルトでは SYSTEM）が含まれることを確認してください。JP1/Base のイベントサーバ設定ファイルの詳細については，マニュアル「JP1/Base　運用ガイド」を参照してください。

保守情報に出力されている数値が「25」以外の場合

JP1/Base イベントサービスでエラーが発生していないか確認してください。JP1/Base イベントサービスでエラーが発生していた場合，JP1/Base のマニュアルに従って対処してから，JP1/IM - Message Optimizer サービスを再起動してください。

再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情

報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0505-E

JP1/IM - Manager のデータベースからのイベント取得に失敗しました。JP1/IM - Manager のデータベースへの接続からリトライします。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

JP1/IM - Manager のデータベースからのイベント取得に失敗しました。

（S）

JP1/IM - Manager のデータベースへの接続からリトライします。

KNAH0506-E

JP1/IM - Manager のデータベースからのイベント取得に失敗しました。プロセス（jmotagent）を終了します。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

JP1/IM - Manager のデータベースからのイベント取得に失敗しました。

（S）

メッセージ変換プロセス（jmotagent）を停止します。そのあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止します。

（O）

環境設定パラメーター（IM_HOST）に指定されたホスト上で，JP1/IM - Manager のサービスが起動しているかどうかを確認したあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを再起動してください。
再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0509-E

変換フォーマット定義の取得でエラーが発生しました。メッセージ変換を行なわずにイベントを登録します。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*保守情報 4*）

変換フォーマット定義の取得処理中にエラーが発生しました。

（S）

メッセージ変換しないで，取得イベントのメッセージを使用して JP1 イベントを登録し，処理を続行します。ただし，イベント変換エラーとなったイベントの発行を抑止するように指定している場合は，イベントを登録しないで処理を続行します。

（O）

JP1/IM - MO ログにデータベースアクセスに関する jmotdbacd のエラーメッセージが出力されていないか確認してください。エラーメッセージが出力されている場合は，メッセージを基に対処してください。
JP1/IM - MO ログにデータベースアクセスに関する jmotdbacd のエラーメッセージが出力されていない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0510-E

変換メッセージ定義の取得でエラーが発生しました。フォーマット変換のみ実施してイベントを登録します。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*保守情報 4*）

変換メッセージ定義の取得処理中にエラーが発生しました。

（S）

フォーマット変換だけ実施して JP1 イベントを登録し，処理を続行します。ただし，イベント変換エラーとなったイベントの発行を抑止するように指定している場合は，イベントを登録しないで処理を続行します。

（O）

JP1/IM - MO ログにデータベースアクセスに関する jmotdbacd のエラーメッセージが出力されていないか確認してください。エラーメッセージが出力されている場合は，メッセージを基に対処してください。

JP1/IM - MO ログにデータベースアクセスに関する jmotdbacd のエラーメッセージが出力されていない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0511-E

JP1/Base のイベントサービス（*イベントサーバ名*）への接続に失敗しました。接続をリトライします。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

JP1/Base イベントサービスへの接続に失敗しました。

（S）

接続処理をリトライします。

KNAH0512-E

JP1/IM - Manager のデータベースからのイベント取得に失敗しました。イベント取得をリトライします。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

JP1/IM - Manager のデータベースからのイベント取得に失敗しました。

（S）

イベント取得処理をリトライします。

KNAH0513-E

JP1/Base のイベントデータベースへのイベント登録に失敗しました。イベント登録をリトライします。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

JP1/Base イベントデータベースへのイベント登録に失敗しました。

（S）

イベント登録をリトライします。

KNAH0515-I

イベントソース，変換メッセージ群，または適用先システムが定義されていません。（*イベント ID*，*イベント DB 内通し番号*，*プロダクト名*，*オブジェクト名*）

JP1 イベントに対するイベントソース，変換メッセージ群，または適用先システムが定義されていません。

（S）

メッセージ変換しないで，取得イベントのメッセージを使用して JP1 イベントを登録し，処理を続行します。ただし，未定義イベントの発行を抑止するように指定している場合は，イベントを登録しないで処理を続行します。

（O）

該当するイベントに対してフォーマット変換したい場合は，イベントソース，変換メッセージ群，および適用先システムを定義してください。

イベントソース学習機能を利用すると，イベントソースが未定義の JP1 イベントを自動的に収集し，イベントソース定義を自動生成できます。学習できない JP1 イベントに対するイベントソースを定義したい場合には，手動で定義することもできます。

KNAH0516-I

メッセージ変換処理が完了しました。（*イベント ID，イベント DB 内通し番号，適用先システム名，イベントソース名，変換メッセージ群名，変換フォーマット名，メッセージ識別子の値，追加メッセージ識別子の値*）

JP1 イベントに対するメッセージ変換処理が完了しました。

（S）

処理を続行します。

KNAH0517-I

変換メッセージ定義でメッセージ抑止が指定されているためイベント登録を抑止します。（*イベント ID，イベント DB 内通し番号，適用先システム名，イベントソース名，変換メッセージ群名，変換フォーマット名，メッセージ識別子の値，追加メッセージ識別子の値*）

JP1 イベントは，変換メッセージ定義によってメッセージ抑止が設定されているため，JP1 イベントの登録を抑止しました。

（S）

処理を続行します。

KNAH0519-I

メッセージ変換対象外のイベントのため，メッセージ変換を行なわずにイベントを登録します。（*イベント ID，イベント DB 内通し番号*）

発生した JP1 イベントは，メッセージ変換対象外の JP1 イベントです。

（S）

メッセージ変換しないで，取得イベントのメッセージを使用して JP1 イベントを登録し，処理を続行します。ただし，未定義イベントの発行を抑止するように指定している場合は，イベントを登録しないで処理を続行します。

KNAH0520-I

変換メッセージ定義が定義されていません。（*適用先システム名，イベントソース名，変換メッセージ群名，変換フォーマット名，メッセージ識別子の値，追加メッセージ識別子の値*）

発生した JP1 イベントに該当する変換メッセージ定義が定義されていません。

（S）

フォーマット変換だけ実施して JP1 イベントを登録します。

（O）

発生したイベントに対する変換メッセージ定義を定義している場合でもこのメッセージが出力されるときは，メッセージ識別子が正しいか確認してください。
発生したイベントに対する変換メッセージ定義が未定義の場合，またはメッセージテキスト変換をしたい場合は，変換メッセージ定義を定義してください。

KNAH0522-W

変換後のメッセージが最大長を超えたため，メッセージ変換を行なわずにイベントを登録します。（*イベント ID，イベント DB 内通し番号，適用先システム名，イベントソース名，変換メッセージ群名，変換フォーマット名*）

メッセージ変換後のメッセージ長が JP1 イベントのメッセージ属性の最大長を超えました。

(S)

変換前のメッセージを使用して JP1 イベントを登録し，処理を続行します。ただし，イベント変換エラーとなったイベントの発行を抑止するように指定している場合は，イベントを登録しないで処理を続行します。

(O)

変換フォーマット定義の定義内容を確認してください。

KNAH0523-W

フィールドの形式が正しくないため，フィールド分割に失敗しました。(*イベント ID，イベント DB 内通し番号，適用先システム名，イベントソース名，変換メッセージ群名，フィールド種別*)

基本フォーマット定義で指定されたフィールド種別と実際のフィールドの形式が異なっています。

(S)

フォーマット変換処理をしないでイベントを登録し，処理を続行します。ただし，イベント変換エラーとなったイベントの発行を抑止するように指定している場合は，イベントを登録しないで処理を続行します。

(O)

基本フォーマット定義では，該当するフィールドの種別および形式の指定を確認してください。
*フィールド種別*に出力される数値とフィールドの種別・形式の対応を次に示します。

項番	数値	種別	形式
1	2001	日時	YYYY/MM/DD hh:mm:ss
2	2002		YYYY-MM-DD hh:mm:ss
3	2003		1970/01/01 からの経過秒数
4	3001	日付	YYYY/MM/DD
5	3002		YYYY-MM-DD
6	3003		YY/MM/DD
7	3004		DD/MMM/YYYY
8	4001	時刻	hh:mm:ss
9	4002		hh:mm:ss.sss
10	4003		hh:mm:ss.s
11	5001	曜日	DDD
12	5002		X
13	6001	年	YYYY
14	6002		YY
15	7001	月	MM
16	7002		MMM
17	8001	日	DD
18	9001	時	hh
19	10001	分	mm
20	11001	秒	ss
21	11002		ss.sss
22	11003		ss.s

KNAH0524-W

基本フォーマットの区切り情報定義に誤りがあります。（*イベント ID，イベント DB 内通し番号，適用先システム名，イベントソース名，変換メッセージ群名*）

基本フォーマットで指定されている区切り情報定義（先頭区切り，または後区切り）に誤りがあるため，定義どおりにフィールド分割できませんでした。

（S）

メッセージ変換しないで JP1 イベントを登録し，処理を続行します。ただし，イベント変換エラーとなったイベントの発行を抑止するように指定している場合は，イベントを登録しないで処理を続行します。

（O）

基本フォーマット定義のフィールド区切り情報（先頭区切りおよび後区切り）の定義内容を確認してください。

KNAH0525-W

変換メッセージ定義の変換前メッセージテキスト内の埋め字の指定に誤りがあります。メッセージテキストの変換は行なわずにイベントを登録します。（*イベント ID，イベント DB 内通し番号，適用先システム名，イベントソース名，変換メッセージ群名，変換フォーマット名，メッセージ識別子の値，追加メッセージ識別子の値*）

変換メッセージ定義の，変換前メッセージテキスト内の埋め字情報の定義に誤りがあります。

（S）

メッセージテキスト変換処理をしないで JP1 イベントを登録し，処理を続行します。ただし，イベント変換エラーとなったイベントの発行を抑止するように指定している場合は，イベントを登録しないで処理を続行します。

（O）

該当する変換メッセージ定義の，変換前メッセージテキスト内の埋め字の定義内容を確認してください。

KNAH0526-E

メッセージ変換処理で論理矛盾が発生しました。（*保守情報 1，保守情報 2，保守情報 3，保守情報 4*）

メッセージ変換処理でエラーが発生しました。

（S）

実行中の変換処理を中断します。フォーマット変換処理中にエラーが発生した場合は，メッセージ変換しないでイベントを登録し，処理を続行します。
変換メッセージ定義によって変換処理中にエラーが発生した場合は，フォーマット変換だけ実施してイベントを登録し，処理を続行します。ただし，イベント変換エラーとなったイベントの発行を抑止するように指定している場合は，イベントを登録しないで処理を続行します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0527-W

変換後のメッセージが最大長を超えたため，メッセージテキストの変換を行なわずにイベントを登録します。（*イベント ID，イベント DB 内通し番号，適用先システム名，イベントソース名，変換メッセージ群名，変換フォーマット名，メッセージ識別子の値，追加メッセージ識別子の値*）

メッセージテキスト変換後のメッセージの長さが最大長を超えました。

（S）

メッセージテキスト変換処理をしないで，フォーマット変換後の形式で JP1 イベントを登録し，処理を続行します。ただし，イベント変換エラーとなったイベントの発行を抑止するように指定している場合は，イベントを登録しないで処理を続行します。

（O）

変換後のメッセージ長が 1,023 バイト以下になるように，変換メッセージ定義の変換後メッセージテキストの定義を修正してください。

KNAH0529-I

JP1/IM - Manager のデータベースからのイベント取得のリトライに成功しました。

JP1/IM - Manager のデータベースからのイベント取得のリトライに成功しました。

（S）

処理を続行します。

KNAH0530-I

JP1/Base のイベントサービスへの接続のリトライに成功しました。

JP1/Base イベントサービスへの接続のリトライに成功しました。

（S）

処理を続行します。

KNAH0531-E

JP1/Base のイベントデータベースへのイベント登録に失敗しました。プロセス（jmotagent）を終了します。（*保守情報 1，保守情報 2*）

JP1/Base イベントデータベースへのイベント登録に失敗しました。

（S）

プロセス（jmotagent）を終了します。そのあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止します。

（O）

JP1/Base イベントサービスが開始状態であるか確認したあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを再起動してください。
再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0532-I

JP1/Base のイベントデータベースへのイベント登録のリトライに成功しました。

JP1/Base イベントデータベースへのイベント登録のリトライに成功しました。

（S）

処理を続行します。

KNAH0536-I

発行元定義でメッセージ抑止が指定されているためイベント登録を抑止します。（*イベント ID，イベント DB 内通し番号，適用先システム名，発行元情報*）

発生したJP1イベントは発行元定義によってメッセージ抑止が設定されているため，JP1イベントの登録を抑止しました。発行元情報には，JP1イベントの種別がSNMPトラップの場合は拡張属性（固有情報）のSNMPトラップ発生ソース（SNMP_SOURCE）の値，それ以外の種別のJP1イベントの場合は基本属性の発行元イベントサーバ名の値が出力されます。

（S）

処理を続行します。

KNAH0537-W

和暦変換対象外の日付であるため，変換できません。メッセージ変換を行なわずにイベントを登録します。（*イベントID，イベントDB内通し番号，適用先システム名，変換フォーマット名，変換メッセージ群名*）

変換フォーマット定義で和暦が指定されていますが，変換前の日付が和暦変換の対象外（1872/12/31以前）であるため，和暦に変換できません。メッセージ変換しないでイベントを登録します。

（S）

メッセージ変換しないで，取得イベントのメッセージを使用してJP1イベントを登録し，処理を続行します。ただし，イベント変換エラーとなったイベントの発行を抑止するように指定している場合は，イベントを登録しないで処理を続行します。

KNAH0538-W

変換前の日付が不正のため，和暦に変換できませんでした。

基本フォーマットで日付系フィールド（日時/日付/年/月/日）として定義されたフィールドに該当する部分の値が不正のため，和暦に変換できませんでした。

（S）

メッセージ変換しないで，取得イベントのメッセージを使用してJP1イベントを登録し，処理を続行します。ただし，イベント変換エラーとなったイベントの発行を抑止するように指定している場合は，イベントを登録しないで処理を続行します。

（O）

基本フォーマット定義で日付系フィールド（日時/日付/年/月/日）の指定に誤りがないか確認してください。

KNAH0541-E

接続先イベントサーバ（*イベントサーバ名*）に接続できません。

環境設定パラメーター（EVTSVR）に指定したイベントサーバがJP1/IM - Message Optimizerサービスが稼働するマシン上で起動されていないため，接続できません。

（S）

プロセス（jmotagent）を終了したあと，JP1/IM - Message Optimizerサービスを停止します。

（O）

次のことを確認後，JP1/IM - Message Optimizerサービスを再起動してください。

- 環境設定パラメーター（EVTSVR）に指定したイベントサーバ名が正しいか（リモートホストのイベントサーバを指定していないか）。
- 環境設定パラメーター（EVTSVR）に指定したイベントサーバに対応するイベントサービスが開始されているか。

再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MOがインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行してJP1/IM - MOの障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0542-E

JP1/IM - Manager が稼動するホストのイベントサーバへのイベント登録に失敗しました。イベント登録をリトライします。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

JP1/IM - Manager が稼働するホストのイベントサーバへのイベント登録に失敗しました。

（S）

イベント登録をリトライします。

KNAH0543-I

JP1/IM - Manager が稼動するホストのイベントサーバへのイベント登録のリトライに成功しました。

JP1/IM - Manager が稼働するホストのイベントサーバへのイベント登録のリトライに成功しました。

（S）

処理を続行します。

KNAH0544-E

JP1/IM - Manager が稼動するホストのイベントサーバへのイベント登録に失敗しました。プロセス（jmoagent）を終了します。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

JP1/IM - Manager が稼働するホストのイベントサーバへのイベント登録に失敗しました。

（S）

プロセス（jmotagent）を終了します。そのあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止します。

（O）

次のことを確認後，JP1/IM - Message Optimizer サービスを再起動してください。

- 環境設定パラメーター（`IM_HOST`）に指定したホスト名が正しいか。
- 環境設定パラメーター（`IM_HOST`）に指定したホストで，JP1/Base イベントサービスが起動されているか。

再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0545-W

拡張属性の最大個数または最大サイズに達したため追加できなかった拡張属性があります。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*保守情報 4*）

JP1 イベントの拡張属性の最大個数または最大サイズに達したため，追加できなかった拡張属性があります。

（S）

拡張属性を最大個数，最大サイズに収まる範囲で追加し，JP1 イベントを登録します。

KNAH0546-E

JP1/IM - Manager のデータベースに対するアクセスでエラーが発生しました。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

JP1/IM - Manager のデータベースに対するアクセスでエラーが発生しました。

（S）

プロセス（jmotagent）を終了します。そのあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止します。

（O）

環境設定パラメーター（IM_HOST）に指定したホストの JP1/IM - Manager で障害が発生していないか確認してから，JP1/IM - Message Optimizer サービスを再起動してください。
再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0547-E

JP1/IM - Manager**（ホスト名：*ホスト名*）のデータベースに接続できなかったため，待ち合わせを行います。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）**

JP1/IM - Manager のデータベースへの接続に失敗しました。

（S）

JP1/IM - Manager のデータベースとの接続を一定間隔でリトライします。

（O）

次のことを確認してください。

- 環境設定パラメーター（IM_HOST）に指定したホスト名が正しいか。
- 環境設定パラメーター（IM_HOST）に指定したホストで，JP1/IM - Manager のサービスが起動しているか。
- 環境設定パラメーター（IM_HOST）に指定したホストで稼働する JP1/IM - Manager がデータベースを使用しない構成で構築されていないか。

これらを確認しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0548-I

JP1/IM - Manager**（ホスト名：*ホスト名*）のデータベースとの接続に成功しました。待ち合わせを終了します。**

JP1/IM - Manager のデータベースとの接続待ち合わせ中に，JP1/IM - Manager のデータベースとの接続に成功しました。

（S）

処理を続行します。

KNAH0550-E

接続先でユーザー認証処理に失敗しました。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*保守情報 4*）

JP1/Base のユーザー認証で，システムエラーが発生しました。処理を中断します。

（S）

認証処理を中断します。

（O）

JP1/Base のサービスの起動状態，および設定を確認してから，JP1/IM - Message Optimizer サービスを再起動してください。
再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0551-E

システムファイルの読み込みに失敗しました。（*ファイル名*）

システムファイルの読み込みに失敗しました。

（S）

プロセス（jmotagent）を終了します。そのあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止します。

（O）

メッセージ中の「ファイル名」に出力されたファイルがあるかどうかを確認してください。
ファイルが存在しない場合は，JP1/IM - MO の上書きインストールを実行してください。ファイルが存在する場合は，そのファイルをほかのアプリケーションで使用していないか確認してください。
上記を実行後，JP1/IM - Message Optimizer サービスを再起動してください。再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0556-W

追加メッセージ識別子に指定した属性の値が存在しないため，メッセージ識別子のみでメッセージを特定します。（*イベント ID*，*イベント DB 内通し番号*，*適用先システム名*，*イベントソース名*，*変換メッセージ群名*，*変換フォーマット名*，*メッセージ識別子の値*）

追加メッセージ識別子を空白として定義を照合します。

（S）

処理を続行します。

（O）

基本フォーマットの追加メッセージ識別子定義に誤りがないか確認してください。

KNAH0557-W

フィールドの形式が正しくないため，フィールド設定に失敗しました。（*イベント ID*，*イベント DB 内通し番号*，*適用先システム名*，*イベントソース名*，*変換メッセージ群名*，*フィールド種別*，*JP1 イベント属性名*）

基本フォーマット定義で指定されたフィールド種別と実際のフィールドの形式が異なっています。

（S）

フォーマット変換処理をしないでイベントを登録します。ただし，メッセージの発行を抑止するように指定している場合は，登録しません。

（O）

基本フォーマットのフィールド設定定義で，該当するフィールドの種別および形式の指定を確認してください。フィールド種別に出力される数値とフィールドの種別・形式の対応を次に示します。

項番	数値	種別	形式
1	2003	日時	1970/01/01 からの経過秒数

KNAH0558-W

JP1/IM - Message Optimizer Assistant でフィールド設定定義に指定した JP1 イベントの属性値が取得できませんでした。（*イベント ID*，*イベント DB 内通し番号*，*適用先システム名*，*イベントソース名*，*変換メッセージ群名*，*JP1 イベント属性名*［，*JP1 イベント属性名* ...］）

フィールドに設定した属性が JP1 イベントにありませんでした。

（S）

フィールドに空白を設定してフォーマット変換処理をし，イベントを登録します。ただし，メッセージの発行を抑止するように指定している場合は，登録しません。

（O）

基本フォーマットのフィールド設定定義に誤りがないか確認してください。

KNAH0559-W

JP1/IM - Message Optimizer Assistant でフィールド設定定義に指定した JP1 イベントの属性値がバイナリデータでした。（*イベント ID，イベント DB 内通し番号，適用先システム名，イベントソース名，変換メッセージ群名，JP1 イベント属性名* [，*JP1 イベント属性名* ...]）

フィールドに設定した属性の値がバイナリデータでした。

（S）

フィールドに空白を設定してフォーマット変換処理をし，イベントを登録します。ただし，メッセージの発行を抑止するように指定している場合は，登録しません。

（O）

基本フォーマットのフィールド設定定義に誤りがないか確認してください。

KNAH0560-I

変換未定義イベント生成抑止の設定が行われているため，イベント登録を抑止します。（*イベント ID，イベント DB 内通し番号，適用先システム名，イベントソース名，変換メッセージ群名，変換フォーマット名，メッセージ識別子*）

未定義イベント生成抑止の設定がされており，イベント変換に必要な定義がリリースされていないため，JP1 イベントの登録を抑止しました。

（S）

処理を続行します。

KNAH0561-I

変換エラーイベント生成抑止の設定が行われているため，イベント登録を抑止します。（*イベント ID，イベント DB 内通し番号，適用先システム名，イベントソース名，変換メッセージ群名，変換フォーマット名，メッセージ識別子*）

変換エラーイベント生成抑止の設定がされており，抑止対象のエラーが発生したため，JP1 イベントの登録を抑止しました。

（S）

処理を続行します。

KNAH0562-W

追加メッセージ識別子に指定した属性の値が 255 バイトを超えています。（*イベント ID，イベント DB 内通し番号，適用先システム名，イベントソース名，変換メッセージ群名，変換フォーマット名，メッセージ識別子の値*）

追加メッセージ識別子に指定した属性の値が 255 バイトを超えています。

（S）

フォーマット変換だけを実施して JP1 イベントを登録し，処理を続行します。ただし，イベント変換エラーとなったイベントの生成抑止を指定している場合は，登録しないで処理を続行します。

（O）

基本フォーマットの追加メッセージ識別子定義で指定した JP1 イベント属性の値が 256 バイト以上でないか確認してください。256 バイト以上である場合，その属性は追加メッセージ識別子としては使

用できないため，別の JP1 イベント属性を追加メッセージ識別子として使用できないか検討してください。

KNAH0602-E

通信待ち受け用ポートのオープンに失敗しました。

通信待ち受け用ポートのオープンに失敗しました。

(S)

プロセスを終了します。

(O)

JP1/IM - Message Optimizer サービスを再起動してください。
再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0603-I

通信待ち受け用ポート番号は *ポート番号* です。

通信待ち受け用ポートのオープンに成功しました。

(S)

処理を続行します。

KNAH0612-E

データベースへの接続のリトライが失敗しました。プロセス（*プロセス名*）を終了します。

データベースへの接続のリトライが失敗しました。

(S)

プロセス（*プロセス名*）を終了します。そのあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスおよび JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスを停止します。

(O)

エラー発生時に出力しているログに記載されているデータベースのエラーメッセージを確認し，データベースに対して対処してから，JP1/IM - Message Optimizer サービスを起動してください。

KNAH0614-E

データベースに対するアクセスで接続エラーが発生しました。データベースへの接続のリトライを実行します。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*データベースのエラーメッセージ*）

データベースに対するアクセスで接続エラーが発生しました。

(S)

データベースへの接続のリトライを実行します。

(O)

このメッセージのあとに KNAH0612-E が出力されているか確認してください。出力されている場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0616-E

データベースに対するアクセスでエラーが発生しました。プロセス（*プロセス名*）を終了します。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*データベースのエラーメッセージ*）

データベースに対するアクセスで，処理を続行できないエラーが発生しました。

（S）

プロセス（*プロセス名*）を終了します。そのあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0617-E

データベースに対するアクセスでエラーが発生しました。処理を終了します。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*データベースのエラーメッセージ*）

データベースに対するアクセスで，処理を続行できないエラーが発生しました。

（S）

エラー処理を実行後に現在の処理を終了して，次の要求の待ち受けを開始します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0618-I

データベースへの接続のリトライに成功しました。

データベースへの接続のリトライに成功しました。

（S）

処理を続行します。

KNAH0619-W

メッセージ一覧テーブルに登録された基本メッセージが既に最大数（*最大数件*）分に達しています。これ以上の基本メッセージの学習はできません。

メッセージ一覧テーブルに登録された基本メッセージがすでに最大数（*最大数件*）分に達しています。

（S）

これ以上の基本メッセージの学習はできません。

（O）

新しく基本メッセージを学習したい場合は，不要な基本メッセージを JP1/IM - MO Assistant から削除してください。

KNAH0620-W

メッセージ一覧テーブルに登録された基本メッセージが最大数（*最大数件*）分に達しました。これ以上の基本メッセージの学習はできません。

メッセージ一覧テーブルに登録された基本メッセージが最大数（*最大数件*）分に達しました。

（S）

これ以上の基本メッセージの学習はできません。

(O)

新しく基本メッセージを学習したい場合は，不要な基本メッセージを JP1/IM - MO Assistant から削除してください。

KNAH0621-W

イベントソース定義テーブルに登録されたイベントソースが既に最大数（*最大数件*）分に達しています。これ以上のイベントソースの学習はできません。

イベントソース定義テーブルに登録されたイベントソースがすでに最大数（*最大数件*）分に達しています。

(S)

これ以上のイベントソースの学習はできません。

(O)

新しくイベントソースを学習したい場合は，不要なイベントソースを JP1/IM - MO Assistant から削除してください。

KNAH0622-W

イベントソース定義テーブルに登録されたイベントソースが最大数（*最大数件*）分に達しました。これ以上のイベントソースの学習はできません。

イベントソース定義テーブルに登録されたイベントソースが最大数（*最大数件*）分に達しました。

(S)

これ以上のイベントソースの学習はできません。

(O)

新しくイベントソースを学習したい場合は，不要なイベントソースを JP1/IM - MO Assistant から削除してください。

KNAH0623-W

発行元一覧テーブルに登録された発行元が既に最大数（*最大数件*）分に達しています。これ以上の発行元の学習はできません。

発行元一覧テーブルに登録された発行元がすでに最大数（*最大数件*）分に達しています。

(S)

これ以上の発行元の学習はできません。

(O)

新しく発行元を学習したい場合は，不要な発行元を JP1/IM - MO Assistant から削除してください。

KNAH0624-W

発行元一覧テーブルに登録された発行元が最大数（*最大数件*）分に達しました。これ以上の発行元の学習はできません。

発行元一覧テーブルに登録された発行元がすでに最大数（*最大数件*）分に達しています。

(S)

これ以上の発行元の学習はできません。

(O)

新しく発行元を学習したい場合は，不要な発行元を JP1/IM - MO Assistant から削除してください。

KNAH0626-W

イベントソース（*イベントソース定義名*）に属する基本メッセージが既に 1 イベントソースあたりの最大数（*最大数件*）分に達しています。このイベントソースに属する基本メッセージの学習はできません。

メッセージ一覧テーブルに登録された基本メッセージのうち，イベントソース定義名で指定されたイベントソース定義に属する基本メッセージが，1 イベントソース当たりの最大数（*最大数件*）分に達しています。

(S)

これ以上，イベントソース定義名で指定されたイベントソース定義に属する基本メッセージの学習はできません。

(O)

新しくイベントソース定義名で指定されたイベントソース定義に属する基本メッセージを学習したい場合は，イベントソース定義名で指定されたイベントソース定義に属する不要な基本メッセージを JP1/IM - MO Assistant から削除してください。

KNAH0627-W

イベントソース（*イベントソース定義名*）に属する基本メッセージが最大数（*最大数件*）分に達しました。これ以上このイベントソースに属する基本メッセージの学習はできません。

メッセージ一覧テーブルに登録された基本メッセージのうち，イベントソース定義名で指定されたイベントソース定義に属する基本メッセージが，1 イベントソース当たりの最大数（*最大数件*）分に達しています。

(S)

これ以上，イベントソース定義名で指定されたイベントソース定義に属する基本メッセージの学習はできません。

(O)

新しくイベントソース定義名で指定されたイベントソース定義に属する基本メッセージを学習したい場合は，イベントソース定義名で指定されたイベントソース定義に属する不要な基本メッセージを JP1/IM - MO Assistant から削除してください。

KNAH0628-W

JP1 イベント変換定義の学習に失敗しました。（*定義の種別，学習に失敗した JP1 イベントのイベント DB 内通し番号*）

JP1 イベント変換定義の学習に失敗しました

(S)

処理を続行し，次の JP1 イベントの変換処理をします。

(O)

次の手順で対処してください。

1. メッセージに出力されているイベント DB 内通し番号から，学習に失敗した JP1 イベントを特定する。
2. JP1/IM - View で学習に失敗した JP1 イベントの内容を確認する。
3. メッセージに出力されている定義の種別に応じて JP1/IM - MO Assistant で次の作業を行い，手動で定義を作成する。

イベントソースの場合

学習に失敗した JP1 イベントの JP1 イベント種別，プロダクト名，およびオブジェクト名を特定し，イベントソース定義を作成する。

発行元の場合

学習に失敗した JP1 イベントと発行元イベントサーバ名を特定し，発行元定義を作成する。

基本メッセージの場合

1. 学習に失敗した JP1 イベントのプロダクト名またはオブジェクト名から，JP1/IM - MO のイベントソースを特定する。
2. 特定したイベントソース定義以下に，学習に失敗した JP1 イベントのメッセージ，およびメッセージ識別子を持つ基本メッセージ定義を作成する。

サンプルメッセージの場合

1. 学習に失敗した JP1 イベントのプロダクト名またはオブジェクト名から，JP1/IM - MO のイベントソースを特定する。
2. 特定したイベントソース定義の［基本フォーマット］定義ダイアログで，学習に失敗した JP1 イベントのメッセージ属性の値をサンプルメッセージに追加する。

KNAH0629-E

データベース領域が不足しているため，処理を中止します。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*データベースのエラーメッセージ*）

データベース領域が不足しているため，データベースにアクセスできませんでした。

（S）

処理を終了します。

（O）

定義を追加したい場合は，データベースのサイズを拡張してください。データベースサイズを拡張する方法については，「11.5.2　運用開始後にデータベースの容量を大きくする」を参照してください。

KNAH0630-W

バックアップコマンドが実行中のため JP1 イベント変換定義の学習を行いません。（*定義の種別*，*学習に失敗した JP1 イベントのイベント DB 内通し番号*）

データベースのバックアップコマンドが実行中であるため，JP1 イベント変換定義を学習しません。

（S）

処理を続行し，次の JP1 イベントを変換します。

（O）

次の手順で対処してください。

1. メッセージに出力されているイベント DB 内通し番号から，学習に失敗した JP1 イベントを特定する。
2. JP1/IM - View で学習に失敗した JP1 イベントの内容を確認する。
3. メッセージに出力されている定義の種別に応じて JP1/IM - MO Assistant で次の作業を行い，手動で定義を作成する。

イベントソースの場合

学習に失敗した JP1 イベントの JP1 イベント種別，プロダクト名およびオブジェクト名を特定し，イベントソース定義を作成する。

発行元の場合

学習に失敗した JP1 イベントと発行元イベントサーバ名を特定し，発行元定義を作成する。

基本メッセージの場合

1. 学習に失敗した JP1 イベントのプロダクト名またはオブジェクト名から JP1/IM - MO のイベントソースを特定する。

2. 特定したイベントソース定義の下に学習に失敗した JP1 イベントのメッセージおよびメッセージ識別子を持つ基本メッセージ定義を作成する。

サンプルメッセージの場合

1. 学習に失敗した JP1 イベントのプロダクト名またはオブジェクト名から JP1/IM - MO のイベントソースを特定する。
2. 特定したイベントソース定義の［基本フォーマット定義］ダイアログで，学習に失敗した JP1 イベントのメッセージ属性の値をサンプルメッセージに追加する。

KNAH0640-E

コマンドが実行中のため，サービス（*サービス名*）が起動できません。

データベースメンテナンスコマンドが実行中のため，サービスを起動できません。

（S）

サービスの起動を中止します。

（O）

実行中のデータベースメンテナンスコマンドが終了してから，サービスを再起動してください。

KNAH0641-E

データベースがセットアップされていないため，サービス（*サービス名*）が起動できません。

データベースがセットアップされていないため，JP1/IM - MO のサービスを起動できません。

（S）

サービスの起動を中止します。

（O）

`jmoedbsetup` コマンドを実行し，データベースをセットアップしてからサービスを起動してください。

KNAH0800-E

ソケット通信でエラーが発生しました。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*保守情報 4*）

ソケット通信でエラーが発生しました。

（S）

処理を終了します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0801-E

データベースアクセスデーモンに接続できません。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*保守情報 4*）

データベースアクセスデーモンに接続できません。

（S）

処理を終了します。

（O）

JP1/IM - MO ログに出力されているデータベースアクセスに関するメッセージ（アプリケーション識別名が jmoddbacd または jmotdbacd）の対処をしたあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを再起動してください。

再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0802-E

***プロセス名*との通信のオープンに失敗しました。**

親プロセスとの通信の確立に失敗しました。

（S）

プロセスを終了します。

（O）

プロセスが再起動されたことを確認してください。
プロセスが再起動されない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0803-E

***プロセス名*への起動完了通知の送信に失敗しました。**

親プロセスへの起動完了通知の送信に失敗しました。

（S）

プロセスを終了します。

（O）

プロセスが再起動されたことを確認してください。
プロセスが再起動されない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0810-E

認証サーバとの通信でエラーが発生しました。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*保守情報 4*）

認証サーバとの通信でエラーが発生しました。

（S）

JP1/IM - MO Assistant との通信を終了します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストの JP1/Base で，認証サーバの設定を確認してください。
クラスタシステムで運用している場合は，環境設定ファイルの EVTSVR に論理ホストのイベントサーバ名が指定されているか確認してください。
クラスタシステムで運用していない場合は，環境設定ファイルの EVTSVR に空白が指定されているか確認してください

KNAH0900-E

プロセス（*子プロセス名*）の再起動に失敗しました。*サービス名*サービスを停止します。

プロセス（*子プロセス名*）の再起動に失敗したため，サービスを停止します。*サービス名*は JP1/IM - Message Optimizer または JP1/IM - Message Optimizer Assistant です。

（S）

*サービス名*に表示されたサービスを停止します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0901-E

入出力エラーが発生しました。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*保守情報 4*）

通信のイベント待ちでエラーが発生しました。

（S）

処理を終了します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0902-E

メモリー不足が発生しました。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*保守情報 4*）

メモリー不足が発生しました。

（S）

処理を終了します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0903-E

システムエラーが発生しました。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*保守情報 4*）

システムエラーが発生しました。

（S）

処理を終了します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0904-E

JP1/IM - Message Optimizer **で予期しないエラーが発生しました。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*保守情報 4*）**

処理中に予期しないエラーが発生しました。

（S）

処理を終了します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0906-E

プロセス（*子プロセス名*）の起動がタイムアウトしました。*サービス名*サービスの起動を停止します。

プロセス（*子プロセス名*）の起動がタイムアウトしました。*サービス名*は JP1/IM - Message Optimizer または JP1/IM - Message Optimizer Assistant です。

(S)

*サービス名*に表示されたサービスの起動を停止します。

(O)

イベントログでこのメッセージよりも前に出ているメッセージと子プロセスの JP1/IM - MO ログを確認して，エラーの原因を取り除いてください。そのあと，*サービス名*に表示されたサービスを再起動してください。
エラーの原因を取り除いても同じ状態になる場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0911-E

プロセス（*親プロセス名*）との通信の再接続に失敗しました。処理を終了します。

親プロセスとの通信の再接続に失敗しました。

(S)

プロセスを終了します。

(O)

プロセスが再起動されることを確認してください。
プロセスが再起動されない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0912-E

プロセス（*子プロセス名*）が処理続行不可能なエラーで終了しました。*サービス名*サービスを停止します。（*保守情報*）

プロセス（*子プロセス名*）で処理を続行できないエラーが発生したため，プロセスが終了しました。*サービス名*は JP1/IM - Message Optimizer または JP1/IM - Message Optimizer Assistant です。

(S)

*サービス名*に表示されたサービスを停止します。

(O)

イベントログでこのメッセージよりも前に出ているメッセージと，子プロセスの JP1/IM - MO ログを確認して，エラーの原因を取り除いてください。そのあと，*サービス名*に表示されたサービスを再起動してください。
エラーの原因を取り除いても同じ状態になる場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0913-E

プロセス（*子プロセス名*）が異常終了しました。プロセスを再起動します。（*保守情報*）

子プロセスの停止を検知しました。

(S)

停止した子プロセスを再起動します。

KNAH0915-E

プロセス（子プロセス名）の起動に失敗しました。*サービス名*サービスの起動を停止します。

JP1/IM - Message Optimizer サービスの起動処理中に，子プロセスの起動に失敗しました。*サービス名*は JP1/IM - Message Optimizer または JP1/IM - Message Optimizer Assistant です。

（S）

*サービス名*に表示されたサービスの起動を停止します。

（O）

次の内容を確認してください。

- JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥bin¥ **子プロセス名** .exe があるか。
  ファイルがない場合，JP1/IM - MO を再インストールしてください。
- 子プロセス名の JP1/IM - MO ログにエラーメッセージが出力されていないか。
  エラーメッセージが出力されている場合は，出力されているメッセージを基に対処してください。

これらを確認しても問題が解決しない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0916-E

製品情報取得に失敗しました。（詳細情報：*関数名* , *戻り値*）

製品情報の取得に失敗しました。

（S）

処理を中断します。

（O）

システムに障害が発生していないか確認したあと，サービスを再起動してください。
再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH0917-E

使用期限が切れています。

JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の体験版の使用期限が切れました。

（S）

処理を中断します。

KNAH0996-E

ログファイルオープンに失敗しました。：*ログファイル名*

ログファイルオープンに失敗しました。

（S）

JP1/IM - Message Optimizer サービスを停止します。

（O）

次のことを確認してください。

- ログファイル名で指定しているログファイルの属性が読み取り専用でないか。
- ログファイル名で指定しているログファイルがロックされていないか。

これらの問題を解決したあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを起動してください。

KNAH0997-E

メッセージ出力に失敗しました。：*保守情報*

メッセージ出力に失敗しました。

(S)

処理を継続します。メッセージが出力された原因に対処するまで，以降のメッセージは出力されません。

(O)

メッセージの出力先ファイルを格納しているドライブの空き領域を確認してください。空き領域がない場合は，不要なファイルを消去して空き領域を作ってください。

KNAH0998-E

ログファイルの切り替えに失敗しました。：*保守情報*

ログファイルの切り替えに失敗しました。

(S)

処理を継続します。以降のログ出力は抑止されます。

(O)

次のことを確認してください。

- ログファイルが読み取り専用でないか。
- ログファイルの切り替え時に，切り替え後のログファイルがロックされていないか。

読み取り専用またはロックを解除したあと，JP1/IM - Message Optimizer サービスを起動してください。ログファイル出力方式については，「17.2　ログ情報の種類」を参照してください。

KNAH2000-I

***コマンド名*コマンドを開始します。**

*コマンド名*コマンドを開始します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAH2001-I

***コマンド名*コマンドが成功しました。(*戻り値*)**

*コマンド名*コマンドが成功しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

KNAH2002-E

***コマンド名*コマンドが失敗しました。(*戻り値*)**

*コマンド名*コマンドが失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージを確認し，対処してください。

KNAH2003-I

リリースコマンドを開始します。

リリースコマンドを開始します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAH2004-I

リリースコマンドが成功しました。(*戻り値*)

リリースコマンドが成功しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

KNAH2005-E

リリースコマンドが失敗しました。(*戻り値*)

リリースコマンドが失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージを確認し，対処してください。

KNAH2009-I

インポートコマンドを開始します。

インポートコマンドを開始します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAH2010-I

インポートコマンドが成功しました。(*戻り値*)

インポートコマンドが成功しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

KNAH2011-E

インポートコマンドが失敗しました。(*戻り値*)

インポートコマンドが失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージを確認し，対処してください。

KNAH2012-I

エクスポートコマンドを開始します。

エクスポートコマンドを開始します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAH2013-I

エクスポートコマンドが成功しました。(*戻り値*)

エクスポートコマンドが成功しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

KNAH2014-E

エクスポートコマンドが失敗しました。(*戻り値*)

エクスポートコマンドが失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージを確認し，対処してください。

KNAH2015-I

整合性チェックコマンドを開始します。

整合性チェックコマンドを開始します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAH2016-I

整合性チェックコマンドが成功しました。(*戻り値*)

整合性チェックコマンドが成功しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

KNAH2017-E

整合性チェックコマンドが失敗しました。(*戻り値*)

整合性チェックコマンドが失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージを確認し，対処してください。

KNAH2018-I

セットアップコマンドを開始します。

セットアップコマンドを開始します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAH2019-I

セットアップコマンドが成功しました。（*戻り値*）

セットアップコマンドが成功しました。

（S）

コマンドの処理を終了します。

KNAH2020-E

セットアップコマンドが失敗しました。（*戻り値*）

セットアップコマンドが失敗しました。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージを確認し，対処してください。

KNAH2021-I

再編成コマンドを開始します。

再編成コマンドを開始します。

（S）

コマンドの処理を続行します。

KNAH2022-I

再編成コマンドが成功しました。（*戻り値*）

再編成コマンドが成功しました。

（S）

コマンドの処理を終了します。

KNAH2023-E

再編成コマンドが失敗しました。（*戻り値*）

再編成コマンドが失敗しました。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージを確認し，対処してください。

KNAH2024-I

バックアップコマンドを開始します。

バックアップコマンドを開始します。

（S）

コマンドの処理を続行します。

KNAH2025-I

バックアップコマンドが成功しました。（*戻り値*）

バックアップコマンドが成功しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

KNAH2026-E

バックアップコマンドが失敗しました。(*戻り値*)

バックアップコマンドが失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージを確認し，対処してください。

KNAH2027-I

リストアコマンドを開始します。

リストアコマンドを開始します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAH2028-I

リストアコマンドが成功しました。(*戻り値*)

リストアコマンドが成功しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

KNAH2029-E

リストアコマンドが失敗しました。(*戻り値*)

リストアコマンドが失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージを確認し，対処してください。

KNAH2030-I

構成情報インポートコマンドを開始します。

構成情報インポートコマンドを開始します。

(S)

コマンドの処理を続行します。

KNAH2031-I

構成情報インポートコマンドが成功しました。(*戻り値*)

構成情報インポートコマンドを終了します。

(S)

コマンドの処理を終了します。

KNAH2032-E

構成情報インポートコマンドが失敗しました。（*戻り値*）

構成情報インポートコマンドを終了します。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージを確認し，対処してください。

KNAH2033-I

構成情報エクスポートコマンドを開始します。

構成情報エクスポートコマンドを開始します。

（S）

コマンドの処理を続行します。

KNAH2034-I

構成情報エクスポートコマンドが成功しました。（*戻り値*）

構成情報エクスポートコマンドを終了します。

（S）

コマンドの処理を終了します。

KNAH2035-E

構成情報エクスポートコマンドが失敗しました。（*戻り値*）

構成情報エクスポートコマンドを終了します。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

このメッセージの前に出力されているエラーメッセージを確認し，対処してください。

KNAH2100-E

***コマンド名*の引数（*引数*）が不正です。**

*コマンド名*コマンドの引数（*引数*）で指定した指定内容が不正です。

（S）

Usage を表示して，コマンドの処理を終了します。

（O）

正しい引数を指定して，再度コマンドを実行してください。

KNAH2101-E

コマンドを実行するためには管理者権限が必要です。

実行するために管理者権限が必要なコマンドが，管理者権限のないユーザーによって実行されました。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

管理者権限を持つユーザーでログインしてから，再度コマンドを実行してください。

KNAH2102-E

コマンド（*コマンド名*）は既に実行中です。コマンドの多重起動はできません。

実行したコマンド（*コマンド名*）はすでに実行中です。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

実行中のコマンドの終了を待ってから次のコマンドを実行してください。

KNAH2103-E

コマンド（*コマンド名*）が実行中のため，コマンド（*コマンド名*）が実行できません。

同時に実行できないコマンド（*コマンド名*）がすでに実行中です。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

実行中のコマンドの終了を待ってから次のコマンドを実行してください。

KNAH2104-E

JP1/IM - Message Optimizer Assistant **サービスが起動していないため，コマンド（*コマンド名*）の処理が実行できません。**JP1/IM - Message Optimizer Assistant **サービスを起動してください。**

JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが起動していないため，コマンドの処理が実行できません。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスを起動してからコマンドを実行してください。

KNAH2105-E

JP1/IM - Message Optimizer Assistant **サービスとの通信が切断されました。コマンド（*コマンド名*）を終了します。**

JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスとの通信が予期しないタイミングで切断されました。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが正常に動作していることを確認してから，コマンドを再実行してください。

KNAH2106-E

JP1/IM - Message Optimizer Assistant **サービスへの要求で応答待ちがタイムアウトしました。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）**

JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスへの要求の応答待ちがタイムアウトしました。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが正常に動作していることを確認してから，コマンドを再実行してください。

KNAH2107-E

JP1/IM - Message Optimizer Assistant **サービスへの要求に対してエラー応答が返りました。（*終了コード，詳細コード，補助文字列*）**

コマンドが JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスに対して発行した要求に対してエラー応答が返りました。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスの JP1/IM - MO ログを確認して，エラーの原因を取り除いてから，コマンドを再実行してください。

KNAH2108-E

Windows API（*Windows API 名*）**がエラーを返しました。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*）**

コマンドの実行中に，Windows API がエラーを返しました。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

保守情報 1 で表示されている Windows API のエラーコードを調査し，エラーの原因を取り除いてから，再度コマンドを実行してください。

KNAH2120-E

サービス（*サービス名*）が実行中のため，コマンド（*コマンド名*）が実行できません。

サービスが起動されているため，コマンドを実行できません。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

サービス（*サービス名*）を停止してから，コマンドを再実行してください。

KNAH2200-I

一括リリース処理を開始します。

`jmorelease` コマンドで，一括リリース処理を開始します。

（S）

`jmorelease` コマンドの処理を続行します。

KNAH2201-I

一括リリース処理を終了しました。

`jmorelease` コマンドで，一括リリース処理を終了しました。

（S）

`jmorelease` コマンドの処理を続行します。

KNAH2202-I

***定義名*の一件リリース処理を開始します。**

jmorelease コマンドで，定義名が示す定義（イベントソース定義，変換メッセージ群定義，変換フォーマット定義，適用先システム定義，発行元定義のどれか）の 1 件リリース処理を開始します。

(S)

jmorelease コマンドの処理を続行します。

KNAH2203-I

***定義名*の一件リリース処理を終了しました。**

jmorelease コマンドで，定義名が示す定義（イベントソース定義，変換メッセージ群定義，変換フォーマット定義，適用先システム定義，発行元定義のどれか）の 1 件リリース処理を終了しました。

(S)

jmorelease コマンドの処理を続行します。

KNAH2204-I

リリース解除処理を開始します。

jmorelease コマンドで，リリース解除処理を開始します。

(S)

jmorelease コマンドの処理を続行します。

KNAH2205-I

リリース解除処理を終了しました。

jmorelease コマンドで，リリース解除処理を終了しました。

(S)

jmorelease コマンドの処理を続行します。

KNAH2206-I

リリーステーブルの更新処理を開始します。

jmorelease コマンドで，リリーステーブルの更新処理を開始します。

(S)

jmorelease コマンドの処理を続行します。

KNAH2207-I

リリーステーブルの更新処理を終了しました。

jmorelease コマンドで，リリーステーブルの更新処理を終了しました。

(S)

jmorelease コマンドの処理を続行します。

KNAH2208-I

実行テーブルの更新処理を開始します。

jmorelease コマンドで，実行テーブルの更新処理を開始します。

(S)

jmorelease コマンドの処理を続行します。

KNAH2209-I

実行テーブルの更新処理を終了しました。

jmorelease コマンドで，実行テーブルの更新処理を終了しました。

(S)

jmorelease コマンドの処理を続行します。

KNAH2210-E

指定された定義（*定義名*）がデータベースにありません。

jmorelease コマンドの引数で指定された定義がデータベースにありません。

(S)

ロールバックして，コマンドの処理を終了します。

(O)

引数で指定した定義名とデータベースの定義内容を確認して，再度 jmorelease コマンドを実行してください。

KNAH2211-E

指定された定義（*定義名*）のリリース状態フラグが「リリース許可」でないため，一件リリースを実行できません。

jmorelease コマンドの引数で指定された定義のリリース状態が「リリース許可」でないため，1 件リリース処理を実行できません。

(S)

ロールバックして，コマンドの処理を終了します。

(O)

引数で指定した定義のリリース状態を「リリース許可」にした上で，再度 jmorelease コマンドを実行してください。

KNAH2212-E

指定されたイベントソース定義（*イベントソース定義名*）に属する変換メッセージ群定義（*変換メッセージ群定義名*）がデータベースにありません。

jmorelease コマンドの引数で指定されたイベントソース定義に所属する変換メッセージ群に，引数で指定した定義名の変換メッセージ群がありません。

(S)

ロールバックして，コマンドの処理を終了します。

(O)

引数で指定した定義名とデータベースの定義内容を確認して，再度 jmorelease コマンドを実行してください。

KNAH2213-E

指定された定義（*定義名*）のリリース状態フラグが「編集」「リリース編集」でないため，リリース許可を実行できません。

jmorelease コマンドの引数で指定された定義のリリース状態が「編集」または「リリース編集」でないため，リリース許可処理を実行できません。

(S)

ロールバックして，コマンドの処理を終了します。

(O)

引数で指定した定義名とデータベースの定義内容を確認して，再度 jmorelease コマンドを実行してください。

KNAH2214-E

指定されたイベントソース定義（*イベントソース定義名*）のリリース状態フラグが「編集」「リリース編集」「リリース許可」「リリース」でないため，変換メッセージ群定義（*変換メッセージ群定義名*）のリリース許可を実行できません。

jmorelease コマンドの引数で指定されたイベントソース定義のリリース状態が「編集」，「リリース編集」，「リリース許可」，または「リリース」でないため，変換メッセージ群定義のリリース許可処理を実行できません。

(S)

ロールバックして，コマンドの処理を終了します。

(O)

引数で指定した定義名とデータベースの定義内容を確認して，再度 jmorelease コマンドを実行してください。

KNAH2215-E

既に同じイベントソース（*イベントソース定義名*）に属する別の変換メッセージ群で同じ適用先システムが選択されているため，変換メッセージ群（*変換メッセージ群定義名*）をリリース許可することはできません。

jmorelease コマンドで指定したイベントソース定義に属し，かつ同じ適用先システム定義を選択している変換メッセージ群定義があります。そのため，リリース許可処理を実行できません。

(S)

ロールバックして，コマンドの処理を終了します。

(O)

引数で指定したイベントソース定義に属する変換メッセージ群定義の中から，リリース許可する変換メッセージと同じ適用先システムを選択しているものを確認してください。同じ適用先システムを選択している変換メッセージ群をリリース許可取り消し，またはリリース解除許可してから，再度 jmorelease コマンドを実行してください。

KNAH2216-E

入替え対象の変換メッセージ群が選択している適用先システムが完全に一致していないため，指定した変換メッセージ群（*変換メッセージ群定義名*）をリリース許可できません。

jmorelease コマンドで指定した変換メッセージ群定義が選択している適用先システム定義と，入れ替え対象の変換メッセージ群定義が選択している適用先システム定義が完全に一致していません。そのため，指定した変換メッセージ群定義をリリース許可できません。

(S)

ロールバックして，コマンドの処理を終了します。

(O)

引数で指定したイベントソース定義に属する変換メッセージ群定義の中から，リリース許可する変換メッセージと同じ適用先システム（入れ替え対象変換メッセージ群）を選択しているものを確認してください。入れ替え対象の変換メッセージ群をリリース許可取り消し，または，リリース解除許可してから，再度 jmorelease コマンドを実行してください。

KNAH2217-E

指定された変換メッセージ群（*変換メッセージ群定義名*）がリリース解除許可状態の適用先システムを選択しているため，リリース許可できません。

jmorelease コマンドで指定した変換メッセージ群定義が選択している適用先システム定義の中に「リリース解除許可」状態のものがあります。そのため，指定した変換メッセージ群定義をリリース許可できません。

(S)

ロールバックして，コマンドの処理を終了します。

(O)

引数で指定した定義名とデータベースの定義内容を確認して，再度 jmorelease コマンドを実行してください。

KNAH2219-E

リリース許可しようとする適用先システムに，リリース解除許可状態の変換フォーマット（*変換フォーマット名*）を選択しているものがあるため，リリース許可できません。

リリース許可する適用先システム定義の中に，リリース解除許可状態の変換フォーマット定義を選択している適用先システム定義があります。そのため，リリース許可を実行できません。

(S)

ロールバックして，コマンドの処理を終了します。

(O)

jmorelease コマンドを引数なしで実行し，リリース解除許可状態の変換フォーマット定義を「編集」状態にしてください。そのあと，このメッセージ出力時と同じオプションを指定して再度 jmorelease コマンドを実行してください。

KNAH2220-I

" *定義名* " のリリース許可処理を開始します。

jmorelease コマンドで，*定義名*に表示される次の定義のどれかのリリース許可処理を開始します。

- イベントソース定義
- 変換メッセージ群定義
- 変換フォーマット定義
- 適用先システム定義

(S)

jmorelease コマンドの処理を続行します。

KNAH2221-I

" *定義名* " のリリース許可処理を終了しました。

jmorelease コマンドで，*定義名*に表示される次の定義のどれかのリリース許可処理を終了しました。

- イベントソース定義
- 変換メッセージ群定義
- 変換フォーマット定義
- 適用先システム定義

(S)

jmorelease コマンドの処理を続行します。

KNAH2222-I

" *定義名* " をリリース許可しました。

jmorelease コマンドで，*定義名*に表示される次の定義のどれかをリリース許可しました。

- イベントソース定義
- 変換メッセージ群定義
- 変換フォーマット定義
- 適用先システム定義

(S)

jmorelease コマンドの処理を続行します。

KNAH2223-I

" *定義名* " をリリース解除許可しました。

jmorelease コマンドの変換メッセージ群入れ替えリリース許可で，*定義名*が示す変換メッセージ群定義をリリース解除許可しました。

(S)

jmorelease コマンドの処理を続行します。

KNAH2224-I

" *定義名* " のリリース許可を取り消しました。

jmorelease コマンドの変換メッセージ群入れ替えリリース許可で，*定義名*が示す変換メッセージ群定義のリリース許可を取り消しました。

(S)

jmorelease コマンドの処理を続行します。

KNAH2232-E

指定された適用先システム（*適用先システム定義名*）の上位の適用先システム（*上位の適用先システム定義名*）のリリース状態フラグが「リリース許可」「リリース」「リリース編集」でないため，リリース許可を実行できません。

jmorelease コマンドの適用先システムリリース許可で，引数で指定した適用先システム定義の上位に「リリース許可」，「リリース」，または「リリース編集」状態でない適用先システム定義があります。そのため，指定した適用先システムをリリース許可できません。

(S)

ロールバックして，コマンドの処理を終了します。

(O)

上位の適用先システム定義が「編集」状態の場合は，上位の適用先システム定義を指定して再度 jmorelease コマンドを実行してください。
上位の適用先システム定義が「リリース解除許可」状態の場合は，jmorelease コマンドを実行していったん上位の適用先システムを「編集」状態にしてから，上位の適用先システム定義を指定して再度 jmorelease コマンドを実行してください。

KNAH2233-E

指定された定義（*定義名*）と同時にリリース許可される適用先システム（*適用先システム定義名*）のリリース状態フラグが「編集」「リリース許可」「リリース」「リリース編集」でないため，リリース許可を実行できません。

jmorelease コマンドで，引数で指定した定義と同時にリリース許可される適用先システム定義が「編

集」,「リリース許可」,「リリース」,または「リリース編集」状態ではありません。そのため,リリース許可を実行できません。

(S)

ロールバックして,コマンドの処理を終了します。

(O)

jmorelease コマンドを実行し適用先システム定義名で示された適用先システム定義をいったん「編集」状態にしてから,再度 jmorelease コマンドを実行してください。

KNAH2234-E

指定された変換メッセージ群(*変換メッセージ群定義名*)が選択している適用先システムの中に,上位の適用先システム(*上位の適用先システム定義名*)のリリース状態フラグが「リリース許可」「リリース」「リリース編集」でないもの(*適用先システム定義名*)があるため,リリース許可を実行できません。

jmorelease コマンドで,引数で指定した変換メッセージ群定義が選択している適用先システム定義の中に,上位の適用先システム定義が「リリース許可」,「リリース」,または「リリース編集」状態でないものがあります。そのため,リリース許可を実行できません。

(S)

ロールバックして,コマンドの処理を終了します。

(O)

上位の適用先システム定義名で示された上位の適用先システム定義をいったん「リリース許可」状態にしてから,再度 jmorelease コマンドを実行してください。

KNAH2240-I

定義情報のリリース・リリース解除処理が完了しました。

定義情報のリリース・リリース解除処理が完了しました。

(S)

処理を続行します。

KNAH2310-E

レジストリ情報の読み込みに失敗しました。

JP1/IM - MO をインストールしているフォルダの取得に失敗しました。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

管理者権限を持つユーザーでログインしてから,再度コマンドを実行してください。
再度コマンドを実行しても問題が解決しない場合は,JP1/IM - MO の再インストールを実施してください。再インストールの実施は,上書きインストールではなく,アンインストールを実施したあとにしてください。そのあと,管理者権限を持つユーザーでログインしてから,再度コマンドを実行してください。

KNAH2311-E

conf フォルダ直下に jp1immo.conf.model をコピーして jp1immo.conf を作成してください。

conf フォルダに環境設定ファイル jp1immo.conf がありません。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

JP1/IM - MO の conf フォルダ直下に jp1immo.conf.model をコピーして jp1immo.conf を作成してください。

KNAH2312-E

定義内容の登録に失敗しました。行数：*行番号 構文*

レジストリ情報の登録に失敗しました。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

環境設定ファイル jp1immo.conf の*行番号*行目のパラメーターを登録中にエラーが発生したため，パラメーター指定値を設定できません。管理者権限を持つユーザーでログインしたあとにコマンドを実行してください。
この対処で問題が解決しなかった場合，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行し，登録しようとした環境設定ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

KNAH2500-E

データベースへのコネクトに失敗しました。

データベースへのコネクトに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

HiRDB が起動していることを確認してください。

KNAH2501-E

データベースに対するアクセスでエラーが発生しました。（*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*）

データベースに対するアクセス（レコードの検索，更新，削除，または追加）でエラーが発生しました。

(S)

ロールバックして，コマンドの処理を終了します。

(O)

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH2502-E

最終リリース日時の生成に失敗しました。（*保守情報 1*，*保守情報 2*）

jmorelease コマンドの処理中に，最終リリース日時情報の生成に失敗しました。

(S)

ロールバックして，jmorelease コマンドの処理を終了します。

(O)

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH2510-E

jmosetcnf コマンドが既に実行中のため，実行できませんでした。

jmosetcnf コマンドがすでに実行中です。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

実行中の jmosetcnf コマンドが終了したことを確認してから再度コマンドを実行してください。

KNAH2511-E

jp1immo.conf の読み込みに失敗しました。jp1immo.conf.model をコピーして jp1immo.conf を作成してください。

ファイルの読み込みに失敗しました。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

jp1immo.conf.model をコピーして jp1immo.conf を作成してください。

KNAH2512-E

jp1immo.conf の構文に誤りがあります。構文の先頭文字が「"」となっていません。先頭文字を「"」にしてください。行数：*行番号 構文*

行の先頭文字に「"」または「#」以外の文字が定義されています。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

環境設定ファイル jp1immo.conf の*行番号*行目の先頭文字を確認してください。

KNAH2513-E

jp1immo.conf の構文に誤りがあります。" オペランド "= 値の形式で定義してください。行数：*行番号 構文*

環境設定ファイルの*行番号*行目のオペランドに構文の誤りがあります。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

環境設定ファイル jp1immo.conf の*行番号*行目のオペランドは「" オペランド "= 値」の形式で定義してください。環境設定ファイルの内容を確認してください。

KNAH2514-E

jp1immo.conf の構文に誤りがあります。オペランドが「""」で囲まれていません。オペランドを「""」で囲んでください。行数：*行番号 構文*

環境設定ファイルの*行番号*行目のオペランドに構文の誤りがあります。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

環境設定ファイル jp1immo.conf の*行番号*行目のオペランドを「""」で囲んでください。環境設定

ファイルの内容を確認してください。

KNAH2515-E

jp1immo.conf の構文に誤りがあります。オペランドが定義されていません。オペランドを定義してください。行数：*行番号 構文*

環境設定ファイルの*行番号*行目のオペランドに構文の誤りがあります。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

環境設定ファイル jp1immo.conf の*行番号*行目の値は「" オペランド "= 値」の形式で定義してください。環境設定ファイルの内容を確認してください。

KNAH2516-E

jp1immo.conf の構文に誤りがあります。オペランドが長すぎます。オペランドを 260 バイト以下の文字列にしてください。行数：*行番号 構文*

環境設定ファイルの*行番号*行目のオペランドに構文の誤りがあります。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

環境設定ファイル jp1immo.conf の*行番号*行目のオペランドが長過ぎます。環境設定ファイルの内容を確認してください。

KNAH2517-E

jp1immo.conf の構文に誤りがあります。" オペランド " しか定義されていません。" オペランド "= 値の形式で定義してください。行数：*行番号 構文*

環境設定ファイルの*行番号*行目のオペランドに構文の誤りがあります。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

環境設定ファイル jp1immo.conf の*行番号*行目のオペランドには「" オペランド "= 値」の形式で値を定義してください。環境設定ファイルの内容を確認してください。

KNAH2518-E

jp1immo.conf の構文に誤りがあります。" オペランド " の後が「=」になっていません。" オペランド "= 値の形式で定義してください。行数：*行番号 構文*

環境設定ファイルの*行番号*行目のオペランドに構文の誤りがあります。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

環境設定ファイル jp1immo.conf の*行番号*行目のオペランドには「" オペランド "= 値」の形式で値を定義してください。環境設定ファイルの内容を確認してください。

KNAH2519-E

jp1immo.conf の構文に誤りがあります。" オペランド "= の後に値が定義されていません。値が数値なら「" オペランド "=dword:16 進数字」，文字列値なら「" オペランド "=" 文字列 "」で定義してください。行数：*行番号 構文*

環境設定ファイルの*行番号*行目のオペランドに構文の誤りがあります。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

環境設定ファイル jp1immo.conf の*行番号*行目のオペランドには「" オペランド "= 値」の形式で値を定義してください。環境設定ファイルの内容を確認してください。

KNAH2520-E

jp1immo.conf の構文に誤りがあります。" オペランド "= の後に，数値なら「" オペランド "=dword:16 進数字」，文字列値なら「" オペランド "= 文字列」で定義してください。行数：*行番号 構文*

環境設定ファイルの*行番号*行目のオペランドに構文の誤りがあります。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

環境設定ファイル jp1immo.conf の*行番号*行目のオペランドには「" オペランド "= 値」の形式で値を定義してください。環境設定ファイルの内容を確認してください。

KNAH2521-E

jp1immo.conf の構文に誤りがあります。値が「""」で囲まれていません。" オペランド "=" 文字列 " の形式で定義してください。行数：*行番号 構文*

環境設定ファイルの*行番号*行目のオペランドに構文の誤りがあります。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

環境設定ファイル jp1immo.conf の*行番号*行目のオペランドには「" オペランド "=" 文字列 "」の形式で定義してください。環境設定ファイルの内容を確認してください。

KNAH2522-E

jp1immo.conf の構文に誤りがあります。「dword: 数字」に 16 進数字以外の文字が定義されています。数字には 16 進数字で定義してください。行数：*行番号 構文*

環境設定ファイルの*行番号*行目のオペランドに構文の誤りがあります。

(S)

jmosetcnf コマンドの処理を終了します。

(O)

環境設定ファイル jp1immo.conf の*行番号*行目のオペランドには「" オペランド "=dword:16 進数字」の形式で定義してください。環境設定ファイルの内容を確認してください。

KNAH2600-E

変換定義ファイルのオープンに失敗しました。(*変換定義ファイル名，関数名，エラーコード*)

変換定義ファイルのオープンに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

実行したコマンドが jmoimport コマンドまたは jmochktransfile コマンドの場合，次のことを確認してください。

- コマンドの引数で指定した変換定義ファイルがあるか。
- コマンドを実行するユーザーに変換定義ファイルへのアクセス権があるか。

実行したコマンドが jmoexport コマンドの場合，またはコマンドの引数で指定した変換定義ファイルがある場合，コマンドを実行するユーザーにフォルダまたはファイルへのアクセス権があることを確認してください。

KNAH2601-E

変換定義ファイル（*変換定義ファイル名*）の書式が誤っています。（*行数，エラー内容*）

コマンドの引数で指定した変換定義ファイルの書式が誤っています。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドの引数で指定した変換定義ファイルの書式が誤っています。正しい書式のファイルを指定してコマンドを再実行してください。

KNAH2602-W

変換定義ファイル（*変換定義ファイル名*）に記述してあるデータに誤りがあります。このデータはインポートできません。（*行数，エラー内容*）

変換定義ファイルに記述したデータに誤りがあります。

(S)

記述に誤りがあったデータを読み飛ばして次のデータの処理に移ります。

(O)

行数とエラー内容を参考に変換定義ファイルのデータを修正して，再度コマンドを実行してください。

KNAH2603-W

変換定義ファイル（*変換定義ファイル名*）に記述してあるデータは既に JP1/IM - MO 変換定義データベースに登録されています。（*行数*）

変換定義ファイルに記述したデータはすでに JP1/IM - MO 変換定義データベースに登録されています。

(S)

この行のデータは JP1/IM - MO 変換定義データベースには登録しないで，次のデータの処理に移ります。

(O)

この行のデータを JP1/IM - MO 変換定義データベースに登録したい場合は，-u オプションを指定して jmoimport コマンドを実行してください。

KNAH2604-Q

-o オプションで指定したファイル（*ファイル名*）が既に存在します。上書きしますか？（y|n）

jmoexport コマンドおよび jmocfexport コマンドの -o オプションで指定したファイルがすでにあります。上書きする場合は y を，上書きしないでコマンドを終了する場合は n を指定してください。

（S）

ユーザーの応答を待ちます。

（O）

「y」または「Y」が入力された場合，-o オプションで指定したファイルを新しくエクスポートするデータで上書きします。「n」または「N」が入力された場合は，-o オプションで指定したファイルには変更を加えないでコマンドの処理を終了します。

KNAH2605-E

JP1/IM - MO Assistant が接続中のため，コマンド（*コマンド名*）が実行できません。JP1/IM - MO Assistant を終了してからコマンドを実行してください。

JP1/IM - MO Assistant が接続中のため，コマンド（*コマンド名*）が実行できません。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

JP1/IM - MO に接続中の JP1/IM - MO Assistant を終了してから，コマンドを再実行してください。JP1/IM - MO に接続する JP1/IM - MO Assistant が一つもない場合にこのメッセージが表示されるときは，JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスを再起動してから，コマンドを再実行してください。

KNAH2606-E

エクスポートの対象となるデータが変換定義ファイルの最大レコード数（*最大レコード数*）を超過します。変換定義ファイルの最大行数（*最大行数*）までしか変換定義ファイルへ出力しません。

エクスポートの対象となるデータが変換定義ファイルの最大レコード数を超過します。

（S）

変換定義ファイルの最大行数までしか変換定義ファイルへ出力しないで，コマンドを終了します。

（O）

-e オプションや -g オプションを使用して，エクスポートの対象を限定して jmoexport コマンドを実行してください。

KNAH2607-I

y または Y が応答されました。変換定義ファイルを上書きしてエクスポートを実行します。

KNAH2604-Q に y または Y が応答されました。

（S）

変換定義ファイルを上書きしてエクスポートを実行します。

KNAH2608-I

y または Y 以外が応答されました。エクスポートを実行せずにコマンドを終了します。

KNAH2604-Q に y または Y 以外が応答されました。

（S）

エクスポートを実行しないでコマンドを終了します。

KNAH2609-E

基本メッセージ定義の出力中にメッセージテキストフィールドの取得に失敗しました（イベントソース：*イベントソース名*，メッセージ識別子：*メッセージ識別子の値* [, 追加メッセージ識別子：*追加メッセージ識別子の値*]）。

基本メッセージのエクスポート実行中に，変換定義管理データベースの変換メッセージ定義からのメッセージテキストフィールドの取得に失敗しました。

（S）

コマンドを終了します。

（O）

JP1/IM - MO Assistant を使用して，該当するイベントソースのフォーマット定義が実際に発行される JP1 イベントの内容と一致しているかを確認してください。

KNAH2610-W

基本フォーマット定義の日時情報フィールドの後区切（カラム位置指定）に誤りがあります。（*行数*）

変換定義ファイル中に記述したイベントソースで定義されている基本フォーマット定義の日時情報のフィールドに対して，誤ったカラム位置指定で後区切りを指定しています。

（S）

この行のデータは JP1/IM - MO 変換定義データベースには登録しないで，次のデータの処理に移ります。

（O）

JP1/IM - MO Assistant を使用して，該当するイベントソースのフォーマット定義の日時情報フィールドの後区切りを確認してください。

KNAH2611-W

変換定義ファイル（*変換定義ファイル名*）に記述してあるメッセージテキストの長さが，基本フォーマット定義でメッセージテキストフィールドの後区切（カラム位置指定）と一致していません。（*行数*）

変換定義ファイルの基本メッセージ定義行に記述したメッセージテキストの長さと，イベントソースの基本フォーマット定義のメッセージテキストフィールドの後区切り（カラム位置指定）の値が一致していません。

（S）

この行のデータは JP1/IM - MO 変換定義データベースには登録しないで，次のデータの処理に移ります。

（O）

JP1/IM - MO Assistant を使用して，該当するイベントソースのフォーマット定義のメッセージテキストフィールドの後区切りと変換定義ファイルのメッセージテキストの長さが一致しているかを確認してください。

KNAH2620-W

指定したイベントソース（*イベントソース名*）がデータベース内に存在していないか，定義が完成していません。（*行数*）

変換定義ファイル中に記述したイベントソース（*イベントソース名*）がデータベース内にないか，定義が完成していません。

（S）

このイベントソースおよびこのイベントソース以下に追加しようとした基本メッセージ，および変換

メッセージの定義を無視して，次のイベントソース名指定行以降の処理へと移ります。

(O)

変換定義ファイル中のイベントソース名指定行で指定するイベントソース名は，定義が完成しているイベントソースの名称を指定してください。

KNAH2621-E

-e オプションで指定したイベントソース（*イベントソース名*）はデータベース内に存在しません。

-e オプションで指定したイベントソース（*イベントソース名*）がデータベース内にありません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

-e オプションにはデータベースに定義済みのイベントソースの名前を指定してください。

KNAH2622-E

-g オプションで指定した変換メッセージ群（*変換メッセージ群名*）が -e オプションで指定したイベントソース（*イベントソース名*）の配下に存在しません。

-g オプションで指定した変換メッセージ群（*変換メッセージ群名*）が -e オプションで指定したイベントソース（*イベントソース名*）の配下にありません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

-g オプションには，-e オプションで指定したイベントソースに属する変換メッセージ群の名前を指定してください。

KNAH2623-W

指定した変換メッセージと同一のメッセージ識別子（*メッセージ識別子* [，*追加メッセージ識別子*]）を持つ基本メッセージが，データベース内に存在しません。（*行数*）

変換定義ファイル中に記述した変換メッセージと同一のメッセージ識別子（*メッセージ識別子* [，*追加メッセージ識別子*]）を持つ基本メッセージが，データベース内にありません。

(S)

この行の定義を無視して，次の行を処理します。

(O)

変換定義ファイルに変換メッセージを記述する場合は，次のどちらかの方法で基本メッセージを登録してください。

- 同じメッセージ識別子を持つ基本メッセージをあらかじめ登録する。
- 同じ変換定義ファイル内で該当する行よりも前に同じメッセージ識別子を持つ基本メッセージを定義する。

KNAH2624-W

指定した基本メッセージと同一のメッセージ識別子（*メッセージ識別子* [，*追加メッセージ識別子*]）を持つ基本メッセージが，データベース内に存在します。基本メッセージは更新できません。（*行数*）

変換定義ファイル中に記述した基本メッセージと同一のメッセージ識別子（*メッセージ識別子* [，*追加メッセージ識別子*]）を持つ基本メッセージが，データベース内にあります。基本メッセージは更新できません。

(S)

この行の定義を無視して，次の行の処理へと移ります。

(O)

基本メッセージの内容を変更する場合は，JP1/IM - MO Assistant で該当する基本メッセージを削除した上で再度インポートコマンドを実行してください。更新に失敗した基本メッセージと同一のメッセージ識別子を持つ変換メッセージを変換定義ファイルに記述した場合は，変換メッセージの更新状況を確認してください。

KNAH2625-W

変換定義ファイル（*変換定義ファイル名*）にインポート可能なレコードが定義されていません。

変換定義ファイルが空ファイルか，または改行，コメント行だけが記述されています。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

変換定義ファイルには，コメント行，空行のほかに，インポートできるレコードを記述してください。

KNAH2626-W

基本メッセージの重大度に任意の重大度が指定されています。（*行数*）

変換定義ファイルの基本メッセージ定義行のうち，重大度のカラムの値が，次の値以外になっています。

- Emergency
- Emergence
- Alert
- Critical
- Error
- Warning
- Notice
- Information
- Debug
- <None>

(S)

`jmochktransfile` コマンドの処理を続行します。

(O)

変換定義ファイル内の基本メッセージ定義行のうち，第 4 カラムの重大度の値が誤っていないか確認してください。

KNAH2627-W

イベントソース（*イベントソース名*）に定義されている変換メッセージ群（*変換メッセージ群名*）がリリース許可状態またはリリース解除許可状態のため，変換メッセージのインポートができません。（*行数*）

変換定義ファイルの変換メッセージ定義行に記述している変換メッセージ群がリリース許可またはリリース解除許可のため変換メッセージのインポートを実行できません。

(S)

この行の定義を無視して，次の行の処理へと移ります。

(O)

インポートできなかった変換メッセージをインポートする場合は，JP1/IM - MO Assistant を使用し

て該当する変換メッセージ群の状態を確認し，次の対処をしてください。

リリース許可状態の場合

JP1/IM - MO Assistant を使用して該当する変換メッセージ群のリリース許可を取り消し，編集状態またはリリース編集状態にした上で再度インポートコマンドを実行してください。

リリース解除許可状態の場合

JP1/IM - MO Assistant の［リリース実行］ボタンをクリックし，該当する変換メッセージ群のリリース解除を実行し，編集状態にした上で再度インポートコマンドを実行してください。

KNAH2630-W

適用先システム（*適用先システム名*）に適用する変換フォーマット（*変換フォーマット名*）がデータベース内に存在しません。（*行数*）

システム構成定義ファイルの適用先システム定義行で，適用する変換フォーマットに指定した変換フォーマットが存在しません。

（S）

この行の適用先システムの指定する変換フォーマットを変換しないで処理を続行します。

（O）

システム構成定義ファイルの適用先システム定義行の第 3 カラムに指定した変換フォーマット名が誤っていないか確認してください。
誤っている場合は，変換フォーマット名を修正し，更新モードでインポートコマンドを実行して，適用先システム定義を修正してください。インポートコマンドについては，「13. コマンド jmocfimport」を参照してください。

KNAH2631-W

適用先システム（*適用先システム名*）が属する親適用先システム（*親適用先システム名*）がデータベース内に存在しません。（*行数*）

システム構成定義ファイルの適用先システム定義行に指定した親適用先システムが存在しません。

（S）

この行の定義を無視し，次の適用先システム定義行の処理へと移ります。

（O）

システム構成定義ファイルの適用先システム定義行の第 2 カラムに指定した親適用先システム名が誤っていないか確認してください。特に，親適用先システムの定義が，それより前の適用先システム定義行ですでに定義されていることを確認してください。
定義が誤っている場合は，親適用先システム名を修正し，更新モードでインポートコマンドを実行して，適用先システム定義を修正してください。インポートコマンドについては，「13. コマンド jmocfimport」を参照してください。

KNAH2632-W

指定した適用先システム（*適用先システム名*）と同じ名称の適用先システムがデータベース内に存在するため，インポートできません。（*行数*）

システム構成定義ファイルに記述された適用先システム名と同じ名称の定義がすでに別の定義行に存在するためインポートできません。

（S）

この行の定義を無視し，次の適用先システム定義行の処理へと移ります。

（O）

システム構成定義ファイルの適用先システム定義行の第 1 カラムに指定した適用先システム名が，す

でに定義済みの適用先システムと同じ名称で別の適用先システム直下に存在しないか確認してください。
確認したあとに，定義済みの適用先システムの名称，または新しく定義しようとしている適用先システムの名称のどちらかを変更して，更新モードでインポートコマンドを実行して，適用先システム定義を修正してください。インポートコマンドについては，「13. コマンド jmocfimport」を参照してください。

KNAH2634-W

適用先システム（*適用先システム名*）がリリース許可状態またはリリース解除許可状態のため，更新できません。（*行数*）

インポート対象の適用先システムがリリース許可状態またはリリース解除許可状態のため，定義を更新できませんでした。

(S)

この行の定義を無視し，次の適用先システム定義行の処理へと移ります。

(O)

リリース許可状態またはリリース解除許可状態の適用先システム定義を編集状態，リリース状態，リリース編集状態のどれかに変更した上で，再度インポートを実行してください。状態を変更するための操作については，「10. 定義情報の管理」を参照してください。

KNAH2635-E

***定義種別*の件数が最大件数に達したためインポートを中止します。（*行数*，*定義名*）**

インポートコマンド実行中に適用先システム，発行元，基本メッセージまたは変換メッセージ群の定義件数が上限に達したためインポート処理を中止します。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

次のどちらかの対処をしてください。

定義種別が変換メッセージ群の場合

- JP1/IM - MO Assistant で不要な変換メッセージ群を削除する。

定義種別が変換メッセージ群以外の場合

- データベースサイズを拡張する。データベースサイズを拡張する方法については，「11.5.2 運用開始後にデータベースの容量を大きくする」を参照してください。
- JP1/IM - MO Assistant で不要な適用先システム，発行元または基本メッセージを削除する。

KNAH2636-W

指定した発行元（*発行元名*）と同じ名称の発行元がデータベースに存在するため，発行元の更新ができません。（*行数*）

システム構成定義ファイルに記述された発行元名と同じ名称の発行元がすでに存在するため，定義を更新できませんでした。

(S)

この行の定義を無視し，次の行の処理へと移ります。

(O)

システム構成定義ファイルに定義した発行元と同じ名称でイベントサーバ名が異なる発行元がすでに定義されています。
定義済みの発行元の名称，または新しく定義しようとしている発行元の名称のどちらかを変更して，

更新モードでインポートコマンドを実行して，適用先システム定義を修正してください。

KNAH2637-Q

ファイルの書式チェックを終了しました。システム構成のインポートを続行しますか？（y|n）

IM 構成情報情報またはシステム構成定義ファイルの書式チェックを終了しました。

（S）

ユーザーの応答を待ちます。

（O）

インポートを続行する場合は，「y」または「Y」を入力してください。「n」または「N」を入力した場合は，IM 構成情報情報またはシステム構成定義ファイルをインポートしません。

KNAH2638-W

IM 構成管理情報と同名の定義が存在するため，以下の名称でデータベースに定義を格納しました。（*IM 構成管理情報のファイル名，IM 構成管理情報でのホスト名，定義種別，定義名*）

IM 構成情報情報にすでに定義されている内容と同じ名称の定義が存在したため，IM 構成管理情報に定義されているホスト名に番号を付加した名称で定義しました。

（S）

IM 構成管理情報のホスト名に番号を付加した名称で定義し , コマンドの処理を続行します。

（O）

インポート後に，名称を変更した定義を確認し，必要に応じて JP1/IM - MO Assistant で定義名を修正してください。

KNAH2639-W

適用先システム（*適用先システム名*）がリリース許可状態またはリリース解除許可状態のため，発行元（*発行元名*）の移動ができません。（*行数*）

インポート対象の発行元が属する適用先システムが，リリース許可状態またはリリース解除許可状態のため，発行元を移動しませんでした。

（S）

この行の定義を無視し，次の行の処理へと移ります。

（O）

リリース許可状態またはリリース解除許可状態の適用先システム定義を編集状態，リリース状態，リリース編集状態のどれかに変更した上で，再度インポートを実行してください。状態を変更するための操作については，「10.　定義情報の管理」を参照してください。

KNAH2640-E

システム構成定義ファイルのオープンに失敗しました。（*システム構成定義ファイル名，関数名，エラーコード*）

システム構成定義ファイルのオープンに失敗しました。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

実行したコマンドに応じて次に示すことを確認してください。

`jmocfimport` コマンドの場合

- `-i` オプションに指定したファイルが存在する（指定したファイル名に誤りがない）。

- コマンド実行ユーザーがシステム構成定義ファイルの読み取り権限を持っている。

jmocfexport コマンドの場合

- -o オプションに指定したフォルダが存在する（指定したファイル名に誤りがない）。
- システム構成定義ファイルがすでに存在する場合，コマンド実行ユーザーがシステム構成定義ファイルの書き込み権限を持っている。
- システム構成定義ファイルが存在しない場合，コマンド実行ユーザーが，システム構成定義ファイルを出力するフォルダに対してファイル作成の権限を持っている。

KNAH2641-E

システム構成定義ファイル（*システム構成定義ファイル名*）の書式が誤っています。（*行数，エラー内容*）

システム構成定義ファイルの書式が誤っています。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

指定したシステム構成定義ファイルの書式が誤っています。正しい書式のファイルを指定してコマンドを再実行してください。

KNAH2642-W

システム構成定義ファイル（*システム構成定義ファイル名*）に記述してあるデータに誤りがあります。このデータはインポートできません。（*行数，エラー内容*）

システム構成定義ファイルに記述したデータに誤りがあります。

（S）

記述に誤りがあったデータを読み飛ばして次のデータの処理に移ります。

（O）

行数とエラー内容を参考にシステム構成定義ファイルのデータを修正して，再度コマンドを実行してください。

KNAH2643-W

システム構成定義ファイル（*システム構成定義ファイル名*）に記述してあるデータは既にデータベースに登録されています。（*行数，定義種別，定義名*）

システム構成定義ファイルに記述した定義の名称と同じ定義が存在したため，定義をインポートしませんでした。

（S）

この行の定義を更新しないで次のデータの処理に移ります。

（O）

この行のデータを登録したい場合は，-u オプションを指定して jmocfimport コマンドを再実行してください。

KNAH2644-E

IM 構成管理情報（*ファイル名*）のオープンに失敗しました。（*関数名，エラーコード*）

IM 構成管理情報のファイルのオープンに失敗しました。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

次に示すことを確認してください。

- -i オプションで指定したフォルダが存在する。
- -i オプションで指定したフォルダ内に IM 構成管理情報のファイル（host_input_data.csv）が存在する。
- コマンド実行ユーザーに IM 構成管理情報のファイルの読み取り権限がある。

KNAH2645-E

IM 構成管理情報（*ファイル名*）の定義が誤っています。（*行数，エラー内容*）

IM 構成管理情報のファイルの定義が誤っています。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

正しい IM 構成管理情報を指定してコマンドを再実行してください。

KNAH2646-I

システム構成定義ファイルを上書きしてエクスポートを実行します。

KNAH2604-Q に y または Y が応答されました。

（S）

システム構成定義ファイルを上書きしてエクスポートします。

KNAH2647-I

システム構成のエクスポートコマンドを中止しました。（*戻り値*）

KNAH2604-Q に n または N が応答されたため，エクスポートを中止しました。

（S）

コマンドの処理を終了します。

KNAH2648-W

システム構成定義ファイル（*システム構成定義ファイル名*）にインポート可能なレコードが定義されていません。

システム構成定義ファイルが空ファイルか，または改行，コメント行だけが記述されています。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

システム構成定義ファイルには，コメント行，空行のほかに，インポートできるレコードを記述してください。

KNAH2649-Q

システム階層構成情報ファイルが存在しません。発行元情報のみインポートを続行しますか？（y|n）

IM 構成管理情報を定義しているファイルのうち，システム階層構成を定義しているファイル（system_tree_information.txt）が存在しません。

（S）

ユーザーの応答を待ちます。

（O）

インポートを続行する場合は，「y」または「Y」を入力してください。「n」または「N」が入力され

た場合は，インポートを中止し，コマンドを終了します。
インポートする場合は，次の内容を確認してください。
- -i オプションで指定したフォルダに IM 構成管理情報のシステム階層構成情報ファイル（system_tree_information.txt）が存在する。

KNAH2701-E

データベースのセットアップが完了していません。

データベースがセットアップされていないため，コマンドを実行できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

jmoedbsetup コマンドによるデータベースのセットアップを実行したあと，コマンドを再実行してください。

KNAH2702-E

データベースへの接続に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

データベースが正常に動作しているか，JP1/IM - Message Optimizer Database サービスの状態を確認してください。

KNAH2710-W

データベースのセットアップはすでに実行済です。

JP1/IM - MO 用のセットアップ済みのため，セットアップできません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

データベースはすでにセットアップを完了しているため，セットアップする必要はありません。
再セットアップする場合は，jmoedbsetup コマンドの -u オプションを指定し，コマンドを再実行してください。
データベースが使用するポート番号を変更する場合は，jmoedbsetup コマンドの -p オプションを指定し，コマンドを再実行してください。

KNAH2712-E

指定したファイル名のパスが長すぎます。

指定したファイル名のパスが長過ぎます。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

ファイル名を変更し，コマンドを再実行してください。

KNAH2713-E

指定したファイル名はフルパス名称ではありません。ファイル名（*ファイル名*）

指定したファイル名はフルパス名称ではありません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

フォルダ名を確認したあと，正しい形式のフルパス名を指定してください。

KNAH2714-E

指定したファイル名はローカルディスク上のファイルではありません。ファイル名（*ファイル名*）

指定したファイル名はローカルディスク上のファイルではありません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

ローカルディスク上のファイルまたはフォルダを指定して，コマンドを再実行してください。

KNAH2715-E

指定したファイルがすでに存在しています。ファイル名（*ファイル名*）

指定したファイル名のファイルがすでにあるため，ファイルを出力できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

ファイル名を変更してコマンドを再実行してください。

KNAH2718-E

データベースのセットアップに失敗しました。ポート番号が重複しています。ポート番号（*ポート番号*）

データベース接続用のポート番号がほかのプログラムによって使用されているため，セットアップが実行できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

JP1/IM - MO で使用しているポート番号が重複して設定されていたり，ほかのプログラムで同じポート番号を使用したりしていないかを確認してください。
なお，指定ホスト名から IP アドレスが求められるように，ネットワーク設定が正しく設定されているかも確認してください。

KNAH2719-E

データベースのセットアップに失敗しました。ディスクの空き領域が不足しています。

データベースのセットアップに失敗しました。ディスクの空き領域が不足しています。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

空き領域を確保し，コマンドを再実行してください。

KNAH2720-E

指定したファイルにアクセスできません。（*ファイル名，関数名，エラーコード*）

コマンドのオプションに指定したパスに対するアクセス権限がないため，コマンドを実行できません。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

jmoedbsetup コマンドの場合

-d オプションおよび -r オプションの設定値に指定したフォルダに対して，コマンドを実行するユーザーに書き込み権限があるかを確認してください。そのあと，jmoedbsetup コマンドを再実行してください。

jmoedbrorg コマンドおよび jmoedbbackup コマンドの場合

-b オプションの設定値に指定したファイルおよびファイルを格納するフォルダに対して，コマンドを実行するユーザーに書き込み権限があるかを確認してください。そのあと，コマンドを再実行してください。

jmoedbrstr コマンドの場合

-b オプションの設定値に指定したファイルに対して，コマンドを実行するユーザーに読み取り権限があるかを確認してください。そのあと，jmoedbrstr コマンドを再実行してください。

KNAH2721-E

指定したファイル名に使用禁止文字が含まれています。（*ファイル名*）

コマンドのオプションに指定したファイル名に使用禁止文字が含まれているため，コマンドを実行できません。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

ファイル名を変更し，コマンドを再実行してください。

KNAH2722-E

-d オプションのデフォルト値のディレクトリ名称が長すぎるため，データ格納領域を作成できません。（*フォルダ名称*）

JP1/IM - MO インストールパスが長過ぎるため，JP1/IM - MO インストールパス以下にデータ格納領域を作成できません。

（S）

コマンドの処理を終了します。

（O）

-d オプションを指定して jmoedbsetup コマンドを再実行してください。

その際，-d オプションの設定値について次の点に注意してください。

- データベース格納領域パスに指定できる文字以外を使用しないこと
- 125 バイトを超える文字列でないこと

KNAH2723-E

-d オプションのデフォルト値のディレクトリ名称に使用禁止文字が含まれるため，データ格納領域を作成できません。（*フォルダ名称*）

JP1/IM - MO インストールパスに使用禁止文字が含まれるため，JP1/IM - MO インストールパス以下にデータ格納領域を作成できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

-d オプションを指定して jmoedbsetup コマンドを再実行してください。その際，-d オプションの設定値について次の点に注意してください。

- データベース格納領域パスに指定できる文字以外を使用しないこと
- 125 バイトを超える文字列でないこと

KNAH2724-E

指定したディレクトリ名称のパスが長すぎます。

指定したディレクトリ名称のパスが長過ぎます。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

ファイル名を変更し，コマンドを再実行してください。

KNAH2725-E

指定したディレクトリは存在していません。(*フォルダ名称*)

指定したディレクトリは存在していません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

フォルダ名を確認したあと，正しい形式のフルパス名を指定してください。

KNAH2726-E

指定したディレクトリ名称はローカルディスク上のパスではありません。(*フォルダ名称*)

指定したディレクトリ名称はローカルディスク上のパスではありません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

ローカルディスク上のフォルダを指定して，コマンドを再実行してください。

KNAH2727-E

出力するディレクトリと同名のファイルまたはディレクトリが存在します。(*フォルダ名称*)

出力ファイルと同名のファイルまたはフォルダがあるため，バックアップ処理を中止しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

フォルダ名を変更してコマンドを再実行してください。

KNAH2728-E

指定したディレクトリにアクセスできません。（*フォルダ名称，関数名，エラーコード*）

コマンドのオプションに指定したパスに対するアクセス権限がないため，コマンドを実行できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

jmoedbbackup コマンドの場合

-b オプションの設定値に指定したフォルダ，およびその上位フォルダに対して，コマンドを実行するユーザーに書き込み権限があるかを確認してください。そのあと，jmoedbbackup コマンドを再実行してください。

jmoedbrstr コマンドの場合

-b オプションの設定値に指定したフォルダに対して，コマンドを実行するユーザーに読み取り権限があるかを確認してください。そのあと，jmoedbrstr コマンドを再実行してください。

KNAH2729-E

指定したディレクトリ名称に使用禁止文字が含まれています。（*フォルダ名称*）

コマンドのオプションに指定したパスに使用禁止文字が含まれているため，コマンドを実行できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

フォルダ名を変更し，コマンドを再実行してください。

KNAH2730-Q

データベースのセットアップはすでに実行済です。再セットアップを実行しますか？（y|n）

データベースのセットアップはすでに実行済みです。

(S)

ユーザーの応答を待ちます。

(O)

データベースを再セットアップする場合は，「y」または「Y」を入力してください。「n」または「N」が入力された場合は，セットアップ処理を中止し，コマンドを終了します。

KNAH2731-I

データベースの再セットアップを実行します。

データベースの再セットアップを実行します。

(S)

データベースの再セットアップを実行します。

KNAH2732-I

データベースのセットアップ処理を中止します。

データベースのセットアップ処理を中止します。

(S)

コマンドの処理を終了します。

KNAH2733-I

バックアップディレクトリを出力します。ディレクトリ名（*フォルダ名称*）

バックアップディレクトリを出力します。

(S)

バックアップフォルダを出力します。

KNAH2734-E

バックアップディレクトリに必要なファイルがありません。

バックアップディレクトリに必要なファイルがありません。

(S)

コマンドの処理を終了します（リストアを開始しません）。

(O)

jmoedbbackup コマンドが正常終了したときに出力したバックアップフォルダをリストアに使用するようにしてください。

KNAH2735-Q

データベースのリストアを行うと，現在データベースに存在する定義情報はすべて削除されます。データベースのリストアを行いますか？（y|n）

データベースのリストアをすると，現在データベースにある定義情報はすべて削除されます。

(S)

ユーザーの応答を待ちます。

(O)

データベースをリストアする場合は，「y」または「Y」を入力してください。「n」または「N」が入力された場合は，セットアップ処理を中止し，コマンドを終了します。

KNAH2736-I

データベースのリストアを中止します。

データベースのリストアを中止します。

(S)

コマンドの処理を終了します。

KNAH2737-Q

ログファイルトラップのイベントソースのプログラム名指定を有効にすると無効にできなくなります。ログファイルトラップのイベントソースのプログラム名指定を有効にしますか？（y|n）

ログファイルトラップのイベントソースのプログラム名指定を一度有効にすると，それ以降無効にできなくなります。

(S)

ユーザーの応答を待ちます。

(O)

ログファイルトラップのイベントソースのプログラム名指定を有効にする場合は，「y」または「Y」を入力してください。「n」または「N」を入力した場合は，セットアップ処理が中止され，コマンドの実行が終了します。

KNAH2738-W

ログファイルトラップのイベントソースのプログラム名指定はすでに有効です。

ログファイルトラップのイベントソースのプログラム名指定がすでに有効に設定されているため，セットアップできません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

ログファイルトラップのイベントソースのプログラム名指定は有効です。セットアップする必要はありません。

KNAH2739-Q

追加メッセージ識別子指定を有効にすると無効にできなくなります。追加メッセージ識別子指定を有効にしますか？（y|n）

追加メッセージ識別子指定は，一度有効にすると，それ以降無効にできなくなります。

(S)

ユーザーの応答を待ちます。

(O)

追加メッセージ識別子指定を有効にする場合は，「y」または「Y」を入力してください。「n」または「N」を入力した場合は，セットアップ処理が中止され，コマンドの実行が終了します。

KNAH2740-W

データベースが既に停止している，または起動処理中のため，データベースの停止処理を中止します。

すでにデータベースが停止状態であるか，起動処理中のため，データベースの停止処理を中止します。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

非クラスタ環境の場合

JP1/IM - Message Optimizer Database サービスを再起動してください。なお，非クラスタ環境では，`jmoedbstop` コマンドを実行しないでください。非クラスタ環境でデータベースを停止する場合は，JP1/IM - Message Optimizer Database サービスを停止してください。

クラスタ環境の場合

クラスタソフトによって JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービスが起動処理中でないか確認してください。

JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービスが起動処理中の場合は，起動処理が完了してからデータベースを停止してください。

JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービスが起動処理中でない場合は，すでにデータベースは停止しています。

KNAH2741-E

セットアップ済みのデータベースのデータベース格納領域フォルダまたはポート番号の取得に失敗しました。

セットアップ済みのデータベースのデータベース格納領域フォルダまたはポート番号を取得できませんでした。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

-u オプション，-p オプション，および -d オプションをすべて指定して，再度 jmoedbsetup コマンドを実行してください。

KNAH2742-E

指定したディレクトリ名称はフルパス名称ではありません。(*フォルダ名称*)

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

フォルダ名を確認したあと，正しい形式でフルパス名を指定してください。

KNAH2743-E

指定したディレクトリ名称は共有ディスク上のディレクトリではありません。(*フォルダ名称*)

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

共有ディスク上のフォルダ名を指定し，コマンドを再実行してください。

KNAH2744-W

追加メッセージ識別子指定はすでに有効です。

追加メッセージ識別子指定が既に有効に設定されているため，セットアップできません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

追加メッセージ識別子指定が有効に設定されているため，セットアップを実行する必要はありません。

KNAH2745-Q

セットアップ済みのデータベースサイズより小さなサイズが -s オプションに指定されています。再セットアップを続行しますか？ (y|n)

セットアップ済みのデータベースより小さなサイズのデータベースにセットアップするかどうかを選択します。

(S)

ユーザーの応答を待ちます。

(O)

再セットアップする場合は，「y」または「Y」を入力してください。「n」または「N」が入力された場合は，セットアップしないで，コマンドを終了します。
ただし，データベースサイズを小さくして再セットアップするとエラーになることがあります。

KNAH2746-W

セットアップ済みのデータベースサイズより小さなサイズを指定してデータベースの再セットアップを行います。

セットアップ済みのデータベースより小さなサイズのデータベースにセットアップします。

(S)

データベースの再セットアップを実行します。

KNAH2747-E

指定されたバックアップがバージョン*バージョン値*で取得されたものであるためリストアできません。

jmoedbrstr コマンドの -b オプションで指定したバックアップフォルダが，リストア先の JP1/IM - MO とは異なるバージョンで作成されたもののため，リストアできません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

-b オプションの指定が誤っている場合は，正しいバックアップフォルダを指定してコマンドを再実行してください。
-b オプションに指定したバックアップフォルダの情報をリストアしたい場合は，JP1/IM - MO のバージョンをバックアップ取得時のバージョンに戻してからコマンドを再実行してください。

KNAH2790-E

コマンド（*コマンド名*）実行中にデータベースエラーが発生しました。（*関数名*，*エラーコード*，*保守情報 1*，*保守情報 2*，*保守情報 3*，*保守情報 4*）

内部処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

このメッセージが出力されたコマンドに応じて，次のように対処してください。

jmoedbsetup コマンド

-d オプションまたは -r オプションで指定したデータベース格納領域（-d オプション省略時は JP1/IM - MO **インストール先フォルダ**）について，次のことを確認してください。

- フォルダ名称に使用できる文字以外の文字がパスに含まれていないこと
  フォルダ名称に使用できる文字については，「13. コマンド jmoedbsetup」を参照してください。
- NTFS 上のフォルダであること
  FAT，FAT32 上のフォルダにはデータベース格納領域を作成できません。

この対処で問題が解決しない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

jmoedbrorg コマンド

-b オプションで指定したパス（-b オプション省略時は JP1/IM - MO **インストール先フォルダ**¥sys¥unload）について，次のことを確認してください。

- ファイル名称に使用できる文字以外の文字がパスに含まれていないこと
  ファイル名称に使用できる文字については，「13. コマンド jmoedbrorg」を参照してください。
- 存在するディスクの空き領域が不足していないこと

このコマンドの実行に必要な空き領域は jmoedbbackup コマンドで取得するバックアップフォルダのサイズと同じです。jmoedbbackup コマンドで取得するバックアップフォルダのサイズについては，「付録 H.4 データベースバックアップ時の容量の見積もり」を参照してください。
この対処で問題が解決しない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

jmoedbbackup コマンド

-b オプションで指定した出力先フォルダのディスクの空き領域が不足していないか確認してください。

このコマンドの実行に必要な空き領域については，「付録 H.4　データベースバックアップ時の容量の見積もり」を参照してください。

この対処で問題が解決しない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

jmoedbrstr コマンド

データベース領域が不足しているおそれがあります。次のことを確認してください。

- このコマンドを実行する前に jmoedbsetup コマンドで，データベースのサイズを小さくした場合
  現在のデータベースサイズを jmoedbgetinf コマンドで確認し，jmoedbsetup コマンドで現在のデータベースサイズより大きいサイズに拡張したあと，再度 jmoedbrstr コマンドを実行してください。
- jmoedbbackup コマンドによって別の環境で取得したバックアップフォルダをデータベースサイズが異なる環境にリストアした場合
  移行元のデータベースサイズと移行先のデータベースサイズを jmoedbgetinf コマンドで確認し，移行先のデータベースサイズが小さいサイズのときは，jmoedbsetup コマンドで移行元のデータベースサイズと同じサイズまたは，より大きいサイズに拡張したあと，再度 jmoedbrstr コマンドを実行してください。

これらの対処で問題が解決しない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

jmoedbstop コマンド

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH2900-E

メモリー不足が発生しました。（*保守情報 1，保守情報 2，保守情報 3，保守情報 4*）

メモリーが不足しているため，メモリーを割り当てられません。

(S)

jmorelease コマンドの場合，トランザクションをロールバックして，処理を終了します。

jmorelease コマンド以外の場合，処理を終了します。

(O)

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH2901-E

ファイルの入出力中にエラーが発生しました。（*関数名，エラーコード，保守情報 1，保守情報 2，保守情報 3，保守情報 4*）

ファイルの入出力中にエラーが発生しました。

(S)

処理を終了します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH2902-E

通信中にエラーが発生しました。（*関数名，エラーコード，保守情報 1，保守情報 2，保守情報 3，保守情報 4*）

通信のイベント待ちでエラーが発生しました。

（S）

処理を終了します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH2903-E

システムエラーが発生しました。（*関数名，エラーコード，保守情報 1，保守情報 2，保守情報 3，保守情報 4*）

システムエラーが発生しました。

（S）

処理を終了します。

（O）

関数名に「INIT_MM_LOG（）」と表示された場合は，次のことを確認してください。

- JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** ¥log に読み取り権限があるユーザーでコマンドを実行しているか。
- JP1/IM - MO インストール先フォルダに書き込み権限があるユーザーでコマンドを実行しているか。

これらのフォルダの権限を設定してから，コマンドを再実行してください。
上記対処で問題が解決しない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

16.4.2 JP1/IM - MO Assistant が出力するメッセージ（KNAH4000 ～ KNAH4999）

JP1/IM - MO Assistant が出力するメッセージの一覧を次に示します。

KNAH4020-I

リリースまたはリリース解除実行処理が完了しました。

リリース実行処理が完了したことを通知するメッセージです。

（S）

画面を最新の情報に更新します。

（O）

リリース実行処理の結果を確認してください。

KNAH4060-Q

選択された適用先システムとそれ以下の適用先システム，および全ての［リリース編集］状態の適用先システムとそれ以下の適用先システムを同時にリリース許可します。よろしいですか？

［適用先システム一覧］ダイアログで［編集］または［リリース編集］状態の適用先システムを選択し，［リリース許可］ボタンをクリックした場合に表示します。選択された適用先システムとそれ以下の適用先システム，およびすべての［リリース編集］状態の適用先システムとそれ以下の適用先システムをリリース許可してもよいかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

選択された適用先システムとそれ以下の適用先システム，およびすべての［リリース編集］状態の適用先システムとそれ以下の適用先システムをリリース許可する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4061-Q

選択された適用先システム，および全ての［リリース許可］状態の適用先システムのリリース許可を同時に取り消します。よろしいですか？

［適用先システム一覧］ダイアログで［リリース許可］状態の適用先システムを選択し，［リリース許可取消］ボタンをクリックした場合に表示します。選択された適用先システム，およびすべての［リリース許可］状態の適用先システムのリリース許可を取り消してもよいかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

選択された適用先システム，およびすべての［リリース許可］状態の適用先システムのリリース許可を取り消す場合は［はい］を，取り消さない場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4062-Q

選択された適用先システム，およびそれ以下の適用先システムを同時にリリース解除許可します。よろしいですか？

［適用先システム一覧］ダイアログで［リリース］または［リリース編集］状態の適用先システムを選択し，［リリース解除許可］ボタンをクリックした場合に表示します。選択された適用先システム，およびそれ以下の適用先システムをリリース解除許可してもよいかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

選択された適用先システム，およびそれ以下の適用先システムをリリース解除許可する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4063-Q

適用先システムの「全てのシステム」に対する変換フォーマットの設定が変更されました。「全てのシステム」のリリースを実行します。よろしいですか？

このとき，同時に「全てのシステム」配下にあるすべての適用先システムとそれらに適用されている変換フォーマットもリリースします。

［変換フォーマット定義］ダイアログで［適用先システムの［全てのシステム］に対してこの変換フォーマットを適用する］の設定を変更し，［OK］ボタンをクリックした場合に表示します。変換フォーマット

定義の更新または追加と同時に適用先システムの「全てのシステム」をリリースするかどうかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

適用先システムの「全てのシステム」とその配下のすべての適用先システムをリリースする場合は［はい］を，適用先システムの「全てのシステム」をすぐにリリースしない場合は［後でリリースする］を，変換フォーマット定義の更新または追加を中止する場合は［キャンセル］をクリックしてください。

KNAH4064-Q

［適用先システム選択］画面で選択した適用先システムを*処理名*します。よろしいですか？ただし，適用先システムを*処理名*すると，それ以下の適用先システム，および全ての［リリース編集］状態の適用先システムとそれ以下の適用先システムも同時に*処理名*します。

イベントソース名：*イベントソース名*

変換メッセージ群名：*変換メッセージ群名*

変換メッセージ群をリリース許可，またはリリースする場合に，同時に［適用先システム選択］ダイアログでひも付けたリリース編集状態の適用先システムをリリース許可，またはリリースするかどうかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

［はい］

変換メッセージ群およびそれにひも付いている適用先システムをリリース許可またはリリースする場合にクリックします。

［以降すべて，はい］

適用先システムが階層化されている場合に，ひも付いている適用先システム下のすべての適用先システムに，［はい］の入力を設定するときにクリックします。

［いいえ］

変換メッセージ群のリリース許可またはリリースを取り消す場合にクリックします。［いいえ］を選択した場合，ひも付いている適用先システムの状態によって変換メッセージ群のリリースが取り消されないことがあります。

適用先システムがリリース編集状態のときは，変換メッセージ群はリリース許可またはリリースされたままです。

適用先システム編集状態のときは，変換メッセージ群のリリース許可またはリリースは取り消されます。

［以降すべて，いいえ］

適用先システムが階層化されている場合に，ひも付いている適用先システムの下のすべての適用先システムに，常に［いいえ］を応答するときにクリックします。

［キャンセル］

一括処理を中止する場合は，選択してください。

KNAH4068-Q

適用先システムの名前を変更します。また，適用先システムのリリースも実行し，JP1 イベント変換処理がログに出力する適用先システムの名前も同時に変更します。よろしいですか？ただし，適用先システムをリリースす

ると，それ以下の適用先システム，および全ての［リリース編集］状態の適用先システムとそれ以下の適用先システムも同時にリリースします。

適用先システムの名前が変更された場合に表示します。適用先システムをリリースしてから名前だけが変更されていた場合に，適用先システムの名前を変更してもよいかを確認します。また，同時に適用先システムのリリースも実行し，JP1 イベント変換処理がログに出力する定義情報の名前も同時に変更してもよいかも確認します。ただし，適用先システムをリリースすると，それ以下の適用先システム，およびすべての［リリース編集］状態の適用先システムとそれ以下の適用先システムも同時にリリースします。

（S）

応答を待ちます。

（O）

適用先システムの名前を変更し，同時にリリースも実行する場合は［はい］を，名前の変更だけをする場合は［後でリリースする］を，名前の変更を中断する場合は［キャンセル］をクリックしてください。適用先システムをリリースするまでは，JP1/IM - MO Assistant の通常モードでは変更後の名前を，JP1/IM - MO Assistant のリリース照会モード，および JP1 イベント変換処理が出力するログでは変更前の名前を出力します。適用先システムのリリースを実行すると，すべて変更後の名前を出力するようになります。

KNAH4069-Q

適用先システムの名前を変更します。また，適用先システムのリリースも実行し，JP1 イベント変換処理がログに出力する適用先システムの名前も同時に変更します。よろしいですか？ただし，リリースを実行すると，適用先システムに定義した JP1 イベント変換処理が使用する変換定義情報も同時に変更します。また，適用先システムをリリースすると，それ以下の適用先システム，および全ての［リリース編集］状態の適用先システムとそれ以下の適用先システムも同時にリリースします。

適用先システムの名前が変更された場合に表示します。適用先システムをリリースしてから，名前以外も変更されていた場合に，適用先システムの名前を変更してもよいかを確認します。また，同時に適用先システムのリリースも実行し，JP1 イベント変換処理がログに出力する定義情報の名前も同時に変更してもよいかも確認します。ただし，適用先システムをリリースすると，それ以下の適用先システム，およびすべての［リリース編集］状態の適用先システムとそれ以下の適用先システムも同時にリリースします。

（S）

応答を待ちます。

（O）

適用先システムの名前を変更し，同時にリリースも実行する場合は［はい］を，名前の変更だけする場合は［後でリリースする］を，名前の変更を中断する場合は［キャンセル］をクリックしてください。適用先システムをリリースするまでは，JP1/IM - MO Assistant の通常モードでは変更後の名前を，JP1/IM - MO Assistant のリリース照会モード，および JP1 イベント変換処理が出力するログでは変更前の名前を出力します。適用先システムのリリースを実行すると，すべて変更後の名前を出力するようになります。また，適用先システムに定義した JP1 イベント変換処理が使用する変換定義情報も同時に変更します。

KNAH4070-Q

定義情報の名前を変更します。また，定義情報のリリースも実行し，JP1 イベント変換処理がログに出力する定義情報の名前も同時に変更します。よろしいですか？

定義情報の名前が変更された場合に表示します。定義情報をリリースしてから，名前だけが変更されていた場合に，定義情報の名前を変更してもよいかを確認します。また，同時に定義情報のリリースも実行し，JP1 イベント変換処理がログに出力する定義情報の名前も同時に変更してもよいかも確認します。

（S）

応答を待ちます。

（O）

定義情報の名前を変更し，同時にリリースも実行する場合は［はい］を，名前の変更だけする場合は［後でリリースする］を，名前の変更を中断する場合は［キャンセル］をクリックしてください。定義情報をリリースするまでは，JP1/IM - MO Assistant の通常モードでは変更後の名前を，JP1/IM - MO Assistant のリリース照会モード，および JP1 イベント変換処理が出力するログでは変更前の名前を出力します。定義情報のリリースを実行すると，すべて変更後の名前を出力するようになります。

KNAH4071-Q

定義情報の名前を変更します。また，定義情報のリリースも実行し，JP1 イベント変換処理がログに出力する定義情報の名前も同時に変更します。よろしいですか？ただし，リリースを実行すると，定義情報に定義した JP1 イベント変換処理が使用する変換定義情報も同時に変更します。

定義情報の名前が変更された場合に表示します。定義情報をリリースしてから，名前以外も変更されていた場合に，定義情報の名前を変更してもよいかを確認します。また，同時に定義情報のリリースも実行し，JP1 イベント変換処理がログに出力する定義情報の名前も同時に変更してもよいかも確認します。

（S）

応答を待ちます。

（O）

定義情報の名前を変更し，同時にリリースも実行する場合は［はい］を，名前の変更だけする場合は［後でリリースする］を，名前の変更を中断する場合は［キャンセル］をクリックしてください。定義情報をリリースするまでは，JP1/IM - MO Assistant の通常モードでは変更後の名前を，JP1/IM - MO Assistant のリリース照会モード，および JP1 イベント変換処理が出力するログでは変更前の名前を出力します。定義情報のリリースを実行すると，すべて変更後の名前を出力するようになります。また，定義情報に定義した JP1 イベント変換処理が使用する変換定義情報も同時に変更します。

KNAH4072-Q

イベントソースから発行されるメッセージの学習を開始します。よろしいですか？

［メッセージを学習する］をチェックしたイベントソースから発行されるメッセージの学習を開始するかを確認します。

（S）

応答を待ちます。

（O）

［メッセージを学習する］にチェックしたイベントソースから発行されるメッセージの学習を開始する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。［はい］を選択した場合，イベントソースがリリースされ，メッセージの学習が即時に開始されます。

KNAH4073-Q

イベントソースから発行されるメッセージの学習を停止します。よろしいですか？

［メッセージを学習する］のチェックを外したイベントソースから発行されるメッセージの学習を停止するかを確認します。

（S）

応答を待ちます。

（O）

［メッセージを学習する］のチェックを外したイベントソースから発行されるメッセージの学習を停止する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。［はい］を選択した場

合，イベントソースがリリースされ，メッセージの学習が即時に停止されます。

KNAH4074-Q

発行元からのメッセージの抑止の設定を変更します。よろしいですか？この変更は［適用先システム定義］ダイアログで［OK］ボタンをクリックしたときに JP1 イベント変換処理に反映します。

発行元からのメッセージの抑止の設定を変更するかを確認します。

（S）

応答を待ちます。

（O）

［発行元選択］ダイアログで変更した発行元の抑止の設定を変更する場合は［はい］を，変更しない場合は［いいえ］をクリックしてください。［はい］をクリックした場合，この変更は［適用先システム定義］ダイアログで［OK］ボタンをクリックしたときに JP1 イベント変換処理に反映します。［いいえ］をクリックした場合，［発行元選択］ダイアログの保存処理を中断します。

KNAH4075-Q

発行元からのメッセージを JP1/IM - Message Optimizer から発行しないように設定を変更します。よろしいですか？

［この発行元からのメッセージを JP1/IM - MO から発行しない］をチェックしたため，この発行元から発行されるメッセージを JP1/IM - MO から発行しないように設定を変更してもよいかを確認します。

（S）

応答を待ちます。

（O）

［この発行元からのメッセージを JP1/IM - MO から発行しない］にチェックした発行元から発行されるメッセージを JP1/IM - MO から発行しないように設定を変更する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。［いいえ］をクリックした場合，［発行元定義］ダイアログの保存処理を中断します。

KNAH4076-Q

発行元からのメッセージを JP1/IM - Message Optimizer から発行するように設定を変更します。よろしいですか？

［この発行元からのメッセージを JP1/IM - MO から発行しない］のチェックを外したため，この発行元から発行されるメッセージを JP1/IM - MO から発行するように設定を変更してもよいかを確認します。

（S）

応答を待ちます。

（O）

［この発行元からのメッセージを JP1/IM - MO から発行しない］のチェックを外した発行元から発行されるメッセージを JP1/IM - MO から発行するように設定を変更する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。［いいえ］をクリックした場合，［発行元定義］ダイアログの保存処理を中断します。

KNAH4080-Q

このウィンドウを閉じると終了（ログアウト）します。よろしいですか？

JP1/IM - MO Assistant を終了するかを確認します。

（S）

応答を待ちます。

(O)

JP1/IM - MO Assistant を終了する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4081-Q

選択された定義情報を削除します。よろしいですか？

選択された定義情報を削除するかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

定義情報を削除する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4082-Q

選択されたイベントソースの基本メッセージ・変換メッセージ・サンプルメッセージを全て削除します。よろしいですか？

選択されたイベントソースの基本メッセージ，変換メッセージ，およびサンプルメッセージをすべて削除するかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

メッセージをすべて削除する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4083-Q

イベントソースの基本フォーマットを変更した場合，イベントソースの基本メッセージ・変換メッセージ・サンプルメッセージが全て削除されます。よろしいですか？

イベントソースの基本フォーマットを変更する場合，イベントソースの基本メッセージ，変換メッセージ，およびサンプルメッセージがすべて削除されることを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

そのまま基本フォーマットを変更してメッセージを削除する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4084-Q

選択された変換メッセージ定義を取消します。よろしいですか？

変換メッセージ定義を取り消して，未定義の状態に戻すかどうか確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

変換メッセージ定義を取り消して定義前の状態に戻す場合は［はい］を，変換メッセージ定義を取り消さない場合は［いいえ］をクリックしてください。変換メッセージ定義の取り消しをイベント変換結果に反映するには，変換メッセージが属する変換メッセージ群をリリースしてください。

KNAH4085-Q

選択された定義情報をリリース解除許可します。よろしいですか？

選択された定義情報をリリース解除許可するかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

選択された定義情報をリリース解除許可する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4086-Q

リリースまたはリリース解除処理を実行します。よろしいですか？

リリースまたはリリース解除処理を実行するかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

リリース許可，リリース解除許可状態のイベントソース，変換メッセージ群・変換フォーマット・適用先システムのリリース，またはリリース解除をする場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4087-Q

定義情報の学習を開始します。よろしいですか？

定義情報の学習を開始するかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

定義情報の学習を開始する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4088-Q

定義情報の学習を停止します。よろしいですか？

定義情報の学習を停止するかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

定義情報の学習を停止する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4091-Q

「全てのシステム」とそれ以外のシステムを同時に選択することができないため，「全てのシステム」を削除します。よろしいですか？

「全てのシステム」とそれ以外のシステムを同時に選択できないため，「全てのシステム」を削除するかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

削除する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4092-Q

「全てのシステム」とそれ以外のシステムを同時に選択することができないため，「選択したシステム」を全て削除します。よろしいですか？

「全てのシステム」とそれ以外のシステムを同時に選択できないため，「選択したシステム」をすべて削除するかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

削除する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4093-Q

［適用先システム選択］画面で選択した適用先システムを*処理名*します。よろしいですか？ただし，適用先システムを*処理名*すると，それ以下の適用先システム，および全ての［リリース編集］状態の適用先システムとそれ以下の適用先システムも同時に*処理名*します。

変換メッセージ群をリリース許可，またはリリースする際に，［適用先システム選択］ダイアログで選択したリリース編集状態の適用先システムを同時にリリース許可，またはリリースするかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

適用先システムをリリース許可，またはリリースする場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4094-Q

［適用先システム選択］画面で選択した適用先システムが編集状態のため，変換メッセージ群を*処理名*することができません。適用先システムを*処理名*しますか？ただし，適用先システムを*処理名*すると，それ以下の適用先システム，および全ての［リリース編集］状態の適用先システムとそれ以下の適用先システムも同時に*処理名*します。

変換メッセージ群をリリース許可，またはリリースする際に，［適用先システム選択］ダイアログで選択した適用先システムが編集状態のため変換メッセージ群をリリース許可することができません。このため，適用先システムをリリース許可したあと，変換メッセージ群をリリース許可，またはリリースするかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

適用先システムをリリース許可したあと，変換メッセージ群のリリース許可またはリリースを実行する場合は［はい］を，取り消す場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4095-Q

［変換前メッセージテキスト］の埋め字の指定を取り消し，オリジナルのメッセージに戻します。よろしいですか？

［変換前メッセージテキスト］の埋め字の指定を取り消し，オリジナルのメッセージに戻してもよいかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

［変換前メッセージテキスト］の埋め字の指定を取り消してオリジナルのメッセージに戻す場合は［はい］を，オリジナルのメッセージに戻さない場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4096-Q

リリース許可状態の変換メッセージ群と埋め字の定義を共有しているため，埋め字の定義を変更できません。埋め字の定義を共有している変換メッセージ群のリリース許可を取り消します。よろしいですか？

埋め字の定義を変更するために，埋め字の定義を共有している変換メッセージ群のリリース許可を取り消してもよいかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

変換メッセージ群のリリース許可を取り消し，埋め字の定義を変更する場合は，［はい］を，埋め字の定義の変更を中止する場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4097-Q

埋め字の定義を変更するためにリリース許可を取り消した変換メッセージ群を，リリース許可状態に戻します。よろしいですか？

埋め字の定義を変更するために，リリース許可を取り消した変換メッセージ群をリリース許可状態に戻してもよいかを確認します。

(S)

応答を待ちます。

(O)

変換メッセージ群をリリース許可状態に戻す場合は，［はい］を，戻さない場合は［いいえ］をクリックしてください。

KNAH4105-W

環境設定ファイルの読み込みに失敗しました。デフォルト値を使用して動作します。

環境設定ファイルを開けないため，環境設定ファイルの読み込みに失敗しました。

(S)

デフォルト値を使用して処理を続行します。

(O)

JP1/IM - MO Assistant **インストール先フォルダ** `¥conf¥JP1/IM - MO_definer.properties` を，ほかのアプリケーションで開いていないかを確認してください。ほかのアプリケーションで開いていた場合は閉じてください。

確認したら，JP1/IM - MO Assistant を再起動してください。

KNAH4106-W

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）に誤った指定（*パラメーターに指定した値*）があります。デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して動作します。

環境設定パラメーターに誤った指定があります。

(S)

デフォルト値を使用して処理を続行します。

(O)

該当するパラメーターに無効な値が設定されています。「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照して，環境設定パラメーターを正しく設定してください。

KNAH4107-W

環境設定パラメーター（*パラメーター名*）に指定された文字列が長すぎます。デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して動作します。

string 型の環境設定パラメーターに指定した文字列の長さが長過ぎます。

(S)

デフォルト値を使用して処理を続行します。

(O)

該当するパラメーターに長過ぎる文字列が設定されています。「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照して，環境設定パラメーターを有効な長さで正しく設定してください。

KNAH4110-W

以下の*イベントソース*または*変換メッセージ群*は，*理由*の為削除できませんでした。

複数のイベントソースまたは変換メッセージ群を一度に削除しようとしたときに，削除できないイベントソースまたは変換メッセージ群がありました。

(S)

処理を中断し，以降の操作をユーザーに問い合わせます。

(O)

削除できなかったイベントソースまたは変換メッセージ群よりあとの定義を削除するかどうかを選択してください。

［継続］

削除を継続する場合に選択します。

［以降問い合わせない］

今後削除できないメッセージがあった場合，問い合わせをしないで削除を継続するときに選択します。

［キャンセル］

削除しない場合に選択します。

削除できなかったメッセージを削除したい場合は，「10.6.1　イベントソースと変換メッセージ群を削除する」を参照してください。

KNAH4201-E

***項目名*（必須）を指定してください。**

*項目名*が指定されていません。

(S)

処理を中断します。

(O)

*項目名*は，必須項目のため省略できません。項目を指定してください。

KNAH4202-E

***項目名*を選択してください。**

*項目名*が選択されていません。

(S)

処理を中断します。

(O)

*項目名*を選択してください。

KNAH4203-E

既に同じ名前の定義情報が存在します。別の名前を指定してください。

すでに同じ名前の定義情報があります。

(S)

処理を中断します。

(O)

すでにある定義情報と同じ名前は指定できません。別の名前を指定して，再度実行してください。

KNAH4204-E

種別や取得元種別に使用されている名前は指定できません。別の名前を指定してください。

種別や取得元種別に使用されている名前が指定されています。

(S)

処理を中断します。

(O)

種別や取得元種別と同じ名前は指定できません。別の名前を指定して，再度実行してください。

KNAH4210-E

ユーザー認証に失敗しました。

ユーザー認証に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

ユーザー名または，パスワードが誤っています。正しいユーザー名とパスワードを指定して再度実行してください。

KNAH4212-E

JP1/IM - Message Optimizer **を操作する権限がありません。操作権限を持つユーザーでログインしてください。**

JP1/IM - MO を操作する権限がありません。

(S)

処理を中断します。

(O)

操作権限を持つユーザーでログインしてください。

KNAH4221-E

関連ツリーエリアから 1 件選択してください。

関連ツリーエリアで項目が選択されていません。

(S)

処理を中断します。

（O）

関連ツリーエリアから 1 件選択して，再実行してください。

KNAH4240-E

先頭区切のカラム位置指定に誤りがあります。1 ～ 1023 の範囲で指定してください。

先頭区切りのカラム位置指定に誤りがあります。

（S）

処理を中断します。

（O）

先頭区切りに指定できるカラム位置を，1 ～ 1,023 の範囲で指定したあと，再実行してください。

KNAH4241-E

***位置*件目の後区切を指定してください。**

*位置*件目の後区切りが指定されていません。

（S）

処理を中断します。

（O）

*位置*件目の後区切りを指定したあと，再実行してください。

KNAH4242-E

***位置*件目の後区切のカラム位置指定に誤りがあります。1 ～ 1023 の範囲で指定してください。**

*位置*件目の後区切りのカラム位置指定に誤りがあります。

（S）

処理を中断します。

（O）

*位置*件目で指定された位置の後区切りに指定したカラム位置を，1 ～ 1,023 の範囲で指定したあと，再実行してください。

KNAH4243-E

フィールドおよび後区切はメッセージの先頭から間隔を空けずに指定してください。

フィールドおよび後区切りが，メッセージの先頭から間隔を空けて指定されています。

（S）

処理を中断します。

（O）

フィールドおよび後区切りは，メッセージの先頭から間隔を空けないで指定したあと，再実行してください。

KNAH4245-E

フィールドの種別は重複しないように指定してください。

フィールドの種別が重複しています。

（S）

処理を中断します。

（O）

重複しているフィールドの種別を重複しないように，変更または削除したあと，再実行してください。

KNAH4246-E

***件数*件目のフィールドの長さ指定に誤りがあります。1 ～ 1023 の範囲で指定してください。**

*件数*件目のフィールドの長さ指定に誤りがあります。

(S)

処理を中断します。

(O)

フィールドの長さを 1 ～ 1,023 の範囲で指定したあと，再実行してください。

KNAH4247-E

***件数*件目のフィールドの種別と形式を指定してください。**

*件数*件目のフィールドの「種別」と「形式」が指定されていません。

(S)

処理を中断します。

(O)

フィールドの長さを指定したフィールドがある場合，「種別」と「形式」を指定したあと，再実行してください。

KNAH4248-E

メッセージ識別子に指定した*フィールド名*フィールドを指定してください。

メッセージ識別子に指定したフィールドが基本フォーマットに指定されていません。

(S)

処理を中断します。

(O)

メッセージ識別子に指定したフィールドを指定したあと，再実行してください。

KNAH4249-E

「メッセージテキスト」フィールドは，必ず指定してください。

基本フォーマットに「メッセージテキスト」フィールドが指定されていません。

(S)

処理を中断します。

(O)

「メッセージテキスト」フィールドを指定したあと，再実行してください。

KNAH4250-E

選択できるイベントソースがありません。基本フォーマットを手動で入力してください。

［基本フォーマット定義］ダイアログで編集中のイベントソース以外で，基本フォーマットが定義されているイベントソースがありません。

(S)

処理を中断します。

(O)

基本フォーマットを手動で入力してください。

KNAH4251-E

同じ階層の他の適用先システムに属しているため，選択することはできません。

［発行元選択］ダイアログの［選択可能な発行元一覧］から同じ階層のほかの適用先システムに属している［発行元］を選択して，［追加］ボタンをクリックしました。

(S)

処理を中断します。

(O)

選択した発行元を適用先システムに追加する場合は，同じ階層のほかの適用先システムから，追加する発行元を削除してください。

KNAH4252-E

下位の適用先システムに属しているため，選択を解除することはできません。

［発行元選択］ダイアログの［発行元一覧］から下位の適用先システムに属している［発行元］を選択して，［削除］ボタンをクリックしました。

(S)

処理を中断します。

(O)

選択した発行元を適用先システムから削除する場合は，下位の適用先システムから，削除する発行元を削除してください。

KNAH4253-E

***件数*件目の後区切の指定に誤りがあります。カラム位置分割方式で後区切を指定する場合は，選択したフィールドの形式の長さを指定してください。**

*件数件目*の後区切の指定に誤りがあります。カラム位置分割方式で後区切を指定する場合は，選択したフィールドの形式の長さを指定してください。

(S)

処理を中断します。

(O)

選択したフィールドの形式のバイト数と，後区切りで指定したカラム位置分割方式の値が異なっています。カラム位置分割方式で後区切りを指定する場合は，選択したフィールドの形式のバイト数を指定してください。

KNAH4254-E

これ以上フィールド行を挿入できません。不要なフィールド行を削除してください。

これ以上フィールド行を挿入できません。不要なフィールド行を削除してください。

(S)

処理を中断します。

(O)

選択した行に新しく行を挿入するには，不要なフィールド行を削除してください。

KNAH4260-E

変換前メッセージテキストは埋め字の記述以外，変更しないでください。

変換前メッセージテキストに埋め字の記述以外で変更を加えています。

(S)

処理を中断します。

（O）

［埋め字の定義］ダイアログの変換前メッセージテキストに埋め字の記述以外で変更を加えている個所を元に戻す，または［埋め字の定義］ダイアログをキャンセルして再度埋め字だけを記述したあと，［OK］ボタンをクリックしてください。

KNAH4261-E

変換前メッセージテキスト内の埋め字は 5 件以内で指定してください。

変換前メッセージテキスト内に指定されている埋め字が 5 件を超えています。

（S）

処理を中断します。

（O）

埋め字が 5 件以内に収まるように，変換前メッセージテキストを変更したあと，再実行してください。

KNAH4262-E

変換前メッセージテキスト内の埋め字番号は重複しないように指定してください。

変換前メッセージテキスト内の埋め字番号が重複しています。

（S）

処理を中断します。

（O）

埋め字番号が重複しないように指定して，変更または削除したあと，再実行してください。

KNAH4263-E

変換前メッセージテキスト内に指定する埋め字と埋め字の間には，区切り文字を必ず挿入してください。

変換前メッセージテキスト内に指定する埋め字と埋め字の間に，区切り文字がありません。

（S）

処理を中断します。

（O）

変換前メッセージテキストの埋め字と埋め字の間に，区切り文字を挿入したあと，再実行してください。

KNAH4264-E

変換前メッセージテキストについて，「{%」で埋め字を開始した場合は，必ず「}」で終了してください。また，間には，1 ～ 5 の数字以外指定しないでください。

変換前メッセージテキスト内の埋め字の指定が不正です。

（S）

処理を中断します。

（O）

変換前メッセージテキストの「{%」と「}」の間に，1 ～ 5 の数字以外が指定されているので，その部分を修正したあと，再実行してください。

KNAH4265-E

変換後メッセージテキスト内の埋め字は 5 件以内で指定してください。

変換後メッセージテキスト内に指定されている埋め字が 5 件を超えています。

(S)

処理を中断します。

(O)

埋め字が 5 件以内に収まるように，変換後メッセージテキストを変更して，再実行してください。

KNAH4266-E

変換前メッセージテキスト内に指定されていない埋め字を変換後メッセージテキストに指定することはできません。

変換前メッセージテキスト内に指定されていない埋め字を変換後メッセージテキストに指定しています。

(S)

処理を中断します。

(O)

変換前メッセージテキスト内に指定されていない埋め字を変換後メッセージテキストから削除したあと，再実行してください。

KNAH4267-E

変換後メッセージテキストについて，「{%」で埋め字を開始した場合は，必ず「}」で終了してください。また，間には，1 ～ 5 の数字以外指定しないでください。

変換後メッセージテキスト内の埋め字の指定が不正です。

(S)

処理を中断します。

(O)

変換後メッセージテキストの「{%」と「}」の間に，1 ～ 5 の数字を指定したあと，再実行してください。

KNAH4268-E

埋め字 {% *埋め字番号*} は，変換メッセージ群名に定義されている変換メッセージの変換後メッセージテキストで指定されているため，削除することができません。

変換メッセージ群名に定義されている変換メッセージの変換後メッセージテキストで指定されている埋め字を削除しようとしました。

(S)

処理を中断します。

(O)

埋め字 {% *埋め字番号*} を再び指定するか，変換メッセージ群名に定義されている変換メッセージの変換後メッセージテキストから埋め字 {% *埋め字番号*} を削除してから，再実行してください。

KNAH4270-E

メッセージ識別子と追加メッセージ識別子に同じ JP1 イベント属性を指定することはできません。

メッセージ識別子と追加メッセージ識別子に，同じ JP1 イベント属性を指定しています。

(S)

処理を中断します。

（O）

メッセージ識別子の指定，または追加メッセージ識別子の指定を変更してから，再実行してください。

KNAH4271-E

***タブ名*のフィールドおよび後区切はメッセージの先頭から間隔を空けずに指定してください。**

フィールドおよび後区切りが，メッセージの先頭から間隔を空けて指定されています。

（S）

処理を中断します。

（O）

フィールドおよび後区切りをメッセージの先頭から間隔を空けないように指定を変更してから，再実行してください。

KNAH4272-E

***タブ名*の拡張属性（直接入力）は大文字の半角英数字，もしくは半角のアンダーラインを入力してください。**

拡張属性（直接入力）に小文字が入力されています。

（S）

処理を中断します。

（O）

拡張属性（直接入力）に入力されている小文字の半角英字を大文字に変更してから，再実行してください。

KNAH4273-E

***タブ名*の拡張属性（直接入力）の先頭は半角英数字を指定してください。**

拡張属性（直接入力）に指定された属性値の先頭に，半角英字以外が指定されています。

（S）

処理を中断します。

（O）

拡張属性（直接入力）に指定されている属性値の先頭を半角英字に変更してから，再実行してください。

KNAH4274-E

使用している JP1/IM - Message Optimizer のバージョンがバージョン*バージョン値*であるため*定義情報*を更新することができません。[詳細情報 : *詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

09-10 より前のバージョンの JP1/IM - MO Assistant が 09-10 以降のバージョンの JP1/IM - MO に接続しています。

（S）

処理を中断します。

（O）

09-10 以降のバージョンの JP1/IM - MO Assistant から再接続してください。

KNAH4275-E

***タブ名*の先頭区切のカラム位置指定に誤りがあります。1 ～ 1023 の範囲で指定してください。**

先頭区切りのカラム位置の指定に誤りがあります。

(S)

処理を中断します。

(O)

先頭区切りのカラム位置を 1 ～ 1,023 の範囲で指定してから，再実行してください。

KNAH4276-E

***タブ名の位置*件目の後区切を指定してください。**

*位置*件目の後区切りが指定されていません。

(S)

処理を中断します。

(O)

*位置*件目の後区切りを指定してから，再実行してください。

KNAH4277-E

***タブ名の位置*件目の後区切のカラム位置指定に誤りがあります。1 ～ 1023 の範囲で指定してください。**

*位置*件目の後区切りのカラム位置指定に誤りがあります。

(S)

処理を中断します。

(O)

*位置*件目で指定された後区切りのカラム位置を，1 ～ 1,023 の範囲で指定してから，再実行してください。

KNAH4278-E

フィールドの種別（*種別名*）は重複しないように指定してください。

フィールドの種別が重複しています。

(S)

処理を中断します。

(O)

フィールドの種別が重複しないように変更または削除してから，再実行してください。

KNAH4279-E

***タブ名の件数*件目のフィールドの種別と形式を指定してください。**

*件数*件目のフィールドの種別と形式が指定されていません。

(S)

処理を中断します。

(O)

フィールドの長さを指定したフィールドがある場合，「種別」と「形式」を指定してから，再実行してください。

KNAH4280-E

***タブ名*で「メッセージテキスト」フィールドは，必ず指定してください。**

メッセージ分割タブで，「メッセージテキスト」フィールドが指定されていません。

（S）

処理を中断します。

（O）

メッセージ分割タブで「メッセージテキスト」フィールドを指定してから，再実行してください。

KNAH4281-E

***タブ名の件数*件目の後区切の指定に誤りがあります。カラム位置分割方式で後区切を指定する場合は，選択したフィールドの形式の長さを指定してください。**

選択したフィールドの形式のバイト数と，後区切りで指定したカラム位置分割方式の値が異なっています。

（S）

処理を中断します。

（O）

カラム位置分割方式で後区切りを指定する場合，選択したフィールドの形式のバイト数と同じ値を指定してください。

KNAH4500-E

件数が上限値に達しているため定義情報を*処理名*することはできません。

件数が上限値に達しています。

（S）

処理を中断します。

（O）

定義情報を削除したあと，再実行してください。

KNAH4501-E

階層数が上限値に達しているため適用先システムを追加することはできません。

階層数が上限値に達しています。

（S）

処理を中断します。

（O）

選択した適用先システムより上位の適用先システムを選択して，再実行してください。

KNAH4510-W

接続先ポート番号の取得に失敗しました。[原因コード：*原因コード*] デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して動作します。

サービス名：jp1immoa に対応するポート番号を services ファイルから取得できませんでした。

（S）

デフォルト値で処理を継続します。

（O）

サービス名：jp1immoa に対応するポート番号が，services ファイルに設定されているかどうかを確認してください。設定されていない場合は，設定したあと再実行してください。

KNAH4511-E

JP1/IM - Message Optimizer **から受信した定義情報が不正です。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]**

JP1/IM - MO から不正な定義情報を受信しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

ネットワークの一時的な問題が考えられます。更新，または操作時にこのメッセージが表示された場合は，メイン画面のメニューコマンドから［最新の情報に更新］を実行して，定義情報の再取得を実施してください。
繰り返しこのメッセージが表示される場合は，JP1/IM - MO で異常が発生しているおそれがあります。JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant が別のホストにインストールされている場合は，JP1/IM - MO Assistant がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmoalog.bat`）を実行して，JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH4512-W

取得したサービス（*サービス名*）の通信待ち受け用ポート番号が OS が予約している番号（5000 以内）であるため，デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して動作します。

取得したサービス（*サービス名*）の TCP/IP 通信のポート番号は，OS が予約している番号（5000 以内）です。このため，デフォルト値（*デフォルト値*）を使用して処理を続行します。

(S)

デフォルト値で処理を継続します。

(O)

services ファイルでサービス名に設定されているポート番号を確認してください。

KNAH4520-E

選択された適用先システムがリリース許可または，リリース解除許可状態のため，下位に適用先システムを追加することができません。

リリース許可，またはリリース解除許可状態の適用先システムの下位に適用先システムを追加できません。

(S)

処理を中断します。

(O)

適用先システムのリリース許可取り消し，リリース，またはリリース解除を実行し，編集，リリース，またはリリース編集のどれかの状態にしたあと，再実行してください。

KNAH4521-E

選択された定義情報が編集状態でないため，削除することができません。

編集状態以外の定義情報は削除できません。

(S)

処理を中断します。

(O)

定義情報のリリース解除を実行して編集状態にしたあと，再実行してください。

KNAH4530-E

適用先システムが選択されていないため，変換メッセージ群をリリース許可することができません。

適用先システムが選択されていません。

(S)

処理を中断します。

(O)

リリース許可する変換メッセージ群で［適用先システム選択］ダイアログから適用先システムを選択したあと，再実行してください。

KNAH4531-E

既に同じイベントソースに属する別の変換メッセージ群で適用先システムが選択されているため，変換メッセージ群をリリース許可することはできません。

すでに同じイベントソースに属する，リリース・リリース編集・リリース許可のどれかの状態の別の変換メッセージ群で適用先システムが選択されています。

(S)

処理を中断します。

(O)

同じ適用先を選択している変換メッセージ群をリリース解除許可または編集状態にしたあと，再実行してください。

KNAH4532-E

［適用先システム選択］画面で選択した適用先システムがリリース解除許可状態のため，変換メッセージ群をリリース許可することができません。

［適用先システム選択］ダイアログで選択した適用先システムがリリース解除許可状態です。

(S)

処理を中断します。

(O)

ほかの適用先システムを再選択したあと再実行するか，またはリリース解除許可状態の適用先システムを編集状態にしたあと，再実行してください。

KNAH4535-E

以下の変換フォーマットがリリース解除許可状態のため，適用先システムをリリース許可することができません。
適用先システム：「*適用先システム名*」で選択された変換フォーマット：「*変換フォーマット名*」

リリース許可する適用先システムの［変換フォーマット選択］ダイアログで選択した変換フォーマットがリリース解除許可状態です。

(S)

処理を中断します。

(O)

リリース許可する適用先システムの［変換フォーマット選択］ダイアログで選択した変換フォーマットのリリース解除を実行して編集状態にしたあと，再実行してください。

KNAH4536-E

選択された発行元が適用先システムで選択されているため，削除することができません。

適用先システムで選択されている発行元は削除できません。

(S)

処理を中断します。

（O）

発行元を適用先システムから削除したあと，再実行してください。

KNAH4537-E

メッセージ識別子として指定された*フィールド名*フィールドの長さが 0 バイトのため，このメッセージを追加することができません。

メッセージ識別子としてメッセージ中のフィールドが指定されている場合，フィールドの長さが 0 バイトのメッセージを基本メッセージとして追加することはできません。

（S）

処理を中断します。

（O）

メッセージ識別子として指定された*フィールド名*フィールドの長さが 1 バイト以上になるように，追加するメッセージを訂正してから再実行してください。

KNAH4540-E

選択された適用先システムの下位に，*状態名*状態の適用先システムが存在するため，適用先システムを*処理名*することができません。

選択された適用先システムの下位の適用先システムが*状態名*状態です。

（S）

処理を中断します。

（O）

選択された適用先システムの下位の適用先システムのリリース許可取り消し，リリース，またはリリース解除を実行し，*状態名*状態以外の状態にしたあと，再実行してください。

KNAH4541-E

選択された適用先システムの上位に，*状態名*状態の適用先システムが存在するため，適用先システムを*処理名*することができません。

選択された適用先システムの上位の適用先システムが*状態名*状態です。

（S）

処理を中断します。

（O）

選択された適用先システムの上位の適用先システムのリリース許可取り消し，リリース，またはリリース解除を実行し，*状態名*状態以外の状態にしたあと，再実行してください。

KNAH4542-E

選択された適用先システムと同時にリリース許可する適用先システムの下位に，リリース解除許可状態の適用先システムが存在するため，適用先システムをリリース許可することができません。

選択された適用先システムと同時にリリース許可する適用先システムの下位の適用先システムがリリース解除許可状態です。

（S）

処理を中断します。

（O）

選択された適用先システムと同時にリリース許可する適用先システムの下位の適用先システムのリリース解除を実行し，編集状態にしたあと，再実行してください。

KNAH4550-W

適用先システムが選択されていないため，変換メッセージ群をリリース許可することができません。

イベントソース名：*イベントソース名*

変換メッセージ群名：*変換メッセージ群名*

リリース許可しようとした変換メッセージ群に，適用先システムが選択されていません。

(S)

処理を中断し，以降の処理をユーザーに問い合わせます。

(O)

リリース許可できなかった変換メッセージ群以降の変換メッセージ群に対して実行する操作を選択してください。

[継続]

リリース許可を継続する場合にクリックします。

[以降問い合わせない]

今後リリース許可できないメッセージがあった場合，問い合わせをしないでリリース許可を継続するときにクリックします。

[キャンセル]

リリース許可しない場合にクリックします。

KNAH4551-W

[適用先システム選択] 画面で選択した適用先システムがリリース解除許可状態のため，変換メッセージ群をリリース許可することができません。

イベントソース名：*イベントソース名*

変換メッセージ群名：*変換メッセージ群名*

リリース許可しようとした変換メッセージ群の適用先システムがリリース解除許可状態のためリリース許可できませんでした。

(S)

処理を中断し，以降の処理をユーザーに問い合わせます。

(O)

リリース許可できなかった変換メッセージ群以降の変換メッセージ群に対して実行する操作を選択してください。

[継続]

リリース許可を継続する場合にクリックします。

[以降問い合わせない]

今後リリース許可できないメッセージがあった場合，問い合わせをしないでリリース許可を継続するときにクリックします。

[キャンセル]

リリース許可しない場合にクリックします。

KNAH4552-W

以下の変換フォーマットがリリース解除許可状態のため，適用先システムをリリース許可することができません。

適用先システム：「*適用先システム名*」で選択された変換フォーマット：「*変換フォーマット名*」

イベントソース名：*イベントソース名*

変換メッセージ群名：*変換メッセージ群名*

リリース許可したい適用先システムにひも付いている［変換フォーマット選択］ダイアログで選択した変換フォーマットがリリース解除許可状態のため適用先システムをリリース許可できません。

(S)

処理を中断し，以降の処理をユーザーに問い合わせます。

(O)

リリース許可できなかった適用先システム以降の適用先システムに対して実行する操作を選択してください。

［継続］

リリース許可を継続する場合にクリックします。

［以降問い合わせない］

今後リリース許可できないメッセージがあった場合，問い合わせをしないでリリース許可を継続するときにクリックします。

［キャンセル］

リリース許可しない場合にクリックします。

KNAH4560-W

選択された適用先システムの下位に，*状態名*状態の適用先システムが存在するため，適用先システムを*処理名*することができません。

イベントソース名：*イベントソース名*

変換メッセージ群名：*変換メッセージ群名*

リリース許可しようとした変換メッセージ群について，選択された適用先システムの下位の適用先システムにリリース許可できない状態のものが存在するためリリース許可が実行できませんでした。

(S)

処理を中断し，以降の処理をユーザーに問い合わせます。

(O)

処理できなかった変換メッセージ群以降の変換メッセージ群に対して実行する操作を選択してください。

［継続］

処理を継続する場合にクリックします。

［以降問い合わせない］

今後処理できないメッセージがあった場合，問い合わせをしないで処理を継続するときにクリックします。

［キャンセル］

処理をキャンセルする場合にクリックします。

KNAH4561-W

選択された適用先システムの上位に，*状態名*状態の適用先システムが存在するため，適用先システムを*処理名*することができません。

イベントソース名：*イベントソース名*

変換メッセージ群名：*変換メッセージ群名*

変換メッセージ群にひも付いている適用先システムの上位にリリース許可できない適用先システムがあるため，変換メッセージ群をリリース許可できませんでした。

(S)

処理を中断し，以降の処理をユーザーに問い合わせます。

(O)

リリース許可できなかった変換メッセージ群以降の変換メッセージ群に対して実行する操作を選択してください。

[継続]

処理を継続する場合にクリックします。

[以降問い合わせない]

今後処理できないメッセージがあった場合，問い合わせをしないで処理を継続するときにクリックします。

[キャンセル]

処理をキャンセルする場合にクリックします。

KNAH4562-W

選択された適用先システムと同時にリリース許可する適用先システムの下位に，リリース解除許可状態の適用先システムが存在するため，適用先システムをリリース許可することができません。

イベントソース名：*イベントソース名*

変換メッセージ群名：*変換メッセージ群名*

リリース許可しようとした変換メッセージ群にひも付いている適用先システムの下位の適用先システムがリリース解除許可状態のため，変換メッセージ群をリリース許可できませんでした。

(S)

処理を中断し，以降の処理をユーザーに問い合わせます。

(O)

リリース許可できなかった変換メッセージ群以降の変換メッセージ群に対して実行する操作を選択してください。

[継続]

処理を継続する場合にクリックします。

[以降問い合わせない]

処理できないメッセージがあった場合，問い合わせをしないで処理を継続するときにクリックします。

[キャンセル]

処理をキャンセルする場合にクリックします。

KNAH4580-E

基本フォーマットで定義した区切り文字がメッセージ中に存在しないため，このメッセージを追加することができません。

基本メッセージ追加で定義した基本メッセージが，[基本フォーマット定義] ダイアログで定義した基本フォーマットと異なるため，基本メッセージを追加できません。

(S)

処理を中断します。

(O)

[基本フォーマット定義] ダイアログで基本フォーマットの区切り文字を確認し，追加する基本メッセージを訂正したあと，再実行してください。

KNAH4581-E

基本フォーマットで定義したカラム位置がマルチバイト文字を分断する位置であるか，またはメッセージの長さを越えているため，このメッセージを追加することができません。

基本フォーマットで定義したカラム位置がマルチバイト文字を分断する位置であるか，またはメッセージの長さを超えています。

(S)

処理を中断します。

(O)

［基本フォーマット定義］ダイアログで基本フォーマットのカラム位置指定のバイト数を確認し，追加する基本メッセージを訂正したあと，再実行してください。

KNAH4582-E

基本フォーマットで定義したフィールドの形式がメッセージ中の形式と異なるため，このメッセージを追加することができません。

基本フォーマットで定義したフィールドの形式がサンプルメッセージ中の形式と異なっています。

(S)

処理を中断します。

(O)

［基本フォーマット定義］ダイアログで基本フォーマットのフィールド形式を確認し，追加する基本メッセージを訂正したあと，再実行してください。

KNAH4583-E

基本フォーマットで定義した区切り文字が，サンプルメッセージ中に存在しないため，プレビューを実行することができません。

基本フォーマットで定義した区切り文字とサンプルメッセージ中の区切り文字が異なっています。

(S)

処理を中断します。

(O)

基本フォーマットの区切り文字とサンプルメッセージの区切り文字を確認し，基本フォーマットの区切り文字を変更してから再実行してください。

KNAH4584-E

基本フォーマットで定義したカラム位置がマルチバイト文字を分断する位置であるか，またはサンプルメッセージの長さを超えているため，プレビューを実行することができません。

基本フォーマットで定義したカラム位置がマルチバイト文字を分断する位置であるか，またはサンプルメッセージの長さを超えています。

(S)

処理を中断します。

(O)

基本フォーマットのカラム位置指定のバイト数をサンプルメッセージのフィールドのバイト数に合うように変更したあと，再実行してください。

KNAH4585-E

基本フォーマットで定義したフィールドの形式がサンプルメッセージ中の形式と異なるため，プレビューを実行することができません。

基本フォーマットで定義したフィールドの形式がサンプルメッセージ中の形式と異なっています。

（S）

処理を中断します。

（O）

基本フォーマットのフィールドの形式を確認し，サンプルメッセージの形式に合うように変更したあと再実行してください。

KNAH4586-E

サンプルメッセージ中の日付が和暦変換対象外の日付であるため，プレビューを実行することができません。

変換フォーマット定義で和暦が指定されていますが，サンプルメッセージ中の日付が和暦変換対象外（1872/12/31 以前）であるため，和暦に変換できません。

（S）

処理を中断します。

KNAH4587-E

サンプルメッセージ中の日付が存在しない日付であるため，プレビューを実行することができません。

変換フォーマット定義で和暦が指定されていますが，サンプルメッセージ中の日付が存在しない日付（例：2007/13/01）であるため，和暦に変換できません。

（S）

処理を中断します。

KNAH4588-I

指定したキーワードは見つかりませんでした。

入力した文字列を含むイベントソース，変換メッセージ群，メッセージが存在しません。

（S）

処理を中断します。

（O）

検索を継続する場合は，対象の文字列を変更してください。

KNAH4589-E

検索するキーワードを入力してください。

検索するための文字列が入力されていません。

（S）

処理を中断します。

（O）

検索したい文字列を入力してください。

KNAH4590-E

検索条件を設定してください（*項目名*）。

検索に必要な条件が設定されていません。

(S)

処理を中断します。

(O)

検索に必要な条件を設定してください。

KNAH4600-E

件数が上限値に達しているため定義情報を*処理名*することはできません。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

件数が上限値に達しています。

(S)

処理を中断します。

(O)

定義情報を削除したあと，再実行します。JP1/IM - MO Assistant 上では上限値に達していなくてもこのメッセージが表示される場合，学習機能によって定義情報が追加されているおそれがあります。ダイアログを開き直すか，メイン画面の場合は操作メニューから［最新の情報に更新］を選択し，定義情報を取得し直してください。

KNAH4610-E

既に同じ基本メッセージが存在します。別のメッセージ識別子を持つ基本メッセージを指定してください。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

すでに同じメッセージ識別子を持つ基本メッセージがあります。

(S)

処理を中断します。

(O)

すでにある基本メッセージとは別のメッセージ識別子を持つ基本メッセージを指定して，再実行してください。

KNAH4611-E

既に同じ発行元が存在します。別の発行元イベントサーバ名・ホスト名または IP アドレスを持つ発行元を指定してください。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

すでに同じ発行元イベントサーバ名・ホスト名または IP アドレスを持つ発行元があります。

(S)

処理を中断します。

(O)

すでにある発行元とは別の発行元イベントサーバ名・ホスト名または IP アドレスを持つ発行元を指定して，再実行してください。

KNAH4612-E

既に同じイベントソースが存在します。別のイベントソース識別子を持つイベントソースを指定してください。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

すでに同じイベントソース識別子を持つイベントソースがあります。

(S)

処理を中断します。

(O)

すでにあるイベントソースとは別のイベントソース識別子を持つイベントソースを指定して，再実行

してください。イベントソース識別子とは，JP1 イベント種別，プロダクト名，およびオブジェクト名から構成されるイベントソースを一意に識別するための情報です。

KNAH4620-E

同じイベントソース識別子を持つイベントソースがリリース・リリース編集・リリース許可のいずれかの状態で定義されているため，イベントソースをリリース許可することはできません。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

同じイベントソース識別子を持つイベントソースがリリース・リリース編集・リリース許可のどれかの状態で定義されています。

(S)

処理を中断します。

(O)

同じイベントソース識別子を持つリリース・リリース編集・リリース許可状態のイベントソースを編集状態にしたあと，再実行してください。

KNAH4621-E

イベントソースに属する変換メッセージ群が，リリース・リリース編集・リリース許可のいずれかの状態で定義されているため，イベントソースをリリース解除許可することはできません。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

イベントソースに属する変換メッセージ群が，リリース・リリース編集・リリース許可のどれかの状態で定義されています。

(S)

処理を中断します。

(O)

イベントソースをリリース解除許可する場合は，イベントソースに属するすべての変換メッセージ群をリリース・リリース編集・リリース許可状態から編集状態にしたあと，再実行してください。

KNAH4622-E

イベントソースに属する変換メッセージ群が，リリース・リリース編集・リリース許可のいずれかの状態で定義されているため，イベントソースのリリース許可を取消すことはできません。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

イベントソースに属する変換メッセージ群が，リリース・リリース編集・リリース許可のどれかの状態で定義されています。

(S)

処理を中断します。

(O)

イベントソースのリリース許可を取り消す場合は，イベントソースに属するすべての変換メッセージ群をリリース・リリース編集・リリース許可状態から編集状態にしたあと，再実行してください。

KNAH4623-E

リリース・リリース編集・リリース許可のいずれかの状態の適用先システムで変換フォーマットが選択されているため，変換フォーマットをリリース解除許可することができません。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

リリース・リリース編集・リリース許可のどれかの状態の適用先システムで変換フォーマットが選択されています。

(S)

処理を中断します。

(O)

変換フォーマットをリリース解除許可する場合は，リリース解除許可する変換フォーマットを選択している適用先システムを編集状態にしたあと，再実行してください。

KNAH4624-E

リリース・リリース編集・リリース許可のいずれかの状態の適用先システムで変換フォーマットが選択されているため，変換フォーマットのリリース許可を取消すことができません。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

リリース・リリース編集・リリース許可のどれかの状態の適用先システムで変換フォーマットが選択されています。

(S)

処理を中断します。

(O)

変換フォーマットのリリース許可を取り消す場合は，リリース許可を取り消す変換フォーマットを選択している適用先システムを編集状態にしたあと，再実行してください。

KNAH4625-E

選択された変換フォーマットが適用先システムで選択されているため，削除することができません。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

選択された変換フォーマットが適用先システムで選択されています。

(S)

処理を中断します。

(O)

変換フォーマットを削除する場合は，削除する変換フォーマットを選択している適用先システムで変換フォーマットを削除したあと，再実行してください。

KNAH4626-W

以下の適用先システムは発行元が選択されていないため，リリースしても JP1 イベント変換処理は実行されません。*適用先システム名*

発行元が選択されていない適用先システムをリリース許可しました。適用先システムをリリースしても発行元が選択されていない場合，JP1 イベント変換処理は実行されません。

(S)

処理を続行します。

(O)

JP1 イベント変換処理を実行する場合，一度リリース許可を取り消し，適用先システムの［発行元選択］ダイアログから発行元を選択したあと，再びリリース許可してください。

KNAH4627-W

以下の*イベントソース*または*変換メッセージ群*は，リリース許可を適用できません。

対象のイベントソース，または変換メッセージ群をリリース許可できません。

(S)

処理を中断し，以降の処理をユーザーに問い合わせます。

(O)

リリース許可できなかったイベントソースまたは変換メッセージ群よりあとの定義をリリース許可するかどうかを選択してください。

［継続］
リリース許可を継続する場合に選択します。

［以降問い合わせない］
今後リリース許可できないメッセージがあった場合，問い合わせをしないでリリース許可を継続するときに選択します。

［キャンセル］
リリース許可しない場合に選択します。

リリース許可できなかったメッセージのリリース許可については，「10.2.1　リリースするイベントソースを決定する（イベントソースのリリース許可）」，または「10.2.4　リリースする変換メッセージ群を決定する（変換メッセージ群のリリース許可）」を参照してください。

KNAH4628-W

以下の*イベントソースまたは変換メッセージ群*は，リリース許可取消を適用できません。

対象のイベントソース，変換メッセージ群のリリース許可を取り消しできません。

（S）
処理を中断し，以降の処理をユーザーに問い合わせます。

（O）
リリース許可を取り消しできなかったイベントソースまたは変換メッセージ群よりあとの定義のリリース許可を取り消しするかどうかを選択してください。

［継続］
リリース許可の取り消しを継続する場合に選択します。

［以降問い合わせない］
今後リリース許可の取り消しをできないメッセージがあった場合，問い合わせをしないでリリース許可の取り消しを継続するときに選択します。

［キャンセル］
リリース許可の取り消しをしない場合に選択します。

リリース許可を取り消しできなかったメッセージのリリース許可については，「10.3.1　イベントソースと変換メッセージ群のリリースを解除する」を参照してください。

KNAH4629-W

以下の*イベントソース*または*変換メッセージ群*は，リリース解除許可を適用できません。

対象のイベントソース，変換メッセージ群をリリース解除許可できません。

（S）
処理を中断し，以降の処理をユーザーに問い合わせます。

（O）
リリース解除を許可できなかったイベントソースまたは変換メッセージ群よりあとの定義のリリース許可を取り消しするかどうかを選択してください。

［継続］
リリース解除許可を継続する場合に選択します。

［以降問い合わせない］
今後リリース解除許可できないメッセージがあった場合，問い合わせをしないでリリース解除許可を継続するときに選択します。

［キャンセル］
リリース解除を許可しない場合に選択します。
リリース解除許可できなかったメッセージのリリース許可については，「10.3.1　イベントソースと変換メッセージ群のリリースを解除する」を参照してください。

KNAH4630-W

以下の変換メッセージ群は，適用先システムが共通するため，リリース許可を適用できません。

共通の適用先システムが設定されている変換メッセージ群は，同時にリリース許可できません

（S）
処理を中断し，以降の処理をユーザーに問い合わせます。

（O）
リリース許可できなかった変換メッセージ群よりあとの定義のリリースを許可するかどうかを選択してください。

［継続］
リリース許可を継続する場合に選択します。

［以降問い合わせない］
今後リリースを許可できないメッセージがあった場合，問い合わせをしないでリリース許可を継続するときに選択します。

［キャンセル］
リリースを許可しない場合に選択します。
リリース許可できなかった変換メッセージ群のリリース許可については，「10.2.4　リリースする変換メッセージ群を決定する（変換メッセージ群のリリース許可）」を参照してください。

KNAH4631-W

以下の変換メッセージ群は，既に同じイベントソースに属する別の変換メッセージ群で適用先システムが選択されているため，変換メッセージ群をリリース許可を適用することはできません。*変換メッセージ群名*

すでに同じ適用先システムが設定されいている変換メッセージ群がリリース済みのため，リリース許可を適用できません。

（S）
処理を中断し，以降の処理をユーザーに問い合わせます。

（O）
リリース許可できなかった変換メッセージ群よりあとの定義のリリースを許可するかどうかを選択してください。

［継続］
リリース許可を継続する場合に選択します。

［以降問い合わせない］
今後リリースを許可できないメッセージがあった場合，問い合わせをしないでリリース許可を継続するときに選択します。

［キャンセル］
リリースを許可しない場合に選択します。
リリース許可できなかった変換メッセージ群のリリース許可については，「10.2.4　リリースする変換メッセージ群を決定する（変換メッセージ群のリリース許可）」を参照してください。

KNAH4632-W

以下の変換メッセージ群は，属するイベントソースが*状態名*状態のため，リリース許可を適用できません。*変換メッセージ群名*

対象の変換メッセージ群が属するイベントソースがリリース状態，リリース編集状態，またはリリース許可状態のため，変換メッセージ群をリリース許可できません。

(S)

処理を中断し，以降の処理をユーザーに問い合わせます。

(O)

リリース許可できなかった変換メッセージ群よりあとの定義のリリースを許可するかどうかを選択してください。

[継続]

リリース許可を継続する場合に選択します。

[以降問い合わせない]

今後リリースを許可できないメッセージがあった場合，問い合わせをしないでリリース許可を継続するときに選択します。

[キャンセル]

リリースを許可しない場合に選択します。

リリース許可できなかった変換メッセージ群が属しているイベントソースのリリース許可については，「10.2.1　リリースするイベントソースを決定する（イベントソースのリリース許可）」を参照してください。

KNAH4633-W

以下の適用先システムは発行元が選択されていないため，リリースしても JP1 イベント変換処理は実行されません。*適用先システム名*

イベントソース名：*イベントソース名*

変換メッセージ群名：*変換メッセージ群名*

発行元が選択されていない適用先システムをリリース許可しました。適用先システムをリリースしても，発行元が選択されていない場合，JP1 イベントは変換されません。

発行元が選択されていない適用先システム名を最大 10 件表示します。10 件以上存在する場合は，さらにほかに何件あるか表示します。

(S)

処理を中断し，以降の処理をユーザーに問い合わせます。

(O)

リリース許可できなかった変換メッセージ群よりあとの定義のリリースを許可するかどうかを選択してください。

[継続]

処理を継続する場合にクリックします。

[以降問い合わせない]

今後処理できないメッセージがあった場合，問い合わせをしないで処理を継続するときにクリックします。

[キャンセル]

処理をキャンセルする場合にクリックします。

KNAH4806-E

接続ホスト名の解決に失敗しました。（*ホスト名*）［詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*］

接続先指定ダイアログで指定されたホスト名を解決できなかった場合に出力します。

（S）

処理を中断します。

（O）

接続先指定画面で指定された接続先ホスト名が不正です。正しいホスト名を指定したあと，再実行してください。

KNAH4807-E

接続先ホスト（*ホスト名*）または接続先ホストの JP1/IM - Message Optimizer に接続することはできません。［詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*］

接続先ホストの JP1/IM - MO に接続できません。

（S）

処理を中断します。

（O）

接続先ホスト，または接続先ホストの JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスに接続できません。次の原因が考えられます。

- 接続先ホストの JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスが起動していない。
- ポート番号（jp1immoa）の定義が，接続先と一致していない。
- 接続先ホストが起動していない。
- 接続先ホストとネットワーク接続できる状態ではない。
- 接続先との間にファイアウォールがある場合，通過できるように設定されていない。

エラーの原因を取り除き，再実行してください。

KNAH4808-E

接続先ホストとのデータの送受信に失敗しました。［詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*］

接続先ホストとのデータの送受信に失敗しました。

（S）

処理を中断します。

（O）

ネットワークの一時的な問題が考えられます。次の対処を実施してください。

- 更新，または操作時にこのメッセージが表示された場合は，メイン画面のメニューから最新情報に更新して，更新または操作が有効になっているかを確認してください。有効になっていない場合や，データの取得時の場合は，再度同じ操作をしてください。
- JP1/IM - MO 接続時にこのメッセージが表示された場合は，JP1/IM - MO のログを確認し，メッセージに従って対処してください。
- 起動中の JP1/IM - MO Assistant が一定時間操作されない場合，JP1/IM - MO から自動的に切断されます。JP1/IM - MO Assistant が JP1/IM - MO から切断された場合，JP1/IM - MO Assistant を次に操作するタイミングでこのメッセージを表示します。JP1/IM - MO Assistant を再起動し，切断された JP1/IM - MO に再接続してください。
- 何度もこのメッセージが表示される場合は，JP1/IM - MO で異常が発生しているおそれがあります。JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant が別のホストにインストールされている場合は，JP1/IM - MO Assistant がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmoalog.bat）を実行して，JP1/IM - MO，および JP1/IM - MO Assistant の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH4809-E

接続先ホストからの応答待ちでタイムアウトしました。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

タイムアウト時間が経過しても接続先ホストからの応答がありませんでした。

（S）

処理を中断します。

（O）

JP1/IM - MO に異常がないかを確認してください。JP1/IM - MO での処理に時間が掛かっている場合もあるので，最新情報に更新したあと処理がされているかを確認してください。

KNAH4810-E

エラーが発生したため，要求が実行されませんでした（*例外名*）

JP1/IM - MO との通信処理でエラーが発生したため，要求が実行されませんでした。

（S）

処理を中断します。

（O）

ネットワークの一時的な問題が考えられます。次の対処を実施してください。

- 更新，または操作時にこのメッセージが表示された場合は，メイン画面メニューから最新情報に更新して，更新または操作が有効になっているかを確認してください。有効になっていない場合や，データの取得時の場合は，再度同じ操作をしてください。
- 何度もこのメッセージが表示される場合は，JP1/IM - MO で異常が発生しているおそれがあります。JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant が別のホストにインストールされている場合は，JP1/IM - MO Assistant がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmoalog.bat）を実行して，JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH4811-E

接続先の JP1/IM - Message Optimizer には，すでに他の JP1/IM - Message Optimizer Assistant が接続済みのため，接続することはできません。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

接続先の JP1/IM - MO には，すでにほかの JP1/IM - MO Assistant が接続しています。

（S）

処理を中断します。

（O）

接続済みの JP1/IM - MO Assistant を終了してから，再実行してください。
接続済みの JP1/IM - MO Assistant がないのにこのメッセージが表示される場合は，前回接続した JP1/IM - MO Assistant から JP1/IM - MO への接続が正しく切断されていないおそれがあります。JP1/IM - MO を再起動してください。

KNAH4812-E

JP1/IM - Message Optimizer との回線が切断されています。再接続のためには，JP1/IM - Message Optimizer Assistant を再起動してください。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

JP1/IM - MO との回線が切断されています。

(S)

処理を中断します。

(O)

ネットワークの一時的な問題が考えられます。起動中の JP1/IM - MO Assistant を再起動し，JP1/IM - MO に再接続してください。

何度もこのメッセージが表示される場合は，JP1/IM - MO で異常が発生しているおそれがあります。JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant が別のホストにインストールされている場合は，JP1/IM - MO Assistant がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmoalog.bat`）を実行して，JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH4813-E

接続先の JP1/IM - Message Optimizer でインポート・エクスポートコマンドが実行中のため，接続することはできません。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

接続先の JP1/IM - MO でインポート・エクスポートコマンドが実行中です。

(S)

処理を中断します。

(O)

実行中のインポート・エクスポートコマンドが終了してから，再実行してください。

KNAH4815-E

認証サーバとの通信でエラーが発生しました。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

認証サーバとの通信でエラーが発生しました。

(S)

JP1/IM - MO との通信を終了します。

(O)

JP1/IM - MO がインストールされているホストで JP1/Base サービスが起動していない場合は，JP1/Base サービスを起動後，再実行してください。

クラスタシステムで運用している場合は，環境設定ファイルの `EVTSVR` に論理ホストのイベントサーバ名が指定されているか確認してください。

クラスタシステムで運用していない場合は，環境設定ファイルの `EVTSVR` に空白が指定されているか確認してください。

上記で解決しない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストの JP1/Base で認証サーバの設定が誤っているおそれがあります。システム管理者に連絡してください。

KNAH4816-E

使用している JP1/IM - Message Optimizer Assistant **のバージョンがバージョン*バージョン値*以前であるため，接続先の** JP1/IM - Message Optimizer **に接続することはできません。**

使用している JP1/IM - MO Assistant から，接続先の JP1/IM - MO に接続できません。

（S）

処理を中断します。

（O）

JP1/IM - MO Assistant のバージョンを確認し，接続できるバージョンの JP1/IM - MO Assistant から再接続してください。

KNAH4900-E

回復不能なエラーが発生しました。JP1/IM - Message Optimizer Assistant **を終了します。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]**

JP1/IM - MO Assistant で回復できないエラーが発生しました。

（S）

JP1/IM - MO Assistant を強制終了します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmolog.bat`）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant が別のホストにインストールされている場合は，JP1/IM - MO Assistant がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmoalog.bat`）を実行して，JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH4901-E

メモリー不足が発生しました。JP1/IM - Message Optimizer Assistant **を終了します。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]**

JP1/IM - MO Assistant を正常に実行するためのメモリーが不足しています。

（S）

JP1/IM - MO Assistant を強制終了します。

（O）

JP1/IM - MO Assistant を実行中のマシンが JP1/IM - MO Assistant の推奨環境を満たしているかどうかを確認してください。

KNAH4902-E

起動処理中に予期しないエラーが発生したため，JP1/IM - Message Optimizer Assistant **を起動することができません。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]**

JP1/IM - MO Assistant の起動処理中に予期しないエラーが発生しました。

（S）

処理を中断します。

（O）

JP1/IM - MO 側のデータベースが壊れていることが考えられます。接続先の JP1/IM - MO を再起動してください。

再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。
JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant が別のホストにインストールされている場合は，JP1/IM - MO Assistant がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmoalog.bat）を実行して，JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH4903-E

JP1/IM - Message Optimizer Assistant **でシステムエラーが発生したため，*処理名*に失敗しました。[終了コード：*終了コード*，詳細コード：*詳細コード*] [詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]**

JP1/IM - MO Assistant でシステムエラーが発生しました。

（S）

処理を中断します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。
JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant が別のホストにインストールされている場合は，JP1/IM - MO Assistant がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmoalog.bat）を実行して，JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH4904-E

JP1/IM - Message Optimizer **でシステムエラーが発生したため，*処理名*に失敗しました。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]**

JP1/IM - MO でシステムエラーが発生しました。

（S）

処理を中断します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。
JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant が別のホストにインストールされている場合は，JP1/IM - MO Assistant がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmoalog.bat）を実行して，JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH4905-E

JP1/IM - Message Optimizer **との通信処理にてエラーが発生したため，**JP1/IM - Message Optimizer Assistant **の起動に失敗しました。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]**

JP1/IM - MO との通信処理でエラーが発生しました。

（S）

処理を中断します。

（O）

ネットワークの一時的な問題が考えられます。再度，同じ操作をしてください。

何度もこのメッセージが表示される場合は，JP1/IM - MO で異常が発生しているおそれがあります。JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。
JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant が別のホストにインストールされている場合は，JP1/IM - MO Assistant がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmoalog.bat）を実行して，JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH4906-E

設定ファイル（*設定ファイル名*）の読み込みに失敗しました。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

設定ファイル（*設定ファイル名*）の読み込みに失敗しました。

（S）

処理を中断します。

（O）

繰り返しこのメッセージが表示される場合は，JP1/IM - MO Assistant の設定ファイルが壊れているおそれがあります。JP1/IM - MO Assistant がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmoalog.bat）を実行して JP1/IM - MO Assistant の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH4907-E

データベース領域が不足しているため，*処理名*に失敗しました。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

データベース領域が不足しているため，JP1/IM - MO でエラーが発生しました。

（S）

処理を中断します。

（O）

JP1/IM - MO がインストールされているホストで，データベースのサイズを拡張してください。データベースサイズを拡張する方法については，「11.5.2　運用開始後にデータベースの容量を大きくする」を参照してください。
データベースサイズを拡張しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO がインストールされているホストで障害情報採取ツール（jmolog.bat）を実行して JP1/IM - MO の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

KNAH4980-E

JP1/IM - Message Optimizer Assistant の起動に失敗しました。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*，*詳細情報 3*]

JP1/IM - MO Assistant の起動に失敗しました。

（S）

処理を中断します。

（O）

次のことを確認してください。
- システムのリソースが不足していないか。
- ファイルシステムでトラブルが発生していないか。

回復しない場合は，システム管理者に連絡してください。

KNAH4981-E

製品情報取得に失敗しました。[詳細情報：*詳細情報 1*，*詳細情報 2*]

製品情報を取得できませんでした。

(S)

処理を中断します。

(O)

システムに障害が発生していないか確認したあと，JP1/IM - MO Assistant を再起動してください。再起動しても状況が変わらない場合は，JP1/IM - MO Assistant がインストールされているホストで障害情報採取ツール（`jmoalog.bat`）を実行して，JP1/IM - MO Assistant の障害情報を採取し，システム管理者に連絡してください。

17 トラブルシューティング

この章では，JP1/IM - MO でトラブルが発生した場合の対処方法や，トラブルの原因になりやすい項目について説明します。

17.1　対処の手順
17.2　ログ情報の種類
17.3　トラブル発生時に採取が必要な資料
17.4　トラブル発生時に採取が必要な資料の採取方法
17.5　トラブルへの対処

17.1　対処の手順

JP1/IM - MO でトラブルが起きた場合の対処の手順を次に示します。

1. **エラーメッセージを確認する。**

   JP1/IM - MO Assistant で画面操作しているときのエラー
   画面に表示されたエラーメッセージを確認してください。

   コマンド入力中または入力後のエラー
   標準出力，標準エラー出力，および JP1/IM - MO のログファイルでメッセージを確認してください。

   そのほかのエラー
   JP1/IM - MO のログファイルにエラーメッセージが出力されていないかを確認してください。

2. **トラブルの要因および対処方法を確認して対処する。**
   - ダイアログ，標準出力，標準エラー出力，および JP1/IM - MO のログファイルに出力されたメッセージの見方，要因，および対処方法については，「16.　メッセージ」を参照してください。
   - JP1/IM - MO で想定されるトラブルとその対処方法については，「17.5　トラブルへの対処」を参照してください。

3. **トラブルが解消されない場合や内部エラーなどの場合は，必要な資料を採取して対処する。**
   必要な資料については，「17.3　トラブル発生時に採取が必要な資料」を，資料の採取方法については，「17.4　トラブル発生時に採取が必要な資料の採取方法」を参照してください。

また，JP1/IM - MO のデータベースや環境設定ファイルをバックアップしておくことで，トラブルが発生した場合に，JP1/IM - MO の環境をリストアできます。JP1/IM - MO のバックアップとリストアについては，「11.　メンテナンス」を参照してください。

17.2　ログ情報の種類

JP1/IM - MO を運用しているときに出力されるログ情報の種類を次に示します。

- 共通メッセージログ
- 統合トレースログ
- JP1/IM - MO ログ
- 操作ログ

ここでは 4 種類のログ情報について説明します。

(1) 共通メッセージログ

共通メッセージログとは，システム側のトラブルを通知する，システム管理者向けのログ情報のことです。共通メッセージログは，必要最小限のトラブル情報を通知します。

共通メッセージログは Windows イベントログに出力されます。

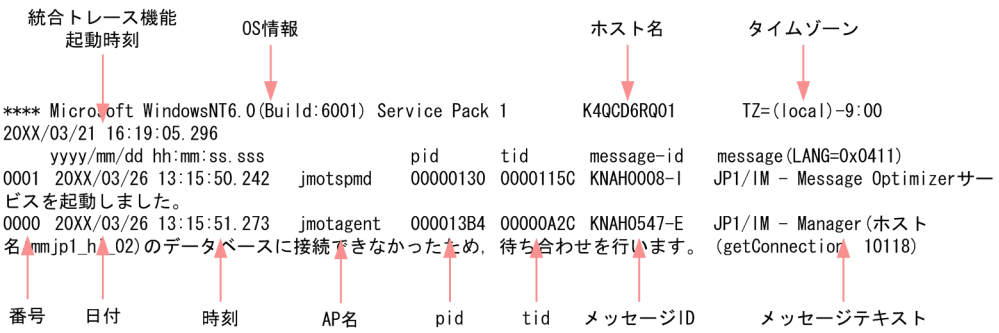
(2) 統合トレースログ

統合トレースログとは，各プログラムが出力するトレース情報を，統合トレース機能（HNTRLib2）を通じて，一つの出力先ファイルにまとめて採取するログ情報のことです。共通メッセージログより詳しい内容のメッセージが出力されます。

統合トレースログのデフォルトの出力先は次のとおりです。

システムドライブ `¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥spool¥hntr2{1|2|3|4}.log`

統合トレースログファイルは，任意のテキストエディターで参照できます。統合トレースログの出力例を次に示します。



統合トレースログファイルに出力されるヘッダー情報と出力項目の説明を次の表に示します。

表 17-1　統合トレースログファイルのヘッダー情報

ヘッダー情報	説明
OS 情報	統合トレース機能が起動している OS の情報が出力されます。
ホスト名	統合トレース機能が起動しているホスト名が出力されます。
タイムゾーン	OS のタイムゾーンです。
統合トレース機能起動時刻	統合トレース機能を起動した時刻です。

表 17-2 統合トレースログファイルの出力項目

出力項目	説明
番号（4 けた）	トレースレコードの通番
日付（10 バイト）	トレースの取得日付：yyyy/mm/dd（年 / 月 / 日）
時刻（12 バイト）	トレースの取得時刻（ローカル時刻）：hh:mm:ss.sss（時：分：秒 . ミリ秒）
AP 名（16 バイト以内）	アプリケーションを識別するための名称（アプリケーション識別名）。 • jmodspmd JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスのプロセス管理 • jmoddbacd JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスのデータベース管理 • jmodmonsrv JP1/IM - MO Assistant との通信管理 • jmotspmd JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスのプロセス管理 • jmotdbacd JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスのデータベース管理 • jmotagent JP1 イベント変換処理 • コマンド **コマンド名**
pid	プロセス ID。OS が付けるプロセス ID。
tid	スレッド ID。スレッドを識別するための ID。
メッセージ ID	メッセージの出力形式で説明したメッセージ ID。この製品で使用するメッセージ ID。
メッセージテキスト	統合トレースログに出力されるメッセージのテキスト。この製品から出力されるメッセージテキスト。

注意

統合トレースログに出力されるログの時刻は，出力したプロセスのタイムゾーンでフォーマットされます。このため，環境変数 TZ を変更したユーザーなどがサービスを起動したり，コマンドを実行したりすると，OS に設定されているタイムゾーンと異なる時刻が出力されることがあります。

(3) JP1/IM - MO ログ

JP1/IM - MO ログとは，JP1/IM - MO の各機能が出力するログ情報のことです。

JP1/IM - MO が出力するデフォルトのログファイルおよびフォルダを次の表に示します。

「ログの種類」には，JP1/IM - MO が出力するログの種類を記載しています。

「プロセス名」には，JP1/IM - MO のプロセスの種類を記載しています。

表中の MO_Path は，マニュアル本文中で使用している「JP1/IM - MO インストール先フォルダ」です。n には，ファイル世代数（1 ～ 9）が割り当てられます。

表 17-3 JP1/IM - MO のログファイル

ログの種類	プロセス名	デフォルトのファイル名・フォルダ名
JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスのプロセス管理ログ	jmodspmd	MO_Path¥log¥server¥serverd¥jmodspmd{n}.log

ログの種類	プロセス名	デフォルトのファイル名・フォルダ名
JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスログ	jmoddbacd	MO_Path¥log¥server¥serverd¥serverd{n}.log
	jmodmonsrv	
JP1/IM - Message Optimizer サービスのプロセス管理ログ	jmotspmd	MO_Path¥log¥server¥servert¥jmotspmd{n}.log
JP1/IM - Message Optimizer サービスログ	jmotdbacd	MO_Path¥log¥server¥servert¥servert{n}.log
	jmotagent	
リリース管理ログ	jmorelease	MO_Path¥log¥server¥jmorelease{n}.log
インポートログ	jmoimport	MO_Path¥log¥server¥jmoimport{n}.log
エクスポートログ	jmoexport	MO_Path¥log¥server¥jmoexport{n}.log
変換定義ファイルチェックログ	jmochktransfile	MO_Path¥log¥server¥jmochktransfile{n}.log
データベースセットアップログ	jmoedbsetup	MO_Path¥log¥server¥jmoedbsetup{n}.log
再編成ログ	jmoedbrorg	MO_Path¥log¥server¥jmoedbrorg{n}.log
バックアップログ	jmoedbbackup	MO_Path¥log¥server¥jmoedbbackup{n}.log
リストアログ	jmoedbrstr	MO_Path¥log¥server¥jmoedbrstr{n}.log
データベース停止ログ	jmoedbstop	MO_Path¥log¥server¥jmoedbstop{n}.log

(4) 操作ログ

JP1/IM - MO のサービスの起動や停止，ログイン情報，コマンドの実行情報を操作ログに出力します。操作ログの詳細については，「付録 I　操作ログ」を参照してください。

17.3　トラブル発生時に採取が必要な資料

トラブルが発生したときに採取が必要な資料を次に示します。

- OS のシステム情報
- JP1/Base の情報
- JP1/IM - MO の情報
- データベースの情報
- オペレーション内容
- 画面上のエラー情報

なお，JP1/IM - MO では採取が必要な資料を一括採取するための「資料採取ツール」を用意しています。資料採取ツールは，バッチファイル（jmolog.bat）で提供しています。資料採取ツールの詳細については，「13.　コマンド　jmolog.bat」を参照してください。

（1）OS のシステム情報

次に示す OS のシステム情報の採取が必要です。これらの情報は資料採取ツールで採取できます。

情報の種類	採取資料	ファイル名※
Windows イベントログ	**システムフォルダ** ¥system32¥config¥AppEvent.Evt	AppEvent(Backup).evt
	システムフォルダ ¥system32¥config¥SysEvent.Evt	SysEvent(Backup).evt
マシンに設定されているホスト名	**システムフォルダ** ¥system32¥drivers¥etc¥hosts	hosts
マシンに設定されているサービスポート	**システムフォルダ** ¥system32¥drivers¥etc¥services	service
マシンの環境変数	set の実行結果	set.log
マシンのシステム情報	msinfo32/report **ファイル名**の実行結果	msinfo32.log
ネットワーク構成情報	netstat の実行結果	netstat.log

注※
資料採取ツールを実行したあとの格納先でのファイル名です。

（2）JP1/Base の情報

JP1/Base に関する情報の採取が必要です。採取が必要な JP1/Base の情報および採取方法については，マニュアル「JP1/Base　運用ガイド」を参照してください。

（3）JP1/IM - MO の情報

JP1/IM - MO に関する次の情報の採取が必要です。これらの情報は資料採取ツールで採取できます。

情報の種類	採取資料	ファイル名※
環境設定情報	**インストール先フォルダ** ¥conf 以下のファイル	採取元のファイル名と同じファイル名
	インストール先フォルダ ¥sys 以下のファイル	採取元のファイル名と同じファイル名

情報の種類	採取資料	ファイル名※
ログ情報	**インストール先フォルダ** ¥log 以下のファイル	採取元のファイル名と同じファイル名
登録済みの環境設定情報	－	REG_CONF.TXT
バージョン情報	－	VERSION.TXT

（凡例）
－：該当しません。

注※
資料採取ツールを実行したあとの格納先でのファイル名です。

(4) データベースの情報

データベースに関する次の情報の採取が必要です。これらの情報は資料採取ツールで採取できます。

情報の種類	内容
データベースのログ情報	JP1/IM - MO **インストールフォルダ** ¥db¥SPOOL 以下のファイルすべて
	JP1/IM - MO **インストールフォルダ** ¥db¥UXPLDIR 以下のファイルすべて
	JP1/IM - MO **インストールフォルダ** ¥db¥PDISTUP¥spool 以下のファイルすべて
データベースの設定情報	JP1/IM - MO **インストールフォルダ** ¥db¥tmp 以下のファイルすべて
	JP1/IM - MO **インストールフォルダ** ¥db¥conf 以下のファイルすべて

(5) オペレーション内容

トラブル発生時のオペレーション内容について次に示す情報が必要です。

- オペレーション内容の詳細
- 発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン，ホスト名，JP1/IM - MO の構成）
- 再現性

(6) 画面上のエラー情報

次に示すハードコピーを採取してください。

- エラーダイアログのハードコピー
  コマンド実行時の場合，「コマンドプロンプト」ウィンドウのハードコピー

17.4　トラブル発生時に採取が必要な資料の採取方法

トラブルが発生したときに資料を採取する方法を次に示します。

(1) 資料採取ツールを実行する

資料採取ツール（jmolog.bat または jmoalog.bat）を実行します。

注意事項

Windows Vista，Windows Server 2008，または Windows 7 の場合，資料採取ツールを実行すると，システム情報を更新していますというダイアログが表示されます。ダイアログ表示中は［キャンセル］ボタンをクリックしないでください。

jmolog.bat または jmoalog.bat を実行すると，同ホスト上の JP1/IM - MO または JP1/IM - MO Assistant の障害調査に必要な資料を採取できます。

資料採取ツールで採取する資料の総容量は使用環境によって大きく異なります。実行する前に資料採取ツールの容量を見積もり，使用マシンの空き容量を確認してください。資料採取ツールの容量の見積もり方法については，「付録 H.6　障害情報の容量の見積もり」を参照してください。

(2) プロセスの状態を確認する

Windows のタスクマネージャを使用して，プロセスの動作状態を確認してください。JP1/IM - MO または JP1/IM - MO Assistant のプロセスについては，「付録 B　プロセス一覧」を参照してください。

(3) オペレーション内容を確認する

トラブル発生時のオペレーション内容を確認し，記録しておいてください。確認が必要な情報を次に示します。

- オペレーション内容の詳細
- 発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン，ホスト名，JP1/IM - MO の構成）
- 再現性

(4) 画面上のエラー情報を採取する

画面にエラーが表示された場合は，その情報も採取します。次に示すハードコピーを採取してください。

- エラーダイアログのハードコピー

17.5　トラブルへの対処

一般的に想定されるトラブルについて，対処方法を説明します。

表 17-4　一般的に想定されるトラブル

項番	トラブルの内容
1	インストールできない
2	ログインできない
3	データベースの容量不足
4	データベースのセットアップエラー
5	データベースが起動できない

(1) インストールできない

インストールができない場合，次のことを確認してください。

- インストールユーザーが Administrators 権限を所有しているか
- インストール対象 PC のインストール条件を満たしているか
  インストール条件については，「4.　インストールとセットアップ」を参照してください。

また，インストール時に環境変数 Path の設定に失敗というメッセージが表示された場合，次の手順で環境変数 Path の値を手動で設定してください。

1. **Windows の［コントロールパネル］で［システム］をダブルクリックする。**
   ［システムのプロパティ］ダイアログが表示されます。
2. **［詳細設定］タブの［環境変数］ボタンをクリックする。**
   ［環境変数］ダイアログが表示されます。
3. **［システム環境変数］の中にある［Path］を選択し，［編集］ボタンをクリックする。**
   ［システム変数の編集］ダイアログが表示されます。
4. **変数値テキストボックスの最後に次の値を追加する。**※
   JP1/IM - MO **のインストールフォルダ** `¥bin`

   注※
   テキストボックスに途中までしか入力できない場合，既存の値の中から不要なパスを削除して，指定された値が完全に入力できるように調整してください。
5. **［OK］ボタンをクリックする。**
   それぞれのダイアログを閉じます。

(2) ログインできない

ログインができない場合，次のことを確認してください。

- JP1 ユーザーが正しく設定されているか
  JP1/IM - MO を使用する JP1 ユーザーの登録については，「4.3.5(1)　JP1 ユーザーの登録」を参照してください。
- JP1/IM - MO のサービスが起動しているか
  JP1/IM - MO のサービスについては，「6.1　JP1/IM - MO のサービス」を参照してください。
- 古いバージョンの JP1/IM - MO Assistant を使用していないか

新しいバージョンで新規に追加された機能を使用している場合，古いバージョンの JP1/IM - MO Assistant からはログインできなくなります。これらの機能を使用しないで定義するか，JP1/IM - MO Assistant を新しいバージョンにバージョンアップしてください。
それぞれのバージョンで追加された機能については，「付録 K　各バージョンの変更内容」を参照してください。

(3) データベースの容量不足

データベースの容量が不足している場合，次のメッセージが Windows イベントログに出力されます。

- KFPH00211-I
- KFPH00212-I

データベースの容量が不足している場合は，データベースを再編成します。データベースの再編成を実行する手順については，「11.2.3　データベースの再編成」を参照してください。

また，データベースの容量を大きくすることもできます。データベース容量を大きくする場合については，「11.5.2　運用開始後にデータベースの容量を大きくする」を参照してください。

(4) データベースのセットアップエラー

データベースのセットアップ中にエラーが発生した場合，再セットアップが必要になることがあります。エラーメッセージに従って対処し，必要に応じてデータベースの再セットアップを実施してください。

データベースの再セットアップを実行する手順を次に示します。

1. **Windows の［コントロールパネル］で［管理ツール］から［サービス］をダブルクリックする。**
   ［サービス］ダイアログが表示されます。
2. **次のサービスを停止する。**
   - JP1/IM - Message Optimizer サービス
   - JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス
3. **次のコマンドを実行する。**
   `jmoedbsetup`
   コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbsetup」を参照してください。
4. **手順 2 で停止したサービスを起動する。**

(5) データベースが起動できない

データベースが起動できない場合，障害発生前にバックアップした JP1/IM - MO の定義情報を使用して回復する必要があります。データベースを回復するために，JP1/IM - MO の再インストールが必要になります。

JP1/IM - MO を再インストールする手順を次に示します。

1. **JP1/IM - MO をアンインストールする。**
   JP1/IM - MO をアンインストールする方法については，「4.3.4　JP1/IM - MO のアンインストール」を参照してください。
2. **JP1/IM - MO をインストールする。**
   JP1/IM - MO をインストールする方法については，「4.3.1　JP1/IM - MO の新規インストール」を参照してください。
3. **データベースをセットアップする。**

jmoedbsetup コマンドを使用して，データベースをセットアップします。コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbsetup」を参照してください。

4. JP1/IM - MO **の定義情報をリストアする。**
   jmoedbrstr コマンドを使用して，障害発生前にバックアップした JP1/IM - MO の定義情報をリストアします。コマンドの詳細については，「13.　コマンド　jmoedbrstr」を参照してください。

5. JP1/IM - MO **を起動する。**
   JP1/IM - MO を起動する方法については，「6.2.1　JP1/IM - MO の起動（変換メッセージの定義をする場合）」を参照してください。

付録

付録 A　ファイルおよびフォルダ一覧

付録 B　プロセス一覧

付録 C　ポート番号一覧

付録 D　操作権限一覧

付録 E　通信設定の変更方法

付録 F　制限値一覧

付録 G　下位バージョンとの接続性

付録 H　性能と見積もり

付録 I　操作ログ

付録 J　定義の関連図

付録 K　各バージョンの変更内容

付録 L　このマニュアルの参考情報

付録 M　用語解説

付録 A　ファイルおよびフォルダ一覧

ここでは，JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant で使用するファイルおよびフォルダについて説明します。

付録 A.1　JP1/IM - MO のファイルおよびフォルダ一覧

JP1/IM - MO のファイルおよびフォルダ一覧では，次の略称を使用しています。

- *SystemDrive*：システムドライブ
- *MO_Path*：JP1/IM - MO インストール先フォルダ
  デフォルトのインストール先フォルダを次に示します。
  - Windows Server 2003，32 ビット版の Windows Server 2008 の場合
    SystemDrive¥Program Files¥Hitachi¥JP1IMMO
  - Windows Server 2003(x64)，64 ビット版の Windows Server 2008 の場合
    SystemDrive¥Program Files(x86)¥Hitachi¥JP1IMMO

JP1/IM - MO で使用するファイルおよびフォルダを次の表に示します。

表 A-1　JP1/IM - MO のファイルおよびフォルダ一覧

ファイル名・フォルダ名	内容
MO_Path¥readme.txt	readme ファイル
MO_Path¥PATCHLOG.TXT	新修正パッチログファイル※
MO_Path¥bin	実行ファイル格納フォルダ
MO_Path¥lib	ライブラリ格納フォルダ
MO_Path¥conf	環境設定ファイル格納フォルダ
MO_Path¥conf¥jp1immo.conf	環境設定ファイル
MO_Path¥conf¥jp1immo.conf.model	環境設定ファイルのモデルファイル
MO_Path¥tools	ツール格納フォルダ
MO_Path¥tools¥jmolog.bat	資料採取ツール
MO_Path¥tools¥jmolog.bat.model	資料採取ツールのモデルファイル
MO_Path¥sys	システムファイル格納フォルダ
MO_Path¥db	データベース格納フォルダ
MO_Path¥log	ログファイル格納フォルダ

注※
　修正パッチをインストールしたときに作成されます。

付録 A.2　JP1/IM - MO Assistant のファイルおよびフォルダ一覧

JP1/IM - MO Assistant のファイルおよびフォルダ一覧では，次の略称を使用しています。

- *SystemDrive*：システムドライブ
- *MOA_Path*：JP1/IM - MO Assistant のインストール先フォルダ
  デフォルトのインストール先フォルダを次に示します。

- Windows XP Professional，Windows Server 2003，32 ビット版の Windows Vista，Windows Server 2008，または Windows 7 の場合
  SystemDrive¥Program Files¥Hitachi¥JP1IMMO
- Windows Server 2003(x64)，64 ビット版の Windows Vista，Windows Server 2008 または Windows 7 の場合
  SystemDrive¥Program Files(x86)¥Hitachi¥JP1IMMO

JP1/IM - MO Assistant で使用するファイルおよびフォルダを次の表に示します。

表 A-2　JP1/IM - MO Assistant のファイルおよびフォルダ一覧

ファイル名・フォルダ名	内容
MOA_Path¥readme.txt	readme ファイル
MOA_Path¥PATCHLOG.TXT	新修正パッチログファイル※1
MOA_Path¥bin	実行ファイル格納フォルダ
MOA_Path¥lib	ライブラリ格納フォルダ
MOA_Path¥image	イメージファイル格納フォルダ
MOA_Path¥conf	環境設定ファイル格納フォルダ
MOA_Path¥sys※2	システムファイル格納フォルダ
MOA_Path¥tools	ツール格納フォルダ
MOA_Path¥tools¥jmoalog.bat	資料採取ツール
MOA_Path¥tools¥jmoalog.bat.model	資料採取ツールのモデルファイル
MOA_Path¥log※3	ログファイル格納フォルダ

注※ 1
修正パッチをインストールしたときに作成されます。

注※ 2
Windows Vista，Windows Server 2008 または Windows 7 の場合は，
「*SystemDrive*¥ProgramData¥HITACHI¥JP1¥JP1_DEFAULT¥JP1IMMOA¥sys」です。

注※ 3
Windows Vista，Windows Server 2008 または Windows 7 の場合は，
「*SystemDrive*¥ProgramData¥HITACHI¥JP1¥JP1_DEFAULT¥JP1IMMOA¥log」です。

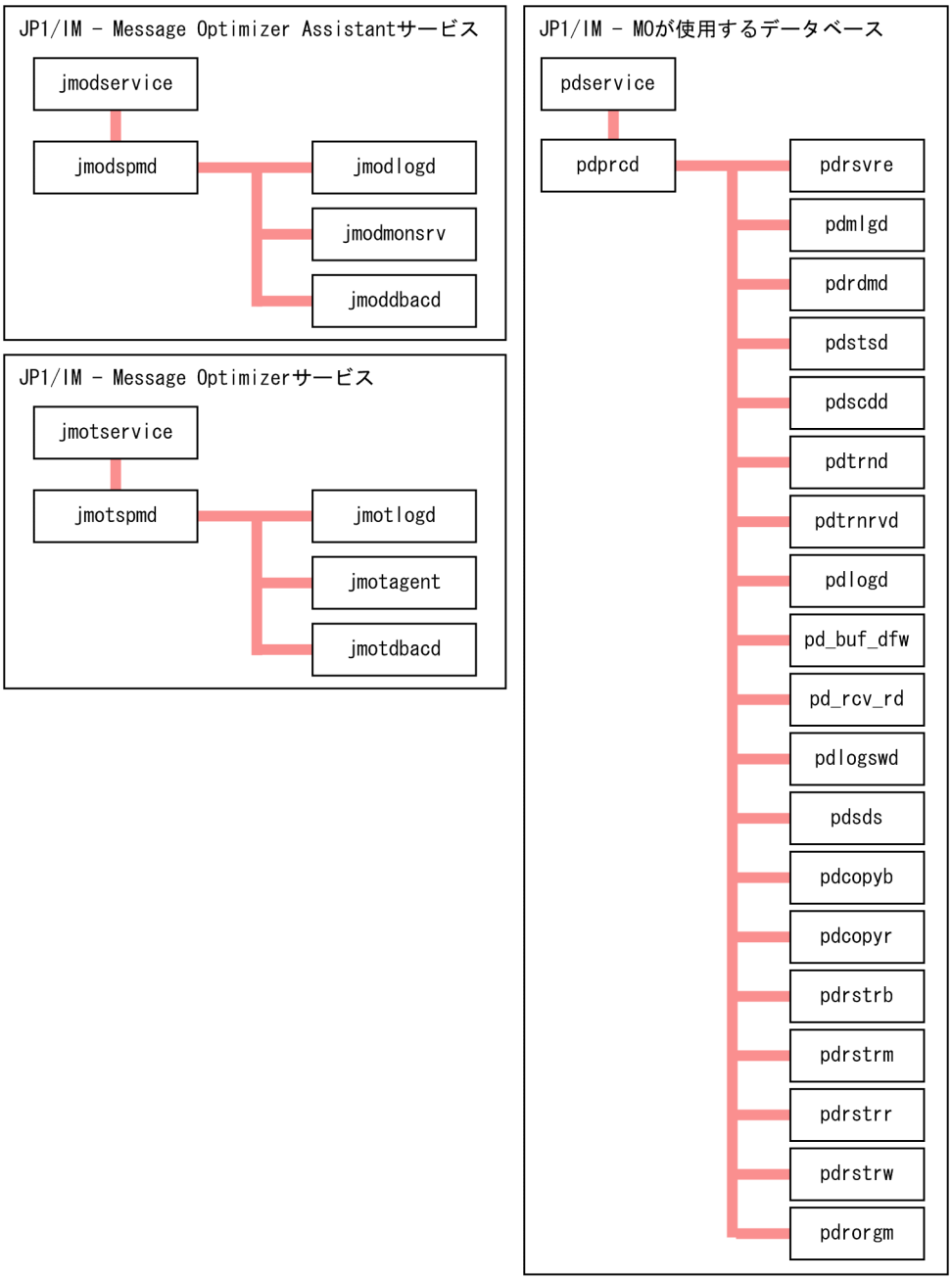
付録 B　プロセス一覧

ここでは，JP1/IM - MO，JP1/IM - MO Assistant およびデータベースのプロセスについて説明します。

付録 B.1　プロセス構成図

JP1/IM - MO のプロセス構成を次の図に示します。

図 B-1　JP1/IM - MO のプロセス構成



付録 B.2　プロセス一覧

JP1/IM - MO，JP1/IM - MO が使用するデータベース，および JP1/IM - MO Assistant のプロセス一覧について説明します。

(1) JP1/IM - MO のプロセス一覧

JP1/IM - MO のプロセス一覧を次の表に示します。なお，表中のプロセス名の後ろに記載されている値は，同時に起動できるプロセス数です。

表 B-1　JP1/IM - MO のプロセス一覧

プロセス名（プロセス数）			機能
jmodservice(1)	－	－	JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービスの Windows サービス制御
	jmodspmd(1)	－	プロセスの起動・監視制御
		jmodlogd(1)	ログの出力制御
		jmodmonsrv(1)	JP1/IM - MO Assistant との通信制御
		jmoddbacd(1)	DB アクセス制御
jmotservice(1)	－	－	JP1/IM - Message Optimizer サービスの Windows サービス制御
	jmotspmd(1)	－	プロセスの起動・監視制御
		jmotlogd(1)	ログの出力制御
		jmotagent(1)	JP1 イベント変換処理プロセス
		jmotdbacd(1)	DB アクセス制御

（凡例）
　－：該当なし

(2) JP1/IM - MO が使用するデータベースのプロセス一覧

JP1/IM - MO が使用するデータベースのプロセス一覧を次の表に示します。なお，表中のプロセス名の後ろに記載されている値は，同時に起動できるプロセス数です。

表 B-2　JP1/IM - MO が使用するデータベースのプロセス一覧

プロセス名（プロセス数）			機能
pdservice(1)	－	－	データベースサービスの Windows サービス制御
	pdprcd(1)	－	データベース関連プロセスの制御
		pdrsvre(3)	後処理プロセス データベースプロセス異常終了後の後始末処理。
		pdmlgd(1)	メッセージログサーバプロセス メッセージ出力を制御する。
		pdrdmd(1)	システムマネージャプロセス ユニット起動・停止の制御および接続ユーザーを管理する。

プロセス名 （プロセス数）			機能
		pdstsd(1)	ステータスサーバプロセス ユニット用ステータスファイルの入出力を制御する。
		pdscdd(1)	スケジューラープロセス シングルサーバプロセスへトランザクションを割り当てる。
		pdtrnd(1)	トランザクションサーバプロセス トランザクションを制御する。
		pdtrnrvd(1 ～ 23)	トランザクション回復プロセス トランザクションの決着・回復を制御する。
		pdlogd(1)	ログサーバプロセス システムログ取得およびログ関連プロセスを制御する。
		pd_buf_dfw(1)	デファードライトプロセス データベース格納ディスクへのバックグラウンドライトを制御する。
		pd_rcv_rd(1)	REDO プロセス 全面リラン時のデータベースの前進復帰。
		pdlogswd(1)	ログスワッパプロセス システムログ関連ファイルの割り当て，解放，入出力を管理，およびシンクポイントダンプを取得する。
		pdsds(8)	シングルサーバプロセス SQL を処理する。
		pdcopyb(1)	pdcopy バックアップ出力プロセス バックアップファイルの出力を行う。
		pdcopyr(1)	pdcopy データベース読み込みプロセス データベースの読み込みを行う。
		pdrstrb(1)	pdrstr バックアップ読み込みプロセス バックアップファイルの読み込みを行う。
		pdrstrm(1)	RD エリア読み込みプロセス マスタフォルダ用 RD エリアの読み込みを行う。
		pdrstrr(1)	pdrstr データベース書き込みプロセス データベースへの書き込みを行う。
		pdrstrw(1)	RD エリア書き込みプロセス pdrstr マスタフォルダ用 RD エリアへの書き込みを行う。
		pdrorgm(1)	pdrorg 制御プロセス データベースの再編成を制御（アンロード，リロード，インデックス再編成・再作成，空きページ解放，およびグローバルバッファ常駐化）する。

（凡例）

－：該当なし

（3） JP1/IM - MO Assistant のプロセス一覧

JP1/IM - MO Assistant のプロセス一覧を次の表に示します。

表 B-3　JP1/IM - MO Assistant のプロセス一覧

プロセス名	機能
jmoa	JP1/IM - MO Assistant のプロセス
javaw	JavaVM 実行コマンド

付録 C　ポート番号一覧

ここでは，JP1/IM - MO のポート番号について説明します。使用するプロトコルは，TCP/IP です。

ポート番号は，製品のインストール時に設定されます。

付録 C.1　ポート番号

表 C-1　ポート番号一覧

サービス名	ポート番号	MO	MOA	説明
jp1immoa	22370/tcp	○	○	JP1/IM - MO Assistant から JP1/IM - MO への接続で使用

（凡例）

MO：JP1/IM - MO

MOA：JP1/IM - MO Assistant

○：インストール時に services ファイルに登録される。

付録 C.2　ファイアウォールの通過方向

ファイアウォールの通過方向を次の表に示します。なお，JP1/IM - MO は，パケットフィルタリング型，NAT（スタティックモード）型のファイアウォールに対応しています。

表 C-2　ファイアウォールの通過方向

プログラム名	サービス名	ポート番号	ファイアウォールの通過方向
JP1/IM - MO	jp1immoa	22370/tcp	JP1/IM - MO Assistant → JP1/IM - MO
JP1/IM - Manager DB Server	なし	20700/tcp	JP1/IM - MO → JP1/IM - Manager DB Server
JP1/IM - MO（jmotagent.exe）	なし	ANY ※ /tcp	JP1/IM - Manager DB Server → JP1/IM - MO

（凡例）

→　：コネクション確立時の接続方向を示します。

注※

OS によって割り当てられる空きポート番号を使用します。この場合に使用するポート番号の範囲は，OS によって異なります。

JP1/IM - MO が動作するホスト上で動作している Windows ファイアウォールを設定する例を次に示します。

表 C-3　JP1/IM - MO が動作するホスト上で動作している Windows ファイアウォールを設定する（Windows Server 2003 の場合）

```
> netsh firewall add allowedprogram program="JP1/IM - MO インストール先フォルダ ¥bin¥jmotagent.exe" name="JP1/IM - MO (jmotagent.exe)" mode=ENABLE
```

表 C-4　JP1/IM - MO が動作するホスト上で動作している Windows ファイアウォールを設定する（Windows Server 2008 の場合）

```
> netsh advfirewall firewall add rule name="JP1/IM - MO (jmotagent.exe)"
dir=in action=allow program="JP1/IM - MO インストール先フォルダ
¥bin¥jmotagent.exe" enable=yes protocol=tcp
```

コネクション確立時は，表中のポート番号を，接続を受ける側（矢印が向いている側）が使用します。接続する側は，OS によって割り当てられる空きポート番号を使用します。この場合に使用するポート番号の範囲は，OS によって異なります。

なお，ファイアウォールサーバホスト上に JP1/IM - MO をインストールする場合は，同一ホスト内での通信もファイアウォールによる通信制限の対象となる場合がありますので，この場合，同一ホスト内でも表中のポート番号で通信できるように設定してください。

ファイアウォールの基礎知識については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager　構築ガイド」を参照してください。具体的なファイアウォールの設定方法については，ファイアウォールのマニュアルを参照してください。

付録 C.3　コネクションの接続状態

JP1/IM - MO の各ポート番号の，コネクションの接続状態を次の表に示します。

表 C-5　コネクションの接続状態

サービス名	ポート番号	コネクションの接続状態
jp1immoa	22370/tcp	JP1/IM - MO Assistant からのログイン時にコネクションを確立し，JP1/IM - MO Assistant でログアウトするまでの間コネクションを維持します。
－	20700/tcp	JP1/IM - Message Optimizer サービス起動時にコネクションを確立し，サービス停止までの間コネクションを維持します。
－	ANY ※ /tcp	サービス起動時にコネクションが確立できなかった場合，KNAH0547-E のメッセージを出力し，リトライを行います。リトライに成功すると KNAH0548-I メッセージを出力し，コネクションを確立します。

（凡例）

－：該当なし

注※

OS によって割り当てられる空きポート番号を使用します。この場合に使用するポート番号の範囲は，OS によって異なります。

付録 D　操作権限一覧

ここでは，JP1/IM - MO Assistant の操作に必要な操作権限について説明します。

JP1/IM - MO Assistant の操作に必要な操作権限は，JP1_Console_Admin です。
JP1_Console_Operator，または JP1_Console_User の操作権限を持っていても，JP1_Console_Admin の操作権限を持っていない JP1 ユーザーでは操作できません。

付録 E　通信設定の変更方法

ここでは，JP1/IM - MO 運用時に通信環境の設定を変更する方法について説明します。

JP1/IM - MO 運用時の，通信環境の設定を変更するには，ポート番号を変更します。

デフォルトのポート番号については，「付録 C.1　ポート番号」を参照してください。

JP1/IM - MO Assistant と JP1/IM - MO の通信に使用するポート番号の変更手順を，次に示します。

1. **services ファイルを編集する。**
   services ファイルの次の下線部分を，適切な値に変更します。

```
jp1immoa     22370/tcp     # JP1/IM Message Optimizer Assistant
```

2. **services ファイルを保存する。**
   手順 1 で編集した services ファイルを，上書き保存します。
3. **JP1/IM - MO のサービスおよび JP1/IM - MO Assistant を再起動する。**

注意事項

JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant を別のホストにインストールした場合，両方の services ファイルに同じポート番号を設定してください。

付録 F　制限値一覧

ここでは，JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant に関する制限値について説明します。

付録 F.1　システム構成の制限値

システム構成に関する制限値を次の表に示します。

表 F-1　システム構成の制限値

内容	制限値
同一ホストにインストールできる JP1/IM - MO の数	1
同一ホストにインストールできる JP1/IM - MO Assistant の数	1
同一ホストで同時に起動できる JP1/IM - MO の数	1
同一ホストで同時に起動できる JP1/IM - MO Assistant の数	1
一つの JP1/IM - MO に，同時に接続できる JP1/IM - MO Assistant の数	1
一つの JP1/IM - MO Assistant から，同時に接続できる JP1/IM - MO の数	1

付録 F.2　基本フォーマット定義の区切り情報

基本フォーマット定義の区切り情報指定によるメッセージの分割方式には，区切り文字分割方式およびカラム位置分割方式の 2 種類があります。

それぞれの制限値を次の表に示します。

表 F-2　基本フォーマット定義の区切り情報

区切り情報の定義方式	制限値
区切り文字分割方式	区切り文字に指定できる文字を次に示します。 • 半角英数字※1 • 下記の半角特殊文字 • 「!」「"」「#」「$」「%」「&」「'」「()「」」「*」「+」「,」「-」「.」「/」「:」「;」「<」「>」「?」「@」「[」「¥」「]」「^」「_」「`」「{」「|」「}」「~」「=」 • 半角スペース※2 • タブ文字
カラム位置分割方式	カラム位置に指定できる値 1 ～ 1,023（単位：バイト）

注※ 1

半角数字だけの文字列は区切り文字として指定できません。指定した場合，カラム位置分割方式を使用していると判断されます。半角数字を区切り文字に使用する場合は，半角英字などを組み合わせて指定してください。

注※ 2

半角スペースを複数個指定した場合，指定した個数分の半角スペースが区切り文字として判断されます。

付録 F.3　学習機能の制限値

学習機能は，最大定義件数まで学習できます。最大定義件数の詳細については，「付録 F.4　最大定義件数」を参照してください。

付録 F.4　最大定義件数

最大定義件数は，使用しているデータベースの容量によって異なります。データベースのサイズごとの最大定義件数については，「3.5.1　データベースの容量の検討」を参照してください。

データベースの容量に関係ない定義の制限値を次の表に示します。

表 F-3　最大定義件数

内容	制限値
適用先システムの階層	3 階層

付録 F.5　タイムアウト時間

JP1/IM - MO Assistant から一定時間要求を受信しなかった場合，JP1/IM - MO Assistant からのログアウト要求を待たないでログアウトし，通信を切断します。タイムアウト時間は，環境設定パラメーター ASSISTANT_TIMEOUT に指定します。

ログアウトまでのタイムアウト時間に設定できる制限値を次の表に示します。

表 F-4　タイムアウト時間

内容	制限値
JP1/IM - MO Assistant からの要求待ちタイムアウト時間	30 ～ 1,440（単位：分）

付録 G　下位バージョンとの接続性

ここでは，JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant の接続性について説明します。

付録 G.1　JP1 シリーズのほかのプログラムとの接続性

JP1/Base や JP1/IM Manager など，JP1/IM - MO の前提となる JP1 シリーズのほかのプログラムとの接続性について説明します。

(1) JP1/IM - MO と JP1/Base との接続性

JP1/Base のバージョン	JP1/IM - MO のバージョン	
	10-00 より前	10-00 以降
09-00 より前	－	－
09-00 以降 10-00 より前	○	－
10-00 以降	－	○

（凡例）
○：接続できる
－：接続できない

(2) JP1/IM - MO と JP1/IM Manager との接続性

JP1/IM Manager のバージョン	JP1/IM - MO	
	09-00 以降	
09-00 より前	－	－
09-00 以降	○	○

（凡例）
○：接続できる
－：接続できない

付録 G.2　JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant の接続性

JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant の異なるバージョン間での接続性を次の表に示します。それぞれのバージョンで追加された機能については，「付録 K　各バージョンの変更内容」を参照してください。

表 G-1　JP1/IM - MO と JP1/IM - MO Assistant の接続性

JP1/IM - MO Assistant のバージョン	JP1/IM - MO のバージョン				
	09-00-03 以前	09-00-04 以降	09-10	09-50	10-00
09-00-03 以前	○	△	△	△	△
09-00-04 以降	○	○	△	△	△
09-10	○	○	○	△	△
09-50	○	○	○	○	△

JP1/IM - MO Assistant のバージョン	JP1/IM - MO のバージョン				
	09-00-03 以前	09-00-04 以降	09-10	09-50	10-00
10-00	○	○	○	○	○

（凡例）

○：接続できる

△：上位のバージョンで追加された機能を使用していなければ接続できる

－：接続できない

付録 H　性能と見積もり

ここでは，JP1/IM - MO，および JP1/IM - MO Assistant のメッセージ変換処理性能，メモリー所要量，ディスク占有量，データベースをバックアップするときの容量，ログファイルの容量，および資料採取ツールで採取する障害情報の容量の見積もり方法について説明します。

付録 H.1　メッセージ変換処理性能

JP1/IM - MO のメッセージ変換処理の性能は，JP1/IM - MO が変換するメッセージ数に依存します。JP1/IM - MO が変換するメッセージ数は，JP1/IM - Manager のデータベースに登録されるイベント数になります。

JP1/IM - MO が変換するメッセージ数の最大数は，一日当たり 40 万件です。メッセージ数が最大数を超える場合は，JP1/IM - Manager と JP1/IM - MO を階層化したシステム構成を検討してください。

付録 H.2　メモリー所要量

JP1/IM - MO，および JP1/IM - MO Assistant のメモリー所要量については，JP1/IM - MO，および JP1/IM - MO Assistant のリリースノートを参照してください。

付録 H.3　ディスク占有量

JP1/IM - MO，および JP1/IM - MO Assistant のディスク占有量については，JP1/IM - MO，および JP1/IM - MO Assistant のリリースノートを参照してください。

付録 H.4　データベースバックアップ時の容量の見積もり

データベースをバックアップするときの容量の見積もり式を次に示します。

バックアップ時の容量=
124（単位：キロバイト）＋**変動値**（0〜93（単位：ギガバイト））

変動値は次の表に示す a 〜 m の合計（単位：バイト）です。

記号	式
a	イベントソース数× 1,200
b	（基本メッセージ定義数＋サンプルメッセージ数）× 1,500
c	変換メッセージ群の数× 200
d	変換メッセージ群が選択している適用先システムの数の合計× 600
e	変換メッセージ定義の数× 1,800
f	適用先システムの数× 200
g	発行元定義の数× 1,300
h	変換フォーマット定義数× 600
I	リリースされているイベントソース数× 1,200
j	リリースされている変換メッセージ群数× 200
k	リリースされている変換メッセージ群に含まれる変換メッセージ定義数の合計× 1,800
l	リリースされている適用先システムの数× 200

記号	式
m	リリースされている変換フォーマット定義数× 600

付録 H.5　ログファイルの容量の見積もり

ここでは，ログファイルの容量の見積もり式を説明します。

(1) JP1/IM - MO ログ

JP1/IM - MO ログの容量の見積もり式を次に示します。

JP1/IM - MO**ログの総容量**（単位：メガバイト）　＝
　　ログファイルサイズ※1　×　**世代数**※2　×　15

注※ 1
　環境設定パラメーター LOG_JMO_SIZE で指定したサイズ（デフォルト：1）

注※ 2
　環境設定パラメーター LOG_JMO_GEN で指定した世代数（デフォルト：2）

(2) 操作ログ

操作ログの容量の見積もり式を次に示します。

操作ログの総容量（単位：メガバイト）　＝
　　ログファイルサイズ※1　×　**世代数**※2

注※ 1
　環境設定パラメーター LOG_AUDIT_SIZE で指定したサイズ（デフォルト：1）

注※ 2
　環境設定パラメーター LOG_AUDIT_GEN で指定した世代数（デフォルト：2）

付録 H.6　障害情報の容量の見積もり

資料採取ツールで取得する障害情報の容量の見積もり式を次に示します。

JP1/IM - MOまたはJP1/IM - MO Assistantの情報※1 ＋ OSの情報※2 ＋ データベースの情報※3

注※ 1
　JP1/IM - MO の情報：最大 180 メガバイト
　JP1/IM - MO Assistant の情報：最大 50 メガバイト
　JP1/IM - MO および JP1/IM - MO Assistant がインストールされている場合は，合計値

注※ 2
　Windows Server 2003, Windows Server 2008, Windows Vista または Windows 7 の場合：60 メガバイト
　Windows XP の場合：10 メガバイト

注※ 3

最大 10 メガバイト

付録 I　操作ログ

ここでは，JP1/IM - MO の操作ログの出力情報について説明します。

JP1/IM - MO の操作ログでは，次の情報を出力します。

- サービスの起動／停止情報
- ログイン情報
- コマンドの実行情報

付録 I.1　操作ログに出力される事象の種別

操作ログを出力する対象となる事象の種別および JP1/IM - MO が操作ログを出力する操作を次の表に示します。事象の種別とは，操作ログに出力される事象を分類するための識別子です。

表 I-1　操作ログに出力される事象の種別

項番	事象の種別	説明	JP1/IM - MO の操作
1	StartStop	ソフトウェアの起動および終了を示す事象です。	サービスの起動および停止
2	Authentication	管理者が，JP1/IM - MO への認証または接続に，成功または失敗したことを示す事象です。	JP1/IM - MO Assistant から JP1/IM - MO への接続または切断
3	ConfigurationAccess	管理者が許可された運用操作を実行し，操作が正常終了または異常終了したことを示す事象です。	リリース実行
4	ContentAccess	データベースへのアクセスに，成功または失敗したことを示す事象です。	データベース操作（セットアップ，バックアップ，リストア，インポート，エクスポート，および再編成）

付録 I.2　操作ログの保存形式

操作ログの保存形式について説明します。操作ログは，操作ログファイル（`admauditlogn.log`）に出力されます。操作ログファイルは，シーケンシャルファイルです。一定の容量に達して操作ログファイルが切り替わる際，`admauditlog.log` を，`admauditlog1.log` に変更して保存し，新たに `admauditlog.log` を作成して，ログを書き込みます。再び `admauditlog.log` が一定量に達すると，保存済みの `admauditlog1.log` を `admauditlog2.log` に変更したあと，`admauditlog.log` を `admauditlog1.log` に変更して保存します。

このように，保存済みのログファイルは，新たにファイルが作成されるごとにファイル名末尾の数値 +1 をしたファイル名称に変更されます。つまり，数値が大きいログファイルほど古いログファイルとなります。なお，ファイル数が設定値を超えると，古いログファイルから削除されます。

操作ログの出力の有無，ファイルサイズ，およびファイル数は，JP1/IM - MO の環境設定で変更できます。操作ログファイルサイズのデフォルト値は 1 メガバイトです。操作ログファイル数のデフォルト値は 2 です。操作ログ出力の設定方法については，「4.4.1　環境設定ファイルの設定方法」を参照してください。

付録 I.3　操作ログの出力形式

操作ログの出力形式，出力先，出力項目，および出力例について説明します。

(1) 操作ログの出力形式

操作ログは，操作ログのフォーマットであることを示す「CALFHM」，操作ログのリビジョン番号，該当する出力項目の順で出力されます。

CALFHM X.X，**出力項目** 1= **値** 1，**出力項目** 2= **値** 2，・・・，**出力項目** n= **値** n

(2) 操作ログの出力先

操作ログは，次に示すフォルダに出力されます。

JP1/IM - MO **インストール先フォルダ** `¥log¥server`

(3) 操作ログの出力項目

出力項目は，共通出力項目と固有出力項目の 2 種類あります。それぞれについて説明します。

- 共通出力項目
  操作ログを出力する日立オープンミドルウェア製品で共通して出力される項目です。
- 固有出力項目
  操作ログを出力する日立オープンミドルウェア製品ごとに，出力される項目です。

(a) 共通出力項目

共通出力項目に出力される値および内容を次の表に示します。

表 I-2　操作ログの共通出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性		
1	共通使用識別子	－	「CALFHM」	操作ログのフォーマットであることを示す識別子です。
2	共通使用リビジョン番号	－	「1.0」	操作ログを管理するためのリビジョン番号です。
3	通番	seqnum	**通番**	操作ログの通し番号です。
4	メッセージ ID	msgid	KNAHxxxx-x	製品ごとのメッセージ ID です。
5	日付・時刻	date	YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sssTZD ※	操作ログの取得日時およびタイムゾーンです。
6	発生プログラム名	progid	「JP1IMMO」	事象が発生したプログラム名です。
7	発生コンポーネント名	compid	「JP1IMMO」	事象が発生したコンポーネント名です。
8	発生プロセス ID	pid	**プロセス** ID	事象が発生を検出したプロセスの ID です。
9	発生場所	ocp:ipv4 または ocp:host	**ホスト名**	自サーバホスト名です。

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性		
10	事象の種別	ctgry	• StartStop • Authentication • ContentAccess • ConfigurationAccess	操作ログに出力される事象を分類するための識別子です。
11	事象の結果	result	• Success（成功） • Failure（失敗）	発生した事象の結果です。
12	サブジェクト識別子	sbj:uid	JP1 **ユーザー**	事象を発生させたユーザーの情報です。
		sbj:euid	OS **ユーザー**	

（凡例）

－：属性名の出力なし

注※

YYYY は年，MM は月，DD は日，hh は時間，mm は分，ss は秒，sss はミリ秒です。

T は日付と時刻の区切りです。

TZD はタイムゾーン指定子です。次のどれかが出力されます。

・+hh:mm：UTC（協定世界時）から hh:mm だけ進んでいることを示す。

・-hh:mm：UTC（協定世界時）から hh:mm だけ遅れていることを示す。

・Z：UTC（協定世界時）と同じであることを示す。

(b) 固有出力項目

固有出力項目に出力される値および内容を次の表に示します。

表 I-3　操作ログの固有出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性		
1	オブジェクト情報	obj	• Process • Session • Database • Config	事象を発生させたユーザーのオブジェクト名です。なお，値に該当しない動作の情報は，出力されません。
2	動作情報	op	• Start（開始） • Stop（停止） • Login（ログイン） • Logout（ログアウト） • Update（作成・更新・リリース） • Refer（参照）	事象を発生させたユーザーの動作の情報です。なお，値に該当しない動作の情報は，出力されません。
4	リクエスト送信元ホスト	from:ipv4	IPv4 形式（xxx.xxx.xxx.xxx）	クライアントの IP アドレスです。なお，値に該当しない動作の情報は，出力されません。 また，固有情報の場合や値がない場合は「出力される属性名」も出力されません。
5	メッセージ	msg	**任意のメッセージ**	事象の内容を示すメッセージです。

（4）操作ログの出力例

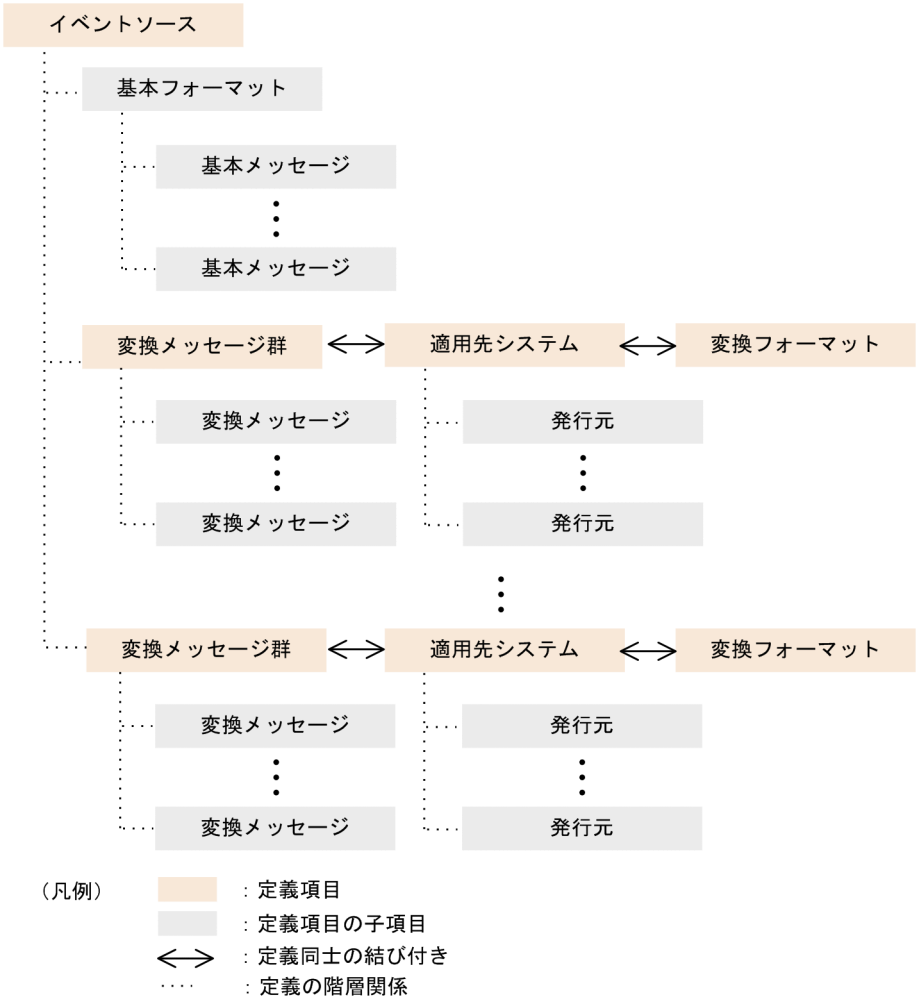
操作ログの出力例を次に示します。

```
CALFHM 1.0, seqnum=1, msgid=KNAH0008-I, date=2009-03-30T11:49:32.561+09:00,
rogid=JP1IMMO, compid=JP1IMMO, pid=5516, ocp:host=k4qcd6rq01, ctgry=StartStop,
result=Success, subj:euid=SYSTEM, obj=Process, op=Start,
msg="JP1/IM - Message Optimizerサービスを起動しました。 "
```

付録 J　定義の関連図

JP1/IM - MO で定義する定義には次のような関連があります。

図 J-1　定義の関連図



定義間の関連によって最大定義件数の件数が決まります。最大定義件数の関係性を次に示します。

表 J-1　最大定義件数の関係性

定義項目	最大定義件数 / 母体
イベントソース	1,000 件 / システム全体
基本メッセージ※1	9,999 件 / イベントソース
変換メッセージ群	10 件 / イベントソース
変換メッセージ※1	9,999 件 / 変換メッセージ群
適用先システム	10,240※2 件 / システム全体
発行元	10,240 件 / システム全体
変換フォーマット	10,241 件 / システム全体

注※ 1

基本メッセージ 1 件について，同一変換メッセージ群内で定義できる変換メッセージは 1 件だけです。基本メッセージ 1 件に対して，複数の変換メッセージを定義したい場合には，イベントソース 1 件に対して複数の変換メッセージ群を定義して，その配下に変換メッセージを作成してください。

注※ 2

「全てのシステム」を除きます。

それぞれの定義項目の定義方法の詳細については，次の参照先を参照してください。

- イベントソースの定義については，「2.2　イベントソースの定義」を参照してください。
- 基本フォーマットおよび変換フォーマットの定義については，「2.3　メッセージフォーマットの変換定義」を参照してください。
- 基本メッセージおよび変換メッセージの定義については，「2.4　メッセージテキストの定義」を参照してください。
- 適用先システムの定義については，「2.5　定義を適用するシステムの指定」を参照してください。
- それぞれの定義の最大定義件数については，「表 3-8　定義の上限値とディスク所要量」を参照してください。

付録 K　各バージョンの変更内容

各バージョンでの変更内容を次に示します。

付録 K.1　10-00 での変更内容

- JP1/IM - MO でメッセージを変換すると，ビューアーに変換前と変換後のメッセージが表示されることを追加した。
- イベントソースが未定義の場合に，イベント種別ごとに共通の定義およびすべての JP1 イベントに共通な定義を作成できるようにした。
- データベースの容量がサイズ S のときのホスト台数の目安を変更した。
- JP1/IM - MO のバージョンが 10-00 より前のバージョンから，JP1/IM - MO のバージョンが 10-00 以降のバージョンに上書きインストールする場合の注意事項を追加した。
- JP1/IM - Manager が稼働するホストが複数のネットワークに接続している場合に，使用するネットワークを限定する方法について記載した。
- JP1/IM - Manager の依存関係を定義する理由について記載した。
- バックアップとリストアの概要を記載した。
- データベースを再編成しないときの劣化要因を追加した。
- データベースを再編成する時期の説明を追加した。
- データベースの再編成の手順を追加した。
- JP1/IM - Manager のデータベース（統合監視 DB）のバックアップおよびリストア時に，イベント取得開始位置ファイルをバックアップおよびリストアすることを追加した。
- JP1/IM - MO を別ホストに移行する場合に見直しする内容の記載を変更した。
- ツリーエリアから［変換メッセージ定義］ダイアログを表示する手順を追加した。
- 変換前の JP1 イベント内で IP アドレスが IPv6 形式で記載されている場合にも，JP1/IM - MO の変換後のイベントに IP アドレスを表示できるようにした。
- 定義の関連図を追加した。
- 用語解説にイベントソース共通定義を追加した。

付録 K.2　09-50 での変更内容

- IM 構成管理情報やシステム構成定義ファイルを利用して，発行元と適用先システムを定義および移行できるようにした。
- 次のイベントが発行されたときに，イベントの発生元をマッピングする機能を追加した。
  - JP1/IM - Manager のリモート監視機能の JP1 イベント（ログファイルトラップ）
  - JP1/IM - Manager のリモート監視機能の JP1 イベント（イベントログトラップ）
  - JP1/IM - Manager の発生元ホストマッピング機能により発生元を設定した JP1 イベント
- ディスク所要量を変更した。
- データベースの容量を選択できるようにした。
- データベースの容量を選択できるようにしたのに伴い，次の環境設定パラメーターを廃止した。
  - `MAX_APPLY_SYSTEM`
  - `MAX_SRCDEVICE`
- 次の環境設定パラメーターを追加した。
  - `SEARCH_SENSITIVE`
- バックアップ時の容量の見積もりの変動値を変更した。
- メイン画面でイベントソースの状態ごとにフィルタリングできるようにした。

- 変換後のメッセージに埋め込める JP1/IM - MO で独自に定義する項目として，イベント発行元名を追加した。
- 変換メッセージ群のフィルタリング条件を設定できるようにした。
- イベントソース，変換フォーマット，適用先システムまたは変換メッセージ群を複数選択して一括してリリースできるようにした。
- メイン画面で，ツリーエリアに表示されるイベントソースの階層を，すべて表示したり，表示しなかったり，選択したりできるようにした。
- リリース状態の変換メッセージ群が一つもない状態のアイコンを追加した。
- リストエリアで，メッセージを検索できるようにし，メッセージの件数を画面上に表示するようにした。
- サンプルメッセージの表示件数を変更した。
- 適用先システム名でフィルタリングできるようにした。
- 発行元名でフィルタリングできるようにした。
- 発行元の名称および適用先システムの名称を 255 バイトまで指定できるようにした。
- 次のコマンドを追加した。
  - `jmocfimport` コマンド
  - `jmocfexport` コマンド
  - `jmoedbgetinf` コマンド
- システム構成定義ファイルを追加した。
- ログインできない場合に，古いバージョンの JP1/IM - MO Assistant を使用している場合を追加した。
- 最大定義件数の記述を変更した。
- 下位バージョンとの接続性についての説明を追加した。
- ログファイルの見積もり式を変更した。
- 各バージョンの変更内容を追加した。
- 用語解説に IM 構成管理情報とシステム構成定義ファイルを追加した。

付録 K.3　09-10 での変更内容

- JP1/IM - MO Assistant の適用 OS に Windows 7 を追加した。
- JP1/IM - MO で定義していないメッセージを抑止できるようにした。
- JP1/IM - MO で変換エラーになったメッセージを抑止できるようにした。
- 追加メッセージ識別子を定義できるようにした。
- ユーザーが任意に名前を付けられる情報フィールドを設定できるようにした。

付録 K.4　09-00 での変更内容

- イベントソースとしてプログラム名を指定できるようにした。
- エージェントホストを発行元として定義できるようにした。

付録 L　このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 L.1　関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

JP1/IM 関連

- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager クイックリファレンス（3021-3-006）
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド（3021-3-007）
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド（3021-3-008）
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド（3021-3-009）
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス（3021-3-010）
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス（3021-3-011）
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager メッセージ（3021-3-012）

JP1 関連

- JP1 Version 10 JP1/Base 運用ガイド（3021-3-001）
- JP1 Version 10 JP1/Base メッセージ（3021-3-002）
- JP1 Version 10 JP1/Base 関数リファレンス（3021-3-003）
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM　運用ガイド 1(Windows(R) 用)（3020-3-S81）

付録 L.2　このマニュアルでの表記

このマニュアルでは，日立製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。次に，製品の正式名称と，このマニュアルでの表記を示します。

このマニュアルでの表記		正式名称
Active Directory		Active Directory(R)
HNTRLib2		Hitachi Network Objectplaza Trace Library 2
JP1/AJS2	JP1/AJS2 - Manager	JP1/Automatic Job Management System 2 - Manager
	JP1/AJS2 - Agent	JP1/Automatic Job Management System 2 - Agent
	JP1/AJS2 - View	JP1/Automatic Job Management System 2 - View
JP1/AJS3	JP1/AJS3 - Manager	JP1/Automatic Job Management System 3 - Manager
	JP1/AJS3 - Agent	JP1/Automatic Job Management System 3 - Agent
	JP1/AJS3 - View	JP1/Automatic Job Management System 3 - View
JP1/IM または JP1/Integrated Management	JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager
	JP1/IM - View	JP1/Integrated Management - View

このマニュアルでの表記		正式名称
JP1/IM - MO		JP1/Integrated Management - Message Optimizer
JP1/IM - MO Assistant		JP1/Integrated Management - Message Optimizer Assistant
JP1/PFM	JP1/PFM - Agent	JP1/Performance Management - Agent for Platform などのエージェント製品群
	JP1/PFM - Manager	JP1/Performance Management - Manager
	JP1/PFM - View	JP1/Performance Management - View
	JP1/PFM - Web Console	JP1/Performance Management - Web Console
NNMi	HP NNMi	HP Network Node Manager i Software v8.10
	JP1/Cm2/NNMi	JP1/Cm2/Network Node Manager i 09-00 以降

付録 L.3　このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	正式名称
API	Application Programming Interface
CSV	Comma Separated Value
DB	Database
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol
DNS	Domain Name System
FAT	File Allocation Tables
FTP	File Transfer Protocol
FQDN	Fully Qualified Domain Name
GUI	Graphical User Interface
HTML	Hyper Text Markup Language
ID	IDentification number
IP	Internet Protocol
J2EE	Java™2 Platform Enterprise Edition
Java VM	Java™ Virtual Machine
JIS	Japanese Industrial Standards
LAN	Local Area Network
NAT	Network Address Translation
NTFS	NT File System
OS	Operating System
PC	Personal Computer
SNMP	Simple Network Management Protocol
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
TXT	Text
UAC	User Account Control

英略語	正式名称
UCS	Universal Multiple-Octet Coded Character Set
UTC	Universal Time Coordinated

付録 L.4　KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト），1MB（メガバイト），1GB（ギガバイト），1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト，$1{,}024^2$ バイト，$1{,}024^3$ バイト，$1{,}024^4$ バイトです。

付録 M　用語解説

（英字）

IM 構成管理情報

JP1/IM - Manager では，IM 構成管理ビューアーから JP1/IM - Manager の構成管理機能を使用して，JP1/IM が運用管理するシステムの階層構成，およびシステムを構成する各ホストの設定を一元的に管理しています。その情報をエクスポートしたファイルが IM 構成管理情報です。JP1/IM - MO では，発行元や適用先システムを定義するときに使用します。

JP1/Base

JP1/IM - Manager および JP1/IM - MO のエージェントとなる製品です。また，JP1/IM - MO の前提プログラムです。

JP1/IM - Manager

システムの運用管理を支援する機能を提供します。この製品は，次のプログラムで構成されています。

- JP1/IM - CC（統合コンソール）
  システム全体を JP1 イベントによって集中監視し，システムで発生した事象の監視から，問題の検知，調査，対策までの一連のサイクルを管理します。
- JP1/IM - CS（統合スコープ）
  管理者の目的に合わせた目的指向型のシステム監視を実現します。

JP1/IM - MO では，統合コンソールのメッセージを変換します。

JP1/IM - MO

ビューアーに表示されるメッセージの形式を統一するためのプログラムです。必要な情報が見やすく整理され，メッセージを監視する負荷を軽減できます。

JP1/IM - MO Assistant

メッセージを変換する形式を GUI で定義するプログラムです。

JP1/IM - View

統合マネージャーの JP1/IM - Manager が収集した JP1 イベントを一覧表示するプログラムです。JP1/IM - View がインストールされたホストをビューアーと呼びます。
JP1/IM - MO を導入すると，JP1/IM - MO でフォーマットやメッセージテキストが変換された JP1 イベントが表示されます。

JP1 イベント

システムで発生した事象を JP1 で管理するための情報です。
システムで事象が発生したら，システムから出力されたメッセージを JP1/Base が検知し，JP1 イベントに変換します。
また，JP1/Base は，変換された JP1 イベントをデータベースに記録しています。
JP1/IM - Manager は，各拠点の JP1/Base から JP1 イベントを収集し，ビューアーに一覧表示します。

（ア行）

後区切

基本フォーマットと変換フォーマットの定義で，メッセージを分割するための区切りとなる文字のことです。例えば，「2009/07/01 △ 00:00」（△：半角スペース）を日付と時刻で区切りたい場合，後区切に「△」を定義します。
なお，「区切り文字」と呼ぶこともあります。

イベントソース

JP1/IM - MO でメッセージを変換する製品の情報です。

メッセージ変換の定義をするためには，イベントソースを JP1/IM - MO Assistant に取り込む必要があります。イベントソースの学習機能を使用している場合，自動的に JP1/IM - MO Assistant に取り込まれます。

イベントソース共通定義

JP1 イベント種別ごとに共通する定義のことです。JP1 イベント種別とは次のものを指します。

- ログファイルトラップ
- イベントログトラップ
- 直接発行イベント

例えば，ログファイルトラップのイベントソース共通定義を定義すると，すべてのログファイルトラップを共通のフォーマットで変換できるようになります。

インポート

JP1/IM - MO で管理する定義情報をファイル（変換定義ファイルおよびシステム構成定義ファイル）で出力・読み込みできます。インポートは，変換定義ファイルを JP1/IM - MO に読み込むことです。

埋め字

変換メッセージの定義で，可変値部分に置き換える文字のことです。
メッセージテキストには，状況によって変わる可変値が含まれることがあります。
変換メッセージの定義をするときに，この可変値部分に埋め字をすると，可変値を残したまま定義ができます。

（例）可変値に埋め字 {%1} をして変換メッセージを定義する例

変換前：*項目名*を指定してください。（斜体字が可変値）
変換後：{%1} を指定し，［OK］ボタンをクリックしてください。
これで，変換後は「項目名」が可変値のまま残り，「項目名」以降のテキストが変換されてビューアーに表示されます。

エージェント

JP1/IM - Manager が監視するサーバのことをいいます。
JP1/Base がインストールされていて，エージェントで発生した事象が JP1 イベントに変換されます。JP1 イベントは JP1/IM - Manager に収集されます。
JP1/IM - MO は，JP1/IM - Manager に収集された JP1 イベントを変換します。
なお，エージェントは JP1 イベントが発行されるサーバということで，「発行元」と呼ぶこともあります。

エクスポート

JP1/IM - MO で管理する定義情報をファイル（変換定義ファイルおよびシステム構成定義ファイル）で出力・読み込みできます。エクスポートは，変換定義ファイルを出力することです。

（カ行）

学習機能

イベントソース，基本メッセージ，および発行元を JP1/IM - MO Assistant に自動的に定義する機能です。

環境設定ファイル

JP1/IM - MO の環境設定をするファイルです。JP1 イベント取得先のサーバ名（JP1/IM - Manager のサーバ名）やエージェントの数など，JP1/IM - MO の動作に関する定義項目を，インストールしたときの値から変更できます。

基本フォーマット

エージェントで出力されたメッセージのフォーマットです。
JP1/IM - MO でメッセージフォーマットを変換するためには，元のメッセージのフォーマットを定義する必要があります。

基本メッセージ

JP1/IM - MO Assistant に取り込んだメッセージテキストです。変換メッセージの定義をするためには，基本メッセー

ジを JP1/IM - MO Assistant に取り込む必要があります。
基本メッセージの学習機能を使用している場合は，自動的に取り込まれます。

拠点マネージャー

各拠点に統合マネージャーを置き，さらにその頂点に統合マネージャーを置くような大規模システムのとき，各拠点の統合マネージャーを拠点マネージャーといいます。

区切り文字

基本フォーマットと変換フォーマットの定義で，メッセージを分割するための区切りとなる文字のことです。例えば，「2009/07/01 △ 00:00」（△：半角スペース）を日付と時刻で区切りたい場合，区切り文字に「△」を定義します。
なお，「後区切」と呼ぶこともあります。

クラスタシステム

複数のサーバシステムを連携して一つのシステムとして運用するシステムです。一つのサーバで障害が発生しても，別のサーバで業務を継続できるようにすることを目的としています。JP1/IM - MO をクラスタシステムで運用することにより，サーバ障害などが発生しても実行系から待機系に処理を引き継ぎ，メッセージ変換処理を継続できます。

（サ行）

再編成

JP1/IM - MO のデータベースの性能劣化を防ぐため，定期的にデータベースの格納領域を整理することです。

サンプルメッセージ

JP1/IM - MO Assistant に取り込んだメッセージテキストです。
基本フォーマットの定義時に，正しく定義されているかどうかを確認するために使用します。
イベントソースの学習機能を使用している場合，JP1/IM - Manager が収集した JP1 イベントから自動的に定義されます。

システム構成定義ファイル

JP1/IM - MO の発行元と適用先システムが定義されたファイルです。
JP1/IM - MO では発行元や適用先システムの一括定義，移行などに使用します。

重大度

JP1 イベントに対して設けられている重大度です。ビューアーでは，重大度ごとに色分けされて表示されます。
JP1/IM - MO では，環境に合わせて重大度を変更することもできます。

（タ行）

追加メッセージ識別子

一つのメッセージ識別子だけでは特定できないメッセージを区別するために，追加して定義するメッセージ識別子です。

定義情報

JP1/IM - MO で管理する，次の情報です。

- イベントソース
- 基本フォーマット
- 基本メッセージ
- 変換メッセージ群
- 変換メッセージ
- 発行元
- 適用先システム
- 変換フォーマット

データベース

JP1/IM - MO で定義した内容を格納するデータベースのことです。

適用先システム

変換フォーマットと変換メッセージを適用するシステムのことです。JP1/IM - Manager が監視する，どのシステムのメッセージに対して定義するかの範囲を，メッセージの発行元をグループ化して定義します。

テンプレート

JP1/IM - MO が用意している基本フォーマットのテンプレートです。

JP1/IM - MO では幾つかの製品の基本フォーマットをテンプレートとして提供しています。変換したい JP1 イベントと同じフォーマットまたは似ているフォーマットのテンプレートがある場合は，テンプレートを使用して基本フォーマットを定義します。

統合マネージャー

JP1/IM - Manager がインストールされたサーバです。

エージェントで発行された JP1 イベントを収集し，一括管理しています。

JP1/IM - MO で変換されたメッセージも管理し，ビューアーに表示します。

（ハ行）

発行元

JP1/IM - Manager が監視するシステムのうち，メッセージが発行されるサーバです。

エージェントともいいます。

発行元の学習機能を使うと，自動的に JP1/IM - MO Assistant に定義されます。

ビューアー

JP1/IM - View がインストールされたホストです。JP1/IM - MO で変換したメッセージを表示します。

フィールド

JP1 イベントの属性の中で，メッセージ属性ではない属性です。JP1/IM - MO ではフィールドに指定した属性をメッセージ属性に埋め込み，ビューアーに表示できます。

変換定義ファイル

JP1/IM - MO で管理する変換フォーマット，変換メッセージ，および適用先システムの定義情報が記述されたファイルです。ファイルをエクスポートして編集することもできます。

変換フォーマット

基本フォーマットで定義した内容を，見映えをそろえるために定義する変換後のフォーマットです。ビューアーには，変換フォーマットで定義したフォーマットでメッセージが出力されます。

変換メッセージ

ビューアー（JP1/IM - View）に出力するメッセージテキストおよび重大度を定義したものです。

変換メッセージ群

変換メッセージの集まりです。

編集

JP1/IM - MO Assistant で各種定義を編集しているときの状態をいいます。

（マ行）

メッセージ識別子

メッセージテキストを編集するために，イベントソース中のメッセージを 1 件 1 件区別する識別子です。

メッセージ変換処理サーバ

JP1/IM - MO の入っているサーバです。

JP1/IM - Manager が階層化されているシステムでは拠点マネージャーごとに導入します。

メッセージ変換定義ホスト

JP1/IM - MO Assistant がインストールされたホストです。メッセージ変換の定義をします。

（ヤ行）

ユーザーフィルター

JP1/IM - Manager の機能です。ビューアーに表示する JP1 イベントを，運用に合わせて制限する場合に使用します。

抑止

このマニュアルでは，JP1/IM - MO で変換したメッセージを一時的に JP1/IM - View に表示させないようにする機能を指します。

（ラ行）

リリース

定義を基にメッセージ変換を実行している状態です。

リリース解除許可

リリース解除する前の状態です。リリース解除するには，リリース解除許可の状態にする必要があります。リリース解除許可状態にした定義は，リリースすると編集状態に戻ります。

リリース許可

リリースする前の状態です。リリースするには，リリース許可の状態にする必要があります。リリース許可状態にした定義は，リリースするとリリース状態になります。

リリース編集

リリース中に，定義を編集している状態です。リリース編集中は，リリース編集前の定義でメッセージ変換が実行されています。

索引

A

ASSISTANT_TIMEOUT 69

E

ERA_DATA_H 72
ERA_DATA_M 71
ERA_DATA_S 72
ERA_DATA_T 72
EVGETPOS_FILE_DIR 71
EVTSRC_MAPPING 71
EVTSVR 71

I

IM_HOST 70
IMDB_PORT 70
IM 構成管理情報 22，167
IM 構成管理情報（用語解説） 506
IP アドレス 52

J

jmoalog.bat 279
jmocfexport 283
jmocfimport 285
jmochktransfile 281
jmoedbbackup 288
jmoedbgetinf 290
jmoedbrorg 292
jmoedbrstr 294
jmoedbsetup 296
jmoedbstop 302
jmoexport 304
jmoimport 306
jmolog.bat 308
jmorelease 310
jmosetcnf 314
JP1/Base（用語解説） 506
JP1/IM - Manager（用語解説） 506
JP1/IM - Manager のホスト名の登録 65
JP1/IM - Message Optimizer サービスの自動起動 96
JP1/IM - MO（用語解説） 506
JP1/IM - MO Assistant（用語解説） 506
JP1/IM - MO Assistant が出力するメッセージ 424
JP1/IM - MO Assistant が出力するメッセージの出力先 353
JP1/IM - MO Assistant からのログアウト 104
JP1/IM - MO Assistant のアンインストール 77
JP1/IM - MO Assistant のインストール 76
JP1/IM - MO Assistant のインストールとセットアップ 76
JP1/IM - MO Assistant の上書きインストール 76
JP1/IM - MO Assistant のセットアップ 77
JP1/IM - MO Assistant のリモートインストール 77
JP1/IM - MO Assistant へのログイン 102
JP1/IM - MO が出力するメッセージ 358
JP1/IM - MO が出力するメッセージの出力先 348
JP1/IM - MO が発行する JP1 イベント 341
JP1/IM - MO が変換した JP1 イベント 336
JP1/IM - MO システムの設定変更 207
JP1/IM - MO とは 2
JP1/IM - MO のアンインストール 63
JP1/IM - MO のインストールとセットアップ 62
JP1/IM - MO のインストールとセットアップの検討 53
JP1/IM - MO の上書きインストール 62
JP1/IM - MO の運用サイクル 6
JP1/IM - MO の環境設定 68
JP1/IM - MO の起動（変換メッセージの定義をする場合） 95
JP1/IM - MO の起動（メッセージ変換を開始する場合） 95
JP1/IM - MO の起動と終了 95
JP1/IM - MO の起動と終了（クラスタシステムの場合） 98
JP1/IM - MO の機能一覧 10
JP1/IM - MO のサービス 94
JP1/IM - Message Optimizer Assistant サービス 94
JP1/IM - Message Optimizer Database Cluster サービス 94
JP1/IM - Message Optimizer Database サービス 94
JP1/IM - Message Optimizer サービス 94
JP1/IM - MO のシステム構成例 7
JP1/IM - MO の終了 96
JP1/IM - MO の新規インストール 62
JP1/IM - MO のセットアップ 64
JP1/IM - MO のリモートインストール 63
JP1/IM - MO ログ 468
JP1/IM - MO を別ホストに移行する 202
JP1/IM - View（用語解説） 506
JP1/IM - View の設定 66
JP1 イベント 335

JP1 イベント（用語解説） 506
JP1 ユーザーの登録 64

L

LOG_AUDIT_GEN 70
LOG_AUDIT_LEVEL 70
LOG_AUDIT_SIZE 70
LOG_JMO_GEN 70
LOG_JMO_LEVEL 70
LOG_JMO_SIZE 69
LOGFILE_TRAP_STUDY_TYPE 72

N

NODEFINE_DETER 71

S

SEARCH_SENSITIVE 72

T

TRANSERR_MSG_DETER 71

W

Windows イベントログの一覧 356

あ

後区切（用語解説） 506

い

イベント ID
　　00006400 の詳細 336
　　00006421 の詳細 341
　　00006422 の詳細 342
　　00006423 の詳細 342
　　00006424 の詳細 343
　　00006430 の詳細 343
　　00006450 の詳細 344
　　00006451 の詳細 344
イベントソース 506
イベントソース共通定義 507
[イベントソース説明編集] ダイアログ 238
イベントソースとは 10
イベントソースと変換メッセージ群のリリースを解除する 180
イベントソースと変換メッセージ群を削除する 191
イベントソースの定義 11
イベントソースの定義（学習機能を停止した場合） 126
イベントソースのリリース許可 173
イベントソース名とイベントソースの説明を編集する 185
[イベントソース名変更] ダイアログ 271
イベントソース名を変更する 207
インストールとセットアップ 59
インストールとセットアップの流れ 60
インポート（用語解説） 507

う

埋め字（用語解説） 507
[埋め字定義] ダイアログ 254
運用中の構成変更 202

え

エージェント 8
エージェント（用語解説） 507
エクスポート（用語解説） 507

か

概要 1
学習機能 25
学習機能（用語解説） 507
学習機能の制限値 488
学習機能の停止方法 125
　　イベントソース 125
　　発行元 126
　　メッセージ 125
学習機能を使わない場合の定義 125
各バージョンの変更内容 501
画面遷移図 211
画面とダイアログ 209
環境設定ファイル 68
　　記述形式 73
　　設定手順 68
　　設定方法 68
　　定義項目 68
環境設定ファイル（用語解説） 507

き

起動と終了 93
基本フォーマット（用語解説） 507
[基本フォーマット選択] ダイアログ 232
[基本フォーマット定義] ダイアログ 225
基本フォーマット定義の区切り情報 488
基本フォーマットの定義 13

基本フォーマットのテンプレート一覧 133
基本フォーマットのテンプレートを適用する 132
基本フォーマットの編集 190
基本フォーマットを文字列以外で区切る 132
基本メッセージ（用語解説） 507
[基本メッセージ追加] ダイアログ 239
基本メッセージの定義（学習機能を停止した場合） 129
基本メッセージを削除する 191
共通メッセージログ 467
拠点マネージャー（用語解説） 508

く

区切り文字（用語解説） 508
クラスタシステム（用語解説） 508
クラスタシステム運用時のインストールとセットアップ 79
クラスタシステムでの JP1/IM - MO のアンインストール 90
クラスタシステムでの JP1/IM - MO のインストール 82
クラスタシステムでの JP1/IM - MO の上書きインストール 89
クラスタシステムでの JP1/IM - MO のセットアップ 84
    OS 環境のセットアップ（実行系・待機系） 85
    環境設定パラメーターの設定（実行系・待機系） 84
    共有ディスクに引き継ぐ情報のコピー（実行系） 84
    クラスタソフトへの登録（実行系） 86
    データベースのセットアップ（実行系・待機系） 85
    論理ホストの作成（実行系） 84
クラスタシステムでのインストールとセットアップの流れ 81
クラスタシステムでの運用 80
クラスタシステムの構成 42

け

検討
    運用の検討 56
    システム構成 40
    システムの検討 39
    メッセージの変換内容の検討 44

こ

コネクションの接続状態 485
個別メッセージ単位での JP1 イベント生成の抑止 157
コマンド 275
    一覧 278
    インポート・エクスポート 278
    記述形式 276
    形式で使用する記号とその意味 276
    指定方法 276
    データベースメンテナンス 278
コマンドでリリースする 179

さ

最大定義件数 489
再編成（用語解説） 508
サンプルメッセージ（用語解説） 508
[サンプルメッセージ追加] ダイアログ 237

し

システム管理者の方へ 354
システム構成定義ファイル 22
    適用先システム定義行 329
    発行元定義行 332
    ヘッダー行 329
    レコード 329
システム構成定義ファイル（用語解説） 508
システム構成の制限値 488
システム内プログラム 39
重大度 24
重大度（用語解説） 508
[重大度一律変換定義] ダイアログ 262
重大度の変換 49
障害情報の容量の見積もり 493
[詳細表示フィルタ設定] ダイアログ 241

せ

制限値一覧 488
前提 OS 39
前提プログラムのインストールとセットアップ 61

そ

操作権限一覧 486
操作例 105
    イベントソースを確認する 109
    基本フォーマットを定義する 111
    変換フォーマットを定義する 115
    変換メッセージを定義する 118
    例題の説明 106
操作ログ 469，495

出力形式 495
出力される事象の種別 495
保存形式 495

た

対処の手順 466
タイムアウト時間 489

つ

追加メッセージ識別子 35
追加メッセージ識別子（用語解説） 508
[追加メッセージ識別子定義] ダイアログ 235
通信環境の設定 65
通信設定の変更方法 487

て

定義情報（用語解説） 508
定義情報のインポート 26
定義情報のエクスポート 26
定義情報の管理 27，171
定義の削除 191
定義の状態管理 30
定義ファイル 315
データベース（用語解説） 509
データベースの格納先を同一ホスト内で変更する 206
データベースの管理 196
データベースの再編成 197
データベースのセットアップ 64
データベースのバックアップ 196
データベースのリストア 197
データベースバックアップ時の容量の見積もり 492
適用先システム（用語解説） 509
[適用先システム一覧] ダイアログ 257
適用先システムごとに重大度を変換する 155
[適用先システム選択] ダイアログ 256
[適用先システム定義] ダイアログ 259
適用先システムとは 10
適用先システムの検討 49
適用先システムの定義を編集する 186
適用先システムのリリース許可 176
[適用先システム名変更] ダイアログ 274
適用先システムを削除する 191
適用先システムを定義する 147
テンプレート（用語解説） 509

と

統合トレースログ 467
統合マネージャー 7
統合マネージャー（用語解説） 509
統合マネージャーが階層化された大規模システムに導入する 41
統合マネージャーと同一サーバに導入する 40
統合マネージャーと別のサーバに導入する 40
動作環境の検討 54
JP1/IM - Manager のデータベースのポート番号 54
JP1/IM - Manager のホスト名 54
JP1/IM - MO Assistant の接続タイムアウト時間 54
元号 54
ログファイル 54
導入の検討 38
特長 3
トラブルシューティング 465
トラブル発生時に採取が必要な資料 470
JP1/Base の情報 470
JP1/IM - MO の情報 470
OS のシステム情報 470
オペレーション内容 471
画面上のエラー情報 471
データベースの情報 471
トラブル発生時に採取が必要な資料の採取方法 472
オペレーション内容を確認する 472
画面上のエラー情報を採取する 472
資料採取ツールを実行する 472
プロセスの状態を確認する 472
トラブルへの対処 473
インストールできない 473
データベースが起動できない 474
データベースのセットアップエラー 474
データベースの容量不足 474
ログインできない 473

ね

ネットワーク構成 52
ネットワーク構成の検討 52

は

バイト単位で区切る 136
バックアップ 199
発行元（用語解説） 509
[発行元一覧] ダイアログ 264
[発行元選択] ダイアログ 266
[発行元定義] ダイアログ 269
発行元の追加（学習機能を停止した場合） 130

ひ

ビューアー 7
ビューアー（用語解説） 509

ふ

ファイアウォールの通過方向 484
ファイルおよびフォルダ一覧 478
　JP1/IM - MO 478
　JP1/IM - MO Assistant 478
フィールド 509
　検討する 47
フェールオーバー発生時の対処 91
プロセス一覧 480，481
　JP1/IM - MO 481
　JP1/IM - MO Assistant 482
　JP1/IM - MO が使用するデータベース 481
プロセス構成図 480

へ

変換定義ファイル
　イベントソース名指定行 318
　形式 317，328
　ヘッダー行 318
　メッセージ定義行 319
　レコード 318
　レコード記述時の注意事項 325
変換定義ファイル（用語解説） 509
変換フォーマット（用語解説） 509
[変換フォーマット一覧] ダイアログ 244
[変換フォーマット選択] ダイアログ 261
[変換フォーマット定義] ダイアログ 246
変換フォーマットと適用先システムのリリースを解除する 182
変換フォーマットの検討 45
　基本フォーマット 45
　変換フォーマット 48
変換フォーマットの定義 14
変換フォーマットの定義を編集する 186
変換フォーマットのリリース許可 175
[変換フォーマット名変更] ダイアログ 272
変換フォーマットを削除する 192
変換メッセージ（用語解説） 509
変換メッセージ群（用語解説） 509
変換メッセージ群の名称を変更する 187
変換メッセージ群のリリース許可 177
[変換メッセージ群名変更] ダイアログ 273
[変換メッセージ定義] ダイアログ 250
変換メッセージの定義を編集する 188
変更内容
　09-00 502
　09-10 502
　09-50 501
　10-00 501
編集 31
編集（用語解説） 509

ほ

ポート番号 484
ポート番号一覧 484
ポート番号の変更時に必要な作業 207
ホスト単位での JP1 イベント生成の抑止 157
ホスト名 52

ま

マッピング機能 34

め

メイン画面 214
　ツリーエリア 218
　メニュー 214
　リストエリア 220
　リリース管理ボタン 217
メッセージ 347
　一覧 358
　記載形式 354
　出力形式 354
　出力先一覧 348
メッセージごとに重大度を変換する 154
メッセージ識別子（用語解説） 510
[メッセージ識別子選択] ダイアログ 234
メッセージテキストの可変値に埋め字を設定する 144
メッセージテキストの検討 49
メッセージテキストの定義 17
メッセージテキストの変換 3
メッセージの重大度の変換 4
メッセージの重大度を変更する 154
メッセージの表示抑止 32
メッセージのフォーマットの統一 3
メッセージフォーマットの変換定義 13
メッセージ変換実行中の定義の編集（リリース編集） 185
メッセージ変換処理サーバ 7
メッセージ変換処理サーバ（用語解説） 510
メッセージ変換処理性能 492
メッセージ変換定義ホスト 7

メッセージ変換定義ホスト（用語解説） 510
メッセージ変換の実行（リリース） 173
メッセージ変換の実行中止（リリース解除） 180
メッセージを抑止する 157
メンテナンス 193
メンテナンスの検討
　　ディスク容量の確認 56
　　データベースの確認 56
　　バックアップの検討 56

ゆ

[ユーザー定義情報フィールド一覧] ダイアログ 252
ユーザー定義情報フィールド名変更] ダイアログ 253
ユーザーフィルター（用語解説） 510

よ

用語解説 506
抑止（用語解説） 510

り

リストア 201
リリース 31
リリース（メッセージ変換の実行） 173
リリース（用語解説） 510
リリース解除（メッセージ変換の実行中止） 180
リリース解除許可 31
リリース解除許可（用語解説） 510
リリース管理ボタン
　　[リリース解除許可] ボタン 218
　　[リリース許可取消] ボタン 218
　　[リリース許可] ボタン 218
　　[リリース実行] ボタン 218
　　[リリース照会] ボタン 218
リリース許可 31
リリース許可（用語解説） 510
リリース許可した定義をリリースする 179
リリース許可とリリース 27
リリース照会モード 188
リリースするイベントソースを決定する 173
リリースする適用先システムを決定する 176
リリースする変換フォーマットを決定する 175
リリースする変換メッセージ群を決定する 177
リリース編集 29，31
リリース編集（メッセージ変換実行中の定義の編集） 185
リリース編集（用語解説） 510
リリース編集前の定義を参照する 188

ろ

[ログイン] 画面 213
ログインとログアウト 101
ログ情報の種類 467
ログファイルの容量の見積もり 493